平成２１年度　自己点検評価報告書　統計表

1. 歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

1-(1) 収蔵品

1-(1)-① 収蔵品一覧表 ･･･ 1

1-(1)-② 平成 21 年度新収品一覧表 ･･･････････････････････････････････ 3

1-(1)-③ 平成 21 年度新収品一覧

【東京国立博物館】 ･･･ 4

【京都国立博物館】 ･･･ 10

【奈良国立博物館】 ･･･ 20

【九州国立博物館】 ･･･ 21

1-(2) 寄託品

1-(2)-① 寄託品一覧表 ･･･ 31

1-(2)-② 寄託品増減表 ･･･ 31

1-(2)-③ 登録美術品一覧表 ･･･ 31

1-(3) 収蔵品の管理・保存

1-(3)-① 各収蔵庫､展示場の温湿度･････････････････････････････････ 32

1-(3)-② 保存カルテ作成件数 ･････････････････････････････････････ 33

1-(4) 修理

1-(4)-① 修理件数 ･･･ 34

1-(4)-② 修理概況

【東京国立博物館】 ･･･ 35

【京都国立博物館】 ･･･ 50

【奈良国立博物館】 ･･･ 51

【九州国立博物館】 ･･･ 52

1-(4)-③ 文化財修理データのデータベース化件数 ･･･････････････････ 58

2. 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信

2-(1) 展示の充実

2-(1)-① 入館者数 (P197 ◎共通資料 d-①)

2-(1)-② 入館者数(過去５ヵ年) (P198 ◎共通資料 d-②)

2-(1)-③ 入場料収入 (P200 ◎共通資料 d-③)

2-(1)-④ 展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等の設置 ･･････････ 59

2-(1)-⑤ 平常展・特別展 (P201 ◎共通資料 d-④)

2-(1)-⑥ 広報刊行物一覧 ･･･ 60

2-(2) 歴史・伝統文化の理解促進

2-(2)-① 学習機会の提供(過去５ヵ年) ･････････････････････････････ 62

2-(2)-② 児童生徒を対象とした教育普及事業 ･･･････････････････････ 63

2-(2)-③ 大学等との連携 ･･･ 69

2-(2)-④ 講座･講演会等の開催実績 ･･･････････････････････････････ 75

2-(2)-⑤ ギャラリートーク実施状況 ･･･････････････････････････････ 82

2-(2)-⑥ ボランティア受入れ実績 (P193 ◎共通資料 b)
2-(2)-⑦ 友の会 ･･･ 86
2-(2)-⑧ 賛助会 ･･･ 86
2-(2)-⑨ 渉外活動 ･･ 88
2-(2)-⑩ 「留学生の日」 ･･ 100
2-(3) 快適な観覧環境の提供
2-(3)-① 高齢者､身体障害者等に配慮した設備等 ･･････････････････････････････ 101
2-(3)-② 音声ガイド実施状況 ･･･ 101

3. 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与
3-(1) 収蔵品等に関する調査研究成果の発信
3-(1)-① 学会、研究会等発表実績一覧 (P154 ◎共通資料 a-③)
3-(1)-② 論文等発表実績一覧 (P166 ◎共通資料 a-④)
3-(1)-③ 調査研究刊行物一覧 (P183 ◎共通資料 a-⑤)
3-(1)-④ シンポジウム開催実績一覧 ･･ 102
3-(2) 海外研究者の招聘
3-(2)-① 研究交流実績一覧 (P125 ◎共通資料 a-①)
3-(3) 公私立博物館等への貸与の推進
3-(3)-① 公私立博物館等への収蔵品貸与件数 ･･･････････････････････････････ 105
3-(3)-② 海外への列品貸与 ･･･ 106
3-(3)-③ 考古の相互貸借実績 ･･ 106
3-(4) 公私立博物館等に対する援助・助言の推進
3-(4)-① 公私立博物館等に対する援助･助言 ･････････････････････････････････ 107

4. 文化財に関する調査及び研究の推進
4-(1) 文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進
4-(1)-① 調査研究テーマ一覧 (P150 ◎共通資料 a-②)
4-(1)-② 学会、研究会等発表実績一覧 (P154 ◎共通資料 a-③)
4-(1)-③ 論文等発表実績一覧 (P166 ◎共通資料 a-④)
4-(1)-④ 調査研究刊行物一覧 (P183 ◎共通資料 a-⑤)
4-(2) 文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進
4-(2)-① 調査研究テーマ一覧 (P150 ◎共通資料 a-②)
4-(2)-② 学会、研究会等発表実績一覧 (P154 ◎共通資料 a-③)
4-(2)-③ 論文等発表実績一覧 (P166 ◎共通資料 a-④)
4-(2)-④ 調査研究刊行物一覧 (P183 ◎共通資料 a-⑤)
4-(3) 文化財の保存科学や修復技術に関する中心的な支援拠点として先端的調査研究等の推進
4-(3)-① 調査研究テーマ一覧 (P150 ◎共通資料 a-②)
4-(3)-② 学会、研究会等発表実績一覧 (P154 ◎共通資料 a-③)
4-(3)-③ 論文等発表実績一覧 (P166 ◎共通資料 a-④)
4-(3)-④ 調査研究刊行物一覧 (P183 ◎共通資料 a-⑤)
4-(4) 国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施
4-(4)-① 調査研究テーマ一覧 (P150 ◎共通資料 a-②)

4-(4)-② 学会、研究会等発表実績一覧 (P154 ◎共通資料 a-③)
4-(4)-③ 論文等発表実績一覧 (P166 ◎共通資料 a-④)
4-(4)-④ 調査研究刊行物一覧 (P183 ◎共通資料 a-⑤)
4-(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究
4-(5)-① 調査研究テーマ一覧 (P150 ◎共通資料 a-②)
4-(5)-② 学会、研究会等発表実績一覧 (P154 ◎共通資料 a-③)
4-(5)-③ 論文等発表実績一覧 (P166 ◎共通資料 a-④)
4-(5)-④ 調査研究刊行物一覧 (P183 ◎共通資料 a-⑤)
4-(5)-⑤ 科学研究費補助金による調査研究 (P187 ◎共通資料 a-⑥)
4-(5)-⑥ 客員研究員一覧 (P190 ◎共通資料 a-⑦)

5. 文化財の保存・修復に関する国際協力の推進
5-(1) 文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力及び国際共同研究
5-(1)-① 調査研究テーマ一覧 (P150 ◎共通資料 a-②)
5-(1)-② 国際ワークショップ開催実績一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 117
5-(1)-③ 学会、研究会等発表実績一覧 (P154 ◎共通資料 a-③)
5-(1)-④ 論文等発表実績一覧 (P166 ◎共通資料 a-④)
5-(2) 諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進
5-(2)-① 調査研究テーマ一覧 (P150 ◎共通資料 a-②)
5-(2)-② アジア諸国文化財保護担当者などの人材養成に関する研修等実施状況・・・・・・・・・ 117

6. 情報発信機能の強化
6-(1) ネットワークのセキュリティの強化及び情報基盤の整備充実
6-(1)-① 文化財関係資料及び図書の受入件数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 119
6-(2) 研究所の調査・研究成果の発信
6-(2)-① 調査研究刊行物一覧 (P183 ◎共通資料 a-⑤)
6-(2)-② 公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催実績一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 119
6-(2)-③ ホームページアクセス件数 (P196 ◎共通資料 c)
6-(3) 黒田記念館、平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館の展示公開
6-(3)-① 入館者数 (P197 ◎共通資料 d-①)
6-(3)-② 入館者数(過去５ヵ年) (P198 ◎共通資料 d-②)
6-(3)-③ 入場料収入 (P200 ◎共通資料 d-③)
6-(3)-④ 平常展・特別展 (P201 ◎共通資料 d-④)
6-(4) 文化庁が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力・事業の運営と各種ボランティア支援
6-(4)-① ボランティア受入れ実績 (P193 ◎共通資料 b)
6-(5) 文化財情報・研究成果の促進
6-(5)-① ウェブサイトのアクセス件数 (P196 ◎共通資料 c)
6-(5)-② 収蔵品のデジタル化件数 ・・・ 122
6-(5)-③ 収集した情報資料数(総数)・・ 122
6-(5)-④ 特別観覧件数 ・・・ 123

7. 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

7-① 国・地方公共団体等に対する専門的・技術的な協力・助言 ････････････････････････ 124
7-② 専門指導者層を対象とした研修等実施状況及び研究参加者等に対するアンケート結果・ 124

◎共通資料
a. 調査研究
a-①研究交流実績一覧 ･･･ 125
a-②調査研究テーマ一覧 ･･ 150
a-③学会、研究会等発表実績一覧 ････････････････････････････････････ 154
a-④論文等発表実績一覧 ･･ 166
a-⑤調査研究刊行物一覧 ･･ 183
a-⑥科学研究費補助金による調査研究 ･････････････････････････････････ 187
a-⑦客員研究員一覧 ･･ 190
b. ボランティア受入れ実績 ･･･････････････････････････････････････ 193
c. ウェブサイト（ホームページ）のアクセス件数 ･･････････････････････････････ 196
d. 展示
d-①入館者数 ･･ 197
d-②入館者数（過去５ヵ年） ･･･････････････････････････････････････ 198
d-③入場料収入 ･･･ 200
d-④平常展・特別展
【東京国立博物館】 ･･ 201
【京都国立博物館】 ･･ 216
【奈良国立博物館】 ･･ 218
【九州国立博物館】 ･･ 219
（参考）
【平城宮跡資料館】 ･･ 221
【藤原宮跡資料室】 ･･ 221
【飛鳥資料館】 ･･ 221

附属資料
平成２１年度特別展アンケート結果

1 歴史・伝統文化の保存と継承の中心的拠点としての収蔵品の整備と、次代への継承

1-(1) 収蔵品

1-(1)-① 収蔵品一覧表

平成22年3月31日現在

		国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
		計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合計		121,511	129	937	112,776	87	624	6,526	27	176	1,812	12	110	397	3	27
絵画		13,383	34	199	11,087	20	99	1,945	9	54	285	4	42	66	1	4
書跡		3,184	34	166	1,715	14	57	1,300	15	76	137	4	27	32	1	6
彫刻		1,402	1	45	1,101	0	22	143	0	1	141	1	16	17	0	6
建築		77	0	2	21	0	0	49	0	1	5	0	0	2	0	1
金工		16,361	3	53	15,831	1	17	360	2	23	158	0	11	12	0	2
刀剣		3,418	20	56	3,395	19	56				16	0	0	7	1	0
陶磁		3,753	0	16	2,931	0	11	712	0	2	81	0	0	29	0	3
漆工		4,140	6	29	3,731	4	19	187	0	2	68	2	5	154	0	3
染織		4,620	2	24	3,624	0	17	893	1	6	92	1	1	11	0	0
考古		29,950	4	74	28,529	4	55	657	0	10	728	0	8	36	0	1
民族資料		1,299	0	0	1,190	0	0	0	0	0	101	0	0	8	0	0
歴史資料		3,726	0	5	3,426	0	3	280	0	1	0	0	0	20	0	1
和書		17,562	0	1	17,562	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0
東洋	絵画	684	4	31	684	4	31									
	書跡	1,648	10	12	1,648	10	12									
	彫刻	798	0	20	798	0	20									
	金工	986	0	0	986	0	0									
	陶磁	3,004	0	10	3,004	0	10									
	漆工	524	0	4	524	0	4									
	染織	585	0	1	585	0	1									
	考古	5,808	0	3	5,808	0	3									
	民族	3,458	0	0	3,458	0	0									
法隆寺献納宝物		321	11	181	321	11	181									
黒田記念館収蔵品		814	0	2	814	0	2									
準歴史資料(含和書)		3	0	3	3	0	3									

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

＊列品に編入されていない資料については「準歴史資料(含和書)」の項目に記し、列品化整理中の資料とを分けて表示。

＊東京国立博物館、京都国立博物館では、国宝・重要文化財の数は文化庁の指定件数に合わせることとした(このほか東京国立博物館には建造物の重要文化財が5件ある)。

（参考）

【奈良文化財研究所】

○保管及び所蔵文化財・資料概要（主なもの）

平成22年3月31日現在

保管及び所蔵文化財・資料名	数
[文化遺産部]	
国宝・重要文化財建造物保存図	約30,100枚
国宝・重要文化財建造物摺拓本	約26,000枚
国宝・重要文化財建造物写真乾板	約32,000枚
北浦定政関係資料（重要文化財）	約1,100点
棚田嘉十郎関係資料	20点
関野貞関係資料	54点
菅原大三郎資料関係	7箱
森薀資料	約4,500点
村岡正資料	約3,000点
小林剛関係資料	約38箱
牛川喜幸関係資料	2,927点
[都城発掘調査部（平城地区）]	
平城宮跡大膳職推定地出土木簡（重要文化財）	39点
平城宮跡内裏北外郭官衙出土木簡（重要文化財）	1,785点
興福寺旧境内土壙（一乗院宸殿跡下層）出土品（重要文化財）	一括
平城宮・京出土土器・土製品	29,326箱
平城宮・京出土木製品・金属製品・石製品	31,899点
平城宮・京出土瓦類	606,766点
平城宮・京出土木簡	199,000点
[都城発掘調査部(飛鳥・藤原地区)]	
軒丸瓦・軒平瓦	約34,745点
丸瓦・平瓦　土嚢袋	約167,754袋
丸瓦・平瓦　整理箱	約37,620箱
土器　整理箱	約15,749箱
土製品	約14,527点
木器・木製品	約33,810点
木簡	約35,151点
建築部材	約2,927点
金属製品	約19,736点
石器・石製品	約14,102点
漏刻復原模型	1点
山田寺金堂軒先復原模型	1点
古代飛鳥の模型（台付き）	1点
著墓の戦いの模型（台付き）	1点
幢幡復原模型（台付き）	一式
飛鳥大仏頭部複製（模刻）	1点
藤ノ木古墳鞍復原模型	1点
山田寺灯籠復原模型	1点
七世紀の武人復原模型	一式
富本銭枝銭復原模型	一式
碁盤復原模型	1点
鉄釜鋳造土坑復原模型	1点
[飛鳥資料館]	
高松塚古墳出土品（海獣葡萄鏡　銀製太刀金具　棺金具　ガラス小玉漆塗り木棺）（重要文化財）	一式
須弥山石	1点
石人像	1点
飛鳥寺塔跡出土舎利荘厳具	一式
飛鳥寺出土瓦類	一式
山田寺跡出土品（重要文化財）	一括
和田廃寺鴟尾（都城発掘調査部（飛鳥・藤原地区所属）	1点
川原寺出土水波紋土磚	2点
岡出土車石	8点
飛鳥各地出土瓦類	一式
川原寺裏山出土三尊磚仏	2点
飛鳥川原宮出土唐居敷	1点
高松塚古墳壁画模写（前田青邨、平山郁夫等）	3面
高松塚古墳人物復元衣装	一式
石上神宮七枝刀レプリカ	1点
水落遺跡遺構1/20模型	1点
猿石模刻	一式
亀石模刻	1点

保管及び所蔵文化財・資料名	数
須弥山石復元模刻	1点
石人像復元模刻	1点
出水酒船石模刻	2点
阿武山古墳出土　玉枕　冠帽　復元模型	3点
川原寺伽藍1/50模型	1点
山田寺金堂1/10模型	1点
飛鳥京1/500模型	1点
山田寺発掘遺構1/100模型	1点
石舞台古墳1/20模型	1点
飛鳥寺発掘遺構1/100模型	1点
石のカラト古墳1/20模型	1点
野中寺銅造弥勒菩薩半伽像レプリカ	1点
銅造摩耶夫人及天人像レプリカ	4点
威奈大村骨蔵器レプリカ	1点
長谷寺法華説相図レプリカ	1点
諸陵周垣成就記並諸陵図譜	1点
鼓銅図録	1点
高松塚古墳木棺模造	1点
八釣マキト5号古墳石室	1点
十二支拓本（表装済み・収納箱あり）	一式
キトラ古墳模型	1点
山東省済南市解放橋北唐墓石棺　青龍・白虎・小口面拓本	各1点
近藤千尋関連資料	一式
[埋蔵文化財センター]	
埼玉県真福寺貝塚資料	一式
岡山県福田貝塚資料	一式
埼玉県上福岡貝塚資料	一式
神奈川県田戸遺跡資料	一式
神奈川県子母口貝塚	一式
神奈川県大口坂貝塚資料	一式
能登縄文資料（15遺跡）	一式
千葉県曽谷貝塚資料	一式
長野県石小屋遺跡資料	一式
山形県蛭沢洞窟資料	一式
東京都小豆沢貝塚資料	一式
茨城県広畑貝塚資料	一式
中国・朝鮮瓦磚資料	一式
岡山地方陶棺資料	一式
下総国分寺・尼寺資料	一式
関東地方加曽利B式資料	一式
岩手県足沢遺跡資料	一式
茨城県浮島貝塚資料	一式
千葉県幸田貝塚資料	一式
滋賀県安土遺跡資料	一式
岡山県黒土遺跡資料	一式
神奈川県保土ヶ谷貝塚資料	一式
千葉県姥山貝塚資料	一式
宮城県川下り・響き資料	一式
大木囲貝塚	
東貝塚	
室浜貝塚	
福浦島貝塚	
里浜貝塚	
東北縄文晩期末資料	一式
東北各地発見縄文資料	一式
北海道資料	一式
発見地不詳縄文資料	一式
発見地不詳須恵器資料	一式
発見地不詳石器・石斧資料	一式
愛知県西滋賀貝塚資料	一式
愛知県吉胡貝塚資料	一式
茨城県前浦遺跡資料	一式
関東地方埴輪資料	一式
静岡県登呂遺跡資料	一式

1-(1)-② 平成21年度新収品一覧表

平成22年3月31日現在

		国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
		購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入
合計		390			247			109			7			27		
計		46	148	196	8	43	196	7	102	0	4	3	0	27	0	0
絵画		14	66	0	3	2	0	3	62	0	0	2	0	8	0	0
書跡		5	11	0	0	3	0	0	8	0	2	0	0	3	0	0
彫刻		2	12	0	1	0	0	0	12	0	0	0	0	1	0	0
建築		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
金工		1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
刀剣		2	1	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
陶磁		7	16	0	0	0	0	1	16	0	0	0	0	6	0	0
漆工		8	2	0	1	0	0	1	1	0	2	1	0	4	0	0
染織		0	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0
考古		3	29	0	0	28	0	2	1	0	0	0	0	1	0	0
民族資料		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
歴史資料		4	0	196	0	0	196	0	0	0	0	0	0	4	0	0
和書		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋	絵画	0	0	0	0	0	0									
	書跡	0	0	0	0	0	0									
	彫刻	0	1	0	0	1	0									
	金工	0	0	0	0	0	0									
	陶磁	0	1	0	0	1	0									
	漆工	0	0	0	0	0	0									
	染織	0	0	0	0	0	0									
	考古	0	2	0	0	2	0									
	民族	0	0	0	0	0	0									
法隆寺献納宝物		0	0	0	0	0	0									
黒田記念館収蔵品		0	5	0	0	5	0									

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。
＊16年度より、15年度以前「歴史資料」と分類していたものを「和書」と「歴史資料」に分け表示している。
＊平成19年4月1日付けで黒田記念館収蔵品が東京文化財研究所から東京国立博物館に移管となった。

付表・文化財収集件数の推移

5年間の新収集品一覧表

		平成17年度				平成18年度				平成19年度			平成20年度			平成21年度		
		購入	寄贈	編入	除却	購入	寄贈	編入	除却	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入	購入	寄贈	編入
合計		342				238				972			168			390		
小計		62	173	272	165	53	173	13	1	93	68	811	52	113	3	46	148	196
絵画		14	10	9	6	8	16	1	0	21	16	0	15	5	0	14	66	0
書跡		5	4	15	11	3	24	0	0	5	2	0	12	25	0	5	11	0
彫刻		2	5	9	4	0	8	0	0	1	9	0	4	0	0	2	12	0
建築		0	0	0	2	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0
金工		3	2	101	9	0	48	0	0	3	11	0	1	0	2	1	0	0
刀剣		1	1	1	1	0	5	0	0	1	2	0	0	2	0	2	1	0
陶磁		8	3	4	3	4	3	0	0	14	1	0	1	2	0	7	16	0
漆工		4	3	108	107	23	1	1	0	20	1	0	3	11	0	8	2	0
染織		13	1	0	0	8	7	0	0	19	4	0	10	14	0	0	2	0
考古		4	130	13	12	2	14	4	0	7	2	1	4	11	1	3	29	0
民族資料		0	1	0	0	0	2	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0
歴史資料		0	3	1	1	0	5	5	0	0	1	0	2	1	0	4	0	196
和書		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋	絵画	0	0	0	2	0	6	0	0	0	0	0	0	35	0	0	0	0
	書跡	5	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0
	彫刻	0	0	0	3	0	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
	金工	0	0	2	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	陶磁	0	9	0	1	0	0	0	0	0	12	0	0	2	0	0	1	0
	漆工	0	0	0	1	1	9	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0
	染織	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	考古	1	0	3	0	3	4	0	0	1	3	1	0	0	0	0	2	0
	民族	2	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
法隆寺献納宝物		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
黒田記念館収蔵品		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	809	0	0	0	0	5	0

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。
＊16年度より、15年度以前「歴史資料」と分類していたものを「和書」と「歴史資料」に分け表示している。
＊平成19年4月1日付けで黒田記念館収蔵品が東京文化財研究所から東京国立博物館に移管となった。

1-(1)-③ 平成21年度新収品一覧
【東京国立博物館】(計247件)

(1) 購入(8件)

＜絵画＞(3件)

1　○名　　称　山水図屏風
　○作 者 等　呉春（1752～1811）筆
　○時　　代　江戸時代・18世紀
　○品　　質　絖本墨画淡彩
　○寸 法 等　6曲1双　各163.7×364.2cm
　○作品概要　屏風装。松の緑を残す秋の山間を農夫が歩む古村晩帰図を右隻に、冬枯れの滝の冷たく落ちる山間を高士が騎馬で進む寒山行旅図を左隻に描く。各隻の独立性が強く、左右入れ替えても不自然のない構成がとられている。
呉春の師である与謝蕪村が好んだ絖本に蕪村の画風に習って描かれており、絖本の特性を生かした柔らかく澄んだ秋の光が画面にあふれる広やかな山水図となっている。蕪村に習いながら独自の画風を確立していこうとする池田時代の作品と考えられる。

2　○名　　称　男衾三郎絵詞断簡
　○時　　代　鎌倉時代・13世紀
　○品　　質　紙本着色
　○寸 法 等　1幅　本紙 28.7×23.5cm
　○作品概要　掛幅装。男衾三郎絵詞は、鎌倉時代の関東武士、男衾次郎・三郎の兄弟の物語を描いた物語絵巻である。一巻の当館本は鎌倉時代13世紀に遡るやまと絵絵巻として貴重な作品で、重要文化財に指定されている。本断簡はその連れで、昭和49年の当館の「絵巻」展において田中親美蔵として展示された以外、ほとんど知られることのなかった遺品である。兄次郎の死後、その妻と娘が三郎に引き取られるが、継子いじめにあうことが残された詞書中にあり、この部分の絵と考えられる。鎌倉武士の生活ぶりが描かれたものとしても著名な絵巻であり、これを補うものとしてきわめて貴重である。

3　○名　　称　源氏物語絵合・胡蝶図屏風
　○作 者 等　狩野晴川院養信筆
　○時　　代　江戸時代・19世紀
　○品　　質　紙本着色
　○寸 法 等　6曲1双　各　158.0×354.0cm
　○作品概要　屏風装。左右各隻に『源氏物語』の一帖から一場面を選んで描いたもの。右隻は、「絵合」帖から、梅壺女御と弘徽殿女御が冷泉帝の御前で絵合を競う場面、左隻は、「胡蝶」帖から、秋好中宮(梅壺女御)の行なう春の仏事に、蝶の装束をした女童が紫の上の贈った閼伽棚に供える花を持って来た場面が描かれている。
落款の記載から、文政2年（1819）から天保5年（1834）の間に描かれたことが知られる。佐竹本「三十六歌仙絵巻」から小野小町や中務の姿型が利用されており、古画の模写に努めた養信のやまと絵学習の成果が結実した優れた作品である。

＜彫刻＞(1件)

4　○名　　称　十一面観音菩薩立像
　○時　　代　平安時代・9世紀
　○品　　質　木造
　○寸 法 等　1躯　像高110.2cm
　○作品概要　頭上に十一面をいただく。左手に蓮華を挿した水瓶をとり、右手は垂下して掌を正面に向ける。腰をやや左方に捻り、蓮台上に立つ。
頭体幹部は通して針葉樹の一材（木心を右後方に込める）より彫出し、両肩以下、両足先等に別材を矧ぐ（別材部は後補）。素地仕上げ。

＜金工＞(1件)

5　○名　　称　自在伊勢海老
　○作 者 等　明珍宗清作
　○時　　代　江戸時代・18～19世紀
　○品　　質　鉄製
　○寸 法 等　1個　長28.4cm
　○作品概要　鉄製。本物の伊勢海老のように自由自在に動かすことのできる置物で、触覚、腹節、胸脚、尾扇を動かすことが可能で、体全体と伸ばした状態から、触覚を後ろに曲げ、腹節を丸めた姿にすることができる。頭胸甲には全体にトゲを打ち出しで表す。脚に「明珍」、「宗清」と銘を切り分けている。

＜刀剣＞(2件)

6　○名　　称　（重要美術品）　短刀
　○作 者 等　越中則重
　○時　　代　鎌倉時代・14世紀
　○品　　質　鉄製
　○寸 法 等　1口　刃長　25.2センチ　内反り
　○作品概要　平造、三ツ棟、内反りの短刀。鍛えは大板目肌に杢目を交えて肌立ち、地沸厚くつき、地景太くあらわれ松皮肌となる。刃文は表はのたれに互の目交じり、裏は大のたれとなり、飛焼激しくついて皆焼風となり、沸厚くつき、砂流、金筋激しくかかる。帽子は、表直ぐに小丸、裏沸崩れる。茎は生ぶ、振袖形、先切、鑢目勝手下り、目釘孔4中2埋、佩表の目釘孔下中央に「則重」の銘がある。

7　○名　　称　（重要美術品）　薙刀
　○作 者 等　長船元重
　○時　　代　南北朝時代・建武5年（1338）

○品　　質　鉄製
○寸 法 等　1口　刃長 46.7 ㎝　反り 2.1 ㎝
○作品概要　薙刀造、庵棟、鋒は張らず、反りの浅い薙刀。鍛えは板目肌立ちごころに、一部流れて柾がかり、乱映りが淡く立つ。刃文は中直刃、元の方に逆足入り、匂本位に小沸つき、匂口沈みごころとなる。帽子は直ぐに小丸に返る。彫物は表裏に薙刀樋に添樋を鎚下で丸止めにする。茎は生ぶ、先栗、鑢目筋違、目釘孔 2、佩表の鎚下棟寄りに「備州長船住元重」、佩裏に「建武五年三月日」の銘がある。

＜漆工＞(1 件)

8　○名　　称　蓬莱蒔絵香道具箱
○作 者 等　孫兵衛作
○時　　代　江戸時代・17 世紀
○品　　質　木製漆塗
○寸 法 等　1 具　縦 11.3㎝　横 18.9㎝　高 12.9㎝
○作品概要　長方形、印籠蓋造の箱で、蓋の肩から四角にかけてを几帳面に仕立て、蓋と身の縁に玉縁を作る。内に香盆 1 枚、香炉 1 口、重香合 2 合、焚殻入の蓋 1 枚を収める。
箱や内容品の表面は全体を梨子地として、外側には高蒔絵・平蒔絵に切金・金貝・付描を交え、松・竹・梅・橘・椿が生い茂る水辺に鶴亀が遊ぶ、蓬莱の図柄を表わす。また所々に葵紋を散らしている。

(2) 寄贈 (43 件)

＜絵画＞(2 件)

1　○名　　称　源氏物語色紙
○時　　代　江戸時代・17 世紀
○品　　質　(絵)紙本着色 (詞書)紙本墨書
○寸 法 等　8 枚 (絵 2 枚、詞書 6 枚)　各　24.7×21.5 ㎝
○作品概要　もと、『源氏物語』の絵と詞を合わせて貼付した「源氏物語画帖」を剥がしたと思われる色紙 8 枚。内訳は、13 帖「明石」の詞書と明石の入道邸で源氏が琴を入道が琵琶を弾き合わせる場面を描いた絵、15 帖「蓬生」の詞書、20 帖「朝顔」の詞書、23 帖「初音」の詞書、28 帖「野分」の詞書と夕霧が秋好中宮を訪問し覗き見た女童が庭に下り虫籠に露を移す場面を描いた絵、34 帖「若菜上」の詞書である。絵は、土佐光吉 (1539～1613) 風の細密画で、詞書は金銀箔や金銀泥を用いた料紙に書かれ、多くの堂上人の寄合書と推定される。

2　○名　　称　板谷家伝来資料
○時　　代　江戸～昭和時代・17～20 世紀
○品　　質　紙本墨書、紙本墨画、紙本著色等
○寸 法 等　一括
○作品概要　江戸幕府御用絵師板谷家に伝来した代々の下絵、粉本、古文書、印章を含む 10613 件の資料。これまで、古文書の一部が『東洋美術大観 五』(明治 42 年 審美書院発行) により紹介されたものの、下絵等は、未紹介であり、御用絵師の活動ならびに作画学習の様子を知ることのできる原資料である。

＜書跡＞(3 件)

3　○名　　称　俳句「道芝や」
○作 者 等　高浜虚子 (1874～1959) 句・筆　中村不折 (1866-1943) 画
○時　　代　大正 15 年(1926)
○品　　質　絹本着色
○寸 法 等　1 幅　縦 20.7×横 17.9 ㎝
○作品概要　作句は高浜虚子、画は中村不折。もと絹色紙。平成 8(1996)年、半田九清堂にて掛幅装に仕立てる。「道芝や　たくりためたる　風子のいと」は、大正 4 年発刊の虚子自選句集に収載された句である。高浜虚子(本名・清)はいうまでもなく、正岡子規門下の筆頭として、子規の唱えた近代俳句への革新を引き継ぎ、「写実」「花鳥諷詠」を旨とする俳句文芸誌「ホトトギス」を通じて、俳句を近世の俳諧から短詩形文学に高めた。明治半ば以来親交のあった池田仲博の娘・謙子の婚礼に際し、結婚式に参列できなかった詫びとして贈答したもの。一方明治、大正、昭和期に活躍した日本の洋画家、書家・中村不折は新聞「日本」の記者として正岡子規と同僚であった。子規を通じて虚子とは友人であった。

4　○名　　称　林葉和歌集切
○作 者 等　伝西行筆
○時　　代　鎌倉時代・13 世紀
○品　　質　紙本墨書／掛幅装
○寸 法 等　1 幅　17.3×15.6 ㎝
○作品概要　俊恵(1113～?)の歌集『林葉和歌集』を書写した断簡である。俊恵は平安時代末期の僧で、歌人として知られる。父は源俊頼。早くに東大寺に入った。多くの歌合に参加しており、当時において名だたる歌人であった。
西行の筆と伝えるが、その自筆「一品経和歌懐紙」「書状」と比較して同筆ではない。しかしながら、その書風から 13 世紀前半の書写と推定される。確認される『林葉和歌集』の現存最古の写本である。伝本系統は四つあるが、最善本である神宮文庫本(『私歌集大成』中古Ⅱ所収)とは伝本系統を異にしている。

5　○名　　称　石山切(貫之集下)「しばしわか」
○作 者 等　藤原定信 (1088～1154-?) 筆
○時　　代　平安時代 ・12 世紀
○品　　質　彩箋墨書／掛幅装
○寸 法 等　1 幅　19.9×15.6 ㎝
○作品概要　「本願寺本三十六人集」の貫之集下の断簡である。もとは、粘葉装 (二つ折にした料紙の折目の外の部分に、糊をつけて重ね合わせて装丁したもの) の冊子本であった。「本願寺本」は当時を代表する著名な 20 人の能書によって分担執筆されている。
この「石山切」(貫之集下) の筆者は、「中務集」「糟色紙・岡寺切」(順集) も分担執筆している。これは、三跡として名高

い藤原行成から数えて五代目にあたる定信（1088～1154？）の筆跡で、彼は、「小野道風筆屏風土代」跋語（宮内庁三の丸尚蔵館蔵）「般若理趣経」（春敬書道記念文庫蔵）「詩書切　伝藤原公任筆」（東京国立博物館ほか蔵）などの遺墨を残している。
この断簡は、胡粉を膠で溶いて引き染めにし、二重蔓牡丹唐草模様を雲母で摺り出した華麗な料紙に『貫之集』を揮毫したものである。

＜刀剣＞(1 件)

6　○名　　称　（重要美術品）　太刀 備州長船住景光　延慶二年七月日
　○時　　代　鎌倉時代・延慶 2 年(1309)
　○品　　質　鍛鉄製
　○寸 法 等　1 口　73.0×2.1 cm
　○作品概要　鎬造、庵棟、腰反り高く、先でも僅かに反って中鋒のやや細身の太刀である。鍛えは小板目よく約み、乱映り立ち地鉄冴える。刃文は直刃調に佩裏元の方に小丁子ごころ連れ、小足よく入り、匂口しまり冴える。帽子は直ぐに小丸に返る。彫物は表裏に棒樋を腰で丸止めし、その下に佩表は倶利伽羅龍、佩裏は梵字を彫る。茎は生ぶ、先浅い栗尻、鑢目勝手下り、目釘孔 3、佩表のハバキ下棟寄りに「備州長船住景光」、佩裏に「延慶二年七月日」の銘がある。

＜考古＞(28 件)

7　○名　　称　ガラス管玉
　○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土
　○時　　代　古墳（飛鳥）時代・7 世紀
　○品　　質　ガラス製
　○寸 法 等　一括　長 2.4～2.9 cm、幅 1.0～1.5 cm、厚さ 0.5 cm
　○作品概要

8　○名　　称　ガラス小玉
　○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土
　○時　　代　古墳（飛鳥）時代・7 世紀
　○品　　質　ガラス製
　○寸 法 等　一括　径 0.3～0.5 cm
　○作品概要　鉛ガラス製。風化のためほとんど原形を保っていないが、元は径 0.3～0.5 の球形を呈していたと思われる。本来は緑色であるが、風化のため表面は白色を呈する。いずれも巻き技法の単品製作。

9　○名　　称　飾金具
　○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土
　○時　　代　古墳（飛鳥）時代・7 世紀
　○品　　質　銀製、ガラス製
　○寸 法 等　2 個　①2.0×0.7 cm、②1.8×1.1 cm
　○作品概要　銀薄板製の縁金具と中心飾のガラスよりなる。縁金具は中央部が両側にはり出した長楕円形のもので、中心部は四弁の花びら状にくりぬかれ、そこにガラスをはめる。裏面には漆状の接着材を塗布する。ガラスは鉛ガラスで風化が著しく、白色を呈する。

10　○名　　称　金銅金具残片
　○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土
　○時　　代　古墳（飛鳥）時代・7 世紀
　○品　　質　金銅製
　○寸 法 等　一括　最大片 1.8×1.4 cm
　○作品概要　金銅薄板の細片。刀装具か。

11　○名　　称　螺旋状金線
　○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土
　○時　　代　古墳（飛鳥）時代・7 世紀
　○品　　質　金製
　○寸 法 等　7 個　長径 0.25～0.5 cm、高さ 0.4 cm
　○作品概要　径 0.3 ㎜の金線を 9～12 回螺旋状に捲上げ、長径 0.25～0.5cm、高さ 0.4cm の扁平な円筒状につくったもの。

12　○名　　称　金糸残片
　○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土
　○時　　代　古墳（飛鳥）時代・7 世紀
　○品　　質　金製
　○寸 法 等　一括　最大長 4.3 cm
　○作品概要　幅 1㎜ほどの金の細長い板を撚って糸状にしたもの。

13　○名　　称　銀糸残片
　○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土
　○時　　代　古墳（飛鳥）時代・7 世紀
　○品　　質　銀製
　○寸 法 等　一括　最大長 3.0 cm
　○作品概要　幅 1㎜ほどの銀の細長い板を撚って糸状にしたもの。酸化のため黒色を呈する。

14　○名　　称　金象嵌鉄刀残片
　○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土

○時　　代　古墳（飛鳥）時代・7世紀
○品　　質　鉄製、金象嵌
○寸 法 等　一括　長1.8～5.3 ㎝
○作品概要　刀身平部に蹴り彫りの金象嵌で龍文・飛雲文を施している。木質付着。

15 ○名　　称　鉄刀残片
○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土
○時　　代　古墳（飛鳥）時代・7世紀
○品　　質　鉄製
○寸 法 等　一括　最大長13.2 ㎝
○作品概要　鉄刀身残片。木質付着。

16 ○名　　称　鉄器残片
○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土
○時　　代　古墳（飛鳥）時代・7世紀
○品　　質　鉄製
○寸 法 等　一括　鉄鏃片）最大長5.2 ㎝
○作品概要　鉄鏃の茎片のほか、器種不明の破片がある。

17 ○名　　称　漆塗籠棺残片
○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土
○時　　代　古墳（飛鳥）時代・7世紀
○品　　質　籠製漆塗
○寸 法 等　一括　厚1㎝、桟部約1.5 ㎝
○作品概要　籃胎漆器製棺材。植物質編組製素地(胎)に下地を施し、内外面を漆塗りする。胎は経に細撚紐、緯に太撚紐、所々に撚紐状の経・緯に桟を有する。内面は朱漆で明赤色、外面は黒漆で暗黒褐色を呈す。

18 ○名　　称　夾紵棺残片
○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土
○時　　代　古墳（飛鳥）時代・7世紀
○品　　質　乾漆製
○寸 法 等　一括　厚0.3 ㎝、5.5×4.2～0.5 ㎝程度
○作品概要　夾紵製棺材。5～6層の麻布を素地の芯として漆で塗り固め、さらに表裏面に2～3層の平絹を漆で塗り固めて仕上げる。内外面は暗灰褐色を呈する。

19 ○名　　称　緑釉棺台残片
○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土
○時　　代　古墳（飛鳥）時代・7世紀
○品　　質　陶製
○寸 法 等　一括　復元)長2.1m、幅0.75m、高0.21m。隅部残片)残存長27.5 ㎝、残存幅18.0 ㎝、残存高21 ㎝
○作品概要　緑釉棺台残片。僅かに開く立上がりをもつ。隅丸長方形の容器。全体はナデ整形仕上げされるが、各所にハケ目が残る。下面には脚台の痕跡が残る。淡青灰色。内面の全面および外面壁体部の外面に淡青灰色の緑釉を施釉する。胎土は明灰褐色。

20 ○名　　称　扉石残片
○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土
○時　　代　古墳（飛鳥）時代・7世紀
○品　　質　石製
○寸 法 等　一括　残片)42.0×29.0×23.0 ㎝以下。復元値は、幅160 ㎝、高160 ㎝、厚30 ㎝。
○作品概要　横口式石室の奥室扉石残片。安山岩[寺山青石]製。大阪平野東方の羽曳野地方で産出する石材を用いる。前室との境部に填め込まれた石材で、盗掘時に破壊された部分。中央に円孔をもつ。暗黒灰色を呈する。

21 ○名　　称　台石
○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土
○時　　代　古墳（飛鳥）時代・7世紀
○品　　質　石製
○寸 法 等　1個　高47.0 ㎝、幅45.5 ㎝、厚23.5 ㎝
○作品概要　矩形を呈する台形の石材。安山岩[寺山青石か])製。儀式用説もあるが用途不詳。底面を平滑なほぼ長方形に加工するが、側面は粗い調整を施す。頂部の一部を欠損する。明灰褐色を呈する。

22 ○名　　称　敷石
○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土
○時　　代　古墳（飛鳥）時代・7世紀
○品　　質　石製
○寸 法 等　5枚　①長48×幅32×厚6、②長40×幅30×厚4、③長40×幅29×厚6、④長37×幅22×厚6、⑤長27×幅27×厚6　㎝
○作品概要　石製板状磚。室生溶結凝灰岩[榛原石]製。奈良盆地東側の榛原地方で産出する石材を用いる。いずれも両面を平滑に加工し、長方形に近く隅部を造り出す。一部に、漆喰および鉄分の付着が認められる。灰褐色を呈する。

23 ○名　　称　敷石残片
○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土
○時　　代　古墳（飛鳥）時代・7世紀
○品　　質　石製

○寸 法 等　一括　最大値)35.0×30.0 cm
○作品概要　石製板状磚。室生溶結凝灰岩[榛原石]製。奈良盆地東側の榛原地方で産出する石材を用いる。いずれも両面を平滑に加工し、長方形に近く隅部を造り出す。一部に、漆喰および鉄分の付着が認められる。灰褐色を呈する。

24 ○名　　称　石材残片
○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土
○時　　代　古墳（飛鳥）時代・7世紀
○品　　質　石製
○寸 法 等　一括　石材)6.1×5.7～3.5×2.4 cm。礫)0.7×0.6 cm
○作品概要　石槨の一部に使用されたと推定される石材残片。石英安山岩[寺山青石]製。扉石と類似する材質。暗黒灰色を呈する。礫は石英に類似。

25 ○名　　称　漆喰残片
○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土
○時　　代　古墳（飛鳥）時代・7世紀
○品　　質　石灰製
○寸 法 等　一括　最大値)15.0×7.0 cm
○作品概要　敷石・扉石等に付着する漆喰小塊、または細片。扉石・陶製棺台を固定するため等に使用されたと推定される。暗白灰色を呈する。

26 ○名　　称　須恵器残片
○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土
○時　　代　鎌倉時代・13～14世紀
○品　　質　須恵製
○寸 法 等　一括　壺口縁部片）幅6.3 cm、7 cm　瓶）復原底径9 cm
○作品概要　壺、瓶などの破片。
壺：口縁部破片2個。幅6.3 cm、7 cm。口縁は強く外反する。
瓶：底部破片1個。復原底径9 cm。回転糸切り痕をもつ。

27 ○名　　称　土師器残片
○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土
○時　　代　鎌倉～江戸時代・13～17世紀
○品　　質　土製
○寸 法 等　一括　羽釜片）9×6 cm　灯明皿）口径8.5 cm、高1cm
○作品概要　坏、灯明皿、羽釜などの破片。
羽釜：口縁部破片。9×6 cm。口縁直下に鍔をめぐらす。
灯明皿：口径8.5 cm、高1cm。内面に煤付着。

28 ○名　　称　瓦器残片
○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土
○時　　代　平安～鎌倉時代・12～13世紀
○品　　質　土製
○寸 法 等　一括　椀）①口径14.5 cm、高5.5 cm、②口径14.6 cm、高5.0 cm、③復原口径10 cm、復原高4.5 cm
○作品概要　椀、皿などの破片。
椀：①ほぼ完形。口径14.5 cm、高5.5 cm。高台は低く外傾する。内面および口縁部外面は黒色を呈する。
②略完形。口径14.6 cm、高5.0 cm。高台は低く、断面三角形を呈する。内外面とも黒色を呈する。
③半欠。復原口径10 cm、復原高4.5 cm。高台は微隆起程度。灰白色を呈する。

29 ○名　　称　陶器残片
○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土
○時　　代　江戸時代・18世紀
○品　　質　陶製
○寸 法 等　一括　擂鉢片）8×7.5 cm
○作品概要　茶碗、擂鉢、甕、皿などの破片。
擂鉢：口縁部片。8×7.5 cm。内面に櫛目が1箇所見られる。灰黒色を呈する。
茶碗：①外面に横方向の刷毛目を施す。

30 ○名　　称　磁器残片
○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土
○時　　代　江戸時代・18～19世紀
○品　　質　磁製
○寸 法 等　一括　茶碗）①口径9.4 cm、高5.0 cm、②高5.5 cm　筒茶碗）①口径7.4 cm、高5.3 cm
○作品概要　茶碗、盃など。

31 ○名　　称　瓦残片
○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土
○時　　代　江戸時代・18～19世紀
○品　　質　瓦製
○寸 法 等　一括　最大値12.2×5.2 cm
○作品概要　平瓦の小片。多くは灰黒色を呈する。

32 ○名　　称　銭貨
○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土
○時　　代　江戸時代・17～18 世紀
○品　　質　銅製、鉄製
○寸 法 等　22 枚　銅銭：径 2.15～2.6 cm、鉄銭：径 2.5 cm
○作品概要　銅銭：17 枚（完形 14 枚、破片 3 枚）。寛永通宝。裏面無文。
鉄銭：5 枚（完形 1 枚、破片 4 枚）。銹のため銭文不詳。

33 ○名　　称　石片
○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土
○時　　代　不詳
○品　　質　サヌカイト
○寸 法 等　1 個　4.5×4.5 cm
○作品概要　サヌカイト。石器製作の際に生じた剥片。

34 ○名　　称　獣骨残片
○作 者 等　大阪府南河内郡河南町平石　塚廻古墳出土
○時　　代　不詳
○品　　質　獣骨
○寸 法 等　一括　臼歯）最大値 2.8×2.0×4.5 cm
○作品概要　ほとんどが、ウマの上顎骨片と上顎の切歯・臼歯片。

＜東洋彫刻＞(1 件)
35 ○名　　称　如来立像
○時　　代　4～5 世紀
○品　　質　ストゥッコ・彩色
○寸 法 等　1 躯　総高 71cm　像高 65 cm
○作品概要　全体をストゥッコによって浮彫風に成形した如来立像。頭髪は波型をし、体には通肩に衣をまとい、わずかに右膝を曲げ、円形の台座に立つ。右腕は肘先を曲げて手首近くまで衣で覆い、胸前で衣端をつかみ、左手はわずかに肘を曲げて垂下し、衣端をつかむ。衣には、襞を縦方向に浅く刻み、右胸には内衣を薄く刻出する。像の背面に、石灰岩の切石がつく。光背の上部や周辺部に欠損があり、足先などにも小さな欠失部がある。鼻梁の先端は後補になり、首にひび割れがある。頭髪・眉・瞳に墨彩、光背周縁部・髪際・唇・衣褶線・台座などに朱彩がある。

＜東洋陶磁＞(1 件)
36 ○名　　称　黄釉絞胎枕
○時　　代　唐時代・8 世紀
○品　　質　陶器
○寸 法 等　1 個　最大幅 12.2 cm　奥行き 8.5 cm　高 6.7 cm
○作品概要　白く精製された陶胎である。シンプルな箱形の枕であるが、四隅が面取りされ、上面はゆるやかに傾斜している。鉄分の多い黒褐色の土を混ぜ込んで、マーブル柄のような複雑な文様をあらわし、そのうえから低火度釉の黄釉をかけている。釉は透きとおっており、つやがある。側面に空気孔が一箇所あいている。底は中央部分が露胎である。

＜東洋考古＞(2 件)
37 ○名　　称　彩文土器　幾何学文装飾把手付壺
○作 者 等　キプロス出土
○時　　代　鉄器時代・前 8～前 6 世紀
○品　　質　土器。赤・黒色彩文による装飾。土製
○寸 法 等　1 口
○作品概要　いわゆる偏壺。横長の本体、口縁部の開いた筒状の頸部、「く」の字形の帯状把手を取り付けたもの。丸底で自立しない。赤色の胎土に乳白色の化粧土をかけ、黒・赤 2 色の顔料を用いて、同心円・平行線による幾何学的文様を描き、焼成している。

38 ○名　　称　彩文土器　幾何学文装飾双耳付壺
○作 者 等　キプロス出土
○時　　代　鉄器時代・前 8～前 6 世紀
○品　　質　土器。赤・黒色彩文による装飾。土製
○寸 法 等　1 口
○作品概要　大型のアンフォラ型容器。口縁部の開いた太い筒形の頸部、やや腰高の球形胴部、横位置に取り付けられた 2 つの把手、低い輪高台の底部からなる。赤色の胎土に乳白色の化粧土をかけ、黒・赤 2 色の顔料を用いて、同心円・平行線などの幾何学的文様を描き、焼成している。

＜黒田記念館収蔵品＞(5 件)
39 ○名　　称　芍薬
○作 者 等　黒田清輝（1866～1924）筆
○時　　代　明治 37 年(1904)
○品　　質　板・油彩
○寸 法 等　1 面　34.8×26.0cm
○作品概要　明治大正期の美術界に大きな影響力を持った黒田清輝の二度目の渡欧後まもない作品。フランスのアカデミックな絵画教育を受けた黒田にとって、花は寓意的な意味を持つ重要なモチーフであった。ユリ、薔薇、菊、つづじなどが好んで描かれているが、芍薬も複数描かれている。この作品には、1900 年から 1 年間の二度目の留学期にヨーロッパで盛んで会ったアール・ヌーヴォに学んだ画風が認められ、黒田のこの時期の画風をよくあらわす 1 点である。黒田の逝去の翌年に刊行され、黒田

のカタログ・レゾネ的位置にある『黒田清輝作品全集』（審美書院）に「芍薬」（北村峰子蔵）として掲載されている。

40 ○名　　称　舟
○作 者 等　黒田清輝（1866～1924）筆
○時　　代　明治時代・19 世紀
○品　　質　キャンバス・油彩
○寸 法 等　1 面　32.5 ×45.5cm
○作品概要　黒田清輝は都市よりも田園の風景を好み、また水辺を好んで描いた。1891 年にサロン初入選を果たした翌年、水辺で憩う女性群像を大画面に描こうと試みており、この作品は、晩年まで続く、いわゆる構想画制作の試みとの関連も考えられる。画業の初期に見られる穏やかな写実性と青緑色を基調とする色彩が認められ、黒田の比較的初期の画風をよくあらわす 1 点である。黒田の逝去の翌年に刊行され、黒田のカタログ・レゾネ的位置にある『黒田清輝作品全集』（審美書院）に「舟」（北村峰子蔵）として掲載されている。

41 ○名　　称　林政文肖像
○作 者 等　黒田清輝（1866～1924）筆
○時　　代　明治 27 年（1894）
○品　　質　紙・鉛筆
○寸 法 等　1 面　25.3×18.4cm
○作品概要　1893 年に 9 年におよぶフランス留学から帰国した黒田清輝は、翌年、フランスの新聞社、ルモンド・イリュストレの通信員として日清戦争に従軍し、戦地に取材した作品を描いた。しかし、その作例は写生帖等を除き、ほとんど知られていない。この作品は、日清戦争で行動をともにした新聞記者、林政文（後に北國新聞社二代目社主となる）の肖像画で、黒田から像主に贈与されたと伝えられる。林政文は布引丸事件で遭難し、後、政文氏長男政武氏の所蔵となった。この作品は、林政武氏著書『緑地帯』の口絵に掲載されており、久保田金僊による林政文像を伴っている。

42 ○名　　称　日清役二龍山砲台突撃図
○作 者 等　黒田清輝（1866～1924）筆
○時　　代　明治 27 年（1894）
○品　　質　紙・水彩
○寸 法 等　1 面　16.0×24.2cm
○作品概要　1893 年に 9 年におよぶフランス留学から帰国した黒田清輝は、翌年、フランスの新聞社、ルモンド・イリュストレの通信員として日清戦争に従軍し、戦地に取材した作品を描いた。しかし、その作例は写生帖等を除き、ほとんど知られていない。この作品は、日清戦争を主題とし、着色された１枚ものの作品として非常に稀少である。画面左下のフランス語は黒田自筆と考えられ、黒田から新聞記者であった林政文（後に北國新聞社二代目社主となる）に贈与されたことがわかる。林政文は布引丸事件で遭難し、後、政文氏長男政武氏の所蔵となった。この作品は、林政武氏著書『緑地帯』の口絵に掲載されている。

43 ○名　　称　林政文肖像
○作 者 等　黒田清輝（1866～1924）筆
○時　　代　明治 27 年（1894）
○品　　質　紙・インク
○寸 法 等　1 面　長辺 8.5cm（楕円型変形）
○作品概要　1893 年に 9 年におよぶフランス留学から帰国した黒田清輝は、翌年、フランスの新聞社、ルモンド・イリュストレの通信員として日清戦争に従軍し、戦地に取材した作品を描いた。しかし、その作例は写生帖等を除き、ほとんど知られていない。この作品は、日清戦争で行動をともにした新聞記者、林政文（後に北國新聞社二代目社主となる）の肖像画で、黒田から像主に贈与されたと伝えられる。林政文は布引丸事件で遭難し、後、政文氏長男政武氏の所蔵となった。この作品は、林政武氏著書『緑地帯』の口絵に掲載されている像と同じであるが、久保田金僊による林政文像を伴わない。

(3) 編入（442 件）　…新収品一覧表では 196 件

※準歴史資料からの編入 442 件のうち、246 件は準歴史資料数を減じ収蔵品総数に影響しないため、新収品一覧表の編入件数としては 196 件を計上。

＜歴史資料＞

○名　　称　（歴史資料）
○時　　代　江戸～明治時代・18～19 世紀
○品　　質　巻子、掛軸、折仕立等／紙本墨画、紙本著色等
○作品概要　いわゆる「歴史資料(P)」と称されている分野は、昭和 13 年(1938)旧歴史部の解体に伴い、当時のいずれの部署にも属せなかった資料群である。構成としては、江戸幕府からの引継ぎ資料や、当館の前身といえる書籍館、浅草文庫、内務省博覧会事務局収集資料も多く含まれる。平成 13 年度から、歴史資料を列品に編入する作業を行っており、本年度は 442 件を列品に編入する。その内容は種々多様で、今回編入にかかる中には「五海道其外分間延絵図並見取絵図」「壬申検査社寺宝物図集」などの重要文化財も含まれる。また狩野晴川院養信ほか木挽町狩野家の筆写になる「法隆寺什物図」や、江戸幕府の昌平坂学問所で収集された「編修地志備用典籍」(絵図・地図・城郭図類)なども含まれる。

【京都国立博物館】(計 109 件)

(1) 購入(7 件)

＜絵画＞(3 件)

1 ○名　　称　「新曲」絵巻　2 巻
○時　　代　江戸時代(18 世紀)
○寸　　法　（上）縦 33.2cm　全長 1722.2cm　35 紙（下）縦 33.2cm　全長 1463.8cm　29 紙
○作品概要　この作品は幸若舞の「新曲」を絵巻化したもので、「新曲」という名は、幸若舞曲に最後に追加された新しい曲であることによるという。
物語は『太平記』巻第十八の「一宮御息所事」に取材したもので、後醍醐天皇の第一皇子尊良親王の恋を主題としている物語の梗概は以下の通りである。

一宮（後醍醐天皇の第一皇子尊良親王）は、左大臣家の絵合でみた源氏絵に描かれた女性に魅かれる。賀茂詣での帰り、琵琶の音に引かれて垣間見した邸で、絵の中の女に似た女性を見つけ、恋に落ちる。彼女は徳大寺左大将の許嫁だったが、左大将が身をひき二人は結ばれる。そののち元弘の乱が起き、一宮は土佐に配流となった。一宮は配下の秦武文を、都に残った御息所の迎えに遣わすが、その帰途、御息所は松浦五郎なる者に奪われ、武文は自害する。松浦の舟は鳴門で動かなくなり、龍神を鎮めるために姫の衣装をなげる。また海上に武文の霊が出現し、松浦は御息所を小舟に乗せて流す。海に流され、一宮のもとに届けられた御息所の衣装を見て宮は御息所の遭難を知り菩提を弔う。そののち一宮は帰京し、阿波の武島に漂着し漁師の元で助けられていた御息所も都へ迎えられ、二人は幸せな再会を果たす。
原拠となる『太平記』では、このあと尊良親王の戦死と御息所の死までを語り、同じ話に取材した『中書王物語』も同様の結末を迎えるのに対し、『新曲』は祝儀性が強い。
『新曲』の奈良絵本は、明星大学所蔵縦型特大本２冊、工藤早弓著『奈良絵本上』（京都書院）所収横型本２冊、『日本書古書目録 89』(臨川書店)所載横型３冊本、京都・個人蔵改装絵巻本２巻の４点が知られるが、絵巻はこの一作のみである。金泥下絵のある詞書料紙をもち、町絵師の画風になる絵巻は、近世大名の注文制作になることが指摘されているが、この絵巻もその可能性がある。制作時期は、人物表現や水墨画中画の特色などから、十八世紀初め頃と推定される。
この絵巻は各巻首に「松代藩飯島勝蔵書章」の印があり、箱に「菊園文庫」と記されており、松代藩の故実家で、幕末に藩史編纂を行った飯島勝休(1815～1888)の蔵書であったことが知られる。飯島の蔵書のうち、藩史史料は現在長野県歴史館に飯島文庫として保管されているが、文学資料は外に出たらしく、他にも同印のある本が知られている。本絵巻は近年イギリスのオークションで出品され、里帰りした。

2　○名　　称　双鹿図　長澤蘆雪筆　１幅
　○時　　代　江戸時代
　○寸　　法　縦 79.2cm　横 88.7cm
　○作品概要　立ち姿の雄鹿と、脚を屈した雌鹿が描かれる。左下に「蘆雪写」の署名と「長澤」「魚」の印がある。長澤蘆雪（1754～1799・宝暦 4～寛政 11）は、円山応挙の門人。その作品には、自由な主題解釈、さまざまな造形表現の実験が見られ、独自の生命感あふれる表現をしめしており、個性的画家として評価はとみに高まっている。
印は、山川武氏による印譜（国華 860 号）の No.20 にあたる。森川家旧蔵「蓬莱山図」、「蘇晋長斎図」（黒川古文化研究所）、「薔薇孔雀図」（千葉･和歌山蘆雪展 No.82)の印影と一致する。草書落款であり、南紀での仕事のあと、とくに寛政 4 年(1792)以降、最晩年作と目される。
当館蔵の円山応挙筆「鹿図」2 曲 1 隻の図様をちょうど 180 度回転させたような図様で、応挙の雄鹿が正面観でこちらを見つめるのに対し、こちらにお尻を向けた後姿に描かれている。応挙の鹿の顔が可憐な表情をしめすのに対して、この蘆雪の鹿の顔はどこか人間臭く、一癖あるような表情をしめしている
対象は、細部までじつに丁寧に描かれており、芦雪の力量がよく窺える。館蔵の応挙の鹿図は、18 世紀半ば以降、大流行した南蘋流の鹿の描き方と関連付けられるが、蘆雪の鹿図は、その延長線上にあって、さらに蘆雪らしい変化を加えたものと位置づけられよう。
蘆雪が描いた動物図としては南紀・無量寺の虎図襖が有名で、その人間くさいユニークさが注目されているが、本作にも蘆雪らしい魅力が遺憾なくしめされている。なお、背景の金泥によるすやり霞は料紙になじんでいて当初のものとみてよく、画面に気品ある輝きを与えている。

3　○名　　称　秘伝画法書　狩野永良筆　２冊
　○時　　代　江戸時代
　○寸　　法　各縦 18.1cm　横 12.2cm
　○作品概要　京狩野家の画法の秘伝書で２帖からなり、表裏にわたって文章・図解がみられる。
「上帖」では、序文のあと、牧渓・玉澗・高然暉・夏珪をはじめ中国の画家 15 名の画法を文章で記したあと、岩・滝・水流の描き方、樹木の描き方、飛ぶ鳥の描き方、樹木の木肌の描き分け、人物の描き方（とくに裸体を描いて、その上に着物をきせて描く方法は、円山応挙の手法の先駆けとなるもの）などを図解する。「下帖」では、人物の描き方、山水図の描き方、楼閣の描き方、馬の描き方、宝珠の描き方が図解されている。
序文末に「時ニ宝暦十三癸未年孟夏下旬／狩野縫殿助藤原永良謹白」とあり、白文方印「狩埜」朱文方印「永良」が捺されている。これにより、宝暦十三年（1763）４月下旬、狩野永良（1741～1771）23 歳のときの自筆本と分かる。
狩野永良は、山楽・山雪に始まる京狩野の第六代。31 歳没と若くして没している。公家の九条家や宮廷で活動した。若くして亡くなったため、作品の絶対量も限られると思われる。作例としては、「白梅群鶏図」（京都国立博物館、平成 20 年度購入)、「親子犬図」「西王母・東方朔図屏風」（いずれも静岡県立美術館)、「鶏図」（桑名市美術館寄託）など、数件が知られるにすぎない。遺された作品には、同時代の長崎派や伊藤若冲、池大雅などの影響がしめされている。
土居次義「『画伝集』の人物画法」（『近世日本絵画の研究』美術出版社　1970　所収）に、土居氏所有の狩野永良の秘伝画法書が紹介されている。それは、宝暦 13 年７月に武川善治郎なる人物に与えたものだが、当該秘伝画法書は、序文から、永良の弟子とおぼしき「後藤行晴」なる人物に与えられたものとみられる。
京狩野については、初期の山楽・山雪・永納・永敬、幕末の永岳に関しては、かなり研究されてきたが、その間の絵師に関しては、これまでほとんど研究が進んでいない。今後、研究されるべき絵師たちであり、なかでも京都文化の隆盛期である 18 世紀半ばに活動した永良は注目される。その永良がのこした、京狩野の絵画制作法のいったんをしめす、きわめて興味深い資料である。

＜陶磁＞(1 件)

4　○名　　称　色絵西洋人物図急須　尾形周平作　１口
　○時　　代　江戸時代(19 世紀)
　○寸　　法　総高 9.9cm　口径 6.4cm　胴径 9.3cm　底径 6.9cm　長 12.0cm　幅 10.7cm
　○作品概要　江戸時代後期の京焼の名工として知られる二代高橋道八（仁阿弥：1783～1855）の実弟・初代尾形周平（1788～1839）の製作にかかる煎茶具の急須。周平は、尾形乾山（1663～1743）に私淑し、尾形姓を名乗った。共箱であることに加え、胴部に「應需造之　甲午秋良日　尾形周平」という赤絵銘があることから、天保五年(1834)に製作されたものであることが判り、貴重である。
胴部に描かれた西洋人図ひとつをとっても、「阿蘭陀趣味」といわれる江戸時代後期の西洋趣味は充分に窺われるところであるが、クリーム色の器に褐色の彩色を施している点も、クリームウェアと呼ばれるイギリス製の皿の意識的な模倣と考えられ、全体に「阿蘭陀趣味」溢れる作品となっている。
小品ではあるが、作者・制作年代が判るという点で研究上の基準作となることに加え、煎茶に「阿蘭陀趣味」という江戸時

代後期の文化的流行を端的に示す作品である。

＜漆工＞(1 件)

5　○名　　称　双龍花鳥蒔絵螺鈿裁縫道具入　1 合
　　○時　　代　江戸時代　1640 年前後
　　○寸　　法　縦 16.5cm　横 4.3cm　高 3.5cm
　　○作品概要　西洋人の求めに応じて制作された輸出漆器。2008 年の特別展覧会「japan 蒔絵」にも出陳された。16 世紀末以来、大量に輸出された洋櫃や書箪笥とは異なり、細かな注文に応じて作られた器具入れである。印籠蓋造の容器で、蓋と身の側面にそれぞれ一対の紐通しがあり、まさに印籠のように脇に通した紐で蓋を閉じて携帯できるようになっている。鋏の鞘と棒状の器具を入れる孔があり、西洋に伝世する銀製の類品から、裁縫道具入れと推定される（金象嵌で飾られた鋏が附属するが、これは 18 世紀の品と思われる)。
日本製の輸出漆器の様式は、1630 年代までは、黒漆地に金平蒔絵と螺鈿を用いて、幾何学文の縁取りの中に余白を残さずに花鳥獣などを描くいわゆる「南蛮漆器」が主流であったが、この頃から徐々に、螺鈿を用いず高蒔絵を交えて余白のある図を描く「紅毛漆器」へ変化すると考えられている。また 1640 年前後に、非常に丁寧な蒔絵の特注品が作られたことが知られる。本品は、螺鈿と平蒔絵を用いた幾何学文に南蛮漆器の名残を残しつつ、余白を多く残した龍、松に鳳凰、竹に虎などの図に新しさを見せており、特殊な形状や丁寧な細工からも、この過渡期の特注品と位置づけられる。
小品ながら、世界にひとつしか確認されていない珍品中の珍品であり、保存状態も抜群によく、江戸時代に西洋の需要にさえ応えてものづくりをおこなっていた京都の柔軟な技術力を伝える点でも貴重である

＜考古＞(2 件)

6　○名　　称　三角縁三神三獣鏡　　1 面
　　○時　　代　古墳時代　４世紀
　　○寸　　法　面径 21.2cm
　　○作品概要　古墳時代前期に日本で製作された青銅鏡。いわゆる倣製鏡。鏡背面の内区に六個の乳を配し、その間に形骸化した神像と獣像をそれぞれ三体配置する。銘帯には「吾作明鏡甚独孫子宜」の文字が鋳出されている。この文字は日本列島に於ける漢字表現の最古例のひとつ。同じ形の鏡が北部九州や大阪府からも発見されているが、これは新資料といえる。出土地は不詳。

7　○名　　称　画文帯神獣鏡　　1 面
　　○時　　代　古墳時代　５世紀
　　○寸　　法　面径 21.2cm
　　○作品概要　古墳時代中期、５世紀の古墳から出土する例の多い鏡。中国鏡を日本列島で精巧に模倣したもの。鏡背面の内区には神像と獣像を交互に配置している。銘文は方形の区画内にあり「天王日月」と鋳出される。銅質は良好。出土地不詳。

(2)寄贈(102 件)

＜絵画＞(62 件)

1　○名　　称　松堂旭日図　斉白石筆　1 幅
　　○時　　代　中国近代(20 世紀)
　　○寸　　法　縦 86.8 cm　横 27.4cm
　　○品　　質　紙本墨画淡彩

2　○名　　称　斗方めくり　王雲・蕭・・陳年筆　6 枚
　　○時　　代　中国近代(20 世紀)
　　○寸　　法　縦 29.6cm　横 35.2cm
　　○品　　質　紙本墨画

3　○名　　称　竹林人家図　王青芳筆　1 幅
　　○時　　代　中国近代(20 世紀)
　　○寸　　法　縦 136.4cm　横 32.9cm
　　○品　　質　紙本墨画淡彩

4　○名　　称　花鳥図　張子嘉筆　1 幅
　　○時　　代　民国 23 年(1934)
　　○寸　　法　縦 137.4cm　横 33.4cm
　　○品　　質　紙本墨画

5　○名　　称　紫藤飛燕図　汪仲山筆　1 幅
　　○時　　代　中国近代(20 世紀)
　　○寸　　法　縦 150.1cm　横 40.3cm
　　○品　　質　紙本墨画淡彩

6　○名　　称　碧葡萄図　方子易筆　1 幅
　　○時　　代　民国 23 年(１９３４)
　　○寸　　法　縦 131.4cm　横 32.5cm
　　○品　　質　紙本墨画淡彩

7　○名　　称　花卉図(墨菊)　容祖椿筆　1 幅
　　○時　　代　民国 19 年(１９３０)
　　○寸　　法　縦 94.5cm　横 43.4cm
　　○品　　質　紙本墨画

8　○名　　称　　花卉墨意図　王祺筆　1幅
　　○時　　代　　中国近代(20世紀)
　　○寸　　法　　縦110.5cm　横34.2cm
　　○品　　質　　紙本墨画

9　○名　　称　　達磨図　夢白筆　1幅
　　○時　　代　　近代(20世紀)
　　○寸　　法　　縦114.7cm　横37.0cm
　　○品　　質　　絹本墨画淡彩

10　○名　　称　　故事山水図　俞齢筆　2幅
　　○時　　代　　清(17世紀)
　　○寸　　法　　縦160.3cm　横48.0cm
　　○品　　質　　絹本墨画淡彩

11　○名　　称　　酔翁図　瑞光筆　1枚
　　○時　　代　　中国近代(20世紀)
　　○寸　　法　　縦32.6cm　横32.3cm
　　○品　　質　　紙本墨画淡彩

12　○名　　称　　飛鳥遊羊図めくり　藻皇筆　1枚
　　○時　　代　　清光緒10年(1884)
　　○寸　　法　　縦100.0cm　横38.8cm
　　○品　　質　　絖本墨画

13　○名　　称　　多子果図　秦耿谷筆　1幅
　　○時　　代　　民国22年(1933)
　　○寸　　法　　縦113.0cm　横34.2cm
　　○品　　質　　紙本墨画淡彩

14　○名　　称　　果蔬図　姚燮筆　1幅
　　○時　　代　　清道光17年(1837)
　　○寸　　法　　縦121.4cm　横29.6cm
　　○品　　質　　紙本墨画淡彩

15　○名　　称　　呉昌碩太公望図　1幅
　　○時　　代　　中国近代(20世紀)
　　○寸　　法　　縦35.3cm　横59.5cm
　　○品　　質　　紙本墨画淡彩

16　○名　　称　　高其佩十題冊　1帖
　　○時　　代　　中国近代
　　○寸　　法　　縦26.8cm　横33.1cm
　　○品　　質　　紙本墨画淡彩

17　○名　　称　　石濤石象八題冊　1帖
　　○時　　代　　中国近代(19世紀)
　　○寸　　法　　縦20.7cm　横22.4cm
　　○品　　質　　紙本墨画

18　○名　　称　　石濤山水八題冊　1帖
　　○時　　代　　清(19世紀)
　　○寸　　法　　縦28.7cm　横21.0cm
　　○品　　質　　紙本墨画。咸豊六年(1856)、趙狆漢の跋あり。

19　○名　　称　　李鱓菊籬図　1幅
　　○時　　代　　中国近代(20世紀)
　　○寸　　法　　縦140.9cm　横38.3cm
　　○品　　質　　紙本墨画

20　○名　　称　　高其佩竹林墨意図　1幅
　　○時　　代　　中国近代(20世紀)
　　○寸　　法　　縦174.7cm　横92.4cm
　　○品　　質　　紙本墨画

21　○名　　称　　文伯仁扇面山水図　1幅
　　○時　　代　　清(18世紀)
　　○寸　　法　　上弦：49.7cm　下弦：20.0cm　辺：17.5cm
　　○品　　質　　金箋墨画淡彩

22　○名　　称　　張僧繇翠章瑶林図　1巻

○時　　代　　清(19 世紀)
○寸　　法　　縦 28.2cm
○品　　質　　絹本着色

23 ○名　　称　　明墨　１個
○時　　代　　明時代(17 世紀)
○寸　　法　　縦 12.8cm　横 12.8cm　高 1.4cm
○品　　質　　墨

24 ○名　　称　　昇龍山人所用印　一括
○時　　代　　中国近代(20 世紀)
○寸　　法
○作品概要　　寿山石、凍石等。斉白石、沙孟海、何秋江等刻。

25 ○名　　称　　梅花草堂六朝鎏仏　須磨弥吉郎筆　3 帖
○時　　代　　日本　昭和年間
○寸　　法
○品　　質　　紙本墨画淡彩

26 ○名　　称　　寿頌九如(菊花図)
金干城・金松林・金柏森・火少疇・陶子山・李誠斎・馬宇生・常琢之・石熾君筆　１幅
○時　　代　　民国 20 年(1931)
○寸　　法　　縦 150.4cm　横 80.3cm
○品　　質　　紙本着色

27 ○名　　称　　裸婦素描　太田貢筆　１帖
○時　　代　　日本 20 世紀
○寸　　法　　縦 28.6cm　横 21.8cm
○品　　質　　紙本鉛筆書き。額入り。

28 ○名　　称　　水彩「蘇州風景」　太田貢筆　１帖
○時　　代　　1931 年
○寸　　法　　縦 30.1cm　横 40.8cm
○品　　質　　紙本水彩。額入り。

29 ○名　　称　　水彩「支那の屋根」　太田貢筆　１帖
○時　　代　　日本 20 世紀
○寸　　法　　縦 24.2cm　横 28.1cm
○品　　質　　紙本水彩。額入り。

30 ○名　　称　　厩素描　太田貢筆　１帖
○時　　代　　日本 20 世紀
○寸　　法　　縦 24.7cm　横 28.8cm
○品　　質　　紙本鉛筆書き。額入り。

31 ○名　　称　　水彩「フランス祭り　於バンド」　太田貢筆　１帖
○時　　代　　日本 20 世紀
○寸　　法　　縦 48.6cm　横 63.8cm
○品　　質　　紙本水彩。額入り。

32 ○名　　称　　油彩「横浜風景」　太田貢筆　１帖
○時　　代　　日本 20 世紀
○寸　　法　　縦 42.6cm　横 56.9cm
○品　　質　　麻地油彩。額入り。

33 ○名　　称　　油彩「唐黄瓶」　重松岩吉筆　１帖
○時　　代　　20 世紀
○寸　　法　　縦 45.2cm　横 37.6cm
○品　　質　　麻地油彩

34 ○名　　称　　油彩「裸婦」　重松岩吉筆　１帖
○時　　代　　20 世紀
○寸　　法　　縦 53.7cm　横 45.1cm
○品　　質　　麻地油彩

35 ○名　　称　　油彩「阿里山」　重松岩吉筆　１帖
○時　　代　　20 世紀
○寸　　法　　縦 49.7cm　横 59.4cm
○品　　質　　麻地油彩

36 ○名　　称　　油彩「台湾生蛮」　重松岩吉筆　１帖

○時　代　20 世紀
○寸　法　縦 40.7cm　横 31.1cm
○品　質　麻地油彩

37 ○名　称　水彩「樹林」　重松岩吉筆　1 幀
○時　代　20 世紀
○寸　法　縦 32.9cm　横 23.9cm
○品　質　紙本水彩

38 ○名　称　油彩「鍛冶屋」　重松岩吉筆　1 幀
○時　代　20 世紀
○寸　法　縦 60.4cm　横 59.0cm
○品　質　麻地油彩

39 ○名　称　水彩「広東風景」　重松岩吉筆　1 幀
○時　代　20 世紀
○寸　法　縦 27.1cm　横 23.0cm
○品　質　紙本水彩

40 ○名　称　油彩「牛」　重松岩吉筆　1 幀
○時　代　20 世紀
○寸　法　縦 48.7cm　横 60.3cm
○品　質　麻地油彩

41 ○名　称　油彩「静物(菊花)」　重松岩吉筆　1 幀
○時　代　20 世紀
○寸　法　縦 70.6cm　横 54.3cm
○品　質　麻地油彩

42 ○名　称　油彩「花艇」　島田隆夫筆　1 幀
○時　代　1932 年
○寸　法　縦 53.8cm　横 91.5cm
○品　質　麻地油彩

43 ○名　称　油彩「明孝陵」　上野春香筆　1 幀
○時　代　1936 年
○寸　法　縦 46.0cm　横 53.5cm
○品　質　麻地油彩

44 ○名　称　油彩「珠江」　小林もりき筆　1 幀
○時　代　1930 年
○寸　法　縦 60.3cm　横 76.0cm
○品　質　麻地油彩

45 ○名　称　水彩「静安寺前」　小川七五三郎筆　1 幀
○時　代　20 世紀
○寸　法　縦 24.0cm　横 28.2cm
○品　質　紙本水彩

46 ○名　称　油彩「中国風景(洋風建築群)」　1 幀
○時　代　20 世紀
○寸　法　縦 38.0cm　横 45.6cm
○品　質　麻地油彩

47 ○名　称　油彩「中国の陵墓」　1 幀
○時　代　20 世紀
○寸　法　縦 38.0cm　横 45.5cm
○品　質　麻地油彩

48 ○名　称　油彩「華山桟道」　潘玉良筆　1 幀
○時　代　1934 年
○寸　法　縦 42.2cm　横 33.6cm
○品　質　麻地油彩。1935 年 5 月、南京華僑招待所での個展に出品される。

49 ○名　称　油彩「昇龍山人裸像」　陳宏筆　1 幀
○時　代　1930 年
○寸　法　縦 49.7cm　横 60.4cm
○品　質　麻地油彩

50 ○名　称　水彩「赤い塔」　方菁筆　1 幀
○時　代　中国 20 世紀

○寸　　法　縦 30.3cm　横 24.5cm
○品　　質　紙本水彩

51 ○名　　称　山水図扇面　姜筠筆　1幀
○時　　代　清光緒十年(1884)
○寸　　法　上弦：66.4cm　下弦：29.9cm　辺： 21.7cm
○品　　質　金箋墨画。潜生大公祖上款。

52 ○名　　称　詩書扇面　姜筠筆　1幀
○時　　代　清光緒十年(1884)
○寸　　法　上弦：67.2cm　下弦：29.8cm　辺：22.0cm
○品　　質　金箋墨書。潜生大公祖上款。

53 ○名　　称　壁画断片「美人群像(楊貴妃)」　1幀
○時　　代　清
○寸　　法　縦 97.0cm　横 51.5cm
○品　　質　土製着色

54 ○名　　称　壁画断片「観音像」　1幀
○時　　代　清
○寸　　法　縦 116cm　横 70cm
○品　　質　土製着色

55 ○名　　称　壁画断片「左手を挙げる女性」　1幀
○時　　代　清
○寸　　法　縦 136.5cm　横 88cm
○品　　質　土製着色

56 ○名　　称　壁画断片「二天使像」　1幀
○時　　代　不明
○寸　　法　縦 15.2　cm　横 23.9cm
○品　　質　土製着色

57 ○名　　称　壁画断片「雲中に浮遊する珍宝」　1幀
○時　　代　清
○寸　　法　縦 29.5cm　横 25.0cm
○品　　質　土製着色

58 ○名　　称　壁画断片「掛け幅を開き見る二高士」　1幀
○時　　代　清
○寸　　法　縦 46.0cm　横 42.0cm
○品　　質　土製着色

59 ○名　　称　壁画断片「舞い踊る仙女」　1幀
○時　　代　清
○寸　　法　縦 35.8cm　横 35cm
○品　　質　石製着色

60 ○名　　称　壁画断片「天女出遊」　1幀
○時　　代　清
○寸　　法　縦 36.0cm　横 35.0cm
○品　　質　石製着色。木製受け台付属。

61 ○名　　称　絹本著色 荷郷清夏図　藍瑛筆　1幅　(重要美術品)
○時　　代　明時代(17 世紀)
○寸　　法　縦 172.7cm　横 52.1cm
○作品概要　重要美術品　昭和 12 年 2 月 16 日認定

62 ○名　　称　浮世絵版画集　歌川国芳ほか作　6冊
○時　　代　幕末～明治時代
○寸　　法　(1) 縦 43.2cm　横 31.4cm　厚 6.3cm
(2) 縦 39.1cm　横 26.3cm　厚 3.0cm
(3) 縦 39.1cm　横 26.3cm　厚 3.5cm
(4) 縦 35.6cm　横 25.3cm　厚 4.4cm
(5) 縦 35.6cm　横 25.3cm　厚 4.2cm
(6) 縦 34.8cm　横 23.8cm　厚 5.7cm
○作品概要　大判錦絵三枚続等を冊子 6 冊に装丁

＜書跡＞(8 件)
63 ○名　　称　彩牋墨書 古今和歌集巻第十八断簡「本阿弥切」(あるひとの)　1幅　(重要美術品)

○時　　代　平安時代(11～12 世紀)
○寸　　法　縦 16.3cm　横 27.1cm
○作品概要　『古今和歌集』巻第 18 の断簡で、「あるひとの」以下３首が書写される。切の名称は、本阿弥光悦(1558～1637)が愛蔵したことにちなむ。一般的に、本阿弥切は表面の胡粉が剥落し、文字の判読が困難になるような傷みのあるものが多いが、本幅は非常に保存状態がよく、平安貴族の好んだであろう美意識を失うことなく今に伝えている。

64 ○名　　称　紙本墨書 後撰集巻第八断簡「烏丸切」（てまかりかよふ）　１幅　（重要美術品）
○時　　代　平安時代(12 世紀)
○寸　　法　縦 20.3cm　横 16.6cm
○作品概要　『後撰和歌集』巻第８の断簡で、「てまかりかよふ」以下３首が書写される。切れの名称は烏丸光広(1579～1638)が愛蔵したことにちなむという。金銀の砂子を散らし、飛雲をあしらった瀟洒な料紙に、長い連綿を用いた運筆が映える。保存状態は非常によい。

65 ○名　　称　詩書めくり　大典禅師(梅荘顕常)筆　１２枚
○時　　代　江戸時代
○寸　　法　各　縦 99.5cm　横 28.9cm
○作品概要　紙本墨書

66 ○名　　称　嶺南墨存　１帖
○時　　代　中国近代(20 世紀)
○寸　　法　縦 23.3cm　横 17.4cm
○作品概要　紙本墨書

67 ○名　　称　遊歴広西紀念　１帖
○時　　代
○寸　　法　縦 20.8cm　横 14.7cm
○作品概要　紙本墨書

68 ○名　　称　金陵墨味　１帖
○時　　代　中国近代(20 世紀)
○寸　　法　縦 27.0cm　横 20.8cm
○作品概要　紙本墨書

69 ○名　　称　綺星　１帖
○時　　代　20 世紀
○寸　　法　縦 23.8cm　横 17.9cm
○作品概要　紙本墨書

70 ○名　　称　詩書めくり　沈尹默筆　５枚
○時　　代　中国近代(20 世紀)
○寸　　法　1.「柳春……」：縦 128.0cm　横 32.7cm、2.「酒薄……」：縦 128.5cm　横 32.7cm、3.「波波……」：縦 128.7cm　横 32.0cm、4.「擔枝……」：縦 128.2cm　横 32.7cm、5.「炒栗……」：縦 31.4cm　横 50.2cm
○作品概要　紙本墨書

＜彫刻＞(12 件)

71 ○名　　称　銅造二仏並坐像　１躯
○時　　代　中国北魏時代
○寸　　法　総高 9.4cm
○作品概要　釈迦、多宝の二仏をあらわす。

72 ○名　　称　銅造二仏並坐像　１躯
○時　　代　中国北魏時代
○寸　　法　総高 13.8cm
○作品概要　釈迦、多宝の二仏をあらわす。

73 ○名　　称　金銅如来立像　１躯
○時　　代　中国隋～唐時代
○寸　　法　総高 5.9cm
○作品概要　左手垂下し右手屈臂する。

74 ○名　　称　金銅菩薩立像　１躯
○時　　代　中国東魏～北斉時代
○寸　　法　総高 9.6cm
○作品概要　永平三年の銘を台座に刻む。

75 ○名　　称　金銅菩薩立像　１躯
○時　　代　中国東魏～北斉時代
○寸　　法　総高 9.2cm
○作品概要　左手与願、右手施無畏印。

76 ○名　　称　金銅如来立像　１躯
○時　　代　中国唐時代
○寸　　法　総高 9.4cm
○作品概要　腰を右に捻り、左手垂下、右手屈臂。

77 ○名　　称　金銅菩薩踏下像　１躯
○時　　代　中国唐時代
○寸　　法　総高 8.0cm
○作品概要　左脚を踏み下げる。

78 ○名　　称　塼造浮彫如来三尊像　１面
○時　　代　中国唐時代
○寸　　法　縦 12.4cm　横 8.6cm　厚 2.0cm
○作品概要　背面に「大唐善業泥圧得真如妙色身」の銘あり。

79 ○名　　称　金銅菩薩立像　１躯
○時　　代　中国北魏時代
○寸　　法　総高 13.5cm
○作品概要　延昌三年の銘を台座に刻む。

80 ○名　　称　木造菩薩坐像　１躯
○時　　代　中国元～明時代
○寸　　法　像高 59.8cm
○作品概要　右足を上に結跏趺坐する。

81 ○名　　称　石造四方仏龕〈黄華石製〉　１基
○時　　代　中国西魏～北周時代
○寸　　法　高 13.9cm　幅 8.2cm　奥 5.5cm
○作品概要　如来三尊、如来立像、如来倚像、如来立像をそれぞれ浮き彫りする。

82 ○名　　称　石造浮彫千仏坐像　１面
○時　　代　中国北斉～隋時代
○寸　　法　高 19.4cm　幅 34.2cm　奥 5.7cm
○作品概要　如来坐像を四段に浮き彫りする。

＜陶磁＞(16 件)

83 ○名　　称　藍絵ウィンザー城図楕円皿　１枚
○時　　代　19 世紀
○寸　　法　口径 36.7cm×47.4cm　底径 22.8cm×33.7cm　高 5.0cm
○作品概要　19 世紀前半頃のイギリス製と思われるプリントウェア(銅版転写)。

84 ○名　　称　藍絵花弁文八角瓶　１口
○時　　代　17～18 世紀
○寸　　法　口径 9.0cm×10.5cm　高台径 7.2cm×8.1cm　高 20.3cm
○作品概要　オランダのデルフト窯産とみられる錫釉陶器。

85 ○名　　称　藍絵西洋人物図蓋物　１合
○時　　代　17～18 世紀
○寸　　法　幅 20.6cm　高台径 12.4cm×18.4cm　総高 10.4cm
○作品概要　オランダのデルフト窯産とみられる錫釉陶器。

86 ○名　　称　藍絵西洋風景図輪花皿　１枚
○時　　代　19～20 世紀
○寸　　法　幅 20.6cm　高台径 12.4cm×18.4cm　総高 10.4cm
○作品概要　19～20 世紀頃のイギリス製と思われるプリントウェア(銅版転写)。高台内の藍絵銘は滲んでいて不鮮明だが、ウィリアム・アダムス社の製品か。

87 ○名　　称　青花唐人文皿　１枚
○時　　代　中国・清時代
○寸　　法　口径 21.5cm　高台径 12.9cm　高 2.3cm
○作品概要　中国清時代のものと見られる染付磁器皿。江西省景徳鎮産か。

88 ○名　　称　白堆花弁文皿　１枚
○時　　代　17～18 世紀
○寸　　法　口径 21.4cm　高台径 12.3cm　高 2.4cm
○作品概要　ヨーロッパ製。高台に壁掛け用の焼成前穿孔。

89 ○名　　称　藍絵桃柘榴文水切り鉢　マイセン窯　１口
○時　　代　口径 19.5cm　高 5.8cm
○寸　　法　18～19 世紀
○作品概要　ドイツ製。底裏に、マイセン窯の製品であることを示す、双剣マークの染付あり。内面の染付文様は、マイセン窯製品に伝

統的なブルーオニオン。

90 ○名　　称　青花山水人物文茶瓶　１口
○時　　代　中国・清時代
○寸　　法　長 15.0cm　胴径 11.4cm　高台径 6.9cm　高 19.5cm
○作品概要　18～19 世紀ころの中国製。煎茶器か。

91 ○名　　称　青花花卉文小碗　宣統己酉宜春堂製銘　５口
○時　　代　中国・清時代
○寸　　法　口径 7.8cm　高台径 3.1cm　高 3.0cm
○作品概要　高台内に「宣統己酉宜春堂製」染付銘あり。

92 ○名　　称　青花人物文皿　３枚
○時　　代　中国・清時代
○寸　　法　口径 13.2cm　高台径 7.6cm　高 2.8cm
○作品概要　高台内に「福」角枠染付銘あり。17～18 世紀頃の江西省・景徳鎮民窯製か。

93 ○名　　称　藍絵西洋風景図鉢　１枚
○時　　代　19 世紀
○寸　　法　口径 20.0cm　高台径 10.6cm　高 9.7cm
○作品概要　底裏の、PR 印銘から、19 世紀半ば頃のオランダ・マーストリヒトのペトゥルス・レグゥー社製とみられる。「藤山松平蔵」と墨書された桐箱が付属していることから、国内伝世品かと思われる。

94 ○名　　称　藍絵ピッツフィールド冬景図皿　１枚
○時　　代　19 世紀
○寸　　法　口径 22.2cm　高台径 11.6cm　高 2.7cm
○作品概要　高台内の印銘から、イギリスのスタッフォードシャー産と知られる。

95 ○名　　称　藍絵ホワイトハウス図皿　１枚
○時　　代　19 世紀
○寸　　法　口径 26.0cm　高台径 14.1cm　高 2.6cm
○作品概要　19～20 世紀頃のイギリス製と思われるプリントウェア(銅版転写)。高台内の藍絵銘から、ウィリアム・アダムス社製のアメリカ向け輸出品かと推測される。

96 ○名　　称　藍絵ルイス・クラーク探検隊百周年記念皿　１枚
○時　　代　1905 年
○寸　　法　口径 26.6cm　高台径 14.3cm　高 2.8cm
○作品概要　イギリス・スタッフォドシャー製のプリントウェア(銅版転写)。藍絵の意匠から、アメリカ向けの輸出品かと推測される。

97 ○名　　称　藍絵フィラデルフィア近郊図皿　１枚
○時　　代　19 世紀
○寸　　法　口径 26.0cm　高台径 15.3cm　高 2.8cm
○作品概要　19 世紀頃のイギリス製とみられるプリントウェア(銅版転写)。藍絵の意匠から、アメリカ向けの輸出品かと推測される。

98 ○名　　称　藍絵ロンドン風景図皿　１枚
○時　　代　19 世紀
○寸　　法　口径 26.0cm　高台径 16.0cm　高 3.0cm
○作品概要　19 世紀頃のイギリス製とみられるプリントウェア(銅版転写)。

＜漆工＞(1 件)

99 ○名　　称　高台寺御霊屋蒔絵拓本類　一括
○時　　代　昭和 31 年(1956)
○寸　　法　(1)縦 161.3cm　横 82.0cm　(2)縦 163.0cm　横 82.0cm　(3)縦 153.5cm　横 83.0cm　(4)縦 163.5cm　横 81.5cm
(5)縦 150.0cm　横 82.0cm　(6)縦 168.0cm　横 82.0cm　(7)縦 159.0cm　横 82.0cm　(8)縦 153.3cm　横 82.0cm
(9)縦 209.0cm　横 20.0cm　(10)縦 209.0cm　横 20.0cm　(11)縦 58.0cm　横 23.0cm　(12)縦 51.0cm　横 19.8cm
(13)縦 78.5cm　横 32.0cm　(14)縦 220.0cm　横 38.0cm　(15)縦 232.3cm　横 16.7cm　(16)縦 185.0cm　横 26.8cm
(17)縦 185.0cm　横 27.0cm　(18)縦 208.3cm　横 82.0cm　(19)縦 78.0cm　横 49.0cm
○作品概要　和紙やセロハンのような洋紙 19 枚に、おそらく乾拓で、高台寺御霊屋内の建築部材に描かれた平蒔絵の文様（厨子扉表裏の秋草や松竹図、須弥壇の花筏、勾欄や丸柱の楽器散）を写したもの。釘隠の花熨斗図もある。昭和 31 年の修理時に蒔絵師の井田氏が制作。同氏による須弥壇の花筏の描き起し図１枚も附属。交流のあった吉村氏が譲り受けた。

＜染織＞(2 件)

100 ○名　　称　黒留袖(振袖)　一式
○時　　代　昭和 8 年(1933)
○寸　　法　丈 160.0cm　裄 62.5cm　留袖丈 51.0cm　振袖丈 107.5cm
○作品概要　附属品：振袖用長襦袢　一領、振袖用白下着　一領、留袖用白下着　一領、　しごき　一筋。
着用者：昭和八年の婚礼に際して着用。着用者は長刀鉾町の呉服悉皆業店に生まれる。この婚礼衣裳は、当時の京都の富裕層の好みを示す。

101 ○名　　称　古今雛飾り　一式
○時　　代　江戸時代　19 世紀
○寸　　法　男雛高(含冠)34.5cm　女雛高 25.5cm

○作品概要　桐塑の頭手足に、装束を着せ付けた雛人形一対を中心に、三人官女、随臣、雛膳、雛道具を伴う一式。内裏雛は、江戸時代後期に流行した典型的な古今雛様式で、顔のつくりからみて京都製と考えられる。

＜考古＞(1件)

102 ○名　称　金元帥家買地券塼　1個
○時　代　光天元年(推定南漢年号)　西暦９４２年
○寸　法　縦24.6cm　横24.6cm　厚1.9cm
○作品概要　買地券は死者の墓に納入されるもので、土地の神から地下の墓所を購入契約した際の証書とされるもの。中国後漢代から近世まで行われた。本例は粘土板に焼成前に罫線をひき各行交互に上下から文字を刻んでいき、乾燥後に焼成したもの。その内容は土地の四方を限定し「金元帥家女」の墓を築くことを記す。「富貴大吉」や「急々如律令」などの吉祥句が連なる。年号の「光天元年」は南漢の942年と推定される。中国の埋葬儀礼を示す資料として貴重であり、寄贈をうけて展示を充実させたい。

【奈良国立博物館】(計7件)

(1)購入(4件)
＜書跡＞(2件)

1　○名　称　華厳経(二月堂焼経) 巻第二十四　1巻
○時　代　奈良時代　8世紀
○品　質　紺紙　銀字　巻子装
○寸 法 等　縦23.5cm　長969.9cm
○作品概要　本品は、東大寺二月堂に伝来した六十巻本(旧訳)『華厳経』巻第二十四を書写したもので、東大寺の修二会期間中に行われる実忠忌(旧暦2月5日)に用いられたと考えられている。「二月堂焼経」の名の通り、本紙下側を波状に焼失し、その下端は茶色く変色しているものの、銀泥の文字はほとんど酸化せず、銀の白さを保っている。謹厳で整然とした筆跡から、奈良時代中期の優れた写経生の手になるものと推定される。現存する奈良時代唯一の紺紙銀字経であり、装飾経の貴重な遺例である。

2　○名　称　手鑑　1帖
○時　代　奈良時代～江戸時代　8～17世紀
○品　質　紙本(一部彩牋)　墨書　折帖装
○寸 法 等　縦39.5cm　横25.1cm　厚10.5cm　長1580.0cm
○作品概要　折帖装台紙の表裏あわせて122面に、長短206葉の筆跡を貼り込んだ手鑑である。それぞれの筆跡には極札が付けられ、伝称筆写名と書き出し文言および「琴山」の墨印がある。筆跡は、平安時代以前のものも若干含まれるが、大部分は鎌倉時代から江戸時代初期までの古筆切および和歌短冊などである。手鑑は、室町時代後期頃から作られはじめ、江戸時代に隆盛しており、日本における書の歴史を語る上で欠かせない史料といえる。

＜漆工＞(2件)

3　○名　称　玉虫厨子　模造　1基
○時　代　近代　大正10年(1921)
○品　質　木製　黒漆塗　漆絵　金銅装
○寸 法 等　総高226.0cm　基壇幅137.2cm　基壇奥行119.5cm
○作品概要　本品は、吉田立齋(1867～1935)によって製作された法隆寺所蔵の玉虫厨子(原品は飛鳥時代)の模造である。立齋は、奈良博覧会社が創設した奈良漆器を作成する温古社の初代工場長として、正倉院宝物の工芸品の模写・模造を行い、密陀絵や撥鏤など奈良時代の技法を復活させた。本品は、その立齋が手懸けた模造4基のうちの1基で、玉虫の羽根を金具の透かしに填め込む点、漆絵のみで密陀絵の併用が認められない点、屋根の妻側に鉤形金具がない点など、原品との差異も認められるが全体としてきわめて忠実な模造品である、原品の詳細な観察と確かな漆工技術の裏付けがあって初めて可能な高水準の模造といえる。

4　○名　称　金銀平脱皮箱　模造　1合
○時　代　近代　20世紀
○品　質　革製　漆塗　布被
○寸 法 等　蓋　縦27.0cm　横32.3cm　高6.7cm
身　縦25.4cm　横30.7cm　高7.1cm　総高8.1cm
○作品概要　本品は、正倉院宝物として中倉138に整理される金銀平脱皮箱第4号の模造である。外箱の蓋表に「寧楽　大閑堂監製」とあり、奈良漆器や古美術品を扱った大閑堂(玉井久次郎)が製作させたものと推測される。吉田立齋の記した『漆器事業五十年間経歴書』によると、昭和2年(1927)に大閑堂の肝煎りで大阪高島屋にて正倉院宝物模造品の展観が行われ(翌年には東京伝馬町の高島屋でも開催)、この場で出陳品は多数の売約を得たようで、正倉院宝物の模造が大閑堂の手によって製作・流通したと考えられる。製作の経緯は明らかではないものの、大閑堂によって作られた精巧な正倉院宝物の模造である本品は、近代奈良の懐古趣味や正倉院宝物模造などの歩みを考える上で、重要な資料といえる。

(2)寄贈(3件)
＜絵画＞(2件)

5　○名　称　絹本著色武蔵野図　横山大観筆　1幅
○時　代　明治28年(1895)
○品　質　絹本著色　掛幅装
○寸 法 等　本紙　縦55.4cm　横93.6cm　表具　縦163.2cm　横113.0cm
○作品概要　本品は、横山大観(1868～1958)が、京都市美術工芸学校(現・京都市立芸術大学)予備課教員を務めていた明治28年(1895)に、京都博覧会主催日本青年絵画協会第4回共進会へ出品した作品で、大観の初期の代表作として知られる。一枚絹による横長の画面に、武蔵野の景観が水平への豊かな広がりと奥行きの深さをもって描かれており、西洋画の遠近法を意識した画面構成であるが、中央に配される樹木や岩塊の描写には、狩野派の伝統に則った筆致が認められ、曲水に線条を引き、河原に金泥を掃く表現には古くから大和絵に用いられてきた技法が見受けられる。また、本品に捺されている「秀麿」の落款は、初期の作品2点にしか現存しない貴重なものである。

6　○名　　称　紙本墨画淡彩瑞光図　横山大観筆　　1幅
　○時　　代　大正時代(1912～26)
　○品　　質　紙本墨画淡彩　掛幅装
　○寸 法 等　本紙　縦115.0cm　横41.1cm　　表具　縦206.3cm　横56.3cm
　○作品概要　本品は、横山大観記念館において昭和 37 年(1962)に横山大観の真筆として鑑定された作品である。縦長の一枚絹の中央上部に、朱色で日輪を描き、地の部分全体に薄く朱色を掃くことで、陽光が空に映える様を表している。近景には墨の滲みを生かして表す松の並木と寺院とみられる建物を、遠景には淡墨を用いて描いた松を配し、両者に挟まれた虚空に三羽の鶴が舞う姿が描写されている。画面左下の落款の書体は、明治時代末期から大正時代初期にかけて用いられたもので、とりわけ大正4年(1915)に制作された「那智乃瀧」(足立美術館蔵)や「竹雨」(東京国立博物館蔵)などと同様の墨の滲みを生かした水墨表現が認められることから、本品はこの前後に制作された可能性が高い。

＜漆工＞(1件)
7　○名　　称　紅牙撥鏤尺　模造　　1枚
　○時　　代　現代　平成20年(2008)
　○品　　質　象牙製
　○寸 法 等　長30.2cm　幅2.8cm　厚0.9cm
　○作品概要　本品は、正倉院に伝来する紅牙撥鏤尺のうち、北倉 13 甲号を村松親月氏が模造したものである。片面は十区に画し、地を削って表した唐花文と地を染め色のままとして鳳凰、サンジャク、花形の角の鹿、小鳥、鴨などあらわした区画を交互に刻む。裏面は寸界による区画はなく、サンジャク・ヤツガシラ・蓮華上に綬帯を銜えた鴨、花形の角の鹿、鴛鴦、草花を表す。側面には小花文が配される。法量は宝物とほぼ同寸であるが、模造であるために文様の刻線に硬さが感じられること、また北倉 13 甲号では緑と黄の絵具を点彩するが、本品は緑青のみ用いられる点が指摘できる。なお、附属品として手板などの撥鏤資料も寄贈された。

【九州国立博物館】(計27件)

(1) 購入 (27件)

＜絵画＞ (8件)

1　○名　　称　病草紙断簡（侏儒）　1幅
　○時　　代　平安-鎌倉時代・12世紀
　○品　　質　紙本著色
　○寸 法 等　縦26.3　横40.7　cm
　○作品概要　掛幅装。詞書1紙と絵1紙からなり、状態は良好だが全体的に褪色がみられる。軸端は象牙。もとは絵巻の一部であったものが一段ずつに改装され、現在は掛幅装になっている。
画面向かって左に老いた法体の侏儒を、右に侏儒を嘲笑する京の人々を描く。「侏儒」とは並外れて背丈の低い人のことで、本図でも童に比べさらに背丈の低い人物として描かれる。手に数珠と扇を持ち、眉間や目じりにシワを寄せ、歯の抜けた口を大きく開いて右後方を振り返り、嘲笑する人々を威嚇している。頭頂に薄墨を施し、法衣にはわずかに黄味を差す。
薄黄緑の狩衣を着た男性と袈裟をまとった法師は、それぞれ侏儒を指差し嘲笑している。青い衣に頭飾りをつけた茶髪の童と白衣の童は手を叩きながら侏儒を囃し立てている。背景の表現はないが、詞書の記述から京の路上の様子を近接して描いたと思われる。
それぞれ人物の額、容貌、腕、足には肌色を差し、狩衣の下衣にわずかに黄味を入れるなど、繊細な色彩表現が見られる。線描は鋭く勢いがあり、人物描写は闊達である。
なお詞書と絵の料紙には一部切詰がみられるが、掛幅装へ改装された時点では図様や構図に改変がないことが巻子装時の模本により明らかである。また本図には寛政9年（1797）閏7月の古筆了意（1751－1834）の極札、および文政2年（1819）2月の大倉了恵（？-1825）による極札が付属する。
「病草紙」は昭和初期まで1巻15段の絵巻として名古屋の関戸家に伝来していた。このほか断簡5段が現存しているが、これら計 20 段は法量（縦）や品質形状、画面形式が一致することから本来一具を成していたと考えられる。巻子装時に付随していた土佐光貞（1738-1806）の奥書により、1巻および本図が寛政8年（1796）の時点で歌人・大館高門（1776-1839）の所蔵であったこと、またこのとき本図が既に断簡であったことがわかる。
作風をみると、人物の顔貌および形態は一連の「病草紙」の中でも特に「歯槽膿漏の男」や「小舌の男」（どちらも国宝、京都国立博物館蔵）に近似し、このほか「地獄草紙」（国宝、東京国立博物館蔵）や「餓鬼草紙」（国宝、京都国立博物館蔵）にも極めて近い表現を見出すことができる。これらの絵巻は 12 世紀末に後白河法皇（1127-92）のもとで活躍し、「年中行事絵巻」（現存せず）や「伴大納言絵詞」（国宝、東京・出光美術館蔵）を描いたとされる宮廷絵師・常盤光長（生没年不詳）の制作と考えられていることから、本図も同時期に後白河法皇や光長の関与により制作されたものと考えられる。
「病草紙」とは病の症例や治療の様子を集めたものであるが、それは単なる病の症例集ではなく、「地獄草紙」「餓鬼草紙」と同様に六道のうち「人道」を絵画化した六道絵巻の一つであり、因果応報により引き起こされる奇病や不具を記している。近年、その描写内容の典拠として瞿曇般若流支訳『正法念処経』が指摘されており、本図にはその巻七「地獄品之三」の一節（「若於前世過去久遠。有善業熟。不生餓鬼畜生之道。若生人中同業之処。得侏儒身。」ほか）に相当する描写がみられる。しかし「病草紙」では、全段を通じて経典に記述のないモチーフがあり、人間の滑稽さを如実に表現するなど、六道を描出するという観点からは外れる内容、特に弱者への眼差しや都の喧騒などのテーマが多くみられることが指摘されている。本図においても、法体の侏儒が、信仰に身をおく法師ほか老若の人々により嘲笑されており、その内容は後白河法皇が関与した絵巻に見出せる特徴をよく示したものと言ってよい。
本図は断簡ではあるものの、優れた作風は光長様式をよく示しており、内容的にも1巻を成していた「病草紙」それ自体の特徴や、後白河法皇が関与して 12 世紀末期に宮廷で制作された絵巻の趣向をよく伝えており、この時期の絵画を代表する優品である。
　○来　　歴　大館高門、関戸家旧蔵

2　○名　　称　春日宮曼荼羅図　1幅
　○時　　代　鎌倉時代・13-14世紀
　○品　　質　絹本著色
　○寸 法 等　縦68.6　横29.7　cm
　○作品概要　掛幅装。画絹1副1舗。画面は暗く横折れやウキがあり、目の詰んだ画絹や顔料には部分的な損傷もあるが、全体に当初の

図様をよく保つ。軸端（後補）は銅造鍍金である。
本図は、左上の本殿四社とその右上の若宮社を中心とした春日社の景観を主題とする。上辺の春日山・御蓋山から下辺の東西両塔・一鳥居まで社頭を西側から俯瞰的に表し、随所に鹿、満開の桜や梅をはじめ多種の樹木を配し、これらを濃彩で丁寧に描く。
建築に着目すれば、実景に従い南面し右側を向く本殿を回廊が囲み、その南門を楼門と、西三門を四脚門とする構成は、治承 3 年(1179)以降の基本的な殿舎の配置と構造をほぼ正確に描写する。この構成は 30 件以上もの作例が現存する春日宮曼荼羅図の一般的な定型を踏襲するものだが、なかでも新出作品である本図は、一鳥居に榊を取り付ける微小な表現や、西塔の基壇・回廊など建築を破綻なく写す正確な線描を評価すべき一本と考えられる。
その年代については御蓋山の樹法と参道・土坡の彩色が指標となる。御蓋山を多彩な樹種で折り重なるように埋め尽くす描写は、基準作の湯木美術館本（正安 2 年（1300）制作）に共通し 13 世紀後半の様式を留めている。また現状では参道・土坡に金泥が確認できない彩色法は、13 世紀制作の根津美術館本に通じる古い要素と説明できる。そのため本図は、鎌倉時代の 13 世紀末から遅くとも 14 世紀初にかけての制作と考えられる。
小幅であり画絹・顔料の損傷も惜しまれるものながら、本図は現存作例の少なくない春日宮曼荼羅図のなかでも、彩色が丁寧で線描も細緻な古い優品として注目される。
従来の研究により、春日宮曼荼羅図は 13 世紀末から 14 世紀初に構成の定型が成立したことが知られている。本図は、制作推定年代がその成立時期に重なるため、本格的に構成が継承される以前の初期の図様を伝える作例として貴重である。
また用途に着目すれば、春日宮曼荼羅図は法会や春日講での使用も知られるが、とくに小画面で細緻な表現をとる本図は、14 世紀に流行した貴族の邸宅における私的な遙拝儀礼の本尊であった可能性が高い。鎌倉時代には本地垂迹思想に基づく社頭浄土観が隆盛し、春日社の景観を描く絵図は当時の僧侶により此岸の浄土を表すものと説明されたが、このような当時の思潮を象徴する垂迹曼荼羅のなかでも、本図は年代が13世紀に遡る可能性もある優れた新出作品として大いに注目される。

〇来　　歴　井上公爵家伝来

3　〇名　　称　柿本人麿像　1幅
〇時　　代　室町時代・15 世紀
〇品　　質　絹本著色
〇寸 法 等　縦 84.2　横 38.1　cm
〇作品概要　掛幅装。画絹 1 副 1 鋪。目の詰んだ画絹を用いる。一部顔料の剥落と、人物の容貌や袖口などに後世の補彩が見られるが、状態は概ね良好で当初の図様をよく保っている。軸端は象牙。
本図は著色の人物、水墨の山水、描色紙形の 3 つから構成されている。画面下方に、硯箱を前に筆と紙を持ち、上畳に片膝をついて上方を見ながら和歌を思案する人物を描く。萎え装束の烏帽子に直衣姿で、薄い水色の袍には丸文を、白い指貫には盛り上げで唐草文を配す。人物の輪郭線は薄墨線の下描きの上に柔らかな朱線を重ね、衣文は墨と群青を重ねたやや太めで均一な線描を用いる。濃墨で瞳、上瞼、鼻孔、唇の閉じ合わせをひき、淡墨で目元の皺や小鼻を描くなど微細な表現が見られる。上方には水墨による針葉樹の立つ懸崖、霧にかすむ帆舟と湖畔、遠山が広がる。画面上端には、2 つの描色紙形が並び、左方には対角線状に赤と白に塗りわけた地に、金泥で波・千鳥・胡蝶を描き、右方には黄土の地に金泥で梅を描く。いずれも墨書はなく、赤外線撮影によっても見出すことはできなかった。
その姿や持物から本図に描かれている人物は柿本人麿と理解してよく、山水景に描かれる霞や岸辺に隠れる舟などは『古今和歌集』に収録される人麿の代表的な和歌「ほのぼのと明石の浦の朝霧に島隠れ行く舟をしぞ思ふ」に結びつくものと考えられる。
本図は著色の人麿像と水墨山水図を一画面に取り合わせた極めて珍しい作例である。柿本人麿（660 頃-720 頃）は「歌の聖」として平安時代には既に信仰の対象として崇められ、元永元年（1118）には肖像を祀った人麿影供が行われていた。以来人麿像は和歌会や連歌会に欠かせぬものとして中世を通じて数多く制作されており、現存作例は 20 件近くに及ぶ。
人麿像の文献上の初出は、藤原兼房（1004-69）が夢に見た「左の手に紙をもち、右の手に筆を染めて、物を案ずる気色」を絵師に描かせたもの（『十訓抄』）とされる。現存最古の例は、兼房の記述に従う佐竹本三十六歌仙図の人麿像（出光美術館蔵、鎌倉時代・13 世紀）であるが、この他現存作例は、佐竹本と同図様（第一種）のものと、紙や筆を持たずに脇息に身を大きく委ねる図様（第二種）など数系統が存在する。本図はこのうち佐竹本や一蓮寺本（山梨・一蓮寺蔵、鎌倉-南北朝時代・14 世紀）に連なる第一種に属するものである。人物の輪郭にみえる柔らかな朱線と、上瞼の墨線を強調したやや扁平な容貌表現は「足利義満像」（伝飛鳥井雅親賛、重文、京都・鹿苑寺蔵、室町時代・15 世紀初）など室町時代初の人物描写に通ずる。
山水表現に注目すると、「平沙落雁図」（思堪筆、一山一寧賛、個人蔵、13-14 世紀初）に見られるような火花を散らしたような樹木描写に、日本における初期水墨画に通じる表現が指摘できる。また、「山弈候約図」（中国・遼寧省博物館蔵、遼時代・10 世紀後半）などの中国絵画に近い針葉樹や懸崖の描写もあり、朝鮮絵画にはしばしばみられるが室町絵画としては極めて珍しい北宋山水画に通じる要素もみられる。さらに、近景である懸崖より中景の土坡を大きく描くなど遠近表現に一部破綻がみられることなどから、これらについては年代の遡る像主を想起させるために、古様の山水図を意図した可能性がある。
このような伝統的なやまと絵の技法を用いた人物図に水墨山水を取り入れる例は、応永 14 年（1407）制作の厳島神社五重塔壁板（真言八祖と瀟湘八景）にみられる。本図も 15 世紀前半の制作と考えられるが、このような組み合わせ例は極めて少ないため非常に重要な作例であると考えられる。

4　〇名　　称　韃靼人狩猟図　六曲屏風　1双
〇時　　代　安土桃山-江戸時代・16-17 世紀
〇品　　質　紙本金地著色
〇寸 法 等　縦各 157.5　横各 487.8　cm
〇作品概要　屏風装。引き手跡により襖絵より改変したことが明らかである。一部欠損箇所に補紙。全体に顔料の剥落がみられるが、当初の図様をよく保っている。
画題は韃靼人の狩猟の様子と、貴人が行列する様を描いている。狩猟隻は金雲により近景と遠景にゆるやかに大別されており、近景である平地の狩猟場では、弓や槍を構え犬とともに猪や虎、豹を追い立てる騎乗の韃靼人を描く。岩上からは狩場を見下ろし狩猟を見学する貴人の一行が覗き、遠景には雪を被った懸崖がそびえ、その谷間には薄い赤と青で彩られた樹木がみえる。行列隻も同じく金雲により大きく前後に分けられており、先駆に続き後方から傘を差しかけられた貴人と従者による行列が描かれ、遠景には向かって右より第 1・2 扇に韃靼人の居住施設であるパオと川、第 3・4 扇に懸崖、第 5・6 扇に丘陵を配する。
人物は全て大きな鉤鼻に深い小鼻を描き込み、口髭と顎鬚をたくわえる。着衣は強い打ち込みを伴うやや短い線描を重ねて

輪郭を描き、緑や赤で地を塗り分け、上から金泥で文様を施す。馬は臀部が細く胴体に厚みが有り、胸元の筋肉をＹ字状に強調する。岩や山肌は太く硬質な短線により形取られ、皴はやや細めの線描を重ねて表現する。
落款や印章はないが、人物の容貌や樹木、岩の特徴から狩野派絵師による作品と考えられる。
中国の北方異民族による狩猟の様子を描いた韃靼人狩猟図は、南宋時代には既に盛んに制作されていたことが知られる。日本においては室町時代後期から江戸時代初期にかけて流行し、特に権力者の邸内をかざる障屏画などとして好んで描かれたことが文献上明らかで、現存作例も 30 件近くにおよぶ。本図はこのうち、近年新たに見出された作品である。
日本における韃靼人図の文献上の初出は、室町時代・15 世紀後半、足利義政（1436-90）が築いた東山殿会所襖絵で、南宋時代の画家・李安忠(1127-1279)の粉本を基に描かれたものとされる。現存する最古本は、伝狩野元信筆静嘉堂文庫本（6 曲 1 双、室町～安土桃山時代・16 世紀中頃）および式部輝忠筆文化庁本（6 曲 1 双、室町～安土桃山時代・16 世紀中頃）であるが、いずれも紙本墨画淡彩の襖絵を屏風に改変した作品である。
韃靼人狩猟図は先行する図様の繰り返しにより人物や建造物などが定型化しており、近年の研究によると大きく 2 つに分類できる。一つは「文姫帰漢図巻」(1 巻、奈良・大和文華館蔵、明時代、原本南宋時代）など先行する巻子本から図様を取材し、狩猟図隻と打球図隻を組み合わせた静嘉堂本系で、現存作例の半数以上がこれに属し、その大半が狩野派絵師による。もう一つはこの図様に近似しない、狩猟図隻と祝杯図隻を組み合わせた文化庁本系で、これらは式部輝忠のほか雲谷派の作品が多い。本図は狩野派作品ながらも、狩猟と行列を組み合わせたもので、人物についても、現状の限り他作品に見られるような堅固な図様の共有が見られないため、どちらの系統にも属さない極めて珍しい作品といえる。
人物の大きな鉤鼻、小さな口元、輪郭といった容貌の特徴は、狩野永徳（1543-90）一派による天正 14 年（1586）制作の南禅寺本坊大方丈障壁画の一部に近似するが、全体に表情が強ばり肢体が短躯である。また下から上へ向かって突き出すような懸崖や細い皴を繰り返し重ねる土坡、薄い赤と青を用い葉叢の輪郭を描かない樹木表現などは、永徳の弟・狩野宗秀（1551-1601）の伝承がある「韃靼人狩猟・打球図屏風」(6 曲 1 双、アジア・サンフランシスコ美術館蔵、安土桃山時代・16 世紀末）に共通する。しかし容貌表現を比較すると両者には隔たりが見られることから、同一筆者とみなすことは困難であり、本図は 16 世紀末から 17 世紀初にかけて宗秀とほぼ同時期に活躍した狩野派絵師による作品と考えられる。

〇来　歴　岡山・平松家旧蔵

5　〇名　称　九相図　1 巻
〇時　代　鎌倉時代・14 世紀
〇品　質　紙本著色
〇寸 法 等　縦 32.0　横 495.4（第 1 紙 50.0、第 2 紙 49.3、第 3 紙 49.8、第 4 紙 49.9、第 5 紙 49.7、第 6 紙 50.0、第 7 紙 49.7、第 8 紙 50.2、第 9 紙 49.2、第 10 紙 47.6）　㎝
〇作品概要　巻子装。全体に擦れや褪色が見られるが、線描はよく保たれ剥落も少ない。第 1 紙の人物の右側から下にかけて大きく欠損し補紙があてられており、紙継箇所にわずかに本紙を切り詰めた跡が見られる。軸端は象牙。
本図は女性の生前の様子 1 図と、死して朽ち果てる 9 段階の過程の 9 図の計 10 図を描く。詞書や奥書はない。第 1 図は上畳に坐し右手を肩近くまで上げ、右膝を立てて向かって右方を向く女性を描く。垂髪に濃緑の袿と朱の長袴を身に付け、胸前に懸守と思しき朱地金泥の円形物が見える。第 2 図は上畳に横たわり、小松散らし文様の袿をかけた死後間もない女性の遺体を描く。口元がわずかに開きお歯黒が覗く。以降段を追って第 3 図は腐敗がはじまり体が膨脹した姿、第 4 図は目玉が飛び出し体がどす黒く変化する姿、第 5 図は腐敗が進み裂部が広がる姿、第 6 図は内臓が飛び出しウジが湧く姿、第 7 図は水分が飛び骨と皮になる姿、第 8 図は狗や烏に啄ばまれる姿、第 9 図は白骨化した姿、第 10 図は骨が散らばる姿をそれぞれ描く。
いずれも人物を近接して描き、背景をほとんど持たない。やわらかく伸びやかな線描を用いて輪郭線を表す。細かな陰影や時間の経過による亡骸の色変化を、染料や顔料を塗り重ね巧みに表現している。また毛髪や鳥類・狗の毛描き、身体から滲み出る体液といった微細な表現が随所に見える。
九相図とは、屍が白骨化する過程を 9 段階に分け観想する「九相観」を主題とする絵画を指す。九相観とは人体の不浄を強く自覚することで淫欲を滅する修行の一つとされ、中国・六朝時代の鳩摩羅什（350-409）訳『大智度論』、隋の智顗（538-597）『摩訶止観』など多くの教典や経論に説かれている。日本には奈良時代に請来され、平安時代・10 世紀末に源信（942-1017）『往生要集』や伝空海（774-835）『九相詩』の成立により広く流布した。
日本絵画における九相図の文献上の初出は、貞応 2 年（1223）に建立された醍醐寺焔魔堂の九相図壁画である（『醍醐寺新要録』「琰魔堂篇」）。現存最古例は国宝「六道絵」（滋賀・聖衆来迎寺蔵、鎌倉時代・13 世紀）の「人道不浄相」で、本図はこれに次ぐ作例であり、巻子装最古の例として「中村家本」「個人蔵本」の名で知られている。なお中世の九相図はこのほか、九州国立博物館本（室町時代・文亀元年 1501・A56）と大阪・大念仏寺本（室町時代・大永七年 1527）の 2 点が知られるのみである。
本図と聖衆来迎寺本は先行研究において『摩訶止観』との密接な関係が指摘されている。それによると九相は「一脹想」「二壊想」「三血塗想」「四膿爛想」「五青瘀想」「六噉想」「七散想」「八骨想」「九焼想」があり、さらに「八骨想」は 2 種に分けられること、「九焼想」は重視しないことが説かれている。また生前の様子と死後間もない様子についても記述する。本図の構成は「七散想」「九焼想」を欠き、代わりに生前の姿 1 図、死後間もない姿 1 図、および「八骨想」をもう 1 図を加えるが、これは『摩訶止観』本文を忠実に絵画化したことに由来すると考えられる。「七散想」を欠く要因は不明であるが、「九焼想」の欠如や 3 図の追加は聖衆来迎寺本に見られないことから、本図がより『摩訶止観』との関係が深いことが指摘できる。
〇来歴など　東京国立博物館寄託

6　〇名　称　束帯天神像　1 幅
〇時　代　南北朝-室町時代・14-15 世紀
〇品　質　絹本著色
〇寸 法 等　縦 90.8　横 40.7　㎝
〇作品概要　掛幅装。画絹 1 副 1 舗。小さな絹の欠損と大きな折れ等が見られるが、顔料の剥落は少なく当初の図様をよく保っている。なお上辺と右辺にわずかに切り詰めがみられる。軸端は象牙。
画面中央には高麗縁の上畳に坐して左方を向く束帯姿の人物と、髪を美豆良に結う狩衣姿の童子を描く。画面上方に墨書を伴った描色紙形を、下方には梅と若松をそれぞれ生けた華瓶を供える。
中央の人物は垂纓の冠を被り、黒で梅花文を描いた袍に身を包み、太刀を佩き、左手に笏を持ち右手でそれを上から押さえつけている。口元をわずかに開き、大きな眼を見開く。これらは束帯天神像の典型的な特徴である。童子は金泥による文様をあしらった狩衣や袴を身につけ、梅文のついた檜扇を手にする。
画面上方の 2 つの描色紙形には『菅家後集』所収の漢詩「不出門」の一節と、道真ゆかりの「東風ふかば」の和歌をそれぞ

れ記す。白地の色紙形には銀泥で梅樹と胡蝶を、赤地の色紙形には金銀泥で松と胡蝶を描く。
下部に位置する一対の華瓶には雲気文と牡丹唐草文が表現され、それぞれ向かって左に蕾と花弁をたたえた梅の枝を、右に若松の枝を生ける。梅は薄桃色の地に細い白線で花弁の輪郭と花脈、雌しべなど表し、若松は、現在は剥落しているが緑青で天に向かい伸びる針状葉を描く。
なお上巻に永仁 4 年（1296）12 月の年紀と藤原孝久かと読める人名が墨書されている。
束帯天神像と童子像を一画面に取り合わせた唯一の作例である。菅原道真（845-903）の像は信仰の広がりとともに多数制作されたが、童子を伴うものは他に見出せないことから、本図は特別な由緒に基づいて制作されたと考えられる。平安時代末期に成立した「天神縁起」によれば、道真は菅原是善（812-880）邸の梅樹の下に童子姿で化現したとされており、本図の童子が梅文をあしらった檜扇を手にしていることに鑑みると、道真の幼少の姿である可能性が指摘できる。また画面下方の華瓶は像主が礼拝の対象であることを示すと考えられ、この描写も束帯天神像においては極めて珍しい。
その表現に注目して年代を考察すると、張りのある鼻梁線や人物の顔の線描に沿ってわずかに見られる朱の隈などが「聖徳太子童形像・二童子像」（個人蔵、鎌倉時代・13 世紀）などに共通する。また童子のふっくらした顔の輪郭、跳ね上がるような眉、濃墨で引き表した上瞼、朱で彩られた肉厚の唇などの特徴は鎌倉時代に見られるもので、重要文化財「毘沙門天像」（滋賀・実蔵坊、鎌倉時代・13 世紀）の童子像に類似した表現を見出せる。その一方で、平板な太刀の装飾や、冠に見られる水平状の笄や立ち上がるような纓の表現は主に 14-15 世紀の肖像画に散見される。また、顔の輪郭線が一部不自然に太く、立体感表出のための線の描き分けができていないこと、直線的な線描による衣文線など、先行例を写した際にみられるような特徴も見出せる。
このように一画面に複数の時代の要素が並存することについて、上巻墨書が参考になる。永仁 4 年（1296）の年紀は制作時期を示すものではないが、この頃に成立した先行例を南北朝時代-室町時代・14-15 世紀に写したとすれば、複数の時代要素について理解しやすい。天神像が古例に倣う性質は、北野天満宮本（根本御影、南北朝-室町時代・14 世紀）にも見られる。童子を伴い華瓶を備える図様は他に見られないことから、本図は特殊な制作事情を背景に成立した束帯天神像の一例を伝えるものとして極めて重要な意味を持つと考えられる。
なお「騎獅文殊菩薩及脇侍像」（奈良・西大寺、鎌倉時代・14 世紀）の像内納入品である「大般若経」巻 173 に、「正安四年五月廿四日　左衛門尉藤原孝久」の奥書があり、上巻墨書と同一人物である可能性がある。

〇銘文など　本紙色紙形墨書「都府楼纔／瓦色観音寺／只聞鐘聲」「こ地婦か半に本／ひお古勢□梅乃／者那ある思な之と／帝者流をわ寿流な」、蓋表墨書「天神真筆御影」、箱側面貼紙「□京寶物／天神□像」、上巻墨書「自先祖代々相伝□也／永仁四申丙年十二月日　従五位下左衛門尉□／藤原　　」、箱の革紐の一方が欠失している。

7　〇名　　称　山水図　1 巻
〇時　　代　室町時代・15 世紀-16 世紀
〇品　　質　紙本墨画淡彩
〇寸 法 等　縦 19.5 横 549.0（第 1 紙 35.6、第 2 紙 38.0、第 3 紙 38.2、第 4 紙 38.4、第 5 紙 38.2、第 6 紙 38.3、第 7 紙 38.2、第 8 紙 23.9、第 9 紙 39.0、第 10 紙 39.2、第 11 紙 38.7、第 12 紙 38.9、第 13 紙 39.7、第 14 紙 39.9、第 15 紙 24.8）　cm
〇作品概要　巻子装。本紙には擦れやたわみがあり、虫損の跡などに補修もあるものの、全体に線描や彩色は保たれており、図様もよく留められている。軸端は象牙。
この画巻には、4 字の題名が記された 7 つの場面がある。画面は冒頭から、騎驢の一行が芽吹く柳下を歩む「柳□尋春」、花咲く桃の間で酒旗が風に吹かれる「桃崦輕帘」、川沿いの室内で 2 人が対面する「春溪小築」、杖を持つ高士の一行が岩陰から歩み出る「短笻出□」、澄んだ河を渡し船が進む「清溪晩渡」、竹薮の中に 2 棟の屋根がのぞく「竹嶋幽房」、旅人が中腹の関所を目指す「山腹南關」で構成されている。このうち第 7 紙と第 8 紙の継ぎ目つまり「短笻出□」と「清溪晩渡」の間には不自然に図様が途切れる箇所があり、また第 8 紙が短く紙継ぎに乱れがあるため、ここには場面の欠失があると認められる。
その表現は人物の持物や季節を示す植物の成長までを細やかに描出する優れたもので、丁寧な筆致と茶と青が基調の明るい彩色を特徴とする。狩野安信の極書から、周文の後継者として足利将軍家の御用絵師となった小栗宗湛(1413-1481)筆の伝承を持つ作品として知られている。
室町時代に高く評価された南宋時代の画院画家・夏珪の様式にならう山水図巻である。夏珪の作品は足利将軍家の中国絵画コレクションのなかでも特に重視され、室町水墨画のモデルとしての役割を果たしたが、本図でもモチーフの描法や画面の構成法にその影響をみることができる。本図の全体的な図様は、伝雪舟筆山水図巻模本（個人蔵）に、冒頭の二場面は雪舟筆山水図巻（重要文化財、京都国立博物館蔵）に共通することから、この山水図巻は当時流布した夏珪様山水図の典型的な図様を伝えており重要である。
その作者・年代は、丁寧な細筆と明るい淡彩が足利将軍家の同朋衆・芸阿弥(1431-1485)の画風に通じ、やや遅れる時期の画風を示すことから、15 世紀末から 16 世紀初にかけて京都の画家により制作されたと考えられる。日本では画巻形式の山水図は現存作例が少なく、最も古い室町時代の 1500 年を前後する時期の作品も 6 件を数えるのみで、本図はその貴重な一本と位置付けられる。このうち未指定の本図を除く 5 件は全て国指定品であり、本図もこれらに類した絵画史的な意義を与えられると考えられる。
〇銘文など　本紙に墨書「柳□尋春」「桃崦輕帘」「春溪小築」「短笻出□」「清溪晩渡」「竹嶋幽房」　「山腹南關」

8　〇名　　称　葡萄図　六曲屏風　1 隻　李蔭庭筆
〇時　　代　朝鮮　朝鮮時代・17 世紀-18 世紀
〇品　　質　紙本墨画淡彩
〇寸 法 等　縦 128.4　横 205.6　cm
〇作品概要　屏風装。経年による本紙の汚損などはあるが、状態はおおむね良好である。
駆け抜けるように伸びる葡萄を、墨一色で描く。その幹では、輪郭や節目が擦れた濃墨で線描されており、動勢が強調されている。これに対し枝や葉、果実は、没骨技法による輪郭線のない墨面で表現されている。とくに葉と果実では赤味と青味のある 2 種類の墨が用いられ、墨面の濃淡の対比や縁取りに地色を残す描法によって、モチーフの表裏や重なり合いが表されている。その墨色の階調を微妙に、ときに大胆に変化させる墨面は、幹の存在感のある墨線と見事に呼応している。つまり本図は、墨線と墨面とに主眼をおく 2 つの水墨技法を自覚的に区別して用い、これらを巧みに融合して画面を形作っていると説明することが出来る。　屏風装。引き手跡により襖絵より改変したことが明らかである。一部欠損箇所に補紙。
西域からもたらされた葡萄は東アジアでも美術工芸の意匠として盛んに造形され、とくに朝鮮では水墨画の主題として好まれた。本図は、このような朝鮮絵画の葡萄図を代表する出来映えの優品であり、現存作例の少ない屏風などの大画面の 1 本として貴重である。
作者の李蔭庭は詳しい伝歴が知られず、年代も落款からは「癸卯」である以上のことは判明しない。その動勢の表出に注目

して年代を考察すれば、本図は、大らかな動きの枝が優美な表現をとる李継祜(1574-1646 以降)の葡萄図（韓国・国立中央博物館、大和文華館）よりも形態自体の面白さを追求していることから、17 世紀後半以降の制作と考えられる。しかし枝や葉の動勢が停滞し形式化が進む傅氏筆葡萄図（個人蔵）など 18 世紀の作例と比較すれば、本図はより明快で力強い表現をとり、高度な水墨技法をも駆使しているため、年代が遡ると思われる。基準作がなく確定は難しいものの、その制作は 17 世紀後半から 18 世紀初頭にかけてとみなすのが妥当と考えられ、落款の「癸卯」は朝鮮・顕宗 4 年(中国・康熙 2、1663)または景宗 3 年(雍正元、1723)に相当する可能性が高いと思われる。

○銘文など　「逢時青換紫得意苦来甜／歳次癸卯荷月摸倣晋人筆法／於綵美書屋／澤軒李蔭庭」

＜書跡＞（3 件）

9　○名　　称　大般若波羅蜜多経　春日版　3 巻
○時　　代　鎌倉時代・13 世紀　弘安 8 年(1285)
○品　　質　紙本墨刷
○寸 法 等　巻第二十七　表紙　縦 26.7 横 21.0、本紙　縦 26.7 横　第一紙目 40.1、第二紙目 43.4、第三紙目 43.4、第四紙目 43.2、第五紙目 43.3、第六紙目 43.4、第七紙目 43.2、第八紙目 43.5、第九紙目 42.5、第十紙目 41.5、第十一紙目 43.2、第十二紙目 43.3、第十三紙目 43.3、第十四紙目 43.3、第十五紙目 43.2、第十六紙目 43.2、第十七紙目 43.3、第十八紙目 43.4、第十九紙目 43.0、第二十紙目 43.5、第二十一紙目 43.2、第二十二紙目 9.7　全長 934.1、
巻第五十六　表紙 縦 26.9 横 20.3、本紙　縦 26.5 横　第一紙目 43.3、第二紙目 44.0、第三紙目 44.0、第四紙目 43.9、第五紙目 43.9、第六紙目 43.7、第七紙目 43.9、第八紙目 43.8、第九紙目 43.9、第十紙目 43.8、第十一紙目 43.8、第十二紙目 43.8、第十三紙目 43.8、第十四紙目 43.2、第十五紙目 43.9、第十六紙目 43.6、第十七紙目 43.7、第十八紙目 43.5、第十九紙目 43.7、第二十紙目 43.5、第二十一紙目 41.5、第二十二紙目 38.5　全長 975、
巻第二百二十　表紙 縦 26.3 横 22.3、本紙　縦 26.4 横　第一紙目 40.4、第二紙目 43.9、第三紙目 43.8、第四紙目 44.2、第五紙目 44.0、第六紙目 43.6、第七紙目 44.3、第八紙目 44.2、第九紙目 43.8、第十紙目 43.9、第十一紙目 43.8、第十二紙目 43.8、第十三紙目 43.5、第十四紙目 44.0、第十五紙目 44.0、第十六紙目 43.8、第十七紙目 43.7、第十八紙目 43.8、第十九紙目 30.0　全長 838.8 表紙 縦 27.9 横 11.5、全長 788.3　cm
○作品概要　巻子装、よく打紙を施した黄檗染め本紙料紙を紙継ぎし、焦茶色に刷毛染めした紙表紙を付ける。表紙には外題が打付け書きされるが、巻第二十七では後半部が後補、巻第五十七はほとんど欠失している。八双は巻第二十七、および巻第二百二十の欠失した残り半分は原装の可能性がある。軸は合せ軸で軸首は朱頂黒漆塗頭切軸。巻緒は欠失する。1 紙長は 44cm 程度。本紙紙数は、巻第二十七は 22 紙、巻第五十六は 22 紙、巻第二百二十は 19 紙。1 行 17 字詰、1 紙 22-23 行。経典の文字は春日版の特色である濃い墨色で摺刷されている。本文には全巻を通して朱で句点が打たれている。三巻とも首尾完存している。裏打ちは無い。全巻を通じて虫孔がみられる。
春日版は我が国を代表する版経であり、興福寺所蔵の板木と版経の一部は重要文化財に指定されている。平安時代後期から奈良・興福寺で印刷された経典で、最古の紀年銘があるのは寛治 2 年(1088)の刊記がある「成唯識論」巻第十である。大般若波羅蜜多経のうち最初に開版されたものを嘉禄版といい、貞応元年(1222)から嘉禄 3 年(1227)に開版された。需要の多かった大般若波羅蜜多経は、その後も傷んだ板木を何度も補刻しながら、摺刷が続けられた。
本経は嘉禄版大般若波羅蜜多経が開版された時期と比較的近い弘安八年(1285)に橘乙女を願主として摺刷されたことが奥書によって特定できる。形態は、当初からの巻子装のままでのこっており、表紙、軸も原装である可能性が高い。裏打ちも施されていないので、料紙の質感をよく知ることができる。
　大般若波羅蜜多経は玄奘が訳した般若経典群の集大成で全 600 巻からなる。
○奥書など　巻第二十七刊記「為養母妙観離苦得脱奉彫之／佛子覺融」、奥書「弘安八年七月日願主橘乙女」、巻第五十六刊記「比丘尼阿弥陀佛」、奥書「弘安八年七月日願主橘乙女」、巻第二百二十刊記「尼覺念」、奥書「一校了」、「願主比丘尼善阿弥陀仏／橘乙女也」

10　○名　　称　大般若波羅蜜多経　巻第 379　東大寺八幡宮経　1 巻
○時　　代　鎌倉時代・寛喜元年(1229)
○品　　質　紙本墨書
○寸 法 等　表紙　縦 26.2 横 21.5、本紙　縦 26.2 横　第 1 紙 50.0、第 2 紙 52.2、第 3 紙 51.9、第 4 紙 52.0、第 5 紙 52.0、第 6 紙 52.1、第 7 紙 52.0、第 8 紙 51.7、第 9 紙 49.6、第 10 紙 50.1、第 11 紙 50.1、第 12 紙 50.0、第 13 紙 50.1、第 14 紙 50.1、第 15 紙 50.0、第 16 紙 49.9、第 17 紙 49.9、軸付紙 1.6　cm
○作品概要　巻子装。濃紺に染めた表紙には金銀箔砂子を横に撒き、外題は銀泥で書いた複郭内に金字で「大般若経巻第三百七十九」と打ち付け書きする。見返しには白地に銀小箔を散らす。よく打紙を施した黄檗染め本紙料紙を紙継ぎする。軸木は 1 本軸で梵字 17 字を墨書し、天地逆に付けられている。軸首は鍍金撥形の金銅軸。首尾完存する。1 紙長は 50cm 程度。本文料紙紙数は 17 紙。第 2 紙での計測では 1 行 17 字詰、1 紙 28 行、界高 20.0、10 行界幅 18.7、上欄 2.8、下欄 3.3。経典の文字は濃い墨色で線の太さの変化が大きい。校合の跡がある。全巻を通じて虫孔が有るが補修されている。
○奥書など　奥書「一交了/奉施入　銭百文　佛阿弥陀佛　南野田/寛喜元年六月十五日」。本紙料紙各紙背に「東大寺八幡宮」(朱文複郭長方印)の黒印各 1 面有り。本紙料紙各紙背に「永観文庫」(朱文単郭方印)の朱印各 1 面有り。本紙料紙第一紙から八紙紙背に花押各一面有り。箱蓋表と表紙にラベル「永観文庫」「2A/23」各 1 枚有り。

11　○名　　称　重要文化財　馮子振墨蹟　与放牛光林語　1 幅
○作　　者　馮子振（1257-1327？）
○時　　代　中国 元時代・14 世紀
○品　　質　紙本墨書
○寸 法 等　縦 33.4　横 88.7　cm
○作品概要　掛幅装。三段表具で一文字風帯には紫印金、中廻には紺地二重蔓牡丹金襴、上下には茶絣を用いる。本文は、行書体で揮毫する。全 15 行。落款印を 3 顆捺す。軸端は象牙。作品の状態は概ね良好である。のちの修理で施された折伏せは多数確認されるが、明らかな入墨等は肉眼では確認できない。筆致や筆勢が細部まで看てとれ、馮子振の書風をよく伝えている。
馮子振は、字は海粟、号は怪怪道人といい、現在の中国湖南省の出身。元時代の官吏として、官は集賢待制史に至り、また、元時代を代表する文人の一人として著名である。その人物は、天下の書で知らないものは無いと言われるほどの博識強記で、溢れる才気に恵まれたと伝えられる。その詩には、味わいの深さと文章の見事さに定評があり、古来、書家としてよりもむしろ詩人として名を遺している。
ところで、人物理解のみならず馮子振の書を理解する上でも見過せないのは、彼の禅林との交流や禅学への深い造詣である。参禅の師と仰いだ中峰明本（1263-1323）や語録に序を寄せた古林清茂（？-1329）、およびそれぞれの会下の僧との交流が

知られ、そのなかには日本僧も含まれる。彼らとともに日本に持ち帰られた詩や語の存在は、当時の禅林における馮子振の面目を伝える一次史料としても大変貴重だが、わが国では墨蹟に等しく尊重され伝来した事実も見逃せない。具体的な作品を挙げると、豊前国の出身で、中峰明本に参じ、建仁寺、顕孝寺（筑前）、聖福寺（筑前）、南禅寺などの住持をつとめた無隠元晦（？-1358）に係る「与無隠元晦詩」（国宝、東京国立博物館蔵）および「与無隠元晦語」（重要文化財、五島美術館蔵）、また、　古林清茂に参じ、花園上皇の帰依を受け長福寺（山城）の開山で知られる月林道皎（1293-1351）に係る「保寧寺賦跋」（重要文化財、東京国立博物館蔵）が現存する。これら以外の馮子振の遺墨として、北宋の易元吉の『草虫画巻』に賦した「画跋」（国宝、常盤山文庫蔵）が知られ、付属の書状から千利休が「海道人墨蹟」として愛蔵していたことが分かる。その他の遺墨として、清朝末期まで中国に伝わり大正時代に日本にもたらされた「居庸賦」（個人蔵）がある。

○釈　　文　「日本僧、自号林放／牛。冲泊静閑、意／趣不苟。方当梅子熟／於呉苑、瞻匐香於／蘇台、緑野微茫／青山嬾散。放牛、此際、／以古鉢為芳草、以壊／衲為眠簑。他日、露地／驀牽蔗園、依旧／還尋舶絵、不駕鞍／騎。鈍鉄吹毛、償他／舐犢。至是時臥取／明月、吸他清風、三／界外、別有町■（田＋童）在。／海粟老人／（朱文方印「子振」）（白文方印「海粟」）（朱文方印「怪々道人」）

○来　　歴　疋田家…矢倉家…福井恒斎一個人

＜彫刻＞（1 件）

12　○名　　称　銅造観音菩薩立像　　1 軀
　　○時　　代　中国　隋時代・6-7 世紀
　　○品　　質　銅鋳造・鍍金
　　○寸 法 等　総高 36.7　像高 23.8　cm
　　○作品概要　菩薩形立像。単髻を結い、頭上正面に唐草文を基本とする頭飾を戴く。頭髪毛筋は正面髪際のみ表す。耳璫を着ける。後頭部背面中央に光背支持用の角枘を造り出す。三道をあらわす。僧祇支、裙、天衣を着ける。僧祇支は左肩から右腋にかけて衣端が見え、その衣縁に帯状の縁取りを表す。裙は一段折り返し、上部には腰帯を表す。天衣は両肩に掛かって両腕内側を垂下し、衣端は蓮華座外側に掛かる。装身具は胸飾（基本帯紐、珠）、瓔珞（帯紐、珠）、腕釧（紐）を着ける。瓔珞は右肩から左膝下外側へと斜めに掛かる。左腕は垂下し、手首を外側に強く曲げ、第一・三・四指で蓋付きの水瓶を掴み持つ。右腕は強く屈臂し、右肩外側で第二指を立てながら柳枝を持つ。背面全体を扁平に処理し、着衣や衣文は線刻で表す。背面から側面にかけては角張った面取りをする。やや腰を右にひねり、左脚をわずかに遊ばせて立つ。蓮華座上面は中心でややふくらむ。
銅鋳造。頭躰及び後頭部光背支持用枘、蓮華座を含んで全容を一鋳する。髻後方の後頭部上方部に一箇所と裙裾底面の背面部一箇所に、中空部と連結する不整形の開口部がある。中型土はほぼ像内に残存する。鍍金は頭飾より後方の頭髪部から背面頸部にかけてを除く全面に施される。彩色は認められない。
保存状態は、左手第二指付け根より先、右手第一指付け根より先と柳枝の先、後頭部光背支持用枘、天衣両先端（足首付近より蓮華座に至る部分）が欠失。反花以下の四脚台座は後補。
やや腰をひねって立つ姿を両手の動きと相まって的確に捉えている。装身具は大ぶりかつ豪華であり、背面の造形を扁平に処理するなど、中国・隋時代の金銅仏の特色がよく表れている。

＜陶磁＞（6 件）

13　○名　　称　朝鮮唐津水指　唐津　　1 口
　　○窯・制作地等　　唐津
　　○時　　代　江戸（桃山）時代・17 世紀
　　○品　　質　陶器
　　○寸 法 等　高 15.8 口径 9.1 底径 11.1 最大径 22.8　cm
　　○作品概要　叩き成形の水注形手付の水指。底から腰部へと広げながら立ち上がり、側面は口縁に向かって僅かに開いた円筒形となる。肩で直角に折れ、蓋受けのある口縁とする。捩った二本の粘土紐を肩から腰部に貼り付け把手とする。注口はたたら成形で、胴部の中央よりやや上方に付け、直角に近い角度で上方へと折れ曲がり、端部はやや開き気味となる。注口内部には詰め物がされ、端部にわずかな欠損があり、漆によって修理されている。
内面から外面上半分は黒褐釉が施される。下半分は藁灰釉を掛け、腰から底部にかけては釉を拭い取る。中央部分には釉の掛け外しが生じている。肩部分に一ケ所、焼成時の熔着跡がある。
唐津窯は朝鮮半島の陶工によって 16 世紀末に開窯の西日本を代表する陶器窯。畿内との結び付きが早くからあり、茶の湯の隆盛に対応し、桃山茶陶を作り出している。黒と白の釉薬を掛け分ける技法は朝鮮唐津と呼ばれ、畿内での片身替の装飾の流行に対応したもの。唐津や高取で行われ、唐津の藤川内窯で優品が多く作られている。
この作品は朝鮮唐津水指で典型的な一重口でなく、本来は茶陶の水注として作られたもの。これが水指として取り上げられてきた。昭和 9 年の藤田伝三郎旧蔵品の売立の際の『香雪斎蔵品展観図録』に、「朝鮮唐津横手水指」として掲載されている。

14　○名　　称　絵唐津草文壺　唐津　1 口
　　○窯・制作地等　　唐津
　　○時　　代　江戸（桃山）時代・17 世紀
　　○品　　質　陶器
　　○寸 法 等　器高 14.3 口径 11.6 底径 8.1 最大径 18.7　cm
　　○作品概要　右轆轤の成形による壺。肩に張りのある算盤玉形とし、頸部は短く立ち上がる。腰部より下方を左回転の篦削りで調整し、高台を削り出す。高台とその周辺は露胎として全体に黄灰色を呈す藁灰釉を掛ける。茶色から黒褐色の鉄絵で大型の草文を 2 ヶ所、小型の草文を 1 ケ所描く。胎土の鉄分が吹き出し施釉部分では斑点状となる。高台端部は古い欠損が 5 ケ所ある。口縁から腹部に縦に走るヒビ割れが 4 ケ所、内 2 ケ所は漆と金繕いで補修する。口縁内部に 1 ケ所、金繕いがある。口縁端部に石ハゼが 1 ケ所、鉄絵の剥落が 3 ヶ所ある。
絵唐津は唐津窯で 16 世紀末に始まる下絵付の技法で、美濃窯の志野とともに日本で最初の下絵付の焼物である。叩き成形ではなく、轆轤成形で作られる茶算盤球形の壺は絵唐津を代表する器種のひとつであり、落ち着いた色調と素朴な鉄絵に対して高い評価を与えられている。茶の湯の水指として用いられることも多く、この壺もやや小振りであるが近代以降は水指としても用いられている。

15　○名　　称　擂座双耳水指　唐津　1 口
　　○窯・制作地等　　唐津･甕屋の谷窯

○時　　代　　安土桃山-江戸時代　17 世紀
○品　　質　　陶器
○寸 法 等　　高 18.7　口径 12.2-12.5　最大径 20.9　(底径)15.5　　cm
○作品概要　　叩き成形で 3 足と双耳を付けた水指。底部は円形。三方に粘土塊による足を付ける。ほぼ中央に「逆 L 字」を浮き出させている。外に開き気味に立ち上げて腰部とし、櫛目状の凹線を施す。胴は内湾気味に立ち上げ、左上がりの螺旋状に 8 条の凹線を刻み、11 箇所で内に押し窪める。明確な稜線をなして肩とし、内に絞りながら立ち上がる。ここにも左上がりの螺旋状の７～８条の凹線を巡らし、扁平の粘土板をたわめて両端を貼り付けた双耳を付ける。そこで横に水平に開いた後に、直に立ち上げ、再び水平に絞り、側面には櫛目状の凹線を巡らし、半面に７つの擂座を貼り付ける。口縁は僅かに膨らみを持って直に立ち上げ、端部を水平とした後に下に折れ、緩く内側に伸ばして蓋受けとする。内面で胴部の裏側部分に叩き成形の際の青海波文が残る。
胎土は鉄分を多く含み、口縁蓋受け端から底部まで灰釉を施釉して黄褐色から茶褐色の色調を呈し、正面と正面右側、背面右側に鉄釉を流し掛けた部分は飴釉状の透明感のある暗褐色となる。口受け端部に４箇所小さな欠損がある。
唐津は東日本の瀬戸･美濃に対して西日本を代表する陶器窯で、九州･山口に展開する朝鮮半島系の窯の中でも最も古い歴史を持つ。朝鮮半島系諸窯の中で、唐津は桃山期の和物茶陶の創造で最も大きな役割を果たした。この水指は桃山茶陶の造形が最も力強く展開した時期の典型的な作例である。底に記された「逆 L 字形」の浮印から、唐津で甕屋の谷窯の作であることが分かる。

16　○名　　称　　文琳茶入　銘　薩摩文琳　薩摩　1 口
○窯・制作地等　　薩摩
○時　　代　　江戸時代･17 世紀
○品　　質　　陶器
○寸 法 等　　高 7.4　口径 2.3　胴径 7.4　底径 3.0　cm
○作品概要　　文琳形の茶入。鉄分を含んだ緻密で粘り強い素地。轆轤成形で底部から開きながら立ち上がり、ゆったりとした膨らみをたたえて胴部で最大径とした後にゆっくりと絞って、総体が林檎状の形となる。細い頸部を直に立ち上げ、端部に丸みをもたせてわずかに外に開いた口縁となる。底部は左糸切が残り、腰部分は丁寧な削り調整を施す。内面は露胎、口縁内側から腰にかけて透明感のある茶褐色釉を施し、藁灰釉が上方に掛けられ、一方で釉際まで垂れて景色となる。底部に指大の釉痕あり。口縁の約 3 分の 1 が割れたものを接合、補彩している（CT 検査による）。内部に茶粉付着する。
薩摩は朝鮮半島から渡来した陶工によって九州･山口に開かれた窯のひとつ。薩摩の作種で、茶入はとりわけ評価が高い。本作は文琳形薩摩茶入の代表作であり、唐物茶入にならった和物文琳茶入としても、最も優れた作行のもの。本作は元薩摩藩主島津公爵家の昭和 3 年の売立て出品作で、島津家に伝来したものである。島津家の茶道具については『要用集　三』の「御数奇屋御道具之事」という江戸期の文献があり、「一　薩摩文琳御茶入一箇　但国分様御所持之由」が、この茶入である可能性が高い。
○来　　歴　　薩摩藩主島津家。（昭和 3 年売立）東京国立博物館寄託

17　○名　　称　　薩摩切子　三段重　1 合
○作者・制作地等　　薩摩
○時　　代　　江戸時代・安政 2-6 年(1855-59)
○品　　質　　紅色被せガラス
○寸 法 等　　総高 12.4 最大径 10.3 蓋高 3.0 上段高 3.8 中段高 3.8 下段高 4.1 径 10.0　下段底径 10.0　上・中段底径 9.3　蓋填め込み部径 9.1 同高 0.8　cm
○作品概要　　透明ガラスはわずかに黄色味を帯びる。上段、中段は同形で、下段のみ器高が高い。透明ガラスに紅色ガラスを被せ、底部は外側を複弁 16 弁にカットする。側面は透明の縦筋により 6 区画に区分し、上・中段は 4×4 の斜格子、下段は 5×5 の斜格子にカットし、それぞれの紅ガラスをボブネイル 8 菊にカットして装飾とする。ほぼ低い円筒形で、下段の底部はほぼ平たく、端近くでゆるく立ち上がる。内底面はやや張り出し、屈曲するように内側面となり、内側にゆるやかな曲線を持ちながら上方に立ち上がり、口縁端部は角丸の水平となる。上・中段も基本的に同様の造形だが、底部と側面の繋ぎ部を重ねのために削り込んでいる。蓋は填め込み部を持ち、上面は八角星と対面する頂点を結ぶ線をカットし、それぞれの区画を三角錐状にカットする。八角星の外側部分の三角形はカットにより 4 つの三角形に区分する。側面は身と同様に 6 区画に区分し、3×3 の斜格子で一段の装飾を巡らす。状態 蓋：上面に 3 箇所の欠損あり。側面に 2 箇所、小傷があり。身：あまり傷は目立たないが、下段の底部は全体にスレがある。
薩摩のガラス製造は、第 10 代薩摩藩主島津斉興の時、弘化 3 年(1846)に江戸の硝子師四本亀次郎を招聘して始まった。嘉永 4 年(1851)、斉彬が第 11 代薩摩藩主となって殖産興業政策を進めて急速に発展、同年に紅ガラスの製造を開始し、安政 2 年(1855)には集成館でのガラス製造が始まっている。安政 5 年(1858)斉彬の死により急速に衰え、明治 4 年(1871)版籍奉還で集成館が廃止され終焉を迎えている。この三段重は、箱蓋裏に「薩摩國主島津齊彬公／安政年間手製」とあるように、薩摩切子の全盛期である安政 2-6 年(1855-59)の作と考えられる。薩摩切子の基準作には薩摩藩主であった島津家所蔵の作品群がある。この作品は、現在尚古集成館に所蔵され、大正 10 年(1921)、島津家本邸で開催の「薩摩硝子陳列会」に「紅色(漸赤色)丸三重鉢」として出品の作品と同種であり、薩摩切子の代表作に位置づけられる作品である。

18　○名　　称　　薩摩切子　栓付瓶・杯　1 具
○作者・制作地等　　薩摩
○時　　代　　江戸時代・安政 2-6 年(1855-59)
○品　　質　　ガラス
○寸 法 等　　瓶高 21.4 口径 4.5 底径 5.7 最大径 9.6 蓋高 6.5 最大径 5.3 盃高 4.4 口径 7.6 底径 3.0　cm
○作品概要　　瓶：紅被せガラス。透明ガラスは黄色味を帯びる。胴部を円筒形とし、肩で一気にすぼめて鶴頸状とし、開いて口縁とする。底部の一部から胴部全体、さらに肩のやや上まで紅色ガラスを被せる。底部に 3 箇所紅色ガラスが付着する。底部は水平で、端部を明瞭としながら、広く開いて腰となり、屈曲して胴部とする。腰部はカットして、胴部との区切りとする。胴と肩の区切りは太い一重の削り込みを施し、頸部に向けて三重の削り込みを加える。胴部は 10×10 の斜格子で区切る。3 段の菱形は無文だが、中央を横にカットし、上下 2 つの三角、中央 2 つの菱形となる部分は、細かな斜格子で魚子文にする。頸部は 5 段の亀甲状の面取を巡らす。胴部中心に全体に白斑が現れる。口頸内部に蓋によるスレ跡あり。
蓋：瓶に比べてやや青みを帯びた透明度の高いガラス。上部は複弁 12 弁を放射状にカットする。
杯：紅色被せガラス。透明ガラスはやや黄色味を帯びる。底部は小さくほぼ水平で、丸く立ち上がり、一段上でさらに大きく広がる。底面は 8 菊にカットする。腰部は 2 条のカットを巡らす。側面は太いカットで 9 区画に区分し、それぞれに 3 条

のカットを施す。口縁に 1 ケ所欠損あり。表面全体に白斑が現れる。
○来　　歴　渡邉千秋旧蔵

＜漆工＞（4 件）

19 ○名　　称　屈輪堆黒払子　1 本
○時　　代　中国　南宋時代・13 世紀
○品　　質　木製漆塗
○寸 法 等　全長 51.2　軸長 14.8　径 2.0　cm
○作品概要　軸を彫漆の技法で飾った払子。軸は中央部がふくらんだ形に造り、地の黄漆に加えて、朱・黒などの色漆を何層にもわたって塗り重ねている。文様は、亀甲文のうちに屈輪文を彫りあらわしたもので、全体に大変精細な彫技をみせる。軸の上端には、獣毛とみられる毛を取り付け、取り付け部は黄紐を丸く組んで覆う。軸の下端には、後世につけられた紐がついている。
南宋墓などから出土した類品も知られているが、このように払子としての当初の姿をとどめて伝世している作例はなく、甚だ貴重である。また、軸部は朱色、黒色の漆を 15 層にも薄く塗り重ねて文様を彫りあらわしており、南宋独特の繊細な彫技の特色がはっきりとあらわれている。

20 ○名　　称　蒲公英蜻蛉堆朱合子　1 合
○時　　代　中国　南宋時代・13 世紀
○品　　質　木製漆塗
○寸 法 等　径 7.7　高 2.4　cm
○作品概要　丸形、印籠蓋造の合子。蓋甲が平らかな、いわゆる一文字形を示す。朱、黄、緑などの色漆を塗り重ね、蓋には、蜂、蜻蛉、蒲公英の文様を、また、側面には、雷文繋の文様を彫りあらわす。身の内および底は、透漆が塗られ赤褐色を呈する。
多色の漆を塗り重ねて彫りあらわした文様は、文様それぞれに彫法を変えることで異なる表現を見せており、南宋時代の完成された彫技の特色をはっきりとあらわしている。小型の作品ながらも見所が多く、まことに貴重な存在といえる。

21 ○名　　称　蓮華堆黒盆
○時　　代　中国　南宋時代・13 世紀
○品　　質　木製漆塗
○寸 法 等　縦 11.1　横 22.0　高 2.1　cm
○作品概要　長方形の小形の盆。口縁は太めの縁をつけ、高台は低く幅広の高台とする。見込は、黒・朱の漆を塗り重ねて、彫漆の技法で、中央に二つの蓮華と蓮葉を、四隅に菊、椿、牡丹、薔薇をあらわす。地は朱漆塗とする。裏面は、黒・朱の漆を塗り重ねて、唐草文を彫りあらわす。なお、見込や底面には、塗膜の割れなどがみられ、後世修理が認められる。
本作品は、低い高台や幅広の畳付など、宋時代の彫漆器の特徴がみられ、数少ない南宋時代の作例として貴重である。また、見込にあらわされた花弁草花文は、小さな画面を有効に使って伸びやかに生き生きと描かれており、デザイン力の高さをはっきりと示している。これと同趣の作例は、「花鳥堆黒長方盤」（ボストン美術館蔵）などわずか数例しか知られておらず、まことに稀少なものといえる。なお、高台内に刻まれた「張成」は元時代の彫漆の作家で、後銘と指摘されている。同じく「項墨林」は明時代の書家、画家で、収蔵家としても著名であった。
○銘文など　高台内針刻銘「張成造」、「項墨林家蔵」

22 ○名　　称　後赤壁賦堆朱盤　1 枚
○時　　代　中国　南宋時代・13 世紀
○品　　質　木製漆塗
○寸 法 等　径 34.2　高 5.0　cm
○作品概要　やや大ぶりな丸形の盤。厚手の口縁をもち、低い高台をそなえる。全体に黄漆の上に朱漆を塗り重ね、彫漆の技法を用いて文様をあらわす。見込中央には、楼閣や、船遊びをする人物などがあらわされ、上部には「後赤壁賦」、中央の岩部に「赤壁」、左の岩部に「是歳十月之／望歩至雪堂／将帰于臨皐／二客従予過／黄泥之坂」の文字があらわされる。見込の周囲には、菊、梅、蓮などの花弁文が、裏面にも同様に花弁文が配され、高台には七宝繋ぎ文があらわされる。
本作品は、北宋時代の文人、蘇軾（1036-1101）が詠んだ「後赤壁賦」を意匠の典拠としている。見込上方には、「後赤壁賦」の 4 字、見込左中央には賦の冒頭「是歳十月之／望歩至雪堂／将帰于臨皐／二客従予過／黄泥之坂」が刻されている。なお、「歩至雪堂」は通行では「歩自雪堂」である。見込左中央には、書斎（雪堂）前の蘇軾一行、その上方には肴を手に住居である臨皐亭に戻る場面が描かれる。見込下方には、長江の景観を眺めるため船に乗り込む一行、そのやや上方の岩には「赤壁」の文字があらわされる。また、見込上方には、眠る蘇軾と、夢にあらわれる道士が描かれる。つまり、見込の図様は、「後赤壁賦」の各場面を取り出してあらわしているが、場面の順や実際の位置関係は勘案されておらず、意匠にあたってアレンジがなされている。
「前・後赤壁賦」をモチーフとした作品は、絵画や工芸など数多く知られているが、この作品は彫漆器の作例としては最古に位置づけられるものである。また、同時代に制作された、同型の彫漆器は他に 3 点が知られるのみであり、そのなかでも堆朱で飾られた作例は本作品が唯一である。文様は宋時代の様式を反映して、総じて細密で彫技も優れており、保存状態もよい。ゆえに、本作品は、南宋期彫漆の代表作としてきわめて貴重である

＜考古＞（1 件）

23 ○名　　称　彩漆盤　元始四年銘　　1 口
○作者・制作地等　　蜀郡西工
○時　　代　前漢・元始四年（後 4 年）
○品　　質　彩漆丸盤
○寸 法 等　口径 26.8　底径 11.1　高 6.7
○出土地　伝 朝鮮楽浪古墓
○作品概要　素地は布着せの夾紵胎とする。器壁は黒漆により上塗りする。内面中段は朱漆塗りとする。円形の平高台からやや外湾して胴部が開き、胴部の下 3 分の 1 ほどで稜をもち屈曲し、頸部に向かって直線的に外方へ立ち上がる。口縁は断面方形を呈する平縁口縁で、金銅製の覆輪をもつ。胴部外面には雲気文を漆画し、内部を朱と青で塗彩する。胴部内面には変形夔鳳文を漆画する。内底面には鋸歯文、菱形文、円形文が輪状に巡る。その中を流雲文によって 3 区画し、それぞれ内部を朱と青で塗彩する。各々に熊形の三獣文を漆画し、朱と青で部分的に塗彩する。口縁底部に 62 字からなる銘文を錐書し、制作年、制作地、製品規格、技術種目と参与工人名、監督官と官人名を記録する。器壁が一部変形し、口縁部から胴部にかけては 3

箇所に亀裂が認められる。
本器の文様は総じて肉厚の描線による重厚な筆致であり、前漢末・蜀郡西工産の特徴をよく示す。蜀郡西工は、御用の漆器や青銅器の制作を主幹した地方官営工房であり、その製品は主として各地の王侯級の墓から出土する。副葬数は当時銅耳杯の 10 倍の価値とされた彩漆耳杯と比較してより少なく、遺存数も僅少である。
本例は、現在知られている当該時期の漆器の中でも特に保存状態が良好であり、銘文箇所も完存することから、漢代文物の基準資料と呼ぶに相応しい作品である。さらに造形面においては当時の最高等級である乗輿漆器の型式をよく遵守しており、これらを総合すると、日本国内にある漢代資料としては国宝 金彩鳥獣雲文銅盤（永青文庫蔵）と比肩すべき水準といえる。

○銘文など　銘文「元始四年／蜀郡西工／造乗輿髹彤畫紵黄釦飯槃／容一斗／髹工石／上工譚／銅釦黄塗工豊／畫工張／彤工戎／清工平／造工宗造／護工卒史章／長良／丞鳳／掾隆／令史褒主」

＜歴史資料＞（4 件）

24 ○名　　称　クリスティアン・ファン・フレイベルフ献納目録　　1 通
○時　　代　江戸時代・享保 3 年（1718）
○品　　質　紙本墨書
○寸 法 等　縦 32.8　横 46.0　cm
○作品概要　未装（マクリ）。素紙に 8 行で本文を墨書する。旧包紙のうち墨書のある部分を切取り，本書の端裏に貼付ける。それぞの釈文は次のとおり。

（旧包紙）「享保年代　賀茂社司清茂筆/かひたんきりすてやんぶれいばるこ/賀茂神社江献納目録」
（本紙）「進上/一　尺長弁柄嶋　三端/一　尺長大かいき　二端/一　尺長嶋大かいき　二端/一　尺長鷹羽嶋　二端/一　珍■（酒＋它）酒　一徳利/以上/二月十二日　かひたんきりすてやんぶれいばるこ（サイン）」

オランダ商館長クリスティアン・ファン・フレイベルフが江戸参府の途次、京都の賀茂社に立ち寄り、持参の品々を献納したときの目録。フレイベルフは、享保 2 年(1717)9 月 20 日オランダ商館長に着任、翌年 2 月 28 日将軍徳川吉宗に拝謁し貢物を献上、その 10 月に離任していることから、本書の年代は享保 3 年(1718)と特定できる。旧包紙には、本書が賀茂清茂の筆になるとするが､確証はない｡献納品として､古くからインドのベンガル地方で産出したことからその名がある縞織物、ベンガラ縞の反物 3 反を筆頭に、海黄などの染織品、及びワインを列挙する。こうした内容をもつ本文書は、アジアでの流通網を背景としたオランダとわが国との当該期の文化交流を、端的に示す資料である。

25 ○名　　称　江戸長崎街道図帖　　1 帖
○時　　代　江戸時代・18 世紀
○品　　質　紙本著色
○寸 法 等　縦 51.4　横 57.4　全長 1951.6　cm
○作品概要　折本装。本来は巻子であったとみられる。表紙と裏表紙は布装で、異なるデザインの龍をモチーフとした刺繍があり、表紙には「丸に三つ柏」の紋が金泥で描かれている。32 面にわたって、江戸から長崎に至る街道と宿駅、風景を連続して描く。この図帖そのものには、書写年代を示すものは書かれていない。しかし、例えば、近世初期の長崎街道は、筑前六宿（慶長 16-17 年(1611-1612)頃に成立）が未整備だったために、秋月街道が本筋であった。この図帖でもそれをふまえて描写しており、また佐賀を「龍蔵（造）寺」と記すなど 17 世紀初頭以前の古様を示す。いっぽう筑前六宿街道の道そのものは描写されており、寛永 13 年（1636）に築造された長崎出島が描かれ、寛永 18-19 年に成立した長崎の福岡藩と佐賀藩の番所がみえるなど、寛永年間まで下る情報も含まれる。延宝元年（1675）に直方藩に改称された東蓮寺藩がみえ、英彦山（享保 14 年(1729)以降の表記）が彦山と書かれていることなどから、図帖の情報は、ほぼ 17 世紀代に収まるものと考える。さらにこの図帖は、寛永 10 年（1633）代以降の近世前期の資料とされる九州大学所蔵『肉筆道中図』（文系合同図書室請求記号：国史/17/87）と文字情報や構図が非常に類似する。九大本と比較すると、風景や人物の描写が細かくなるいっぽう、瀬戸内海の航路の一部が省略されており、この図帖の方が年代が後であろう。料紙が縦 1 尺以上であることから、制作年代は 18 世紀以降とみられる。

26 ○名　　称　平定両金川得勝図　16枚
○時　　代　清時代・18 世紀
○品　　質　紙本銅版画
○寸 法 等　台紙 縦 55.6 横 95.0 本紙①縦 53.0 横 90.8、②縦 52.1 横 98.9 ③縦 53.0 横 90.8 ④縦 53.2 横 95.6 ⑤縦 53.0 横 90.5 ⑥縦 52.8 横 90.7 ⑦縦 52.9 横 91.0 ⑧縦 52.9 横 90.5 ⑨縦 53.0 横 90.7 ⑩縦 52.9 横 90.7 ⑪縦 52.4 横 91.0 ⑫縦 52.7 横 91.0 ⑬縦 53.0 横 90.7 ⑭縦 52.9 横 91.4 ⑮縦 53.1 横 90.8 ⑯縦 52.9 横 90.5　cm
○作品概要　台紙貼り。中国・清の第 6 代皇帝乾隆帝(1711-99)が、乾隆 12 年から 40 年(1747-75)にかけて四川省西方、揚子江の上流に位置する大金川・小金川を鎮圧した戦いを記念して作らせた版画。清朝に仕えていたイエズス会士宣教師に描かせた下絵をもとに銅版を彫らせたもので、乾隆 42 年(1777)に彫り始めた。各画面上部の乾隆帝による題詩は木版。全 16 図が揃っている点でも稀少である。
13 図は戦いの場面を表していて、いずれも険阻な山岳地帯に多くの石の要塞がある地域で戦いが繰りひろげられている。あとの 3 図は凱旋の様子を表している。全 16 図はそれぞれ 1 阿桂奏報収復小金川全境図、2 阿桂奏報功克喇穆喇穆等處図、3 阿桂奏報功克羅博瓦山碉寨図、4 明亮奏報功克宜喜達爾図山梁図、5 明亮奏報功克日旁碉寨図、6 阿桂奏報功克康薩爾碉寨図、7 阿桂奏報功克木里工噶克了口碉柵図、8 明亮奏報功克宜喜甲索碉卡図、9 明亮奏報功克石真噶碉柵図、10 阿桂奏報功克菑則大海昆色爾等處図、11 阿桂奏報功克勒烏圍図、12 阿桂奏報功克科布曲索隆古碉寨図、13 阿桂奏報功克噶喇依図、14 郊労凱旋将士図、15 金川平定午門受俘図、16 紫光閣凱宴将士図である。
乾隆帝は乾隆 25 年(1760)に平定した外蒙古の西方、現在のジュンガル盆地に位置する地域である準噶爾との戦いを記念して、銅販画「準回両部平定得勝図」を作らせた。これは、乾隆帝が初めて作らせた銅販画の戦功図で、郎世寧(ジュゼッペ・カスティリオーネ)を中心とした清に帰化していたイエズス会士達によって原画が描かれ、パリでシャルル・ニコラ・コシャンを総監督として銅版画にされた。清朝は、これに続いて七つの戦功銅版画「平定両金川得勝図」、「平定台湾得勝図」、「平定安南得勝図」、「平定郭爾喀得勝図」、「平定苗彊得勝図」、「平定仲苗得勝図」、「平定回彊得勝図」を国内で作成させた。本銅版画は、乾隆帝が二つ目に作らせた戦功銅版画で、清国内で作られた最初の作品である。パリで作られた「準回両部平定得勝図」を継承するもので、特に 15 図は「準回両部平定得勝図」の平定回部献俘図と、14 図は「準回両部平定得勝図」の郊労回部成功諸将士図を左右反転させたものとほぼ同じ構図である。ただし、銅版画の技術としては、他の清国内で作られた戦功図と同じく、明らかに見劣りがするものではある。

27 ○名　　称　康熙帝鹵簿図　2 帖

○時　　代　江戸時代・19 世紀
○品　　質　紙本著色
○寸 法 等　各縦 34.0　横 32.9　cm
○作品概要　折本装。上 11 折、下 11 折。表紙は濃緑地四手雲宝尽紋緞子。上下とも金地に金で草葉を描いた貼題箋に「康熙帝鹵簿図上」、および「康熙帝鹵簿図下」と墨書する。画中には墨書により多数の注記を施す。
本作品は、康熙 52 年(1713)3 月 18 日に 60 歳の誕生日を迎えた中国・清朝第４代皇帝康熙帝(1654-1722)の誕生祝賀行事における鹵簿を描いたものである。鹵簿とは天使が巡幸する際の行列や車駕・儀仗の前後の順序をいう。中国では歴代を通じて、皇帝の誕生の祝いである「萬寿節」は、長寿を祝賀する行事として極めて厳粛・盛大に執り行われていた。誕生日の内でも節目にあたる 60 歳、70 歳、80 歳はとりわけ重んじられ、国を挙げて祝われた。こうした行事を「萬寿慶典」という。清代において最も大規模に「萬寿節」の行事が行われたのが、康熙 52 年の「萬寿慶典」である。
誕生日前日の 3 月 17 日、康熙帝の鹵簿は北京西郊の離宮暢春園を出発し故宮に向かった。康熙 55 年(1716)には、清代版画を代表する作品『萬寿盛典図』120 巻が刊行され、康熙帝の鹵簿とそれを迎える北京の臣民たちの姿が、沿道の風景とともに文字と詳細な図で描写されている。また、宮廷画家によって『康熙六旬萬寿慶典図』2 巻が描かれ、火災で失われたが、乾隆時代に版画の『萬寿盛典図』を元に描き直されたものが北京の故宮博物院に所蔵されている。
本作品の奥書には、「萬寿盛典」から「道路點綴之物」と「其器械重畳之数」を除いて画工狩野則譽(即譽)に写させたとあるとおり、『萬寿盛典図』を元にして、沿道の建物、臣民などを一切省略して鹵簿のみを描いたものと考えられる。彩色にあたっては、『康熙六旬萬寿慶典図』の写本などを参考にした可能性もある。
渡邊定静(崋山)(1793～1841)を筆者とする奥書や画家については、今後、検討すべき点として残されるが、丁寧な筆致による写本であり、保存も良い。
○奥書など　奥書「右鹵簿図二帖元出萬壽盛典清康熙皇帝即五十二年/三月十七日為厥明行其六秩壽且賀禮自暢春園/還宮之時所設鹵簿也而今有/旨除其道路點綴之物略其器械重畳之数而使画工狩野/則譽写之別/令臣具録盛典所載儀伏之員爾/文化十三丙子年(1816)正月五日/東都御書監田原臣渡邊定静謹書」。箱蓋裏書「康熙帝鹵簿図　弐帖/渡邊崋山筆」、表書「昭和八癸酉之夏日増田徳仙君携此帖来、被請鑑/余曽閇先考此来由今也、転々而来得拝観喜/因縁不浅之快感不可言矣、此帖原清朝初世之版/中而係加残候之絵師狩野則譽之模写鹵簿/之儀容謹厳巻帙浩瀚所謂努力之大作也/崋山亦以君命臨写焉雖有尽法之異能力臨之/筆致温籍色彩□□(糸＋真)密之中自見露出/崋山独得自家之妙趣来可謂能尽力者尋常/画工之無企及之既其為真蹟不究疑真為照乗/之珍也、款曰文化十三年正月五日東都御書監/田原臣渡邊定静謹画案、此時先生二十四歳而/日夜研鑽之常時也、他日之大成今而足拝観矣/敬服々々披閲数次謹題数語以表眼福之爾/崋石渡邊康鑒了而議/(朱文方印)、(朱文長方印)」。

1-(2) 寄託品

1-(2)-① 寄託品一覧表

平成22年3月31日現在

		国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
		計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合計		11,904	184	1,191	2,734	50	261	5,957	81	611	1,957	53	317	1,256	0	2
絵画		3,189	54	404	416	12	67	1,977	27	236	580	15	101	216	0	0
書跡		1,861	62	271	485	12	30	945	38	204	308	12	36	123	0	1
彫刻		773	11	205	141	1	41	248	1	60	359	9	104	25	0	0
建築		4	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0
金工		1,045	12	89	170	4	18	530	1	40	249	7	31	96	0	0
刀剣		261	10	71	226	8	58				34	2	13	1	0	0
陶磁		1,303	1	6	138	0	2	784	1	3	11	0	0	370	0	1
漆工		761	10	53	135	3	16	468	4	15	103	3	22	55	0	0
染織		764	7	36	73	2	4	515	3	31	47	2	1	129	0	0
考古		939	13	34	156	4	12	446	6	13	231	3	9	106	0	0
民族資料		121	0	0	5	0	0	0	0	0	6	0	0	110	0	0
歴史資料		95	0	9	1	0	0	40	0	9	29	0	0	25	0	0
和書		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋	絵画	150	2	9	150	2	9									
	書跡	28	1	1	28	1	1									
	彫刻	11	0	0	11	0	0									
	金工	1	0	1	1	0	1									
	陶磁	77	1	0	77	1	0									
	漆工	26	0	2	26	0	2									
	染織	8	0	0	8	0	0									
	考古	487	0	0	487	0	0									
	民族	0	0	0	0	0	0									

＊京都国立博物館・奈良国立博物館は、東洋の寄託品も「日本」に含む。
＊東京国立博物館では、国宝・重要文化財の数は文化庁の指定件数に合わせることとした。

1-(2)-② 寄託品増減表

平成22年3月31日現在

		国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
		20年度	21年度	増減	20年度	21年度	増減	20年度	21年度	増減	20年度	21年度	増減	20年度	21年度	増減
合計		12,067	11,904	△ 163	2,750	2,734	△ 16	6,145	5,957	△ 188	2,067	1,957	△ 110	1,105	1,256	151
絵画		3,295	3,189	△ 106	418	416	△ 2	2,083	1,977	△ 106	579	580	1	215	216	1
書跡		1,985	1,861	△ 124	486	485	△ 1	964	945	△ 19	409	308	△ 101	126	123	△ 3
彫刻		750	773	23	140	141	1	245	248	3	359	359	0	6	25	19
建築		4	4	0	0	0	0	4	4	0	0	0	0	0	0	0
金工		931	1,045	114	171	170	△ 1	495	530	35	248	249	1	17	96	79
刀剣		265	261	△ 4	230	226	△ 4				34	34	0	1	1	0
陶磁		1,332	1,303	△ 29	139	138	△ 1	776	784	8	11	11	0	406	370	△ 36
漆工		787	761	△ 26	141	135	△ 6	491	468	△ 23	105	103	△ 2	50	55	5
染織		711	764	53	73	73	0	545	515	△ 30	47	47	0	46	129	83
考古		994	939	△ 55	157	156	△ 1	498	446	△ 52	240	231	△ 9	99	106	7
民族資料		121	121	0	5	5	0	0	0	0	6	6	0	110	110	0
歴史資料		103	95	△ 8	1	1	0	44	40	△ 4	29	29	0	29	25	△ 4
和書		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋	絵画	150	150	0	150	150	0									
	書跡	28	28	0	28	28	0									
	彫刻	12	11	△ 1	12	11	△ 1									
	金工	1	1	0	1	1	0									
	陶磁	77	77	0	77	77	0									
	漆工	26	26	0	26	26	0									
	染織	8	8	0	8	8	0									
	考古	487	487	0	487	487	0									
	民族	0	0	0	0	0	0									

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

1-(2)-③ 登録美術品一覧表

平成22年3月31日現在

	国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文	計	国宝	重文
合計	8	0	5	3	0	3	3	0	0	2	0	2	0	0	0
絵画	3	0	3	2	0	2	0	0	0	1	0	1	0	0	0
書跡	3	0	2	1	0	1	1	0	0	1	0	1	0	0	0
彫刻	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
染織	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0

1-(3) 収蔵品の管理・保存

1-(3)-① 各収蔵庫、展示場の温湿度

【東京国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度			湿度（年間）
			冬	夏	中	
本館	展覧会場	09：00～17：00	15～23℃	23～30℃	19～25℃	25～85%
	収蔵庫	09：00～17：00	15～23℃	21～28℃	18～26℃	47～71%
平成館	展覧会場	09：00～17：00	22℃±1℃	26℃±2℃	23℃±1℃	55%±5%
	収蔵庫	09：30～17：00	22℃±1℃	25℃±1℃	23℃±1℃	40～60%
東洋館	展覧会場	閉室中	閉室中	閉室中	閉室中	閉室中
	収蔵庫	09：00～17：00	15～22℃	24～26℃	17～24℃	40～68%
宝物館	展覧会場	24時間運転	22℃±1℃	24℃±1℃	23℃±1℃	55%±5%
	収蔵庫	24時間運転	22℃±1℃	22℃±1℃	23℃±1℃	55%±5%
表慶館	展覧会場	09：00～17：00	10～22℃	21～27℃	12～25℃	30～75%
	(仮)収蔵庫	09：00～17：00	10～22℃	21～27℃	12～25℃	30～75%
黒田記念館	展覧会場	24時間運転	23℃±1℃	23℃±1℃	23℃±1℃	55%±5%
	収蔵庫	24時間運転	22℃±1℃	23℃±1℃	22℃±1℃	55%±5%

【京都国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度(年間)	湿度（年間）
特別展示館	展覧会場	09：00～18：00	18℃～25℃	57%～60%
	収蔵庫	09：00～17：30	18℃～22℃	55%～60%
平常展示館	展覧会場	——	——	——
	収蔵庫	——	——	——
北収蔵庫		09：00～17：30	18℃～22℃	55%～60%
東収蔵庫				
文化財保存修理所		09：00～17：30	22℃～24℃	57%～60%

【奈良国立博物館】

会場等		空調実施時間	温度（年間）	湿度（年間）
本館	展覧会場	24時間運転	22℃～25℃	60%±5%
西新館	展覧会場	24時間運転	22℃～25℃	60%±5%
東新館	展覧会場	24時間運転	22℃～25℃	60%±5%
	収蔵庫	24時間運転	22℃～25℃	60%
地下回廊	収蔵庫	24時間運転	22℃～25℃	60%

【九州国立博物館】

会場等	空調実施時間	温度（年間）	湿度（年間）
3階展覧会場	24時間運転	22℃～26℃	55%±5%
4階展覧会場	7:00～21:00	22℃～26℃	55%±5%
収蔵庫	8:30～21:30	22℃～24℃	材質別に50%±2%、55%±2%、60%±2%

1-3-② 保存カルテ作成件数

【東京国立博物館】

合計		1,989		
		列品貸与時	本格修理調査時	応急修理時
計		854	210	925
絵画		120	5	536
書跡		16	2	29
彫刻		84	0	2
建築		1	0	0
金工		85	15	0
刀剣		17	2	40
陶磁		23	10	27
漆工		40	2	2
染織		42	69	15
考古		315	69	1
歴史資料		10	17	23
民族資料		12	0	0
和書		7	0	0
東洋	絵画	21	0	2
	書跡	2	0	6
	彫刻	3	4	1
	金工	0	0	0
	陶磁	37	10	10
	漆工	0	5	0
	染織	0	0	4
	考古	19	0	0
	民族	0	0	0
法隆寺献納宝物		0	0	0
その他		0	0	227

【京都国立博物館・奈良国立博物館・九州国立博物館】

	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
計	214	114	205
絵画	79	49	6
書跡	23	10	0
彫刻	2	17	1
建築	1	0	0
金工	8	6	0
刀剣		0	0
陶磁	35	0	0
漆工	11	2	3
染織	35	0	60
考古	11	30	3
民族資料	0	0	0
歴史資料	9	0	3
和書	0	0	0
その他	0	0	129

1-(4) 修理

1-(4)-① 修理件数

		東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
合　計		106 (18) [1]	5	11	24
絵　画		8	4	2	6
書　跡		7	0	2	1
彫　刻		1	0	1	2
建　築		0	0	0	0
金　工		11 (4)	0	0	0
刀　剣		1	0	0	0
陶　磁		2	0	0	0
漆　工		2	0	1	2
染　織		2	0	0	0
考　古		33 (14) [1]	1	5	9
歴史資料		20	0	0	4
和　書		2	0	0	0
民族資料		0	0	0	0
東洋	絵　画	1			
	書　跡	2			
	彫　刻	6			
	金　工	0			
	陶　磁	2			
	漆　工	1			
	染　織	0			
	考　古	4			
	民　族	0			
法隆寺献納宝物		0			
黒田記念館収蔵品		0			
館史資料(収蔵品外)		1			

※東京国立博物館(　)内は考古相互貸借経費、[　]内は九博経費。

1-(4)-② 修理概況

【東京国立博物館】 (106件)

<絵画> (8件)

1 ○名　　称　観音三十三応身図
○時　　代　室町
○年代世紀　15c
○品　　質　絹本着色
○員　　数　1幅
○寸 法 等　128.7×185.4cm
○施工会社　株式会社文化財保存
○修理内容　1.絵具層に剥落止めを施し、表打ちで画面を保護した後、旧裏打ちを除去する。2.欠失部に補絹を施し、新たに裏打ちを行う。3.補絹部分に補彩を施す。4.軸首を再使用し、裂を新調し、元の掛幅装に仕立てる。5.桐製保存箱・太巻添軸などを新調して収める。(平成21年度は2～3途中まで)

2 ○名　　称　扇面雑画
○時　　代　江戸
○年代世紀　19c
○品　　質　紙本着色
○員　　数　10面(60面のうち)
○寸 法 等　(上弦/下弦/高) (cm)　No.1「白梅」51.5/20.1/20.2、No.4「柳」50.3/19.5/20.2、No.23「烏瓜」50.5/19.8/19.8、No.26「雪中藪柑子」50.7/20.3/19.7、No.27「若松と藪柑子」50.9/20.5/20.2、No.37「爪草に雲雀」50.1/20.4/19.9、No.41「蝶と猫」50.3/19.8/19.9、No.42「鹿」50.8/19.8/20.0、No.51「破墨山水」50.5/19.0/20.0、No.52「社頭風景」50.9/19.9/20.0
○施工会社　株式会社半田九清堂
○修理内容　1.ガラスを外す。2.絵具層に剥落止めを行う。3.本紙を覆輪ごと銀台紙から外して解体する。4.裏打ち紙は残しながら本紙裏面に付着した銀箔紙、台紙を除去する。5.本紙周囲に足し紙を施した後、新たに1層の裏打ちを行う。6.中性紙製ブック型マットを新調し、本紙を固定する。7.中性紙製保存箱を新調し、収納する。(平成21年度は5から)

3 ○名　　称　松図屏風
○時　　代　室町
○年代世紀　16c
○品　　質　紙本金地着色
○員　　数　6曲1隻
○寸 法 等　153.3×345.0cm
○施工会社　株式会社修美
○修理内容　1.屏風装を解体する。2.絵具層に剥落止めを施し、旧裏打ちを除去する。3.欠失部に補紙を施し、新たに裏打ちを行う。4.補紙に補彩を施し、新たな下地に張り込む。5.表装裂、鋲金具を再使用し、隅金具、八双金具、襲木を新調する。(平成21年度は4から)

4 ○名　　称　両界曼荼羅(胎蔵界曼荼羅)
○時　　代　鎌倉
○年代世紀　14c
○品　　質　絹本着色
○員　　数　1面
○寸 法 等　81.0×65.9cm
○施工会社　東京国立博物館 (保存修復課アソシエイトフェロー)
○修理内容　1.額装を解体する。2.剥落止めの後、裏打ち紙を除去する。3.蒸留水で湿りを与え、クリーニングを行う。4.表打ちを施し、増し裏紙・肌裏紙・旧補紙を除去する。5.欠失箇所に補絹を施し、肌裏・増し裏打ちを行う。6.折れ癖のある箇所に、折れ伏せを施す。7.新調した表装裂と本紙を付け廻しする。8.軸首などの金具を新調し、掛幅装に仕立てる。9.桐製太巻添軸、包裂、桐製保存箱を新調する。

5 ○名　　称　花鳥図
○時　　代　明治
○年代世紀　明治14年(1881)
○品　　質　絹本着色
○員　　数　1幅
○寸 法 等　102.8×71.2cm
○施工会社　株式会社半田九清堂
○修理内容　1.表装を解体する。2.剥落止めを行い、本紙を洗浄する。3.本格的な剥落止めを行う。4.本紙を表打ちして保護したうえで、旧裏打紙を除去する。5.裏打ち、折れ伏せを施す。6.表装裂・軸首は再利用し、掛幅装に仕立てる。7.太巻、桐製保存箱、布貼帙を新調する。(平成21年度は4まで)

6 ○名　　称　扇面雑画
○時　　代　江戸
○年代世紀　19c
○品　　質　紙本着色・紙本墨画
○員　　数　10面(60面のうち)
○寸 法 等　(上限/下限/高)(cm)　No.9「藤」50.9/20.0/20.1、No.13「河骨と太蘭」50.2/19.8/20.0、No.20「山帰来」51.0/19.9/20.0、No.29「水仙」50.7/19.8/20.0、No.31「瓜に飛蝗」51.3/19.8/20.2、No.35「豆と藁苞」50.8/20.1/20.0、No.50「山水」50.8/20.0/19.8、No.55「盆栽」50.7/20.3/19.5、No.57「玩具」50.5/19.1/20.2、No.60「布袋」50.3/19.2/20.1
○施工会社　株式会社半田九清堂
○修理内容　1.台紙を剥がし、本紙を分離する。2.剥落止めを行う。3.中性紙マットを製作し、ヒンジで本紙をマットに留め付ける。4.新調した収納箱に収納する。(平成21年度は2まで)

7　○名　　称　舞楽図屏風
　　○時　　代　江戸
　　○年代世紀　19c
　　○品　　質　紙本着色
　　○員　　数　6曲1双
　　○寸 法 等　各157.4×363.0cm
　　○施工会社　株式会社松鶴堂
　　○修理内容　1.絵具層の剥落止を行う。2.本紙を保護したうえで、屏風を解体し、本紙を下地からめくる。3.濾過水を使用し洗浄する。4.本格的な剥落止めを行う。5.旧裏打紙を除去する。6.本紙欠失部分に補紙、亀裂箇所に折伏を施し、裏打ちを行う。絵具層の剥落止、補彩を行う。7.下地、襲木、表装裂、裏紙は新調し、金具は再利用(欠失部は新調)し、屏風に仕立てる。(平成21年度は5まで)

8　○名　　称　応挙館障壁画(雁図)
　　○時　　代　江戸
　　○年代世紀　19c
　　○品　　質　紙本墨画
　　○員　　数　3面(54面のうち)
　　○寸 法 等　各90.0×180.0cm
　　○施工会社　有限会社半田九清堂
　　○修理内容　1.肌裏紙以外の旧裏打紙を除去する。2.洗浄する。3.剥落止めを施す。4.本紙に表打ちを施して保護し、肌裏紙を除去する。5.裏打ちを行い、欠損部に補彩する。6.下地を新調し、本紙・裏張り紙を張り込み、展示用縁木を新調して取り付ける。(平成21年度は4まで)

＜書跡＞(7件)

9　○名　　称　瑜祇拾古鈔巻下
　　○時　　代　南北朝
　　○年代世紀　暦応2年(1339)
　　○品　　質　紙本墨書
　　○員　　数　1帖
　　○寸 法 等　24.7×16.5cm
　　○施工会社　清申堂
　　○修理内容　1.墨に膠水で剥落止めを行う。2.冊子装を解体する。3.欠失部に補紙を施し虫損部を繕う。4.冊子装に仕立て、渋紙の四方帙に収納する。(21年度は3の途中から)

10　○名　　称　書状
　　○時　　代　安土桃山
　　○年代世紀　16c
　　○品　　質　紙本墨書
　　○員　　数　1幅
　　○寸 法 等　14.6×35.4cm
　　○施工会社　株式会社半田九清堂
　　○修理内容　1.掛幅装を解体する。2.剥落止めの後、総裏紙を除去する。3.浄水で湿りを与え、クリーニングを行う。4.表打ちを施し、増し裏紙・肌裏紙・旧補紙を除去する。5.欠失箇所に補紙を施し、肌裏・増し裏打ちを行う。6.折れ癖のある箇所に、折れ伏せを施す。7.新調した表装裂と本紙を付け廻しする。8.軸首を再使用し、掛幅装に仕立てる。9.桐製太巻添軸、包裂、桐製保存箱を新調する。

11　○名　　称　仮名消息断簡
　　○時　　代　南北朝～室町
　　○年代世紀　14～15c
　　○品　　質　紙本墨書
　　○員　　数　1枚
　　○寸 法 等　26.9×44.3cm
　　○施工会社　東京国立博物館（保存修復課アソシエイトフェロー）
　　○修理内容　1.台紙から本紙を外す。2.剥落止めの後、裏打ち紙を除去する。3.蒸留水で湿りを与え、クリーニングを行う。4.表打ちを施し、旧裏打ち紙を除去する。5.欠失箇所に補紙を施し、肌裏・増し裏打ちを行う。6.新調した表装裂と本紙を付け廻しする。7.軸首などを新調し、掛幅装に仕立てる。8.桐製太巻添軸、包裂、桐製保存箱を新調する。

12　○名　　称　毘盧遮那別行経
　　○時　　代　室町
　　○年代世紀　永禄9年(1566)
　　○品　　質　紙本墨書
　　○員　　数　1帖
　　○寸 法 等　26.4×13.6 cm
　　○施工会社　清申堂
　　○修理内容　1.朱字に剥落止めを施す。2.折本装を解体する。3.本紙を洗浄する。4.虫損箇所に補紙を施す。5.表紙を再利用し、元の折本装に仕立てる。(平成21年度は4の途中まで)

13　○名　　称　蹴鞠聞書
　　○時　　代　室町
　　○年代世紀　大永8年(1528)
　　○品　　質　紙本墨書
　　○員　　数　1巻
　　○寸 法 等　32.4×739.3cm

○施工会社　清申堂
○修理内容　1.朱字に剥落止めを施す。2.巻子装を解体する。3.部分的に施されている裏打紙を除去する。4.ろ過水で洗浄する。5.虫損箇所に補紙を施す。6.裏打ちを施す。7.表紙、軸首を新調し、元の巻子装に仕立てる。8.太巻、桐製保存箱を新調する。(平成21年度は5まで)

14 ○指　定　重文
○指定年月日　昭和14年(1939)5月27日 (文218)
○名　称　書状
○時　代　鎌倉
○年代世紀　元久元年(1204)
○品　質　紙本墨書
○員　数　1幅
○寸 法 等　25.4×87.5cm
○施工会社　株式会社光影堂
○修理内容　1.墨に膠水で剥落止めを行う。2.掛幅装を解体する。3.旧裏打ち紙を除去する。4.旧補修紙を取り除き、大きく欠失した天部には料紙のバランスを調整・回復させる。5.折損箇所には折れ伏せによる補強を施す。6.表装裂地は再利用する。付け回しは仕立に影響はないため現装に復する。7.軸首は再利用、輪補三段表装に仕立てる。8.桐製太巻添軸、桐製保存箱を新調。(平成21年度は4から)

15 ○名　称　歌合切
○時　代　鎌倉
○年代世紀　12～13c
○品　質　紙本墨書
○員　数　1幅
○寸 法 等　23.3×27.8cm
○施工会社　株式会社岡墨光堂
○修理内容　1.表装を解体する。2.裏打紙を除去する。3.補修紙を作製し、補紙を施す。4.裏打ち、折れ伏せを施す。5.軸首、一文字、中廻し風帯は再利用し、上下の表装裂は新調し、元の掛幅装に仕立てる。6.太巻、桐製保存箱を新調し、収納する。(平成21年度は4の途中まで)

<彫刻> (1件)

16 ○名　称　千手観音菩薩坐像
○時　代　南北朝
○年代世紀　14c
○品　質　ヒノキ材
○員　数　1躯
○寸 法 等　像高83.7cm
○施工会社　有限会社楽浪文化財修理所
○修理内容　1.清掃及び材質の強化を行う(本体・光背・台座)。2.彩色層に影響が及ばない範囲で解体を行う(本体・光背・台座)。ただし、台座は蓮肉部のみの解体とする。3.各部材の補修、組付け、組立を行う(本体・光背・台座)。台座は光背を受ける枘部分の補強、光背は立ちの安定化を図る。光背、本体指先等の補足は原則行わない。4.仕上げとして古色などの彩色を必要最小限行う(本体・光背・台座)。(平成21年度は2の途中から)

<金工> (11件)

17 ○名　称　自然釉甕
○時　代　平安
○年代世紀　12c
○品　質　陶製
○員　数　1口
○寸 法 等　高34.5cm、口径24 cm
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1.接着剤や汚れをクリーニングする。2.エポキシ系樹脂で接合する。3.ポキシ系樹脂や各種粘土粉末などで補填・復元する。4.アクリル系樹脂を媒剤とした各種粘土粉末や顔料で補彩する。

18 ○名　称　光背残欠
○時　代　平安
○年代世紀　12c
○品　質　銅板製、鍍金
○員　数　1枚
○寸 法 等　高20.5cm(現状)、幅19.0cm
○施工会社　株式会社東都文化財保存研究所
○修理内容　1.頭頂部の欠失を透明の部材で補填し、強化する。2.折れや強度の足りない部分を補強する。3.全体をクリーニングする。

19 ○名　称　蓮台
○時　代　平安
○年代世紀　12c
○品　質　蓮肉:銅製鋳造鍍金　蓮弁:銅板製鍍金
○員　数　1基
○寸 法 等　総高6.2cm(現状)、蓮肉径15.1cm
○施工会社　株式会社東都文化財保存研究所
○修理内容　1.蓮座をすべて解体する。2.台座を別材で作り直す。3.蓮弁をクリーニングし、強化をはかる。4.蓮弁を再接着する。

20 ○名　称　陶製経筒蓋
○時　代　平安

○年代世紀　12c
○品　　質　陶製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高10cm、口径31.5 cm
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1.解体する。2.接着剤や汚れをクリーニングする。3.エポキシ系樹脂で接合する。4.硬石膏やポキシ系樹脂、各種粘土粉末などで補填・復元する。5.アクリル系樹脂を媒剤とした各種粘土粉末や顔料で補彩する。(平成21年度は3まで)

21 ○名　　称　青白磁合子(身)
○時　　代　平安
○年代世紀　12c
○品　　質　磁製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高2cm、口径5.5 cm
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1.解体する。2.接着剤や汚れをクリーニングする。3.エポキシ系樹脂で接合する。4.エポキシ系樹脂や各種粘土粉末により補填・復元する。5.アクリル系樹脂を媒剤とした各種粘土粉末や顔料で補彩する。(平成21年度は3まで)

22 ○名　　称　青白磁小壺
○時　　代　平安
○年代世紀　12c
○品　　質　磁製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高4cm、口径6cm
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1.解体する。2.接着剤や汚れをクリーニングする。3.エポキシ系樹脂で接合する。4.エポキシ系樹脂や各種粘土粉末により補填・復元する。5.アクリル系樹脂を媒剤とした各種粘土粉末や顔料で補彩する。

23 ○名　　称　青白磁合子(蓋)
○時　　代　平安
○年代世紀　12c
○品　　質　磁製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高2cm、口径5.3cm
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1.解体する。2.接着剤や汚れをクリーニングする。3.エポキシ系樹脂で接合する。4.エポキシ系樹脂や各種粘土粉末により補填・復元する。5.アクリル系樹脂を媒剤とした各種粘土粉末や顔料で補彩する。

24 ○名　　称　青白磁合子(蓋)
○時　　代　鎌倉
○年代世紀　建久7年(1196)
○品　　質　磁製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高2cm、口径7.3cm
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1.接着剤や汚れをクリーニングする。2.エポキシ樹脂や各種粘土粉末により補填・復元する。3.アクリル系樹脂を媒剤とした各種粘土粉末や顔料で補彩する。

25 ○名　　称　青白磁合子(蓋)
○時　　代　鎌倉
○年代世紀　建久7年(1196)
○品　　質　磁製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高1.2cm、口径4.2cm
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1.接着剤や汚れをクリーニングする。2.エポキシ樹脂や各種粘土粉末により補填・復元する。3.アクリル系樹脂を媒剤とした各種粘土粉末や顔料で補彩する。

26 ○名　　称　青白磁合子(蓋)
○時　　代　鎌倉
○年代世紀　建久7年(1196)
○品　　質　磁製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高1cm、口径4.8cm
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1.解体する。2.接着剤や汚れをクリーニングする。3.エポキシ系樹脂で接合する。4.エポキシ樹脂や各種粘土粉末により補填・復元する。5.アクリル系樹脂を媒剤とした各種粘土粉末や顔料で補彩する。

27 ○名　　称　自然釉甕
○時　　代　平安
○年代世紀　12c

○品　　質　陶製
○員　　数　1口
○寸 法 等　高38.5㎝、口径27㎝
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1.解体する。2.接着剤や汚れをクリーニングする。3.エポキシ系樹脂で接合する。4.硬石膏やエポキシ樹脂、各種粘土粉末により補填・復元する。5.アクリル系樹脂を媒剤とした各種粘土粉末や顔料で補彩する。

＜刀剣＞（1件）

28 ○名　　称　大笹穂三角槍
○時　　代　江戸
○年代世紀　弘化4年(1847)
○品　　質　鉄製
○員　　数　1口
○寸 法 等　刃長43.9㎝　元幅3.2㎝
○施工会社　小野博
○修理内容　1.刀身を全研ぎする。2.白鞘を新調する。(平成21年度は1途中からと3)

＜陶磁＞（2件）

29 ○名　　称　色絵花鳥文筒形瓶
○時　　代　江戸
○年代世紀　元文5年(1740)
○品　　質　磁器
○員　　数　1口
○寸 法 等　高40.9㎝、口径20.6㎝、底径10.3㎝
○施工会社　ますぶち工房
○修理内容　1.旧修理のオーバーペイントを除去する。2.亀裂及び欠失部分には状況に応じてアクリル樹脂等で接合・補填する。3.接合・補填部分の色あわせをする。

30 ○指　　定　重美
○指定年月日　昭和10年(1935)5月10日認定
○名　　称　色絵飛鳳文隅切膳
○時　　代　江戸
○年代世紀　18～19c
○品　　質　磁器
○員　　数　1具
○寸 法 等　高7.3㎝　径30.7㎝
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1.破断面のクリーニングを行う。2.破断面および破片を接合する。3.補填を施す。4.補彩を施す。

＜漆工＞（2件）

31 ○名　　称　茶室露地蒔絵料紙硯箱
○時　　代　江戸
○年代世紀　18c
○品　　質　木地漆塗
○員　　数　1具
○寸 法 等　「料紙箱」縦38.9㎝横30.3㎝高11.5㎝、「硯箱」縦23.2㎝横21.6㎝高4.3㎝
○施工会社　山下好彦
○修理内容　1.旧修理の蒔絵を出来る限り取り除く。2.亀裂部分に木屎などを充填し、劣化部分は漆固めをする。3.周囲と色調を合わせる。(平成21年度は2の途中から)

32 ○名　　称　夕顔蒔絵大鼓胴
○時　　代　江戸
○年代世紀　17c
○品　　質　木製漆塗
○員　　数　1本
○寸 法 等　径11.4㎝、長28.0㎝
○施工会社　株式会社目白漆芸文化財研究所
○修理内容　1.旧修理の塗料を除去する。2.塗料の除去後、状態によっては漆固めを行う。

＜染織＞（2件）

33 ○名　　称　小袖 黒綸子地遠州模様
○時　　代　江戸
○年代世紀　19c
○品　　質　絹製、綸子地に繍・鹿の子絞り
○員　　数　1領
○寸 法 等　身丈165.0　裄68.0㎝
○施工会社　K染織修復研究所
○修理内容　1.解体する。2.損傷部分に同色に染めた補修裂をあて、縫い糸でおさえる。3.絹綿を入れ、袘を出して元の小袖の状態に仕立てる。4.絹の包裂を新調して収める。(平成21年度は3から)

34 ○指　定　重文
○指定年月日　昭和40年(1965)5月29日(染織2192)
○名　称　小袖 白練緯地松皮菱竹模様
○時　代　安土桃山
○年代世紀　16～17c
○品　質　絹(練緯)製
○員　数　1領
○寸 法 等　丈142.0cm、裄67.0cm
○施工会社　株式会社染技連
○修理内容　1.表と裏に分ける。2.表裂は解体する。3.旧補修糸を外す。4.補修用の練緯を製織する。5.全面に補修裂をあてて縫い止める。6.裏地と真綿は元使いするが、真綿が不足する場合は補う。7.元の状態に仕立てる。8.絹の包み裂を新調して納める。

＜考古＞（33件）

35 ○名　称　甕棺
○時　代　弥生
○年代世紀　前2～前1c
○品　質　土製
○員　数　1個
○寸 法 等　口径55.0　高92.0cm
○施工会社　有限会社武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1.接合・補填された部分を水・溶剤などを用いて解体する。2.クリーニングする。3.アクリル系樹脂で接合する。4.欠損部分はエポキシ系樹脂で補填・復原する。5.補填部分については、アクリル系絵具で違和感のない程度に補彩する。（平成21年度は4の途中から）

36 ○名　称　鉄刀
○時　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　質　鉄製
○員　数　1本
○寸 法 等　長88.9cm、身幅3.2cm
○施工会社　株式会社東都文化財保存研究所
○修理内容　1.汚れをクリーニングし、旧修理を除去する。2.脱塩処理を行う。3.アクリル系樹脂で強化する。4.エポキシ系樹脂により補填・復元する。5.アクリル系絵具で補彩する。（平成21年度は2まで）

37 ○名　称　鉄刀
○時　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　質　鉄製
○員　数　1本
○寸 法 等　長90.6、身幅3.5cm
○施工会社　株式会社東都文化財保存研究所
○修理内容　1.汚れをクリーニングし、旧修理を除去する。2.脱塩処理を行う。3.アクリル系樹脂で強化する。4.エポキシ系樹脂により補填・復元する。5.アクリル系絵具で補彩する。（平成21年度は2まで）

38 ○名　称　須恵器 脚付短頸壺
○時　代　古墳
○年代世紀　6ｃ
○品　質　陶製
○員　数　1個
○寸 法 等　高36.3cm、口径9cm
○施工会社　有限会社武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1.解体する。2.接着剤や汚れをクリーニングする。3.エポキシ系樹脂により補填・復元する。4.アクリル系絵具で補彩する。（平成21年度は3の途中まで）

39 ○名　称　須恵器 子持脚付長頸壺
○時　代　古墳
○年代世紀　6ｃ
○品　質　陶製
○員　数　1個
○寸 法 等　高36cm、口径17.5cm
○施工会社　株式会社東都文化財保存研究所
○修理内容　1.解体する。2.接着剤や汚れをクリーニングする。3.セルロース系樹脂で接合する。4.エポキシ系樹脂により補填・復元する。5.アクリル系絵具で補彩する。なお、J-22895は接合する可能性があるので、共に供与し、接合関係を確認する。（平成21年度は3まで）

40 ○名　称　埴輪　靫
○時　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　質　土製
○員　数　1個
○寸 法 等　残存高67.5cm、鰭部幅37.5cm
○施工会社　有限会社武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1.解体する。2.接着剤や汚れをクリーニングする。3.セルロース系樹脂で接合する。4.エポキシ系樹脂により補填・復元する。5.アクリ

ル系絵具で補彩する。6.安定台(各種樹脂による矢筒部に合わせて作った脱着可能の差し込み式のもの)を新調する。(平成21年度は3まで)

41 ○名　　称　深鉢形土器
○時　　代　縄文
○年代世紀　前2000～前1000年
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高23.5㎝、口径17.3㎝
○施工会社　有限会社武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1.解体する。2.接着剤や汚れをクリーニングする。3.セルロース系樹脂で接合する。4.エポキシ系樹脂により補填・復元する。5.アクリル系絵具で補彩する。

42 ○名　　称　銀象嵌鉄刀
○時　　代　古墳
○年代世紀　6世紀
○品　　質　鉄・銀製
○員　　数　1本
○寸 法 等　長82.5㎝　鍔部長径6.3㎝　短径5.3㎝
○施工会社　飛鳥工房
○修理内容　1.刀身部をクリーニングして、泥・錆などを除去する。2.鍔部茎側の銀象嵌を研出す。3.研出した象嵌部分は、アクリル系樹脂で保護して仕上げる。4.刀身の欠失部は、事前調査による復原図にしたがい、エポキシ系樹脂で補填・復原する。5.補填部分については、アクリル系絵具で違和感のない程度に補彩する。(平成21年度は2の途中から)

43 ○名　　称　銀象嵌鍔
○員　　数　1個
○時　　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　　質　鉄・銀製
○寸 法 等　長径8.5㎝、短径6.9㎝
○施工会社　飛鳥工房
○修理内容　1.汚れをクリーニングする。2.表面を覆うさびの除去、全体の強化および未表出部分の研出しを行う。3.表出作業後にアクリル系樹脂を塗布する。

44 ○名　　称　埴輪 盾
○時　　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　幅42.0㎝　高110.0㎝
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1.接合・補填された部分を水・溶剤などを用いて解体する。2.クリーニングする。3.破断面を膠水で保護し、接着剤としてエポキシ系樹脂を使用して破損箇所を接合する。4.欠損部分は各種粘土粉末を補填し、復原する。接合部の僅かな隙間はエポキシ系樹脂を補填する。5.補填部分については、膠水で溶いた顔料などで違和感のない程度に補彩する。(平成21年度は3から)

45 ○名　　称　須恵器 甕
○時　　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　　質　陶製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高21㎝、口径15㎝
○施工会社　株式会社東都文化財保存研究所
○修理内容　1.解体する。2.接着剤や汚れをクリーニングする。3.セルロース系樹脂で接合する。4.エポキシ系樹脂により補填・復元する。5.アクリル系絵具で補彩する。(平成21年度は3まで)

46 ○名　　称　瓢形壺
○時　　代　弥生
○年代世紀　前2～前1c
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高23.5、口径4.5㎝
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1.解体する。2.接着剤や汚れをクリーニングする。3.エポキシ系樹脂で接合する。4.硬石膏やエポキシ系樹脂、各種粘土粉末により補填・復元する。5.アクリル系樹脂を媒剤とした各種粘土粉末や顔料で補彩する。(平成21年度は3まで)

47 ○名　　称　瓢形壺
○時　　代　弥生
○年代世紀　前2～前1c
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高22.5㎝、口径5㎝

○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1.解体する。2.接着剤や汚れをクリーニングする。3.エポキシ系樹脂で接合する。4.硬石膏やエポキシ系樹脂、各種粘土粉末により補填・復元する。5.アクリル系樹脂を媒剤とした各種粘土粉末や顔料で補彩する。（平成21年度は3まで）

48 ○名　称　深鉢形土器
○時　代　縄文
○年代世紀　前2000～前1000年
○品　質　土製
○員　数　1個
○寸 法 等　高15㎝、口径15㎝
○施工会社　有限会社武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1.解体する。2.接着剤や汚れをクリーニングする。3.セルロース系樹脂で接合する。4.エポキシ系樹脂により補填・復元する。5.アクリル系絵具で補彩する。（平成21年度は3まで）

49 ○名　称　浅鉢形土器
○時　代　縄文
○年代世紀　前1000～前400年
○品　質　土製
○員　数　1個
○寸 法 等　高8㎝、口径27㎝
○施工会社　有限会社武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1.解体する。2.接着剤や汚れをクリーニングする。3.セルロース系樹脂で接合する。4.エポキシ系樹脂により補填・復元する。5.アクリル系絵具で補彩する。

50 ○名　称　銀象嵌鉄刀
○時　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　質　鉄・銀製
○員　数　1本
○寸 法 等　長75.9㎝、身幅3.1㎝
○施工会社　飛鳥工房
○修理内容　1.汚れをクリーニングする。2.脱塩処理を行う。3.表面を覆うさびの除去、全体の強化および象嵌部分の研出しを行う。4.エポキシ系樹脂により補填・復元する。5.アクリル系絵具で補彩する。（平成21年度は3の途中まで）

51 ○名　称　須恵器 高坏
○時　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　質　陶製
○員　数　1個
○寸 法 等　口径11.5㎝　高15.3㎝
○施工会社　有限会社武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1.接合・補填された部分を水・溶剤などを用いて解体する。2.クリーニングする。3.アクリル系樹脂で接合する。4.欠損部分はエポキシ系樹脂で補填・復原する。5.補填部分については、アクリル系絵具で違和感のない程度に補彩する。（平成21年度は4から）

52 ○名　称　注口土器
○時　代　縄文
○年代世紀　前2000～前1000年
○品　質　土製
○員　数　1個
○寸 法 等　高17㎝、最大幅21.5㎝
○施工会社　有限会社武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1.解体する。2.接着剤や汚れをクリーニングする。3.セルロース系樹脂で接合する。4.エポキシ系樹脂により補填・復元する。5.アクリル系絵具で補彩する。（平成21年度は3まで）

53 ○名　称　直刀・鍔・柄縁金具
○時　代　古墳
○年代世紀　7c
○品　質　鉄製
○員　数　1具
○寸 法 等　直刀長35.5㎝、身幅3㎝
○施工会社　株式会社東都文化財保存研究所
○修理内容　1.汚れをクリーニングする。2.脱塩処理を行う。3.アクリル系樹脂で強化する。4.エポキシ系樹脂により補填・復元する。5.アクリル系絵具で補彩する。

54 ○名　称　鉄鏃
○時　代　古墳
○年代世紀　7c
○品　質　鉄製
○員　数　30本
○寸 法 等　長2.5～12㎝
○施工会社　株式会社東都文化財保存研究所

〇修理内容　1.汚れをクリーニングする。2.脱塩処理を行う。3.アクリル系樹脂で強化する。4.エポキシ系樹脂により補填・復元する。5.アクリル系絵具で補彩する。

55 〇名　　称　鉄刀子
〇時　　代　古墳
〇年代世紀　7c
〇品　　質　鉄製
〇員　　数　1本
〇寸 法 等　長8cm、身幅1cm
〇施工会社　株式会社東都文化財保存研究所
〇修理内容　1.汚れをクリーニングする。2.脱塩処理を行う。3.アクリル系樹脂で強化する。4.エポキシ系樹脂により補填・復元する。5.アクリル系絵具で補彩する。

56 〇名　　称　土師器 坏
〇時　　代　古墳
〇年代世紀　6c
〇品　　質　土製
〇員　　数　1個
〇寸 法 等　高5.5cm、口径14cm
〇施工会社　有限会社武蔵野文化財修復研究所
〇修理内容　1.汚れをクリーニングする。2.エポキシ系樹脂により補填・復元する。3.アクリル系絵具で補彩する。

57 〇名　　称　土師器 坏
〇時　　代　古墳
〇年代世紀　6c
〇品　　質　土製
〇員　　数　1個
〇寸 法 等　高6cm、口径13.9cm
〇施工会社　有限会社武蔵野文化財修復研究所
〇修理内容　1.解体する。2.接着剤や汚れをクリーニングする。3.セルロース系樹脂で接合する。4.エポキシ系樹脂により補填・復元する。5.アクリル系絵具で補彩する。

58 〇名　　称　土師器 坏
〇時　　代　古墳
〇年代世紀　6c
〇品　　質　土製
〇員　　数　1個
〇寸 法 等　高5.7cm、口径13cm
〇施工会社　有限会社武蔵野文化財修復研究所
〇修理内容　1.解体する。2.接着剤や汚れをクリーニングする。3.セルロース系樹脂で接合する。4.エポキシ系樹脂により補填・復元する。5.アクリル系絵具で補彩する。

59 〇名　　称　土師器 坏
〇員　　数　1個
〇時　　代　古墳
〇年代世紀　6c
〇品　　質　土製
〇寸 法 等　高5.3cm、口径13.1cm
〇施工会社　有限会社武蔵野文化財修復研究所
〇修理内容　1.解体する。2.接着剤や汚れをクリーニングする。3.セルロース系樹脂で接合する。4.エポキシ系樹脂により補填・復元する。5.アクリル系絵具で補彩する。

60 〇名　　称　甕形土器
〇時　　代　続縄文
〇年代世紀　前2～前1c
〇品　　質　土製
〇員　　数　1個
〇寸 法 等　高18cm、口径15cm
〇施工会社　有限会社武蔵野文化財修復研究所
〇修理内容　1.接着剤や汚れをクリーニングする。2.エポキシ系樹脂により補填・復元する。3.アクリル系絵具で補彩する。

61 〇名　　称　台付甕形土器
〇時　　代　続縄文
〇年代世紀　前2～前1c
〇品　　質　土製
〇員　　数　1個
〇寸 法 等　残存高19cm、口径17cm
〇施工会社　有限会社武蔵野文化財修復研究所
〇修理内容　1.接着剤や汚れをクリーニングする。2.セルロース系樹脂で接合する。3.エポキシ系樹脂により補填・復元する。4.アクリル系絵具で補彩する。

62 ○名　　称　須恵器 高坏
○時　　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　　質　陶製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高14.7cm、口径11cm
○施工会社　株式会社東都文化財保存研究所
○修理内容　1.解体する。2.接着剤や汚れをクリーニングする。3.セルロース系樹脂で接合する。4.エポキシ系樹脂により補填・復元する。5.アクリル系絵具で補彩する。

63 ○名　　称　須恵器 高坏
○時　　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　　質　陶製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高17.5cm、口径12cm
○施工会社　株式会社東都文化財保存研究所
○修理内容　1.解体する。2.接着剤や汚れをクリーニングする。3.セルロース系樹脂で接合する。4.エポキシ系樹脂により補填・復元する。5.アクリル系絵具で補彩する。

64 ○名　　称　土師器 坏
○時　　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高5.5cm、口径11.5cm
○施工会社　株式会社東都文化財保存研究所
○修理内容　1.汚れをクリーニングする。2.エポキシ系樹脂により補填・復元する。3.アクリル系絵具で補彩する。

65 ○名　　称　須恵器 長頸壺蓋
○時　　代　古墳
○年代世紀　6c
○品　　質　陶製
○員　　数　1個
○寸 法 等　残存高3.3cm、口径12.3cm
○施工会社　株式会社東都文化財保存研究所
○修理内容　1.解体する。2.接着剤や汚れをクリーニングする。3.セルロース系樹脂で接合する。4.エポキシ系樹脂により補填・復元する。5.アクリル系絵具で補彩する。

66 ○名　　称　深鉢形土器
○時　　代　縄文
○年代世紀　前2000～前1000年
○品　　質　土製
○員　　数　1個
○寸 法 等　高24cm、口径16cm
○施工会社　有限会社武蔵野文化財修復研究所
○修理内容　1.解体する。2.接着剤や汚れをクリーニングする。3.セルロース系樹脂で接合する。4.エポキシ系樹脂により補填・復元する。5.アクリル系絵具で補彩する。

67 ○名　　称　銅矛
○時　　代　弥生
○年代世紀　前4c～前2c
○品　　質　青銅製
○員　　数　1本
○寸 法 等　現存部長25.3cm　復元長29.1cm
○施工会社　株式会社文化財ユニオン
○修理内容　1.汚れをクリーニングする。2.エポキシ系樹脂で接合する。3.エポキシ系樹脂により補填・復元する。4.アクリル系絵具で補彩する。

＜歴史資料＞(20件)

68 ○名　　称　中央階段《上野博物館 正面中央階段断面詳細》
○時　　代　明治
○年代世紀　19c
○品　　質　紙本墨画、彩色
○員　　数　1枚
○寸 法 等　42.3×45.4cm
○施工会社　有限会社山領絵画修復工房
○修理内容　1.裏打ち紙を除去する。2.表面に付着した汚れを除去する。3.ゴアテックスを用いて全体に均一に水分を与え、重しをかけ乾燥し、変形修正を行う。(平成21年度は2まで)

69 ○名　　称　《上野博物館 正側面1階窓詳細》

○時　代　明治
○年代世紀　19c
○品　質　紙本墨画、彩色
○員　数　1枚
○寸 法 等　79.6×51.8cm
○施工会社　有限会社山領絵画修復工房
○修理内容　1.裏打ち紙を除去する。2.表面に付着した汚れを除去する。3.本紙が裂けた部分には裏面から和紙で補強する。4.ゴアテックスを用いて全体に均一に水分を与え、重しをかけ乾燥し、変形修正を行う。(平成21年度は2まで)

70 ○名　称　UYENO MUSEUM DETAIL《上野博物館 背面1階小窓詳細》
○時　代　明治
○年代世紀　19c
○品　質　紙本墨画、彩色
○員　数　1枚
○寸 法 等　59.2×46.8cm
○施工会社　有限会社山領絵画修復工房
○修理内容　1.裏打ち紙を除去する。2.表面に付着した汚れを除去する。3.本紙が裂けた部分には裏面から和紙で補強する。4.ゴアテックスを用いて全体に均一に水分を与え、重しをかけ乾燥し、変形修正を行う。(平成21年度は2まで)

71 ○名　称　本家小屋組《上野博物館 母屋小屋組》
○時　代　明治
○年代世紀　19c
○品　質　紙本墨画、彩色
○員　数　1枚
○寸 法 等　60.4×74.5cm
○施工会社　有限会社山領絵画修復工房
○修理内容　1.裏打ち紙を除去する。2.表面に付着した汚れを除去する。3.本紙が折れた部分には裏面から和紙で補強する。4.ゴアテックスを用いて全体に均一に水分を与え、重しをかけ乾燥し、変形修正を行う。(平成21年度は2まで)

72 ○名　称　《上野博物館 木製建具断面詳細》
○時　代　明治
○年代世紀　19c
○品　質　紙本墨画、彩色
○員　数　1枚
○寸 法 等　48.4×95.2cm
○施工会社　有限会社山領絵画修復工房
○修理内容　1.裏打ち紙、足し紙を除去する。2.表面に付着した汚れを除去する。3.本紙が裂けた部分には裏面から和紙で補強する。4.ゴアテックスを用いて全体に均一に水分を与え、重しをかけ乾燥し、変形修正を行う。(平成21年度は2まで)

73 ○名　称　《上野博物館 主屋2階展示室床伏、床組詳細》
○時　代　明治
○年代世紀　19c
○品　質　紙本墨画、彩色
○員　数　1枚
○寸 法 等　60.0×88.8cm
○施工会社　有限会社山領絵画修復工房
○修理内容　1.裏打ち紙を除去する。2.表面に付着した汚れを除去する。3.濾過水を用いて水染みを洗浄し、軽減する。4.ゴアテックスを用いて全体に均一に水分を与え、重しをかけ乾燥し、変形修正を行う。(平成21年度は3まで)

74 ○名　称　《上野博物館 背面2階窓詳細》
○時　代　明治
○年代世紀　19c
○品　質　紙本墨画、彩色
○員　数　1枚
○寸 法 等　62.6×81.3cm
○施工会社　有限会社山領絵画修復工房
○修理内容　1.裏打ち紙を除去する。2.表面に付着した汚れを除去する。3.濾過水を用いて水染みを洗浄し、軽減する。4.本紙の裂けや穴の部分には裏面から和紙で補強する。5.ゴアテックスを用いて全体に均一に水分を与え、重しをかけ乾燥し、変形修正を行う。(平成21年度は3まで)

75 ○名　称　上野博物館背面二階窓下操形之精密図
○時　代　明治
○年代世紀　19c
○品　質　紙本墨画、彩色
○員　数　1枚
○寸 法 等　62.0×90.8cm
○施工会社　有限会社山領絵画修復工房
○修理内容　1.裏打ち紙を除去する。2.表面に付着した汚れを除去する。3.濾過水を用いて水染みを洗浄し、軽減する。4.ゴアテックスを用いて全体に均一に水分を与え、重しをかけ乾燥し、変形修正を行う。(平成21年度は3まで)

76 ○名　称　《上野博物館 翼屋階段室1階床伏》

○時　代　明治
○年代世紀　19c
○品　質　紙本墨画、彩色
○員　数　1枚
○寸 法 等　59.0×84.3cm
○施工会社　有限会社山領絵画修復工房
○修理内容　1.裏打ち紙および足し紙を除去する。2.表面に付着した汚れを除去する。3.濾過水を用いて水染みおよび褐色斑点を洗浄し、軽減する。4.本紙が折れた部分には裏面から和紙で補強する。5.ゴアテックスを用いて全体に均一に水分を与え、重しをかけ乾燥し、変形修正を行う。(平成21年度は3まで)

77 ○名　称　《上野博物館 翼屋階段室1階床伏》
○時　代　明治
○年代世紀　19c
○品　質　紙本墨画、彩色
○員　数　1枚
○寸 法 等　58.7×88.3cm
○施工会社　有限会社山領絵画修復工房
○修理内容　1.裏打ち紙および足し紙を除去する。2.表面に付着した汚れを除去する。3.ゴアテックスを用いて全体に均一に水分を与え、重しをかけ乾燥し、変形修正を行う。(平成21年度は2まで)

78 ○名　称　《上野博物館 正面玄関柱脚、柱頭詳細》
○時　代　明治
○年代世紀　19c
○品　質　紙本墨画、彩色
○員　数　1枚
○寸 法 等　62.8×97.0cm
○施工会社　有限会社山領絵画修復工房
○修理内容　1.裏打ち紙、足し紙を除去する。2.表面に付着した汚れを除去する。3.本紙が裂けた部分には裏面から和紙で補強する。4.ゴアテックスを用いて全体に均一に水分を与え、重しをかけ乾燥し、変形修正を行う。(平成21年度は3まで)

79 ○名　称　《上野博物館 正面2階ベランダ手摺親柱詳細》
○時　代　明治
○年代世紀　19c
○品　質　紙本墨画、彩色
○員　数　1枚
○寸 法 等　59.6×88.7cm
○施工会社　有限会社山領絵画修復工房
○修理内容　1.裏打ち紙を除去する。2.表面に付着した汚れを除去する。3.部分的に濾過水などを用いて水染みを洗浄し、軽減する。4.ゴアテックスを用いて全体に均一に水分を与え、重しをかけ乾燥し、変形修正を行う。(平成21年度は3まで)

80 ○名　称　《上野博物館 翼屋階段詳細》
○時　代　明治
○年代世紀　19c
○品　質　紙本、鉛筆
○員　数　1枚
○寸 法 等　93.5×56.7cm
○施工会社　有限会社山領絵画修復工房
○修理内容　1.裏打ち紙、足し紙を除去する。2.表面に付着した汚れを除去する。3.ゴアテックスを用いて全体に均一に水分を与え、重しをかけ乾燥し、変形修正を行う。(平成21年度は2まで)

81 ○名　称　《上野博物館 翼屋階段手摺詳細図》
○時　代　明治
○年代世紀　19c
○品　質　紙本、鉛筆
○員　数　1枚
○寸 法 等　55.1×66.4cm
○施工会社　有限会社山領絵画修復工房
○修理内容　1.裏打ち紙を除去する。2.表面に付着した汚れを除去する。3.本紙が折れた部分には裏面から和紙で補強する。4.ゴアテックスを用いて全体に均一に水分を与え、重しをかけ乾燥し、変形修正を行う。(平成21年度は2まで)

82 ○名　称　上野博物館内側壁基礎仕替方之図 Uyeno Museum
○時　代　明治
○年代世紀　19c
○品　質　紙本墨画
○員　数　1枚
○寸 法 等　57.5×97.7cm
○施工会社　有限会社山領絵画修復工房
○修理内容　1.裏打ち紙を除去する。2.表面に付着した汚れを除去する。3.足し紙を付け直して補強する。4.ゴアテックスを用いて全体に均一に水分を与え、重しをかけ乾燥し、変形修正を行う。(平成21年度は2まで)

83 ○名　称　《上野博物館 木製建具鏡板詳細》

○時　代　明治
○年代世紀　19c
○品　質　紙本墨画
○員　数　1枚
○寸 法 等　62.4×86.0cm
○施工会社　有限会社山領絵画修復工房
○修理内容　1.裏打ち紙、足し紙を除去する。2.表面に付着した汚れを除去する。3.本紙が裂けた部分には裏面から和紙で補強する。4.ゴアテックスを用いて全体に均一に水分を与え、重しをかけ乾燥し、変形修正を行う。(平成21年度は2まで)

84 ○名　称　Uyeno Exhibition《上野博物館 翼屋1階壁基部詳細》
○時　代　明治
○年代世紀　19c
○品　質　紙本墨画、彩色
○員　数　1枚
○寸 法 等　62.0×46.4cm
○施工会社　有限会社山領絵画修復工房
○修理内容　1.裏打ち紙を除去する。2.表面に付着した汚れを除去する。3.ゴアテックスを用いて全体に均一に水分を与え、重しをかけ乾燥し、変形修正を行う。(平成21年度は2まで)

85 ○名　称　上野博物館中真セリモチ外側石細工原寸之図
○時　代　明治
○年代世紀　19c
○品　質　紙本墨画、彩色
○員　数　1枚
○寸 法 等　57.8×53.4cm
○施工会社　有限会社山領絵画修復工房
○修理内容　1.裏打ち紙、足し紙を除去する。2.表面に付着した汚れを除去する。3.張り手を付け、仮張りに張り込み、変形修正を行う。(平成21年度は2まで)

86 ○名　称　《上野博物館 煉瓦壁隅部詳細》
○時　代　明治
○年代世紀　19c
○品　質　紙本墨画、彩色
○員　数　1枚
○寸 法 等　53.0×40.7cm
○施工会社　有限会社山領絵画修復工房
○修理内容　1.裏打ち紙を除去する。2.表面に付着した汚れを除去する。3.ゴアテックスを用いて全体に均一に水分を与え、重しをかけ乾燥し、変形修正を行う。(平成21年度は2まで)

87 ○名　称　《上野博物館 正面中央2階化粧柱下部詳細》
○時　代　明治
○年代世紀　19c
○品　質　紙本墨画、彩色
○員　数　1枚
○寸 法 等　57.4×48.3cm
○施工会社　有限会社山領絵画修復工房
○修理内容　1.裏打ち紙を除去する。2.表面に付着した汚れを除去する。3.ゴアテックスを用いて全体に均一に水分を与え、重しをかけ乾燥し、変形修正を行う。(平成21年度は2まで)

<和書>(2件)

88 ○名　称　頓医抄;巻1・2・5～8・11～23・31・32・35～42・45～49
○時　代　室町～江戸
○年代世紀　16～17ｃ
○品　質　紙本墨書
○員　数　17冊
○寸 法 等　24.7×16.6cm、(第11,12)25.5×18.5cm、(第13,14)27.2×17.5cm
○付 属 品　布貼帙
○施工会社　有限会社桂文化財修理工房
○修理内容　1.墨に膠水で剥落止めを行う。2.冊子装を解体する。3.虫糞除去、汚れ除去を行う。4.紙質検査をして補修紙を選定後、欠失部の補填を行う。ただし、周辺が著しく脆弱で補填のみでは強度を維持することが困難な場合は裏打ちを施す。5.新調した綴糸で製本する。題箋、ラベルは元の位置に貼り直す。6.二つの布貼帙を新調し、収める。(3ヵ年計画の3年目)

89 ○名　称　駿河国図
○時　代　江戸
○年代世紀　19c
○品　質　紙本着色、折仕立
○員　数　1鋪
○寸 法 等　139.5×270.5cm
○施工会社　株式会社墨仁堂
○修理内容　1.本紙の剥落止めを行った後、裏打ち紙を除去する。2.本紙の紙質に合わせた補修紙を作成し、欠損箇所に補紙を施す。3.美濃紙にて裏打ちを行う。4.表紙は補修して再使用する。5.もとの折り目で畳んで、表紙を取り付け、折り畳み装に仕立てる。(平成21年度は3から)

＜東洋絵画＞（1件）

90 ○名　　称　獅子図
○時　　代　明
○年代世紀　16c
○品　　質　絹本着色
○員　　数　1幅
○寸 法 等　123.0×198.0cm
○施工会社　株式会社文化財保存
○修理内容　1.掛幅装を解体し、剥落止めを施す。2.表打ちで画面を保護した後、旧裏打ち紙を除去する。3.欠失部に補絹、折れの生じる箇所に折れ伏せを施し、新たに裏打ちを行う。4.補絹部分に補彩を施す。5.表装裂、軸首を再使用し、元の掛幅装に仕立てる。6.桐製保存箱・太巻添軸などを新調して収める。（平成21年度は2途中から）

＜東洋書跡＞（2件）

91 ○名　　称　草書五言律詩軸
○時　　代　明
○年代世紀　17c
○品　　質　絖本墨書
○員　　数　1幅
○寸 法 等　165.0×47.3cm
○施工会社　株式会社文化財保存
○修理内容　1.剥落止めを施す。2.掛幅装を解体する。3.旧裏打紙を除去する。4.新たに裏打ちを行う。5.折れ伏せを施す。6.補絹に補彩を施す。7.表装裂を新調し、軸首を再使用し、元の掛幅装に仕立てる。8.八双金具は別保管し、太巻添軸、保存箱、布貼帙を新調して収める。（平成21年度は4から）

92 ○名　　称　篆書八言聯
○時　　代　清
○年代世紀　19c
○品　　質　紙本墨書
○員　　数　2幅
○寸 法 等　179.0×31.5cm
○施工会社　株式会社文化財保存
○修理内容　1.表装を解体する。2.裏打紙を除去する。3.濾過水を使用し洗浄する。4.墨、朱印に剥落止めを施す。5.本紙欠失部に補紙を施す。6.裏打ちを施す。7.補紙箇所に補彩を行う。8.表装裂、軸首などを新調し、元の掛幅装に仕立てる。9.太巻、桐製保存箱、布貼帙を新調する。（平成21年度は6の肌裏打ちまで）

＜東洋彫刻＞（6件）

93 ○名　　称　菩薩頭部
○年代世紀　7～8c
○品　　質　塑造、彩色
○員　　数　1個
○寸 法 等　高28.0cm
○施工会社　独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所
○修理内容　1.事前調査(X線CTスキャナーなど)を行う。2.表面を養生して、展示台から分離する。3.表面の養生を除去した後、最小限のクリーニングを行う。4.彩色層の剥落止めを行う。5.塑土の崩落が進行する部分に新たな塑土を充填する。6.展示台及び保存箱を作製する。（平成21年度は1まで）

94 ○名　　称　塑造悪鬼首
○時　　代　唐
○年代世紀　7～8c
○品　　質　塑造彩色
○員　　数　1個
○寸 法 等　高16.9cm、幅13.1cm
○施工会社　独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所
○修理内容　1.事前調査(X線CTスキャナーなど)を行う。2.表面を養生して解体し、石膏、接着剤などを除去する。3.表面の養生を除去した後、クリーニングを行う。4.彩色層の剥落止めを行う。5.塑土の崩落が進行する部分に新たな塑土を充填する。6.展示台及び保存箱を作製する。ただし、仕様については修理中に検討し決定する。（平成21年度は2から）

95 ○名　　称　化粧箱
○年代世紀　6c
○品　　質　木、象牙、皮革、雲母、紙
○員　　数　1個(4片)
○寸 法 等　蓋 22×14.1×4.9cm、身 ①21.5×7cm ②23×4.4cm ③14×5.8cm
○施工会社　山下好彦
○修理内容　1.表面のクリーニングを行う。2.剥離した雲母、皮革、紙などの部位の剥落止め、強化を行う。3.外れた木地の再接着を行う。4.作品の形状に合わせて保管展示台を作製する。（平成21年度は2の続きと4から）

96 ○名　　称　男神立像
○時　　代　アンコール
○年代世紀　12c
○品　　質　砂岩

○員　　数　1 躯
○寸 法 等　高 100.0cm
○施工会社　文化財修復工房「明舎」
○修理内容　1. 解体する。2. 埃など表面の汚れを除去する。3. 接合部に設置する補強用ステンレス棒および固定台を作製する。4. エポキシ系接着剤を用いて接合・組み立てを行う。5. 必要な箇所に充填を施す。（平成 21 年度は 3 まで）

97 ○名　　称　仮面
○年代世紀　前 2000～前 1000 年
○品　　質　木、漆、皮革
○員　　数　1 躯
○寸 法 等　高 10.8cm
○施工会社　山下好彦
○修理内容　1. 表面の汚れを毛棒を用いて除去する。2. 彩色層はセルロース誘導体を含浸させた後、膠と布海苔を用いて剥落止めを行う。また、皮革には膠を用いる。3. 外れた骨材の歯は膠などで接着する。4. 皮革の空隙部分を接着剤で強化する。5. 保管展示台および保存箱を作製する。（平成 21 年度は 3 まで）

98 ○名　　称　仏頭
○年代世紀　12～13c
○品　　質　乾漆製、漆箔
○員　　数　1 個
○寸 法 等　高 10cm、幅 7.3cm、奥 7.5cm
○施工会社　山下好彦
○修理内容　1. 表面の汚れを毛棒を用いて除去する。2. 必要に応じて漆塗膜を和紙と小麦粉澱粉糊を用いて養生する。3. 膠と布海苔を用いて漆塗膜の剥落止めを行う。4. 全体に漆固めを行う。5. 保管展示台を作製する。

＜東洋陶磁＞（2 件）
99 ○名　　称　白磁刻花文鉢
○時　　代　北宋
○年代世紀　11c
○品　　質　磁器
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 9.7cm、口径 32.8cm、底径 9.3cm
○施工会社　ますぶち工房
○修理内容　1. 解体する。2. クリーニングする。3. 再接合する。4. 欠損部は樹脂を補填する。5. 補填部分はまわりの色調にあわせ、補彩する。

100 ○名　　称　青磁鳳凰耳瓶
○時　　代　南宋～元
○年代世紀　13c
○品　　質　陶器
○員　　数　1 口
○寸 法 等　高 31.5cm、口径 11.7cm、底径 10.7cm
○施工会社　繭山隆司
○修理内容　1. 旧修理の補彩を除去する。2. 損傷部分があれば、必要に応じて欠損部分をアクリル樹脂等で接合・補填する。3. 補填部分を補彩する。

＜東洋漆工＞（1 件）
101 ○名　　称　楼閣人物螺鈿料紙硯箱
○時　　代　明
○年代世紀　17c
○品　　質　木製漆塗
○員　　数　2 合 1 具
○寸 法 等　料紙箱:縦 41.6cm、横 24.9cm、高 8.0 cm　硯箱:縦 26.5 cm、横 19.8 cm、高 5.7cm
○施工会社　山下好彦
○修理内容　1. 浮いている螺鈿をおさえる。2. 剥落した破片を接着する。3. 螺鈿の欠失部分は、周囲と色あわせをする。4. 全体に漆固めをして強化する。

＜東洋考古＞（4 件）
102 ○名　　称　金銅製魚神像
○時　　代　エジプト第 20～21 王朝
○年代世紀　前 12～前 10c
○品　　質　銅製鋳造
○員　　数　1 個
○寸 法 等　長 21.5 cm、総高 12.5cm
○施工会社　株式会社京都科学
○修理内容　1. クリーニングして、泥などの汚れを除去する。2. 防錆処理を行う。3. アクリル系樹脂を含浸して強化する。（平成 21 年度は 2 から）

103 ○名　　称　銅戈
○時　　代　石寨山文化
○年代世紀　前 3～前 2c
○品　　質　銅製
○員　　数　1 個
○寸 法 等　長 22.5 cm　高(胡を含む)21.3cm

○施工会社　株式会社京都科学
○修理内容　1. 白いサビ部分に注意しつつ、クリーニングして、泥などの汚れを除去する。2. 防錆処理を行う。3. アクリル系樹脂を含浸して強化する。（平成 21 年度は 3 から）

104 ○名　称　素環鏡板付轡
○時　代　三国
○年代世紀　6c
○品　質　鉄製鍛造
○員　数　1 組
○寸 法 等　長 22.0cm
○施工会社　株式会社東都文化財保存研究所
○修理内容　1. 汚れをクリーニングする。2. アクリル系樹脂で強化する。3. エポキシ系樹脂により接合・補填・復元する。4. アクリル系絵具で補彩する。

105 ○名　称　灰釉双耳壺
○年代世紀　1～2c
○品　質　陶器
○員　数　1 合
○寸 法 等　総高:27.1cm、身:高 25.2cm 口径 11.5cm 底径 17.0cm、蓋:高 3.7cm 径 10.0cm
○施工会社　陶磁器修復たま工房
○修理内容　1. 汚れをクリーニングする。2. アクリル系接着剤で接合する。3. 石膏や顔料等で補填・復元する。4. アクリル系絵具で補彩する。

＜館史資料(収蔵品外)＞（1 件）
106 ○名　称　重要雑録(明治 23 年)
○時　代　明治
○年代世紀　明治 23 年(1890)
○品　質　紙本墨書(一部インク)
○員　数　1 冊
○寸 法 等　28.8×19.3×5.0cm
○施工会社　有限会社東京修復保存センター
○修理内容　1. 冊子本を解装する。2. 各頁ごとに折れや皺をのばす。3. 劣化が著しい箇所に両面より典具帖による補強を行う。4. 欠失部分に漉き嵌めにて補紙を施す。5. 表紙は新調し、題箋、ラベルなどは再使用する。6. 封筒や付箋は、補紙等を施し、元の場所に貼り付ける。7. 冊子本に仕立てる。(平成 21 年度は 4 から)

【京都国立博物館】(5件)

＜絵画＞（4 件）
1　○名　称　故事山水図
○作　者　兪齢
○品　質　絹本
○員　数　2 幅対
○寸 法 等　158.2 cm×48 cm　158.8 cm×48 cm
○施工会社　有限会社　漢和堂
○修理内容　1. 本紙の旧裏打紙を除去する。2. 染みと汚れを取ること。3. 古絹で欠損を補修すること。4. 新たに天然絵具で適切に染めた紙で肌裏打をすること。5. 裂目と折れ目を補強すること。 6. 美栖紙にて増し裏を加固すること。7. 天然絵具にて作品を補色すること。8. 表装裂地について本紙と似合う特製裂地を用い、天然絵具で色染めと光沢調整を施す。9. 本紙と表装裂地を別々に仮張りに掛けて乾燥させること。10. 本紙と表装裂地の付きまわしを行なう。11. 生宣紙にて中裏と総裏を入れて、長期間の仮張りで十分に乾燥させること。12. 中国式一色軸装を仕立てすること。13. 布で作品を包み、一重桐箱（太巻付）に入れ保存収納すること。

2　○名　称　酔翁図
○作　者　瑞光
○品　質　紙本
○員　数　1 枚
○寸 法 等　32.7 cm×32.5 cm
○施工会社　有限会社　漢和堂
○修理内容　1. 表装紙にある須磨さんの題字を上巻に移すこと。2. 本紙の旧裏打紙を除去すること。 3. 染みと汚れを取ること。4. 新たに天然絵具で適切に染めた紙で肌裏打をすること。5. 生宣紙にて増し裏を入れる。6. 表装裂地について本紙と似合う特性裂地を用い、天然絵具で色染めと光沢調整を施す。7. 本紙と表装裂地を別々に仮張りに掛けて乾燥させること。 8. 本紙と表装裂地の付きまわしを行なう。9. 生宣紙にて中裏と総裏を入れて、長期間の仮張りで十分に乾燥させること。10. 中国式二色軸装を仕立てすること。11. 布で作品を包み、一重桐箱に入れ保存収納すること。

3　○名　称　斗方めくり
○作　者　王雲・蕭・・陳年
○品　質　紙本
○員　数　6 枚
○寸 法 等　29.6 cm×35.5 cm
○施工会社　有限会社　漢和堂
○修理内容　1. ばらになった折帖が全六枚あり、一つの封筒に収納されている状態。2. 本紙全体に染みと汚れ。3. 封筒に須磨さんの題字が書かれている。

4　○名　称　陣馬戯幕図
○作　者　張之溶

○品　　質　紙本
○員　　数　1幅
○寸 法 等　239.3㎝×59.3㎝
○施工会社　有限会社　漢和堂
○修理内容　1.題簽を修理後に貼り戻すこと。2.上巻の題字を修理後に総裏紙の下部に嵌め込むこと。3.本紙の旧裏打紙を除去すること。4.染みと汚れを取ること。5.欠損のところに古紙を使って穴埋めをすること。6.天然絵具で補色すること。7.新たに天然絵具で適切に染めた紙で肌裏打をすること。8.生宣紙にて増し裏を入れる。9.折目を補強すること。10.表装裂地について本紙と似合う特性裂地を用い、天然絵具で色染めと光沢調整を施す。11.本紙と表装裂地を別々に仮張りに掛けて乾燥させること。12.本紙と表装裂地の付きまわしを行なう。13.生宣紙にて中裏と総裏を入れて、長期間の仮張りで十分に乾燥させること。14.中国式一色軸装を仕立てすること。15.布で作品を包み、一重桐箱（太巻付き）に入れ保存収納すること。

＜考古＞（1件）

5　○名　　称　縄文土器深鉢　東京都東久留米市出土
○時　　代　縄文時代中期
○品　　質　土製
○員　　数　1口
○寸 法 等　高44.5㎝　口径36.5㎝
○施工会社　株式会社　京都科学
○修理内容　1.解体作業　2.クリーニング・強化作業　3.組立接合　4.復元作業　5.彩色　6.報告書作成（着手前・完了後写真撮影）

【奈良国立博物館】（11件）

＜絵画＞(2件)

1　○名　　称　絹本著色地蔵菩薩像　　1幅
○寸 法 等　縦92.1㎝　横38.1㎝
○施工会社　文化財保存
○修理内容　旧裏打紙を全て除去する。絵の具層に剥落止めの処置を行う。表面に濾過水を噴霧して画面全体の汚れを除去する。旧補絹は全て除去し、本紙料絹欠失部に補絹を施す。薄楮紙で肌裏紙を打ち替える。折れ伏せを入れて折れを直す。表装の裂れ、軸木、太巻添え軸および二重箱を新調。軸首は再使用。（継続2 年事業のうちの第２年）

2　○名　　称　絹本著色東大寺縁起
○寸 法 等　166.8×117.4㎝
○施工会社　文化財保存
○修理内容　剥落止め　折れ伏せ　上下軸取り替え　太巻軸添え軸が径が細すぎるために新調する。

＜書跡＞（2件）

3　○名　　称　清拙正澄筆　法語　　1幅
○寸 法 等　縦32.7㎝　横101.5㎝
○施工会社　文化財保存
○修理内容　軸装を解体し、肌裏紙以外の裏打紙を除去する。表面に濾過水を噴霧して画面全体の汚れを除去する。膠などの剥落止めを行う。欠失部に補紙を当てる。薄紙で肌裏紙を打ち替える。裏打ちを行う。軸首を再使用する。上下の軸木、紐などを新調して軸装に仕立てる。桐生太巻き軸、二重箱新調。（継続2 年事業のうちの第２年）

4　○名　　称　紙本墨書『慈鎮懐紙』　　1幅
○寸 法 等　縦32.6㎝　横57.6㎝
○施工会社　文化財保存
○修理内容　浮上り箇所の剥落止め　紐取り替え

＜彫刻＞(1件)

5　○名　　称　木造如来立像　　1躯
○寸 法 等　像高170.0㎝
○施工会社　財団法人美術院
○修理内容　背面裾周りの材質強化　木質表層が不安定な箇所のみを合成樹脂で補強する　後補の形状不適合な足はヒノキ材で新補する

＜漆工＞(1件)

6　○名　　称　黒漆大般若経厨子　附　大般若経　166巻
○施工会社　文化財保存
○修理内容　刺繍糸の剥落止めを行う。刺繍のほつれは補修糸をかける。肌裏打紙をあて本絹を補強する。折伏、虫蝕穴の繕いを行う。台紙貼、保存箱を新調する。

＜考古＞(5件)

7　○名　　称　金銅装眉庇付兜(五条猫塚古墳出土)　　1件
○寸 法 等　長30.0㎝　高22.0㎝　幅18.1㎝
○施工会社　元興寺文化財研究所
○修理内容　X線撮影による構造把握。理化学分析(蛍光X線など)。クリーニング。脱塩処理。錆の除去。鉄地に合成樹脂を塗布。遊離片の接着。小欠失部分の補填。金銅装の亀裂部分に樹脂による補強。頭頂飾の軸など欠失部分の作成、着装。（継続2年事業のうちの第２年）

8　○名　　称　縄文土器　壺（小野忠正コレクションのうち）　1個
○寸 法 等　口縁11.8㎝　現高19.3㎝
○施工会社　元興寺文化財研究所
○修理内容　古い接着剤・石膏などをすべて除去。その後接合復元する。

9　○名　　称　漆塗壺（小野忠正コレクションのうち）　　1個
　　○寸 法 等　現高10.0cm
　　○施工会社　元興寺文化財研究所
　　○修理内容　古い接着剤・セロテープをすべて取り除く。漆膜を安定化させた後、接合・復元する。

10　○名　　称　漆塗高杯（小野忠正コレクションのうち）　　1個
　　○寸 法 等　口径17.7cm　現高11.1cm
　　○施工会社　元興寺文化財研究所
　　○修理内容　古い接着剤などをすべて取り除き、漆膜を安定化させる処理をおこなう。その後、接合し、必要に応じて復元を行う。

11　○名　　称　二塚古墳出土金属製品等　　一括
　　金銅製品　24点　琥珀製棗玉　1個
　　○施工会社　元興寺文化財研究所
　　○修理内容　クリーニング　脱塩処理、樹脂含浸　接合　樹脂塗布による強化　防錆処理　一部復元。琥珀製棗玉はクリーニング接合　アクリル樹脂含浸(継続2年事業のうちの第1年)

【九州国立博物館】（24件）

＜絵画＞（6件）

1　○名　　称　旧円満院宸殿障壁画　8面（48面11枚のうち）（19年度より継続・6ヵ年計画）
　　○所 蔵 者　京都国立博物館
　　○時　　代　江戸時代・17世紀
　　○品　　質　紙本金地著色
　　○寸 法 等　花鳥図（No.10～13）各縦178.7cm　横93.8cm
　　伯顔相如渡梅関図（No.14～17）各縦178.7cm　横93.8cm
　　○施行会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
　　○修理内容　1.京都国立博物館内にて運搬の為の仮剥落止を行なう。2.九州国立博物館にて写真撮影を行い、修理前の状態を調査・記録する。3.解体前の絵具層の剥落止を行なう。4.襖装を解体する。5.精製水にて表面の汚れ等を除去する。6.布苔糊にて絵具層を保護するため表打ちを行なう。7.本紙の旧裏打紙、旧補紙を除去する。8.本紙欠失箇所には補修紙にて補紙を施す。9.本紙の色合いに合わせて、染薄美濃紙にて肌裏を打つ。10.楮紙にてさらに裏打紙を打つ。11.表打ちの紙を除去する。12.襖貼付装及び張台構貼付装には、杉材を用い総枘組隅止めとした下地を員数分新調する。腰障子貼付装には腰障子1枚、舞良戸貼付装には舞良戸2枚を各新調する。13.下地には両面に8層、腰障子及び舞良戸には片面に5層の下貼りを施し、よく乾燥させる。14.補紙の箇所に補彩を行う。15.下貼が完了した下地、腰障子、舞良戸にそれぞれ本紙を上貼りする。下地の裏面には新調の鳥の子紙を貼る。16.最終的な絵具層の剥落止を行なう。17.引手は元のものを修理し用いる。18.襖貼付装及び張台構貼付装は漆塗襲木を新調し仕立てる。腰障子貼付装、舞良戸貼付装は新調の四分一を取り付け、それぞれの形式に仕立てる。（※平成21年度は襖貼付装8面について2～18を施工）

2　○名　　称　九相詩絵巻　1巻（20年度より継続・2ヶ年計画）
　　○時　　代　室町時代・16世紀
　　○品　　質　紙本著色、表紙：茶無地裂、見返：無地紙、軸首：頭切木軸
　　○寸 法 等　横29.0cm
　　第1紙）縦45.2cm　第2紙）縦45.7cm　第3紙）縦45.7cm　第4紙）縦44.7cm　第5紙）縦45.6cm　第6紙）縦46.0cm
　　第7紙）縦45.9cm　第8紙）縦46.7cm　第9紙）縦46.0cm　第10紙）縦46.0cm　第11紙）縦46.0cm　第12紙）縦46.3cm
　　第13紙）縦46.3cm　第14紙）縦46.3cm　第15紙）縦45.7cm　第16紙）縦44.0cm　第17紙）縦46.5cm　第18紙）縦43.7cm
　　第19紙）縦29.2cm　第20紙）縦45.6cm　第21紙）縦42.3cm
　　○施行会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
　　○修理内容　1.写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。2.表紙を取り外し、本紙の継ぎを外す。3.膠水溶液にて絵具層の剥落止を行う。4.本紙の旧裏打紙を除去する。5.補修紙を作成する。6.本紙欠失箇所に、上記補修紙にて補紙を施す。7.染色した楮紙にて肌裏を打つ。8.美栖紙にて増裏を打つ。9.楮と雁皮の混合紙にて総裏を打ち、仮張りする。10.補紙を施した箇所に補彩を施す。11.表紙、見返、紐を新調する。軸首は元のものを使用する。12.軸巻、中軸、八双を新調し、充分乾燥された本紙を仮張りより取り外し、錯簡を正して全紙を継ぎ合わせ、巻子装に仕立てる。13.桐太巻添軸、桐屋郎箱を各新調し、羽二重の包裂に包み納入する。（※平成21年度は8～13を施工）

3　○名　　称　浄土曼荼羅図　1幅（20年度より継続・2ヶ年計画）
　　○時　　代　鎌倉時代・13世紀
　　○品　　質　絹本著色、掛軸装、中廻：藍菱金地大牡丹唐草文金襴、総縁：丹地牡丹唐草文銀欄
　　○寸 法 等　本紙）縦128.5cm　横123.6cm　　表装）縦195.4cm　横137.3cm
　　○施行会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
　　○修理内容　1.写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。 2.本紙の旧裏打紙を肌裏紙を残して除去する。 3.浄化水を表面から噴霧し、浸透させる方法で汚れを出来る限り除去する。 4.布海苔を用い、養生紙にて表打を行う。 5.旧肌裏紙及び旧補絹を除去する。 6.本紙裏面より料絹欠失箇所に劣化絹にて補絹を行う。 7.本紙の色合いに合わせて、染薄美濃紙にて肌裏を打つ。 8.表打の養生紙を除去する。 9.表装裂地は支給の裂地を調整し、肌裏を打つ。10.美栖紙にて増裏打を行い、仮張りをする。11.折れ伏せを入れ、折れを直す。12.仮張りされた本紙と表装裂地を軸装の形に付け廻しをする。13.美栖紙にて中裏打を行い、仮張りをする。14.宇陀紙にて総裏打を行い、仮張りし充分な乾燥期間をおく。15.補絹の箇所に補彩をする。16.軸首は元のものを使用し、軸木、発装、啄木等を新調し軸装に仕立てる。17.桐太巻添軸1本、桐屋郎箱1合を新調し、羽二重の包裂に包み納入する。

4　○名　　称　洛中洛外図屏風　6曲1双（20年度より継続・2ヶ年計画）
　　○時　　代　江戸時代・17世紀
　　○品　　質　紙本金地著色、縁裂：藍地唐花唐草文銀襴、小縁裂：茶地唐草文金襴
　　裏貼紙：鼠地花菱繋ぎ雀文唐紙、襲木：黒漆塗
　　金物：唐草に輪違文金鍍金金物（2ヶ所別文様、1ヶ所破損）
　　○寸 法 等　各縦155.0cm　横354.6cm（右左隻同寸）
　　○施行会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部

○修理内容　1.写真撮影を行い、修理前の状態を調査・記録する。2.屏風装を解体する。3.表面の汚れ等を除去する。4.絵具層の剥落止を行う。5.本紙の旧裏打紙を除去する。6.本紙欠失箇所には補修紙にて補紙を施す。7.本紙の色合いに合わせて、染薄美濃紙にて肌裏を打つ。8.楮紙にてさらに裏打紙を打つ。9.縁裂は支給の裂地を調整し、肌裏を打つ。10.杉材を用い総納組隅止めとした下地を12枚新調する。11.両面に8度下貼りを施し、よく乾燥させる。12.補紙の箇所に補彩を行う。13.下地に本紙及び縁裂を上貼りする。裏には新調の唐紙を貼る。14.不揃いの金物を2ヶ所、欠失の丸鋲を1ヶ所新調し、その他のものは調整する。15.漆塗襲木を新調し、屏風装に仕立て、包裂に納入する。(※平成21年度は9～15を施工)

5　○名　　称　交易船図巻　1巻（21年度より継続・2ヶ年計画）
○時　　代　江戸時代・18世紀
○品　　質　紙本著色、表紙：萌黄地小牡丹唐草文緞子、見返：金箔紙、軸首：木製印可軸
○寸 法 等　縦32.0㎝
第1紙）横92.1㎝　第2紙）横92.5㎝　第3紙）92.5㎝　第4紙）横92.1㎝　第5紙）横93.1㎝　第6紙）92.3㎝
第7紙）横91.2㎝　第8紙）横93.0㎝　第9紙）92.7㎝　第10紙）横92.5㎝　第11紙）横92.0㎝　第12紙）74.0㎝
○施行会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
○修理内容　1.写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。2.表紙を取り外し、本紙の継ぎを外す。3.膠水溶液にて絵具層の剥落止を行う。4.浄化水を表面から噴霧し、浸透させる方法で汚れを出来る限り除去する。5.本紙の旧裏打紙を除去する。6.補修紙を作成する。7.本紙欠失箇所に、上記補修紙にて補紙を施す。8.本紙天地の端口を保護するために、生漉和紙にて細い縁をつける。9.染色した楮紙にて肌裏を打つ。10.美栖紙にて増裏を打つ。11.楮と雁皮の混合紙にて総裏を打ち、仮張りする。12.補紙を施した箇所に補彩を施す。13.表紙、見返、紐を新調する。軸首は元のものを使用する。14.軸巻、中軸、八双を新調し、充分乾燥された本紙を仮張りより取り外し、全紙を継ぎ合わせ、巻子装に仕立てる。15.桐太巻添軸、桐屋郎箱を各新調し、羽二重の包裂に包み納入する。(※平成21年度は1～5及び6、7の各50%を施工)

6　○名　　称　田能村竹田関係資料　2幅（13件24幅のうち）
○所 蔵 者　大分市美術館
○時　　代　A.江戸時代・天保3年（1832）　B.江戸時代・文政9年（1826）～天保元年1830
○品　　質　紙本淡彩、掛軸装
○寸 法 等　A.本紙）縦114.0㎝　横31.0㎝　B.本紙）縦92.6㎝　横30.8㎝
○施行会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
○修理内容　A.桃花流水図
1.写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。2.本紙周囲に廻っている筋を切り、表装裂から本紙を取り外す。3.水に対しての堅牢度を確認し、兎膠水溶液にて剥落止めを行う。4.吸い取り紙の上で浄水を全体に噴霧し本紙の汚れを吸い取り紙に移し取る方法でクリーニングを行う。蒸留水、純水は必要箇所にのみ使用する。5.レーヨン紙を画面の保護として水で張り付け、肌裏紙の除去を行う。6.肌裏除去後に補紙の必要箇所が認められた場合は、同質の画仙紙にて補紙を行う。7.小麦粉澱粉糊を用いて楮紙にて肌裏打ちを行う。8.表装裂の肌裏紙を取り替える。9.増裏を打ち、折れ伏せを入れる。10.付廻しを施す。11.中裏打ちを行う。12.総裏打ちを行う。13.補紙に補彩を施す。14.太巻添軸、屋郎箱を新調する。
B.冬籠図
1.写真撮影を行い、修理前の状態を調査・記録する。2.仮張りのために全体（表装裂を含む）に湿りを与える。シミの様子を確認しながら吸い取り紙に吸着させる等によりシミを取り除く。3.仮張りし、十分に乾燥期間を置く。

＜書跡＞（1件）

7　○名　　称　大燈国師墨蹟〈上堂語／（凩墨蹟）〉　1幅（21年度より継続・2ヶ年計画）
○時　　代　鎌倉時代・14世紀
○品　　質　紙本墨書、掛軸装、上下：浅葱地無地裂、中縁：白茶地小牡丹唐草文金襴
一文字風帯：茶地二重蔓大牡丹唐草文金襴、軸：黒檀頭切軸
箱：(1)引蓋差込み箱（外箱）　(2)屋郎箱（中箱）　(3)革帙付漆塗被蓋箱（内箱）
○寸 法 等　本紙）縦30.4㎝　横87.2㎝
○施行会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
○修理内容　1.写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。2.軸装を解体し、本紙及び表装裂地の旧裏打紙を除去する。3.本紙の旧補修紙を除去する。4.本紙繊維に類似した補修紙を製作する。5.本紙欠失箇所に、上記補修紙にて補紙を行う。6.本紙の色合いに合わせ、染薄美濃紙にて肌裏を打つ。7.表装裂地は元のものを調整し、肌裏を打つ。8.美栖紙にて増裏打を行い、仮張りをする。9.折れ伏せを入れ折れを防ぐ。10.仮張りされた本紙と表装裂地を軸装の形に付け廻しをする。11.美栖紙にて中裏打を行い、仮張りをする。12.宇陀紙にて総裏打を行い、仮張りし充分な乾燥期間をおく。13.軸首は元のものを使用、中軸、発装、啄木等を新調して軸装に仕立てる。14.元の中箱(2)に収まるように桐太巻添軸及び軸受を新調する。15.修理完了の本紙を羽二重の包裂に包み元の中箱(2)及び外箱(1)に納入する。16.元の内箱(3)は本体の損傷箇所及び革帙を補修し、紙帙で覆い別置する。(※平成21年度は1・2を施工)

＜彫刻＞（2件）

8　○名　　称　木造韋駄天立像　1躯
○所 蔵 者　長崎　興福寺
○時　　代　江戸時代・17世紀
○品　　質　木造(樹種不明)、寄木造、布貼り、金箔及び彩色仕上げ、肉身部金色
○寸 法 等　像高約180.0㎝
○施行会社　財団法人美術院
○修理内容　1.像全体に付着する埃は、刷毛・筆等で除去を行う。2.兜に被せられた宝冠の取り付けは、正しい位置での安定をはかる。遊離する龍2匹は、要すれば、見易い位置に修整をはかる。3.像全体に浮き上がる金箔及び彩色は、メチルセルロース・樹脂等で、本尊移動時に剥落が生じない程度に、応急の剥落止めを施す。4.左腰部の体から遊離する天衣は、一旦取り離し、正しい位置に膠で接合する。5.脱落し別保存されている天衣は、途中離れている箇所を膠で接合する。本躰への取り付けは本尊移動を考慮し、脱着可能な仕様を修理時の知見により検討する。

9　○名　　称　木造薬師如来坐像　1躯
○所 蔵 者　大日寺（滋賀県立琵琶湖文化館寄託）
○時　　代　平安時代
○品　　質　木造

○寸 法 等　像高 110.6㎝
○施行会社　財団法人美術院
○修理内容　1.像全体におよぶ経年の埃・汚れは、筆・刷毛等で払い、精製水あるいは、濃度の低いメチルセルロースでクリーニングを行う。2.虫蝕朽損が著しく、木質が劣化している箇所で、移動に際し危険を伴う箇所は、メチルセルロースおよびアクリル樹脂（商品名パラロイドB72）で木質強化を図る。但し、樹脂に濡れ色が出ないよう留意して行う。

＜漆工＞（2件）

10 ○名　　称　山水樹下牽牛螺鈿硯箱　1合
○時　　代　中国・明時代・15世紀
○品　　質　木製漆塗、螺鈿
○寸 法 等　縦33.5㎝　横54.5㎝　高12.5㎝
○施行会社　輪島口漆工藝社
○修理内容　1.修理前状態の記録と調査; 現状を蓋甲面、蓋裏面、身内面、底面毎に写真撮影し、原寸大または必要に応じては拡大写真を作成し、写真上に破損状況（割れ、浮き、欠損等）を記録する。2.養生；調査記録と同時に、剥落の恐れのある箇所に、薄美濃紙の小片を糊付けして、作業中の塗膜片の剥落を防止する。3.清掃洗浄；塗膜表面が汚れている場合は、水、エタノール、希アンモニア水（アンモニア1%程度）、苛性ソーダ液（濃度1%程度）トルエン等を含ませた綿棒にて拭き取る。4.木地の破損箇所に糊漆を詰め、治具で固定して固着する。陥没箇所には、刻苧漆、錆漆で整形し、周囲と調和した色、艶に薄く漆を塗り込んで傷を目立たなくする。5.乖離塗膜、貝片の接着；塗膜の割れ、浮き、反り返り等のある箇所へ、リグロインで希釈した上質の生漆を注入し、芯張り方法によって圧力をかけ、塗膜を可能な限り当初の形状へと復して固着する。ただし、貝の裏に漆が染みて変色する恐れがある場合は、希釈漆液を用いず、膠液を浸ませて、低温の電気鏝で圧着する方法を用いる。芯張りの圧力によって、器胎に変形や破損の恐れがある場合は、あらかじめこれを予防する治具を製作しこれを用いる。6.際錆；塗膜の欠損、割れ等で段差が生じた箇所には、際錆（きわさび）を施し、引っかかりを防ぐ。際錆は砥の粉に生漆等を調合する。大きな欠損あるいは深い陥没等には、刻苧で整形したのちに錆をする。7.摺漆による塗膜強化；洗浄ならびに浮きや割れ等の処理が済んだ後に上質の生漆を摺漆し、浸透させて塗膜表面の強化を行う。漆塗膜の艶、色調等を調整するために生漆に透き漆や黒漆を少量混合する場合がある。（※3～7の工程は、各部分に分別して順次おこない、状況によって工程の順序が前後する場合がある。）8.修理後の状態記録；修理後の状態を写真撮影し、修理前と対比できるように報告書を作成する。

11 ○名　　称　青貝螺鈿フリーメーソン箱　1対（2合）
○時　　代　江戸時代・19世紀
○品　　質　木製漆塗、螺鈿、蒔絵
○寸 法 等　甲）縦35.6㎝　横43.4㎝　高8.4㎝　　乙）縦35.6㎝　横43.5㎝　高8.4㎝
○施行会社　輪島口漆工藝社
○修理内容　1.修理前状態の記録と調査；現状を天板上面、側面、底面毎に写真撮影し、原寸大または必要　に応じては拡大写真を作成し、写真上に破損状況（割れ、浮き、欠損等）を記録する。2.養生；調査記録と同時に、剥落の恐れのある箇所に、薄美濃紙の小片を糊付けして、作業中の塗膜片の剥落を防止する。3.構造的破損の復元、固定；木地構造を解明するために、必要があれはＸ線透過撮影やＣＴスキャンを行い内部構造を把握する。木地の接合部の割れ等に、糊漆を注入し、治具クランプ等にて固定し、接合部の固着を図る。4.清掃洗浄；塗膜表面を水、エタノール、希アンモニア水、溶剤等を含ませた綿棒にて拭き取り洗浄する。5.ひび割れの充填、補彩；大きなひび割れは、刻苧を充填したのちに錆付け、錆研ぎをして整形する。その後に色調、艶を調整した漆を薄く塗り、周囲との調和を図る。6.摺漆による塗膜強化；洗浄ならびに浮きや割れ等の処理が済んだ後に、上質の生漆を摺漆し浸透させて塗膜表面の強化を行う。漆塗膜の艶、色調等を調整するために生漆に透き漆や黒漆を少量混合する場合がある。7.修理後の状態記録；修理後の状態を写真撮影し、修理前と対比できるように報告書を作成する。

＜考古＞（9件）

12 ○名　　称　前輪・後輪（新羅古墳資料のうち）　1件（20年度より継続・4ヶ年計画）
○時　　代　朝鮮・三国時代・6世紀
○品　　質　金銅製
○寸 法 等　前輪）覆輪幅1.4㎝　磯金具厚2.5㎝　後輪）覆輪幅1.4㎝
○施行会社　株式会社芸匠
○修理内容　1.観察・記録；修理前の状態及びＸ線写真を撮影し記録する。2.クリーニング（一次）；対象資料の現状を把握し、埃や錆等のクリーニングをおこなう。3.脱塩処理；純水を定期的に交換しながら、採取した水の陰イオンがイオンメータで測定し0ppmに近くなるまで脱塩処理をおこなう。4.防錆処理；ベンゾトリアゾールのアルコール溶液に含浸する。含浸後一定期間乾燥させる。5.クリーニング（二次）；仕上げの錆取り作業をおこなう。6.樹脂含浸；アクリル樹脂を含浸させる。7.接合・樹脂強化；接合及び脆弱箇所に、アクリル樹脂で接合後、エポキシ樹脂を充填し補強をおこなう。8.安定台座作製；資料の形状に合わせ安定台座を製作し、資料を安定させる。9.補彩；修理箇所にアクリル絵具で補彩を施す。10.観察・記録；修理後の状態を撮影し記録する。

13 ○名　　称　磨製石剣　1振
○所 蔵 者　啓明大学校（韓国）
○時　　代　朝鮮・青銅器時代
○品　　質　石製
○寸 法 等　長52.0㎝
○施行会社　株式会社芸匠
○修理内容　1.観察・記録；修理前の状態を撮影し記録する。2.クリーニング；対象資料の現状を把握し、古い接着剤のカスや塵等接合の際に妨げになる物を除去してクリーニングをおこなう。3.樹脂含浸；破断面をパラロイドB72（アセトン希釈：5%程度）にて塗布含浸強化する。この際、塗布を接合箇所のみに限定し、他の箇所に極力薬剤が着かない様に注意して作業をおこなう。4.接合；エポキシ樹脂系接着材（エポキシ及びポリチオール化学反応形）にて接合を行う。5.充填強化；接合部分の溝をエポキシ樹脂（アラルダイトXNR.XNH6504）で充填補強をおこなう。この際、補強箇所がなるべく目立たない様に、必要最低限の補強にとどめる。6.補彩；修理箇所に補彩を施す。7.観察・記録；修理後の状態を撮影し記録する。

14 ○名　　称　銅矛　1振
○所 蔵 者　東京国立博物館
○時　　代　弥生時代
○品　　質　青銅製

○寸 法 等　現存部長 25.3㎝　復元長 29.1㎝
○施行会社　株式会社文化財ユニオン
○修理内容　1.観察・記録；修理前の状態を撮影し記録する。2.洗浄；アセトンにて折損面の接着剤のクリーニングを行う。3.接合・組立；エポキシ樹脂（アラルダイト）にて折損部を接合、破片を接着する。4.補填；接合面に若干見られた空隙部をエポキシ樹脂にて充填する。5.補彩；主として充填部に補彩・調整を施す。

15 ○名　　称　剣菱形杏葉・ｆ字形鏡板（山ノ神古墳出土遺物のうち）　3点
○時　　代　古墳時代・5世紀
○品　　質　鉄地金銅張
○寸 法 等　剣菱形杏葉　A）全長 23.5㎝　幅 10.5㎝　立聞長 2.0㎝　幅 3.0㎝　B）全長 28.0㎝　幅 13.5㎝　立聞長 4.0㎝　幅 4.0㎝
ｆ字形鏡板）全長 17.5㎝　高 8.0㎝
○施行会社　株式会社芸匠
○修理内容　1.観察・記録；修理前の状態を撮影し記録する、必要があればX線写真を撮影する。2.クリーニング（一次）；対象資料の現状を把握し、埃や錆等のクリーニングをおこなう。3.脱塩処理；純水を定期的に交換しながら、採取した水の陰イオンがイオンメータで測定し0ppmに近くなるまで脱塩処理をおこなう。4.防錆処理；ベンゾトリアゾールのアルコール溶液に含浸する。含浸後一定期間乾燥させる。5.クリーニング（二次）；仕上げの錆取り作業をおこなう。6.樹脂含浸；アクリル樹脂を含浸させる。7.接合・樹脂強化；接合及び脆弱箇所に、アクリル樹脂で接合後、エポキシ樹脂を充填し補強をおこなう。8.補彩；修理箇所にアクリル絵具で補彩を施す。9.観察・記録；修理後の状態を撮影し記録する。

16 ○名　　称　鞍金具・楕円形杏葉・鉄地金銅張金具（箕田丸山古墳出土遺物のうち）　4点
○時　　代　古墳時代・6世紀
○品　　質　鉄地金銅張
○寸 法 等　鞍金具）残存長 18.0㎝　幅 10.0㎝　楕円形杏葉）身：縦 7.5㎝　幅 10.5㎝　立聞：縦 1.5㎝　幅 2.5㎝
鉄地金銅張金具　A）長 7.5㎝　短 4.0㎝　B）長 7.0㎝　短 3.7㎝
○施行会社　株式会社芸匠
○修理内容　1.観察・記録；修理前の状態を撮影し記録する、必要があればX線写真を撮影する。2.クリーニング（一次）；対象資料の現状を把握し、埃や錆等のクリーニングをおこなう。3.脱塩処理；純水を定期的に交換しながら、採取した水の陰イオンがイオンメータで測定し0ppmに近くなるまで脱塩処理をおこなう。4.防錆処理；ベンゾトリアゾールのアルコール溶液に含浸する。含浸後一定期間乾燥させる。5.クリーニング（二次）；仕上げの錆取り作業をおこなう。6.樹脂含浸；アクリル樹脂を含浸させる。7.接合・樹脂強化；接合及び脆弱箇所に、アクリル樹脂で接合後、エポキシ樹脂を充填し補強をおこなう。8.補彩；修理箇所にアクリル絵具で補彩を施す。9.観察・記録；修理後の状態を撮影し記録する。

17 ○名　　称　経巻（銅製経筒のうち）　1巻
○時　　代　平安時代
○品　　質　紙本墨書、裏打ち・表紙・見返し・軸首・箱なし
○寸 法 等　縦 21.0㎝
第1紙）横 40.0㎝　第2紙）横 42.5㎝　第3紙）43.0㎝第4紙）横 43.5㎝　第5紙）横 43.0㎝　第6紙）43.0㎝　第7紙）横 44.0㎝
第8紙）横 44.0㎝　第9紙）43.5㎝　第10紙）横 43.0㎝　第11紙）横 44.0㎝　第12紙）43.5㎝　第13紙）横 44.0㎝　第14紙）横 43.5㎝
第15紙）43.5㎝　第16紙）横 42.0㎝　第17紙）横 43.0㎝　第18紙）43.0㎝　巻末紙）横 39.0㎝
○施行会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
○修理内容　1.写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。2.本紙の継ぎを外し、整形する。3.軽度の湿りを与えてプレスし、折れ皺を直す。4.本紙繊維に類似した補修紙を製作する。5.本紙欠失箇所に、上記補修紙にて補紙を施す。6.本紙を元通り継ぎ合わせ、元の巻子装に仕立てる。7.補紙を施した箇所に補彩を施す。8.仮表紙及び仮巻を新調する。9.桐屋郎箱を新調し、羽二重の包裂に包み納入する。

18 ○名　　称　眉庇付冑（立飾り部分）（稲童21号墳出土品のうち）　1点
○所 蔵 者　行橋市教育委員会
○時　　代　古墳時代中期
○品　　質　金銅製
○寸 法 等　長 15.5㎝
○施行会社　株式会社芸匠
○修理内容　1.観察・記録；修理前の状態を撮影し記録する。2.クリーニング；対象資料の現状を把握し、接合部分の埃等を刷毛やブラシを使用してクリーニングする。3.接合・樹脂強化；外れた部分をエポキシ樹脂系接着剤で接合後、接合部分の補強のため和紙で裏打ちをおこなう。裏打ちの接着剤にはパラロイドB72（アセトン希釈：15%）を用いる。歩揺は接合箇所が分からない物に関しては接合箇所を記録して任意の場所に接合する。4.補彩；欠損修理箇所にアクリル絵具で補彩を施す。5.観察・記録；修理後の状態を撮影し記録する。

19 ○名　　称　福岡県藤崎遺跡出土　壺形土器（資料番号 No.zz5582）　1点
○所 蔵 者　九州大学
○時　　代　弥生時代
○品　　質　土製
○施行会社　株式会社芸匠
○修理内容　1.観察・記録；修理前の状態を撮影し記録する。2.解体・クリーニング；対象資料の現状を把握し、溶剤（アセトン）で剥離片を解体する。その後剥離面（接合面）を刷毛や溶剤（アセトン）でクリーニングする。3.樹脂含浸；剥離面をパラロイドB72（アセトン希釈：5%）にて塗布含浸強化する。4.接合；パラロイドB72（アセトン希釈：15%）にて再接合をおこなう。5.樹脂充填；接合部分にエポキシ樹脂（XN6504）を充填し強化する。6.補彩色；修理箇所に補彩色を施す。7.観察・記録；修理後の状態を撮影し、報告書を作成する。

20 ○名　　称　福岡県番塚古墳出土　鳥形はそう（資料番号 No.zz5589）　1点
○所 蔵 者　九州大学
○時　　代　古墳時代
○品　　質　陶製
○施行会社　株式会社芸匠
○修理内容　1.観察・記録；修理前の状態を撮影し記録する。2.クリーニング；対象資料の現状を把握し、刷毛や溶剤（アセトン）等で剥離面のクリー

ニングをおこなう。3.樹脂含浸；剥離面をパラロイドB72（アセトン希釈：5%）にて塗布含浸強化する。4.接合；パラロイドB72（アセトン希釈：15%）にて接合をおこなう。5.樹脂充填；接合部分及びヒビ割れ部分に、エポキシ樹脂（XN6504）を充填し強化する。6.補彩色；修理箇所に補彩色を施す。7.観察・記録；修理後の状態を撮影し、報告書を作成する。

＜歴史資料＞（4件）

21 ○名　　称　対馬宗家関係資料（対馬宗家関係資料のうち）　21箱19巻、4幅、16点
（20年度より継続・6ヶ年計画）
○時　　代　対馬宗家関係資料）室町時代・16世紀
六条箴ほか）江戸時代・18-19世紀
紙本墨書朝鮮国書契・書簡）江戸時代および朝鮮・王朝時代・17世紀
○品　　質　紙本墨書、巻子装、掛軸装ほか
○寸 法 等　対馬宗家関係資料）縦33.4㎝　横52.2㎝ほか
六条箴）縦136.5㎝　横58.0㎝　　宗義章十一歳書「松竹寿春山」）縦125.8㎝　横26.9㎝
貞心院書「虹飛百尺橋」）縦125.8㎝　横27.0㎝　　「鶴舞千年樹」）縦118.0㎝　横29.5㎝
朝鮮国書契・書簡）縦54.7㎝　横80.8㎝ほか
○施行会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
○修理内容　A.21箱19巻
1.写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。2.巻子装を解体する。3.本紙の汚れ等を取り去る。4.本紙の旧裏打紙を除去し、継ぎを外し、シワ等を伸ばして整形する。5.本紙と類似した補修紙を作成する。6.本紙欠失箇所に上記補修紙にて補紙を施し、上下には足し紙をつける。7.旧裏打紙と同様の色調に染色した薄美濃紙にて肌裏打を施す。8.将来折れが予想される箇所に折れ伏せを入れる。9.混合紙にて総裏打を施す。10.仮張りし、充分な乾燥期間をおく。11.各料紙を継ぎ、巻末に新調の軸巻紙を取り付ける。12.紐は支給のものを使用、表紙、軸首、中軸、八双は元のものを用い、巻子装に仕立てる。13.支給の包み裂に包み納入する14.桐太巻添軸を施工巻数分製作する。15.施工巻数分を納入できる紙箱を新調する。（※平成21年度は巻5～7を施工）
B.六条箴　雨森芳洲筆　1幅
1.写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。2.本紙の旧裏打紙を除去する。3.墨書及び朱の剥落止を行う。4.浄化水を表面から噴霧し、浸透させる方法で汚れを出来る限り除去する。5.薄美濃紙にて肌裏を打つ。6.表装裂地は元のものを調整し、肌裏を打つ。7.美栖紙にて増裏打を行い、仮張りをする。8.折れ伏せを入れ折れを防ぐ。9.仮張りされた本紙と表装裂地を軸装の形に付け廻しをする。10.美栖紙にて増裏打を行い、仮張りをする。11.宇陀紙にて総裏打を行い、仮張りし充分な乾燥期間をおく。12.中軸、発装、啄木等を新調して軸装に仕立てる。13.桐太巻添軸1本、桐屋郎箱1合を新調し、羽二重の包裂に包み納入する。
C.宗義章十一歳書「松竹寿春山」　1幅
1.写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。2.本紙の旧裏打紙を除去する。3.浄化水を表面から噴霧し、浸透させる方法で汚れを出来る限り除去する。4.本紙繊維に類似した補修紙を製作する。5.本紙欠失箇所に上記補修紙にて補紙を行う。6.薄美濃紙にて肌裏を打つ。7.表装裂地(染紙)は元のものを調整し、肌裏を打つ。8.美栖紙にて増裏打を行い、仮張りをする。9.折れ伏せを入れ折れを防ぐ。10.仮張りされた本紙と表装裂地を軸装の形に付け廻しをする。11.美栖紙にて中裏打を行い、仮張りをする。12.宇陀紙にて総裏打を行い、仮張りし充分な乾燥期間をおく。13.補紙の箇所に補彩をする。14.中軸、発装、啄木等を新調して軸装に仕立てる。15.桐太巻添軸1本、桐印籠箱1合を新調し、羽二重の包裂に包み納入する。
D.貞心院書「虹飛百尺橋」・「鶴舞千年樹」　2幅
1.写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。2.本紙の旧裏打紙を除去する。3.浄化水を表面から噴霧し、浸透させる方法で汚れを出来る限り除去する。4.本紙繊維に類似した補修紙を製作する。5.本紙欠失箇所に上記補修紙にて補紙を行う。6.薄美濃紙にて肌裏を打つ。7.表装裂地は染紙を新調、一文字は元のものを調整し、肌裏を打つ。8.美栖紙にて増裏打を行い、仮張りをする。9.折れ伏せを入れ折れを防ぐ。10.仮張りされた本紙と表装裂地を軸装の形に付け廻しをする。11.美栖紙にて中裏打を行い、仮張りをする。12.宇陀紙にて総裏打を行い、仮張りし充分な乾燥期間をおく。13.補紙の箇所に補彩をする。14.中軸、発装、啄木等を新調して軸装に仕立てる。15.桐太巻添軸2本、2幅入桐印籠箱1合を新調し、羽二重の包裂に包み納入する。
E.朝鮮国書契・書簡　16点
1.写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。2.本紙に付着した挨等の汚れを可能な限り除去する。3.軽度の湿りを与えてプレスし、折れ皺を直す。4.虫損箇所に補修紙にて補紙を行う。5.破損箇所に対して補強を行う。6.本紙及び封筒、包紙1点に対し、それぞれ新たに包紙1点を製作する。7.上記を納入する裂四方帙を6箇製作する。8.上記をすべて納入する桐印籠箱を1合製作する。9.旧箱用の紙帙を1点製作する。

22 ○名　　称　宗家文書　12点
○時　　代　江戸時代・18-19世紀
○品　　質　紙本墨書
○寸 法 等　縦50.7㎝　横101.6㎝ほか
○施行会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
○修理内容　1.写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。2.本紙に付着した挨等の汚れを可能な限り除去する。3.ホッチキス針のあるものはこれを除去する。ラベルは存置する。4.軽度の湿りを与えてプレスし、折れ皺を直す。5.虫損箇所に補修紙にて補紙を行う。6.破損箇所に対して補強を行う。7.本紙及び封筒、包紙1点に対し、それぞれ新たに包紙1点を製作する。8.上記を納入する裂四方帙を2箇製作する。9.上記をすべて納入する桐屋郎箱を1合製作する。

23 ○名　　称　ベトナム村落関係文書　30点（21年度より継続・2ヶ年計画）
○時　　代　桃山時代　17世紀
○品　　質　紙本墨書
○寸 法 等　縦152.7㎝　横359.0㎝ほか
○施行会社　一般社団法人国宝修理装潢師連盟九州支部
○修理内容　1.写真撮影を行い、本紙の状態を調査する。2.本紙に付着した埃等の汚れを可能な限り除去する。3.セロハンテープによる仮補修跡を除去する。4.部分的に軽度の湿りを与えてプレスし、折れ皺を直す。5.破損箇所に対して補強を行う。6.仮巻及び仮表紙を製作する。7.2段式桐屋郎箱を3合製作し、羽二重の包裂に包み10点ずつ納入する。8.上記の桐屋郎箱を納入する裂四方帙を3箇製作する。

24 ○名　　称　宝満宮扁額　1面
○所 蔵 者　竈神社
○時　　代　江戸時代・嘉永7年（1854）

〇品　　質　木造、漆塗金箔
〇寸 法 等　縦130.0cm　横106.0cm
〇施行会社　輪島口漆工藝社
〇修理内容　1.修理前状態の記録と調査；現状の表面全景、裏面全景、および表面文字部分の剥落状況を記録する。2.養生；調査記録と同時に、剥落の恐れのある箇所に薄美濃紙の小片を糊付けして、作業中の剥落を防止する養生を行う。3.剥落止め；表面文字部分について、塗膜、金箔の浮き上がっている部分について剥落止めを行う。剥落止めは、浮いた塗膜の下にエタノールを浸ませて直後に膠液（商品名パールグルー）を浸ませ、和紙をあてがって、低温の電気コテにて固着させる。一度で固着が不十分な箇所はこの作業を繰り返し固着させる。塗膜のささくれに引っ掛かっている剥落箇所不明の小剥落塗膜片は別途保管する。また、鏡面周囲の界線、側板の唐草模様ならびに木口面についても、同様に剥落止めを行う。4.乖離部分の接着；乖離している上側面と鏡板を接合するために、後補措置として接合部に打たれている鉄製丸釘5本を除去する。同様に左側板上部にある針金1本を除去する。除去した釘と針金は別途保管する。5.補彩；釘穴は、本体と同等の桧材で埋木し、刻苧漆で整形、生漆で固め、周辺部との調和を図る補彩とする。6.上側板左接合部の仕口部分の割れは、膠で接着する。上側板を正常に近い位置に納めるために、ほぞ穴の内側を4㎜削り膠で接着する。7.清掃洗浄；綿棒ないし不織紙（商品名ワイパーX、日本クレシア社製）に水、微温湯を含ませたものを使用し表面を洗浄する。長年風雪に晒された美観と歴史的価値を損なわないように、洗浄は軽度に抑える。薬品は使用しない。8.左右の側板に釘付けされている菊桐紋浮き彫りは、固定が不十分で乖離が危惧されるため、桐紋は中心部、菊紋は左上方に膠を少量浸ませて固定する。9.修理後の状態記録；修理後の写真を撮影し、修理前と対比できるように報告書を作成する。

1-(4)-③ 文化財修理データのデータベース化件数

		国立博物館	東京国立博物館	京都国立博物館
合　計		534	53	481 (114)
絵　画		228	5	223 (60)
書　跡		127	2	125 (27)
彫　刻		88	1	87 (18)
建　築		0	0	0
金　工		0	0	0
刀　剣		1	1	0
陶　磁		1	1	0
漆　工		2	0	2 (1)
染　織		18	1	17 (3)
考　古		34	34	0
歴史資料		22	0	22 (4)
和　書		0	0	0
民族資料		1	1	0
その他		5	0	5 (1)
東洋	絵　画	0	0	
	書　跡	1	1	
	彫　刻	1	1	
	金　工	0	0	
	陶　磁	1	1	
	漆　工	1	1	
	染　織	2	2	
	考　古	1	1	
	民　族	0	0	
法隆寺献納宝物		0	0	
黒田記念館収蔵品		0	0	
館史資料(収蔵品外)		0	0	

※ 東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

※ 京都国立博物館の（　）内は新規入力件数で内数。

2 文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
2-(1) 展示の充実

2-(1)-① 入館者数
（後述の資料に記載）◎共通資料d-①

2-(1)-② 入館者数（過去５カ年）
（後述の資料に記載）◎共通資料d-②

2-(1)-③ 入場料収入
（後述の資料に記載）◎共通資料d-③

2-(1)-④ 展示テーマ毎にその時代背景等を説明した外国語パネル等の設置

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
97%	－%	91%	82%
143件(外国語)	－件(外国語)	29件(外国語)	27件(外国語)
148件(日本語)	－件(日本語)	32件(日本語)	33件(日本語)

パネル等（パネルと同様の内容配布資料・音声ガイドを含む）

【東京国立博物館】
- 平常陳列　77件（外国語）／77件（日本語）　含国宝室・表慶館
- 特集陳列　66件（外国語）／66件（日本語）　含仏像の道
- 黒田記念館
  平常陳列　0件（外国語）／ 5件（日本語）

※参考　本館2階陳列“日本美術の流れ”案内・解説パンフレット
36件（外国語）／36件（日本語）

【京都国立博物館】
（平常展示館建て替え工事に伴い平常展示休止中）

【奈良国立博物館】
- 平常展　26件（外国語）／29件（日本語）
- 特別陳列「おん祭と春日信仰の美術」　3件（外国語）／ 3件（日本語）
- 特別陳列「お水取り」　0件（外国語）／ 0件（日本語）

【九州国立博物館】
- 文化交流展示（トピック展示をのぞく）　27(外国語)/33 件(日本語)
- 「金子量重氏寄贈品による　アジアの民族造形」　8(外国語)/8 件(日本語)
- 「特別展「古代九州の国宝」関連企画　有明の縄文文化－東名遺跡が語るもの－」　1(外国語)/1(日本語)
- 「玄界灘の海人・壱岐」　1(外国語)/1(日本語)
- 「進化する博物館 II　みる、きく、ふれる、神々の青銅器へのいざない」　1(外国語)/1(日本語)
- 「アジアの工芸　ベトナム陶磁」　1(外国語)/1(日本語)
- 「中世の造形－鎌倉～室町時代の日本工芸」　1(外国語)/1(日本語)
- 「東南アジアの美術」　1(外国語)/1(日本語)
- 「茶の湯を楽しむⅡ」　1(外国語)/1(日本語)
- 「祈りの山　宝満山」展　1(外国語)/1(日本語)
- 「天にささげる器」　1(外国語)/1(日本語)
- 「屏風の輝き」　1(外国語)/1(日本語)
- 「東京大学史料編纂所所蔵　国宝　古文書展　第Ⅰ期」　1(外国語)/1(日本語)
- 「東京大学史料編纂所所蔵　国宝　古文書展　第Ⅱ期」　1(外国語)/1(日本語)
- 「多彩な江戸文化～京都で活躍した絵師たち～」　1(外国語)/1(日本語)
- 「長崎の興福寺」　1(外国語)/1(日本語)
- 「新収品'05-'08」　1(外国語)/1(日本語)
- 「お姫様の婚礼道具」　1(外国語)/1(日本語)
- 「江戸の風俗画」　1(外国語)/1(日本語)

2-(1)-⑤ 平常展・特別展

（後述の資料に記載）◎共通資料d-④

2-(1)-⑥ 広報刊行物一覧

【東京国立博物館】

刊　行　物　名	発　行　部　数	配　　布　　先
東京国立博物館ニュース695号～ 700号	隔月刊年6回発行　各30,000部	館内で来館者に無償配布 マスコミ媒体等に送付 定期郵送希望者　2,493件 寄贈　国内1320件　海外95件（国内外の美術館・博物館・大学・研究所等） 賛助会　219件、友の会　1960件 （2010年3月現在）
本館フロアガイド 日本語版・英語版 中国語版・韓国語版 （22年3月末、22年度版に改訂）	日本語版22.3　改訂 100,000部 英語版　22.3　改訂　40,000部 中国版　22.3　改訂　18,000部 韓国版　22.3　改訂　18,000部	館内で来館者に無償配布
東洋館フロアガイド 日本語版・英語版 中国語版・韓国語版 （休館中のため増刷・改訂なし）	日本語版 英語版 中国語版 韓国語版	休館中のため配布せず
東京国立博物館パンフレット多言語版 （22年3月　22年度版に改訂）	英語版　22. 3　改訂 36,000部 中国語版 22. 3　改訂　8,000部 韓国版　22. 3　改訂　8,000部 フランス語版 22. 3　改訂 10,000部 ドイツ語版 22. 3　改訂　5,000部 スペイン語版 22. 3　改訂　5,000部	館内で来館者に無償配布 大使館等に送付 特記事項：22年度版改訂に関しては東芝国際交流財団の一部助成により製作。
東京国立博物館パンフレット日本語版 （22年3月　22年度版に改訂）	22. 3　改訂 100,000部	館内で来館者に無償配布 マスコミ媒体、学校等に送付
東京国立博物館　展示・催しのご案内	21. 4 21年春版改訂 35,000部 21.10 21年秋版制作 30,000部 22. 3 22年春版制作 35,000部	館内で来館者に無償配布 観光案内所、大使館、美術館・博物館、マスコミ媒体等に送付
法隆寺宝物館パンフレット	21. 7　増刷　30,000部	法隆寺宝物館で配布
庭園ガイド	21.10　増刷　50,000部 22.3　増刷　50,000部	館内で配布 館内で配布
応挙館パンフレット	―	館内で来館者に無償配布 マスコミ媒体等に送付

【京都国立博物館】

刊　行　物　名	発行時期	発　行　部　数	配　　布　　先
京都国立博物館だより	4、7、10、1月	162号（4・5・6月） 10,000部 163号（7・8・9月） 20,000部 164号（10・11・12月） 25,000部 165号（1・2・3月） 25,000部	観覧者、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか、郵送希望者にも発送
Kyoto National Museum Letter Vol.102～105	4、7、10、1月	各3,000部	観覧者
博物館Dictionary No.166	不定期	5,000部	観覧者（小学・中学生向け）
平成21年度年間スケジュール	4月 6月	20,000部 （増刷）　10,000部	観覧者、新聞・雑誌・放送局各社、学校・図書館・美術館・博物館ほか郵送希望者にも発送

刊　行　物　名	発行時期	発　行　部　数	配　　布　　先
京都国立博物館案内リーフレット（展示案内改訂版）	12月 3月	英語版　20,000部 韓国語版　5,000部 フランス語版　10,000部 スペイン語版　10,000部 中国語版　10,000部 日本語版　30,000部	観覧者
庭園マップ（改定5版）	3月	5,000部	
東山七条周辺地図	12月	10,000部	
特別展覧会「シルクロード文字を辿って」リーフレット	7月	30,000部	

【奈良国立博物館】

刊　行　物　名	発 行 部 数	配　　布　　先
奈良国立博物館だより （年4 回）	春・夏・冬号 各20,000部 秋号　30,000部	美術館・博物館・大学・研究所等　約120件
奈良国立博物館リーフレット	日本語版　20,000部 英語版　10,000部 中国語版　5,000部 韓国語版　8,000部 ドイツ語版　2,000部 フランス語版　2,000部 スペイン語版　2,000部	館内で来館者に配布
奈良国立博物館展示案内	55,000部	館内で来館者に配布

【九州国立博物館】

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
九州国立博物館案内リーフレット	日本語版　150,000部 中国語版　7,000部 韓国語版　12,000部 英語版　19,000部 フランス語版 6,000部 ドイツ語版　6,000部 スペイン語版 3,000部 合計　203,000部	・館内で来館者に配布 ・旅行会社等へ郵送 特記事項：外国語版は東芝国際交流財団の助成により一部作成
文化交流展示室案内マップ	日本語版 210,000部 中国語版　3,000部 韓国語版　4,000部 英語版　6,000部 合計223,000部	・館内で来館者に配布 ・旅行会社等へ郵送
文化交流展示室解説リーフレット	中国語版　10,000部	・館内で来館者に配布
九州国立博物館概要	日本語4,500部 中国語　230部 韓国語　530部 英語　330部	・視察者等
季刊情報誌「アジアージュ」	春(12)号　30,000部 夏(13)号　30,000部 秋(14)号　30,000部 冬(15)号　30,000部	・館内で来館者に配布 ・美術館・博物館、近隣文化施設、 近隣大学、太宰府市、友の会会員等
博物館科学課の最新設備 パンフレット	日本語　1,000部	・美術館・博物館、大学、施設調査用、 視察者等

2-(2) 歴史・伝統文化の理解促進

2-(2)-① 学習機会の提供（過去5ヵ年実績）

	17年度	前中期期間(13～17年度)の平均値	18年度	19年度	20年度	21年度
○講演会等の回数						
東京国立博物館						
①講演会		30回	30回	24回	29回	24回
		7,339人	6,542人	4,770人	7,134人	5,600人
アンケート結果			78.37%	79%	82%	87%
（内訳）						
・月例講演会等	13回	14回	12回	12回	12回	12回
	3,092人	2,602人	1,612人	1304人	2,008人	1887人
アンケート結果	80%	81%	73%	82%	82%	87%
・記念講演会	10回	12回	11回	6回	15回	11回
	3,136人	3,891人	3,519人	1,869人	4,409人	3,516人
アンケート結果	86%	80%	81%	81%	81%	85%
・テーマ別講演会	4回	4回	4回	4回	2回	1回
	960人	846人	958人	908人	717人	197人
アンケート結果	86%	85%	87%	69%	83%	90%
・特別講演会	―	―	3回	2回	―	―
	―	―	453人	689人	―	―
アンケート結果	―	―	80%	―	―	―
②連続講座（17年度までは夏期講座）	3日	2日	3日	3日	3日	3日
	354人	248人	325人	288人	356人	320人
アンケート結果	84%	82%	83%	77%	81%	82%
③公開講座	10回	12回	26回	16回	1回	2回
	―	―	1,113人	2,369人	68人	76人
アンケート結果	87%	90%	85%	72%	―	93%
④列品解説（ギャラリートーク等）	41回	43回	41回	101回	101回	126回
	3,286人	3,328人	3,055人	3,934人	4,774人	6,550人
⑤教育的イベント等	―	―	5回	56回	43回	17回
	―	―	6,525人	1,501人	6,917人	9,451人
京都国立博物館						
①土曜講座	44回	46回	47回	45回	36回	19回
	4,975人	4,989人	4,827人	4,329人	3,254人	2,791人
アンケート結果	87%	84%	84%	81%	82%	80%
②夏期講座	3日	3日	3日	3日	3日	3日
	184人	192人	153人	160人	159人	179人
アンケート結果	91%	86%	94%	88%	95%	94%
奈良国立博物館						
①特別展等講座	19回	16回	12回	15回	19回	16回
	2,947人	2,263人	1,586人	1,943人	2,706人	2,043人
アンケート結果	82%	85%	86.3%	87.0%	90.0%	95.6%
②夏期講座	3日	3日	3日	3日	3日	3日
	434人	328人	486人	358人	362人	391人
アンケート結果	82.5%	81%	93%	84%	90%	92%
③大学との合同公開講座	―	―	―	―	―	4回
	―	―	―	―	―	353人
アンケート結果	―	―	―	―	―	86%
④ギャラリートーク	16回	16回	12回	12回	12回	11回
	692人	951人	671人	648人	587	584人
アンケート結果	―	―	―	―	―	90.6%
九州国立博物館						
①開館記念講演及びシンポジウム	4回	4回	6回	1回	6回	4回
	1,350人	1,350人	1,280人	316人	1,555人	1,020人
アンケート結果	―%	―%	―%	-%	-%	-%
②特別展記念講演会	2回	2回	12回	7回	11回	6回
	550人	550人	2,153人	1,892人	2,670人	1622人
アンケート結果	―%	―%	―%	-%	-%	-%
③特別展連続講座	4回	4回	0回	0回	0回	0回
	595人	595人	―人	-人	-人	-人
アンケート結果	第4回 81.3%	81.3%	―%	-%	-%	-%
④ミュージアム講座	3回	3回	11回	11回	2回	1回
（教育講座アジアージュ）	349人	349人	1,400人	640人	186人	50人
アンケート結果	第3回 86.9%	86.9%	―%	-%	-%	-%
⑤ミュージアムトーク	66回	66回	47回	42回	37回	42回
	2,411人	2,411人	1,806人	1,320人	1,096人	1285人
○友の会会員を中心とした講演会						
東京国立博物館	6回	3回	1回	1回	1回	1回
奈良国立博物館	1回	1回	1回	1回	1回	1回
○大学生等の受入件数						
奈良国立博物館						
①放送大学の面接授業	4回	4回	2回	2回	2回	1回
	各170名	154人	160人	150人	178人	98人
②奈良女子大学との連携講座	大学院生1人	大学院生3人	大学院生2人	216人	5人	3人
③神戸大学との連携講座	大学院生6人	大学院生6人	大学院生2人	10人	10人	10人
九州国立博物館						
①放送大学の面接授業			2回	2回	2回	2回
	―	―	50人	34人	37人	50人
○公私立博物館・美術館等への援助・助言回数						
東京国立博物館	45件	40件	56件	124件	134件	151件
京都国立博物館	32件	12件	28件	81件	114件	114件
奈良国立博物館	3件	5件	7件	5件	5件	25件
九州国立博物館	46件	12件	57件	38件	47件	39件
○ホームページのアクセス件数						
東京国立博物館	2,923,564件	1,928,966件	3,680,028件	5,504,468件	5,211,261件	5,687,673件
京都国立博物館	572,936件	521,965件	757,812件	733,885件	1,409,634件	848,486件
奈良国立博物館	986,133件	670,948件	1,249,608件	1,402,834件	1,230,774件	2,630,035件
九州国立博物館	5,017,378件	5,017,378件	7,118,540件	5,943,616件	5,699,860件	7,459,518件
○デジタル化件数						
東京国立博物館						
画像	20,556枚	18,829枚	4,472枚	124,996枚	139,000枚	775,300件
文字	6,957,789字	4,276,549字	500,000字	553,000字	553,000字	1,230,000字
京都国立博物館	5,568件	4,359件	6,169件	8,047件	6,478件	5,603件
奈良国立博物館	3,755件	8,471件	3,830件	4,584件	8,399件	102,894件
九州国立博物館	1,890件	1,890件	1,986件	3,295件	3,963件	3,574件
○情報及び資料の収集						
東京国立博物館	5,432件（写真原版）	7,423件（写真原板）	4,472件（写真原版）	3,640件（写真原版）	4,703件（写真原版）	4,177件(写真原板)
公開件数（利用者数）	3,769人	4,135人	2,920人	3,134人	2,764人	2,898人

2-(2)-② 児童生徒を対象とした教育普及事業

【東京国立博物館】

1) みどりのライオンプロジェクト

開催期間	4月1日～平成22年3月31日
開催場所	本館20室
入場者数	637,176人
担当研究員数	7人
事業内容	みんなで楽しむ教育普及スペース「みどりのライオン」を運営。パネル展示により館全体のガイダンス機能をもたせるとともに、各種レクチャーや体験型プログラム、製作工程模型展示などを児童生徒から一般まで幅広い層に向けて展開。博物館へのアプローチから作品の鑑賞を深めるためのプログラムまで、伝統文化の理解促進に寄与するさまざまな教育普及活動を実施した。

2)「親と子のギャラリー」

「日本美術のつくり方」		
開催期間		7月28日～9月6日（36日間）
開催場所		本館特別2室
入場者数		26,560人
担当研究員数		5人
事業内容		家族での来館のきっかけ、および、平常展鑑賞の一助となることを目的に、伝統的な日本美術の制作工程に焦点をあてた教育普及的展示を夏休みにあわせて実施。技術見本、工程見本を用い、作品ができるまでをわかりやすく紹介した。今回取り上げたジャンルは、浮世絵、仏画（裏彩色）、仏像（一木造）、刀の鍔（布目象嵌）、色絵磁器の5つ。ハンズオン・コーナーを特別2室内および本館20室に設けた。
ワークショップ及び関連事業	ファミリーワークショップ「北斎の冨士ができるまで」（事前申込制）	
	期　　間	8月22日
	開催場所	本館20室
	参加者数	31人（10組）
	担当研究員数	2人

3) 体験型プログラムの実施　　参加者数計　234,321人

①平常展示関連体験型プログラム　　参加者数計　124,307人

ハンズオン体験型プログラム	平常陳列「暮らしの調度」関連「日本のもようでデザインしよう」	
	期　　間	4月1日～22年3月31日
	開催場所	本館20室
	参加者数	109,170人
ハンズオン体験型プログラム	特集陳列「日本美術のつくり方」（本館特別2室）関連「北斎の冨士を作ろう！」	
	期　　間	7月28日～9月6日
	開催場所	本館20室
	参加者数	11,909人
ハンズオン体験型プログラム	特集陳列「寅之巻」（本館特別2室）関連「東博トラめぐり＆掛軸ふうカレンダー」	
	期　　間	22年1月2日～1月3日
	開催場所	本館20室
	参加者数	3,228人

②制作工程模型展示　　参加者数計　109,536人

ハンズオン体験型展示	「仏頭ができるまで」	
	期　　間	3月31日～7月26日
	開催場所	本館20室
	参加者数	31,053人
ハンズオン体験型展示	「押出仏ができるまで」	
	期　　間	7月28日～10月4日
	開催場所	本館20室
	参加者数	15,970人
ハンズオン体験型展示	「盧舎那仏のひみつ」	
	期　　間	10月6日～22年1月11日
	開催場所	本館20室
	参加者数	33,606人

ハンズオン体験型展示	「国宝・孔雀明王像ができるまで」	
	期　　間	22年1月13日～22年4月18日
	開催場所	本館20室
	参加者数	28,907人

③ワークショップ　　参加者数計　269人

ワークショップ及び関連事業	特集陳列「戦う武士の世界」関連企画（本館特別1室）関連「中学生のためのワークショップ「武士の手紙とオリジナル花押（サイン）作り」」（事前申込制）	
	期　　間	6月28日
	開催場所	平成館小講堂
	参加者数	16人
	担当研究員数	3人
ワークショップ及び関連事業	日本美術の流れ「暮らしの調度」（本館8室）関連「ファミリーワークショップ・からだが動くエビを作ってみよう」（事前申込制）	
	期　　間	8月15日、8月16日
	開催場所	平成館小講堂
	参加者数	56人（20組）
	担当研究員数	3人
ワークショップ及び関連事業	特集陳列「親と子のギャラリー　日本美術のつくり方」(本館特別2室)関連「ファミリーワークショップ　北斎の冨士ができるまで」（事前申込制）	
	期　　間	8月22日
	開催場所	本館20室
	参加者数	31人（10組）
	担当研究員数	2人
ワークショップ及び関連事業	日本美術の流れ「暮らしの調度」（本館8室）関連「イブニングワークショップ・貝合せを作ってみよう」（事前申込制）	
	期　　間	11月20日
	開催場所	平成館小講堂
	参加者数	19人
	担当研究員数	2人
ワークショップ及び関連事業	日本美術の流れ「暮らしの調度」（本館8室）関連「一般向けワークショップ・貝合せを作ってみよう」（事前申込制）	
	期　　間	11月21日
	開催場所	平成館小講堂
	参加者数	16人
	担当研究員数	2人
ワークショップ及び関連事業	日本美術の流れ「暮らしの調度」（本館8室）関連「ファミリーワークショップ・貝合せを作って貝合せに挑戦！」（事前申込制）	
	期　　間	11月22日、11月23日
	開催場所	平成館小講堂
	参加者数	30人（12組）
	担当研究員数	2人
ワークショップ及び関連事業	日本美術の流れ「宮廷の美術」（本館3室）関連「唐紙もようのオリジナル料紙と継紙カード作り」（事前申込制）	
	期　　間	12月19日、12月20日
	開催場所	平成館小講堂
	参加者数	40人
	担当研究員数	3人
ワークショップ及び関連事業	日本美術の流れ「宮廷の美術」（本館3室）関連「ファミリーワークショップ　料紙づくりと散らし書きカレンダーに挑戦！」（事前申込制）	
	期　　間	12月19日、12月20日
	開催場所	平成館小講堂
	参加者数	23人（9組）
	担当研究員数	3人
ワークショップ及び関連事業	日本美術の流れ「暮らしの調度」（本館8室）関連「イブニングワークショップ　春のもようのお皿作り」（事前申込制）	
	期　　間	22年3月12日
	開催場所	平成館小講堂
	参加者数	19人
	担当研究員数	2人

ワークショップ及び関連事業	日本美術の流れ「暮らしの調度」（本館8室）関連「一般向けワークショップ　春のもようのお皿作り」（事前申込制）	
	期　　間	22年3月14日
	開催場所	平成館小講堂
	参加者数	19人
	担当研究員数	2人

④特別展関連体験型プログラム　　参加者数計　209人

ワークショップ及び関連事業	特別展「国宝 土偶展」関連「ファミリーワークショップ・どぐうスケッチ」（事前申込制）	
	期　　間	22年1月10日
	開催場所	本館特別5室、20室
	参加者数	16人（9組）
ワークショップ及び関連事業	特別展「国宝 土偶展」関連「中学生のためのワークショップ・めざせ！考古学者」	
	期　　間	22年2月13日
	開催場所	本館特別5室、20室
	参加者数	12人
ワークショップ及び関連事業	特別展「長谷川等伯」関連「中学生高校生のためのワークショップ・水墨画に挑戦！～長谷川等伯の筆使いを学ぶ～」（事前申込制）	
	期　　間	22年2月28日
	開催場所	平成館小講堂
	参加者数	28人
ワークショップ及び関連事業	特別展「長谷川等伯」関連「ファミリーワークショップ・屏風体験～松林図屏風を部屋に置いてみよう～」（事前申込制）	
	期　　間	22年3月7日
	開催場所	応挙館
	参加者数	153人(34組)

4）東博スクールプログラム

期　　間	年間
開催場所	全館対象
参加者数	小学校20校、636人／中学校89校、2808人／高校52校、2249人／中高一貫2校39人 計163校、5732人
担当研究員数	4人
事業内容	総合的な学習などでより充実した見学ができるよう、伝統文化理解のための鑑賞教育やキャリア学習のプログラムを児童・生徒に実施した。教員向けのスクールプログラムのパンフレットも近隣県の学校へ配布し、全国で閲覧・ダウンロードできるよう、WEBで公開した。

5）高等学校との連携教育実施

期　　間	6月13日、8月4日、8月25日
開催場所	全館対象
参加者数	16人(連携校11人、一般公募5人)
担当研究員数	2人
事業内容	単位制の都立高等学校との連携プログラム。広く一般の高校からも受講者を募集した。日本の伝統もようをテーマとした展示鑑賞、ワークショップ、発表を行う全3回の連続講座を実施した。

【京都国立博物館】

1）少年少女博物館くらぶ

事業名：博物館　庭園探検隊！～石仏をたどって～	
実施日	7月25日
対象	小学生から中学生
参加者数	19人（うち子ども8人）

2）博物館Ｄｉｃｔｉｏｎａｒｙの発行　1回

・発行部数　5000部

・配 布 先　京都市内小中学校、館内観覧者等

3）特別展覧会「シルクロード　文字を辿って」小中学生の入場料を無料

4）特別展覧会「シルクロード　文字を辿って」小中学生向けワークシート作成

・発行部数　30,000部

・配 布 先　館内観覧者、公式ホームページ上にて公開

5) 京都市内の小中学校への訪問授業

事業名： 文化財に親しむ授業　洛中洛外図屏風に大接近！	
実施日	6月17日　9:40～10:25、10:45～11:30
場所	京都市立金閣小学校　講堂（京都市北区平野上柳町61-1）
対象	京都市立金閣小学校　6年生4クラス
参加者数	160人
事業内容	NPO法人京都文化協会、京都市教育委員会との連携事業。狩野永徳筆 上杉本「洛中洛外図屏風」の高精細複製を教材として訪問授業を行った。複製屏風の他に画材見本やワークシートなどを活用して、子どもたちが美術や文化財にしたしむきっかけづくりをした。
主催	京都国立博物館、NPO法人京都文化協会
特別協力	米沢市上杉博物館
事業名： 文化財に親しむ授業　屏風の中へ散歩に行こう	
実施日	11月2日　13:15～14:05、14:15～15:05
場所	蜂ヶ岡中学校　武道場（京都市右京区嵯峨野開町1-1）
対象	京都市立蜂ヶ岡中学校　1年生6クラス
参加者数	228人
事業内容	NPO法人京都文化協会、京都市教育委員会との連携事業。尾形光琳筆「八橋図屏風」の高精細複製を教材として訪問授業を行った。複製屏風の他に画材見本やワークシートなどを活用。文化財ソムリエ養成のスクーリングに参加している京都市内の大学生・大学院生も補助講師として参加した。
主催	京都国立博物館、NPO法人京都文化協会

【奈良国立博物館】

1) 修学旅行生等を対象とした文化財の案内・説明資料等の作成と解説

・期間，場所　開館中随時，展示会場・講堂
・団体申込数　37件　計1,790名
・担当研究員数　3人
・事業内容　解説ボランティアによる展示作品の解説及び課題学習等への対応

2) 世界遺産学習への対応

・期間　4月～21年3月　事前申し込み制
・対応実績　奈良市内の小学校30校　（5年生の全クラスを対象）　計2,205名
・担当研究員数　3人
・事業内容　奈良市教育委員会との共同で、市内の全小学校5年生を対象に、世界遺産「奈良」を通して歴史や文化への愛着を育み、未来に伝え残すことの重要性を学んでもらう。
解説ボランティアによる「世界遺産学習」プログラム（スライド解説と実際の仏像を前にした観賞など）を1時間程度で実施する。

3) 児童・生徒を対象にした解説冊子の製作

・展覧会名　特別展「聖地寧波」７月18日～8月30日
・冊子名　「寧波虎の巻　こどもガイドブック」　27頁　A5版
・発行部数　4,000部　頒布価200円
・内容　主要展示品の背景や日中交流に活躍した歴史上の人物などを分かり易くマンガを使いながら解説する。展示会場にはこの冊子に掲載された作品が分かるように印を付け、会場で学べる工夫を行った。これをもって毎年開催の「親と子のギャラリー」に代えるものとした。

4) 子ども向け音声ガイドの制作

・特別展「第61回正倉院展」で制作、360台の利用があった。

【九州国立博物館】

1) 博物館における体験型事業の充実

① 体験型展示室「あじっぱ」で活用する様々な教育キットの開発

体験型キットの開発・展開	
内容	「あじっぱ」の展示に関する理解を促進するための体験型キット・プログラムの開発 ①新規開発キット、プログラム：「タングラム」「なりきり考古学者」「屏風のしくみ」「貝合わせをつくろう」 ②あじ庵：「アジアの染めと織り」「ならしてみよう♪アジアの響き」 ③あじぎゃら：「ひみつの仏教のひみつの道具」「わたしのはなし」「やきもの動物園」「ようこそ！はらのなかのはらっぱへ」
対象	こどもおよび親子連れを中心とした来館者全般
人数	定員なし

実施	開館時は常時開放

② 幅広い層に向け体験活動の促進を図るため、教育活動の場を提供

夏休み子ども向けイベント「いこうよ！あじっぱ夏祭り」	
内容	「あじっぱ」の資料・コンテンツを活用して夏休みに博物館を訪れた子ども、および親子連れに対して博物館体験の場を提供するとともに、ボランティア活動の活性化を図る。
対象	こどもおよび親子連れを中心とした来館者全般
人数	定員なし
実施	7月18日～7月20日の3日間実施、3カ国10コンテンツを運用。参加者約150名（子どものみの数）

③ 博物館の諸活動を体験できるプログラムの開発

なりきり学芸員体験	
内容	「あじっぱ」において、学芸員の仕事の一部を40～50分で体験するワークショップ。収蔵棚から文化財に見立てた資料を選び、実際に手にとって観察し、調査カードを作成し、展示ケースに展示する。 平成21年度、新たなヴァージョンとして「なりきり考古学者体験」を開発、「なりきり学芸員体験」とあわせて実施した。
対象	小学校中学年以上
人数	1回につき最大8名
実施	ボランティアによる司会進行、ホームページで告知して実施。延べ65回実施

④ アジア諸国の文化を理解する様々な体験学習プログラムの開発

体験型展示室「あじっぱ」の運営	
内容	日本と古くから交流のあるアジア・ヨーロッパ7ヵ国の文物を屋台風に展示、資料を実際に使用する・制作する等の体験をとおして素材やデザイン、用途などにおける国相互の類似性や相違性を体感する。
対象	こどもおよび親子連れを中心とした来館者全般
人数	最大収容可能人数約80人
実施	開館時は常時開放
「アートワゴン」の展開	
内容	展示資料に関連のある内容のワークショップコンテンツを可動式ワゴンに搭載してエントランスホールに出向き、来館者に制作の機会と場を提供する。
対象	こどもおよび親子連れを中心とした来館者全般
人数	1回につき約20名
実施	特別展「古代九州の国宝」関連プログラム「さわってはかって考古クイズ」を11月21日～11月23日の３日間実施

2) 家族向けに平常展を利用したPDA（携帯情報端末）によるプログラムの開発

文化交流展示室におけるPDA機器の開発	
PDA機種導入の目的・方針	・最新のメディア機器を用いて、より豊かな博物館体験を提供する。 ・PDAの映像を通して研究員による解説と作品の背景がわかる動画を楽しめる。 ・操作性が簡易であること、展示替えに応じてコンテンツを館内で更新できる機種を採用する予定。
制作および運営方法調査	林原自然科学博物館、国立科学博物館、東京都現代美術館を視察
導入機種の検討	現在2機種を候補としている。コンテンツに関するヒヤリングを進める。

3) 学校教育との連携事業の実施

① ジュニア学芸員（高校生）による教育プログラムの開発

ジュニア学芸員活動	
内容	博物館に関心のある高校生が、学芸員による講話や演習を体験することで、博物館の活動を理解するとともに、自らの進路や職業を考える機会を提供する。
人数	7校38名
実施	11月～3月の日曜日を中心に8回

② 教員を対象としたプログラムの実践

キャリアアップ講座「伝統と文化の社会科授業づくり」	
内容	小学校・中学校・特別支援学校の教師を対象に、博物館を活用した授業づくりについて講義・演習を中心に研修を行う。県教育センターと連携して実施。
人数	40名
実施	6月26日に実施。
福岡県高等学校歴史研究会研修会	
内容	県内高等学校の地歴科・公民科の教師を対象に、特別展の概要を紹介、展示作品への理解を深める。福岡県高等学校歴史研究会と連携して実施。
人数	各回約25名

実施	7月21日、11月11日、2月23日の3回実施。
教師社会体験研修	
内容	学校の教師に対して社会貢献等の体験の場を提供し、教師の資質の向上を支援しつつ、博物館活動への理解促進をはかる。
人数	7名
実施	10年経験教師社会貢献体験研修4名（8月17日～8月18日、2日間）、初任者研修にかかる体験活動研修2名（8月12日～8月14日、3日間）、長期社会体験派遣研修1名（10月1日～12月28日、3ヶ月間）

③ 学校貸出キット「きゅうぱっく」の運用

学校貸出キット「きゅうぱっく」	
内容	博物館の展示に関連するハンズオン資料をパック化して学校等に向けて貸し出し、学校教育および社会教育を支援する。
対象	学校教育団体、社会教育団体その他
実施	小学校9件、中学校2件、高等学校3件、短期大学1件、その他7件（その他は出版社1件、キッズデザイン協議会1件、アジア太平洋フェスティバル事務局2件、教育関係団体2件、行政機関1件）、計22件

④ 中学生の職場体験

中学生の職場体験	
内容	中学校で実施される「総合的な学習」に対応し、働く現場での体験を提供することで、自らの進路や職業について考える機会を提供するとともに、博物館への理解を促進する。
人数	1回について最大6名まで
実施	9校に対して実施、体験中学生数48名（実施中学校：筑紫野市立筑山中学校4名、二日市中学校5名、筑紫野中学校6名、筑紫野南中学校6名、太宰府市立太宰府西中学校6名、学業院中学校6名、大野城市立大野中学校6名、春日市立春日東中学校6名、福岡市立宮竹中学校3名）

⑤ 出前講座への対応

出前講座への対応	
内容	学校で実施される「総合的な学習」等に対応し、学校に出向いてアジア各地や日本の歴史・文化についての講義を行う。
対象	研究員による出前講座を希望した学校
実施	10月24日、修猷館高校にて実施（参加高校生38名）、対応研究員1名。

⑥ 来館学校団体への対応

来館学校団体への対応	
内容	団体で来館した学校団体のうち、特に希望した学校に対し、体験プログラム等を実施
対象	団体で来館した学校団体のうち、特に体験を希望した学校
実施	福岡県立城南高等学校（4月10日、28名）、福岡県立修猷館高等学校（4月28日、4名）、福岡県立講倫館高等学校（5月14日、280名）、福岡県立筑紫高等学校（11月19日、360名）

2-(2)-③ 大学等との連携

1)インターンシップ

【東京国立博物館】

受入期間	7月16日～22年3月31日
受入部署	広報室、情報資料室、教育講座室、ボランティア室、教育普及室、デザイン室、特別展室、上席研究員(金工)、平常展調整室、東洋室、保存修復課
参加者数	21人（17大学）
担当研究員数	23人

【京都国立博物館】

受入期間	8月17日～9月11日
開催場所	文化財保存修理所
参加者数	3人（3大学）
担当研究員数	1人
事業内容	文化財修復大学院生インターンシップ協議会との提携に基づき、協議会の主催の下、文化財修復に関わる加盟大学院生3名のインターンを受け入れた。11月21日には事務棟研修室にて3名による報告会を行った。

【九州国立博物館】

受入期間	3月2日～3月6日（5日間）
受入部門	交流課
参加者数	5人
担当研究員数	6人

2)放送大学の面接授業の実施

【奈良国立博物館】

実施期間	平成21年12月12,13日
開催場所	講堂
参加者数	98人

【九州国立博物館】

実施期間	11月14日・15日
開催場所	研修室
参加者数	50人

3)大学生及び教育関連機関等の見学対応

【東京国立博物館】

期　　間	年間
開催場所	全館対象
参加者数	15件（大学13件、620人／教育関連機関等2件34人　計654人）
担当研究員数	2人
事業内容	大学生対象の東京国立博物館のガイダンス、国内外博物館職員等を対象にした博物館事業の解説を含めたガイダンスを実施。

4)東京芸術大学学生ボランティア

【東京国立博物館】

期　　間	・ギャラリートーク班 前期：平成21年8月1日～9月27日(34回)　後期：平成21年12月1日～平成22年2月21日（34回） ・制作工程模型作成班ギャラリートーク 平成22年2月3･12･28･3月2・11･16日（6回）
開催場所	当館展示室内ほか
参加者数	・ギャラリートーク班 ボランティア7人、聴講者 計2,441人（前期：956人 後期：1,485人） ・制作工程模型作成班ギャラリートーク ボランティア1人　聴講者 195人
担当研究員数	3人
事業内容	東京芸術大学大学院生ギャラリートーク班により入館者に対するギャラリートークを実施。また工程模型作成班により、「国宝孔雀明王像」の5工程の制作工程模型の制作、それに係るギャラリートーク「国宝孔雀明王像　0.15ミリの超絶技法」を実施。

5)教員鑑賞会の実施

【東京国立博物館】

期　　間	①7月22日（スクールプログラム）、②10月16日（特別展「皇室の名宝」）、③12月26日（特別展「国宝 土偶展」）
開催場所	①平成館大講堂、小講堂、20室 ②平成館大講堂、平成館2階特別展会場及び平成館1階ガイダンスルーム ③平成館大講堂、本館特別5室特別展会場
参加者数	①156人、②307人、③154人　　計617人
担当研究員数	4人
事業内容	学校との連携を考慮した教員を対象のプログラム。特別展の観覧、解説を実施し、指導要領と関連した授業案を配布した。

【京都国立博物館】

社会科教員指導力向上講座の実施

実施日	10月27日
開催場所	管理棟3階研修室及び特別展示館
参加者数	32人
担当研究員数	2人
事業内容	京都市内の小中学校で社会科を担当している教員を対象とした事業。「本物にふれる大切さ」と題した講義ののち、特別展覧会「日蓮と法華の名宝」を観覧、解説を実施した。

【九州国立博物館】

期　　間	①7月21日（火）、②11月11日（水）
開催場所	①研修室および特別展会場 ②研修室および特別展会場
参加者数	①25人　②26人
担当研究員数	2人
事業内容	学校との連携を考慮した教員を対象のプログラム。特別展の観覧、解説を実施した。

6）全国高等学校美術・工芸教育研究会との連携事業の実施（共催：東京藝術大学）

【東京国立博物館】

期　　間	7月30日～8月1日
開催場所	本館展示室、会議室／東京藝術大学
参加者数	37人
担当研究員数	4人
事業内容	全国の高等学校で美術、工芸の授業を担当している教員を対象。研修を通じて伝統美術や工芸に対する理解を深めてもらう。今年度は第6回目として「日本の漆芸」をテーマに博物館では歴史と鑑賞を、大学では実技を実施した。

7)大学等との連携講座

【京都国立博物館】

京都大学大学院人間・環境学研究科の歴史文化社会論講座の実施

実施日	通年
開催場所	当館
受入人数	5人
担当研究員数	5人

【奈良国立博物館】

大 学 名	奈良女子大学
実施期間	半年
開催場所	奈良女子大学、奈良国立博物館
参加者数	3人
担当研究員数	1人

大 学 名	神戸大学(大学院文化学研究科)
実施期間	通年
開催場所	神戸大学、奈良国立博物館
参加者数	10人
担当研究員数	2人

【九州国立博物館】

実施期間	4月24日、5月15日、5月22日、6月5日、6月19日、7月3日、7月10日、7月17日、8月14日、 9月11日、10月9日、10月16日、11月6日、11月20日、12月11日、12月18日、 22年1月22日、1月29日、2月19日、2月26日、3月12日（全て金曜日）
開催場所	九州国立博物館1階エントランスホール　オープンカフェ、7月17日のみミュージアムホール
参加者数	毎回100名程度。出演者は毎回8名程度
内　　容	カフェコンサート。福岡女子短期大学の学生による演奏

8）京都橘大学との教育提携・学術交流

【京都国立博物館】

実施期間	通年
開催場所	京都国立博物館
参加者数	18人
担当研究員数	1人

9)文化財ソムリエを対象としたスクーリング

【京都国立博物館】

実施日	10月19日（月）、11月2日（月）、12月7日（月）、22年1月18日（月）、2月15日（月）、3月29日（月）
開催場所	京都国立博物館
参加者数	7人
担当研究員数	2人
内容	京都市内の小中学校で訪問授業を行う「文化財ソムリエ」養成のためのスクーリング。 参加者は、京都市内の大学で日本美術を専門に学ぶ大学生、大学院生。

10) 筑紫女学園大学の指導によるガムランワークショップの定期的な開催

【九州国立博物館】

実 施 日	5月16日（土）、6月20日（土）、7月4日（土）、10月17日（土）、12月20日（日）、22年1月23日（土）
開催場所	九州国立博物館ミュージアムホール
参加者数	毎回約20名程度
内　　容	筑紫女学園大学准教授と学生、卒業生の指導で、ジャワの伝統的な楽器であるガムランの演奏を体験するワークショップ。事前申込の一般市民ほか当日の参加も可能。10月17日には、インドネシアからプロの演奏家、舞踊家を招いて、コンサートも実施。

11) 学校教師を対象とした研修会の実施

【九州国立博物館】

事業名：キャリアアップ講座「伝統と文化の社会科授業づくり」	
実 施 日	6月26日（金）
開催場所	研修室・文化交流展示室
参加者数	小学校教員19名・中学校教員19名・特別支援学校教員2名、計40名
内　　容	福岡県教育センターとの協働で、小・中学校の教員を対象に「キャリアアップ講座」を実施。博物館を活用した授業づくりについて講義をおこなうほか、学校貸出キット「きゅうぱっく」を体験。その後、文化交流展示室・「あじっぱ」を見学し、「博物館を活用した社会科の授業づくり」のという学習指導案を作成。
事業名：教師社会体験研修	
実 施 日	①8月12日（水）～8月14日（金）（初任者研修にかかる体験活動研修） ②8月17日（月）～8月18日（火）（10年経験者社会貢献活動体験研修） ③10月1日（木）～12月28日（月）（普通教科担当教員長期社会体験派遣研修）
実施場所	館内各所
参加者数	①2名 ②4名 ③1名
内　　容	学校の教師に対して社会貢献等の体験の場を提供し、教師の資質の向上を支援しつつ、博物館活動への理解促進をはかる。

12)キャンパスメンバーズ

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
35校	30校（※）	27校（※）	29校

※うち京都・奈良共通加入23校

【東京国立博物館】

①加入校数（35校）

	学校名	対象人数（うち学生数）	備考（入会日）
1	桜美林大学	9,543（8,627） 人	2008/4/1
2	武蔵野美術大学	8,320（7,812） 人	2008/4/1
3	文化学園（文化女子大学，文化ファッション大学院大学,文化女子大学短期大学部,文化服装学院,文化服装学院広島校 ,文化外国語専門学校）	10,879（10,138） 人	2008/4/1
4	東京学芸大学	6,860（6,118） 人	2008/4/1
5	東京芸術大学	4,429（3,338） 人	2008/4/1
6	東京大学	34,057（28,644） 人	2008/4/1
7	お茶の水女子大学	3,605（3,357） 人	2008/4/1
8	杉野学園(杉野服飾大学,杉野服飾大学短期大学部,ドレスメーカー学院）	1,896（1,800） 人	2008/4/1
9	大正大学	4,780（4,440） 人	2008/4/1
10	東海大学	33,988（30,707） 人	2008/4/1
11	東京歯科大学	1,994（1,239） 人	2008/4/1
12	青山学院大学	21,620（19,923） 人	2008/4/1
13	メイ・ウシヤマ学園（ハリウッドビューティ専門学校,ハリウッド大学院大学）	966（876） 人	2008/4/1
14	成蹊大学（文学部）	2,075（2,030） 人	2008/4/1
15	多摩美術大学	5,421（4,861） 人	2008/4/1
16	立教大学	19,965（19,448） 人	2008/4/1
17	東京工業大学	11,964（10,175） 人	2008/4/1
18	首都大学東京	9,743（9,046） 人	2008/4/1
19	女子美術大学	4,339（3,573） 人	2008/4/1
20	東京造形大学	2,034（1,976） 人	2008/4/1

	学校名	対象人数（うち学生数）	備考（入会日）
21	法政大学	41,219（38,478） 人	2008/4/1
22	筑波大学	19,352（17,051） 人	2008/4/1
23	昭和女子大学	5,448（5,219） 人	2008/4/1
24	実践女子大学（文学部・文学研究科）	1,693（1,588） 人	2008/5/1
25	東洋大学	30,688（30,070） 人	2008/6/1
26	東洋美術学校	1,120（871） 人	2008/6/1
27	日本大学（芸術学部）	4,948（4,430） 人	2008/6/1
28	文教大学	9,218（8,699） 人	2008/7/1
29	上智学院（上智大学、上智短期大学、上智社会福祉専門学校）	14,434（13,126） 人	2008/10/1
30	国際基督教大学	3,198（3,049） 人	2009/4/1
31	了徳寺大学	717（574） 人	2009/4/1
32	政策研究大学院大学	587（325） 人	2009/4/1
33	慶應義塾大学	42,652（38,304） 人	2009/5/1
34	学習院女子大学	1,949（1,731） 人	2009/11/1
35	尚美学園大学	3,442（3,102） 人	2009/12/1

②キャンパスメンバーズを対象とした事業

事業名：キャンパスメンバーズ博物館セミナー	
期　　間	8月19・21・27日（各日2回、計6回実施）
開催場所	平成館大講堂
参加者数	224人
担当研究員数	6人
事業内容	キャンパスメンバーズ加入校の学生を対象に、博物館の歴史、保存修復、博物館情報、教育普及事業等について当館の職員が実例を交えた解説を実施。
事業名：キャンパスメンバーズ教育連携事業	
期　　間	8月17～21・25～28日（9日間）
開催場所	全館
参加者数	23人
担当研究員数	16人
事業内容	キャンパスメンバーズ加入校の学芸員志望学生を対象として、作品の取り扱いを含む博物館実務全般について演習・実習の形式により体験的講座を実施。

【京都国立博物館】

①加入校数（30校）

	学校名	学生数	入会日	入会内容	申請場所	備考
1	佛教大学	24,265人	4月1日	奈良博との2館併用	京博	通信教育部含む
2	奈良教育大学	1,453人	4月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
3	就実大学	1,106人	4月1日	奈良博との2館併用	京博	人文科学部のみ
4	同志社大学	25,882人	4月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
5	奈良大学	4,442人	5月1日	奈良博との2館併用	奈良博	通信教育部含む
6	京都ノートルダム女子大学	1,728人	5月1日	京博のみ	京博	
7	実践女子大学	1,573人	5月1日	奈良博との2館併用	奈良博	文学研究科を含む
8	京都伝統工芸大学校	433人	5月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
9	帝塚山大学	6,585人	6月1日	奈良博との2館併用	奈良博	高等学校含む
10	奈良女子大学	2,896人	6月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
11	京都造形芸術大学	8,820人	6月1日	京博のみ	京博	通信教育部含む
12	京都工芸繊維大学	4,175人	6月1日	奈良博との2館併用	京博	
13	大阪成蹊大学	801人	6月1日	奈良博との2館併用	奈良博	芸術学部のみ
14	京都嵯峨芸術大学	1,196人	7月1日	奈良博との2館併用	京博	短期大学部含む
15	京都精華大学	4,287人	7月1日	奈良博との2館併用	京博	正規生のみ
16	龍谷大学	19,790人	7月1日	奈良博との2館併用	京博	
17	京都女子大学	7,632人	7月1日	京博のみ	京博	高等学校含む
18	京都橘大学	2,829人	7月1日	奈良博との2館併用	京博	正規生のみ
19	京都教育大学	1,999人	7月1日	奈良博との2館併用	京博	高等学校含む
20	成安造形大学	1,192人	8月1日	京博のみ	京博	正規生のみ
21	京都市立芸術大学	1,056人	8月1日	京博のみ	京博	正規生及び研究生等
22	京都大学	23,207人	9月1日	奈良博との2館併用	京博	京都アメリカ大学コンソーシアムより受入の学生を含む
23	近畿大学	2,334人	9月1日	奈良博との2館併用	奈良博	文芸学部のみ
24	畿央大学	1,372人	10月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
25	花園大学	2,360人	11月1日	京博のみ	京博	
26	奈良先端科学技術大学院大学	1,043人	12月1日	奈良博との2館併用	奈良博	正規生及び研究生等

	学校名	学生数	入会日	入会内容	申請場所	備考
27	大谷大学	4,230人	12月1日	京博のみ	京博	短期大学部含む
28	大阪大学	25,353人	12月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
29	京都文教大学	2,970人	6月1日	奈良博との2館併用	奈良博	
30	京都外国語大学	4,909人	8月1日	奈良博との2館併用	京博	短期大学部含む

【奈良国立博物館】

①加入校数（27校）

	学校名	学生数	備考
1	奈良産業大学 （奈良文化女子短期大学、奈良学園高等学校ほか）	1,954 人	当館の 1 館利用
2	奈良佐保短期大学	460人	〃
3	天理大学	3,456人	〃
4	奈良県立大学	588人	〃
5	奈良教育大学	1,480人	京都国立博物館との2館利用
6	帝塚山大学	6,457人	〃
7	奈良女子大学	2,860人	〃
8	京都嵯峨芸術大学、京都嵯峨芸術大学短期大学部	1,158人	〃
9	京都精華大学	4,287人	〃
10	京都橘大学	2,829人	〃
11	龍谷大学	19,790人	〃
12	京都大学	23,207人	〃
13	近畿大学　文芸学部	2,366人	〃
14	佛教大学	21,454人	〃
15	奈良大学	4,441人	〃
16	京都工芸繊維大学	4,175人	〃
17	同志社大学	26,453人	〃
18	大阪成蹊大学 芸術学部	715人	〃
19	奈良先端科学技術大学院大学	1,043人	〃
20	就実大学　人文科学部	1,250人	〃
21	実践女子大学　文学部	1,588人	〃
22	京都伝統工芸大学校	433人	〃
23	京都教育大学	2,626人	〃
24	畿央大学	1,372人	〃
25	大阪大学	25,353人	〃
26	京都文教大学、京都文教短期大学	2,970人	〃
27	京都外国語大学、京都外国語短期大学	4,909人	〃

②キャンパスメンバーズを対象とした事業

事業名：キャンパスメンバーズ懇談会	
開 催 日	7月22日
開催場所	会議室
出席大学	8大学
内　　容	キャンパスメンバーズ加入大学担当者による懇談会を開催し、当館キャンパスメンバーズの加入大学及び学生利用者数などの状況報告と今後の運営のあり方についての意見交換を実施。

【九州国立博物館】

①加入校数（29校）

	学校名	学生数	備考
1	九州大学	19,036人	
2	九州産業大学	12,928人	
3	久留米大学	7,756人	
4	サイバー大学	525人	
5	西南学院大学	7,965人	
6	筑紫女学園大学	5,076人	
7	福岡大学	20,704人	
8	福岡国際大学	1,189人	
9	放送大学福岡学習センター	2,155人	
10	早稲田大学大学院情報生産システム研究科（北九州キャンパス）	443人	
11	福岡女学院大学	2,127人	
12	福岡女学院看護大学	104人	
13	九州情報大学	881人	
14	福岡経済大学	2,496人	
15	崇城大学芸術学部	278人	
16	近畿大学産業理工学部経営ビジネス学科	440人	
17	九州造形短期大学	336人	

	学校名	学生数	備考
18	筑紫女学園短期大学部	490人	
19	福岡女子短期大学	638人	
20	福岡女学院短期大学部	394人	
21	福岡こども短期大学	465人	
22	久留米大学医学部附属臨床検査専門学校	138人	
23	久留米大学附設高等学校	614人	
24	西南学院高等学校	1,366人	
25	筑紫女学園高等学校	1,822人	
26	筑紫台高等学校	1,426人	
27	東福岡高等学校	2,192人	
28	福岡大学附属大濠高等学校	1,938人	
29	福岡女学院高等学校	566人	

2-(2)-④ 講座・講演会等の開催実績

	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
回数・人数	**174回・22,102人** 講演会24回・5,600人 連続講座1回（3日）・320人 公開講座2回76人 列品解説（ギャラリートーク等）130回・6,655人 その他教育的イベント等17回・9,451人	**21回・3,002人** 土曜講座19回・2,791人 夏期講座1回（3日）・179人 社会科教員のための向上講座について1回・32人	**33回・3,421人** 公開講座16回・2,043人 夏季講座1回(3日)・391人 大学との合同講座4回・353人 その他講演会等1回･50人、サンデートーク11回・584人	**73回・6,806人** （特別展記念講演会6回・1622人、教育講座アジアージュ1回・50人、ミュージアムトーク42回・1,285人、講演及びシンポジウム24回・3,849人）

【東京国立博物館】

1) 講演会24回　参加者数5,600人

①月例講演会　計12回　参加者数1,887人

開催日	テーマ 講師等	参加者数（人）	担当研究員数(人)	″良い″の割合
4月4日	イル=ド=フランスの黒田清輝 講師：ポーラ美術振興財団ポーラ美術館学芸部長(西洋近代絵画史・日本近代絵画史)　荒屋鋪透氏	140	1	89.25%
5月16日	アジア美術の殿堂　東洋館の生い立ちと改修計画 講師：筑波大学名誉教授・当館名誉館員　角井博氏、列品管理課長　谷豊信	95	2	79.39%
6月13日	古墳時代の人々 ―人物埴輪の表情と所作― 講師：保存修復課保存修復室主任研究員　日高慎	145	1	87.33%
7月11日	戦国時代の小田原城 ―発掘調査の成果から実像に迫る― 講師：小田原市教育委員会・考古学　山口剛志氏	146	1	94.40%
8月1日	東京国立博物館収蔵の古写真と写真師　小川一真 講師：江戸東京博物館学芸員　岡塚章子氏、東京都写真美術館専門調査員　金子隆一氏、書跡・歴史室長　冨坂賢	96	3	82.84%
9月5日	趙之謙とその時代 講師：台東区書道博物館主任研究員　鍋島稲子氏、調査研究課長　富田淳	242	2	96.12%
10月3日	留学生・日本語教師・通訳の方のための 美術作品を通して知るにっぽん 講師：広報室長　小林牧	74	1	92.81%
11月21日	皇室と東京帝室博物館 講師：博物館情報館情報課長　高橋裕次	141	1	86.10%
12月19日	お姫様のお嫁入り －華やかな大名婚礼調度－ 講師：副館長　小松大秀	118	1	93.00%
22年 1月30日	洛中洛外図屏風の系譜 講師：国立歴史民俗博物館／総合研究大学院大学 教授　小島道裕	320	2	88.10%
2月20日	法隆寺献納宝物の金工品について－わかったこと、わからないこと－ 講師：博物館教育課長　加島勝	173	2	80.50%
3月27日	茶の湯釜について 講師：上席研究員　原田一敏	197	2	72.48%

②テーマ講演会　計1回　参加者数197人

開催日	テーマ 講師等	参加者数（人）	担当研究員数(人)	″良い″の割合
5月10日	上野の博物館・美術館建築について 講師：東京大学生産技術研究所　藤森照信氏	197	1	90.19%

③記念講演会　計11回　参加者数3,516人

開催日	テーマ 講師等	参加者数（人）	担当研究員数(人)	″良い″の割合
4月5日	展覧会のディレクションと吉岡徳仁のデザイン観 講師：デザイナー　吉岡徳仁氏、デザインマネジメント　伊東史子氏	220	2	82.66%
4月11日	興福寺創建と天平文化 講師：多川俊映貫首	366	1	80.86%
4月25日	国宝　阿修羅像 講師：特任研究員　金子啓明	345	1	85.68%
5月9日	奈良時代の興福寺と阿修羅像 講師：東京大学大学院人文社会系研究科教授　佐藤信氏	370	1	77.92%
7月25日	古神宝について 講師：帝塚山大学教授　関根俊一氏	290	1	90.80%

開催日	テーマ 講師等	参加者数 （人）	担当研究員数（人）	″良い″の割合
8月8日	伊勢の神宮と日本人－いのちと血統の連続－ 講師：皇學館大学学長　伴五十嗣郎氏 伊勢神宮と式年遷宮 講師：皇學館大学文学部長　清水潔氏	356	2	78.51%
10月10日	皇室コレクション平成の歩み－修理報告を中心として－ 講師：宮内庁三の丸尚蔵館主任研究員　太田彩氏	266	1	91.75%
11月15日	正倉院の宝物　歴史の奥行き 講師：宮内庁正倉院事務所長　杉本一樹氏	302	2	99.68%
22年 2月27日	やまと絵師・長谷川等伯－信春時代の仏画から智積院障壁画へ 講師：特別展室長　松嶋雅人 信春から等伯へ－新発見の金碧花鳥図屏風を中心に 講師：京都国立博物館美術室長　山本英男	373	2	78.40%
3月6日	長谷川等伯の新たな魅力－動物の感性を描く 講師：出光美術館学芸部長　黒田泰三	358	2	83.85%
3月25日	阿修羅フォーラム 講師：奈良大学教授　東野治之、興福寺貫主　多川俊映、特認研究員　金子啓明、凸版印刷文化事業推進本部長　加茂竜一、日本通運美術品事業部技術顧問　海老名和明、情報管理室長　丸山士郎、環境保存室主任研究員　和田浩、九州国立博物館博物館科学課　鳥越俊行	270	2	87.64%

2）連続講座「東洋の染付」　計1回(3日)　参加者総数320人

開催日	テーマ 講師等	参加者数 （人）	担当研究員数（人）	″良い″の割合
7月18日	東洋の染付 講師：東洋室長　今井敦、町田市立博物館学芸員主任　矢島律子氏	320	5	81.80%
7月19日	東洋の染付 講師：東京芸術大学准教授　片山まび氏、保存修復室研究員　三笠景子			
7月20日	東洋の染付 講師：学習院大学教授　荒川正明氏			

3)公開講座　計2回　参加者総数76人

開催日	テーマ 講師等	参加者数 （人）	担当研究員数（人）	
22年 3月18日 3月19日	見学ツアー 保存と修理の現場へ行こう 講師：保存修復課長　神庭信幸、保存修復室長　救仁郷秀明、保存修復室主任研究員　土屋裕子、保存修復室主任研究員　日高慎、保存修復室主任研究員　三笠景子	76	5	－

4）列品解説（ギャラリートーク等）130回　参加者総数6,655人

①列品解説　52回

・参加者総数3,914人

・担当研究員数　延べ52人

・事業内容　各展示室にて担当の研究員が作品に関する解説を行った。

（原則として毎週火曜日の午後2時より約30分間）

②ギャラリートーク　親と子のギャラリー　日本美術のつくり方　計4回　参加者数105人

③東京芸術大学学生ボランティアによるギャラリートーク 74回　参加者総数 2,636人

5）教育的イベント　計1回　参加者数335人

開催日	題目・ 演者等	参加者数（人）
8月12日	狂言「蚊相撲」「蟹山伏」「神鳴」 演者：山本東次郎家	335

6）その他　計16回　参加者総数9,116人

開催日	テーマ 講師等	参加者数（人）
4月1・8・15・22・29日	天平の文化空間の再構成 講師：興福寺僧侶	8,808
5月6・13・20・27日	天平の文化空間の再構成 講師：興福寺僧侶	
6月3日	天平の文化空間の再構成 講師：興福寺僧侶	
5月17日	三館園連携事業　上野の山でクマめぐり 講師：教育講座室研究員　神辺知加	26

開催日	テーマ 講師等	参加者数(人)
9 月 12 日	前野まさるとゆく“東京国立博物館建物訪訪” 講師：東京芸術大学名誉教授　前野まさる	54
11 月 17 日	前野まさるとゆく“東京国立博物館建物訪訪” 講師：東京芸術大学名誉教授　前野まさる	58
22 年 2 月 23 日	マルチメディアを利用した日本伝統文化の普及活動：スイス・リートベルク美術館の事例 講師：スイス　リートベルク美術館副館長　カタリーナ・エプレヒト	94
3 月 18・19 日	保存と修理の現場へ行こう	76

【京都国立博物館】

①土曜講座　19回　参加者総数　2,791人

全て特別展覧会関連講座

開催日	テーマ	講師	聴講者数(人)
4 月 4 日	妙心寺の古文書	羽田聡	92
11 日	妙心寺の唐物	久保智康	96
18 日	妙心寺と狩野元信	山本英男	149
25 日	妙心寺屏風、友松･山楽絵画の輝き	山下善也	134
5 月 2 日	白隠の禅と美術	福島恒徳氏	159
9 日	妙心寺伝来うるし大特集	永島明子	103
7 月 11 日	ロシア科学アカデミー東洋写本研究所のコレクション	イリナ・ポポヴァ氏	92
18 日	ロシア探検隊収集の仏典	松田和信氏／赤尾栄慶	131
25 日	中央アジアの諸言語	吉田豊氏	168
8 月 22 日	ロシアの中央アジア探検隊所獲品日本学者	高田時雄氏	128
29 日	西夏文字の世界	荒川慎太郎氏	197
10 月 17 日	京都日蓮法華宗ことはじめ	中尾堯氏	187
31 日	天文法華の乱と戦国京都	河内将芳氏	183
11 月 7 日	樂・光悦・乾山－日蓮法華宗とやきもの作り－	尾野善裕	162
21 日	日蓮法華宗美術試論	大原嘉豊	134
22 年 1 月 23 日	明治天皇からの贈り物：画帖と蒔絵と金魚鉢	永島明子	137
2 月 6 日	ハプスブルク･コレクションの歴史：ルドルフ２世から世紀末へ	千足伸行氏	190
13 日	工芸のシンクロ：ルネサンス期のハプスブルク工芸と日本	久保智康	181
27 日	ウィーンから初里帰り！明治２年の日本画帖	山下善也	168

② 夏期講座　1回（3日）

開講日	テーマ	講師	参加者数
7月29日	第1講「宸翰の鑑定－筆者の変容－」	羽田聡(学芸部研究員)	179 人
	第2講「明代花鳥画の山水表現について－呂紀系山渓集禽図の波及と変容－」	西上実(学芸部長)	
	第3講「動き出した陶芸のジャポニズム－フランスの事例を中心に－」	今井祐子氏(福井大学准教授)	
7月30日	第1講「メタルロード事始め」	村上隆(保存修理指導室長)	
	第2講「シルクロードの染織品」	吉田雅子氏(京都市立芸術大学准教授)	
	第3講「敦煌の浄土変と日本の浄土図」	百橋明穂氏(神戸大学教授)	
7月31日	第1講「文字文化のひろがり―「シルクロード文字を辿って」によせて―」	赤尾栄慶（学芸副部長）	
	特別展覧会「シルクロード文字を辿って」見学会		

【奈良国立博物館】

①公開講座　16回　参加者総数　2,043人

開催日	テーマ	講師	参加者数
4月11日	「共結来縁」	律宗総本山唐招提寺長老　松浦俊海	108人
4月18日	「鑑真和上と日本文化」	奈良大学教授　東野浩之	197人
4月25日	「鑑真和上の教え」	律宗総本山唐招提寺執事　西山明彦	126人
5月9日	「唐招提寺金堂の当初復原案－解体調査から判明したこと－」	奈良県文化財保存事務所主査　田中泉	136人
5月23日	「鑑真和上像と唐招提寺の仏像」	学芸部企画室長　稲本泰生	197人
7月25日	「清凉寺釈迦如来像と東アジアの釈迦信仰」	学芸部企画室長　稲本泰生	143人
8月1日	「泉涌寺僧と普陀山信仰－観音菩薩坐像の請来理由」	泉涌寺宝物館学芸員　西谷功	104人
8月15日	「憧憬の中国仏教－聖地寧波をめぐる人と美術」	学芸部保存修理指導室長　谷口耕生	150人
8月22日	「飛帆馳船－蒼波をこえた人々」	天理大学国際文化学部教授　藤田明良	95人
10月24日	「正倉院の宝飾鏡」	宮内庁正倉院事務所保存課長　成瀬正和	112人
10月25日	「金銀花盤をめぐって」	MIHO MUSEUM 学芸部副部長　稲垣肇	73人
11月3日	「正倉院木工品と木彫の成立」	学芸部上席研究員　鈴木嘉博	95人
11月7日	「光明皇后の楽毅論について」	学芸部長　西山厚	193人

開催日	テーマ	講師	参加者数
12月19日	「おん祭りの舞楽」	奈良大学名誉教授　笠置侃一	38人
22年1月9日	「春日大社の歴史」	春日大社宮司　花山院弘匡	92人
2月7日	「二月堂修二会について」	東大寺持寶院住職　上司永照	184人

②夏季講座　第38回「寧波をめぐる信仰と美術」　1回（3日間）

開講日	テーマ	講師	参加者数
8月18日	「東アジア海域交流のなかの寧波」	東京大学大学院教授　小島毅	毎日391人
	「寧波仏画の故郷（ふるさと）」	九州大学大学院教授　井手誠之輔	
	「宋代明州の浄土教」	大正大学名誉教授　佐藤成順	
8月19日	「鎌倉仏教からみた中国－宋代仏教と日宋外交－」	文化庁美術学芸課調査官　横内裕人	
	「憧憬の宋代彫刻」	大阪大学大学院教授　藤岡穣	
	「十王図をめぐって」	東大寺総合文化センター設立準備室長　梶谷亮治	
	「出会いと別れ－東アジアの雅集図・送別図」	東京大学東洋文化研究所准教授　板倉聖哲	
8月20日	「「渡来僧の世紀」から「遣明船の時代」へ」	山口県立大学准教授　伊藤幸司	
	「寧波からもたらされたもの－特別展への招待」	学芸部研究員　北澤菜月	

③大学との合同講座

③-1　奈良国立博物館＋奈良県立大学　合同公開講座「まなざしの変容　奈良から世界を変える」　3回　参加者総数　260人

開催日	テーマ	講師	参加者数
9月6日	「奈良公園に佇む」	奈良県立大学講師　井原縁	107人
	「大仏に逢う」	学芸部長　西山厚	
	討論「立ち上がる記憶」	井原縁＋西山厚＋西田正憲（奈良県立大学教授）	
9月13日	「インドより奈良を想う－ヒンドゥー教の祈り」	奈良県立大学教授　中谷哲弥	81人
	「寧波より奈良を想う－仏への祈り」	学芸部研究員　北澤菜月	
	討論「煌めく祈り」	中谷哲弥＋北澤菜月＋堀田新五郎（奈良県立大学准教授）	
9月20日	「奈良から世界を見わたす」	奈良県立大学教授　安村克己	72人
	「奈良の仏像とその源流をさぐる」	学芸部長補佐　岩田茂樹	
	討論「揺さぶられる心」	安村克己＋岩田茂樹＋吉澤悟（学芸部教育室長）	

③-2　奈良国立博物館＋東京大学東洋文化研究所　合同講座

「悟りの世界・煩悩～世界東洋文化研究所の漢籍をめぐって～」　1回　参加者数　93人

開催日	テーマ	講師	参加者数
9月21日	「悟りの世界：仏典の翻訳工房」	東京大学東洋文化研究所教授　丘山新	93人
	「煩悩の世界：悲恋の中国文学」	東京大学東洋文化研究所教授　大木康	

④その他講演会

特別講演会「世界遺産学習と奈良国立博物館」

1回　参加者数　50人

開催日	テーマ	講師	参加者数
22年3月6日	「世界遺産学習をめぐる動向と奈良の果たす役割」	奈良教育大学教授　田淵五十生	50人
	「世界遺産学習と解説ボランティアに期待するもの」	奈良市教育委員会　中澤静男	

⑤サンデートーク　　11回

・参加者総数　　584人
・担当研究員数　　9人
・外部講師　　1人
・ボランティア講師　　3人
・事業内容　文化財への理解を深めるため、主に平常展や特別展、特別陳列等に出品された作品について解説を行った。また、初めての試みとして、当館解説ボランティアによる研究発表の機会とした。

【九州国立博物館】

1)特別展記念講演会　6回　　参加者総数　1622人

開催日	テーマ	講師	参加者数
4月25日	「聖地チベット」展関連 椎名誠講演会「チベットの青い空 ―カイラス巡礼記」	作家　椎名誠 氏	330人
5月23日	「聖地チベット」展関連 曾布川寛講演会「チベット密教の世界」	京都大学名誉教授　曾布川寛 氏	300人
8月2日	「国宝　阿修羅展」関連 記念講演会「国宝　阿修羅像について」	興福寺国宝館館長　金子啓明 氏	270人
8月23日	「国宝　阿修羅展」関連 記念講演会「阿修羅像と光明皇后」	奈良大学教授　東野治之 氏	240人
9月20日	「国宝　阿修羅展」関連 記念講演会「興福寺創建と天平文化」	法相宗大本山興福寺貫首　多川俊映 氏	165人
22年 1月16日	「京都妙心寺」展関連 特別講演会「龍の背に乗る」	作家・臨済宗妙心寺派福聚寺住職 玄侑宗久 氏	317人

2)教育講座シリーズ・アジアージュ　1回　　参加者総数　50人

開催日	テーマ 講師等	参加者数	担当 研究員数
22年 2月20日	ミュージアム講座 きゅーはくの絵本１０冊刊行記念座談会「絵本のある博物館」 外部出席者／　フレーベル館編集者　天野誠 氏 フレーベル館編集者　池上理恵 氏 絵本作家　アーサー・ビナード 氏 絵本作家　つだかつみ 氏 北海道大学大学院準教授・元当館研究員　橋本雄 氏	50人	2人

3)ミュージアムトーク　42回

・参加者総数　　1285人
・担当研究員数　研究員　21人
・事業内容　文化交流展示室にて担当の研究員が作品に関する解説を行った。（週1回の午後3時より約15分間）

4)講演及びシンポジウム　24回　　参加者数　3849人

開催日	テーマ	講師	参加者数
5月9日	「聖地チベット」展関連 チベットタンカ講座「チベットの聖なる図像学～ターラー菩薩を描く」	タンカ絵師 ウゲン・ナムゲン 氏	14人
 7月18日 8月1日 8月8日 8月15日 8月22日 9月12日 9月19日 9月26日	「国宝　阿修羅展」関連 興福寺僧侶による講座「天平の文化空間の再構成」	法相宗大本山興福寺僧侶	 250人 105人 80人 168人 114人 73人 153人 135人
11月8日	「古代九州の国宝」展関連 シンポジウム「邪馬台国はここにあった」 内容／基調対談「邪馬台国研究の最前線　―九州と近畿の視点から―」 アマチュア歴史家による主張大会「邪馬台国はここにあった」 日田～吉野ヶ里説 宇佐説 畿内説 筑後説	 桜井市教育委員会文化財課主査　橋本輝彦 氏 佐賀女子短期大学学長、邪馬台国を考える会顧問　高島忠平 氏 進行／当館企画課文化交流展示室長　河野一隆 氏 大阪歴史学会会員　井上修一氏 歴史研究家　鷲崎弘朋 氏 歴史研究家　矢野壽一 氏 歴史研究家　福嶋正日子 氏 進行／当館展示課長　赤司善彦 氏	330人
11月8日	「古代九州の国宝」展関連 セミナー「夜光貝とサンゴの海　その魅力とその再生」	 夜光貝工芸作家　池村茂 氏	32人
11月9日	「古代九州の国宝」展関連館外講座 セミナー「夜光貝とサンゴの海　その魅力とその再生」	 夜光貝工芸作家　池村茂 氏	85人
11月13日	ふくおか県民文化祭 ふくおか文化ボランティアフォーラム2009 内容／基調講演「博物館とボランティア」 基調講演「文化ボランティアってなんだろう？」 事例報告会『ふくおかの文化ボランティアの現状』 「博多街巡りを楽しむ」 「劇場と市民をつなぐサポーター」 北九州芸術劇場 「九博ボランティアについて」 「伝えたい本の楽しさ」 「住みよいまちづくりと文化芸術の振興」	 当館館長　三輪嘉六 氏 アートサポートふくおか代表　古賀弥生 氏 福岡市観光案内ボランティア協会　脇山静代 氏 劇場文化サポーター（2期）　角戸恒子 氏 同上（3期）　中尾れい子 氏 劇場文化サポーター事務局　野林眞佐美 氏 同上　古殿万利子 氏 当館交流課　上野知彦 氏 とんとんぶんこ（福岡市当仁公民館） 草野裕子 氏 同上　西野恵子 氏 同上　新田千奈美 氏 同上　松村光子 氏 古賀市文化のまちづくりの会　加藤誠一 氏	170人

開催日	テーマ	講師	参加者数
		古賀市教育委員会 社会教育課　岩熊和洋 氏 講評／古賀弥生 氏 （財）大野城市都市施設管理公社 まどかぴあ図書館館長　川島久美子 氏	
11月15日	「古代九州の国宝」展関連 シンポジウム「装飾古墳と科学」 内容／第１部「装飾古墳とは何か」 九州の装飾古墳 飛鳥の壁画古墳 東北の装飾古墳 第2部「装飾古墳を科学する」 装飾古墳の彩色の秘密 装飾古墳を守る保存科学	福岡県教育委員会　吉田東明氏 奈良県明日香村教育委員会　相原嘉之氏 福島県泉崎村教育委員会　嶋村一志氏 司会／当館展示課長　赤司善彦 氏 東京文化財研究所　朽津信明 氏 国士舘大学　沢田正昭 氏 司会／当館博物館科学課環境保全室長　今津節生 氏	200人
11月22日	トピック展「祈りの山 宝満山」開催記念講演会 「祈りの山 宝満山 ―山岳信仰と修験道―」 内容／講演「山岳信仰の考古学」 講演「宝満山の歴史と信仰」 山伏問答実演	奈良県立橿原考古学研究所・滋賀県立大学名誉教授　菅谷文則 氏 福岡県文化財保護審議会専門委員・太宰府発見塾塾長　森弘子 氏 宝満山修験会	300人
11月28日	平成21年度文化庁美術館・博物館活動基盤整備支援事業 公開シンポジウム「市民と共に　ミュージアムＩＰＭ」 内容／　第1部 「ボランティアから見たＩＰＭ ―２年目の活動から―」 「ＩＰＭを身近なものに ―ボランティア広報活動から―」 「博物館における露出展示資料のＩＰＭメンテナンス」 「木質系収蔵庫のＩＰＭメンテナンス」 「ダスト分類で見えてくる“ＩＰＭ”」 地域連携機関からのコメント	当館環境ボランティア　的場康彦 氏 当館環境ボランティア　内田祥乃 氏 ＮＰＯ法人文化財保存活用支援センター　松浦顕子 氏 ＮＰＯ法人文化財保存活用支援センター　柏木千恵 氏 ＮＰＯ法人ミュージアムＩＰＭサポートセンター　新原茂春 氏 筑紫野市歴史博物館　奥村俊久 氏 太宰府市教育委員会　中島恒次郎 氏 久留米大学　狩野啓子 氏 総合司会／ＮＰＯ法人文化財保存活用支援センター　下川可容子 氏	190人
11月29日	第2部 特別講演「第９回モントリオール議定書締結国会議（1997）の頃のこと」 基調講演１「ミュージアムのＩＰＭ　コンセプトと国外の事例」 基調講演２「ＩＰＭプログラムとそのサポート組織 ―愛知県美術館の取り組み―」 基調講演３「持続可能なミュージアムＩＰＭに向けて ―国立民族学博物館の取り組み―」 基調講演４「市民と共に目指すミュージアムＩＰＭ ―九州国立博物館の取り組み―」 座談会「ミュージアムとＩＰＭと市民　モントリオールから東京・名古屋・大阪・九州まで」	（財）文化財虫害研究所理事長　三浦定俊 氏 東京文化財研究所　木川りか 氏 愛知県美術館　長屋菜津子 氏 国立民族学博物館　園田直子 氏 当館博物館科学課長　本田光子 氏 三浦定俊 氏、木川りか 氏、長屋菜津子 氏、園田直子 氏、本田光子 氏 司会／当館副館長　森田稔 氏 総合司会／太宰府市文化ふれあい館　井上理香 氏	
22年 1月10日	「京都妙心寺」展関連　講演会 内容／講演会「妙心寺と九州・琉球」	花園大学教授　竹貫元勝 氏	166人
1月11日	「京都妙心寺」展関連　法話と大坐禅会 内容／法話「禅 ―修行道場の生活」	梅林寺僧堂　東海大玄老師	120人

開催日	テーマ	講師	参加者数
1月17日	「京都妙心寺」展関連　講演会 内容／講演会「白隠の禅画について」	花園大学国際禅学研究所教授 芳澤勝弘 氏	134人
1月30日	「京都妙心寺」展関連　禅講座 内容／禅講座「博多の仙厓さん」	聖福寺僧堂　細川白峰老師	213人
2月13日	「京都妙心寺」展関連　禅講座 内容／禅講座「衆生本来仏なり」	萬壽寺僧堂　佐々木道一老師	330人
2月26日	国際セミナー「アジアの螺鈿」 内容／講演１「アジアの螺鈿について ―近年の螺鈿調査を中心に―」 講演２「韓国螺鈿漆器の歴史的流れと現況」 講演３「中国木地螺鈿工芸の遡源」 講演４「ベトナムの螺鈿 ―１０００年の歴史と発展」 講演５「タイの漆と螺鈿 ―その歴史と現状―」 講演６「タイ漆工作品における装飾と螺鈿」 全体質疑応答	 当館文化財課　小林公治 氏 韓国国立中央博物館　黄智鉉 氏 中国西安生漆塗料研究所　張飛龍 氏 ハノイ国立ベトナム歴史博物館 Nguyen DuongHoang 氏 タイ国芸術局国立博物館部Sirichai Wangcharoentrakul 氏 タイ国王宮保存修復課 Somtawin Nilvilai 氏 進行／前那覇市歴史博物館　宮里正子 氏	27人
3月14日	トピック展「巨大掛軸をめぐる文化交流」関連 国際シンポジウム「巨大掛軸をめぐる文化交流 ―祈りのかたち　日本と韓国―」 内容／発表１「日本における巨大掛軸について」 発表２「韓国の仏教儀式と掛佛」 発表３「高伝寺所蔵　大涅槃図の修理について」 発表４「韓国における掛佛の装こうと修理について」 討議	 当館企画課特別展室長　伊藤信二 氏 韓国国立中央博物館学芸研究士　鄭明熙氏 国宝修理装こう師連盟九州支部技師長　君嶋隆幸 氏 韓国・龍仁大学教授　朴智善 氏 コーディネーター／当館博物館科学課保存修復室長　藤田励夫 氏 パネリスト／伊藤信二 氏、鄭明熙 氏、君嶋隆幸 氏、朴智善 氏	300人
3月21日	第１４回九博デー 「九博の宝物たち」―九博開館5周年の成果とこれから― 内容／講演「九博の宝もの」―新指定重要文化財『菊蒔絵手箱』を中心に― 講演　阿修羅像の健康診断 講演　最新機器でわかった神々の青銅器の秘密	 東京国立博物館副館長、元九博学芸部長　小松大秀 氏 当館展示課主任研究員　楠井隆志 氏 当館企画課文化交流展室長　河野一隆 氏	160人

2-(2)-⑤ ギャラリートーク実施状況

	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
件数	130	1	11	42

【東京国立博物館】

○列品解説　52回　参加者総数　3,914人

開催日	テーマ 講師等	参加者数	担当研究員数
4月7日	中国の鏡 谷豊信　列品管理課長	82人	1人
4月14日	青磁の誕生 三笠景子　保存修復室研究員	100人	1人
4月21日	アイヌの狩猟と漁撈 日高慎　保存修復室主任研究員	46人	1人
4月28日	甲信越を歩く 冨坂賢　保存修復室長	60人	1人
5月21日	博物館の熊 神辺知加　教育講座室研究員	55人	1人
5月19日	兵庫鎖太刀について 原田一敏　上席研究員	63人	1人
5月22日	修理を支える道具と材料 荒木臣紀　環境保存室主任研究員	53人	1人
5月29日	南太平洋の暮らしと祈り 川村佳男　東洋室研究員	35人	1人
6月2日	「東都宮戸川之図」をめぐって 田沢裕賀　絵画・彫刻室長	40人	1人
6月9日	仏像の道 小泉惠英　平常展調整室長	95人	1人
6月16日	国立博物館がロダン作・エヴァを買ったわけ 木下史青　デザイン室長	55人	1人
6月30日	武家の服飾　―戦う武士の装い、大奥のファッション― 小山弓弦葉　特別展室研究員	87人	1人
7月7日	戦う武士の世界 高梨真行　書跡・歴史室研究員	78人	1人
7月14日	中世における京鍛冶について 酒井元樹　工芸・考古室研究員	65人	1人
7月24日	世界図と日本図 田良島哲　登録室長	60人	1人
7月28日	二体の大日如来像と運慶様の彫刻 丸山士郎　情報管理室長	85人	1人
7月31日	参詣曼荼羅 沖松健次郎　特別展室主任研究員	50人	1人
8月4日	鳥取県伯耆一宮経塚について 望月幹夫　上席研究員	55人	1人
8月11日	ドイツからやってきたマリア像 白井克也 東洋室主任研究員	48人	1人
8月14日	伝周文筆竹斎読書図について 救仁郷秀明　保存修復室長	71人	1人
8月18日	後三年合戦絵巻について 小林達朗 絵画・彫刻室主任研究員	109人	1人
8月25日	趙之謙とその時代 富田淳 調査研究課長	167人	1人
9月1日	蒔絵の流れ 竹内奈美子 工芸・考古室長	70人	1人
9月8日	世界と日本 高橋裕次 博物館情報課長	64人	1人
9月29日	飛鳥時代の古墳 古谷毅 列品情報整備室長	110人	1人
10月6日	観楓図屏風 遠藤楽子 国際交流室員	73人	1人
10月9日	中国考古　玉器鑑賞入門 川村佳男 東洋室員	60人	1人
10月20日	狭衣物語絵巻断簡をみる 瀬谷愛 平常展調整室員	75人	1人
10月27日	横山大観入門 植田彩芳子 特別展室員	117人	1人

開催日	テーマ 講師等	参加者数	担当研究員数
11 月 10 日	平安時代の装飾経 島谷弘幸　学芸研究部長	71 人	1人
11 月 17 日	東京国立博物館所蔵の正倉院織物 澤田むつよ　特認研究員	80 人	1人
11 月 24 日	呉州赤絵 今井敦　平成展調整室長	66 人	1人
12 月 1 日	善光寺式阿弥陀三尊像について 浅見龍介　教育普及室長	83 人	1人
12 月 8 日	土偶ー祈りの造形ー 井上洋一　企画課長	80 人	1人
12 月 15 日	海磯鏡　忘れられた文様 猪熊兼樹　貸与特別観覧室主任研究員	65 人	1人
12 月 22 日	古代ガラスの発達ー「吹きガラス」への道ー 後藤健　上席研究員	53 人	1人
22 年 1 月 5 日	寅の巻 今井敦　東洋室長	75 人	1人
1 月 19 日	秋篠寺の十一面観音菩薩立像 岩佐光晴　上席研究員	150 人	1人
1 月 21 日	土偶と土面 品川欣也　工芸・考古室研究員	174 人	1人
1 月 26 日	名物　童子切安綱を中心に 立道恵子　出版企画室長	62 人	1人
2 月 4 日	土偶の終焉とその後 日高慎　保存修復室主任研究員	100 人	1人
2 月 9 日	慈恵大師のこと 鷲塚麻季　教育講座室長	90 人	1人
2 月 16 日	蒔絵の制作技法 河内晋平　アソシエイトフェロー	67 人	1人
2 月 23 日	獅子鎮柄香炉と塔鋺 加島進　博物館教育課長	51 人	1人
3 月 2 日	東日本の弥生再葬墓 品川欣也　工芸・考古室研究員	68 人	1人
3 月 9 日	色々糸威二枚胴具足 池田宏　上席研究員	41 人	1人
3 月 16 日	文化財の公開と保存について 神庭信幸　保存修復課長	50 人	1人
3 月 24 日	鑑賞ガイド　国宝「花下遊楽図屏風」 神辺知加　教育講座室研究員	70 人	1人
3 月 24 日	着物に咲く桜 小山弓弦葉　特別展室主任研究員	60 人	1人
3 月 30 日	草書五言律詩軸の修理 土屋裕子　保存修復課主任研究員	38 人	1人
3 月 31 日	鑑賞ガイド　国宝「花下遊楽図屏風」 神辺知加　教育講座室研究員	105 人	1人
3 月 31 日	器に咲く桜 今井敦 東洋室長	87 人	1人

○ギャラリートーク　親と子のギャラリー　日本美術のつくり方　計4回　参加者数105人

開催日	テーマ 講師等	参加者数	担当研究員数
8 月 12 日	全体ガイド×一木造 浅見龍介　教育普及室長	30 人	2 人
8 月 14 日	全体ガイド×色絵磁器 浅見龍介　教育普及室長 三笠景子　保存修復室研究員	30 人	2 人
8 月 19 日	全体ガイド×布目象嵌 小林牧　広報室長 河内晋平　列品管理室	15 人	2 人
8 月 21 日	全体ガイド×裏彩色 神辺知加　教育講座室研究員 古賀海人氏　東京芸術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻	30 人	2 人

○東京芸術大学学生ボランティアによるギャラリートーク　74回　参加者総数2,636人

・平常展示作品ギャラリートーク　68回　参加者総数2,441人

実施日	回数	テーマ	氏名	参加者（人）
8月5・19・21日、9月4・9日	5	扇散蒔絵手箱　－手箱に煌めく扇面画－	藤本敦美	111
8月6・11・14・23・28日	4	伎楽面　－消えた楽舞を伝える仮面－	遠藤亮平	118
8月7・9・ 12・15・20日	5	聖母像（親指のマリア）　－日本とキリスト教美術－	浦澤倫太郎	152
8月10・13・22・27、9月3日	5	青磁茶碗　銘馬蝗絆　－粉青色という誘惑－	原唯	166
8月26・30日、9月2・8・16日	5	江戸時代の「世界」受容　－地図に表れた関心－	菅野仁美	110
9月11・15・18・23・25日	5	岸田劉生の描いた麗子像　－画家が描いた自身の家族－	金智英	128
9月17・19・20・26・27日	5	雪舟筆「四季山水図」－周文風から浙派風へ－	和田千春	171
12月1・3・8・10・17日	5	前田青邨「切支丹と仏徒」－日本画と南蛮趣味－	遠藤亮平	154
12月15・18・23日、22年1月10・14日	5	室町に花咲く文学意匠硯箱　－一合に込められた世界－	原唯	157
12月22・25日、22年1月5・8・9日	5	円山応挙「梅図襖」　－襖に樹木を描いて　－	菅野仁美	238
22年1月6・13・20・22日	4	紫式部日記絵巻　－霞たなびく料紙装飾－	藤本敦美	155
22年1月17・23・24・30・31日	5	吉祥　－縁起を担ぐ－	和田千春	171
22年1月19・21・26・28・29日	5	安田靫彦「御夢」－歴史を描く作家－	金智英	163
22年2月7・13・14・20・21日	5	洛中洛外図屏風（舟木本）－かがやくみやこ－	浦澤倫太郎	447

・制作工程模型ギャラリートーク　6回　参加者総数195人

実施日	回数	テーマ	氏名	参加者（人）
22年2月3・12・28日、3月2・11・21日	6	0.15ミリの超絶技巧	京都絵美	195

【京都国立博物館】

○社会科教員のための向上講座について　1回　　参加者総数 32人

実施日	テ ー マ	解　説　者	参加者（人）
10月27日	社会科教員指導力向上講座	研究員　大原嘉豊	32人

【奈良国立博物館】

○サンデートーク　11回　　参加者総数 584人

実施日	テ ー マ	解　説　者	参加者（人）
4月19日	唐招提寺2010プロジェクト　その10年の道のり	TBSテレビ事業局担当局長　松田幸雄	90人
5月17日	唐招提寺の古文書について	当館研究員　野尻忠	95人
6月21日	唐招提寺の鴟尾を展示し終えて	当館研究員　岩戸晶子	24人
7月19日	阿育王塔の仏舎利信仰と日本	当館学芸部長補佐　内藤栄	99人
8月16日	貿易陶磁からみる寧波と日本	当館教育室長　吉澤悟	82人
10月18日	正倉院展60回までのあゆみ	当館研究員　永井洋之	10人
11月15日	愛染明王法－平安貴族の祈り－	当館研究員　斎木涼子	13人
12月20日	春日権現験記絵巻　七百年の旅路	当館研究員　清水健	33人
22年 1月17日	春日権現験記絵披見台をめぐって	当館保存修理指導室長　谷口耕生	47人
1月24日	特集展示解説　南北朝・室町時代の彫刻	当館上席研究員　鈴木喜博	41人
3月14日	奈良の文化を感じて-平城遷都1300年に寄せて伝えたいこと- ①　「神を饗応する器-中国古代青銅器-」 ②　「東大寺二月堂修二会　3月14日　結願」 ③　「原点回帰-仏教・仏像に関する-考察-」	当館解説ボランティア ①　鈴木正三 ②　林多賀子 ③　山極徳之	50人

【九州国立博物館】

○ミュージアムトーク　42回　参加者総数　1285人

実施日	テーマ	解 説 者	参加者（人）
4月14日	縄文時代の貝塚について	展示課研究員　宮地聡一郎	25
4月21日	国宝　古文書展	博物館科学課保存修復室長　藤田励夫	20
4月28日	南蛮屏風の世界	企画課研究員　金井裕子	25
5月12日	雪舟、中国へ行く	文化財課研究員　畑 靖紀	20
5月19日	弘法大師の入唐	展示課研究員　酒井芳司	20
5月26日	漢と楽浪の文化	企画課研究員　市元 塁	25
6月 2日	「石・青銅・鉄」多様な道具の材料	展示課研究員　坂元雄紀	25
6月 9日	磁器のデザイン	企画課長　伊藤嘉章	35
6月16日	仏像の健康診断	博物館科学課環境保全室長　今津節生	30

実施日	テーマ	解 説 者	参加者（人）
6月23日	アンコールワットの仏像	文化財課長　臺信祐爾	30
7月 7日	七夕について	企画課文化交流展室長　河野一隆	30
7月14日	昔のお金の話	博物館科学課研究員　鳥越俊行	25
7月21日	中世の日本工芸	企画課特別展室長　伊藤信二	35
7月28日	弥生の赤-赤をめぐる品々-	博物館科学課長　本田光子	30
8月 4日	鍛造と鋳造-金属器生産の方法を探る-	文化財課資料登録室長　小林公治	30
8月11日	東南アジアの美術	企画課研究員　原田あゆみ	35
8月18日	倭人伝の赤	博物館科学課研究員　志賀智史	35
8月25日	漢字の導入	展示課長　赤司善彦	40
9月 1日	藤原鎌足について	展示課研究員　酒井芳司	40
9月 8日	弥生時代の甕棺	展示課研究員　坂元雄紀	30
9月15日	タイの漆器　蒟醤について	企画課研究員　川畑憲子	35
9月29日	書跡に親しむ	文化財課研究員　丸山猶計	40
10月6日	茶の湯を楽しむⅡ	学芸部長　伊藤嘉章	30
10月20日	阿修羅再び	博物館科学課環境保全室長　今津節生	30
10月27日	仁王像について	展示課主任研究員　楠井隆志	35
11月10日	古墳時代の馬の飾り	企画課研究員　市元 塁	30
11月17日	玄界灘の海人　壱岐	企画課文化交流展室長　河野一隆	25
12月 1日	天部について	文化財課長　臺信祐爾	30
12月 8日	琉球の衣装	文化財課研究員　原田あゆみ	25
12月15日	アジアの螺鈿	文化財課資料管理室長　小林公治	30
12月22日	縄文土器の形	展示課研究員　宮地聡一郎	25
1月5日	お姫様のお嫁入り道具	企画課研究員　川畑憲子	40
1月19日	徳川美術館所蔵初音の調度の科学調査	博物館科学課研究員　鳥越俊行	35
1月26日	室町時代の狩野派	文化財課研究員　畑靖紀	35
2月2日	模造 月光菩薩立像について	展示課主任研究員　楠井隆志	30
2月9日	宝慶寺石仏と細川家	企画課長　小泉惠英	30
2月16日	博多承天寺の朝鮮鐘	企画課特別展室長　伊藤信二	30
2月23日	巨大掛軸をめぐる文化交流	博物館科学課保存修復室長　藤田励夫	35
3月2日	古墳の赤―埴輪の色―	博物館科学課長　本田光子	30
3月9日	アジアの青銅楽器	展示課長　赤司善彦	35
3月16日	旧石器について	博物館科学課研究員　志賀智史	30
3月30日	扇・画帖・巻子―手元で楽しむ絵画―	企画課研究員　金井裕子	35

2-(2)-⑥ ボランティア受入れ実績

（後述の資料に記載）◎共通資料b

2-(2)-⑦ 友の会

1) 会員数

区分 / 館名	友の会会員 (年会費1万円)	友の会会員 (年会費4千円)	友の会会員 (年会費3千円)	友の会会員(学生) (年会費2千5百円)	友の会会員(学生) (年会費2千円)	友の会会員(家族) (年会費6千円)
東京国立博物館	2,085人	※20,392人	―	※1,206人	―	―
京都国立博物館	―	―	2,517人	―	95人	―
奈良国立博物館	―	―	2,668人	―	103人	28人
九州国立博物館	206人	―	※2,126人	―	※1,788人	―

※東京国立博物館、九州国立博物館では「パスポート会員」としている。

2) 友の会を対象とした事業

【東京国立博物館】

①講演会の実施

1月27日「東大寺二月堂お水取り」

講師：東大寺別当　上野 道善

参加者数：334人

② 東京国立博物館友の会対象旅行会の実施

9月7日～8日

・旅行会　　九州国立博物館「国宝阿修羅展」休館日特別観覧

・旅行先　　九州国立博物館、福岡市美術館、福岡市博物館、太宰府天満宮など

・参加者数　16人

③ その他

博物館ニュース送付,イベントの鑑賞割引等

【京都国立博物館】

①年1回（4月）、年間催事案内を送付

②京都国立近代美術館、国立国際美術館、国立民族学博物館の平常展、特別展を団体料金に割引

③財団法人京都古文化保存協会事業【京都非公開文化財特別拝観】の協力社寺拝観料の割引

④当館ミュージアムショップの商品の10%割引

【奈良国立博物館】

①第38回夏季講座「寧波をめぐる信仰と美術」

･実施期間　8月18日～20日

･事業内容　奈良女子大学講堂において9講座、博物館において展覧会概説及び見学を実施した。

･参加者数　391人

②ミュージアムショップ及びレストランでの割引特典

【九州国立博物館】

季刊情報誌「アジアージュ」、特別展ちらし、特別展連続講座等イベント案内送付、当館ミュージアムショップ・レストラン･カフェでの割引、入会時の記念品プレゼント。

2-(2)-⑧賛助会

1) 会員数

館名	東京国立博物館	京都国立博物館 (社団法人清風会)	奈良国立博物館
件数	218件	389件	56件
内訳	特別会員：16件 維持会員(個人)：178件 維持会員(団体)：24件	賛助会員：31件 特別会員：63件 普通会員：295件	特別支援会員：5件 特別会員：2件 一般会員(個人)：32件 一般会員(団体)：17件

2) 賛助会を対象とした事業

【東京国立博物館】

① 感謝会の実施　22年2月3日

当館の事業報告、弦楽四重奏の演奏つき軽食パーティー、

特別展「国宝 土偶展」概要解説

② 各特別展開会式へのご招待

③ 各特別展につき1回の特別鑑賞会へのご招待

【京都国立博物館】

①「京都国立博物館だより」（年4回）の配布
②当館平常展、特別展の無料観覧
③清風会が行う鑑賞会、見学会、会報に協力
④当館ミュージアムショップの商品の一部割引
⑤国際シンポジウム（年1回）案内の発送

【奈良国立博物館】

〇当館研究員による解説付きの賛助会員特別鑑賞会を実施
4月14日（火）　特別展「国宝　鑑真和上展」
　　特別鑑賞会　参加人数47名
7月23日（木）　特別展「聖地　寧波展」
　　特別鑑賞会　参加人数36名
10月29日（木）　「御即位二十年記念 第61回正倉院展」
　　特別鑑賞会　参加人数44名

2-(2)-⑨ 渉外活動

【東京国立博物館】

1) 会場提供 18 件（共催展に関連するものは 3)展示に関連する事業参照）

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者数
4 月 13 日	懇談会	カルティエ主催による「Story of …」展示鑑賞およびレセプション	表慶館・法隆寺宝物館	約 150 名
4 月 16 日	懇談会	カルティエ主催による「Story of …」展示鑑賞およびレセプション	表慶館・法隆寺宝物館	約 60 名
4 月 23 日	懇談会	カルティエ主催による「Story of …」展示鑑賞およびレセプション	表慶館・法隆寺宝物館	約 50 名
5 月 11 日	懇談会	カルティエ主催による「Story of …」展示鑑賞およびレセプション	表慶館・法隆寺宝物館	約 250 名
5 月 11 日	懇談会	朝日新聞社主催による「国宝 阿修羅展」展示鑑賞およびレセプション	平成館	約 500 名
5 月 28 日	懇談会	カルティエ主催による「Story of …」展示鑑賞およびレセプション	表慶館・法隆寺宝物館	約 50 名
9 月 17 日	懇談会	セイコーウォッチ（株）主催による展示鑑賞およびレセプション	法隆寺宝物館	約 130 名
9 月 29 日	懇談会	東芝国際交流財団主催によるレセプション	平成館	約 370 名
10 月 19 日	ファッションショー	mint designs ファッションショー	法隆寺宝物館	約 300 名
10 月 24 日	コンサート	吉野の桜を守る会/読売新聞社/（財）吉野山保勝会主催によるチャリティーコンサート	法隆寺宝物館	約 100 名
11 月 6 日～8 日（3 日間）	懇談会	トヨタ自動車（株）主催による展示鑑賞およびレセプション	法隆寺宝物館・庭園	約 330 名
11 月 23 日～24 日(2 日間)	イベント	したまちコメディ映画祭	平成館	538 名
12 月 18 日	懇談会	本田技研工業（株）インターナビ室主催による展示鑑賞およびレセプション	法隆寺宝物館	約 150 名
22 年 3 月 1 日	懇談会	毎日新聞社主催による「長谷川等伯」展展示鑑賞およびレセプション	平成館	約 1,050 名
22 年 3 月 9 日	懇談会	文化庁主催によるレセプション	法隆寺宝物館	約 80 名
22 年 3 月 29 日	懇談会	マセラティ主催による展示鑑賞およびレセプション	法隆寺宝物館	約 400 名
4 月 26 日 5 月 23 日 6 月 28 日 7 月 19 日 8 月 23 日 9 月 28 日 10 月 25 日 11 月 22 日 12 月 13 日 22 年 1 月 31 日 2 月 21 日 3 月 28 日	ガイドツアー	株式会社スタイル・カフェ・ドット・ネットによる リレ・アカデミー ガイドツアー	本館等	約 40 名
4 月 18 日 5 月 2 日 7 月 5 日 9 月 13 日 22 年 2 月 14 日 3 月 28 日	講演会	株式会社スタイル・カフェ・ドット・ネットによる リレ・アカデミー スクーリング	平成館等	約 20 名

2) 館主催・協力イベント 23 件

期間	種類	タイトル	会場	出席者数	備考
4 月 5 日	音楽会	東京・春・音楽祭 2009「カルテット・スピリタス サクソフォーンの響き」	本館	約 800 人 (2 回)	東京・春・音楽祭実行委員会共催
7 月 5 日	音楽会	関孝弘ピアノコンサート	平成館	216 人	サロン・ド・ソネット共催
7 月 13 日	ワークショップ	青写真制作ワークショップ	柳瀬荘 黄林閣	17 人	日本大学芸術学部共催
7 月 26 日	音楽会	ファミリーコンサート	平成館 大講堂	約 500 人 (2 回)	東京クラリネット・クワイアー共催
7 月 28 日～8 月 2 日	展示会	台東区主催によるイベント（伝統工芸職人展）	平成館	―	上野のれん会協力
8 月 22 日	音楽会	夏休み子ども音楽会	東京文化会館ほか	466 人	平常展無料入館の協力
8 月 30 日	イベント	納涼東博寄席	平成館 大講堂	370 人	
9 月 27 日	音楽会	鷲見恵理子ヴァイオリンコンサート	平成館	252 人	サロン・ド・ソネット共催
10 月 1 日～18 日	展示会	美術学科絵画コース（絵画・版画）教職員作品展	柳瀬荘	325 人	日本大学芸術学部共催

期間	種類	タイトル	会場	出席者数	備考
10 月 4 日	ワーク ショップ	デザイン学科ワークショップ 「竹の家」を共同で作る。	柳瀬荘	23 人	日本大学芸術学部共催
10 月 11 日	ワーク ショップ	写真学科ワークショップ 「青写真制作」	柳瀬荘	18 人	日本大学芸術学部共催
10 月 14 日	音楽会	音楽学科コンサート	柳瀬荘	約 40 人	日本大学芸術学部共催
10 月 18 日	ワーク ショップ	美術学科絵画コースワークショップ 「民家を描こう」	柳瀬荘	23 人	日本大学芸術学部共催
11 月　4 日	ワーク ショップ	文芸学科ワークショップ 「連句創作」	柳瀬荘	8 人	日本大学芸術学部共催
11 月 6 日～ 22 日	展示会	・美術学科彫刻コース教職員作品展 ・映画学科映像作品上映 「自然と柳瀬荘」	柳瀬荘	329 人	日本大学芸術学部共催
10 月 3 日	普及 イベント	留学生の日	本館ほか	714 人	㈱東京美術協賛
11 月 21 日	講演会	上野の山文化ゾーンフェスティバル講演会 「皇室と東京帝室博物館」高橋祐次	平成館 大講堂	141 人	上野の山文化ゾーン連絡 協議会主催
12 月 6 日	音楽会	藤原真理チェロコンサート	平成館	252 人	サロン・ド・ソネット共催
12 月 12 日	音楽会	ジェラール・プーレ ヴァイオリンコンサート	平成館	168 人	東京芸大協力
22 年 1 月 11 日	イベント	新春東博寄席	平成館 大講堂	394 人	
22 年 1 月 17 日	音楽会	亀渕由加ゴスペルコンサート	平成館	263 人	サロン・ド・ソネット共催
22 年 1 月 27 日	講演会	東大寺講演会	平成館 大講堂	334 人	東大寺共催 上野のれん会協力
22 年 3 月 14 日	音楽会	東京・春・音楽祭 2010 「Vive! サクソフォーンカルテット」	本館	約 250 人	東京･春･音楽祭 実行委員会共催
22 年 3 月 28 日	音楽会	東京・春・音楽祭 2010 「東博でバッハ vol.4」児玉桃	平成館 大講堂	241 人	東京･春･音楽祭 実行委員会共催

3)　展示に関連する事業　4件

関連する展示	期間	種類	イベント等の概要	会場	参加者数
博物館に初もうで	22 年 1 月 2 日・3 日	イベント	和太鼓演奏（和太鼓御響）	正門内池前	約 2,320 名
	22 年 1 月 2 日・3 日	イベント	獅子舞（東都葛西囃子睦会）	本館前	約 2,140 名
	22 年 1 月 2 日	イベント	江戸の太神楽（仙丸）	本館前	約 730 名
	22 年 1 月 3 日	イベント	クラリネットコンサート（アマトゥール）	平成館 ラウンジ	約 700 名

4)　撮影件数　110 件

【京都国立博物館】

1)　会場提供　21 件

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者	備考
4 月 3 日	講演会	修理技術者資格制度	研修室	20 人	装こう師連盟
4 月 9 日	講演会	美術館めぐり講座	研修室	22 人	NHK 京都文化センター
5 月 9 日	講演会	修理技術者登録審査	研修室	20 人	装こう師連盟
7 月 9 日	講演会	修理技術中級講演会	研修室	15 人	装こう師連盟
7 月 10 日	講演会	修理技術中級講演会	研修室	15 人	装こう師連盟
7 月 11 日	講演会	修理技術中級講習会	研修室	15 人	装こう師連盟
9 月 26 日	講演会	修理技術主任技師・技師長第一次試験	大学院研究室及び会議室	15 人	装こう師連盟
10 月 17 日	講演会	修理技術主任技師・技師長第二次試験	研修室及び会議室	15 人	装こう師連盟
11 月 14 日	講演会	修理技術者資格認証式	研修室	15 人	装こう師連盟
11 月 9 日	セミナー	第６回指定文化財企画・展示セミナー	研修室	25 人	文化庁文化財部
11 月 10 日	セミナー	第６回指定文化財企画・展示セミナー	研修室	25 人	文化庁文化財部
11 月 11 日	セミナー	第６回指定文化財企画・展示セミナー	研修室	25 人	文化庁文化財部
11 月 12 日	セミナー	第６回指定文化財企画・展示セミナー	研修室	25 人	文化庁文化財部
11 月 13 日	セミナー	第６回指定文化財企画・展示セミナー	研修室	25 人	文化庁文化財部
22 年 1 月 8 日	講演会	美術館めぐり講座	研修室	25 人	NHK 文化センター神戸 教室
1 月 12 日	研究会	修理技術研究会	研修室	51 人	美術院
1 月 13 日	研究会	修理技術研究会	研修室	51 人	美術院

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者	備考
1 月 14 日	講演会	美術館めぐり講座	研修室	-人	NHK 文化センター京都支社
3 月 12 日	講演会	修理技術者初級講習会・上級講習会	研修室及び会議室	15 人	装こう師連盟
3 月 13 日	講演会	修理技術者初級講習会・上級講習会	研修室及び会議室	15 人	装こう師連盟
3 月 28 日	パーティ	パーティ	庭園及び駐車場	-人	マスメディア企画

2) 館主催イベント 8 件

期間	種類	タイトル	会場	出席者数	備考
4 月 24 日	落語	京都・らくご博物館（春） ～新緑寄席～	ハイアット・リージェンシー京都 ドローイングルーム	192 人	米朝事務所共催
6 月 6 日	音楽会	バロックコンサート	特別展示館	196 人	日本テレマン協会共催
7 月 24 日	音楽会	自転車発電エコライブ	庭園	約 100 人	自転車活用推進研究会（後援）
7 月 24 日､31 日、 8 月 7 日、14 日、 21 日、28 日、 9 月 4 日	音楽会	ミニコンサート ～音楽で巡るシルクロード～	特別展示館	各回約 40 人	京都市立芸術大学共催
8 月 17 日	落語	京都・らくご博物館（夏） ～納涼寄席～	ハイアット・リージェンシー京都 ドローイングルーム	191 人	米朝事務所共催
10 月 26 日	落語	京都・らくご博物館（秋） ～紅葉寄席～	ハイアット・リージェンシー京都 ドローイングルーム	151 人	米朝事務所共催
22 年 1 月 22 日	落語	京都・らくご博物館（冬） ～新春寄席～	ハイアット・リージェンシー京都 ドローイングルーム	163 人	米朝事務所共催
2 月 20 日	音楽会及び食事会	音楽とスイーツで楽しむもう一つのハプスブルク展	ハイアット・リージェンシー京都	149 人	読売新聞大阪本社、 ハイアット・リージェンシー京都及び日本テレマン協会共催

3) 撮影 3 件

【奈良国立博物館】

1) 会場提供 32 件

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者	備考
4 月 17 日	講演会	仏像修理に関する講演	講堂	100 名	古社寺会
4 月 19 日	婚儀	結婚式会場として使用	仏教美術資料研究センター	16 名	オーシャンフロート
4 月 18 日 ～5 月 10 日	茶席	お茶席を設けお抹茶とお菓子のサービス及びお菓子の販売	西新館 ピロティ	―	鶴屋吉信
4 月 23 日	講義	「国宝　鑑真和上展」鑑賞のための講義	講堂	30 名	朝日カルチャーセンター
4 月 26 日	カーイベント	ニッポンクラシックカーラリー2009 奈良	講堂 本館 西側敷地	70 人	株式会社ツーアンドフォー
5 月 10 日	講演会	「シルクロードの終点-奈良-を巡る旅」講演	講堂	100 人	フォーユアプランニング
5 月 15 日	講義	「国宝　鑑真和上展」鑑賞のための講義	講堂	160 人	唐招提寺
6 月 6 日 ～6 月 7 日	茶会	茶会の開催	茶室	10 人	植村　貞澄
6 月 10 日 ～6 月 13 日	茶会	茶会の開催	茶室	13 人	井関　修智
6 月 27 日 ～6 月 28 日	展示	書道展	仏教美術資料研究センター	―	国際文化進社
8 月 5 日 ～14 日	観光イベント	なら燈花会会場としてｶｯﾌﾟ、ｵﾌﾞｼﾞｪ等の配置	新館前 敷地	―	なら燈花会の会
8 月 8 日 ～8 月 9 日	観光イベント	「おはなしステージ in なら燈花会」の会場としてコンサート、燈火器による本館照明等の実施	本館 西側敷地	400 人	奈良市平城遷都 1300 年記念市民連携企画実行委員会
8 月 11 日	研究発表	寧波展出陳の鏡像に関する研究発表と質疑応答	会議室	15 人	帝塚山大学教授　関根　俊一
8 月 27 日	研修	奈良市教育委員会主催教職員研修講座	講堂	200 人	奈良市教育委員会
8 月 29 日	映画祭	河瀬直美監督作品「火垂 2009」 上映、陶芸展及び茶会の開催	講堂、西新館 ピロティ、茶室	380 人	組画
8 月 29 日	観光イベント	第 11 回バサラ祭りのメイン会場として、演舞・コンサートを実施	本館 西側敷地	3,500 人	バサラ祭実行委員会

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者	備考
10 月 4 日	イベント	地元小学生によるマーチングバンドの演奏	本館 西側敷地	50 人	パイロットウォーク実行委員会
10 月 10 日	映画祭	河瀬直美監督作品「沙羅双樹」 上映、バサラ祭り踊り隊による演舞及び対談の開催	本館 西側敷地	400 人	なら国際映画祭実行委員会
10 月 24 日 ～11 月 12 日	キャンペーン	「奈良のうまいもの」紹介パネル展示	地下回廊	―	奈良県農林部マーケティング課
10 月 24 日 ～11 月 12 日	休憩所	季節の土産物販売	新館西側 敷地	―	株式会社ワールドヘリテージ
10 月 24 日 ～11 月 12 日	休憩所	休憩所設置	新館西側 敷地	―	株式会社 鶴屋吉信
10 月 24 日 ～11 月 12 日	休憩所	休憩所及び喫茶の販売	新館西側 敷地	―	有限会社日本クリーンシステムズ
10 月 24 日 ～11 月 12 日	キャンペーン	「奈良のうまいもの」販売・PR	新館西側 敷地	―	奈良県農林部マーケティング課
10 月 24 日 ～11 月 12 日	スタンプラリー	スタンプラリーのスタートブース及び冊子の配布、PR	新館西側 敷地	―	はじまりは正倉院展実行委員会
10 月 24 日 ～11 月 12 日	キャンペーン	奈良県特産品の物販	新館西側 敷地	―	校倉な会
10 月 30 日	講演会	「ヨミティ特別鑑賞会」 当館研究員によるレクチャー	会議室	20 人	読売新聞大阪本社 文化事業部
11 月 21 日 ～11 月 22 日	茶会	茶会の開催	茶室	20 人	牧岡　一生
12 月 10 日	協議会	近畿地区国立博物館・美術館の財団・協会等連絡協議会	会議室	7 人	仏教美術協会
12 月 12 日 ～12 月 13 日	授業	放送大学　平成 21 年度第二学期面接授業	講堂	98 人	放送大学
12 月 15 日	講義	「春日大社の歴史－おん祭りと春日信仰の美術－」講義	講堂	130 人	奈良文化財同好会
22 年 2 月 11 日 ～2 月 14 日	観光イベント	なら瑠璃絵の会場として、光のオブジェを配置	本館西側敷地 新館前	―	なら瑠璃絵実行委員会
3 月 3 日	講義	「お水取り」講義	講堂	40 人	NPO 法人音楽の森
3 月 8 日	講義	「お水取り」講義	講堂	37 人	NHK 文化センター

2) 特別展等に関連する事業　19 件

展覧会名	期間	イベント種類	会場	参加者数	備考
特別展 「国宝鑑真和上展」	4 月 17 日 4 月 22 日 4 月 26 日 5 月 3 日 5 月 16 日 5 月 22 日	映画「天平の甍」の上映。鑑真和上の二十年の歳月をかけて渡日するまでの苦難の道を描いた映画の上映イベント。	講堂	4/17 43 名 4/22 82 名 4/26 86 名 5/3 137 名 5/16 189 名 5/22 121 名	
	4 月 4 日～ 5 月 24 日	鑑真和上像展示室において松浦俊海長老ほか唐招提寺僧侶の和讃朗唱による法要を実施。来館者に和讃配布とご焼香の案内。	西新館	―	唐招提寺
	5 月 2 日	鑑真和上・唐招提寺フォーラム 2009 女優の紺野美沙子氏、唐招提寺長老の松浦俊海氏ほかによるフリートーク	神戸新聞松方ホール	385 人	唐招提寺、ＴＢＳ、朝日新聞社
特別展 「聖地　寧波展」	8 月 13 日	子ども向け企画として、東アジアとの交流を題材とした「にんぷろかるた」によるかるた大会を実施。参加者に「ミニにんぷろかるた」等を配布	地下回廊	88 人	寧波研究プロジェクトグループ事務局
	7 月 26 日 7 月 31 日 8 月 5 日 8 月 13 日 8 月 14 日 8 月 21 日	子ども向け企画として、アニメ映画「ぼくの孫悟空」の上映。中国の古典である「西遊記」をアニメ化した映画の上映イベント。	講堂	7/26　16 名 7/31　25 名 8/ 5　16 名 8/13　45 名 8/14　67 名 8/21　18 名	
	8 月 8 日～ 8 月 9 日	国際シンポジウム「舎利と羅漢－聖地寧波をめぐる美術」	講堂	197 人	寧波研究プロジェクトグループ事務局
	8 月 18 日～ 8 月 20 日	夏季講座「寧波をめぐる信仰と美術」	奈良女子大学講堂	391 人	
御即位二十年記念 第 61 回正倉院展	9 月 4 日～ 9 月 19 日	「正倉院展のあゆみ」 過去のポスターや図録の展示	東京日本橋奈良まほろば館	―	

展覧会名	期間	イベント種類	会場	参加者数	備考
	9月13日	「正倉院展のあゆみ」 特別講演「正倉院宝物と光明皇后」	東京日本橋 奈良まほろば館	70人	
	10月24日～ 11月12日	「皇室写真展」 今までに正倉院展に訪れた皇室の写真を展示	西新館考古展示室	―	読売新聞大阪本社
	10月24日～ 11月12日	ＮＨＫ「日曜美術館」に放映された正倉院展特集（H15～H20）の映像上映（60分）	西新館ピロティ（北側）	―	ＮＨＫ奈良放送局
	10月24日～ 11月12日	「野点のお茶会」 正倉院展会期中の入館者を対象とした呈茶席	西新館 ピロティ	18,212人	結の会
	10月24日～ 11月12日	「いけばな展示」 法華寺小池御流によるいけばなの展示	西新館 1階	―	
	10月24日～ 11月12日	●正倉院展関連の新聞紙面ポスターなどの展示 ●読売新聞社が制作した「正倉院展」DVD映像の放映 ●来場者に抽選くじによる記念品贈呈	新館西側 敷地	―	読売新聞大阪本社
	10月24日～ 11月12日	●読売新聞社が写真取材したシルクロードの風景のパネル展示	地下回廊	―	読売新聞大阪本社
	10月26日	NHK 制作番組「宝物を守り伝える」上映会＆講演会	講堂	65名	ＮＨＫ奈良放送局
特別陳列 「おん祭と春日信仰の美術」	22年 1月16日	「春日若宮おん祭の舞楽」 南都楽所による舞楽公演	講堂	85人	
特別陳列 「お水取り」	2月6日	「お水取り講話と粥の会」 東大寺　守谷長老による講話、当館西山学芸部長による特別陳列「お水取り」の解説及び観賞、茶粥試食、二月堂見学	講堂 展示室 茶室控室 東大寺二月堂	32人	
	3月2日	「お水取り展観賞とお松明」 当館西山学芸部長による特別陳列「お水取り」の解説及び観賞、東大寺　森本長老による講話、「お水取り」ビデオ鑑賞、東大寺二月堂にてお松明見学	講堂 展示室 東大寺本坊 東大寺二月堂	173人	主催：結の会

3) その他イベント等　12件

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者	備考
5月2日	落語	「まほろば寄席－奈良国立博物館落語ｼﾘｰｽﾞ第6回－」 桂 小春團治、桂　文華、林家　染雀、桂　佐ん吉による落語会	講堂	144人	共催：奈良テレビ放送
5月10日	講座	「奈良国立博物館　まほろば講座香文化を辿る講座」 講師：稲坂　良弘（日本香堂顧問）	講堂	132人	共催：日本香堂
6月26日 ～10月4日	展示	唐招提寺の鑑真和上ゆかりの蓮など約15種類の蓮を展示	西新館前 人工池	―	
7月12日	講座	「奈良国立博物館　まほろば講座天平の食文化」 講師：尾道　龍男（奈良パークホテル料理部長）	講堂	92人	共催：奈良パークホテル
7月19日 ～8月30日	展示	「子供絵画館 in NARA」 ふるさとのお盆の思い出」絵画コンクール入賞作品展覧会	地下回廊	―	主催：日本香堂 後援：朝日学生新聞社 協力：奈良国立博物館
7月19日	講座	「子供絵画館 in NARA」オープニング企画　夏休みお線香手ずくり体験講座	仏教美術資料研究センター	第1回 35人 第2回 40人 第3回 25人	協力：日本香堂
8月23日	落語	「まほろば寄席－奈良国立博物館落語ｼﾘｰｽﾞ第7回－」 桂 小春團治、笑福亭　瓶太、桂　文三、桂 二乗による落語会	講堂	135人	共催：奈良テレビ放送

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者	備考
10月17日	講座	「奈良国立博物館　まほろば講座正倉院に伝わる薬が語るー天平時代、人々が求めた健康な暮らしー」 講師：米田　該典（大阪大学大学院医学研究科、薬学博士）	講堂	93人	
10月11日	落語	「まほろば寄席－奈良国立博物館落語シリーズ第8回－」 笑福亭　松喬、桂 小春團治、桂 わかば、林家　染太による落語会	講堂	92人	共催：奈良テレビ放送
22年 1月2日 ～1月7日	展示	「いけばな展示」 法華寺小池御流によるいけばなの展示	新館エントランス	―	
1月23日	落語	「まほろば寄席-奈良国立博物館落語シリーズ第9回-」 桂　小春團治、笑福亭　伯枝、桂　壱之輔、桂　三四郎による落語会	講堂	104人	主催：奈良テレビ放送
2月9日	特別公開	「文化財保存修理所特別公開」 普段は公開していない修理所を当館研究員の解説付きで見学	講堂 修理所	第1回 23人 第2回 28人 第3回 29人	

【九州国立博物館】

1)　会場提供　計39件　（共催展に関連するものは、3)展示に関連する事業参照）

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者数	備考
3月31日～4月5日	展示	「生活の中のデザイン」KCDA会員選抜展	エントランス	10,400	九州クラフトデザイン協会
4月5日	イベント	博多にわか大会 「春らんまん　九州国立博物館で博多にわかを楽しもう」	ミュージアムホール	520	博多仁和加振興会
4月6日	イベント	「レッドクリフ PartⅡ―未来の最終決戦―」福岡キャンペーン ジョン・ウー監督出演	エントランス	―	東宝東和
4月18日	講演会	松岡正剛独演会「ぼくの九州同舟制」 九州参集・史繍編集 ―発現の古代から創発の未来―	ミュージアムホール	250	A&Q有限責任事業組合
4月19日	音楽会	箏演奏会「まほろば　箏のしらべ」	ミュージアムホール	300	「まほろば 箏のしらべ」実行委員会
6月2日～6月14日	展示	光の織物 ―光峯の織物美術―	ミュージアムホール	74,800	光峯錦織工房／日本伝統織物保存研究会
6月9日～6月14日	イベント	第61回ミュージアムコンサート特別協賛イベント 「ハイブリッドカー　ＮＥＷ ＰＲＩＵＳ　館内展示」	エントランス	38,700	福岡トヨペット
6月17日	音楽会	筑紫女子学園大学フィルハーモニー管弦楽団記念コンサート	ミュージアムホール	100	筑紫法人会（女性部会）
6月27日	音楽会	だざいふリコーダーアンサンブルによるカフェコンサート	エントランス	110	だざいふリコーダーアンサンブル
7月20日	音楽会	台湾南瀛民族楽団演奏会	ミュージアムホール	600	ＮＧＯ国際佛光会福岡協会／国際佛光青年団福岡分団／臨済宗日本佛光山 福岡佛光山寺
7月25日	音楽会	雅天空コンサート「天平の風音」	ミュージアムホール	200	ムーライトオフィス
8月29日	イベント	エレキット夏休み工作教室ｉｎ太宰府2009	研修室	50	(株)イーケイジャパン
9月5日	神楽	京築神楽　九州国立博物館公演	ミュージアムホール	1,000	京築連帯アメニティ都市圏推進会議／京築神楽の里づくり推進会議
9月10日	音楽会	だざいふリコーダーアンサンブルによるカフェコンサート	エントランス	160	だざいふリコーダーアンサンブル
9月25日	イベント	第4回 太宰府古都の光	屋外	―	太宰府市ブランド創造協議会
9月29日～10月4日	展示	天皇陛下御即位二十年福岡県奉祝　記念パネル展示（兼上映会）	ミュージアムホール	620	天皇陛下御即位二十年福岡県奉祝委員会
9月29日～10月4日	展示	祝中華人民共和国建国60周年　九州華僑華人芸術家書画写真展	エントランス	11,900	九州華僑華人文学芸術家聯合会
10月3日	講演会	筑陽学園文化講演会「ジャワ・ガムラン音楽」	研修室	35	筑陽学園中学・高等学校

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者数	備考
10月14日～10月25日	展示	榊晃弘・万葉のこころ写真展	エントランス	34,300	(財)古都大宰府保存協会
10月18日	展示	榊晃弘・万葉のこころ写真展 写真家 榊晃弘氏によるギャラリートーク	エントランス	40	(財)古都大宰府保存協会
10月22日	講座	九州市民大学平成21年度後期ミニ講座	ミュージアムホール	100	九州市民大学
10月23日～10月25日	イベント	九州国立博物館開館4周年協賛　出前温泉「足湯」 ～お！館外にもあった　至福の時間～	屋外	12,900	福岡県観光温泉地協会
10月24日～10月25日	学会	萬葉学会第62回全国大会	ミュージアムホール	300	萬葉学会
10月25日	獅子舞	八代妙見祭「中島町獅子舞」公演	屋外	100	八代妙見祭活性化協議会
10月31日	研究集会	アジア博物館研究集会	ミュージアムホール	150	文化庁／国立文化財機構
11月8日	イベント	「いいな、いい歯。」週間普及啓発事業	屋外	2,000	(社)筑紫歯科医師会
11月21日	イベント	知的財産権教育支援事業「作って遊ぼう発明キッズラボ」 （放課後ヒラメキ体験）	研修室	30	九州経済産業局／九州知的財産戦略協議会
11月28日～11月29日	フォーラム	タイアップ企画「IPM市民フォーラム」	エントランス	200	九州文化財国際交流基金／NPO法人文化財保存活用支援センター／NPO法人ミュージアムIPMサポートセンター
12月4日	音楽会	太宰府市小学校音楽会	ミュージアムホール	550	太宰府市教育委員会／太宰府市小学校音楽会実行委員会
12月6日	イベント	キャンパスフェスタ’０９	ミュージアムホール／エントランス	2,400	太宰府キャンパスネットワーク会議
12月10日	音楽会	だざいふリコーダーアンサンブルによるカフェコンサート	エントランス	30	だざいふリコーダーアンサンブル
12月12日	研究集会	国立歴史民俗博物館国際研究集会「日韓における古墳・三国時代の年代観（Ⅲ）」	ミュージアムホール	100	国立歴史民俗博物館／大韓民国釜山大学校博物館
12月23日	音楽会	第18回ピアノ発表会「X'mas concert」	ミュージアムホール	100	福住節子／(株)日本楽芸社
3月2日～3月7日	展示	第4回福岡県景観大会 「景観文化展作品等展示」	エントランス		福岡県／福岡県美しいまちづくり協議会
3月7日	イベント	第4回福岡県景観大会 「表彰式」「まちづくり団体活動発表会」	ミュージアムホール		福岡県／福岡県美しいまちづくり協議会
3月16日～3月22日	展示	第3回太宰府発見コンクールフェスティバル 「表彰式」「展示」	ミュージアムホール／エントランス		(財)古都大宰府保存協会
3月19日	公演	劇団道化・中国児童芸術劇院　日中合作公演「３只小猪（３びきのコブタ）」	ミュージアムホール		文化庁／福岡県地域文化芸術振興プラン推進事業実行委員会／福岡の日中文化交流を育む会実行委員会
3月24日～3月28日	展示	青年海外協力隊写真展『そこに君はいた・・・』	エントランス		（独）国際協力機構 九州国際センター《JICA九州》
3月27日	イベント	九州国立博物館で　博多にわか	ミュージアムホール		博多仁和加振興会

2）館主催・協力イベント　計67件

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者数	備考
4月12日	音楽会	第59回 きゅーはくミュージアムコンサート 「Ringin' Bells Rondo Club」	エントランス	180	
4月17日	シンポジウム	日本芸術文化の自画像を描く試み ― 日本芸術文化資料庫（データベース）第3回シンポジウム	ミュージアムホール	30	九州大学日本芸術文化資料庫委員会
4月22日～5月6日	イベント	ベトナム文化紹介イベント 「感動の国ベトナム～Impressive Vietnam～」	エントランス	61,800	ベトナム文化・スポーツ・観光省／在福岡ベトナム総領事館／福岡県
4月24日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	100	福岡女子短大
5月9日	音楽会	第60回 きゅーはくミュージアムコンサート 「The Soup Stock」	エントランス	260	

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者数	備考
5月10日	落語	第12回 九博朝日寄席 「喜多八・扇辰　皐月の競演」	ミュージアムホール	250	朝日新聞社
5月15日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	80	福岡女子短大
5月16日	音楽会	第1回 ガムランワークショップ	ミュージアムホール	8	
5月22日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	120	福岡女子短大
6月5日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	180	福岡女子短大
6月11日	式典	入館者600万人達成記念セレモニー	エントランス	1,200	
6月13日	音楽会	第61回 きゅーはくミュージアムコンサート 「MAPLE’s～ファゴットの旅路～」	エントランス	280	
6月19日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	130	福岡女子短大
6月20日	音楽会	第2回 ガムランワークショップ	ミュージアムホール	19	
7月3日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	70	福岡女子短大
7月4日～ 7月12日	イベント	ボランティア企画「七夕」	エントランス	5,000	ボランティア
7月4日	音楽会	第3回 ガムランワークショップ	ミュージアムホール	16	
7月5日	音楽会	第62回 きゅーはくミュージアムコンサート 「１８弦の祝宴」- ギタートリオ -	エントランス	180	
7月10日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	60	福岡女子短大
7月17日	音楽会	福岡女子短期大学コーラスコンサート	ミュージアムホール	120	福岡女子短大
7月18日～ 7月20日	イベント	行こうよ！あじっぱ夏祭り2009	エントランス／あじっぱ	450	
8月8日	音楽会	第63回 きゅーはくミュージアムコンサート 「癒しの旋律-二胡」	ミュージアムホール	400	
8月14日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	200	福岡女子短大
8月21日	式典	飾り山神事「御神入れ（ごしんいれ）」	エントランス	50	西日本新聞社
9月4日	音楽会	きゅーはくミュージアムコンサート番外編 「津軽三味線演奏会」	ミュージアムホール	250	壱岐・対馬フェリー(株)
9月6日	落語	第13回 九博朝日寄席 『講談／落語「異種」伝統話芸の’響演’』	ミュージアムホール	260	朝日新聞社
9月11日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	200	福岡女子短大
9月26日	音楽会	第64回 きゅーはくミュージアムコンサート 「September～琵琶と尺八のひびき～」	ミュージアムホール	400	
10月9日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	60	福岡女子短大
10月15日	ワークショップ	能楽ワークショップ「能と平家物語」	研修室	50	
10月15日	能	4周年記念「九博能」	ミュージアムホール	250	
10月16日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	160	福岡女子短大
10月17日	音楽会	ガムランコンサートⅡ～ジャワ舞踊とガムランの魅力～	ミュージアムホール	250	
10月18日	音楽会	第65回 きゅーはくミュージアムコンサート 「秋に贈るFantastic Concert」	エントランス	100	
11月3日	音楽会	第66回 きゅーはくミュージアムコンサート 「古から未来への言霊」	ミュージアムホール	180	
11月3日	ワークショップ	留学生の日特別企画「和太鼓ワークショップ」	ミュージアムホール	40	
11月3日	ワークショップ	留学生の日特別企画「着物をきてみよう(きもの体験)」	研修室	30	
11月3日	ワークショップ	留学生の日特別企画「茶の湯のお点前（茶道体験）」	和室	65	
11月6日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	110	福岡女子短大
11月13日	フォーラム	ふくおか文化ボランティアフォーラム2009	ミュージアムホール	170	ふくおか県民文化祭福岡県実行委員会／福岡県／福岡県文化団体連合会／福岡県教育委員会／(財)自治総合センター／NPO法人文化ボランティアとびうめの会
11月14日	イベント	アサヒ緑健スポーツメセナ　第7回ふれあい健康ウォーク	屋外	－	西日本新聞社
11月20日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	120	福岡女子短大
11月22日	講演会	トピック展「祈りの山 宝満山」開催記念講演会 「祈りの山 宝満山 ―山岳信仰と修験道―」	ミュージアムホール	300	（財）太宰府顕彰会

期間	種類	イベント等の概要	会場	出席者数	備考
11 月 28 日～ 11 月 29 日	シンポジウム	平成 21 年度文化庁美術館・博物館活動基盤整備支援事業 公開シンポジウム「市民と共に ミュージアム IPM」	ミュージアムホール	190	（平成 21 年度文化庁美術館・博物館活動基盤整備支援事業）
11 月 28 日～ 12 月 4 日	展示	福岡地域学芸員“知のネットワーク”構築事業 巡回展示「学芸員のお仕事展」	エントランス	19,500	福岡地域学芸員ネットワーク推進協議会
12 月 11 日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	60	福岡女子短大
12 月 15 日～ 12 月 23 日	展示	古都の光 PR 展示	エントランス	10,800	
12 月 18 日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	70	福岡女子短大
12 月 19 日	音楽会	第 67 回 きゅーはくミュージアムコンサート 「Healing Christmas Concert」	エントランス	150	
12 月 20 日	音楽会	第 5 回 ガムランワークショップ	ミュージアムホール	30	
1 月 3 日	イベント	ボランティア企画「九博のお正月」 餅つき・書初め・折り紙	屋外／エントランス	1,128	ボランティア
1 月 4 日～ 1 月 11 日	展示	ボランティア企画 井上孝治写真展「こどものいた街」	エントランス	26,900	ボランティア
1 月 9 日	音楽会	第 68 回 きゅーはくミュージアムコンサート 「招福音はじめ ～よきことをきく～」	エントランス	180	
1 月 22 日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	110	福岡女子短大
1 月 23 日	音楽会	第 6 回 ガムランワークショップ	ミュージアムホール	17	
1 月 24 日	落語	第 14 回 九博朝日寄席 「初笑い、伝統の柳派と新作”星空”落語	ミュージアムホール	250	朝日新聞社
1 月 29 日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	100	福岡女子短大
2 月 16 日～ 2 月 21 日	展示	筑紫地区小学校児童画展	エントランス		九州国立博物館／九州国立博物館を愛する会／九州国立博物館ボランティア
2 月 19 日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	170	福岡女子短大
2 月 20 日	座談会	ミュージアム講座アジアージュ： きゅーはくの絵本 10 冊刊行記念座談会 「えほんのある博物館―ほら、歴史が語りかけてくる―」	ミュージアムホール		
2 月 21 日	イベント	九博子どもフェスタ「博物館って本当におもしろいね！」	ミュージアムホール／エントランス／研修室	1250	九州国立博物館／九州国立博物館を愛する会／九州国立博物館ボランティア
2 月 26 日	セミナー	国際セミナー「アジアの螺鈿」	研修室	27	
2 月 26 日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	エントランス	90	福岡女子短大
2 月 27 日	音楽会	第 69 回 きゅーはくミュージアムコンサート「長唄囃子の響き」	エントランス	200	
3 月 12 日	音楽会	きゅーはくカフェコンサート	エントランス		福岡女子短大
3 月 20 日	音楽会	第 70 回 きゅーはくミュージアムコンサート「内山覚(Gt) & 野瀬栄進(P) from NY SUPER DUO！」	エントランス		
3 月 21 日	イベント	第 14 回 九博デー「九博の宝物たち」 ―九博開館５周年の成果とこれから―	ミュージアムホール		

3）展示に関連する事業　計 57 件

展覧会名	期間	イベント種類	会場	参加者数
文化交流展	10 月 10 日～10 月 12 日	トピック展「玄界灘の海人・壱岐」展関連イベント 壱岐展ワークショップ①	研修室／屋外	253
	11 月 17 日～11 月 23 日	トピック展「祈りの山 宝満山」関連イベント 栗原隆司写真展「宝満山 2009 春夏―祈りと山麓のくらし―」	エントランス	37,300
	12 月 12 日～12 月 13 日	トピック展「玄界灘の海人・壱岐」展関連イベント 壱岐展ワークショップ②／壱岐神楽	研修室／ミュージアムホール	189
	12 月 19 日～12 月 20 日	トピック展「玄界灘の海人・壱岐」展関連イベント 壱岐展ワークショップ③	研修室／屋外	199
	3 月 13 日～3 月 14 日	トピック展「巨大掛軸」関連イベント 大涅槃図（佐賀市高伝寺）展示	エントランス	

展覧会名	期間	イベント種類	会場	参加者数
	3月14日	トピック展「巨大掛軸」関連イベント 国際シンポジウム「巨大掛軸をめぐる文化交流 ―祈りのかたち　日本と韓国―」	ミュージアムホール	
聖地チベット展	4月7日～4月19日	「聖地チベット展」関連 張晶絵画展「チベットの美」	エントランス	32,400
	4月25日～5月10日	「聖地チベット展」関連 椎名誠写真展「チベットの青い空」	エントランス	67,400
	4月25日	「聖地チベット展」関連 椎名誠講演会「チベットの青い空 ―カイラス巡礼記」	ミュージアムホール	330
	5月5日～5月6日	チベット展関連「視覚障がい者チャリティイベント in 九博」 エフコープ「福岡自慢」	屋外	14,000
	5月9日	「聖地チベット展」関連 チベットタンカ講座「チベットの聖なる図像学～ターラー菩薩を描く」	研修室	14
	5月9日	「聖地チベット展」関連 cross fm×ａｌａｎ（アラン）ミュージアムコンサート	ミュージアムホール	300
	5月12日～5月24日	「聖地チベット展」関連 四島司写真展「チベットの貌（かお）」	エントランス	49,300
	5月16日～5月17日	「聖地チベット展」関連 茶席	エントランス	167
	5月23日	「聖地チベット展」関連 曽布川寛講演会「チベット密教の世界」	ミュージアムホール	300
	5月30日～6月7日	張晶絵画展「チベットの美」２	エントランス	48,700
	6月6日	九州シルクロード協会2009年度第2回交流会 「天空の世界遺産都市・ラサにいたる神々の造形と表現」	研修室	30
国宝　阿修羅展	7月14日	「国宝 阿修羅展」関連 中村もときの通勤ラジオ　国宝阿修羅展開幕生放送	エントランス	―
	7月18日	「国宝 阿修羅展」関連 興福寺僧侶による講座「天平の文化空間の再構成」	ミュージアムホール	250
	7月18日	「国宝 阿修羅展」開催記念イベント JAのお米 めし丸くんpresents「阿修羅ウォーク」 ～夕暮れの太宰府散策と九州国立博物館ナイトミュージアム～	エントランス／ミュージアムホール	1,369
	8月1日	「国宝 阿修羅展」関連 興福寺僧侶による講座「天平の文化空間の再構成」	研修室	105
	8月2日	「国宝 阿修羅展」関連 記念講演会「国宝　阿修羅像について」 金子啓明：興福寺国宝館館長	ミュージアムホール	270
	8月8日	「国宝 阿修羅展」関連 興福寺僧侶による講座「天平の文化空間の再構成」	研修室	80
	8月15日	「国宝 阿修羅展」関連 興福寺僧侶による講座「天平の文化空間の再構成」	研修室	168
	8月22日	「国宝 阿修羅展」関連 興福寺僧侶による講座「天平の文化空間の再構成」	研修室	114
	8月23日	「国宝 阿修羅展」関連 記念講演会「阿修羅像と光明皇后」 東野治之：奈良大学教授	ミュージアムホール	240
	9月12日	「国宝 阿修羅展」関連 興福寺僧侶による講座「天平の文化空間の再構成」	研修室	73
	9月19日	「国宝 阿修羅展」関連 興福寺僧侶による講座「天平の文化空間の再構成」	研修室	153
	9月20日	「国宝 阿修羅展」関連 記念講演会「興福寺創建と天平文化」 多川俊映：興福寺貫首(かんす)	ミュージアムホール	165
	9月26日	「国宝 阿修羅展」関連 興福寺僧侶による講座「天平の文化空間の再構成」	研修室	135
古代九州の国宝展	11月7日	「古代九州の国宝」開催記念 宗次郎～風と大地の音～コンサート	ミュージアムホール	590
	11月8日	「古代九州の国宝」関連 シンポジウム「邪馬台国はここにあった」	ミュージアムホール	330
	11月8日	「古代九州の国宝」関連 セミナー「夜行貝とサンゴの海　その魅力とその再生」	研修室	32
	11月14日～11月15日	「古代九州の国宝」関連 NHKふれあい放送体験隊	エントランス	3,200
	11月15日	「古代九州の国宝」関連 シンポジウム「装飾古墳と科学」	ミュージアムホール	200
	11月21日～11月23日	「古代九州の国宝」関連	エントランス	414

展覧会名	期間	イベント種類	会場	参加者数
		NHK さわってはかって考古クイズ		
京都　妙心寺展	1月9日	「京都妙心寺」関連 坐禅会	研修室	52
	1月10日	「京都妙心寺」関連 こども坐禅会	研修室	50
	1月10日	「京都妙心寺」関連 講演会「妙心寺と九州・琉球」 竹貫元勝：花園大学教授	ミュージアムホール	166
	1月11日	「京都妙心寺」関連 大般若会	ミュージアムホール	234
	1月11日	「京都妙心寺」関連 法話「禅 ―修行道場の生活」と大坐禅会 講師：梅林寺僧堂 東海大玄老師	ミュージアムホール	120
	1月13日～1月17日	「京都妙心寺」関連 妙心寺鐘・観世音寺鐘 一般公開（展示）	エントランス	18,898
	1月16日	「京都妙心寺」関連 鳴鐘会（めいしょうえ）	エントランス	2,200
	1月16日	「京都妙心寺」関連 坐禅会	研修室	25
	1月16日	「京都妙心寺」関連 特別講演会「龍の背に乗る」 玄侑宗久：作家・臨済宗妙心寺派福聚寺住職	ミュージアムホール	317
	1月17日	「京都妙心寺」関連 学術講演会「白隠の禅画について」 芳澤勝弘：花園大学国際禅学研究所教授	ミュージアムホール	134
	1月23日	「京都妙心寺」関連 坐禅会	研修室	
	1月30日	「京都妙心寺」関連 坐禅会	研修室	
	1月30日	「京都妙心寺」関連 禅講座「博多の仙厓さん」 講師：聖福寺僧堂 細川白峰老大師	ミュージアムホール	213
	1月31日	「京都妙心寺」関連 尺八コンサート「吹禅のひびき」	ミュージアムホール	350
	2月2日～2月11日	「京都妙心寺」関連 日展　福岡作家展「和のこころ」	ミュージアムホール	
	2月6日～2月7日	「京都妙心寺」関連 南方流　呈茶会	エントランス	
	2月6日	「京都妙心寺」関連 坐禅会	研修室	
	2月9日～2月14日	「京都妙心寺」関連 京都物産展	エントランス	34,000
	2月13日	「京都妙心寺」関連 坐禅会	研修室	
	2月13日	「京都妙心寺」関連 禅講座　講師：萬壽寺僧堂 佐々木道一老師	ミュージアムホール	330
	2月20日	「京都妙心寺」関連 坐禅会	研修室	

2-(2)-⑩ 「留学生の日」

館名・日程	内容	アンケート結果概要
東京国立博物館 10 月 3 日(土) 9：30～17：00	○入館者　714 人《862 人》 留学生　635 人《852 人》 同伴者　79 人《 10 人》 (ALT 7 人を含む) ・博物館紹介「東京国立博物館へようこそ」 50 人(2 回計) ・ボランティアによる茶会 108 人(3 回計) ・ボランティアによる英語ガイド ・講演会　74 人	・留学生アンケート回答者数 314 人 (回収率 44%) ・出身国：中国 43%、韓国 10%、アメリカ 10%、台湾 8%　他 ・認知経路：学校関係者から 39%、ポスター26%、友達から 24%、チラシ 6%、ウェブ 5% ・参加したイベント：展示観覧のみ 51%、お茶会 12%、博物館紹介 14%、英語ガイド 9%、講演会 7%
京都国立博物館 10 月 25 日(日) 9：30～18：00	○入館者　136 人《163 人》 留学生　132 人《159 人》 同伴者　4 人《 4 人》 ・お茶会(11 時～14 時) 72 人《 81 人》 ・特別展覧会「日蓮と法華の名宝」無料観覧	・留学生アンケート回答者数 33 人 (回収率 24%) ・初めて来館した人が 88% ・20%がポスター･チラシで知り、62%が先生･友達から聞いて来た ・出身国：約 7 割がアジア ・約 5 割がお茶会に参加 ・お茶会の満足度　96% ・特別展の満足度　88% ・日本の歴史、美術に興味のある方が多い
奈良国立博物館 11 月 2 日(月) 9：00～18：00 (正倉院展会期中、 9：00 開館)	○入館者 13,334 人《15,485 人》 留学生　77 人《 75 人》 ・「正倉院展」(特別展)及び平常展の無料観覧	・アンケート実施せず
九州国立博物館 11 月 3 日(火・祝) 9：30～17：00	○入館者数 文化交流展(平常展)1,897 人《705 人》 留学生　316 人《39 人》 ・平常展のみ無料観覧 ・きゅーはくミュージアムコンサート(和太鼓コンサート、ワークショップ) ・きもの体験、茶道体験	・留学生アンケート回答者数 73 人 (回収率 23%) ・出身国：中国 60%、台湾・スウェーデン・ネパール各 9%　他 ・始めて来館した人　91% ・認知経路：学校関係者から 81% ・来館理由：日本文化をもっと知りたいから 51% ・参加イベント：どれにも参加していない 48%、和太鼓ワークショップ　27%、きもの体験 10%、茶道体験　9% ・文化交流展満足度：94%(とてもよかった、よかったを合算)

＊入館者数：《　》内は平成 20 年度

2-(3) 快適な観覧環境の提供

2-(3)-① 高齢者、身体障害者等に配慮した設備等

	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
障害者用トイレ	9か所 （本館4、平成館2、東洋館1、法隆寺宝物館1、資料館1）	5か所 （特別展示館1、南門施設1（乳児ベッド併設）、正門1、屋外トイレ1、文化財保存修理所1	3か所 （東新館1、地下回廊2）	6 か所 （本体建物）
障害者用エレベータ	7基 （本館2、平成館1、東洋館3、法隆寺宝物館1）	昇降装置1基 （管理棟1）	4基 （本館1、本館附属棟1、東新館1、西新館1）	2 基 （本体建物）
スロープ	4か所 （本館、東洋館、法隆寺宝物館、表慶館）	3か所 （南門施設1、本館1、文化財保存修理所1）	3か所 （本館1、本館附属棟1、西新館1）	—
ハンディキャップ優先駐車場	2台	3台	—	3 台
車椅子	13台 （本館2台、東洋館1、平成館7、法隆寺宝物館1、表慶館1、正門1）	16台	11台	20 台
乳幼児用設備	○ベビーシート 15か所 ○ベビーチェア 9か所	○ベビーカー 6台 ○ベビーシート 5か所 ○チャイルドシート 2か所	○ベビーシート 2か所	○ベビーシート 12か所 ○ベビーチェア 5 か所
21年度整備事項	・柳瀬荘にスロープを設置した。		・本館附属棟手摺を老朽化のため刷新した。	

2-(3)-② 音声ガイド実施状況

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
・特別展 「国宝 阿修羅展」 4/1以降: 173,192台 (会期中(3/31～): 174,903台)	・特別展 「妙心寺」 (日本語版・一般向け) 4/1以降：9,960台 (会期中(3/24～)：10,988台)	・特別展 「国宝 鑑真和上展」 (日本語版・一般向け) 9,592台	・文化交流展示 5,326台 (英語版 1,897) (中国語版 1,197) (韓国語版 2,232)
・特別展 「伊勢神宮と神々の美術」 25,147台	・特別展 「シルクロード 文字を辿って」 (日本語版・一般向け) 2,894台	・特別展 「聖地寧波」 (日本語版・一般向け) 2,463台	・特別展 「聖地チベット ポタラ宮と天空の至宝」 18,208台
・特別展 「染付－藍が彩るアジアの器展」 5,716台	・特別展 「日蓮と法華の名宝」 (日本語版・一般向け) 17,087台	・特別展 「第61回正倉院展」 (日本語版・一般向け) 38,926台 (英語版・一般向け) 629台 (日本語版・子供向け) 360台	・特別展 「興福寺創建1300年記念 国宝 阿修羅展」 90,720台
・特別展 「皇室の名宝－日本美の華－」 85,665台	・特別展 「THE ハプスブルク」 (日本語版・一般向け) 48,856台		・特別展 「古代九州の国宝」 8,894台
・特別展 「国宝 土偶展」 15,938台			・特別展 「京都 妙心寺 禅の至宝と九州・琉球」 16,011台
・特別展 「長谷川等伯」 55,243台			

3 我が国における博物館のナショナルセンターとして博物館活動全体の活性化に寄与

3-(1) 収蔵品等に関する調査研究成果の発信

3-(1)-① 学会、研究会等発表実績一覧

（後述の資料に記載） ◎共通資料a-③

3-(1)-② 論文等発表実績一覧

（後述の資料に記載） ◎共通資料a-④

3-(1)-③ 調査研究刊行物一覧

（後述の資料に記載） ◎共通資料a-⑤

3-(1)-④ シンポジウム開催実績一覧

合計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
13件	4件	2件	3件	4件

【東京国立博物館】

○平成21年度文化庁美術館・博物館活動基盤整備支援事業　古代染織品の保存・活用に関する国際研究交流　ワークショップ「古代染織品の保管と公開」

開 催 日　12月19日
開催場所　東京国立博物館会議室
主　　催　東京国立博物館
参加人数　30人
事業内容　上代裂を含む古代染織品の収蔵・保管と公開について、専門家向けのワークショップを行った。上代裂に関する修理方法は当館では確立されていないため、各分野の研究者からの新知見を共有し、将来的な修理方法の検討に役立てることを目的として開催した。それぞれの発表から触発された内容について質問や意見交換を行い、熱心な議論が交わされた。

○平成21年度文化庁美術館・博物館活動基盤整備支援事業　古代染織品の保存・活用に関する国際研究交流　シンポジウム「上代裂をまもる」

開 催 日　12月20日
開催場所　東京国立博物館大講堂
主　　催　東京国立博物館
参加人数　217人
事業内容　研究者はもとより一般の方々にも上代裂に関する理解を深めてもらえるよう、上代裂を中心とした古代染織品の保存・活用・普及に役立てることを目的として開催した。世界各地の古代染織品に関する国内外の染織史研究者、保存科学者、保存修復家などが集まり、製作技法や修理技術について討議し、古代染織品に対する認識を深めた。

○公開シンポジウム　文化財をまもるー文化財のまもり手を育てるー（文部科学省科学研究費補助金研究成果公開促進費「研究成果公開発表(B)」）

開 催 日　平成22年1月16日
開催場所　東京国立博物館大講堂
主　　催　文化財保存修復学会、東京国立博物館
参加人数　266人
事業内容　文化財の保護は未来永劫に続く活動であり、保存修復専門家の後継者育成は避けて通れない重要なテーマである。講演等によってその歴史や現状、課題に迫り、同じ文化を背負っている同時代人と共に考え理解を深めることは有意義である。これから文化財保護の世界を目指す若い世代に情報発信することで様々な指針を与えることを目的とする。

○博物館教育国際シンポジウム「伝統文化を伝えるために博物館ができること」

開 催 日　平成22年1月24日
開催場所　東京国立博物館大講堂
主　　催　東京国立博物館
参加人数　170人
事業内容　2006年度から2009年度にかけて助成を得た基盤研究（A）「博物館教育・普及事業の事例分析と日本の伝統文化に関する先駆的教育・普及理論の構築」（研究代表者：井上洋一）の研究の一環として行った。第一部では東京国立博物館の事例を、第二部では国内１、国外３館の独創的な取り組みを紹介。パネルディスカッションにより、標記の問題につき、さまざまな可能性を探った。大講堂前のロビーにおいてポスターセッションを実施し、各館の具体的な事業を体験する場とした。

【京都国立博物館】

○国際シンポジウム『法華の人と文化―その行動と思想―』

開 催 日　11月14日
開催場所　京都市勧業館みやこめっせ
主　　催　京都国立博物館
参加人数　288人
事業内容　特別展覧会「日蓮と法華の名宝」開催を記念し、国内外の高名な研究者三方をお招きして、日蓮及びその前後にわたる法華の人と文化とをそれぞれの観点から語っていただき、日蓮の法華信仰の歴史的な意義に迫る。研究発表の第一部とパネル・ディスカッションの第二部からなる。

○ワークショップ『中国近代絵画研究者国際交流集会』
開 催 日　12月16日・17日
開催場所　国立京都国際会館
主　　催　京都国立博物館
参加人数　54人
事業内容　文化庁平成21年度美術館・博物館活動基盤整備支援事業「中国近代絵画に関わる国際研究交流」に関連して、国内外から研究者18名（うち海外より16名）をお招きし、2日間にわたって中国近代絵画に関する公開シンポジウムを行った。

【奈良国立博物館】
○「鑑真和上・唐招提寺フォーラム2009」
開 催 日　5月2日
開催場所　神戸新聞松方ホール
主　　催　奈良国立博物館・唐招提寺・TBS・朝日新聞社
後　　援　近畿日本鉄道株式会社
参加人数　385名
事業内容　特別展「国宝　鑑真和上展」の開催と、3月の阪神なんば線の開通によって神戸と奈良が一本の鉄路で結ばれたことを記念し、鑑真和上の生涯・功績と、唐招提寺金堂の平成大修理の意義を主題として開催した。当館学芸部長を含む3名のパネリストによる研究発表と、鑑真和上の苦難の渡日をテーマにした小説「天平の甍」の朗読（女優・紺野美沙子氏）を行い、以上4名で座談会を行った。

○国際学術シンポジウム「舎利と羅漢－聖地寧波をめぐる美術」
開 催 日　8月8日・9日
開催場所　奈良国立博物館講堂
主　　催　奈良国立博物館・平成17～21年度文部科学省特定領域研究「東アジアの海域交流と日本伝統文化の形成―寧波を焦点とする学際的創生―」
後　　援　美術史学会・読売新聞大阪本社・寧波旅日同郷会
参加人数　197名
事業内容　特別展「聖地寧波－日本仏教1300年の源流」の開催を記念し、上記研究プロジェクトと共催で開催した。第一日は「寧波をめぐる舎利信仰と美術」、第二日は大徳寺五百羅漢図とその成立背景」をテーマとし、両日とも基調講演（講師1名）と3名の研究者による研究発表、及び右の4名にコメンテーターを加えた5名による、パネルディスカッションを行った。当館からは2名が、また第一線で活躍中の外国人研究者4名（米国・中国・台湾）が登壇（基調講演・研究発表・討論司会）した。

○正倉院学術シンポジウム2009「皇室と正倉院宝物」
開 催 日　10月31日
開催場所　奈良県新公会堂
主　　催　奈良国立博物館
後　　援　読売新聞大阪本社
参加人数　184名
事業内容　「第61回　正倉院展」の開催とご即位20年を記念し、奈良時代から今日に至るまでの皇室と正倉院宝物の関わりを主題として開催した。第一部は当館研究員2名を含む研究者4名による研究発表を行い、第二部は右の4名に司会者を加えたパネルディスカッションを行って、当該テーマについての議論を深めた。

【九州国立博物館】
○特別展「古代九州の国宝」関連　シンポジウム「邪馬台国はここにあった」
開 催 日　平成21年11月8日
開催場所　九州国立博物館ミュージアムホール
主　　催　九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、ＮＨＫ福岡放送局、ＮＨＫプラネット九州
共　　催　(財)九州国立博物館振興財団
参加者数　330人
事業内容　近畿か九州かで大きく意見が分かれて論争が続く邪馬台国の所在地について、畿内説の有力候補地である奈良県桜井市纒向（まきむく）遺跡と、九州説の吉野ヶ里遺跡の発掘研究の専門家による邪馬台国研究の最前線の紹介や、在野の４人の研究家たちによる自説発表。

○特別展「古代九州の国宝」関連　シンポジウム「装飾古墳と科学」

開 催 日　　平成21年11月15日
開催場所　　九州国立博物館ミュージアムホール
主　　催　　九州国立博物館・福岡県、西日本新聞社、ＮＨＫ福岡放送局、ＮＨＫプラネット九州
共　　催　　(財)九州国立博物館振興財団
参加者数　　200人
事業内容　　第１部「装飾古墳とは何か」第２部「装飾古墳を科学する」の２部構成にて各地の研究者を交えてのパネルディスカッション。

○公開シンポジウム「市民と共に　ミュージアムＩＰＭ」

開 催 日　　平成21年11月28日～29日
開催場所　　九州国立博物館ミュージアムホール
主　　催　　九州国立博物館（平成21年度文化庁美術館・博物館活動基盤整備支援事業）
連携協力機関　　太宰府市文化ふれあい館、筑紫野市歴史博物館、福岡県立美術館、久留米大学比較文化研究所、ＮＰＯ法人文化財保存活用支援センター、ＮＰＯ法人ミュージアムＩＰＭサポートセンター
参加者数　　190人
事業内容　　ミュージアムＩＰＭ（総合的有害生物管理）の重要性・必要性を広く社会に発信すると共に、市民活動の成果を照会し、その担い手である支援者からのメッセージを地域社会へ伝える。

○トピック展「巨大掛軸をめぐる文化交流」関連　　国際シンポジウム「巨大掛軸をめぐる文化交流 ―祈りのかたち　日本と韓国―」

開 催 日　　平成22年3月14日
開催場所　　九州国立博物館ミュージアムホール
主　　催　　九州国立博物館
後　　援　　駐福岡大韓民国総領事館、（財）九州国立博物館振興財団、福岡県教育委員会、佐賀市、佐賀市教育委員会、太宰府市、太宰府市教育委員会、九州文化財国際交流基金
参加者数　　300人
事業内容　　日本及び韓国における巨大な仏画の用いられ方の紹介や、佐賀・高伝寺所蔵の大涅槃図の修理をはじめとする、日韓の仏画の修理に関する最新事例を報告するシンポジウムを開催した。

3-(2) 海外研究者の招聘

3-(2)-① 研究交流実績一覧

（後述の資料に記載）　◎共通資料a-①

3-(3) 公私立博物館等への貸与の推進

3-(3)-① 公私立博物館等への収蔵品貸与件数

平成22年3月31日現在

		国立博物館計			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
		計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外	計	国内	海外
貸与先件数		248	239	9	124	119	5	68	66	2	34	33	1	22	21	1
合　　計		1,729	1,508	221	1104	913	191	428	400	28	108	107	1	89	88	1
絵画		436	418	18	181	168	13	206	202	4	47	47	0	2	1	1
書跡		78	71	7	21	14	7	48	48	0	9	9	0	0	0	0
彫刻		124	119	5	102	97	5	7	7	0	15	15	0	0	0	0
建築		3	3	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	1	1	0
金工		98	88	10	66	65	1	23	15	8	6	5	1	3	3	0
刀剣		121	19	102	121	19	102				0	0	0	0	0	0
陶磁		103	83	20	35	23	12	64	56	8	0	0	0	4	4	0
漆工		92	67	25	60	39	21	31	27	4	1	1	0	0	0	0
染織		102	84	18	74	60	14	28	24	4	0	0	0	0	0	0
考古		414	404	10	286	276	10	20	20	0	30	30	0	78	78	0
民族資料		13	13	0	12	12	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0
歴史資料		11	11	0	11	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
和書		12	11	1	12	11	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
東洋	絵画	23	23	0	23	23	0									
	書跡	4	4	0	4	4	0									
	彫刻	8	3	5	8	3	5									
	金工	0	0	0	0	0	0									
	陶磁	44	44	0	44	44	0									
	漆工	0	0	0	0	0	0									
	染織	0	0	0	0	0	0									
	考古	21	21	0	21	21	0									
	民族	0	0	0	0	0	0									
法隆寺献納宝物		0	0	0	0	0	0									
黒田記念館収蔵品		22	22	0	22	22	0									

付表・貸与件数の推移

		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
貸与先件数		264	276	279	257	248
合　　計		1,761	1,991	1,737	1,585	1,729
絵画		535	558	449	273	436
書跡		131	79	114	81	78
彫刻		110	79	127	168	124
建築		16	0	2	6	3
金工		119	143	113	110	98
刀剣		40	61	18	76	121
陶磁		161	223	206	100	103
漆工		118	94	52	91	92
染織		91	167	92	403	102
考古		252	260	275	183	414
民族資料		25	31	4	0	13
歴史資料		36	22	13	23	11
和書		13	30	15	12	12
（写真）		5				
東洋	絵画	11	12	18	21	23
	書跡	16	23	23	3	4
	彫刻	7	5	50	15	8
	金工	0	2	0	0	0
	陶磁	39	129	141	5	44
	漆工	0	8	0	2	0
	染織	0	5	0	0	0
	考古	32	58	22	12	21
	民族	0	0	0	0	0
法隆寺献納宝物		4	2	3	1	0
黒田記念館収蔵品		0	0	0	0	22

＊東京国立博物館は、列品管理規程による「旧東洋課所掌分」あり。

3-(3)-② 海外への列品貸与

【東京国立博物館】

展覧会名称	申請者 【 会場 】	貸与期間	種別・員数
「サムライの美術－東京国立博物館精選」	東京国立博物館･バウワーズ博物館【バウワーズ博物館（アメリカ合衆国カリフォルニア州サンタアナ市)】	21 年 4 月 19 日～ 6 月 14 日	81 件 (絵画 2 件、彫刻 3 件、金工 1 件、刀剣 41 件、陶磁 10 件､漆工 14 件、染織 10 件)
文化庁海外展「The Power of Dogu （土偶展)」	文化庁・東京国立博物館・大英博物館ほか【大英博物館(イギリス・ロンドン市)】	21 年 9 月 10 日～ 11 月 22 日	考古 8[3]件
文化庁海外展「侍の芸術」	文化庁・東京国立博物館・メトロポリタン美術館ほか【メトロポリタン美術館（アメリカ合衆国ニューヨーク市】	21 年 10 月 20 日～ 22 年 1 月 10 日	55 件 (刀剣 50 件､漆工 2 件、考古 2 件、和書 1 件)
「日本・その力と輝き 1568-1868」	モッタ社【パラッツオレアーレ(イタリア共和国ミラノ市)】	21 年 12 月 7 日～ 22 年 3 月 8 日	43 件 (絵画 11[1]件、書跡 7 件、彫刻 2 件、刀剣 12 件、陶磁 2 件、漆工 5 件、染織 4 件)
「東南アジア展示」	韓国国立中央博物館	22 年 3 月 2 日～ 24 年 2 月 26 日	東洋彫刻 5 件

【京都国立博物館】

展覧会名称	申請者 【 会場 】	貸与期間	種別・員数
文化庁主催「侍の芸術」展	メトロポリタン美術館	21 年 9 月 15 日～	金工 8 件
展覧会「Japan Power And Splendour 1568-1868」	パラッツォリアーレ （イタリア・ミラノ市）	21 年 11 月 4 日～	20 件 (絵画 4 件、陶磁 8 件、漆工 4 件、染織 4 件)

【奈良国立博物館】

展覧会名称	申請者 【 会場 】	貸与期間	種別・員数
メトロポリタン美術館 文化庁主催展「侍の芸術－日本の武器、武具、1156－1868」	文化庁長官 青木保 【メトロポリタン美術館】	21年10月21日～ 22年1月10日	金工1件[1件]

【九州国立博物館】

展覧会名称	申請者 【 会場 】	貸与期間	種別・員数
メトロポリタン美術館 特別展「朝鮮王朝前期の韓国美術 1400 年～1600 年」	メトロポリタン美術館	21 年 5 月 13 日～ 7 月 10 日	絵画 1 件

※[ ]は寄託品

3-(3)-③ 考古の相互貸借実績

【東京国立博物館】

貸与先名	貸与件数	借用件数
茨城県立歴史館	16 件	14 件
埼玉県立さきたま史跡の博物館	11 件	16 件

【奈良国立博物館】

貸与先名	貸与件数	借用件数
出雲歴史博物館（島根県）	1 件	3 件

【九州国立博物館】

貸与先名	貸与件数	借用件数
伊達市噴火湾文化研究所（北海道）	7 件	8 件
奄美市奄美博物館（鹿児島）	18 件	9 件

3-(4) 公私立博物館等に対する援助・助言の推進

3-(4)-① 公私立博物館等に対する援助・助言

計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
317件	139件	114件	25件	39件

【東京国立博物館】

	機　関	内　容	期　間	担当者
1	東京文化財研究所	在外古美術品保存修復協力事業運営委員会	4月13日、5月28日、12月17日	学芸企画部長　松本伸之
2	東京国立近代美術館	東京国立近代美術館評議委員会（美術・工芸部会）	7月7日	学芸企画部長　松本伸之
3	四国民家博物館四国村ギャラリー	企画展「仏像礼賛」監修及び展示指導	4月23日～25日	学芸企画部長　松本伸之
4	寧夏博物館（中国・寧夏回族自治区銀川市）	「日中韓共同シルクロード沿線文化財保護修復技術人員育成プログラム」「博物館技術」研修コース講師	11月24日～28日	学芸企画部長　松本伸之
5	静岡県埋蔵文化財調査研究所	西の谷遺跡の銅鐸に関する助言	12月18日	企画課長　井上洋一
6	文化庁	美術品の貸借に係る諸課題に関する調査研究協力者会議委員	4月28日、5月26日、6月17日、6月30日、7月8日	企画課長　井上洋一
7	国際協力機構（JICA）・日本国際協力センター（JICE）	「スリランカ博物館研究員研修」講師	22年1月14日	企画課長　井上洋一
8	文化庁	「個人所有の国指定文化財（美術工芸品）保存情報構築事業」事業に係る企画審査委員	書類審査のみ	企画課長　井上洋一
9	サントリー美術館	特別展「天地人」展示指導	5月24日、6月23日、7月14日	企画課特別展室主任研究員　小山弓弦葉
10	静岡県教育委員会	江川文庫西蔵文書記録等調査	7月24～26日、12月19～20日	企画課特別展室主任研究員　小山弓弦葉
11	国立歴史民俗博物館	資料買取評価委員	22年3月19日	企画課特別展室主任研究員　小山弓弦葉
12	町田市生涯学習部公民館	2009年度「ことぶき大学　美術コース」「講義・横山大観入門」講師	5月29日、7月24日、7月31日、8月21日、8月28日、9月4日	企画課特別展室任期付研究員　植田彩芳子
13	國立臺南藝術大學	2009 年招生簡章《行政院文化建設委員會博物館專業課程計畫》《博物館展示與照明》	5月6日～10日	企画課デザイン室長　木下史青
14	文化庁 文化財部美術学芸課	「企画展示セミナー」東日本会場「展示構成と会場デザイン」講義	7月1日	企画課デザイン室長　木下史青
15	文化庁 文化部芸術文化課	文化庁芸術祭賞贈呈式及び祝賀会（東京会場）の実施に係る技術審査委員	6月～７月	企画課デザイン室長　木下史青
16	文化庁 文化部芸術文化課	文化庁芸術祭賞贈呈式及び祝賀会（大阪会場）の実施に係る技術審査委員	6月～７月	企画課デザイン室長　木下史青
17	東京文化財研究所	「日中韓共同シルクロード沿線文化財保護修復技術人員育成プログラム」「博物館技術」研修コース講師	11月2日～11月6日	企画課デザイン室長　木下史青
18	富山ガラス造形研究所	ガラス展示等に関わる特別授業《Treasure×Pleasure 博物館の楽しみ方》	11月27日	企画課デザイン室長　木下史青
19	新潟市美術館	「中宮寺 国宝 菩薩半跏像」公開（「奈良の古寺と仏像」展）に関する調査についての協力	22年2月4日	企画課デザイン室長　木下史青
20	河鍋暁斎記念美術館	随龍山了院寺（天台宗）作品調査	12月10日	企画課出版企画室長　立道惠子
21	国立民族学博物館	平成21年度「博物館学集中コース」見学研修講師	12月4日	企画課国際交流室長　鬼頭智美
22	ルーブル美術館	来館者数および来館者傾向調査と分析について	4月8日、5月11日	企画課国際交流室研究員　遠藤楽子
23	パラッツォ・レアーレ（イタリア）	「日本・その力と輝き　1568-1868」展撤収に関する援助	22年3月5日～12日	企画課国際交流室研究員　遠藤楽子
24	神奈川県教育委員会	神奈川県文化財保護審議委員会委員（工芸分野担当）	4月１日～22年3月31日	博物館教育課長　加島勝
25	横浜市教育委員会	横浜市文化財保護審議委員会委員（工芸分野担当）	4月１日～22年3月31日	博物館教育課長　加島勝
26	全国高等学校美術工芸教育研究会	全国高等学校美術工芸教育研究会講師「東京国立博物館の歴史と現在」	7月30日	博物館教育課長　加島勝
27	台東区教育委員会	台東区登録文化財調査	8月11日	博物館教育課長　加島勝
28	中国文化遺産研究院	「日中韓共同シルクロード沿線文化財保護修復技術人員育成プログラム」「博物館技術」研修コース講師	11月10･11日	博物館教育課教育普及室主任研究員　鈴木みどり
29	日本芸術文化振興会	「日独青少年指導セミナー」での解説・学校連携の助言	9月20日	博物館教育課教育普及室主任研究員　鈴木みどり

	機　関	内　容	期　間	担当者
30	NPO 法人ミュージアム研究会、九州大学	ワークショップ協力・展示制作協力	11月14日～22年3月31日	博物館教育課教育普及室主任研究員　鈴木みどり
31	Glasgow Museums	フリーペーパー「Preview」執筆協力	22年1月1日～3月31日	博物館教育課教育普及室主任研究員　鈴木みどり
32	National Museum of Australia	東京国立博物館教育普及事業の紹介・助言、日豪連携プログラムの提案・助言	22年1月27日	博物館教育課教育普及室主任研究員　鈴木みどり 博物館教育課教育講座室研究員　神辺知加 博物館教育課ボランティア室研究員　藤田千織
33	大田区立龍子記念館	展覧会関連教育普及資料の貸与、指導・助言	22年2月6日～14日	博物館教育課教育普及室主任研究員　鈴木みどり
34	Hunterian Museum and Art Gallery 、 Archive Services（Glasgow）	教育普及事業・ワークショップ用ツールの紹介、指導・助言	22年2月17日	博物館教育課教育普及室主任研究員　鈴木みどり
35	船の科学館	「第三回博学連携ワークショップ」実行委員	22年3月6日	博物館教育課教育普及室主任研究員　鈴木みどり
36	佐野美術館・大阪歴史博物館	ワークショッププログラム指導・助言	22年3月11日	博物館教育課教育普及室主任研究員　鈴木みどり
37	美術館連絡協議会	学校向けプログラムの紹介・助言	22年3月11日	博物館教育課教育普及室主任研究員　鈴木みどり
38	茨城県近代美術館	ボランティア研修会で当館のボランティアシステムの在り方について発表	22年3月8日	博物館教育課ボランティア室研究員　藤田千織
39	国立歴史民俗博物館	デジタル画像の管理と活用に関する助言	22年2月10日	博物館情報課情報管理室研究員　村田良二
40	東京大学大学院人文社会系研究科日本史学研究室	資料館見学(利用・閲覧方法の説明)	4月28日	博物館情報課情報資料室専門職員　住広昭子
41	清泉女子大学	資料館見学(利用・閲覧方法の説明)	7月28日	博物館情報課情報資料室専門職員　住広昭子
42	青山学院大学	資料館見学(利用・閲覧方法の説明)	10月13日	博物館情報課情報資料室専門職員　住広昭子
43	大東文化大学	大学の授業の一部としての資料館見学	10月27日	博物館情報課情報資料室専門職員　住広昭子
44	学習院大学アーカイブズ学専攻	資料館見学	10月27日	博物館情報課情報資料室専門職員　住広昭子
45	国立国会図書館	「国立国会図書館平成 21 年度 3 級研修外部機関実習」	11月5日	博物館情報課情報資料室専門職員　住広昭子
46	全国美術館会議	美術情報・資料の活用法－展覧会カタログからWebまで－（全国美術館会議　情報・資料研究部会企画セミナー）第1講「展覧会カタログ」講師	11月10日	博物館情報課情報資料室専門職員　住広　昭子
47	全国美術館会議情報資料部会	資料館見学（書庫、整理室、閲覧室）	11月10日	博物館情報課情報資料室専門職員　住広昭子
48	アート・ドキュメンテーション学会	資料館見学（書庫、整理室、閲覧室）	12月4日	博物館情報課情報資料室専門職員　住広昭子
49	専門図書館協議会関東地区協議会	見学会：博物館における情報資料と資料館の役割（説明）と資料館見学	3月5日	博物館情報課情報資料室専門職員　住広昭子
50	全国美術館会議情報資料部会	第 25 回学芸員研修会「美術館の情報発信」の企画・実施にスタッフとして参加	3月12日	博物館情報課情報資料室専門職員　住広昭子
51	山口県史編纂室	写真資料の保存と整理、データ作成および提供について	3月17日	博物館情報課情報資料室専門職員　住広昭子
52	東京文化財研究所	「日中韓共同シルクロード沿線文化財保護修復技術人員育成プログラム」「博物館技術」研修コース講師	11月9日	学芸企画部広報室長 小林牧
53	国立国会図書館	「国立国会図書館平成21年度3級研修外部機関実習」	11月5日	学芸企画部広報室長 小林牧
54	東京文化財研究所	在外古美術品保存修復協力事業運営委員会	4月13日、5月28日、12月17日	学芸研究部長　島谷弘幸
55	九州国立博物館	九州国立博物館文化財保存修復施設運営委員会	5月22日	学芸研究部長　島谷弘幸
56	高知県	山内家資料の保存等検討委員会	6月4日、9月16～17日	学芸研究部長　島谷弘幸
57	京都国立博物館	第31回京都国立博物館文化財保存修理所運営委員会	6月8日	学芸研究部長　島谷弘幸
58	高梁市	高梁市市政アドバイザー	7月30日	学芸研究部長　島谷弘幸
59	毎日新聞社	2010年「現代の書　新春展」選考委員会	7月31日	学芸研究部長　島谷弘幸
60	(財)日本博物館協会	文部科学省委託「図書館・博物館における地域の知の拠点推進事業における博物館倫理規定に関する調研究」委員会	8月24日、10月22日、11月12日	学芸研究部長　島谷弘幸
61	奈良国立博物館	奈良国立博物館文化財保存修理所運営委員会	22年3月25日	学芸研究部長　島谷弘幸

	機　関	内　容	期　間	担当者
62	文化庁	文化財買取評価委員	9月14日	上席研究員　岩佐光晴
63	佐久市教育委員会	佐久市所蔵の甲冑武具等資料の調査指導	8月3日、22年1月13日	上席研究員　池田　宏
64	メトロポリタン美術館	「侍の芸術」展の作品の輸送随伴、開梱、展示作業	10月2日～21日	上席研究員　池田　宏
65	千葉県伝統工芸品産業振興協議会	千葉県伝統工芸品産業振興協議会・審査会	11月30日	特任研究員　澤田むつ代
66	宮内庁正倉院事務所	正倉院宝物模造品作製事前調査委員(調査結果について、A４で17頁の報告書を提出)	11月3日～11月6日	特任研究員　澤田むつ代
67	奈良文化財研究所	平成21年度埋蔵文化財担当者専門研修「保存化学Ⅱ(有機質遺物)課程」にかかる講師	10月27日	特任研究員　澤田むつ代
68	読売新聞西部本社	「正倉院フォーラム2009　福岡」パネリスト	9月5日	特任研究員　澤田むつ代
69	文化庁	文化審議会文化財分科会第一専門調査会	22年3月2日～4日	特任研究員　澤田むつ代
70	神奈川県教育委員会	神奈川県文化財保護審議委員会委員（考古分野担当）	4月17日、7月24日、10月23日、22年1月5、15日	特任研究員　望月幹夫
71	厚木市史編集委員会	厚木市史編さん事業に関する調査･助言	6月21日、12月20日、22年3月14日	特任研究員　望月幹夫
72	逗子市教育委員会・葉山町教育委員会	長柄桜山1号墳の発掘調査・整備に関する助言	8月5日、10月20日、22年2月1日、22年3月30日	特任研究員　望月幹夫
73	秦野市教育委員会	二子塚古墳の発掘調査に関する助言	22年3月30日	特任研究員　望月幹夫
74	日本郵政株式会社　郵政資料館	郵政資料館の所蔵資料を活用した郵政の歴史・文化に関する研究会	10月29日、22年3月11日	列品管理課登録室長　田良島哲
75	文化庁	「全国の博物館・美術館等における収蔵品デジタル・アーカイブ化に関する調査・研究」選定委員	書類審査のみ	列品管理課登録室長　田良島哲
76	文化庁	「文化遺産オンライン」の運営に関する検討会委員	6月3日、12月21日	列品管理課登録室長　田良島哲
77	日本橋区民センター	「長谷川等伯展」関連文化講演会講師	22年2月27日	列品管理課平常展調整室研究員　瀬谷愛
78	国立歴史博物館	国立歴史博物館展示プロジェクト会議	5月10日	列品管理課列品情報整備室長　古谷　毅
79	天理大学	平成21年度科研共同研究会議・資料調査	5月16・17日	列品管理課列品情報整備室長　古谷　毅
80	野田市史編委員会	市史関連遺跡調査(我孫子地区)	7月26日	列品管理課列品情報整備室長　古谷　毅
81	群馬県立歴史博物館	指定品(国宝)梱包指導・点検	9月1日	列品管理課列品情報整備室長　古谷　毅
82	野田市史編委員会	市史編纂委員会会議(考古・自然部会合同)	9月11日	列品管理課列品情報整備室長　古谷　毅
83	天理大学	平成21年度科研共同研究会議・資料調査	9月21・22日	列品管理課列品情報整備室長　古谷　毅
84	九州国立博物館	指定品(国宝)展示指導・点検	10月14・15日	列品管理課列品情報整備室長　古谷　毅
85	国立歴史博物館	国立歴史博物館展示プロジェクト会議	10月16日	列品管理課列品情報整備室長　古谷　毅
86	奈良県立橿原考古学研究所	平成21年度科研共同研究会議	11月7・8日	列品管理課列品情報整備室長　古谷　毅
87	九州国立博物館	指定品(国宝)撤収・梱包指導・点検	12月3・4日	列品管理課列品情報整備室長　古谷　毅
88	野田市史編委員会	市史関連遺跡調査(沼南地区)	12月20日	列品管理課列品情報整備室長　古谷　毅
89	国立歴史博物館	国立歴史博物館展示プロジェクト会議	22年2月14日	列品管理課列品情報整備室長　古谷　毅
90	国立能楽堂	特別講座「細見コレクションの世界」講師	22年1月16日	調査研究課絵画・彫刻室長田沢裕賀
91	文化庁	文化財買取評価委員	22年2月3日	調査研究課絵画・彫刻室長田沢裕賀
92	足立区生涯学習センター	「長谷川等伯展」関連文化講演会講師	22年2月21日	調査研究課絵画・彫刻室長田沢裕賀
93	新宿歴史博物館	「長谷川等伯展」関連文化講演会講師	22年2月28日	調査研究課絵画・彫刻室長田沢裕賀
94	なかのzero	「長谷川等伯展」関連文化講演会講師	22年3月10日	調査研究課絵画・彫刻室長田沢裕賀
95	川村記念美術館	花の絵と和歌のコラボレーション《色紙貼付桜山吹図屏風》の展示助言	22年3月27日	調査研究課絵画・彫刻室長田沢裕賀

	機　関	内　容	期　間	担当者
96	バウワーズ美術館	「サムライ展」にかかる展示、撤収	4月10日～21日，6月14日～25日	調査研究課工芸・考古室長 竹内奈美子
97	東京文化財研究所	在外古美術品保存修復協力事業運営委員会	5月28日、12月17日	調査研究課工芸・考古室長 竹内奈美子
98	東京文化財研究所	在外古美術品保存修復協力事業に係る調査	7月8日～16日	調査研究課工芸・考古室長 竹内奈美子
99	全国高等学校美術工芸教育研究会	全国高等学校美術工芸教育研究会講師「蒔絵の歴史と鑑賞」	7月29日	調査研究課工芸・考古室長 竹内奈美子
100	ICCROM・東京文化財研究所	国際研修　漆の保存と修復2009 東京国立博物館展示室見学講師	9月3日	調査研究課工芸・考古室長 竹内奈美子
101	国立歴史民俗博物館	買取評価（意見書）	22年3月5日	調査研究課工芸・考古室長 竹内奈美子
102	佐倉市	市内文化財に関する調査・指導	22年3月20日	調査研究課工芸・考古室長 竹内奈美子
103	バウワーズ美術館	「サムライ展」にかかる撤収	6月14日～25日	調査研究課工芸・考古室 研究員　酒井元樹
104	メトロポリタン美術館	「ART OF SAMURAI」にかかる展示替	11月28日～12月15日	調査研究課工芸・考古室 研究員　酒井元樹
105	伊豆の国市教育委員会	大仁町史編さん事業に関する調査･助言	5月23・24日、11月28日、12月19・20日	調査研究課工芸・考古室 研究員　品川欣也
106	文化庁	文化財買取協議員	9月24日	調査研究課東洋室長 今井 敦
107	文化庁	文化財買取協議員	22年2月5日	調査研究課東洋室長 今井 敦
108	NPO法人文化財保存機構	文化財保存専門家養成実践セミナー 講師	8月3日	保存修復課長　神庭信幸
109	岩手県立美術館	作品の展示・保存環境についての調査・指導	平成20年4月23日～平成21年9月17日	保存修復課長　神庭信幸 保存修復課環境保存室 主任研究員　荒木臣紀 保存修復課環境保存室 主任研究員　和田浩
110	田川市美術館	作品の展示・保存環境についての調査・指導	平成20年11月13日～平成21年10月23日	保存修復課長　神庭信幸 保存修復課環境保存室 主任研究員　荒木臣紀 保存修復課環境保存室 主任研究員　和田浩
111	岡山市立オリエント美術館	作品の展示・保存環境についての調査・指導	平成20年12月25日～平成21年5月22日	保存修復課長　神庭信幸 保存修復課環境保存室 主任研究員　荒木臣紀 保存修復課環境保存室 主任研究員　和田浩
112	メナード美術館	作品の展示・保存環境についての調査・指導	1月21日～4月13日	保存修復課長　神庭信幸 保存修復課環境保存室 主任研究員　荒木臣紀 保存修復課環境保存室 主任研究員　和田浩
113	ひろしま美術館	作品の展示・保存環境についての調査・指導	2月12日～5月18日	保存修復課長　神庭信幸 保存修復課環境保存室 主任研究員　荒木臣紀 保存修復課環境保存室 主任研究員　和田浩
114	岡山県立美術館	作品の展示・保存環境についての調査・指導	2月9日～4月13日	保存修復課長　神庭信幸 保存修復課環境保存室 主任研究員　荒木臣紀 保存修復課環境保存室 主任研究員　和田浩
115	三渓園	作品の展示・保存環境についての調査・指導	平成20年10月1日～平成21年5月11日	保存修復課長　神庭信幸 保存修復課環境保存室 主任研究員　荒木臣紀 保存修復課環境保存室 主任研究員　和田浩
116	川村記念美術館	作品の展示・保存環境についての調査・指導	3月10日～6月4日	保存修復課長　神庭信幸 保存修復課環境保存室 主任研究員　荒木臣紀 保存修復課環境保存室 主任研究員　和田浩

	機　関	内　容	期　間	担当者
117	神宮徴古館農業館	作品の展示・保存環境についての調査・指導	4月2日～11月25日	保存修復課長　神庭信幸 保存修復課環境保存室 主任研究員　荒木臣紀 保存修復課環境保存室 主任研究員　和田浩
118	台東区立書道博物館	作品の展示・保存環境についての調査・指導	4月15日～6月4日	保存修復課長　神庭信幸 保存修復課環境保存室 主任研究員　荒木臣紀 保存修復課環境保存室 主任研究員　和田浩
119	群馬立近代美術館	作品の展示・保存環境についての調査・指導	6月12日～9月21日	保存修復課長　神庭信幸 保存修復課環境保存室 主任研究員　荒木臣紀 保存修復課環境保存室 主任研究員　和田浩
120	Palazzo Reale(伊)	作品の展示・保存環境についての調査・指導	5月12日～11月20日	保存修復課長　神庭信幸 保存修復課環境保存室 主任研究員　荒木臣紀 保存修復課環境保存室 主任研究員　和田浩
121	East Asian Painting Conservation Studio of Freer Gallery of Art （フリアギャラリー）	包括的保存に関するワークショップ	10月26日	保存修復課長　神庭信幸 保存修復課保存修復室 アソシエイトフェロー　鈴木晴彦
122	Asian Conservation of Museum of Fine Arts （ボストン美術館）	包括的保存に関するワークショップ	10月30日	保存修復課長　神庭信幸 保存修復課保存修復室 アソシエイトフェロー　鈴木晴彦
123	Asian Art Conservation of Metropolitan Museum of Art (メトロポリタン美術館)	包括的保存に関するワークショップ	11月2日	保存修復課長　神庭信幸 保存修復課保存修復室 アソシエイトフェロー　鈴木晴彦
124	中国文化遺産研究院	「日中韓共同シルクロード沿線文化財保護修復技術人員育成プログラム」研修コース講師	10月6･7日	保存修復課環境保存室 主任研究員　和田浩
125	NPO法人文化財保存機構	文化財保存専門家養成実践セミナー 講師	8月3日、9月7日	保存修復課環境保存室 主任研究員　和田浩
126	NPO法人文化財保存機構	文化財保存専門家養成実践セミナー 講師	8月10日	保存修復課保存修復室 主任研究員　土屋裕子
127	東京文化財研究所	保存担当学芸員研修講師	7月21日	保存修復課保存修復室 主任研究員　土屋裕子
128	水戸市教育委員会	水戸市史跡等整備検討委員会	22年1月12日	保存修復課保存修復室 主任研究員　　日高　慎
129	下野市教育委員会	甲塚古墳保存整備委員会	22年3月1日	保存修復課保存修復室 主任研究員　　日高　慎
130	NPO法人文化財保存機構	文化財保存専門家養成実践セミナー　講義「対症修理」講師	9月9日	保存修復課保存修復室 アソシエイトフェロー 鈴木晴彦
131	文化庁	文化審議会文化財文化会（第一専門調査会専門委員）	4月1日～22年3月31日	上席研究員　原田一敏
132	文化庁	文化審議会文化財文化会（第四専門調査会専門委員）	4月1日～22年3月31日	上席研究員　原田一敏
133	鎌倉市教育委員会	鎌倉市文化財保護審議会委員	4月1日～22年3月31日	上席研究員　原田一敏
134	市原市教育委員会	市原市文化財保護審議会委員	4月1日～22年3月31日	上席研究員　原田一敏
135	東京都教育委員会	東京都文化財保護審議会委員	4月1日～22年3月31日	上席研究員　原田一敏
136	千葉県教育委員会	千葉県文化財保護審議会委員	4月1日～22年3月31日	上席研究員　原田一敏
137	バワーズ美術館	日本工芸作品の展示指導	4月9日～21日	上席研究員　原田一敏
138	文化庁	作刀技術講習会講師	5月26日	上席研究員　原田一敏
139	メトロポリタン美術館	「サムライの美術」展作品撤収	22年1月8日～20日	上席研究員　原田一敏

【京都国立博物館】

	機　関	内　容	期　間	担当者
1	天橋立世界遺産登録可能性検討委員会	天橋立世界遺産登録可能性検討委員会学識者ワーキング	H21.4.8	山本　英男
2	愛知県総務部	平成２１年度第１回愛知県史編さん委員会文化財部会工芸班会議	H21.4.27	山川　暁
3	財団法人大和文華館	美術評価委員	H21.4.28	山下　善也
4	文化財保存修復学会	有限責任中間法人文化財保存修復学会理事会	H21.5.19	村上　隆

	機　関	内　容	期　間	担当者
5	佐渡市	平成２１年度佐渡市歴史文化遺産群保存活用検討委員会等	H21.6.24-27	村上　隆
6	沖縄県教育委員会	平成２１年度沖縄のガラス・玉等製品関係資料調査に係る第１回会議及び第１回現地調査	H21.6.15-17	久保　智康
7	国宝修理装こう師連盟	平成２１年度第１回試験準備委員会	H21.7.10-11	村上　隆
8	滋賀県教育委員会	滋賀県文化財保護審議会	H21.7.24	若杉　準治
9	滋賀県教育委員会	滋賀県文化財保護審議会	H21.7.24	山川　暁
10	東京文化財研究所	保存修復科学センター小委員会	H21.8.19	村上　隆
11	名古屋市資料調査研究会	「新修名古屋市史」資料編「考古２」編さんにかかる「考古部会」出席	H21.7.23	尾野　善裕
12	島根県教育委員会	第３回石見銀山遺跡調査活用委員会	H21.7.17	村上　隆
13	佐渡市	平成２１年度佐渡市歴史文化遺産群保存活用検討委員会等	H21.9.6-8	村上　隆
14	財団法人大和文華館	美術評価委員	H21.8.4	山本　英男
15	文化財保存修復学会	一般社団法人文化財保存修復学会理事会	H21.8.18	村上　隆
16	京都文化博物館	寄附申出資料評価	H21.8.5	山川　暁
17	国宝修理装こう師連盟	平成２１年度第２回試験準備委員会	H21.8.28	村上　隆
18	文化財保存修復学会	文化財保存修復学会第３２回大会打合せ会議	H21.8.26	村上　隆
19	伊丹市文化財審議委員会	平成２１年度伊丹市文化財審議委員会の出席	H21.8.31	中村　康
20	京都教育大学	鑑賞教育研究プロジェクト平成２１年度第２回会議	H21.9.5	羽田　聡
21	文化財保存修復学会	一般社団法人文化財保存修復学会理事会	H21.10.21	村上　隆
22	文化庁	文化財の買取評価員の委嘱	H21.9.14	淺湫　毅
23	元離宮二条城事務所	二条城二之丸御殿障壁画等保存修理委員会	H21.10.16	山下　善也
24	岡山県立美術館	岡山県立美術館美術品収集評価委員会	H21.10.3	山下　善也
25	国宝修理装こう師連盟	平成２１年度第３回試験準備委員会・第１次試験	H21.9.25-26	村上　隆
26	文化財保存修復学会	文化財保存修復学会第３２回大会打合せ会議	H21.10.13	村上　隆
27	国宝修理装こう師連盟	平成２１年度修理技術者資格試験第２試験立会い	H21.10.17	村上　隆
28	滋賀県教育委員会	滋賀県文化財保護審議会	H21.10.27	若杉　準治
29	滋賀県教育委員会	滋賀県文化財保護審議会	H21.10.27	山川　暁
30	越前市教育委員会	平成２１年度第１回文化財保護委員会	H21.11.6	久保　智康
31	兵庫陶芸美術館	平成２１年度兵庫陶芸美術館収集予定作品の価格評価	H21.11.13	尾野　善裕
32	文化庁文化財部美術学芸課	文化財の買取協議員	H21.11.13	久保　智康
33	東京文化財研究所	在外日本古美術品保存修復協力事業運営委員会への参加	H21.12.17	宮川　禎一
34	文化庁	文化財の買取協議員	H21.11.30	赤尾　栄慶
35	静岡市	特別史跡登呂遺跡調査整備検討委員会出席	H21.12.4	村上　隆
36	京都府文化財保護審議会	平成２１年度京都府文化財保護審査会	H22.1.29	若杉　準治
37	京都教育大学	鑑賞教育研究プロジェクト会議出席	H22.1.16－17	羽田　聡
38	文化財保存修復学会	一般社団法人文化財保存修復学会理事会	H22.1.15	村上　隆
39	文化財保存修復学会	文化財保存修復学会公開シンポジウム	H22.1.16	村上　隆
40	文化財保存修復学会	文化財保存修復学会第３２回大会実行運営委員会	H22.1.22	村上　隆
41	佐渡市長	佐渡市歴史文化遺産群保存活用検討委員会	H22.2.16	村上　隆
42	岡山大学	「ベンガラ研究会―古代遺跡より出土したベンガラについて」ミニシンポジウム参加	H22.2.25-26	村上　隆
43	京都府文化財保護審議会	平成２１年度京都府文化財保護審査会	H22.2.19	若杉　準治
44	文化財保存修復学会	文化財修復学会第 32 回大会プログラム作成委員会	H22.2.10	村上　隆
45	元離宮二条城事務所	元離宮二条城二之丸御殿障壁画等保存修理委員会	H22.3.30	村上　隆
46	元離宮二条城事務所	元離宮二条城二之丸御殿障壁画等保存修理委員会	H22.3.30	山下　善也
47	文化財保存修復学会	平成２１年度第５回理事会	H22.3.19	村上　隆
48	九州大学	先導的デジタルコンテンツ創成支援ユニットの合同合評会	H22.3.13-14	村上　隆
49	大学共同利用機関法人人間文化研究機構	第１０回公開講演会・シンポジウム「百鬼夜行の世界」の講師	H21.7.10-11	若杉　準治
50	「金・銀・銅サミット in 佐渡」実行委員会	佐渡奉行所出土遺物分析調査及び、金・銀・銅サミット in 佐渡「地下資源・文化資源を語る」出席	H21.4.24-25	村上　隆
51	徳島市立徳島城博物館	「美術史アカデミー」の講師	H21.6.27	尾野　善裕
52	山梨県立博物館	「金・銀・銅サミット in 甲州」の講師	H21.5.16	村上　隆
53	国際仏教学大学院大学　学術フロンティア実行委員会	第１回公開研究会出席	H21.5.23	赤尾　栄慶

	機　関	内　容	期　間	担当者
54	京都産業大学	日本文化研究所月例研究会における研究発表	H21.6.16	若杉　準治
55	奈良文化財研究所	平成２１年度埋蔵文化財担当者専門研修「古代陶磁器調査課程」の講師	H21.9.7	尾野　善裕
56	北海道大学大学院文学研究科	国際ワークショップ出席	H21.8.22-24	赤尾　栄慶
57	Victoria and Albert Museum	ロンドンで開催される会議に出席	H21.10.25-11.2	永島　明子
58	文化庁文化財部美術学芸課	第四回文化財（美術工芸品）修理技術者講習会講師	H21.10.20	村上　隆
59	国際仏教学大学院大学　学術フロンティア実行委員会	第２回公開研究会出席	H21.10.10	赤尾　栄慶
60	京都産業大学	日本文化と図書館の共催による公開講演会での研究発表	H21.11.28	若杉　準治
61	文化庁文化財部美術学芸課	第６回指定文化財（美術工芸品）企画・展示セミナーの講師	H21.11.11	赤尾　栄慶
62	文化庁文化財部美術学芸課	第６回指定文化財（美術工芸品）企画・展示セミナーの講師	H21.11.11	久保　智康
63	国際仏教学大学院大学　学術フロンティア実行委員会	公開シンポジウム	H21.12.5	赤尾　栄慶
64	兵庫教育大学	平成２１年度外国人留学生講演会の講師	H22.2.3	若杉　準治
65	国宝修理装こう師連盟	修理技術者初級講習会における講義	H22.3.12	村上　隆
66	成城大学	金剛寺蔵の聖教調査	H21.4.12	赤尾　栄慶
67	（財）岐阜市教育文化振興事業団	岐阜城千畳敷遺跡出土品についての指導	H21.5.22	尾野　善裕
68	財団法人徳川黎明会徳川美術館	国宝「初音の調度」の総合的研究　第５回研究会出席	H21.6.23-24	永島　明子
69	文化庁文化財部美術学芸課	文化財調査	H21.6.17	羽田　聡
70	舞鶴市教育委会	文化財指定調査	H21.7.6	大原　嘉豊
71	島根県教育庁文化財課	石見銀山遺跡調査に伴う調査指導	H21.7.18	村上　隆
72	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所	牧ノ原市堂ケ谷遺跡出土金属製遺物の自然科学的調査の指導	H21.7.27-28	村上　隆
73	島根大学名誉教授	科学研究費補助金による調査（島根県立古代出雲歴史博物館所蔵の委託分美術品調査）	H21.7.9-11	淺湫　毅
74	長崎市文化観光総務課	長崎市亀山社中記念館内覧会及び完成披露会出席	H21.7.31-8.1	宮川　禎一
75	東京国立博物館	平成２１年度法隆寺献納宝物特別調査「聖徳太子絵伝」の調査会	H21.8.26-28	若杉　準治
76	滋賀県教育委員会	滋賀県文化財保護審議会（美術工芸品部会）の現地調査	H21.9.25	山川　暁
77	文化庁文化財部	文化審議会委員（文化財分科会）による文化財視察	H21.9.12-14	佐々木　丞平
78	滋賀県教育委員会	滋賀県文化財保護審議会（美術工芸品部会）の現地調査	H21.9.25	若杉　準治
79	島根大学名誉教授	科学研究費補助金による調査（島根県立古代出雲歴史博物館所蔵の委託分美術品調査）	H21.9.14-16	淺湫　毅
80	財団法人滋賀県文化財保護協会	埋蔵文化財（春日北遺跡）の発掘調査の指導	H21.9.1	尾野　善裕
81	文化庁文化財部美術学芸課	文化財調査	H21.8.26-27	赤尾　栄慶
82	徳川美術館	染織作品調査	H21.10.7・10.26	山川　暁
83	沖縄県教育委員会	平成２１年度沖縄のガラス・玉等製品関係資料調査に係る第４回現地調査	H21.10.26-30	久保　智康
84	熊本県立装飾古墳館	鞠智城跡出土仏像に係る３次元計測の指導	H21.10.27	村上　隆
85	山梨県立博物館	中世金製練技術解明のための調査研究における調査助言	H21.11.17-18	村上　隆
86	青森県埋蔵文化財調査センター	資料の鑑定	H21.11.27	尾野　善裕
87	国際仏教学大学院大学　学術フロンティア実行委員会	小写経調査・撮影立会	H21.12.18	赤尾　栄慶
88	財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所	牧ノ原市堂ケ谷遺跡出土金属製遺物の自然科学的調査の指導	H21.12.15-16	村上　隆
89	京都府教育委員会	京都府文化財保護審議会（美術工芸品部会）に係る現地調査	H21.12.22-24	若杉　準治
90	三重県教育委員会	指定候補文化財の調査	H22.1.12	大原　嘉豊
91	大阪府教育委員会	大阪府指定有形文化財（美術工芸品古文書・歴史飼料部門）の現地調査	H22.1.26	赤尾　栄慶
92	高槻市教育委員会	高槻市立しろあと歴史館収蔵文化財調査指導	H22.2.2	山川　暁
93	沖縄県教育委員会	沖縄のガラス・玉等製品関係資料調査の係る第２回会議、並びに第５回現地調査	H22.2.16-17	久保　智康
94	徳川美術館	国宝「初音の調度」の総合的研究　第６回研究会出席	H22.3.9-10	永島　明子
95	亀山市歴史博物館	亀山市史編さん美術工芸部会市内寺院調査	H22.2.15	尾野　善裕
96	豊田市郷土資料館	堂外戸遺跡出土遺物の確認	H22.3.9	尾野　善裕
97	宮内庁	皇室用美術工芸品の修理	H21.10.29-30	若杉　準治

	機　関	内　容	期　間	担当者
98	宮内庁	三の丸尚蔵館管理美術工芸品の修理指導	H22.2.4-5	若杉　準治
99	宮内庁	「春日権現験記絵」修理報告書作成指導	H22.3.25-26	若杉　準治
100	富山県水墨美術館	「日本の美　国宝との出会い」-京都国立博物館所蔵品展-展示会場視察	H21.4.29-30	山下　善也
101	富山県水墨美術館	「日本の美　国宝との出会い」-京都国立博物館所蔵品展-展示会場視察	H21.4.29-30	羽田　聡
102	岡山県立美術館	特別展「建仁寺ー高台寺・圓徳院・備中足守藩主木下家の名宝とともに」展示及び撤収作業	H21.8.16・17・２４	山下　善也
103	読売新聞東京本社	特別展「THE　ハプスブルク」展　展示指導	H21.9.19-20	山下　善也
104	読売新聞大阪本社	「THE　ハプスブルク」展展示視察	H21.9.19	久保　智康
105	富山県水墨美術館	展示・展示替え・撤去の指導、開会式参加	H21.10.1-2	西上　実
106	富山県水墨美術館	展示・展示替え・撤去の指導、開会式参加	H21.9.28-10.2　・10.25-27・11.8-10	山下　善也
107	富山県水墨美術館	展示・展示替え・撤去の指導、開会式参加	H21.9.28-10.2	水谷　亜希
108	富山県水墨美術館	展示・展示替え・撤去の指導、開会式参加	H21.9.30-10.2　・10.25-27・11.8-10	羽田　聡
109	読売新聞大阪本社	「THE　ハプスブルク」展展示視察	H21.10.21	久保　智康
110	読売新聞大阪本社	「THE　ハプスブルク」展展示視察	H21.11.20	永島　明子
111	石見銀山資料館	展示・調査指導	H21.12.22-24	村上　隆
112	Co-orination and Management Service	「Japan. Power and Splendour 1568-1868」作品撤収、随伴	H22.3.7-19	羽田　聡
113	文化庁	文化庁海外展「侍の芸術展」	H22.1.10-1.21	久保　智康
114	茨城県立歴史館	茨城県立歴史館特別展「親鸞-茨城滞在２０年の軌跡-」における展示のための指導	H22.2.2-3・2.28-3.1・3.22-23	赤尾　栄慶

【奈良国立博物館】

	機　関	内　容	期　間	担当者
1	富山県水墨美術館	石山寺展展示替え	4月26･27日	企画室長　稲本泰生
2	富山県水墨美術館	石山寺展撤収	5月17･18日	企画室長　稲本泰生
3	石山寺	石山寺展作品返却	5月20日	企画室長　稲本泰生
4	日本橋三越本店	第56回日本伝統工芸展運営委員会出席	4月26日	館長　湯山賢一
5	醍醐寺	文化財調査	6月15･16日	館長　湯山賢一
6	宇陀市教育委員会	宇陀市文化財保護審議会	6月16日	上席研究員　鈴木喜博
7	醍醐寺	醍醐寺聖教調査	6月16日	情報サービス室　野尻　忠
8	石山寺	石山寺展展示・梱包	7月13･14日	上席研究員　鈴木喜博
9	浜松市美術館	石山寺展展示	7月16･17日	上席研究員　鈴木喜博
10	浜松市美術館	石山寺展出陳品撤収	8月24～26日	美術室長　岩田茂樹
11	石山寺	石山寺展返却作業	8月26日	企画室長　稲本泰生
12	大相国寺	文化財調査	8月27日	情報サービス室　野尻　忠
13	醍醐寺	醍醐寺聖教調査	8月24日	情報サービス室　野尻　忠
14	醍醐寺	醍醐寺聖教調査	8月24･25日	列品室　斎木涼子
15	石山寺	石山寺展展示・梱包	9月7･8日	上席研究員　鈴木喜博
16	北九州市美術館	石山寺展展示	9月9･11日	上席研究員　鈴木喜博
17	信貴山	信貴山展覧会梱包立ち会い	10月6日	上席研究員　鈴木喜博
18	名鉄デパート	信貴山展覧会展示立ち会い	10月7日	上席研究員　鈴木喜博
19	名鉄デパート	信貴山展覧会展示立ち会い	10月7日	保存修理指導室長 谷口耕生
20	名鉄デパート	信貴山展覧会展示立ち会い	10月13日	上席研究員　鈴木喜博
21	名鉄デパート	信貴山展覧会展示立ち会い	10月13日	保存修理指導室長 谷口耕生
22	北九州市美術館	石山寺展展示梱包	10月18･20日	上席研究員　鈴木喜博
23	甲賀市役所	甲賀市史中世篇仏像調査	12月21日	美術室長　岩田茂樹
24	香芝市	香芝市文化財保護審議会出席	12月25日	美術室長　岩田茂樹
25	金竜寺	甲賀市史中世篇仏像調査	22年2月1日	美術室長　岩田茂樹

【九州国立博物館】

	機　関	内　容	期　間	担当者
1	史跡虎塚古墳・埋蔵文化財調査センター	虎塚古墳石室内点検、史跡保存対策委員会のため	4/4～5	本田光子
2	（財）自治労会館（第一会館）	九州国立博物館IPM活動に関する情報収集及び「第３１回文化財の虫菌害・保存対策研修会」講師用務のため	6/17～19	本田光子
3	神戸市立博物館	「第３１回文化財の虫菌害・保存対策研修会」講師用務のため	6/26	本田光子
4	国宝修理装潢師連盟	平成２１年度修理技術者資格制度委員会の運営に関する打ち合わせのため	6/26～27	森田稔

	機　関	内　容	期　間	担当者
5	東京国立博物館	NPO法人文化財保存支援機構「文化財保存修復専門家養成実践セミナー」講義の講師のため	8/13～14	三輪嘉六
6	Pullman Bangkok King Power Hotel（タイ Ratchathewi, Bangkok）	タイ・マレーシア考古学共同事業「考古学、博物館学と保護に関する国際セミナー」における講演用務、セミナー参加用務	8/23～26	本田光子
7	中国文化遺産研究院	「日中韓共同シルクロード沿線文化財保護修復技術人員育成プログラム」における講師担当用務のため	9/16～19	本田光子
8	東京国立博物館	NPO法人文化財保存支援機構「文化財保存修復専門家養成実践セミナー」講義の講師のため	9/10	三輪嘉六
9	東京文化財研究所	「文化財の生物劣化対策の研究」平成２１年度研究会講師、東文研紀要論文打ち合わせのため	11/20～21	鳥越俊行
10	京都国立博物館	「第６回指定文化財（美術工芸品）企画・展示セミナー」における講師用務のため	11/9～10	本田光子
11	東京国立博物館、東京文化財研究所	第３３回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会における講演及び参加のため	11/11～14	志賀智史
12	大宰府館	「大宰府発見塾」第７回講義　講師のため	1/9	本田光子
13	宮崎県総合博物館	平成２１年度宮崎県博物館等協議会第１回研修会における講師のため	6/8	本田光子
14	愛宕浜公民館	「シニアフレッシュアップスクール」講師のため	5/14	臺信祐爾
15	京都造形芸術大学	特別講義　歴史遺産特論Ⅳ「古墳等に使用されている赤色顔料について」講師のため	6/6	本田光子
16	アクロス福岡	平成２１年度「はたらくじょせいのためのあすばる天神サテライト講座」講師のため	6/25	本田光子
17	新九州歴史資料館	館内施設の保存環境の整備および環境調査についての助言・協力のため	7/3	鳥越俊行
18	筑後市役所文化財整理室	筑後市高江辻遺跡石棺材付着赤色顔料の調査・指導のため	8/27	本田光子・志賀智史
19	城野遺跡	城野遺跡の方形周溝墓出土の箱式石棺内赤色顔料の調査に関する指導・助言のため	11/30	本田光子
20	東京国立博物館	「土偶展」に伴う平常展示（仏像の道）撤収立会い指導のため	11/5～6	小泉惠英
21	奈良県高市郡明日香村	「装飾・壁画古墳の魅力と保存・活用」	7/25	三輪嘉六
22	第４１回全国公立小中学校事務研究大会福岡大会実行委員	「博物館の新しい挑戦－九州国立博物館」	8/7	三輪嘉六
23	電気クラブ	「－国宝－」	8/26	三輪嘉六
24	朝倉市まちづくりチャレンジ大学	「博物館の挑戦　－市民との共生－」	8/29	三輪嘉六
25	東京書籍株式会社	「博物館の新しい挑戦－市民との共生を目指して－」(市民と共生する博物館をめざして－未来の子どもたちのために－)	9/21	三輪嘉六
26	ＮＨＫ九州支社	「博物館の取り組み」	10/19	三輪嘉六
27	社団法人日本電気協会 九州電気協会	「その後の九博」	10/26	三輪嘉六
28	独立行政法人国立文化財機構	「文化交流展示とアジアの伝統の発信」	10/31	三輪嘉六
29	博多大博通りクラブ　歴史・文化委員会	「九州国立博物館の取り組み－地域の活性化を目指して－」	11/7	三輪嘉六
30	佐賀県企業メセナ協議会	「九州国立博物館について－地域での役割－」	11/18	三輪嘉六
31	電気ビル二木会	「九州国立博物館開館４周年を迎え－博物館の現状」	12/10	三輪嘉六
32	一般社団法人文化財保存修復学会	「人材養成に果たす博物館と学会の役割」「文化財のまもり手を育てるために」	1/16	三輪嘉六
33	財団法人福岡県生活衛生営業指導センター	「博物館の新しい挑戦－市民との共生を目指して」	1/25	三輪嘉六
34	京築連帯アメニティ都市圏推進会議	「文化財とまちづくりについて」	2/11	三輪嘉六
35	奈良県立橿原考古学研究所	桜井茶臼山古墳の赤色顔料調査についての助言のため	11/2	本田光子
36	財団法人益富地学会館	資料調査についての指導助言のため	12/18～19	志賀智史
37	東京国立博物館	文化財保存修復学会公開シンポジウム出席および講演のため	1/15～16	三輪嘉六
38	京都国立博物館	一般社団法人国宝修理装潢師連盟修理技術者初級講習会講師のため	3/12	森田稔
39	東京国立博物館	阿修羅フォーラム打ち合わせとフォーラムでの講演のため	3/24～25	鳥越俊行

4 文化財に関する調査及び研究の推進

4-(1) 文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進

4-(1)-① 調査研究テーマ一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料a-②

4-(1)-② 学会、研究会等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料a-③

4-(1)-③ 論文等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料a-④

4-(1)-④ 調査研究刊行物一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料a-⑤

4-(2) 文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進

4-(2)-① 調査研究テーマ一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料a-②

4-(2)-② 学会、研究会等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料a-③

4-(2)-③ 論文等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料a-④

4-(2)-④ 調査研究刊行物一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料a-⑤

4-(3) 文化財の保存科学や修復技術に関する中心的な支援拠点として先端的調査研究等の推進

4-(3)-① 調査研究テーマ一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料a-②

4-(3)-② 学会、研究会等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料a-③

4-(3)-③ 論文等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料a-④

4-(3)-④ 調査研究刊行物一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料a-⑤

4-(4) 国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施

4-(4)-① 調査研究テーマ一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料a-②

4-(4)-② 学会、研究会等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料a-③

4-(4)-③ 論文等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料a-④

4-(4)-④ 調査研究刊行物一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料a-⑤

4-(5) 有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

4-(5)-① 調査研究テーマ一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料a-②

4-(5)-② 学会、研究会等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料a-③

4-(5)-③ 論文等発表実績一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料a-④

4-(5)-④ 調査研究刊行物一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料a-⑤

4-(5)-⑤ 科学研究費補助金による調査研究　（後述の資料に記載）◎共通資料a-⑥

4-(5)-⑥ 客員研究員一覧　（後述の資料に記載）◎共通資料a-⑦

5 文化財の保存・修復に関する国際協力の推進

5-(1) 文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力及び国際共同研究

5-(1)-① 調査研究テーマ一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料a②

5-(1)-② 国際ワークショップ開催実績一覧

【東京文化財研究所】

開催件数：2件　参加者総数：106人

開催日	テーマ	講師等	参加者数
10月8日	第23回国際文化財保存修復研究会「遺跡はなぜ残ってきたか」	清水真一（文化遺産国際協力センター長）、朽津信明（文化遺産国際協力センター主任研究員）、Paola Virgili（ローマ文化財局郊外遺跡考古地区部長）、原田雅弘（鳥取県埋蔵文化財センター青谷上寺地遺跡調査係長）、R. Cecep Eka Permana（インドネシア大学人間学部考古学科講師）	43人
22年 3月4日～ 6日	アジア文化遺産国際会議「東アジア地域の文化遺産―文化遺産保護国際協力活動を通じて我々は何を発見し共有しうるか―」	鈴木規夫（東京文化財研究所長）、清水真一(文化遺産国際協力センター長)、岡田　健(保存計画研究室長)、山内和也(地域環境研究室長)、二神葉子(文化遺産国際協力センター主任研究員)、友田正彦(文化遺産国際協力センター保存計画研究室長)、加藤雅人（保存修復科学センター研究員）、森井順之（保存修復科学センター研究員）、杉山洋（奈良文化財研究所 企画調整部国際遺跡研究室長）、井上和人（奈良文化財研究所 都城発掘調査部長）、森本　晋（奈良文化財研究所 企画調整部文化財情報研究室長）、前田耕作（客員研究員/和光大学名誉教授）、周　儉（同済大学 建築与城市規劃学院 副院長/ユネスコ・アジア太平洋地域トレーニング研究センター　執行主任）、金　仁圭（韓国國立文化財研究所 芸能民俗研究室）、金　思憲（韓國国立文化財研究所　文化財保存科学センター センター長代理）、金　東大（韓国國立文化財研究所 研究企画課国際交流担当 行政事務官）、金　鏞漢（韓国國立文化財研究所 文化財保存科学センター センター長）、黄　仁鎬（韓国国立中原文化財研究所 学芸研究室長）、杜　暁帆（ユネスコ北京事務所 文化遺産保護専門員）、林　瑩鎭（韓国國立文化財研究所 無形文化財研究所　学芸研究官）、馬　清林（中国文化遺産研究院 副院長）、王　金華（中国文化遺産研究院 高級工程師/同研究院　岩土文物与遺址保護研究所　所長）、李　春玲（中国文化遺産研究院 副研究館員、資料室副主任）、張　暁彤（中国文化遺産研究院 副研究員）、蘇　伯民（敦煌研究院保護所 所長）、王　旭東（敦煌研究院 副院長）	63人

5-(1)-③ 学会、研究会等発表実績一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料a③

5-(1)-④ 論文発表実績一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料a④

5-(2) 諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転の推進

5-(2)-① 調査研究テーマ一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料a②

5-(2)-② アジア諸国文化財保護担当者などの人材養成に関する研修等実施状況

【東京文化財研究所】　2件

	研修課程	研修期間	日数	研修対象	参加者数
1	イラク文化財専門家研修	6月16日 ～9月19日	96日	イラク国立博物館職員	4人
2	アフガニスタン文化財専門家研修	7月21日 ～12月12日	145日	カーブル考古学研究所職員	2人

【奈良文化財研究所】　5件

	研修課程	研修期間	日数	研修対象	参加者数
1	国際協力機構の実施する大エジプト博物館保存修復センタープロジェクトの研修	9月2日 ～10日	9日	エジプト人保存修復専門家	2人
2	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する研修2009（個人研修・ラオス）	7月7日 ～8月6日	31日	ラオス文化情報省文化遺産局職員	3人

	研修課程	研修期間	日数	研修対象	参加者数
3	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する研修2009（集団研修）	9月8日 ～10月8日	31日	アジア太平洋地域の木造建造物専門職員	20人
4	ACCUの実施する文化遺産の保護に資する研修2009（個人研修・モンゴル）	11月17日 ～12月17日	31日	モンゴル国立文化遺産センター歴史文化遺産修復部職員	3人
5	ACCUの実施する文化遺産ワークショップ2009における現地研修（ベトナム）	10月26日 ～31日	6日	ベトナム人木造建造物専門家	16人

6 情報発信機能の強化

6-(1) ネットワークのセキュリティの強化及び情報基盤の整備充実

6-(1)-① 文化財関係資料及び図書の受入件数

	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
	21年度受入件数	総件数	21年度受入件数	総件数
図　　書	5,467冊	226,368冊	9,484冊	302,422冊

6-(2) 研究所の調査・研究成果の発信

6-(2)-① 調査研究刊行物一覧

（後述の資料に記載）◎共通資料a⑤

6-(2)-② 公開講演会、現地説明会、国際シンポジウムの開催実績一覧

【東京文化財研究所】

公開講演会　1件（2日）

○公開講演会「平成21年度オープンレクチャー」
- ・開 催 日：10月2日
- ・開催場所：東京文化財研究所セミナー室
- ・主　　催：上野の山文化ゾーン連絡協議会
- ・参加人数：258人（10月3日、4日の2日間延べ数）
- ・事業内容：美術史研究の成果を一般に公表すること
  「異国をこしらえる- 「玄奘三蔵絵」をめぐって- 」
  「宋朝からみた日本僧- 仏法・国土と文物交流の世界- 」

○公開講演会「平成21年度オープンレクチャー」
- ・開 催 日：10月3日
- ・開催場所：東京文化財研究所セミナー室
- ・主　　催：上野の山文化ゾーン連絡協議会
- ・参加人数：277人（10月3日、4日の2日間延べ数）
- ・事業内容：美術史研究の成果を一般に公表すること
  「大谷探検隊収集西域壁画の光学的調査」
  「チベット宗教世界と大谷探検隊」

国際シンポジウム　1件

○国際シンポジウム「第33回文化財の保存および修復に関する国際研究集会」
- ・開 催 日：11月12～14日
- ・開催場所：東京国立博物館大講堂
- ・主　　催：東京文化財研究所
- ・参加人数：356人
- ・事業内容：「文化財を取り巻く環境の調査と対策」

【奈良文化財研究所】

公開講演会　4件

○公開講演会「第104回公開講演会」
- ・開 催 日：5月23日
- ・開催場所：奈良文化財研究所平城宮跡資料館講堂
- ・主　　催：奈良文化財研究所
- ・参加人数：200人
- ・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
  「第一次大極殿院広場の復原」
  「古代火葬墓の世界」
  「高床式建物を探る－出土建築部材と雲南の実際－」

○公開講演会「飛鳥資料館特別講演会」
- ・開 催 日：8月2日
- ・開催場所：万葉文化館企画展示室
- ・主　　催：飛鳥資料館

・参加人数：58人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
「甦るクメール文明」－世界文化遺産ｱﾝｺｰﾙ遺跡群－

○公開講演会「飛鳥資料館特別講演会」
・開 催 日：10月17日
・開催場所：奈良文化財研究所飛鳥資料館講堂
・主　　催：飛鳥資料館
・参加人数：127人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
「北方騎馬民族のかがやき 三燕文化の考古新発見」

○公開講演会「第105回公開講演会」
・開 催 日：11月28日
・開催場所：なら100年会館大ホール
・主　　催：奈良文化財研究所
・参加人数：633人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
「これからの平城宮跡－遷都1300年を迎えて－」
「世界都市長安城の風景－平城京の原型－」
「平城京遷都の歴史的背景－日本古代都城の出現と変質」

現地説明会　6件
○現地説明会「平城第454次（中央区第1次大極殿院内庭部）発掘調査」
・開 催 日：6月20日
・開催場所：奈良市佐紀町
・主　　催：奈良文化財研究所
・参加人数：755人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
発掘調査

○現地見学会「飛鳥藤原第157次（甘樫丘東麓遺跡）発掘調査」
・開 催 日：6月21日
・開催場所：高市郡明日香村
・主　　催：奈良文化財研究所
・参加人数：1,134人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
発掘調査

○現地見学会「平城第458次（興福寺南大門）発掘調査」
・開 催 日：9月27日
・開催場所：奈良市登大路町 興福寺境内
・主　　催：奈良文化財研究所
・参加人数：2,265人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
発掘調査

○現地説明会「飛鳥藤原第160次（藤原宮大極殿院回廊）発掘調査」
・開 催 日：11月29日
・開催場所：橿原市高殿町
・主　　催：奈良文化財研究所
・参加人数：945人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
発掘調査

○現地説明会「平城446次（平城宮東院地区）発掘調査」
・開 催 日：22年2月20日
・開催場所：奈良市法華寺町
・主　　催：奈良文化財研究所
・参加人数：840人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
発掘調査

○現地見学会「飛鳥藤原　発掘調査現地見学会」
・開 催 日：22年3月20日
・開催場所：高市郡明日香村　国営飛鳥歴史公園甘樫丘地区内
・主　　催：奈良文化財研究所
・参加人数：1,245人
・事業内容：文化財に関する調査・研究に基づく成果について、積極的に公開・提供する。
発掘調査

6-(2)-③ ホームページアクセス件数

（後述の資料に記載）◎共通資料c

6-(3) 黒田記念館、平城宮跡資料館、藤原宮跡資料室、飛鳥資料館の展示公開

6-(3)-① 入館者数
（後述の資料に記載）◎共通資料d-①

6-(3)-② 入館者数（過去5カ年）
（後述の資料に記載）◎共通資料d-②

6-(3)-③ 入場料収入
（後述の資料に記載）◎共通資料d-③

6-(3)-④ 平常展・特別展
（後述の資料に記載）◎共通資料d-④

6-(4) 文化庁が行う平城宮跡、飛鳥・藤原宮跡等の公開・活用事業に協力・事業の運営と各種ボランティア支援

6-(4)-① ボランティア受入れ実績
（後述の資料に記載）◎共通資料b

6-(5) 文化財情報・研究成果の促進

6-(5)-① ウェブサイトのアクセス件数
（後述の資料に記載）◎共通資料c

6-(5)-② 収蔵品のデジタル化件数

東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
画像　775,300件 文字　1,231,867字	5,603件	102,984件	3,574件

6-(5)-③ 収集した情報資料数（総数）

		東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
写真原板		313,196枚	246,761枚	359,403枚	17,784枚
資料	模造	0	0	0	0
	模写	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0
	計	0	0	0	0
図書	和書	164,389冊	65,723冊	59,952冊	56,283冊
	漢書	37,383冊	19,063冊	4,871冊	0
	洋書	11,410冊	1,908冊	1,556冊	1,712冊
	計	213,182冊	86,894冊	66,379冊	57,995冊
映画フィルム		0	24巻	30巻	0
スライド		0	26本2,779コマ	21本2,192コマ	12コマ
マイクロフィルム		3,654巻	0	0	515巻

東京国立博物館資料館の利用者数（過去5年間）

	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
利用者数	3,798人	2,920人	3,134人	2,764人	2,898人
閉架図書（閲覧）	2,725件	2,770件	3,321件	3,757件	7,527件
マイクロフィルム（閲覧）	839件	1,093件	650件	596件	577件
レファレンスサービス	2,973件	3,632件	3,299件	4,024件	2,973件
コピーサービス	20,505枚	22,530枚	23,287枚	22,669枚	22,438枚

6-(5)-④ 特別観覧件数

申請件数

区分		国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
		合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
合計		1,826	1,118	708	153	14	139	1,002	765	237	492	302	190	179	37	142
写真撮影		50	10	40	15	5	10	13	2	11	20	3	17	2	0	2
写真原板使用	モノクロ	227	163	64				195	148	47	32	15	17	0	0	0
	カラー	1,132	809	323				761	611	150	239	166	73	132	32	100
写真原板再使用		166	109	57				0	0	0	162	108	54	4	1	3
映画撮影		26	24	2	9	8	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
テレビ撮影								2	2	0	7	7	0	4	3	1
ビデオ撮影								0	0	0	3	3	0	1	1	0
模写		5	0	5	1	0	1	0	0	0	3	0	3	1	0	1
模造		7	1	6	2	0	2	2	1	1	3	0	3	0	0	0
熟覧		213	2	211	126	1	125	29	1	28	23	0	23	35	0	35

点数

区分		国立博物館			東京国立博物館			京都国立博物館			奈良国立博物館			九州国立博物館		
		合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料	合計	有料	無料
合計		7,789	3,187	4,602	680	35	645	3,716	2,211	1,505	1,372	805	567	2,021	136	1,885
写真撮影		244	23	221	35	17	18	85	3	82	42	3	39	82	0	82
写真原板使用	モノクロ	619	367	252				536	339	197	83	28	55	0	0	0
	カラー	5,540	2,546	2,994				3,011	1,859	1,152	849	559	290	1,680	128	1,552
写真原板再使用		333	200	133				0	0	0	326	197	129	7	3	4
映画撮影		52	48	4	19	17	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
テレビ撮影								8	8	0	15	15	0	6	4	2
ビデオ撮影								0	0	0	3	3	0	1	1	0
模写		11	0	11	1	0	1	0	0	0	4	0	4	6	0	6
模造		10	1	9	4	0	4	2	1	1	4	0	4	0	0	0
熟覧		980	2	978	621	1	620	74	1	73	46	0	46	239	0	239

7 地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上

7-① 国・地方公共団体への協力等に対する専門的・技術的な協力・助言

計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
482件	145件	337件

7-② 専門指導者層を対象とした研修等実施状況及び研究参加者等に対するアンケート結果

【東京文化財研究所】 4件

	研修課程	研修期間	日数	研修対象	研修内容	参加者数	満足度
1	博物館・美術館等の保存担当学芸員研修	7月13日～24日	12日	博物館・美術館等の文化財の保存担当者	文化財の保存科学の基礎と実践上の諸問題についての講義と実習	31人	97%
2	保存担当学芸員フォローアップ研修	6月23日	1日	博物館・美術館等の保存担当学芸員研修修了生	研修修了生に対して最新の保存科学の知識を講義する	69人	100%
3	国際研修「漆の保存と修復」	9月2日～15日	14日	海外の博物館・図書館・文書館などの学芸員、修復技術者、教員など	日本の漆工文化財の保存と修復に関する講義と実習、研修旅行	10人	100%
4	資料保存地域研修	11月27日～28日	2日	博物館・美術館等の文化施設に勤務する者	文化財の保存環境に関する基礎的な知識について、それぞれの地域に出向いて講義を行う	51人	97%

【奈良文化財研究所】 12件

	研修課程	研修期間	日数	研修対象	研修内容	参加者数	満足度
1	遺跡探査課程	6月2日～5日	4日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	遺跡探査	3人	100%
2	建築遺構調査課程	6月15日～19日	5日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	建築遺構調査	14人	100%
3	文化財写真Ⅰ(基礎)課程	7月7日～23日	17日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	文化財写真Ⅰ(基礎)	7人	100%
4	文化財写真Ⅱ(応用)課程	7月23日～8月6日	15日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	文化財写真Ⅱ(応用)	9人	100%
5	古代陶磁器調査課程	9月1日～9日	9日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	古代陶磁器調査	9人	100%
6	保存科学Ⅰ(無機質遺物)課程	10月15日～23日	9日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	保存科学Ⅰ(無機質遺物)	9人	100%
7	保存科学Ⅱ(有機質遺物)課程	10月23日～30日	8日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	保存科学Ⅱ(有機質遺物)	7人	100%
8	遺跡地図情報課程	11月17日～20日	4日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	遺跡地図情報	15人	100%
9	自然科学的年代決定法課程	11月30日～12月4日	5日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	自然科学的年代決定法	7人	100%
10	遺跡整備活用課程	22年1月12日～22日	11日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	遺跡整備活用	15人	100%
11	報告書作成課程	22年1月28日～2月5日	9日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	報告書作成	21人	100%
12	地質環境調査課程	22年2月16日～24日	9日	地方公共団体の埋蔵文化財担当職員若しくはこれに準ずる者	地質環境調査	14人	100%

◎共通資料
a 調査研究

a-① 研究交流実績一覧
1) 海外研究者招聘・受入実績（延べ人数）

国立文化財機構	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
415人	26人	29人	29人	37人	82人	212人

【東京国立博物館】26人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	朴晟恵	韓国	国立中央博物館学芸研究室 アジア部学芸研究士	東京国立博物館と国立中央博物館との学術交流事業	21年7月3日～16日
2	崔　煥	韓国	国立中央博物館企画運営団 企画総括課学芸研究士	東京国立博物館と国立中央博物館との学術交流事業	21年7月3日～16日
3	王　奇志	中国	南京博物院院長助理	アジア博物館研究集会出席	21年10月29日～11月1日
4	成　建正	中国	陝西歴史博物館館長	アジア博物館研究集会出席	21年10月29日～11月1日
5	李　建毛	中国	湖南省博物館副館長	アジア博物館研究集会出席	21年10月29日～11月1日
6	万　全文	中国	湖北省博物館副館長	アジア博物館研究集会出席	21年10月29日～11月1日
7	馬　文闘	中国	雲南省博物館館長	アジア博物館研究集会出席	21年10月29日～11月1日
8	石　金鳴	中国	山西博物院院長	アジア博物館研究集会出席	21年10月29日～11月1日
9	王　亜民	中国	北京故宮博物院副院長	アジア博物館研究集会出席	21年10月29日～11月1日
10	張　文軍	中国	河南博物院院長	アジア博物館研究集会出席	21年10月29日～11月1日
11	朱　惠良	中国(台湾)	国立故宮博物院代理副處長	アジア博物館研究集会出席	21年10月29日～11月1日
12	Khenpo Phuntsok Tashi	ブータン王国	ブータン国立博物館長	アジア博物館研究集会出席	21年10月29日～11月1日
13	Nanda Wickramasinghe	スリランカ	スリランカ国立博物館局長	アジア博物館研究集会出席	21年10月29日～11月1日
14	Omur Tufan	トルコ	トプカプ宮殿博物館主任学芸員	アジア博物館研究集会スピーカー	21年10月29日～11月1日
15	Hari Budiarti	インドネシア	インドネシア国立博物館学芸部長	アジア国立博物館協会理事会出席、 アジア博物館研究集会出席	21年10月28日～11月1日
16	Oun Phalline	カンボジア	カンボジア国立博物館副館長	アジア国立博物館協会理事会出席、 アジア博物館研究集会出席	21年10月28日～11月1日
17	Goid　Dembereldorj	モンゴル	モンゴル国立博物館国際交流部長	アジア国立博物館協会理事会出席、 アジア博物館研究集会出席	21年10月28日～11月1日
18	Bhesh Narayan Dahal	ネパール	ネパール国立博物館館長	アジア国立博物館協会理事会出席、 アジア博物館研究集会出席	21年10月28日～11月1日
19	Karen Chin	シンガポール	シンガポール国立アジア文明博物館教育室長	教育普及国際シンポジウム 「伝統文化を伝えるために博物館ができること」スピーカー	22年1月21日～27日
20	Juliette Fritsch	イギリス	ヴィクトリア＆アルバート博物館展示解説室長	教育普及国際シンポジウム 「伝統文化を伝えるために博物館ができること」スピーカー	22年1月21日～27日
21	Jack Eby	アメリカ	ヒューストン美術館デザイン部長	ヒューストン美術館日本室開室に関する事前調査・打合せ	22年2月28日～3月6日
22	Hasan Fırat Diker	トルコ	トルコ文化観光省建築家	トルコ・トプカプ宮殿博物館で開催予定の「日本の美5000年」展事前調査・打合せ	22年3月6日～12日
23	冉　万里	中国	中国西北大学文博学院考古学系教授	仏教美術作品の保存活用に関する調査	22年3月9日～16日
24	周　麗麗	中国	上海博物館陶磁研究部研究館員	東京国立博物館と上海博物館との学術交流協定による招へい（色絵磁器に関する調査）	22年3月11日～24日
25	張　東	中国	上海博物館陶磁研究部副研究館員	東京国立博物館と上海博物館との学術交流協定による招へい（色絵磁器に関する調査）	22年3月11日～24日
26	Gregory Irvine	イギリス	ヴィクトリア＆アルバート博物館東洋美術主任研究員	阿修羅フォーラム出席および当館所蔵文化財・館史資料に関する調査	22年3月22日～31日

【京都国立博物館】延べ 29人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	ジャンーノエル・アレキサンドル・ロベール	フランス	フランス国立高等研究院　宗教学部教授	国際シンポジウム「法華の人と文化ーその行動と思想ー」参加	11月12日～11月16日
2	ジャクリーン・I・ストーン	アメリカ	プリンストン大学　宗教学部教授	国際シンポジウム「法華の人と文化ーその行動と思想ー」参加	11月12日～11月15日
3	イリナ・ポポヴァ	ロシア	ロシア科学アカデミー東洋写本研究所長	「シルクロード文字を辿って」作品展示確認	6月30日～7月15日
4	キラ・サモスク	ロシア	エルミタージュ美術館 中央アジアコレクション担当学芸員	「シルクロード文字を辿って」作品展示確認	7月2日～7月9日
5	クリャキナ・リブボ	ロシア	ロシア科学アカデミー東洋写本研究所　修理部主任	「シルクロード文字を辿って」作品撤収	9月5日～9月14日
6	デシュパンデ・オルガ	ロシア	エルミタージュ美術館 東洋部修理課主任	「シルクロード文字を辿って」作品撤収	9月5日～9月14日
7	賴毓芝	中国	台北故宮博物院書画処　研究員	「中国近代絵画に関わる国際研究交流」に関する研究調査	11月8日～14日
8	李志綱	中国	香港中文大学文物館　研究員	「中国近代絵画に関わる国際研究交流」に関する研究調査	11月7日～17日
9	王耀庭	中国	台北故宮博物院　前書画処長	「中国近代絵画に関わる国際研究交流」に関する研究調査	11月7日～13日
10	李超	中国	上海大学芸術研究院　教授	「中国近代絵画に関わる国際研究交流」に関する研究調査	10月4日～10日
11	陶喩之	中国	上海博物館書画部　研究員	「中国近代絵画に関わる国際研究交流」に関する研究調査	10月2日～11日
12	李偉銘	中国	広州美術学院　教授	「中国近代絵画に関わる国際研究交流」に関する研究調査	11月7日～13日
13	陳鶯	中国	香港中文大学芸術系　博士課程	「中国近代絵画に関わる国際研究交流」に関する研究調査	11月7日～13日
14	官綺雲	中国	香港大学人文学院芸術学系 助理教授	「中国近代絵画に関わる国際研究交流」に関する研究調査	7月23日～7月30日
15	阮榮春	中国	中国芸術研究院　研究員	国際ワークショップ参加・発表	12月15日～20日
16	李超	中国	上海大学芸術研究院　教授	国際ワークショップ参加・発表	12月15日～20日
17	陶喩之	中国	上海博物館書画研究部　研究館員	国際ワークショップ参加・発表	12月12日～19日
18	陶為衍	中国	近代絵画史研究者	国際ワークショップ参加・発表・近代中国絵画の調査	12月12日～22年1月10日
19	李志綱	中国	香港中文大学文物館　研究員	国際ワークショップ参加・発表	12月15日～19日
20	官綺雲	中国	香港大学人文学院芸術学系 助理教授	国際ワークショップ参加・発表	12月15日～18日
21	李偉銘	中国	広州美術学院　教授	国際ワークショップ参加・発表	12月15日～19日
22	蔡濤	中国	広東美術館研究部　副主任	国際ワークショップ参加・発表	12月15日～19日
23	朱万章	中国	広東省博物館　研究員	国際ワークショップ参加・発表	12月15日～19日
24	黄大徳	中国	近代絵画史研究者	国際ワークショップ参加・発表	12月15日～19日
25	郭卉	中国	ライデン大学　博士課程	国際ワークショップ参加・発表	12月15日～20日
26	王耀庭	台湾	台北故宮博物院　前書画処長	国際ワークショップ参加・発表	12月15日～19日
27	賴毓芝	台湾	台北故宮博物院書画処　研究員	国際ワークショップ参加・発表	12月15日～19日
28	ジュリア・アンドリュース	アメリカ	オハイオ州立大学　教授	国際ワークショップ参加・発表	12月6日～22日
29	沈揆一	アメリカ	カリフォルニア大学サンディエゴ校　教授	国際ワークショップ参加・発表	11月29日～12月22日

【奈良国立博物館】　延べ29人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	唐　友波	中国	上海博物館	当館との学術交流	21年8月9日～21年8月14日
2	柳　向春	中国	上海博物館	当館との学術交流	21年8月9日～21年8月14日
3	魏　小虎	中国	上海博物館	当館との学術交流	21年8月9日～21年8月14日
4	李　知原	韓国	国立慶州博物館	当館との学術交流	21年8月17日～21年9月16日
5	李　宏	中国	河南博物院	当館との学術交流	21年11月30日～21年12月29日
6	田　麗	中国	河南博物院	当館との学術交流	21年11月30日～21年12月29日

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
7	李　陽洙	韓国	国立慶州博物館	当館との学術交流	22年1月13日～22年2月12日

・その他招へい

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
8	侯　波良	中国	温洲博物館	聖地寧波展借用文化財の随行・展示作業	21年7月12日～21年7月18日
9	裘　琤	中国	浙江省博物館	聖地寧波展借用文化財の随行・展示作業	21年7月12日～21年7月18日
10	顧　幼静	中国	浙江省博物館	聖地寧波展借用文化財の随行・展示作業	21年7月12日～21年7月18日
11	李　剛	中国	浙江省博物館	聖地寧波展開会式出席	21年7月15日～21年7月21日
12	王　炬	中国	浙江省博物館	聖地寧波展開会式出席	21年7月15日～21年7月21日
13	楊　新平	中国	浙江省文物所	聖地寧波展開会式出席	21年7月15日～21年7月21日
14	陳　云根	中国	浙江省文物考古研究所	聖地寧波展開会式出席	21年7月15日～21年7月21日
15	魏　麗莎	中国	浙江工商大学	聖地寧波展開会式出席	21年7月15日～21年7月21日
16	成　在賢	韓国	国立中央博物館	聖地寧波展借用文化財の随行・展示作業	21年7月13日～21年7月18日
17	姜　培馨	韓国	国立中央博物館	聖地寧波展開会式出席	21年7月16日～21年7月18日
18	申　海　澈	韓国	東国大学校	聖地寧波展借用文化財の随行・展示作業	21年7月13日～21年7月18日
19	ブリジッダ・オーガスチン	アメリカ	メトロポリタン美術館	聖地寧波展借用文化財の随行・展示作業	21年7月8日～21年7月16日
20	ジーン・ガオ	アメリカ	ボストン美術館	聖地寧波展借用文化財の随行・展示作業	21年7月8日～21年7月16日
21	王　屹峰	中国	浙江省博物館	聖地寧波展借用文化財返却の随行	21年8月29日～21年9月4日
22	顧　幼静	中国	浙江省博物館	聖地寧波展借用文化財返却の随行	21年8月29日～21年9月4日
23	符　藝楠	中国	黄岩博物館	聖地寧波展借用文化財返却の随行	21年8月29日～21年9月4日
24	權　胤美	韓国	国立中央博物館	聖地寧波展借用文化財返却の随行	21年8月30日～21年9月5日
25	キョウ・シネード	アメリカ	メトロポリタン美術館	聖地寧波展借用文化財返却の随行	21年8月28日～21年9月4日
26	アン・ニシムラ	アメリカ	ボストン美術館	聖地寧波展借用文化財返却の随行	21年8月28日～21年9月4日
27	申　海澈	韓国	東国大学校	聖地寧波展借用文化財返却の随行	21年8月30日～21年9月5日
28	李　栄勲	韓国	国立慶州博物館	第61回正倉院展開会式出席及び意見交換	21年10月22日～21年10月24日
29	朴　鎭煥	韓国	国立慶州博物館	第61回正倉院展開会式出席及び意見交換	21年10月22日～21年10月24日

【九州国立博物館】延べ37人

	氏名	国名	所属機関・役職		用務	期間	
1	アノン・ヌーペーン	タイ	ナコンシータマラート国立博物館	館長	ＪＩＣＡ草の根技術協力事業「文化財の保存と地域活性化」研修員受け入れプログラム	7/16	8/8
2	ウサー・ヌォンピエンパーク	タイ	タイ王国芸術局国立博物館事務局	学芸員	ＪＩＣＡ草の根技術協力事業「文化財の保存と地域活性化」研修員受け入れプログラム	7/16	8/8
3	ソムポット・スカーブーン	タイ	国立美術館	学芸員	ＪＩＣＡ草の根技術協力事業「文化財の保存と地域活性化」研修員受け入れプログラム	7/16	8/8
4	グエン・ディン・チェン	ベトナム	ベトナム歴史博物館	副館長	「ベトナム文化講演会」における講演	10/9	10/12
5	グエン・ゴック・チャット	ベトナム	ベトナム歴史博物館	研究員	「ベトナム文化講演会」における講演	10/9	10/12
6	グレングライ・サムパチャリット	タイ	タイ王国芸術局	局長	タイとの交流事業に関する意見交換のため	10/31	11/3
7	リー・ナミ	韓国	靖齋文化財保存研究所	絵画･典籍類文化財保存処理者	文化庁　アジア諸国博物館・美術館研究協力事業による招聘	12/17	12/25
8	パク・チョンユン	韓国	靖齋文化財保存研究所	絵画･典籍類文化財保存処理者	平成21年度九州国立博物館文化財保存国際交流セミナー参加のため	12/17	12/25
9	ヴ・ホン・トゥアット	ベトナム	ベトナム民族博物館	研究員	2011年海外展に関する協議	2/23	2/28
10	スラサック・スリサマン	タイ	芸術局国立博物館事務局	局長	2011年海外展に関する協議	2/23	2/28
11	ソムチャーイ・ナ・ナコンパトム	タイ	芸術局国立博物館事務局	専門官	2011年海外展に関する協議	2/23	2/28
12	ウィサンタニー・ポティソーントーン	タイ	芸術局国立博物館事務局	国立博物館開発促進課長	2011年海外展に関する協議	2/23	2/28
13	サムキット・チャイモンコン	タイ	芸術局国立博物館事務局	学芸員	2011年海外展に関する協議	2/23	2/28
14	タナコーン・カムサ	タイ	芸術局国立博物館事	展示造作技術者	2011年海外展に関する協議	2/23	2/28

	氏名	国名	所属機関・役職		用務	期間	
	ップ		務局				
15	スティサック・アルンスリ	タイ	芸術局国立博物館事務局	展示造作技術者	2011年海外展に関する協議	2/23	2/28
16	ファン・ジヒョン	韓国	韓国国立中央博物館	学芸研究士	トヨタ財団助成/科学研究費補助金「海の東アジアが醸成する文化」による招聘	2/24	3/5
17	じゃんふぇいろん 張　飛　龍	中国	西安生漆塗料研究所	副所長	トヨタ財団助成/科学研究費補助金「海の東アジアが醸成する文化」による招聘	2/24	3/5
18	グエン・ドン・ホアン	ベトナム	ベトナム歴史博物館	専門員	トヨタ財団助成/科学研究費補助金「海の東アジアが醸成する文化」による招聘	2/24	3/5
19	シリチャイ　ワンチャロントラクル	タイ	タイ王国芸術局	保存部長	文化庁　外国人芸術家・文化財専門家招聘事業による招聘	2/24	3/5
20	ソムタウィン・ニリヴィライ	タイ	タイ王国王宮保存課長	保存課長	トヨタ財団助成/科学研究費補助金「海の東アジアが醸成する文化」による招聘	2/24	3/5
21	蘇　榮譽	中国	中国科学院自然科学史研究所	研究員	科学研究費補助金「中国古代青銅器（住友コレクション）の製造技法調査研究」による招聘	2/25	2/28
22	万　俐	中国	南京博物院文物保護研究所	所長	科学研究費補助金「中国古代青銅器（住友コレクション）の製造技法調査研究」による招聘	2/25	2/28
23	王　旭東	中国	敦煌研究院	副院長	文化庁　外国人芸術家・文化財専門家招聘事業による招聘	3/2	3/11
24	劉　冰	中国	赤峰市博物館	館長	科学研究費補助金「トルキ山遼墓出土から見た唐滅亡後の東アジアにおける工芸技術」による招聘	3/8	3/14
25	塔　拉	中国	内蒙古博物院	院長	科学研究費補助金「トルキ山遼墓出土から見た唐滅亡後の東アジアにおける工芸技術」による招聘	3/8	3/14
26	孫　建華	中国	内蒙古文物考古研究所	研究員	科学研究費補助金「トルキ山遼墓出土から見た唐滅亡後の東アジアにおける工芸技術」による招聘	3/8	3/14
27	于　宝東	中国	内蒙古博物院	副研究員	科学研究費補助金「トルキ山遼墓出土から見た唐滅亡後の東アジアにおける工芸技術」による招聘	3/8	3/14
28	朴　智善	韓国	龍仁大学校	教授	国際シンポジウム「巨大掛軸をめぐる文化交流」による招聘	3/13	3/17
29	鄭 明熙	韓国	韓国国立中央博物館	学芸研究士	国際シンポジウム「巨大掛軸をめぐる文化交流」による招聘	3/12	3/17
30	鄭　相基	韓国	韓国国立公州博物館	学芸研究室長	国際シンポジウム「巨大掛軸をめぐる文化交流」による招聘	3/13	3/17
31	鄭　桂玉	韓国	韓国国立古宮博物館	遺物科学課長	国際シンポジウム「巨大掛軸をめぐる文化交流」による招聘	3/13	3/17
32	徐　埻	韓国	韓国国立古宮博物館	学芸研究士	国際シンポジウム「巨大掛軸をめぐる文化交流」による招聘	3/13	3/17
33	趙　由典	韓国	韓国京畿道博物館	館長	国際シンポジウム「巨大掛軸をめぐる文化交流」による招聘	3/14	3/17
34	全　益煥	韓国	韓国京畿道博物館		国際シンポジウム「巨大掛軸をめぐる文化交流」による招聘	3/14	3/17
35	金剛　住職	韓国	美黄寺	住職	国際シンポジウム「巨大掛軸をめぐる文化交流」による招聘	3/12	3/15
36	朴　必銹	韓国	美黄寺		国際シンポジウム「巨大掛軸をめぐる文化交流」による招聘	3/12	3/15
37	呉　来明	中国	上海博物館文化財保存科学実験室	副主任	科学研究費補助金「中国古代青銅器（住友コレクション）の製造技法調査研究」による招聘	3/28	3/31

※上記には、他機関が招聘し、九州国立博物館を訪問（滞在）したものや、自己負担での外国人研究者の訪問実績は含んでいない。
※上記には、日本国内の機関（大学、研究所等）に所属する外国人研究者の招聘は含んでいない。

【東京文化財研究所】延べ　82人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	Antonio　Iaccarino Idelson	イタリア	美術品保存修復専門家	タジキスタン国立古物博物館が所蔵する壁画片の修復作業の打合せと講演	21. 5. 7～ 5.14
2	金　奉建	韓国	韓国国立文化財研究所	石造文化財に関する日韓共同研究調	21. 5.13～ 5.20

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
			所長	査地の視察	
3	李　奎植	韓国	韓国国立文化財研究所 保存科学研究室長	石造文化財に関する日韓共同研究調査地の視察	21. 5.13～ 5.20
4	李　鍾勳	韓国	韓国国立文化財研究所 研究企画課学芸研究官	石造文化財に関する日韓共同研究調査地の視察	21. 5.13～ 5.20
5	Fadhil Abed ALLAWI	イラク	イラク国立博物館 中央修復研究室 化学工学者及び保存修復技術者	イラク人保存修復家人材育成のための研修	21. 6.19～ 9.18
6	Mohammad Kasim Mohammad Jwad AL-MIMAR	イラク	イラク国立博物館 中央修復研究室 化学技術保存修復技術補佐	イラク人保存修復家人材育成のための研修	21. 6.19～ 9.18
7	Senaa Chloob Abass AL-TIMIMI	イラク	イラク国立博物館 中央修復研究室 生物学および保存修復技術者	イラク人保存修復家人材育成のための研修	21. 6.19～ 9.18
8	Ban Abdulmahdi Mohammad Ali AL-JAMEEL	イラク	イラク国立博物館 中央修復研究室 有機化学および保存修復技術者	イラク人保存修復家人材育成のための研修	21. 6.19～ 9.18
9	Vinod Daniel	オーストラリア	オーストラリア博物館 保存科学センター長、AusHeritage理事長	文化遺産国際協力コンソーシアム第5回研究会講演	21. 7. 4～ 7. 8
10	文　光喜	韓国	韓国国立生物資源館 生物資源研究部 研究官	日本文化財科学会第26回大会参加、研究発表、関連調査	21. 7.10～ 7.15
11	Nuntiya Swangvudhitham	タイ	タイ王国文化省 国家文化委員会事務局（ONCC） 副局長	近畿地方無形文化遺産現地調査	21. 7.13～ 7.18
12	Kannika Prasitnaraphan	タイ	タイ王国文化省 国家文化委員会事務局（ONCC） 文化担当職（渉外グループ）	近畿地方無形文化遺産現地調査	21. 7.13～ 7.18
13	Supaporn Charoensirisopak	タイ	タイ王国文化省 国家文化委員会事務局（ONCC） 文化担当職（無形文化遺産グループ）	近畿地方無形文化遺産現地調査	21. 7.13～ 7.18
14		アフガニスタン		考古学研究に関連する実習と専門知識の研修	21. 7.22～12.11
15		アフガニスタン		考古学研究に関連する実習と専門知識の研修	21. 7.22～12.11
16	Kushal Singh Rana	インド	インド考古局、科学部長	文化庁「外国人芸術家・文化財専門家招へい事業」の枠組みにおいて、アジャンター壁画の保存に関する専門家会議における講演、打ち合わせ、および日本国内の保存修復施設と文化遺産の視察	21. 7.30～ 8. 6
17	V.S.Raghavendra Rao	インド	インド考古局、アジャンターフィールド事務所	文化庁「外国人芸術家・文化財専門家招へい事業」の枠組みにおいて、アジャンター壁画の保存に関する専門家会議における講演、打ち合わせ、および日本国内の保存修復施設と文化遺産の視察	21. 7.30～ 8. 6
18	MICHRI Marina	ロシア	エルミタージュ美術館　修復家	国際研修「漆の保存と修復」	21. 9. 1～ 9.16
19	MIKLIN-KNIEFACZ Silvia	オーストリア	保存修復アトリエ 修復家	国際研修「漆の保存と修復」	21. 9. 1～ 9.16
20	WEBB Marianne	カナダ	ロイヤル・オンタリオ博物館　修復家	国際研修「漆の保存と修復」	21. 9. 1～ 9.16
21	SCHELLMANN Nanke	イギリス	ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館　学生	国際研修「漆の保存と修復」	21. 9. 1～ 9.16
22	KORYCIARZ-KITAMIKADO Joanna	ポーランド	ワルシャワ国立博物館　漆修復家	国際研修「漆の保存と修復」	21. 9. 1～ 9.16
23	DOS SANTOS NUNES PETISCA Maria João	ポルトガル	Institute of Museums and Conservation 研究員	国際研修「漆の保存と修復」	21. 9. 1～ 9.16
24	ARTAL-ISBRAND Paula	アメリカ	ウースター美術館 修復家	国際研修「漆の保存と修復」	21. 9. 1～ 9.16
25	HEGINBOTHAM Arlen	アメリカ	J. ポール・ゲッティ美術館　修復家	国際研修「漆の保存と修復」	21. 9. 1～ 9.16
26	GASSNER Ursel Adda	ドイツ	ヘルツォーク・アントン・ウルリッヒ美術館　漆工品修復家	国際研修「漆の保存と修復」	21. 9. 1～10.16
27	LENCZ Balazs	ハンガリー	ハンガリー国立博物館	国際研修「漆の保存と修復」	21. 9. 1～10.16

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
			修復家		
28	Do Duc Tue	ベトナム	ベトナム社会科学院考古学院 研究員	タンロン皇城遺跡保存に関わる協議及び遺構展示見学	21. 9. 5～ 9.12
29	Bui Duy Tri	ベトナム	ベトナム社会科学院考古学院　副院長	タンロン皇城遺跡保存に関わる協議及び遺構展示見学	21. 9. 5～ 9.12
30	Nguyen Van Anh	ベトナム	ベトナム社会科学院考古学院　研究員	タンロン皇城遺跡保存に関わる協議及び遺構展示見学	21. 9. 5～ 9.12
31	Nguyen Huu Thiet	ベトナム	ベトナム社会科学院考古学院　職員	タンロン皇城遺跡保存に関わる協議及び遺構展示見学	21. 9. 5～ 9.12
32	Vo Thu Thuy	ベトナム	ハノイ古城・コーロア遺跡保存センター研究員	タンロン皇城遺跡保存に関わる協議及び遺構展示見学	21. 9. 5～ 9.12
33	Paola Virgili	イタリア	ローマ文化財監督局 郊外遺跡考古地区部長	国際文化財保存修復研究会にて発表、関連遺跡視察	21.10. 5～10.10
34	R.Cece Eka Permana	インドネシア	インドネシア大学人間学部考古学科　講師	遺跡のモニタリングに関する共同研究	21.10. 5～10.10
35	Brahmantara	インドネシア	ボロブドゥール遺産保存研究所　研究員	遺跡のモニタリングに関する共同研究	21.10. 5～10.10
36	Manatchaya Wajvisoot	タイ	タイ芸術局保存研究部門　技官	覆屋効果に関する共同研究	21.10. 5～10.10
37	杉山恵助	イギリス	大英博物館 主任保存技術者	第33回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会「日本絵画の修復－先端と伝統－」への参加	21.11. 8～11.19
38	Jennifer Perry	アメリカ	クリーブランド美術館 東洋絵画保存技術者	第33回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会「日本絵画の修復－先端と伝統－」への参加	21.11.10～11.18
39	Blythe McCarthy	アメリカ	フリーア美術館とアーサーM.サックラーギャラリー 保存修復・科学研究部 アンドリュー W. メロン主任研究員	第33回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会「日本絵画の修復－先端と伝統－」への参加	21.11.10～11.19
40	Jachi Elgar	アメリカ	ボストン美術館 ｱｼﾞｱ保存修復と国際ｱｼﾞｱﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ室長	第33回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会「日本絵画の修復－先端と伝統－」への参加	21.11.11～11.19
41	Thomas J.K. Strang	カナダ	カナダ保存研究所 上級保存科学者	文化財の生物劣化対策の研究	21.10.26～11. 9
42	Stefan Simon	ドイツ	ラトゲン保存研究所	「文化財の保存環境を考慮した博物館の省エネ化」での講演および情報交換	21.12. 7～12.13
43	Thomas Psota	スイス	ベルン歴史博物館 学芸員	在外日本古美術品保存修復協力事業 ２１年度修理打ち合わせ	21.12. 9～12.15
44	景　峰	中国	ユネスコ世界遺産センター　プログラムスペシャリスト	文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム講演	21.12.12～12.15
45	Jiang Dong	中国	アジア太平洋無形文化遺産センター準備室　事務局長	無形文化遺産保護国際研究会ーアジア太平洋諸国における保護措置の現状と課題ー	22. 1.13～ 1.16
46	Kunzang Delek	ブータン	国立公文書館 副アーキビスト長	無形文化遺産保護国際研究会ーアジア太平洋諸国における保護措置の現状と課題ー	22. 1.13～ 1.16
47	Gaura Mancacaritadipura	インドネシア	ワヤン人形芝居師、 文化専門家	無形文化遺産保護国際研究会ーアジア太平洋諸国における保護措置の現状と課題ー	22. 1.13～ 1.16
48	Nguyen Kim Dung	ベトナム	ベトナム文化スポーツ観光省　文化遺産局無形文化遺産部　部長	無形文化遺産保護国際研究会ーアジア太平洋諸国における保護措置の現状と課題ー	22. 1.13～ 1.16
49	Patrick D. Flores	フィリピン	フィリピン大学芸術学部　教授	無形文化遺産保護国際研究会ーアジア太平洋諸国における保護措置の現状と課題ー	22. 1.13～ 1.16
50	Misiwaini Qereqeretabua	フィジー共和国	フィジー言語文化研究所　所長	無形文化遺産保護国際研究会ーアジア太平洋諸国における保護措置の現状と課題ー	22. 1.13～ 1.16
51	Yundenbat Sonom-Ish	モンゴル	文化遺産センター 無形文化遺産保護部　部長	無形文化遺産保護国際研究会ーアジア太平洋諸国における保護措置の現状と課題ー	22. 1.13～ 1.16

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
52	Seong-Yong Park	韓国	アジア太平洋無形文化遺産センター 事務局長	無形文化遺産保護国際研究会ーアジア太平洋諸国における保護措置の現状と課題ー	22. 1.13～ 1.16
53	Timothy Curtis	タイ	ユネスコ バンコク事務所 文化部　部長	無形文化遺産保護国際研究会ーアジア太平洋諸国における保護措置の現状と課題ー	22. 1.13～ 1.16
54	Laxmi Narayan MANTRI	インド	インド文化省 西部地区文化センター　副所長	無形文化遺産保護国際研究会ーアジア太平洋諸国における保護措置の現状と課題ー	22. 1.13～ 1.16
55	John Grunewald	ドイツ	ドレスデン工科大学 教授	プロジェクト「文化財の保存環境の研究」の研究会での講演および情報交換	22. 1.25～ 1.30
56	Rudolf Plagge	ドイツ	ドレスデン工科大学 研究員	プロジェクト「文化財の保存環境の研究」の研究会での講演および情報交換	22. 1.25～ 1.30
57	Andreas Nicolai	ドイツ	ドレスデン工科大学 研究員	プロジェクト「文化財の保存環境の研究」の研究会での講演および情報交換	22. 1.25～ 1.30
58	Alexandra Greathead	イギリス	アシュモリアン医術館　紙修復家	２１年度在外日本古美術品保存修復協力事業 アシュモリアン美術館蔵「歌舞放下芸観覧図屏風」修復事業の中間視察および協議	22. 1.26～ 1.30
59	Kannika Prasitnaraphan	タイ	タイ王国文化省 国家文化委員会事務局（ＯＮＣＣ） 文化担当職（渉外グループ）	タイ東北地方モーラム調査フォローアップ	22. 2. 7～ 2.12
60	平野　明	イギリス	セインズベリー日本藝術研究所　リサ・セインズベリー図書館 司書	東アジアの美術に関する資料学的研究に関する共同調査・研究およびミニシンポジウムでの研究発表、討議参加	22. 2.19～ 2.27
61	蘇　伯民	中国	敦煌研究院保護所 所長	敦煌莫高窟保護の共同研究	22. 2.20～ 3.16
62	Irena Tronechekova	チェコ	ヴェルケ・メディジチ博物館 館長	２１年度在外日本古美術品保存修復協力事業にかかる中間検査	22. 2.22～ 2.26
63	Alfred Gottwaldt	ドイツ	ドイツ技術博物館 鉄道部門上級学芸員	近代の研究会講演およびコンクリート構造物の保存応対の現地調査	22. 2.27～ 3. 9
64	Rolf Höhmann	ドイツ	産業考古学事務所 所長	近代の研究会講演およびコンクリート構造物の保存応対の現地調査	22. 2.27～ 3. 9
65	周　儉	中国	同济大学建築与城市規劃学院　副院長/ユネスコ・アジア太平洋地域トレーニング研究センター　執行主任	東アジア文化遺産会議	22. 3. 2～ 3. 5
66	金　思憲	韓国	韓国国立文化財研究所　文化財保存科学センター センター長　代理	東アジア文化遺産会議	22. 3. 2～ 3. 7
67	金　東大	韓国	韓国国立文化財研究所 研究企画課 国際交流担当　行政事務官	東アジア文化遺産会議	22. 3. 2～ 3. 7
68	林　瑩鎭	韓国	韓国国立文化財研究所 無形文化財研究所 学芸研究官	東アジア文化遺産会議	22. 3. 2～ 3. 7
69	金　鏞漢	韓国	韓国国立文化財研究所 文化財保存科学センター センター長	東アジア文化遺産会議	22. 3. 2～ 3. 7
70	黄　仁鎬	韓国	韓国国立中原文化財研究所 学芸研究室長	東アジア文化遺産会議	22. 3. 2～ 3. 7
71	朴　亨彬	韓国	韓国国立文化財研究所 研究企画課 学芸研究士	東アジア文化遺産会議	22. 3. 2～ 3. 7
72	杜　暁帆	中国	ユネスコ北京事務所 文化遺産保護専門員	東アジア文化遺産会議	22. 3. 2～ 3.10
73	馬　清林	中国	中国文化遺産研究院 副院長	東アジア文化遺産会議	22. 3. 2～ 3.10
74	王　金華	中国	中国文化遺産研究院 高級工程師	東アジア文化遺産会議	22. 3. 2～ 3.10

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
			同研究院　岩土文物与遺址保護研究所 所長		
75	張　治国	中国	中国文化遺産研究院 助理研究員	東アジア文化遺産会議	22. 3. 2～ 3.10
76	李　春玲	中国	中国文化遺産研究院 副研究館員、資料室副主任	東アジア文化遺産会議	22. 3. 2～ 3.10
77	張　暁彤	中国	中国文化遺産研究院 副研究員	東アジア文化遺産会議	22. 3. 2～ 3.10
78	金　奉建	韓国	韓国国立文化財研究所 所長	東アジア文化遺産会議	22. 3. 4～ 3. 7
79	Yudi Suharutono	インドネシア	ボロブドゥール遺産保存研究所　　技官	遺跡のモニタリングに関する共同研究	22. 3. 8～ 3.13
80	Munafri	インドネシア	南スラヴェシ州遺跡保護事務所 技官	遺跡のモニタリングに関する共同研究	22. 3. 8～ 3.13
81	Surayoot Wiriyadamrong	タイ	タイ芸術局保存研究部門　技官	覆屋効果に関する共同研究	22. 3. 8～ 3.13
82	Richard　Timothy Schadla-Hall	イギリス	ロンドン大学考古学研究所 准教授	文化遺産国際協力コンソーシアム第６回研究会講演	22. 3.16～ 3.18

【奈良文化財研究所】延べ212人

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
1	Dale Croes	アメリカ合衆国	South Puget Sound Community College・教授　外4名	日米湿地遺跡の比較研究のための打合せおよび日本の遺跡視察	4月3日～4月5日
2	趙昕濟　外3名	大韓民国	慶尚北道軍威郡・三国遺事事業推進委員	平城宮跡の整備に関する意見交換・視察	4月13日
3	金永模　外7名	大韓民国	韓国伝統文化学校	平城宮跡の整備状況視察	4月16日
4	金奉建　外2名	大韓民国	国立文化財研究所長	表敬訪問	5月14日
5	呂舟	中華人民共和国	清華大学・教授	「東アジアにおける理想郷と庭園に関する国際研究会」	5月19日～5月21日
6	洪光杓	大韓民国	東国大学校	「東アジアにおける理想郷と庭園に関する国際研究会」	5月19日～5月21日
7	LUANGKHOTH Thonglith　外2名	ラオス人民民主共和国	文化情報省文化遺産局	ACCU個人研修2009「遺構と遺物の記録方法」受講	7月8日～7月30日
8	Walid Sharif	パレスチナ	Assistant Deputy for Tourism Affairs(観光局次官補)	意見交換及び視察「飛鳥地方の遺跡の観光活用視察」（JICA技術研修「パレスチナ官民連携による持続可能な観光振興プロジェクト」コース）	7月13日～7月14日
9	K.S.ラナ　外1名	インド	インド考古局科学部長	保存修復施設および保存修復機器の見学	8月3日
10	約45名	13カ国（アメリカ・カナダ・中国・クロアチア・チェコ・エストニア・ドイツ・イスラエル・ラトヴィア・ロシア・セルビア・台湾・イギリス）	国際地理学会エクスカーション	平城宮跡見学	8月25日
11	李仁淑	大韓民国	国立文化財研究所・学芸研究士	共同研究実施のため	8月26日～9月4日
12	Senaa Choob Abass AL-TIMIMI　外3名	イラク共和国	イラク国立博物館・保存修復技術者	修復に関しての研修	9月2日～9月10日
13	Sarwat M.Hegazy 外1名	エジプト・アラブ共和国	GEM-CC Project・Conservator	修復に関しての研修	9月2日～9月10日
14	李永周	大韓民国	三江文化財研究所・研究員	金海貝塚の報告書作成に必要な資料を届けるため	9月11日～9月13日
15	魏周興	中華人民共和国	河南省文物考古研究所・副所長	共同研究実施のため	9月23日～9月30日
16	韓朝会	中華人民共和国	河南省文物考古研究所・館員	共同研究実施のため	9月23日～9月30日
17	謝巍	中華人民共和国	河南省文物考古研究所・館員	共同研究実施のため	9月23日～9月30日
18	郭進卿	中華人民共和国	河南省文物保護勘探中心・主任	共同研究実施のため	9月23日～9月30日

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
19	李玉芳	中華人民共和国	河南省文物局計財処	共同研究実施のため	9月23日～9月30日
20	コンドカー・ザヒダル・カリム	バングラディシュ人民共和国	文化省考古学局・考古学技師	ACCU集団研修2009「木造建造物の保存と修復」受講	9月24日～10月5日
21	カルマ・ワンチュク	ブータン王国	自治 文化省・文化財保護事業主任	ACCU集団研修2009「木造建造物の保存と修復」受講	9月24日～10月5日
22	コサシ・ビスマントラ	インドネシア共和国	文化・観光省考古遺産局・文化財保護課主任	ACCU集団研修2009「木造建造物の保存と修復」受講	9月24日～10月5日
23	アナヒタ・ムサビ	イラン・イスラム共和国	ギーラン地区文化遺産博物館・建築グループ主任	ACCU集団研修2009「木造建造物の保存と修復」受講	9月24日～10月5日
24	アンフォール・セバスチャン	ラオス人民民主共和国	世界遺産ワット・フー管理事務所・歴史的建造物担当主任建築職員	ACCU集団研修2009「木造建造物の保存と修復」受講	9月24日～10月5日
25	オユチメグ・オチルスレン	モンゴル国	国立文化遺産センター・木造建築物修復専門職員	ACCU集団研修2009「木造建造物の保存と修復」受講	9月24日～10月5日
26	ウー・ミン・ミン	ミャンマー連邦	文化省マンダレー考古学,博物館,図書館局・文化財修復専門職員	ACCU集団研修2009「木造建造物の保存と修復」受講	9月24日～10月5日
27	スレシュ・スラス・シュレスタ	ネパール共和国	文化・国家再編省考古学局・考古学職員	ACCU集団研修2009「木造建造物の保存と修復」受講	9月24日～10月5日
28	アタレイリア・ロエナ・アクハタ・ヘイヘイ	ニュー・ジーランド	ニュージーランド史跡トラスト・マオリ文化遺産顧問	ACCU集団研修2009「木造建造物の保存と修復」受講	9月24日～10月5日
29	サルマン・ムハンマド	パキスタン・イスラム共和国	アガカーン文化事業・主任文化財修復建築家	ACCU集団研修2009「木造建造物の保存と修復」受講	9月24日～10月5日
30	ネルソン・ラクサマナ・アキノ	フィリピン共和国	観光局イントラムロス管理事務所・事業管理主任/史跡開発職員	ACCU集団研修2009「木造建造物の保存と修復」受講	9月24日～10月5日
31	マイニフォ・ビリアム	サモア独立国	教育スポーツ文化省・文化課職員	ACCU集団研修2009「木造建造物の保存と修復」受講	9月24日～10月5日
32	リヤナ・アラチチゲ・ビサカ	スリランカ民主社会主義共和国	中央文化基金・文化財修復調査職員	ACCU集団研修2009「木造建造物の保存と修復」受講	9月24日～10月5日
33	ポングトルン・ヒエンキュー	タイ王国	文化省記念建造物調査グループ考古学事務所・建築専門職員	ACCU集団研修2009「木造建造物の保存と修復」受講	9月24日～10月5日
34	シュクロビディン・ナルメトフ	ウズベキスタン共和国	ウズベキスタン文化スポーツ省・主任専門職員	ACCU集団研修2009「木造建造物の保存と修復」受講	9月24日～10月5日
35	グエン・チ・タアイン・ツン	ベトナム社会主義共和国	ベトナム国立民族文化観光村・研究職員	ACCU集団研修2009「木造建造物の保存と修復」受講	9月24日～10月5日
36		アフガニスタン・イスラム国		アフガニスタン人考古学専門家研修	9月24日～12月1日
37	万雄飛	中華人民共和国	遼寧省文物考古研究所・第一研究室主任	特別展「北方騎馬民族のかがやき　三燕文化の考古新発見」展での展示に関する指導協力のため	9月29日～10月9日
38	藺新建	中華人民共和国	遼寧省博物館・歴史部主任	特別展「北方騎馬民族のかがやき　三燕文化の考古新発見」展での展示に関する指導協力のため	9月29日～10月9日
39	李国学	中華人民共和国	朝陽市博物館・副館長	特別展「北方騎馬民族のかがやき　三燕文化の考古新発見」展での展示に関する指導協力のため	9月29日～10月9日
40	郭興文	中華人民共和国	遼寧省文化庁・庁長	共同研究の推進および特別展「北方騎馬民族のかがやき　三燕文化の考古新発見」展での展示に関する指導協力のため	10月14日～10月24日
41	張曄琳	中華人民共和国	遼寧省文化庁芸術外連処・副処長	共同研究の推進および特別展「北方騎馬民族のかがやき　三燕文化の考古新発見」展での展示に関する指導協力のため	10月14日～10月24日
42	田立坤	中華人民共和国	遼寧省文物考古研究所・所長	共同研究の推進および特別展「北方騎馬民族のかがやき　三燕文化の考古新発見」展での展示に関する指導協力のため	10月14日～10月24日
43	劉寧	中華人民共和国	遼寧省博物館・副館長	共同研究の推進および特別展「北方騎馬民族のかがやき　三燕文化の考古新発見」展での展示に関する指導協力のため	10月14日～10月24日
44	尚暁波	中華人民共和国	朝陽市博物館・館長	共同研究の推進および特別展「北方騎馬民族のかがやき　三燕文化の考古新発見」展での展示に関する指導協力のため	10月14日～10月24日
45	卓京柏	大韓民国	国立扶余文化財研究所・学芸研究	共同研究実施のため	11月3日～11

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
			士		月12日
46	車順哲	大韓民国	国立慶州文化財研究所・学芸研究士	共同研究実施のため	11月3日～11月12日
47	呉春	中華人民共和国	西安曲江大明宮遺跡区保護改造辦公室文物局 副局長	遺跡の調査研究方法および遺跡の保存整備の実施方法についての視察および協議のため	11月7日～11月14日
48	劉磊	中華人民共和国	西安曲江大明宮遺跡区保護改造辦公室計画広域局 副局長	遺跡の調査研究方法および遺跡の保存整備の実施方法についての視察および協議のため	11月7日～11月14日
49	貫剣一	中華人民共和国	西安曲江大明宮遺跡区保護改造辦公室国際交流部・部長	遺跡の調査研究方法および遺跡の保存整備の実施方法についての視察および協議のため	11月7日～11月14日
50	高本憲	中華人民共和国	西安曲江大明宮遺跡区保護改造辦公室文物局・上席エンジニア	遺跡の調査研究方法および遺跡の保存整備の実施方法についての視察および協議のため	11月7日～11月14日
51	張晶菁	中華人民共和国	西安曲江大明宮遺跡区保護改造辦公室国際交流部・職員	遺跡の調査研究方法および遺跡の保存整備の実施方法についての視察および協議のため	11月7日～11月14日
52	張博	中華人民共和国	西安曲江大明宮遺跡区保護改造辦公室国際交流部・職員	遺跡の調査研究方法および遺跡の保存整備の実施方法についての視察および協議のため	11月7日～11月14日
53	エレーナ・アスタシェンコヴァ	ロシア連邦	ロシア科学アカデミー極東支部歴史考古民俗研究所・研究員	施設見学	11月16日,1月17日
54	SAMDAN Chinzorig 外2名	モンゴル国	国立文化遺産センター・歴史文化遺産修復部	ACCU文化遺産の保護に資する研修2009（個人研修・モンゴル）受講（開催期間：11月17日～12月17日）	11月18日～11月20日,11月24日～11月27日,12月7日～12月11日
55	陸博	中華人民共和国	遼寧省文物考古研究書・保管員	飛鳥資料館にて共同開催する特別展「北方騎馬民族のかがやき　三燕文化の考古新発見」展での展示品撤収指導および検品	11月22日～12月2日
56	張桂霞	中華人民共和国	遼寧省文物考古研究書・保管員	特別展「北方騎馬民族のかがやき　三燕文化の考古新発見」展での展示品撤収指導および検品	11月22日～12月2日
57	邱菊	中華人民共和国	遼寧省博物館・保管員	特別展「北方騎馬民族のかがやき　三燕文化の考古新発見」展での展示品撤収指導および検品	11月22日～12月2日
58	李桂憲　外4名	大韓民国	文化財庁発掘制度課・学芸研究官	埋蔵文化財調査・保存に関する資料の調査および平城宮・発掘調査現場の見学	11月26日
59	黄仁鎬	大韓民国	国立中原文化財研究所・学芸研究室長	共同研究実施のため	12月8日～12月17日
60	田庸昊	大韓民国	国立扶余文化財研究所・学芸研究士	共同研究実施のため	12月10日～12月17日
61	安寶蓮	大韓民国	国立扶余文化財研究所・研究員	共同研究実施のため	12月13日～12月17日
62	金漢相 外7名	大韓民国	忠清南道歴史文化研究院	施設見学	1月15日
63	韓旭彬　外12名	大韓民国	仏教文化財研究所	現場見学等	1月21日
64	M.ブシュナキ　外17名	数カ国（中国・インド・モンゴル・タイ・インドネシア・ベトナム外）	ICCROM所長	ACCUによる国際会議「文化遺産保護と人材養成のエクスカーション	1月28日
65	朴宰用　外11名	大韓民国	忠清南道歴史文化研究院百済忠清学研究チーム	施設見学	22年1月29日
66	Hans-Peter Uerpmann	ドイツ連邦共和国	チューンビンゲン大学・教授	メソポタミアにおける動物考古学に関する討議	22年1月31日～2月10日
67	Margarethe Uerpmann	ドイツ連邦共和国	チューンビンゲン大学・教授	メソポタミアにおける動物考古学に関する討議	22年1月31日～2月10日
68	グエン・ジャン・ハイ　外2名	ベトナム社会主義共和国	ベトナム社会科学院	施設見学	22年2月1日
69	池炳穆　外4名	大韓民国	国立慶州文化財研究所・所長	所蔵遺物の閲覧および施設見学（チョクセム新羅古墳出土の掛甲の原型復元のための事前調査）	22年2月4日,2月5日

	氏名	国名	所属機関・職名	用務	期間
70	李匡悌	台湾	台湾中央研究院	貝塚出土動物骨の検討および討議	22年2月4日 ～2月9日
71	鄭太垠	大韓民国	国立慶州文化財研究所・学芸研究士	日韓共同研究合意書に基づく古代都城遺跡の共同発掘調査のため	22年2月8日 ～3月20日
72	銭国祥	中華人民共和国	中国社会科学院考古研究所・研究員	共同研究実施のため	22年2月26日 ～3月5日
73	郭暁濤	中華人民共和国	中国社会科学院考古研究所・助理研究員	共同研究実施のため	22年2月26日 ～3月5日
74	張蕾	中華人民共和国	中国社会科学院考古研究所・助理研究員	共同研究実施のため	22年2月26日 ～3月5日
75	ORN Porsoeun　外1名	カンボジア王国	観光省計画・開発局・課長補佐	メコン地域観光振興(JICA技術研修) （国際協力事業の活動等についての意見交換および施設見学）	22年3月8日
76	BAYLATRY Khamkhoun　外1名	ラオス人民民主共和国	ラオス政府観光局ヴィエンチャン首都観光部・副課長	メコン地域観光振興(JICA技術研修) （国際協力事業の活動等についての意見交換および施設見学）	22年3月8日
77	HLAING Oo　外1名	ミャンマー連邦	ホテル・観光局観光振興部・副課長	メコン地域観光振興(JICA技術研修) （国際協力事業の活動等についての意見交換および施設見学）	22年3月8日
78	DOUNGCHAN Om　外1名	タイ王国	タイ国政府観光庁東北部マーケティング部北部マーケティングアクションプラン課・主任	メコン地域観光振興(JICA技術研修) （国際協力事業の活動等についての意見交換および施設見学）	22年3月8日
79	TRANBinh Phong 外1名	ベトナム社会主義共和国	文化・スポーツ・観光省ベトナム政府観光局観光マーケティング部・担当官	メコン地域観光振興(JICA技術研修) （国際協力事業の活動等についての意見交換および施設見学）	22年3月8日
80	Muong Thamita	カンボジア王国	プノンペン王立芸術大学卒業生	共同研究実施のため	22年3月15日 ～3月24日
81	Keo Chansophany	カンボジア王国	プノンペン王立芸術大学卒業生	共同研究実施のため	22年3月15日 ～3月24日
82	孫新民　外1名	中華人民共和国	河南省文物考古研究所・所長	「奈良文化財研究所・河南省文物考古研究所友好共同研究議定書」調印式出席	22年3月16日
83	徐民錫	大韓民国	国立文化財研究所・学芸研究士	施設見学	22年3月17日

2）他機関の共同研究への参画実績

科学研究費補助金の研究分担者等として参画（延べ人数）

国立文化財機構	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
68人	23人	5人	5人	5人	10人	8人

【東京国立博物館】延べ23人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	東京大学	目録学の構築と古典学の再生－天皇家・公家文庫の実態復原と伝統的知識体系の解明－	史料編纂所教授 田島 公	学芸研究部長　島谷 弘幸
2	東京大学	目録学の構築と古典学の再生－天皇家・公家文庫の実態復原と伝統的知識体系の解明－	史料編纂所教授 田島 公	列品管理課登録室長　田良島 哲
3	東京藝術大学	油彩画の材料・技法に関する共同調査	大学院美術研究科教授 木島 隆康	保存修復課長　神庭 信幸
4	東京藝術大学	油彩画の材料・技法に関する共同調査	大学院美術研究科教授 木島 隆康	保存修復課保存修復室主任研究員　土屋 裕子
5	東京藝術大学	荻原守衛「女」の石膏原型とブロンズ鋳造に関する共同研究計画書	美術学部教授　北郷悟	保存修復課長　神庭 信幸
6	東京藝術大学	荻原守衛「女」の石膏原型とブロンズ鋳造に関する共同研究計画書	美術学部教授　北郷悟	列品管理課登録室長　田良島 哲
7	東京藝術大学	荻原守衛「女」の石膏原型とブロンズ鋳造に関する共同研究計画書	美術学部教授　北郷悟	博物館情報課情報管理室長 丸山 士郎
8	神奈川県立金沢文庫	金沢北条氏領下総国下河辺庄の総合的研究	主任学芸員　永井 晋	調査研究課書跡・歴史室主任研究員　高梨 真行
9	東京藝術大学	彫刻におけるデジタル立体造形の可能性と表現方法の研究・教育への応用	副学長　北郷 悟	企画課長　井上 洋一
10	東京藝術大学	高精細デジタル測定技術と職人の知識を融合させた工芸文化財復元の研究	大学院映像研究科教授 佐藤 雅彦	列品管理課登録室アソシエイトフェロー　河内 晋平
11	財団法人科学博物館後援会	科学系博物館の学校利用促進方策－教員のミュージアムリテラシー向上プログラム開発－	公益事業課長 高安　礼士	博物館教育課教育普及室主任研究員　鈴木 みどり
12	国立歴史民俗博物館	デジタル化された博物館資料に関する情報記述法の研究	研究部教授　安達 文夫	博物館情報課情報管理室研究員　村田 良二
13	国立歴史民俗博物館	デジタル化された博物館資料に関する情報記述法の研究	研究部教授　安達 文夫	列品管理課登録室長　田良島 哲
14	九州国立博物館	海の東アジアが醸成した貝と漆の文化「螺鈿」の再発見－ その共通性と多様性を探る	学芸部文化財課資料管理室長 小林 公治	列品管理課貸与特別観覧室主任研究員　猪熊 兼樹
15	天理大学	初期ヤマト政権の対外交渉と地域間交流の考古学的研究	名誉教授 金 関恕	列品管理課列品情報整備室長　古谷 毅
16	奈良県立橿原考古学研究所	考古資料における三次元デジタルアーカイブの活用と展開	主任研究員 水野 敏典	列品管理課列品情報整備室長　古谷 毅
17	文化女子大学文化ファッション研究機構	近世・近代風俗画における服飾表現に関する分野横断的研究―小袖及び着物の編年的研究への絵画研究の活用―	共立女子大学教授　長崎巌	調査研究課絵画・彫刻室長 田沢裕賀
18	徳川美術館	国宝「初音の調度」の総合的研究	学芸員　小池 富雄	調査研究課工芸・考古室長 竹内 奈美子
19	明治大学（古文化財研究所）	環境変遷史と人類活動に関する学際的研究	文学部教授　杉原 重夫	調査研究課工芸・考古室研究員　品川 欣也
20	人間文化研究機構	有形文化資源の共同利用を推進するための資料管理基盤形成	准教授　園田 直子	保存修復課長　神庭 信幸
21	人間文化研究機構	有形文化資源の共同利用を推進するための資料管理基盤形成	准教授　園田 直子	保存修復課環境保存室主任研究員　荒木 臣紀
22	人間文化研究機構	有形文化資源の共同利用を推進するための資料管理基盤形成	准教授　園田 直子	保存修復課環境保存室主任研究員　和田 浩
23	国立歴史民俗博物館	洛中洛外図屏風歴博甲本の総合的研究	国立歴史民俗博物館教授 小島 道裕	保存修復課長　神庭 信幸

【京都国立博物館】延べ5人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	大阪大谷大学	智積院聖教における典籍・文書の基礎的研究	教授　宇都宮啓吾	学芸部上席研究員　赤尾栄慶 学芸部企画室研究員　羽田聡
2	東京国立博物館	東アジアの書道史における料紙と書風に関する調査研究	学芸研究部長　島谷弘幸	学芸部上席研究員　赤尾栄慶
3	日本女子大学	蝋管を中心とした初期録音資料の音源保存・音声復元・内容分析に関する横断的研究	教授　清水康行	学芸部保存修理指導室長　村上隆
4	大阪大学	南アジアおよび東南アジアにおけるデーヴァラージャ信仰とその造形に関する基礎的研究	名誉教授　肥塚隆	学芸部連携協力室主任研究員 淺湫毅

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
5	大阪市文化財協会	関西地域の陶磁器生産の技術系譜に関する調査･研究	文化財研究部係長　佐藤隆	学芸部工芸室長　尾野善裕

【奈良国立博物館】延べ5人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	筑波大学	東国地域及び東アジア諸国における前近代文書等の形態・料紙に関する基礎的研究	教授　山本　隆志	館長　湯山　賢一
2	奈良教育大学	ユネスコの提起する世界遺産教育の教育内容と教育方法の創造	教授　田渕　五十生	学芸部長　西山　厚
3	東京国立博物館	東京国立博物館所蔵・正倉院関係資料の研究－「正倉院裂」を中心に－	上席研究員　澤田　むつ代	学芸部長　西山　厚
4	種智院大学	インド文化圏における仏塔の総合的研究	学長　頼富　本宏	学芸部工芸考古室長　内藤　榮
5	九州大学大学院人文科学研究院	寧波をめぐる絵画と人的ネットワーク	教授　井手　誠之輔	学芸部保存修理指導室長　谷口耕生

【九州国立博物館】　5人

	機関名	研究課題	研究代表者名	分担者名
1	東京大学	和紙の物理的分別手法の確立と歴史学的データベース化の研究	教授　保立　道久	博物館科学課保存修復室長　藤田　励夫
2	関西大学	飛鳥･川原寺裏山遺跡の総合的研究－出土品から見た川原寺の特質－	教授　米田　文孝	企画課研究員　市元　塁
3	独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館	国立博物館の機能と役割の変遷に関する基礎的研究－館史資料の分析を中心に－	情報管理室長　丸山士郎	学芸部長　伊藤　嘉章
4	独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館	東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究	学芸研究部長　島谷弘幸	文化財課主任研究員　丸山　猶計
5	龍谷大学	ガンダーラ美術の史料集成とその統合的研究	教授　宮治　昭	企画課長　小泉　惠英

【東京文化財研究所】延べ　10人

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
1	大谷大学	世界遺産エルデニゾー僧院に関する総合的研究－過去の復元から未来への保存へ－	松川　節	文化遺産国際協力センター主任研究員 二神葉子
2	東京大学	観世文庫所蔵能楽関係資料のデジタル画像化と解題目録作成に向けた総合的研究	松岡　心平	無形文化遺産部無形文化財研究室長 高桑いづみ
3	東京大学	「地図史料学の構築」の新展開－科学的調査・復元研究・データベース－	杉本　史子	保存修復科学センター分析科学研究室長 早川泰弘
4	広島市立大学	ヒマラヤを超え河西回廊に伝わった密教的造形と表現、その表象芸術に関する研究	服部　等作	副所長 中野照男
5	立教大学	アジアの無形文化における仮頭の研究－仮面との比較から－	細井　尚子	副所長 中野照男
6	東京大学	文化財保護制度における世界遺産条約の戦略的受容と運用に関する日韓比較研究	岩本　通弥	無形文化遺産部主任研究員 俵木　悟
7	早稲田大学	未翻刻浄瑠璃本の網羅的調査・翻刻と複次的活用・公開に向けての基礎的研究	鳥越　文蔵	無形文化遺産部音声・映像記録研究室長 飯島　満
8	京都大学	ミリ波イメージング技術による木質文化財の生物劣化の非破壊診断装置の開発	藤井　義久	保存sy数副科学センター生物科学研究室長 木川りか
9	東京藝術大学	文化財科学、美術史学、制作技法研究の情報統合による「薬師寺吉祥天画像」の復元模写研究	宮廻　正昭	保存修復科学センター分析科学研究室長 早川泰弘
10	筑波大学	中近東･北アフリカにおけるビザンティン建築遺産の記録、保存、公開に関する研究	日高　健一郎	保存修復科学センター長 石崎武志

【奈良文化財研究所】延べ8人

	機関名	研究課題	代表者名	分担者名
1	東京大学	目録学の構築と古典学の再生-天皇家・公家文庫の実態復原と伝統的知識体系の解明-	教授 田島　公	都城発掘調査部史料研究室長 渡邉晃宏
2	同志社大学	東北アジアにおける古環境変動と旧石器編年に関する基礎的研究	教授 松藤　和人	企画調整部主任研究員 加藤　真二
3	奈良大学	東アジア木簡学の確立	教授 角谷　常子	都城発掘調査部史料研究室長 渡邉　晃宏
4	京都大学	厳環境下での木材の劣化現象と耐久性	教授 今村　祐嗣	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長　高妻　洋成
5	独立行政法人国立科学博物館	徳川将軍親族遺体のデジタル保存と考古学的・人類学的分析-大奥の実態に迫る-	部長 馬場　悠男	埋蔵文化財センター長 松井　章

6	立命館大学	『日本霊異記』の文献・書誌及び歴史地理的検討による古代社会像の再構築	教授 本郷　真紹	都城発掘調査部主任研究員 山本　崇
7	新潟県立看護大学	韓国出土古人骨の形質人類学的研究	准教授 藤田　尚	埋蔵文化財センター客員研究員 橋本　裕子
8	鹿児島大学	考古学と地下探査の協同による近世薩摩焼研究再構築のための基礎的研究	教授 渡辺　芳郎	埋蔵文化財センター主任研究員 金田　明大

3）研究者海外派遣実績（延べ人数）

国立文化財機構	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
403人	16人	13人	30人	46人	169人	129人

【東京国立博物館】延べ16人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	鬼頭 智美	オーストリア ハンガリー	21年4月20日～27日	国際展覧会オーガナイザー会議出席のため（ウィーン美術歴史博物館（オーストリア）、国立西洋美術館（ハンガリー））	職員旅費（国際交流費）、出張
2	小泉 惠英	スリランカ	21年5月4日～9日	新規開館予定のシーギリヤ博物館の視察（コロンボ国立博物館、シーギリヤ博物館、シーギリヤ遺跡）	職員旅費（国際交流費）、先方負担、出張
3	井上 洋一	韓国	21年5月23日～24日	第３回韓国博物館・美術館機構国際会議出席のため（国立中央博物館）	職員旅費（国際交流費）、出張
4	冨坂 賢	韓国	21年8月17日～22日	日本・韓国間の学術情報交流ならびに研究推進のため（国立中央博物館、国立現代美術館、靖齋文化財保存研究所、国立公州博物館）	職員旅費（国際交流費）、先方負担、出張
5	土屋 裕子	韓国	21年8月17日～30日	日本・韓国間の学術情報交流ならびに研究推進のため（国立中央博物館、国立現代美術館、靖齋文化財保存研究所、国立公州博物館、武寧王陵、国立古宮博物館、国立慶州博物館、仏国寺、国立済州島博物館、海女博物館、済州島牧）	職員旅費（国際交流費）、先方負担、出張
6	矢野 賀一	英国	21年9月28日～10月4日	「土偶展」会場視察および大英博物館との打ち合わせ・意見交換、ロンドン市内博物館・美術館の日本美術展示等の現状視察（大英博物館、ヴィクトリア＆アルバート博物館、自然史博物館、テートモダンギャラリー、ナショナルギャラリー）	職員旅費（海外展）、出張
7	松本 伸之	台湾	21年10月6日～7日	国立故宮博物院に於いて開催される特別展「調和と完成：雍正帝とその時代」展開会式に出席予定の佐藤前館長随行（国立故宮博物院）	職員旅費（海外展）、出張
8	島谷 弘幸	韓国	21年11月1日～2日	韓国国立中央博物館100周年記念事業に出席するため（国立中央博物館）	職員旅費（国際交流費）、出張
9	松本 伸之	韓国	21年11月1日～3日	韓国国立中央博物館100周年記念事業に出席するため（国立中央博物館）	職員旅費（ＡＮＭＡ会議開催経費）、出張
10	遠藤 楽子	韓国	21年11月1日～3日	韓国国立中央博物館100周年記念事業に出席するため（国立中央博物館）	職員旅費（ＡＮＭＡ会議開催経費）、出張
11	和田 浩	イタリア	22年1月23日～29日	ミラノ海外展「日本・その力と輝き　1568-1868」陳列替作業のため（パラッツォ・レアーレ）	職員旅費（海外展経費）、出張
12	島谷 弘幸	韓国	22年2月11日～14日	国立慶州博物館所蔵の日本および中国書跡調査のため（国立慶州博物館）	職員旅費（国際交流費）、出張
13	富田　淳	韓国	22年2月11日～14日	国立慶州博物館所蔵の日本および中国書跡調査のため（国立慶州博物館）	職員旅費（国際交流費）、出張
14	遠藤 楽子	イタリア	22年3月4日～14日	イタリア・ミラノ市周辺展示施設等視察およびミラノ海外展「日本・その力と輝き　1568-1868」撤収作業のため（キヨッソーネ美術館、スフォルツェスコ城、パラッツォ・レアーレほか）	職員旅費（国際交流費）、出張
15	原田 一敏	中国	22年3月8日～19日	東京国立博物館と上海博物館との学術交流（上海博物館、上海工芸美術館、上海美術館、蘇州博物館、烏鎮民居、浙江省博物館ほか）	職員旅費（国際交流費）、先方負担、出張
16	竹内 奈美子	韓国	22年3月14日～17日	韓国国立中央博物館およびソウル市内博物館における漆芸作品調査・展示視察のため（韓国国立中央博物館、ソウル市内博物館）	職員旅費（国際交流費）、出張

【京都国立博物館】延べ13人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	赤尾　栄慶	ロシア連邦	6月23日～7月3日	特別展覧会「シルクロード　文字を辿って」作品集荷	
2	久保　智康	中華人民共和国	7月5日～11日	宋～清代の銅鋳造作品に関する調査	
3	淺湫　毅	インドネシア	8月5日～14日	科学研究費補助金による調査	
4	赤尾　栄慶	ロシア連邦	9月14日～20日	特別展覧会「シルクロード　文字を辿って」作品返還	
5	永島　明子	グレートブリテン・北アイルランド連合王国	10月25日～11月2日	シンポジウム参加・調査研究	
6	山川　暁	中華人民共和国	11月2日～5日	特別展覧会「高僧と袈裟」作品調査・出品交渉	
7	呉　孟晋	台湾	11月29日～12月5日	国際シンポジウム参加	
8	久保　智康	アメリカ合衆国	平成22年1月10～1月21日	文化庁・メトロポリタン美術館主催「侍の芸術」展作品撤収協力	
9	赤尾　栄慶	大韓民国	2月17日～2月20日	国際ワークショップ参加	
10	宮川　禎一	ベトナム	3月4日～3月8日	銅鼓を中心とする古代青銅器の調査	
11	久保　智康	中華人民共和国	3月5日～3月9日	寺院伝来金工品の調査	
12	羽田　聡	イタリア共和国	3月7日～3月19日	ミラノ市Palazzo Reale開催の展覧会の撤収、作品随伴	
13	山川　暁	中華人民共和国	3月16日～3月21日	特別展覧会「高僧と袈裟」作品調査・出品交渉	

【奈良国立博物館】延べ30人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	岩田　茂樹	中国	21年4月6日～5月1日	河南博物院との学術交流に伴う視察及び調査研究のため	河南博物院
2	清水　健	中国	21年4月6日～4月28日	河南博物院との学術交流に伴う視察及び調査研究のため	河南博物院
3	畑中　裕良	中国	21年12月15日～12月21日	上海博物館との学術交流に伴う視察及び調査のため	上海博物館
4	添田　美由紀	中国	21年12月15日～12月21日	上海博物館との学術交流に伴う視察及び調査のため	上海博物館
5	松本　直也	中国	21年12月15日～12月21日	上海博物館との学術交流に伴う視察及び調査のため	上海博物館
6	北澤　菜月	韓国	21年12月29日～22年1月28日	国立慶州博物館との学術交流に伴う視察及び調査研究のため	国立慶州博物館

●その他の調査等のための海外渡航実績

	氏名	用務先	期間	用務	備考
7	谷口　耕生	中国	21年4月14日～4月17日	「聖地寧波展」協力依頼、現地調査のため	職員旅費
8	内藤　栄	中国	21年4月14日～4月17日	「聖地寧波展」協力依頼、現地調査のため	職員旅費
9	西山　厚	中国	21年5月19日～5月22日	「聖地寧波展」現地調査のため	職員旅費
10	北澤　菜月	中国	21年5月19日～5月22日	「聖地寧波展」現地調査のため	職員旅費
11	岩戸　晶子	韓国	21年7月7日～7月13日	「聖地寧波展」出陳品借用のため	職員旅費
12	内藤　栄	中国	21年7月6日～7月12日	「聖地寧波展」出陳品借用のため	職員旅費
13	稲本　泰生	中国	21年8月27日～8月30日	「大遣唐使展」予備調査のため	仏教美術協会助成金
14	野尻　忠	中国	21年8月27日～9月6日	文化財調査のため	読売新聞社
15	岩戸　晶子	韓国	21年9月3日～9月8日	「聖地寧波展」出陳品返却のため	職員旅費
16	永井　洋之	中国	21年9月6日～9月11日	「聖地寧波展」出陳品返却のため	職員旅費
17	岩戸　晶子	韓国	21年10月29日～10月30日	科研調査のため	科研費
18	湯山　賢一	韓国	21年12月13日～12月14日	表敬訪問のため	職員旅費
19	西山　厚	韓国	21年12月13日～12月14日	表敬訪問のため	職員旅費
20	内藤　栄	バングラデシュ	21年12月17日～12月27日	科研調査のため	科研費
21	稲本　泰生	中国	21年12月27日～12月31日	「大遣唐使展」予備調査のため	仏教美術協会助成金
22	岩戸　晶子	韓国	22年1月31日～2月5日	科研調査のため	科研費
23	谷口　耕生	アメリカ	22年2月14日～2月20日	科研調査のため	科研費
24	湯山　賢一	中国	22年2月25日～2月27日	学術交流協定調印のため	職員旅費
25	植田　義雄	中国	22年2月25日～2月27日	学術交流協定調印のため	職員旅費
26	西山　厚	中国	22年2月25日～2月27日	学術交流協定調印のため	職員旅費
27	冨田　文雄	韓国	22年3月8日～3月10日	国立慶州博物館視察及び事務打合せのため	職員旅費
28	岡本　幸治	韓国	22年3月8日～3月10日	国立慶州博物館視察及び事務打合せのため	職員旅費
29	湯山　賢一	中国	22年3月9日～3月13日	科研調査のため	科研費
30	永井　洋之	中国	22年3月14日～3月29日	「大遣唐使展」出陳品借用のため	職員旅費

【九州国立博物館】延べ46人

	氏名	用務先	期間		用務	備考
1	小林　公治	韓国	4月21日	4月29日	調査についての事前打合せ、慶尚南道統営市での螺細工房調査、江原道原州市での螺細工房調査、国立中央博物館での螺細文化財調査、国立民俗博物館での螺細文化財調査のため	
2	森田　稔	中国	6月8日	6月10日	２２年度夏季展覧会に係る出陳協議のため	
3	河野　一隆					
4	市元　塁					
5	本田　光子	タイ	6月22日	6月25日	タイ海外展調査用務のため	
6	原田　あゆみ	タイ	6月22日	7月4日	タイ海外展調査用務、科学研究費調査「古代東南アジアにおける三尊像図像の研究－タイ・ミャンマーの図像を中心に－」	
7	市元　塁	中国	7月15日	7月17日	科研費若手研究（B）五胡十六国から北魏時代の出土陶俑に関する基盤研究に係る現地調査のため	
8	市元　塁	中国	7月19日	7月27日	科研費若手研究（B）五胡十六国から北魏時代の出土陶俑に関する基盤研究に係る現地調査のため	
9	臺信　祐爾	中国	8月2日	8月9日	科研基盤B海外「トルキ山遼墓出土品からみた唐滅亡後の東アジアにおける工芸技術」調査研究のため	
10	市元　塁					
11	今津　節生	中国	8月10日	8月17日	遼代工芸技術の研究に係る調査と協議のため	
12	本田　光子	タイ	8月23日	8月26日	タイ・マレーシア考古学共同事業「考古学、博物館学と保護に関する国際セミナー」における講演用務、セミナー参加用務	
13	藤田　励夫	ベトナム	8月24日	8月29日	ベトナム民族博物館におけるイベント（中秋節）に係る協議、ベトナムとの交流のための事前調査のため	
14	池内　一誠					
15	本田　光子	中国	9月16日	9月19日	「日中韓共同シルクロード沿線文化財保護修復技術人員育成プログラム」における講師担当用務のため	

	氏名	用務先	期間		用務	備考
16	小林　公治	中国	9月18日	9月28日	中国の螺鈿制作技術を中心とした調査のため	
17	藤田　励夫	ベトナム	9月22日	10月1日	ベトナム民族博物館におけるイベント（中秋節）準備・協力・撤収のため	
18	池内　一誠		9月22日	9月29日		
19	赤司　善彦	韓国	10月7日	10月10日	「百済、東アジア交流国際フォーラム」における講師用務	
20	今津　節生	中国	10月15日	10月19日	「東アジア文化遺跡保存学会」での研究発表のため	
21	本田　光子		10月16日	10月18日	東アジア地域の文化遺産保護に関する情報収集のため	
22	藤田　励夫		10月16日	10月20日	「東アジア文化遺跡保存学会」での発表のため	
23	本田　光子	韓国	10月22日	10月25日	古典籍保存環境に関する韓・日共同ワークショップでの意見交換及び情報収集、トピック展示「巨大掛軸をめぐる文化交流」の展示映像撮影のため	
24	藤田　励夫					
25	金井　裕子	アメリカ	10月30日	11月6日	文化財調査のため	
26	三輪　嘉六	中国	11月2日	11月5日	２０１１年特別展開催に係る協議、中国関連事業に係る表敬・協議のため	
27	今津　節生		11月2日	11月5日		
28	市元　塁		11月2日	11月5日		
29	小泉　惠英		11月2日	11月6日	２０１１年特別展開催に係る協議、中国関連事業に係る表敬・協議、東京国立博物館「土偶展」に伴う平常展撤収立ち会い指導のため	
30	市元　塁	中国	11月22日	12月2日	２０１０年秋期特別展開催に係る調査・協議のため	
31	赤司　善彦	タイ	11月23日	11月30日	ＪＩＣＡ草の根技術協力事業	
32	三輪　嘉六	韓国	12月13日	12月14日	韓国国立中央博物館長表敬訪問及び百済展の開催に関する協議のため	
33	森田　稔					
34	赤司　善彦					
35	小林　公治	タイ、ラオス、マレーシア	12月22日	22年1月3日	タイおよび周辺隣国（ラオス・マレーシア）の螺鈿に関する調査のため	
36	市元塁	中国	22年1月5日	1月10日	科研費若手研究（B）五胡十六国から北魏時代の出土陶俑に関する基礎研究に係る現地調査のため	
37	森田稔	ベトナム	1月5日	1月10日	ベトナムとの交流協議・絵本の贈呈のため	
38	藤田励夫					
39	赤司　善彦	韓国	1月19日	1月21日	特別展「国宝　黄金の馬　－煌めく藤ノ木古墳の至宝（仮）」に係る協議のため	
40	市元塁	中国	1月24日	1月27日	基盤研究（B）飛鳥・川原寺裏山遺跡の総合的研究－出土品から見た川原寺の特質－に係る調査のため	
41	畑靖紀	アメリカ	2月6日	2月13日	東アジアの宗教美術に関する調査研究のため	
42	池内　一誠	中国	2月24日	2月28日	学校貸出キット「きゅうぱっく」制作および「あじっぱ」展示にかかる資料の調査・収集のため	
43	池内　一誠	韓国	3月17日	3月22日	学校貸出キット「きゅうぱっく」制作および「あじっぱ」展示にかかる資料の調査・収集のため	
44	臺信　祐爾	中国	3月20日	3月26日	内蒙古博物院における作品調査、内蒙古文物考古研究所における打合せおよび作品調査、巴林右旗博物館における作品調査、遼上京博物館における作品調査、赤峰博物館における作品調査	
45	市元塁					
46	三輪嘉六	中国	3月21日	3月23日	内蒙古文物考古研究所における打ち合わせ出席のため	

【東京文化財研究所】延べ169人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	岡田　健	中国	21. 4. 4～ 4. 9	シルクロード人材育成プログラムにおける2009年度古建築保護修復コース開講、及び授業	
2	友田正彦	中国	21. 4.11～ 4.19	シルクロード人材育成プログラムにおける2009年度古建築保護修復コースでの講師担当	
3	岡田　健	中国	21. 4.18～ 4.26	シルクロード人材育成プログラム	
4	島津美子	トルコ	21. 4.22～ 4.18	「カッパドキアにおける壁画保存に向けた状態調査」への参加	
5	山内和也	トルコ	21. 4.22～ 4.18	「カッパドキア石窟における壁画保存に向けた状態調査」への参加	
6	友田正彦	中国	21. 4.25～ 5. 1	シルクロード人材育成プログラム	
7	岡田　健	中国	21. 5. 9～ 5.20	シルクロード人材育成プログラム	
8	邊牟木尚美	タジキスタン	21. 5.13～ 6. 2	タジキスタン国立古物博物館が所蔵する壁画片の修復	
9	影山悦子	タジキスタン	21. 5.13～ 6.12	タジキスタン国立古物博物館が所蔵する壁画片の修復	
10	山梨絵美子	韓国	21. 5.15～ 5.17	2009年韓国西洋美術史学会大会での発表と協議	
11	宮田繁幸	タイ	21. 5.16～ 5.21	タイ王国関係機関との協議	
12	友田正彦	中国	21. 5.16～ 5.24	シルクロード人材育成プログラム	
13	山内和也	カザフスタン	21. 5.17～ 5.23	シルクロードの世界遺産への一括登録に関する会議への出席	
14	島津美子	タジキスタン	21. 5.20～ 6. 9	タジキスタン国立古物博物館が所蔵する壁画片の修復	

	氏名	用務先	期間	用務	備考
15	田代亜紀子	マレーシア	21. 5.23～ 5.27	日本財団APIプロジェクト 地域委員会参加のため	
16	俵木　悟	韓国	21. 5.25～ 6. 8	「無形文化遺産の保護に関する日韓研究交流」合意書にもとづく研修	
17	二神葉子	カンボジア、タイ	21. 5.30～ 6. 6	アンコール遺跡の保護と発展に関する国際調整委員会出席、アンコール遺跡群での現地調査およびタイ文化省芸術局との共同研究に関する打ち合わせ	
18	山内和也	タジキスタン	21. 5.31～ 6. 9	タジキスタン国立古物博物館が所蔵する壁画片の修復	
19	俵木　悟	中国	21. 6.12～ 6.15	「日・中・韓無形文化遺産保護方法についての論壇」参加	
20	勝木言一郎	中国	21. 6.15～ 6.20	新疆ウイグル自治区遺跡調査	
21	鈴木規夫	中国	21. 6.15～ 6.20	新疆ウイグル自治区遺跡視察	
22	中野照男	中国	21. 6.15～ 6.20	新疆ウイグル自治区遺跡調査	
23	秋枝ユミ イザベル	スペイン	21. 6.20～ 7. 2	第33回世界遺産委員会出席	
24	二神葉子	スペイン	21. 6.20～ 7. 2	第33回世界遺産委員会出席	
25	川野邊　渉	ドイツ	21. 6.21～ 6.26	在外日本古美術品保存修復協力事業のための海外修復（ベルリン）	
26	中山俊介	ドイツ	21. 6.21～ 6.26	在外日本古美術品保存修復協力事業のための海外修復（ベルリン）	
27	影山悦子	ロシア	21. 6.23～ 7. 4	エルミタージュ美術館が所蔵するソグディアナ、クチャ地域の造形資料の調査	
28	岡田　健	中国	21. 6.24～ 6.30	シルクロード人材育成プログラム	
29	有村　誠	アフガニスタン	21. 6.26～ 7. 9	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業及びユネスコ文化遺産保存日本信託基金によるバーミヤーン遺跡保存事業の実施のため	
30	清水真一	アフガニスタン	21. 6.26～ 7. 9	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業及びユネスコ文化遺産保存日本信託基金によるバーミヤーン遺跡保存事業の実施のため	
31	山内和也	アフガニスタン	21. 6.26～ 7. 9	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業及びユネスコ文化遺産保存日本信託基金によるバーミヤーン遺跡保存事業の実施のため	
32	加藤雅人	韓国	21. 6.30～ 7. 2	在外日本古美術品の調査	
33	川野邊　渉	韓国	21. 6.30～ 7. 2	在外日本古美術品の調査	
34	塩谷　純	韓国	21. 6.30～ 7. 2	在外日本古美術品の調査	
35	田中　淳	韓国	21. 6.30～ 7. 2	在外日本古美術品の調査	
36	中山俊介	ドイツ、スウェーデン、オランダ	21. 7. 5～ 7.16	在外日本古美術品保存修復協力事業のための海外修復（ベルリン）及び作品の調査（スウェーデン、オランダ）	
37	岡田　健	中国	21. 7. 8～ 7.17	被災文化遺産復旧の国際協力に係る調査	
38	秋枝ユミ イザベル	モンゴル	21. 7.20～ 7.29	拠点交流事業　モンゴル（建造物修復研修ワークショップ）	
39	北野信彦	モンゴル	21. 7.20～ 7.29	拠点交流事業　モンゴル（建造物修復研修ワークショップ）	
40	清水真一	モンゴル、中国	21. 7.20～ 8. 2	拠点交流事業 モンゴル（建造物修復研修ワークショップ） シルクロード人材育成プログラム	
41	川野邊　渉	オーストラリア	21. 7.21～ 7.28	近代文化遺産の保存状況、修復手法などの現地調査	
42	中山俊介	オーストラリア	21. 7.21～ 7.28	近代文化遺産の保存状況、修復手法などの現地調査	
43	田代亜紀子	ベトナム	21. 7.22～ 7.29	タンロン皇城遺跡保存に関わる協議調整および協議参加のため	
44	友田正彦	ベトナム	21. 7.23～ 8. 1	タンロン皇城遺跡保存に関する協議調整と協議参加のため	
45	朽津信明	カンボジア	21. 7.24～ 7.28	アンコール遺跡群での石造文化財の保存に関する現地調査	
46	二神葉子	カンボジア、タイ	21. 7.24～ 8. 2	アンコール遺跡群での石造文化財の保存に関する現地調査およびタイ文化省芸術局での被災文化財に関する調査	
47	原本知実	タイ	21. 7.28～ 8. 2	文化遺産国際協力コンソーシアム　被災文化遺産復旧に係る調査	
48	岡田　健	中国	21. 7.28～ 8. 6	シルクロード人材育成プログラム 雲岡石窟調査	
49	森井順之	韓国	21. 8. 2～ 8. 7	石造文化財の保存修復に関する日韓共同調査	
50	有村　誠	モンゴル	21. 8. 3～ 8.17	アラシャーンハダ遺跡の考古学調査への参加	
51	宇野朋子	シリア	21. 8.14～ 8.22	デデリエ遺跡の保存のための環境調査および周辺遺跡の視察	
52	江村知子	アメリカ	21. 8.17～ 8.21	ポートランド美術館所蔵日本近世絵画作品調査	
53	土屋貴裕	アメリカ	21. 8.17～ 8.21	ポートランド美術館所蔵日本近世絵画作品調査	
54	綿田　稔	アメリカ	21. 8.17～ 8.21	ポートランド美術館所蔵日本近世絵画作品調査	
55	田代亜紀子	カンボジア	21. 8.18～ 8.23	上智大学アジア人材養成研究センター（シェムリアップ）においてカンボジア王立芸術大学研修生への講義実施	
56	田代亜紀子	カンボジア	21. 8.18～ 8.23	上智大学アジア人材養成研究センター（シェムリアップ）においてカ	

	氏名	用務先	期間	用務	備考
				ンボジア王立芸術大学研修生への講義実施	
57	田代亜紀子	カンボジア	21. 8.18～ 8.23	上智大学アジア人材養成研究センター（シェムリアップ）においてカンボジア王立芸術大学研修生への講義実施	
58	宮田繁幸	インドネシア、タイ	21. 8.18～ 8.29	無形文化遺産関係国際シンポジウム出席（インドネシア）、本年度現地調査打合せ及び東北地方調査	
59	中山俊介	ドイツ	21. 8.18～ 9. 4	在外日本古美術品保存修復協力事業のための海外修復（ベルリン及びケルン）	
60	秋枝ユミイザベル	モンゴル	21. 8.19～ 8.29	拠点交流事業　モンゴル（建造物修復研修ワークショップ）	
61	清水真一	モンゴル	21. 8.19～ 8.29	拠点交流事業　モンゴル（建造物修復研修ワークショップ）	
62	友田正彦	モンゴル	21. 8.19～ 8.29	拠点交流事業　モンゴル（建造物修復研修ワークショップ）	
63	二神葉子	モンゴル	21. 8.20～ 8.29	モンゴル・ヘンティ県における2つの遺跡保存修復作業と専門家人材育成プロジェクト	
64	清水真一	イタリア	21. 8.22～ 8.16	ラクイア旧市街における自身日がいおよび復旧状況に関する把握および専門家間での意見交換	
65	鈴木　環	イタリア	21. 8.22～ 8.16	ラクイア旧市街における自身日がいおよび復旧状況に関する把握および専門家間での意見交換	
66	原本知実	モンゴル	21. 8.22～ 8.29	文化遺産国際協力コンソーシアム　モンゴル・ヘンティ県における2つの遺跡保存修復作業と専門家人材育成プロジェクト	
67	中野照男	モンゴル	21. 8.29～ 9. 5	仮頭(仮面)調査	
68	岡田　健	中国	21. 8.29～ 9.30	陝西省墳墓壁画の調査研究、敦煌壁画の調査研究、シルクロード人材育成プログラム（博物館技術コース）	
69	二神葉子	モンゴル	21. 9. 5～ 9.11	エルデニ・ゾー寺院の保存に関する現地調査	
70	宇野朋子	中国	21. 9. 5～ 9.12	敦煌における壁画の保存修復に関する研究調査（石窟環境調査）	
71	鈴木　環	インド	21. 9. 6～10. 1	アジャンター壁画の保存修復のための調査研究の第2次ミッション	
72	清水真一	中国	21. 9.13～ 9.15	シルクロード人材育成プログラム	
73	朽津信明	タイ王国	21. 9.13～ 9.17	スコータイ遺跡における微生物対策に関する日・タイ共同研究	
74	二神葉子	タイ王国	21. 9.13～ 9.20	スコータイ遺跡での漆喰文化財の保存に関する現地調査、タイ文化省芸術局での被災文化財に関する調査	
75	石﨑武志	ドイツ	21. 9.22～ 9.18	文化財の保存環境に関する解析手法および、博物館の省エネ化に関する研究打合せ	
76	有村　誠	アルメニア	21. 9.22～10. 7	アルメニアにおける考古学調査	
77	宮田繁幸	アラブ首長国連邦、タイ	21. 9.23～10. 5	タイ：本年度招聘打ち合わせ及び東北地方調査フォローアップ アブダビ：第４回無形文化遺産保護条約政府間委員会	
78	皿井　舞	アメリカ	21. 9.24～ 9.29	国際シンポジウム”Tracing Japanese Buddhism: An International Conference”への参加	
79	七海由美子	アラブ首長国連邦	21. 9.26～10. 5	第４回無形文化遺産保護条約政府間委員会	
80	松山直子	アラブ首長国連邦	21. 9.26～10. 5	第４回無形文化遺産保護条約政府間委員会	
81	高桑いづみ	韓国	21. 9.28～10. 8	大韓民国国立文化財研究所との研究交流	
82	中山俊介	ドイツ、ｱﾒﾘｶ	21. 9.28～10.14	在外日本古美術品工芸品の海外修復、絵画の修復作業の打ち合わせ	
83	島津美子	タジキスタン	21.10. 4～11. 3	タジキスタン国立古物博物館が所蔵する壁画の修復作業とワークショップの開催	
84	影山悦子	タジキスタン	21.10. 4～11.17	タジキスタン国立古物博物館が所蔵する壁画の修復作業とワークショップの開催	
85	岡田　健	中国	21.10. 5～10. 7	シルクロード人材育成プログラム運営	
86	川野邊　渉	アメリカ	21.10. 6～10.14	在外日本古美術品修復事業打ち合わせ	
87	岡田　健	中国	21.10.11～10.16	シルクロード人材育成プログラム運営	
88	朽津信明	中国	21.10.14～10.16	シルクロード人材育成プログラム	
89	七海由美子	フランス	21.10.14～10.20	ユネスコ無形文化遺産、カテゴリー２センターにかかる情報収集、研究会調査	
90	石﨑武志	中国	21.10.16～10.19	東アジア文化遺産保存学会第１回大会での研究報告	
91	森井順之	中国	21.10.16～10.19	東アジア文化遺産保存学会への参加、発表	
92	吉田直人	中国	21.10.16～10.20	東アジア文化遺産保存学会第１回大会での研究報告	
93	山内和也	タジキスタン	21.10.18～10.30	タジキスタン国立古物博物館が所属する壁画の修復作業とワークショップの開催	
94	岡田　健	中国	21.10.18～11.12	東アジア文化財保存学会、シルクロード人材育成プログラム運営、敦煌壁画の保護に関する日中共同研究	

	氏名	用務先	期間	用務	備考
95	鈴木規夫	韓国	21.10.25～10.28	東ｱｼﾞｱ文化遺産フォーラム	
96	森井順之	韓国	21.10.25～10.28	東ｱｼﾞｱ文化遺産フォーラム	
97	吉田直人	中国	21.10.25～10.28	シルクロード人材育成プログラム	
98	宇野朋子	ベトナム	21.10.25～10.29	タンロン皇城遺跡に関する保存修復ワークショップ参加	
99	友田正彦	ベトナム	21.10.25～10.31	タンロン皇城遺跡保存協力に関する研修実施	
100	石﨑武志	オーストリア	21.10.25～11. 2	文化財の保存環境に関する国際会議へ出席および歴史的石像建造物の劣化作業	
101	犬塚将英	中国	21.10.26～10.30	シルクロード人材育成プログラム	
102	邊牟木尚美	エジプト	21.10.26～11.14	エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト（フェーズ２）詳細計画策定調査	
103	北野信彦	ドイツ	21.11. 1～11. 6	ケルン東洋美術館でのワークショップおよびヨーロッパ地域における漆工品修復に関する情報収集	
104	松山直子	韓国	21.11. 2～11. 7	カテゴリーⅡセンター楷書セレモニー及び無形文化遺産保護に関する国際会議出席、および韓国国内の無形文化遺産保護活動の調査	
105	宮田繁幸	韓国	21.11. 2～11. 7	カテゴリーⅡセンター楷書セレモニー及び無形文化遺産保護に関する国際会議出席、および韓国国内の無形文化遺産保護活動の調査	
106	有村　誠	中国	21.11. 3～11. 6	シルクロードの世界遺産登録会議出席	
107	山内和也	中国	21.11. 3～11. 6	シルクロードの世界遺産登録会議出席	
108	鈴木規夫	アメリカ	21.11. 5～11.11	「日本武器武具修復シンポジウム」への参加、講演	
109	山梨絵美子	韓国	21.11. 7～11. 9	韓国美術研究所コロキウム2009での発表と協議	
110	原田　怜	スイス	21.11. 8～11.14	「世界遺産のための研修発展プログラム会議」参加	
111	七海由美子	ベトナム	21.11.11～11.19	ベトナムの無形文化遺産保護に係る調査、研究会出席	
112	清水真一	インドネシア	21.11.18～11.25	ユネスコ事業「インドネシア西スマトラ地震により被災した文化遺産緊急支援」における被災状況調査	
113	田代亜紀子	インドネシア	21.11.18～12. 1	被災文化遺産復旧にかかる調査のため	
114	山内和也	インド	21.11.19～11.25	アジャンター壁画の保存修復のための調査研究の第３次ミッション	
115	島津美子	インド	21.11.19～12.12	アジャンター壁画の保存修復のための調査研究の第３次ミッション	
116	鈴木　環	インド	21.11.19～12.12	アジャンター壁画の保存修復のための調査研究の第３次ミッション	
117	原本知実	タイ	21.11.21～11.25	タイ被災文化財に関する調査	
118	二神葉子	タイ	21.11.21～11.27	タイ被災文化財に関する調査	
119	岡田　健	中国	21.11.21～11.28	シルクロード人材育成プログラム	
120	加藤雅人	アメリカ	21.11.22～11.27	在外日本古美術保存修復協力事業のための海外修復工房の事前調査	
121	中山俊介	アメリカ	21.11.22～11.27	在外日本古美術保存修復協力事業のための海外修復工房の事前調査	
122	石﨑武志	ヨルダン	21.11.22～11.29	ヨルダンのビザンチン時代の主要遺跡の劣化調査及び研究打ち合わせ	
123	松山直子	インドネシア	21.11.23～11.30	インドネシアの無形文化遺産保護活動の調査	
124	宮田繁幸	インドネシア	21.11.23～11.30	インドネシアの無形文化遺産保護活動の調査	
125	松山直子	中国	21.12. 3～12. 7	国際会議「無形文化遺産と地域共同体」参加	
126	宮田繁幸	中国	21.12. 3～12. 7	国際会議「無形文化遺産と地域共同体」参加	
127	七海由美子	インド	21.12. 6～12.16	インドの無形文化遺産保護にかかる調査	
128	岡田　健	中国	21.12. 9～12.17	シルクロード人材育成プログラム運営、陝西省墳墓壁画の調査研究	
129	俵木　悟	カンボジア	21.12.11～12.15	国際シンポジウム「ユーラシアにおける複合リード楽器：歴史、コンテクスト、表象」参加	
130	二神葉子	カンボジア、タイ	21.12.14～12.19	アンコール遺跡群での現地調査およびアンコール遺跡の救済と発展に関する国際調整委員会出席、バンコクの文化省芸術局での研究打ち合わせ	
131	宮田繁幸	タイ	21.12.22～12.26	タイ東北地方無形文化遺産調査フォローアップ、ＯＮＣＣ無形文化遺産ワークショップ参加	
132	山内和也	カザフスタン、トルクメニスタン、ウズベキスタン、キルギス、タジキスタン	22. 1. 7～ 1.22	シルクロードの世界遺産登録のためのユネスコの準備ミッション参加のため	
133	土屋貴裕	アメリカ	22. 1.11～ 1.17	在北米美術館・個人所蔵日本中世絵画作品の調査と資料収集	
134	田代亜紀子	マレーシア	22. 1.15～ 1.19	ＡＰＩプロジェクト　地域委員会出席	
135	岡田　健	韓国、中国	22. 1.19～ 1.22	シルクロード人材育成プログラムにおける２０22年度研修コースの準備作業	

	氏名	用務先	期間	用務	備考
136	秋枝ユミイザベル	インドネシア	22. 1.24～ 1.30	文化遺産の劣化と保存状況のモニタリングについての研究：ボロブドゥール遺跡保存研究所との遺跡の保存、劣化状況についての共同調査	
137	二神葉子	インドネシア	22. 1.24～ 1.30	文化遺産の劣化と保存状況のモニタリングについての研究：ボロブドゥール遺跡保存研究所との遺跡の保存、劣化状況についての共同調査	
138	吉田直人	イタリア	22. 1.25～ 1.31	文化的景観、歴史的街区及び壁画の保存修復に関する専門家会合への出席、発表	
139	加藤雅人	ドイツ	22. 1.30～ 2. 6	在外日本古美術品（絵画）の海外工房における修復およびワークショップ	
140	宮田繁幸	タイ	22. 2. 2～ 2. 7	タイ北部地方無形文化遺産調査	
141	七海由美子	ニュージーランド、サモア、フィジー、トンガ	22. 2. 2～ 2.12	南太平洋諸国の無形文化遺産保護に係る調査	
142	石﨑武志	トルコ	22. 2.14～ 2.20	ハギア・ソフィアの劣化調査および研究打ち合わせ	
143	城野誠治	アメリカ	22. 2.14～ 2.20	アメリカ合衆国に所蔵された東洋絵画の調査（技術研究）	
144	鳥光美佳子	アメリカ	22. 2.14～ 2.20	アメリカ合衆国に所蔵された東洋絵画の調査（技術研究）	
145	友田正彦	ブータン	22. 2.14～ 2.23	文化遺産協力相手国調査	
146	原本知実	ブータン	22. 2.14～ 2.23	文化遺産協力相手国調査	
147	山内和也	トルクメニスタン、エジプト	22. 2.14～ 2.27	シルクロードの世界遺産登録のためのユネスコの準備ミッション参加および大ｴｼﾞﾌﾟﾄ博物館付属保存修復センター設立支援のための打ち合わせ	
148	俵木　悟	ブータン	22. 2.15～ 2.23	ブータンの無形文化遺産保護活動の調査	
149	松山直子	ブータン、タイ	22. 2.15～ 3. 1	ブータンとタイの無形文化遺産保護活動の調査	
150	二神葉子	イタリア	22. 2.17～ 2.26	文化財の地震防災に関する調査	
151	邊牟木尚美	エジプト	22. 2.19～ 2.27	フェーズ２以降の人材育成・技術移転協力契約更新を目的とした三者間協議への出席	
152	七海由美子	パラオ	22. 2.21～ 2.26	パラオにおける無形文化遺産保護の会議と調査	
153	石﨑武志	韓国	22. 2.25～ 2.27	石造文化財の保存修復に関する日韓共同調査	
154	森井順之	韓国	22. 2.25～ 2.27	石造文化財の保存修復に関する日韓共同調査	
155	影山悦子	タジキスタン	22. 2.27～ 3.22	タジキスタン国立古物博物館が所蔵する壁画の修復作業	
156	飯島　満	モンゴル	22. 3. 1～ 3. 5	第４回日本モンゴル文化フォーラム	
157	石﨑武志	ベトナム	22. 3. 7～ 3.11	タンロン皇城遺跡保存に関する協議	
158	清水真一	ベトナム	22. 3. 7～ 3.11	タンロン皇城遺跡保存に関わる協議	
159	友田正彦	ベトナム	22. 3. 7～ 3.11	タンロン皇城遺跡保存に関する協議	
160	中野照男	中国	22. 3.11～ 3.19	ヒマラヤを越え河西回廊に伝わった密教的造形と表現、その表象芸術に関する研究	
161	七海由美子	フランス	22. 3.14～ 3.17	ユネスコにおける日本／ユネスコパートナーシップ事業企画に係る情報収集	
162	友田正彦	モンゴル	22. 3.15～ 3.19	来年度モンゴルプロジェクトの打ち合わせ	
163	原本知実	モンゴル	22. 3.15～ 3.19	来年度モンゴルプロジェクトの打ち合わせ	
164	二神葉子	モンゴル	22. 3.15～ 3.19	来年度モンゴルプロジェクトの打ち合わせ	
165	原本知実	フランス、ドイツ	22. 3.23～ 3.29	第８回バーミヤン遺跡保存専門家会議出席及び関係者面談	
166	山内和也	パリ、ドイツ	22. 3.23～ 3.29	第８回バーミヤン遺跡保存専門家会議出席及び関係者面談	
167	石﨑武志	韓国	22. 3.26～ 3.28	日韓文化財科学国際シンポジウムへの参加・発表	
168	森井順之	韓国	22. 3.26～ 3.28	日韓文化財科学国際シンポジウムへの参加・発表	
169	宮田繁幸	アラブ首長国連邦	22. 3.26～ 4. 3	第４回遺産シンポジウム「遺産と教育　将来の展望」出席	

【奈良文化財研究所】延べ129人

	氏名	用務先	期間	用務	備考
1	井上　和人	大韓民国	4月8日～4月10日	「益山王宮里遺跡発掘調査20周年記念国際学術大会」において講演をおこなう	先方負担
2	小池　伸彦	大韓民国	4月8日～4月10日	「益山王宮里遺跡発掘調査20周年記念国際学術大会」において研究発表をおこなう	先方負担
3	高妻　洋成	中華人民共和国	4月9日～4月13日	東亜古墳遺址保護国際学術検討会への出席と研究発表	先方負担
4	城倉　正祥	中華人民共和国	4月20日～6月17日	中国社会科学院考古研究所との共同研究	運営費交付金
5	松井　章	アメリカ合衆国	4月22日～4月27日	アメリカ考古学会研究発表	科研費

	氏名	用務先	期間	用務	備考
6	箱崎　和久	大韓民国	5月7日～5月11日	「韓中日古代寺院址比較研究－木塔編」研究報告書発刊記念国際学術セミナーへの参加	先方負担
7	牛嶋　茂	中華人民共和国	5月25日～6月3日	中国社会科学院考古研究所との共同研究	運営費交付金
8	番　光	中華人民共和国	5月25日～6月3日	中国社会科学院考古研究所との共同研究	運営費交付金
9	杉山　洋	カンボジア王国	5月30日～6月5日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金
10	森本　晋	カンボジア王国	5月31日～6月5日	アンコール歴史遺跡保存開発国際調整委員会（ICC）出席	運営費交付金
11	石村　智	カンボジア王国	6月1日～6月6日	アンコール歴史遺跡保存開発国際調整委員会（ICC）出席と西トップ寺院の調査	運営費交付金
12	井上　和人	中華人民共和国	6月7日～6月10日	遼寧省文物考古研究所との共同研究	運営費交付金
13	小池　伸彦	中華人民共和国	6月7日～6月14日	遼寧省文物考古研究所との共同研究	運営費交付金
14	牛嶋　茂	中華人民共和国	6月7日～6月14日	遼寧省文物考古研究所との共同研究	運営費交付金
15	加藤　真二	中華人民共和国	6月7日～6月14日	平成21年度秋期特別展および図録に使用する写真の撮影	運営費交付金
16	豊島　直博	中華人民共和国	6月7日～6月14日	遼寧省文物考古研究所との共同研究	運営費交付金
17	金田　明大	中華人民共和国	6月7日～6月14日	遼寧省文物考古研究所との共同研究	運営費交付金
18	玉田　芳英	中華人民共和国	6月15日～6月19日	河南省文物考古研究所との共同研究	運営費交付金
19	丹羽　崇史	中華人民共和国	6月15日～6月19日	河南省文物考古研究所との共同研究	運営費交付金
20	森本　晋	スペイン	6月20日～7月4日	第33回ユネスコ世界遺産委員会出席	運営費交付金
21	石村　智	スペイン	6月21日～7月4日	第33回ユネスコ世界遺産委員会出席・情報収集	運営費交付金
22	箱崎　和久	中華人民共和国	6月21日～6月30日	中国遼代の八角建物を中心とする古建築に関する資料収集	科研費
23	丹羽　崇史	中華人民共和国	6月25日～6月28日	河北省文物考古研究所への借用品の返却	運営費交付金
24	杉山　洋	カンボジア王国	6月30日～7月5日	バコン窯跡の調査	他機関負担:私学振興財団
25	林　正憲	カンボジア王国	7月21日～7月27日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金
26	杉山　洋	カンボジア王国	7月21日～7月27日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金
27	石村　智	カンボジア王国	7月21日～7月27日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金
28	加藤　真二	中華人民共和国	7月23日～8月3日	平成21年度秋期特別展および常設展リニューアルに関わる関連資料の調査	運営費交付金
29	松井　章	大韓民国	7月26日～7月30日	慶南考古学研究所において金海貝塚出土動物遺存体の整理、報告書作成の打合せ。韓国国立中央博物館で資料調査	科研費
30	井上　和人	ベトナム社会主義共和国	7月27日～7月30日	ベトナム・タンロン皇城遺跡調査研究支援（日越専門委員会出席）	他機関科研費
31	石村　智	ベトナム社会主義共和国	7月27日～7月30日	ベトナム・タンロン皇城遺跡調査研究支援（日越専門委員会出席）	他機関科研費
32	平澤　毅	イタリア共和国	7月29日～8月4日	庭園整備の日伊比較研究ワークショップほか	他機関科研費
33	山崎　健	モンゴル国	8月5日～8月15日	モンゴルにおける動物解体の調査	科研費
34	島田　敏男	ベトナム社会主義共和国	8月6日～8月15日	ベトナム国フエ省フクティック村の集落調査	他機関負担:学術研究振興資金
35	鈴木　智大	ベトナム社会主義共和国	8月6日～8月15日	ベトナム国フエ省フクティック村の集落調査	他機関負担:学術研究振興資金
36	馬場　基	大韓民国	8月11日～8月15日	「東アジア木簡学の確立」に関する現地調査および研究	他機関科研費
37	今井　晃樹	大韓民国	8月17日～8月23日	韓国における古代都城、儀礼関連の遺跡遺物調査	科研費
38	清水　重敦	中華人民共和国	8月17日～8月25日	中国における古代建築の造形・建築技術に関する現地調査	科研費
39	松井　章	大韓民国	8月20日～8月24日	慶南考古学研究所において金海貝塚出土動物遺存体の整理、報告書作成の打合せ	科研費
40	肥塚　隆保	モンゴル国	8月21日～8月29日	モンゴル国、ヘンティ県に所在するアラシャーン・ハダ、セルベンハールーガー両遺跡における石造文化財の保存のための現地調査	東文研
41	高妻　洋成	モンゴル国	8月21日～8月29日	モンゴル国、ヘンティ県に所在するアラシャーン・ハダ、セルベンハールーガー両遺跡における石造文化財の保存のための現地調査	東文研

	氏名	用務先	期間	用務	備考
42	脇谷　草一郎	モンゴル国	8月21日～8月29日	モンゴル国、ヘンティ県に所在するアラシャーン・ハダ、セルベンハールーガー両遺跡における石造文化財の保存のための現地調査	東文研
43	田村　朋美	モンゴル国	8月21日～8月29日	モンゴル国、ヘンティ県に所在するアラシャーン・ハダ、セルベンハールーガー両遺跡における石造文化財の保存のための現地調査	運営費交付金
44	森先　一貴	ロシア連邦	9月15日～9月20日	ロシア科学アカデミー主催の国際会議「更新世－完新世における極東・東アジアの環境変化」への出席・発表	他機関負担:大学共同利用機関人間文化研究機構総合地球環境学研究所
45	庄田　慎矢	大韓民国	9月17日～9月20日	日韓集落研究会第5回共同研究会参加のため	他機関科研費
46	加藤　真二	中華人民共和国	9月22日～9月29日	平成21年度秋期特別展の展示品検品・借用	運営費交付金
47	丹羽　崇史	中華人民共和国	9月22日～9月29日	平成21年度秋期特別展の展示品検品・借用	運営費交付金
48	森本　晋	マルタ共和国	9月22日～9月29日	「考古文化遺産におけるヴァーチャルリアリティ国際学会」出席	運営費交付金
49	森本　晋	台湾	10月5日～10月10日	国際学会「人間性と社会科学におけるGIS2009」での研究発表	科研費
50	杉山　洋	大韓民国	10月7日～10月10日	東アジアの中の百済　シンポジウムにおける出席と発表	先方負担
51	粟野　隆	大韓民国	10月13日～10月16日	韓国の遺跡の整備・活用に関する現地調査	渡航費：運営費交付金 滞在費：先方負担
52	肥塚　隆保	中華人民共和国	10月16日～10月20日	東アジア文化遺産保存学会への参加および研究発表	運営費交付金
53	降幡　順子	中華人民共和国	10月16日～10月20日	東アジア文化遺産保存学会への参加および研究発表	運営費交付金
54	田村　朋美	中華人民共和国	10月16日～10月20日	東アジア文化遺産保存学会への参加および研究発表	運営費交付金
55	森本　晋	タジキスタン	10月19日～10月30日	ワークショップ「中央アジア出土壁画の保存修復2009」出席	運営費交付金
56	玉田　芳英	中華人民共和国	10月21日～10月26日	河南省文物考古研究所との共同研究	運営費交付金
57	小田　裕樹	中華人民共和国	10月21日～10月26日	河南省文物考古研究所との共同研究	運営費交付金
58	城倉　正祥	中華人民共和国	10月21日～10月26日	中国古陶瓷学会シンポジウム「中国早期白瓷、白釉瓷専題学術検討会」参加	運営費交付金
59	丹羽　崇史	中華人民共和国	10月21日～10月26日	中国古陶瓷学会シンポジウム「中国早期白瓷、白釉瓷専題学術検討会」参加	運営費交付金
60	島田　敏男	ベトナム社会主義共和国	10月24日～11月3日	ユネスコアジア文化センター「文化遺産ワークショップ2009」ベトナム社会主義共和国・ホイアン市における現地研修出講	他機関負担
61	田辺　征夫	大韓民国	10月26日～10月28日	韓国国立文化財研究所主催『東アジア文化遺産フォーラム』への参加	先方負担
62	高田　貫太	大韓民国	10月26日～10月28日	韓国国立文化財研究所主催『東アジア文化遺産フォーラム』への参加	先方負担
63	井上　和人	ベトナム社会主義共和国	10月28日～10月31日	タンロン皇城遺跡の調査研究支援	他機関科研費
64	平澤　毅	大韓民国	10月28日～11月1日	「景勝地の現在と将来に関する韓中日国際シンポジウム」への出席と発表・討論等	先方負担
65	杉山　洋	インドネシア共和国	11月1日～11月8日	ボロブドゥール国際会議出席と現地調査	先方負担：ユネスコ
66	城倉　正祥	中華人民共和国	11月4日～1月15日	中国社会科学院考古研究所との共同研究	運営費交付金
67	肥塚　隆保	大韓民国	11月10日～11月13日	光州博物館からの招へい（保存科学研究の交流）	先方負担
68	高妻　洋成	大韓民国	11月10日～11月13日	光州博物館および韓国中央博物館において所蔵する資料の調査と資料収集	科研費
69	杉山　洋	カンボジア王国	11月15日～11月23日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金
70	小野　健吉	大韓民国	11月23日～11月25日	益山王宮里遺跡の曲水庭園遺構調査	運営費交付金
71	井上　和人	中華人民共和国	11月29日～12月4日	中国社会科学院考古研究所との共同研究	運営費交付金

	氏名	用務先	期間	用務	備考
72	今井　晃樹	中華人民共和国	11月29日～12月4日	中国社会科学院考古研究所との共同研究	運営費交付金
73	丹羽　崇史	中華人民共和国	12月2日～12月9日	平成21年度秋期特別展の展示品検品・返却	運営費交付金
74	加藤　真二	中華人民共和国	12月2日～12月10日	平成21年度秋期特別展借用品の返却、平成22年度夏期企画展の調整	運営費交付金
75	大林　潤	カンボジア王国	12月6日～12月12日	アンコール遺跡群西トップ寺院の建造物調査	運営費交付金
76	成田　聖	カンボジア王国	12月6日～12月12日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金
77	石村　智	カンボジア王国	12月6日～12月16日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金
78	杉山　洋	カンボジア王国	12月6日～12月21日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金
79	島田　敏男	大韓民国	12月7日～12月9日	第1回韓・日・中の建築文化遺産保護（保存）国際シンポジウム出席	渡航費：運営費交付金 滞在費：先方負担
80	清水　重敦	大韓民国	12月8日～12月9日	第1回韓・日・中の建築文化遺産保護（保存）国際シンポジウム出席	渡航費：運営費交付金 滞在費：先方負担
81	田辺　征夫	カンボジア王国	12月12日～12月16日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金
82	森本　晋	カンボジア王国	12月12日～12月16日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金
83	次山　淳	中華人民共和国	12月12日～12月23日	中国河南省洛陽市における漢代～唐代の出土貨幣の調査	科研費
84	渡邉　晃宏	大韓民国	12月13日～12月18日	日韓共同研究に伴う資料調査	渡航費：運営費交付金 滞在費：先方負担
85	箱崎　和久	大韓民国	12月13日～12月18日	日韓共同研究に伴う資料調査	渡航費：運営費交付金 滞在費：先方負担
86	浅野　啓介	大韓民国	12月13日～12月18日	日韓共同研究に伴う資料調査	渡航費：運営費交付金 滞在費：先方負担
87	牛嶋　茂	中華人民共和国	12月18日～12月27日	中国社会科学院考古研究所との共同研究	運営費交付金
88	箱崎　和久	ベトナム社会主義共和国	12月23日～12月31日	ベトナム国フエ省フクティック村の集落調査および類例調査	他機関負担
89	惠谷　浩子	ベトナム社会主義共和国	12月23日～12月31日	ベトナム国フエ省フクティック村の集落調査および類例調査	他機関負担
90	井上　幸	中華人民共和国	12月27日～12月31日	木簡の字形分析による日本古代の異体字の基礎的研究のための資料収集	渡航費：科研費 滞在費：私費
91	森本　晋	カザフスタン共和国・ウズベキスタン共和国・キルギス共和国・タジキスタン共和国	1月7日～1月22日	ユネスコ・シルクロード世界遺産登録関連ドキュメンテーション事業のミッション形成調査に参加	運営費交付金
92	杉山　洋	カンボジア王国	1月10日～1月17日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金
93	小野　健吉	タイ王国	1月14日～1月19日	スコータイ遺跡とアユタヤ遺跡の水景等に関する調査	他機関負担
94	石村　智	台湾・パラオ共和国	1月17日～1月24日	日本統治時代の遺構の調査およびパラオにおける戦争遺構の調査	高梨学術奨励基金
95	小田　裕樹	大韓民国	1月18日～3月5日	国立慶州文化財研究所との発掘調査への参加	渡航費：運営費交付金 滞在費：先方負担
96	丹羽　崇史	中華人民共和国	1月23日～2月4日	鋳造関連遺物の資料調査	科研費
97	石村　智	ニュー・ジーランド・トンガ王国	2月11日～2月25日	オークランド博物館およびオークランド大学において海洋文化に関する資料収集およびトンガ王国における考古学的調査	科研費(ニュージーランド) 他機関負担（トンガ）
98	森先　一貴	ロシア連邦	2月15日～2月22日	ロシア極東クニャゼ=ヴォルコンスコエ遺跡出土資料調査	他機関科研費
99	清水　重敦	ドイツ連邦共和国	2月16日～2月22日	独立行政法人日本学術振興会ボン研究連絡センター主催コロキウム「世界遺産の将来」へ出席	先方負担
100	島田　敏男	カンボジア王国	2月19日～2月25日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金
101	大林　潤	カンボジア王国	2月19日～2月25日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金
102	高橋　知奈津	カンボジア王国	2月19日～2月25日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金

	氏名	用務先	期間	用務	備考
103	杉山　洋	カンボジア王国	2月19日～3月5日	アンコール文化遺産保護に関する研究協力	運営費交付金
104	馬場　基	大韓民国	2月22日～2月26日	日韓共同研究に基づく調査	渡航費：運営費交付金 滞在費：先方負担
105	林　正憲	大韓民国	2月22日～2月28日	日韓共同研究に基づく調査	運営費交付金
106	深澤　芳樹	大韓民国	2月25日～2月27日	発掘調査交流の実施状況に関する視察および協議	運営費交付金
107	次山　淳	大韓民国	2月25日～2月27日	発掘調査交流の実施状況に関する視察および協議	運営費交付金
108	木村　理恵	大韓民国	2月25日～2月27日	発掘調査交流の実施状況に関する視察および協議	運営費交付金
109	惠谷　浩子	フィリピン共和国	2月26日～3月4日	「フィリピン・コリディリエーラの棚田群」の文化的景観調査	他機関負担
110	井上　和人	中華人民共和国	3月7日～3月10日	西安曲江大明宮遺址区保護改造弁公室との共同研究についての協議	運営費交付金
111	小野　健吉	中華人民共和国	3月7日～3月10日	西安曲江大明宮遺址区保護改造弁公室との共同研究についての協議	運営費交付金
112	今井　晃樹	中華人民共和国	3月7日～3月10日	西安曲江大明宮遺址区保護改造弁公室との共同研究についての協議	運営費交付金
113	高妻　洋成	ベトナム社会主義共和国	3月7日～3月10日	タンロン皇城遺跡保存に関する協議	他機関負担：文化庁
114	脇谷　草一郎	ベトナム社会主義共和国	3月7日～3月10日	タンロン皇城遺跡保存に関する協議	他機関負担：文化庁
115	小池　伸彦	中華人民共和国	3月9日～3月16日	遼寧省文物考古研究所との共同研究	運営費交付金
116	牛嶋　茂	中華人民共和国	3月9日～3月16日	遼寧省文物考古研究所との共同研究	運営費交付金
117	豊島　直博	中華人民共和国	3月9日～3月16日	遼寧省文物考古研究所との共同研究	運営費交付金
118	芝　康次郎	中華人民共和国	3月9日～3月16日	遼寧省文物考古研究所との共同研究	運営費交付金
119	深澤　芳樹	中華人民共和国	3月10日～3月12日	環太平洋海域における伝統的造船技術の比較研究のための調査	他機関負担
120	森本　晋	フランス共和国	3月10日～3月16日	古建築におけるリンテル装飾に関する資料調査	運営費交付金
121	松井　章	ラオス人民民主共和国	3月11日～3月21日	ラオスにおける家畜、家禽の調査	科研費
122	鈴木　智大	中華人民共和国	3月12日～3月21日	中華人民共和国福建省の古代建築調査	科研費
123	金田　明大	中華人民共和国	3月13日～3月16日	遼寧省文物考古研究所との共同研究	運営費交付金
124	加藤　真二	中華人民共和国	3月22日～3月28日	河南省文物考古研究所との共同研究	運営費交付金
125	森先　一貴	中華人民共和国	3月22日～3月28日	河南省文物考古研究所との共同研究	運営費交付金
126	森川　実	中華人民共和国	3月22日～3月28日	河南省文物考古研究所との共同研究	運営費交付金
127	若杉　智宏	中華人民共和国	3月22日～3月28日	河南省文物考古研究所との共同研究	運営費交付金
128	木村　理恵	中華人民共和国	3月22日～3月28日	河南省文物考古研究所との共同研究	運営費交付金
129	石村　智	ドイツ連邦共和国	3月24日～3月31日	第8回バーミヤーン遺跡保存専門家会議に出席	運営費交付金

a-② 調査研究テーマ一覧

国立文化財機構	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
134件	86件	41件	18件	10件	17件
	文化財研究所計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	共同研究（東京・奈良文化財研究所）	
	48件	20件	26件	2件	

【東京国立博物館】計41件

○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 （役職・名前）
1	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	学芸研究部	調査研究課長　富田淳
2	特別調査法隆寺献納宝物（第31次）「聖徳太子絵伝」第5回	学芸研究部	上席研究員　原田一敏
3	特別調査「書跡」第7回	学芸研究部	学芸研究部長　島谷弘幸
4	特別調査金地屏風の金箔地についての調査研究―尾形光琳風神雷神屏風を中心に	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室長　田沢裕賀
5	応挙館障壁画の復元に関する調査研究	学芸研究部	企画課特別展室長　松嶋雅人
6	館蔵の漢籍・洋書に関する基礎的研究	学芸研究部	博物館情報課長　高橋　裕次
7	ガンダーラの仏教寺院の伽藍配置と遺物に関する研究	学芸研究部	列品管理課平常展調整室長　小泉惠英
8	博物館の環境保存に関する研究	学芸研究部	保存修復課長　神庭　信幸
9	東洋民族資料に関する調査研究	学芸研究部	列品管理課長　谷　豊信
10	韓国国立中央博物館所蔵の高麗漆器の保存に関する国際共同研究	学芸研究部	保存修復課長　神庭信幸
11	日本における木彫像の樹種と用材観に関する調査研究（科学研究費補助金）	学芸研究部	特任研究員　金子啓明
12	東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究（科学研究費補助金）	学芸研究部	学芸研究部長　島谷弘幸
13	目録学の構築と古典学の再生（科学研究費補助金）	学芸研究部	列品管理課登録室長 田良島哲
14	国立博物館の機能と役割の変遷に関する基礎的研究―館史資料の分析を中心に―（科学研究費補助金）	学芸研究部	博物館情報課情報管理室長　丸山士郎
15	油彩画の材料・技法に関する共同調査	学芸研究部	保存修復課長　神庭　信幸
16	荻原守衛「女」の石膏原型とブロンズ鋳造に関する共同研究	学芸研究部	保存修復課長　神庭　信幸
17	博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究（科学研究費補助金）	学芸研究部	保存修復課長　神庭　信幸
18	東京国立博物館所蔵・正倉院関係資料の研究―「正倉院裂」を中心に―（科学研究費補助金）	学芸研究部	特任研究員　澤田むつ代
19	文化財保護の歴史に関する基礎的研究（科学研究費補助金）	学芸企画部	博物館情報課長　高橋裕次
20	隋唐時代の仏舎利信仰と荘厳に関する総合的調査研究（科学研究費補助金）	学芸研究部	博物館教育課長　加島勝
21	原三溪旧蔵近代絵画・彫刻に関する基礎的研究(科学研究費補助金)	学芸研究部	企画課特別展室任期付研究員　植田 彩芳子
22	高度な復元作業のための制作空間の情報化(科学研究費補助金)	学芸研究部	列品管理課登録室アソシエイトフェロー 河内　晋平
23	狩野晴川院養信筆「法隆寺什物図」の研究（科学研究費補助金）	学芸研究部	列品管理課登録室アソシエイトフェロー 安藤　香織
24	東京国立博物館所蔵写真資料データベース（科学研究費補助金）	学芸研究部	調査研究課長　富田 淳
25	東京国立博物館所蔵古文書データベース（科学研究費補助金）	学芸研究部	博物館教育課ボランティア室研究員 髙梨真行
26	東京国立博物館所蔵印譜データベース（科学研究費補助金）	学芸研究部	調査研究課絵画・彫刻室任期付研究員 関紀子
27	明治時代の宝物調査における写真資料に関する調査―横山松三郎、小川一眞、早崎梗吉、安村喜当の事跡を中心に―	学芸研究部	調査研究課書跡・歴史室長　冨坂　賢
28	古文書および古典籍の修復と装幀形態に関する用語の研究（科学研究費補助金）	学芸研究部	博物館情報課長　高橋裕次
29	金沢北条氏領下総国下河辺庄の総合的研究（科学研究費補助金）	学芸研究部	博物館教育課ボランティア室研究員 髙梨　真行
30	東アジアの書画料紙における装飾加工と保存に関する総合的研究	学芸研究部	博物館情報課長　高橋　裕次
31	東京国立博物館所蔵ラグーザ寄贈資料の研究	学芸研究部	保存修復課保存修復室主任研究員 土屋裕子
32	曹洞宗寺院に伝来した中世彫刻の調査及び研究	学芸研究部	博物館教育課教育普及室長　浅見　龍介
33	特別調査「工芸」第1回	学芸研究部	調査研究課工芸・考古室長　竹内奈美子
34	高精細デジタル測定技術と職人の知識を融合させた工芸文化財復元の研究	学芸研究部	列品管理課登録室アソシエイトフェロー 河内　晋平
35	博物館環境デザインに関する調査研究	学芸企画部	企画課デザイン室長　木下史青
36	博物館美術教育に関する調査研究	学芸企画部	博物館教育課長　加島 勝
37	博物館教育・普及事業の事例分析と日本の伝統文化に関する先駆的教育・普及理論の構築（科学研究費補助金）	学芸企画部	企画課長　井上洋一
38	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	学芸企画部	博物館情報課情報管理室長　丸山史郎

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 （役職・名前）
39	凸版印刷と協同で、ミュージアム・シアターでの公開に向けた研究を実施する	学芸企画部	博物館教育課長　加島 勝
40	クウジット株式会社と協同で、ロケーションアンプを利用した作品鑑賞補助実験「LocationAmp for 法隆寺宝物館」を実施する	学芸企画部	博物館教育課長　加島 勝
41	彫刻におけるデジタル立体造形の可能性と表現方法の研究・教育への応用（科学研究費補助金）	学芸企画部	企画課長　井上洋一

【京都国立博物館】　18件

○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 （役職・名前）
1	近畿地区（特に京都）社寺文化財の調査研究	学芸部	工芸室長　尾野善裕
2	鎌倉仏教とその造形に関する研究	学芸部	上席研究員　赤尾栄慶
3	日本における木の造形的表現とその文化的背景に関する総合的考察（科学研究費補助金）	学芸部	館長　佐々木 丞平
4	建仁寺両足院に所蔵される五山文学関係典籍類の調査研究（科学研究費補助金）	学芸部	上席研究員　赤尾栄慶
5	修復文化財に関する資料収集及び調査研究	学芸部	保存修理指導室長　村上 隆
6	文化財の保存・修復に関する調査研究（奈良文化財研究所との共同研究）	学芸部	保存修理指導室長　村上 隆
7	近世絵画に関する調査研究（客員研究員）	学芸部	連携協力室長　山下 善也
8	訓点資料としての典籍に関する調査研究（客員研究員）	学芸部	上席研究員　赤尾栄慶
9	彫刻に関する調査研究（客員研究員）	学芸部	主任研究員　淺湫 毅
10	出土・伝世古陶磁に関する調査研究	学芸部	工芸室長　尾野善裕
11	近代建築に関する調査研究	学芸部	文化財管理監　中村　康
12	漆工芸に関する調査研究	学芸部	主任研究員　永島　明子
13	中国近代絵画に関する調査研究	学芸部	学芸部長　西上　実
14	文化財情報に関する調査研究	学芸部	企画室長　久保智康
15	西域出土文献に関する調査研究	学芸部	上席研究員　赤尾栄慶
16	京都十六本山をはじめとする日蓮法華宗寺院所蔵文化財の調査研究（特別展覧会「日蓮と法華の名宝」準備調査）	学芸部	研究員　大原　嘉豊
17	長谷川等伯に関する調査研究	学芸部	美術室長　山本英男
18	特別展覧会「高僧と袈裟」の開催に向けての調査研究	学芸部	主任研究員　山川　暁

【奈良国立博物館】　計10件

○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 （役職・名前）
1	南部諸諸社寺等に関する計画的な調査研究等を実施	学芸部	学芸部長　西山 厚
2	仏教美術の光学的調査研究（東京文化財研究所との共同研究）	学芸部	学芸部長　西山 厚
3	仏教美実写真収集及びその調査研究	学芸部	資料室長　宮崎幹子
4	我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の研究	学芸部	学芸部長　西山 厚
5	当館所蔵品についての調査研究（客員研究員）	学芸部	学芸部長　西山 厚
6	奈良時代の仏教美術と東アジア世界	学芸部	館長　湯山賢一
7	統一新羅期の道具瓦集成（科学研究費補助金）	学芸部	工芸考古室員　岩戸晶子
8	古墳時代中期における対外交渉の特質と地域圏の形成・展開過程（科学研究費補助金）	学芸部	養育室長　吉澤 悟
9	南都諸社寺等に関する計画的な調査研究成果の一部を「国宝鑑真和上展」及び「聖地寧波-日本仏教1300年の源流～すべてはここからやって来た」並びに特別陳列「おん祭りの春日信仰の美術」及び「お水取り」に反映させる	学芸部	学芸部長　西山 厚
10	我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究成果の一部で平常展の充実を図る	学芸部	学芸部長　西山 厚

【九州国立博物館】　計17件

○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者 （役職・名前）
1	日本とアジア諸国との文化交流に関する調査研究	企画課	企画課長　小泉　惠英
2	文化財の材質・構造等に関する共同研究	博物館科学課	環境保全室長　今津　節生
3	博物館における文化財保存修復に関する研究	博物館科学課	保存修復室研究員　志賀　智史
4	博物館危機管理としての市民協同型IPMシステム構築に向けての基礎研究	博物館科学課	博物館科学課長　本田　光子
5	文化遺産の保全に寄与する保存環境の構築	博物館科学課	博物館科学課長　本田　光子
6	東アジアの文化財修復用手漉き和紙の調査研究（UNESCOとの共同）	博物館科学課	保存修復室長　藤田　励夫
7	ＶＲ画像を活用した日本装飾古墳デジタルアーカイブの構築（科学研究費補助金）	企画課	文化交流展示室長　河野　一隆
8	近代工芸の美術史・産業史・地域史の基礎資料としての内国勧業博覧会出品作品の研究（科学研究費補助金）	学芸部	学芸部長　伊藤　嘉章

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
9	トルキ山遼墓出土品から見た唐滅亡後の東アジアにおける工芸技術（科学研究費補助金）	文化財課	文化財課長　臺信　祐爾
10	室町時代の仏教絵画を中心とする東アジアの宗教美術に関する調査研究（科学研究費補助金）	企画課	研究員　畑　靖紀
11	近世初期日本絵画における粉本使用例の基礎研究（科学研究費補助金）	企画課	研究員　金井　裕子
12	埴輪に認められる赤色顔料についての基礎研究（科学研究費補助金）	博物館科学課	保存修復室研究員　志賀　智史
13	被災した近現代歴史資料の救済のための簡便な真空凍結乾燥法の開発（科学研究費補助金）	学芸部	特任研究員　村田　忠繁
14	近世初期対馬藩の政治構造と日朝交流	文化財課	荒木　和憲
15	Ｘ線ＣＴスキャナによる中国古代青銅器の構造技法解析	博物館科学課	環境保全室長　今津　節生
16	高齢者・障がい者・外国人等の利用者の視点に立った、展示の内容・方法、施設整備、管理運営面からの研究・実践（UMP：Universal　Museum　Project）を展開する	総務課	総務課長　樋口　理央
17	平成20年度特別展「工芸のいま　伝統と創造」に関連した九州・沖縄の伝統工芸作家への調査を受けて、継続的かつ発展的に調査研究活動を行なう	学芸部	学芸部長　伊藤　嘉章

【東京文化財研究所】計20件

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進（5件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	民俗技術に関する調査・資料収集　無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究（Ｉ4（1）④と一体で実施）	無形文化遺産部	無形文化遺産部長　宮田繁幸
2	東アジアの美術に関する資料学的研究	企画情報部	文化形成研究室長　塩谷　純
3	近現代美術に関する総合的研究	企画情報部	近現代視覚芸術研究室長　山梨絵美子
4	美術の技法・材料に関する広領域的研究	企画情報部	広領域研究室長　綿田　稔
5	無形文化財の保存・活用に関する調査研究	無形文化遺産部	無形文化遺産部長　宮田繁幸

○文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進（2件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	高精細デジタル画像の応用に関する調査研究	企画情報部	文化財アーカイブズ研究室長　津田徹英
2	文化財の非破壊調査法の研究	保存修復科学センター	保存修復科学センター長　石﨑武志

○文化財の保存科学や修復技術に関する中心的な支援拠点として先端的調査研究等の推進（8件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財の生物劣化対策の研究	保存修復科学センター	保存修復科学センター長　石﨑武志
2	文化財の保存環境の研究	保存修復科学センター	保存修復科学センター長　石﨑武志
3	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究	保存修復科学センター	保存修復科学センター副センター長 川野邊　渉
4	文化財の防災計画に関する調査研究	保存修復科学センター	保存修復科学センター副センター長 川野邊　渉
5	伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究	保存修復科学センター	保存修復科学センター副センター長 川野邊　渉
6	国際研修「漆の保存と修復」	保存修復科学センター	保存修復科学センター副センター長 川野邊　渉
7	在外日本古美術品保存修復協力事業	保存修復科学センター	保存修復科学センター副センター長 川野邊　渉
8	近代の文化遺産の保存修復に関する研究	保存修復科学センター	近代文化遺産研究室長　中山俊介

○文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力及び国際共同研究（4件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化財保存施策の国際的研究	文化遺産国際協力センター	国際情報研究室長　岡田　健
2	アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査研究	文化遺産国際協力センター	主任研究員　朽津信明
3	陝西省墳墓壁画の記録保存についての方法研究	文化遺産国際協力センター	国際情報研究室長　岡田　健
4	敦煌壁画の保護に関する調査研究	文化遺産国際協力センター	国際情報研究室長　岡田　健

○諸外国における文化財の保存・修復に関する技術移転とアジア諸国の文化財保護担当者や保存・修復専門家などの人材養成に関する支援事業及び人材養成に必要な教材や教育手法に関する研究開発（1件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	諸外国の文化財保存修復専門家養成	文化遺産国際協力センター	保存計画研究室長　友田正彦

【奈良文化財研究所】計26件

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進（18件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化的景観に関する調査研究	文化遺産部	文化遺産部長　小野健吉
2	古都所在寺社の歴史資料等に関する調査研究	文化遺産部	歴史研究室長　吉川聡

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
3	歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究	文化遺産部	建造物研究室長　島田敏男
4	平城宮跡東院地区（第446次）の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区	都城発掘調査部長　井上和人
5	平城宮跡第一次大極殿院地区内庭広場（第454次）の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区	都城発掘調査部長　井上和人
6	薬師寺（第457次）の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区	都城発掘調査部長　井上和人
7	興福寺南大門跡（第458次）の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区	都城発掘調査部長　井上和人
8	平城宮跡東方官衙地区(第466次)の発掘調査	都城発掘調査部　平城地区	都城発掘調査部長　井上和人
9	藤原宮跡朝堂院地区の発掘調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部副部長　深澤芳樹
10	甘樫丘東麓遺跡の発掘調査	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部副部長　深澤芳樹
11	平城京跡出土遺物・遺構の調査研究等	都城発掘調査部　平城地区	都城発掘調査部長　井上和人
12	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部副部長　深澤芳樹
13	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究	都城発掘調査部　平城地区	都城発掘調査部長　井上和人
14	庭園に関する調査研究	文化遺産部	遺跡整備研究室長　平澤毅
15	東アジア史における飛鳥の研究及び飛鳥時代工芸技術の研究	飛鳥資料館	学芸室長　加藤真二
16	遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究	文化遺産部	遺跡整備研究室長　平澤毅
17	遺構の安定した公開・展示を行うことを目的とした事前調査法、保存技術並びに監視技術の開発的研究	埋蔵文化財センター	保存修復科学研究室長　高妻洋成
18	文化庁が行う平城宮跡第一次大極殿正殿復原をはじめとする整備・公開・活用に関する専門的・技術的な援助・助言	都城発掘調査部　平城地区	都城発掘調査部長　井上和人

○文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進（4件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	遺跡データベースの作成と公開	埋蔵文化財センター	遺跡・調査技術研究室長　小澤毅
2	遺跡の測量・探査における新たな技術の有効利用法の研究	埋蔵文化財センター	遺跡・調査技術研究室長　小澤毅
3	年輪年代学研究	埋蔵文化財センター	年代学研究室長　大河内隆之
4	遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究	埋蔵文化財センター	環境考古学研究室長　松井章

○文化財の保存科学や修復技術に関する中心的な支援拠点として先端的調査研究等の推進（1件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	埋蔵文化財センター	保存修復科学研究室長　高妻洋成

○国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査・研究の実施（2件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存活用に関する技術的協力	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部副部長　深澤芳樹
2	国土交通省が行う大和紀伊平野土地改良事業に関する技術的協力	都城発掘調査部　飛鳥・藤原地区	都城発掘調査部副部長　深澤芳樹

○文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力及び国際共同研究（1件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	カンボジア・アンコール遺跡群の西トップ寺院遺跡の建築史的、考古学的、保存科学的調査	企画調整部	国際遺跡研究室長　杉山　洋

【東京文化財研究所と奈良文化財研究所との共同研究】計2件

○文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力及び国際共同研究（2件）

	調査研究テーマ名	担当部課	事業責任者　(役職・名前)
1	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	保存修復科学センター	保存修復科学センター長　石﨑武志
2	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業	文化遺産国際協力センター	文化遺産国際協力センター　清水真一

a-③ 学会、研究会等発表実績一覧

国立文化財機構	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
234件	129件	68件	11件	34件	16件
	文化財研究所計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	共同研究（東京・奈良文化財研究所）	
	105件	46件	59件	0件	

【東京国立博物館】68件

○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究	三つの鬼子母神十羅刹女図―長谷川信春の仏画とその造形―	企画課特別展室長　松嶋雅人	4月29日	石川県七尾美術館長谷川等伯展記念講演会
2	収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究	夕顔棚納涼図- 描かれた追憶の家族	企画課特別展室長　松嶋雅人	9月27日	石川県立美術館講演会
3	収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究	日本絵画に咲く花	企画課特別展室長　松嶋雅人	11月28日	池坊短期大学　第6回日本学生いけばな展講演会
4	収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究	「やまと絵師･長谷川等伯- 信春時代の仏画から智積院障壁画へ」	企画課特別展室長　松嶋雅人	22年2月27日	東京国立博物館　没後400年　特別展「長谷川等伯」記念講演会
5	収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究	「辻が花」研究　―近代「名物裂」の誕生とその変容―	企画課特別展室主任研究員　小山弓弦葉	10月31日	文化資源学会第16回例会研究発表会
6	収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究	日本・中国・韓国における近年の新館建設プロジェクトについて	企画課国際交流室長　鬼頭智美	4月24日	国際展覧会オーガナイザー会議（IEO）
7	収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究	出土繊維の種類と調査方法	特任研究員　澤田むつ代	10月27日	奈良文化財研究所・埋蔵文化財担当者専門研修
8	収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究	有職文様　東アジアの文様史として	列品管理課貸与特別観覧室主任研究員　猪熊兼樹	8月15日	霞会館衣紋会（霞会館）
9	収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究	アジアのなかの有職文様　21世紀の有職学	列品管理課貸与特別観覧室主任研究員　猪熊兼樹	8月22日	アジア民族造形学会国際シンポジウム（國學院大學）
10	収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究	興福寺曼荼羅から春日社寺曼荼羅へ	列品管理課平常展調整室研究員　瀬谷愛	7月18日	昭和女子大学文化史学会シンポジウム「鎌倉時代の諸問題　寺院と造像」
11	収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究	武具からみた５世紀　-金属製甲冑とその意義-	列品管理課列品情報整備室長　古谷毅	6月20日	中日新聞文化センター
12	収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究	花形･家形飾環頭大刀の性格	列品管理課列品情報整備室長　古谷毅	10月3日	東大寺山古墳研究会（天理大学附属天理参考館）
13	収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究	古墳時代象嵌銘文大刀の修理と調査	列品管理課列品情報整備室長　古谷毅	11月23日	サイバー大学 学術講演会（九州国立博物館）
14	収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究	日本古墳の副葬品に対する解析と調査研究方法論 -金属遺物を中心として-	列品管理課列品情報整備室長　古谷毅	22年1月20日	忠北大學校 教育特講（中央文化財研究院）
15	収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究	甲冑研究の方法と最近の研究動向	列品管理課列品情報整備室長　古谷毅	22年1月21日	韓国古墳文化研究会（忠南大學校博物館）
16	収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究	古墳出土遺物と形象埴輪の比較からみた埴輪の意義	列品管理課列品情報整備室長　古谷毅	22年1月22日	忠北大學校 人文大學学生研究会（忠北大學校美術史学科）
17	収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究	縄文の顔、弥生の顔	調査研究課　工芸・考古室研究員　品川欣也	22年1月31日	シンポジウム「再葬墓と人面付土器のふしぎ」茨城県常陸大宮市歴史民俗資料館
18	収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究	日本に運ばれた福建産の貿易陶磁器について	調査研究課東洋室長 今井敦	4月26日	日本学術振興会アジア研究教育拠点事業 東アジア海文明の歴史と環境 平成21年度 第1回東アジア海文明セミナー「水中考古学と福建の陶磁器」
19	収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究	「古九谷様式」色絵磁器の様式について	調査研究課東洋室長 今井敦	5月24日	美術史学会第62回全国大会
20	収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究	「古九谷様式」の色絵磁器について	調査研究課東洋室長 今井敦	10月31日	東洋陶磁学会平成21年度第4回研究会
21	収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究	中国塩業考古学史	調査研究課東洋室研究員 川村佳男	11月15日	東南アジア考古学会　2009年度研究大会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
22	収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究	和装本の保存方法における新案―平置き、縦置きに対応する保存箱の活用―	保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー　米倉乙世 保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー　鈴木晴彦 保存修復課長　神庭信幸 保存修復課保存修復室主任研究員　土屋裕子	6月13日、14 日	文化財保存修復学会第31回大会
23	収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究	緑青による紙の損傷に対する保存処置法の研究開発 -東京国立博物館蔵「十六羅漢像」(A-225 16幅)解体修理を通じて	保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー 鈴木晴彦 保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー 米倉乙世 保存修復課長 神庭信幸 保存修復課環境保存室主任研究員 和田浩 保存修復課保存修復室主任研究員 土屋裕子	6月13日、14日	文化財保存修復学会第31回大会
24	収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究	博物館におけるデジタルＸ線撮影システムの活用事例	保存修復課環境保存室主任研究員　和田浩 保存修復課環境保存室主任研究員　荒木臣紀 保存修復課長　神庭信幸、	6月15日	文化財保存修復学会31回研究大会（倉敷）
25	収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究	東京国立博物館における上代裂等の修理、保管、公開について	保存修復課長　神庭信幸	12月19日	東京国立博物館ワークショップ「古代染織品の保管と公開」
26	収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究	東京国立博物館におけるインターン制度―インターンシップの未来―	保存修復課長　神庭信幸	22年1月16日	文化財保存修復学会公開シンポジウム
27	収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究	博物館における防災について	保存修復課長　神庭信幸	22年1月22日	国立国会図書館第6回資料保存懇話会
28	収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究	阿修羅像の特殊梱包ケース	保存修復課環境保存室主任研究員 和田浩 保存修復課長 神庭信幸	22 年3 月 25 日	阿修羅フォーラム
29	収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究	茨城県地域における前方後円墳の消滅	保存修復課保存修復室主任研究員　日高　慎	6月7日	東国古墳研究会
30	収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究	東国の埴輪	保存修復課保存修復室主任研究員　日高　慎	8月23日	『シンポジウム　埴輪から見た上毛野・東国・畿内』群馬県立歴史博物館
31	収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究	古墳時代の渡来文化と松戸	保存修復課保存修復室主任研究員　日高　慎	22年2月14日	松戸市立博物館講演会
32	収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究	餅花手と染織の技法上の影響関係について	保存修復課保存修復室研究員　三笠景子	6月27日	東洋陶磁学会第3回東日本研究会
33	収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究	唐宋の越窯と金銀器	保存修復課保存修復室研究員　三笠景子	9月26日	公開国際セミナー 東アジアをめぐる金属工芸－地域特質と相互文化認識、交流媒体の研究－
34	収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究	十六羅漢像の保存修理について	保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー 鈴木晴彦	22年3 月 20 日	文化財保存修復学会例会
35	収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究	皇室展の意義	上席研究員　原田一敏	10月12日	美術史学会
36	収蔵品･寄託品及び関連品に関する調査研究	江戸時代の技巧を凝らした工芸	上席研究員　原田一敏	11月20日	東京都教育委員会主催　外国人のための日本文化紹介フォーラム
37	ガンダーラの仏教寺院の伽藍配置と遺物に関	ガンダーラの仏教寺院	列品管理課平常展調整室長　小泉惠英	10月17日	平山郁夫シルクロード美術館

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
	する研究				
38	博物館の環境保存に関する研究	低炭素社会と共存する文化遺産の保存―東京国立博物館の取組み―	保存修復課長　神庭信幸	6月13日	文化財保存修復学会31回研究大会（倉敷）
39	博物館の環境保存に関する研究	低炭素社会と共存する文化遺産の保存―東京国立博物館の取組み―	保存修復課長　神庭信幸	12月8日	東京文化財研究所研究会
40	博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究(科学研究費補助金)	博物館における包括的保存システムの構築に関する研究	保存修復課長　神庭信幸、 保存修復課環境保存室主任研究員　和田浩 保存修復課環境保存室主任研究員　荒木臣紀 保存修復課保存修復室主任研究員　土屋裕子 研究支援者　大場詩野子 研究支援者　大河原典子	6月14日	文化財保存修復学会31回研究大会（倉敷）
41	博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究(科学研究費補助金)	地震対策としての文化財の転倒防止に関する検討	保存修復課長　神庭信幸	7月21日	J.P.ゲッティ美術館・国立西洋美術館共催国際シンポジウム「美術・博物館コレクションの地震対策」
42	博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究(科学研究費補助金)	The characteristic of vibration during a transport of cultural heritage	保存修復課長　神庭信幸 保存修復課環境保存室主任研究員　和田浩	10月18日	東アジア文化遺産保存学会(北京)
43	博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究(科学研究費補助金)	国際航空貨物における留意点 －文化財の輸送環境調査より－	保存修復課長　神庭 信幸、保存修復課環境保存室主任研究員　和田 浩	11月19日	第47回全日本包装技術研究大会（福岡）
44	博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究(科学研究費補助金)	Toward the Establishment of a Guideline for the Concentration of Indoor Atmospheric Contaminants in Exhibition and Storage Rooms	保存修復課長 神庭信幸 保存修復課環境保存室主任研究員 和田 浩 保存修復課環境保存室主任研究員　荒木臣紀 保存修復課環境保存室 西邑雅未 保存修復課環境保存室 中村恵子	22年 3月27日	The 2010 International Cooperation Symposium of Korea･Japan Conservation Science
45	東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究	平成21年度岡山県文化のつどい第2回講演会「古筆の魅力」	学芸研究部長　島谷弘幸	9月12日	岡山県文化連盟
46	東京国立博物館所蔵正倉院関係資料の研究―「正倉院裂」を中心に	「天平の美と技」パネルディスカッション	特任研究員　澤田むつ代	9月5日	(正倉院フォーラム2009　福岡)読売新聞西部本社
47	東京国立博物館所蔵正倉院関係資料の研究―「正倉院裂」を中心に	法隆寺の染織品	特任研究員　澤田むつ代	12月20日	国際シンポジウム「上代裂をまもる」
48	博物館環境デザインに関する調査研究	『“モノの息吹を感じる”博物館の展示デザイン』	企画課デザイン室長　木下史青	7月17日	JIPAT(東京インテリアプランナー協会)
49	博物館環境デザインに関する調査研究	トーク＆セミナー『“モノのみかた･みえかた”と博物館の展示デザイン》	企画課デザイン室長　木下史青	7月30日	JAGDA(日本グラフィックデザイナー協会) 神奈川地区
50	博物館環境デザインに関する調査研究	谷中放談『アートのお仕事』	企画課デザイン室長　木下史青	10月11日	art-link上野-谷中2009 実行委員会
51	博物館環境デザインに関する調査研究	「空間創造発想帖」Treasure×Pleasure　最新の照明技術で、一点の輝きを引き出す	企画課デザイン室長　木下史青	11月	社団法人 日本ディスプレイ協会
52	博物館環境デザインに	『国宝 阿修羅展－光の演出によ	企画課デザイン室長　木	22年	日本美術解剖学会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
	関する調査研究	る表情の見せ方』	下史青	1月9日	
53	博物館美術教育に関する調査研究	博物館におけるボランティアの活用	博物館教育課長　加島勝	6月	文化庁美術学芸課主催『第6回指定文化財（美術工芸）企画・展示セミナー』
54	博物館美術教育に関する調査研究	誰のためのミュージアムリテラシー？	博物館教育課教育普及室主任研究員　鈴木みどり	7月4日	ミュージアムマネージメント学会第一回基礎研究部門
55	博物館美術教育に関する調査研究	博学連携事例発表「東京国立博物館のスクールプログラム」	博物館教育課教育普及室主任研究員　鈴木みどり	22年3月6日	第三回博学連携ワークショップ
56	博物館美術教育に関する調査研究	船の科学館を使ったワークショップ「博物館まるごと活用チラシ作り」	博物館教育課教育普及室主任研究員　鈴木みどり	22年3月6日	第三回博学連携ワークショップ
57	博物館美術教育に関する調査研究	ミュージアムリテラシー「東博スクールプログラム」と「第三回博学連携ワークショップ」からの報告と提言	博物館教育課教育普及室主任研究員　鈴木みどり	22 年3月23日	第二回「科学系博物館の学校利用促進方策―教員のミュージアムリテラシー向上プログラム開発―」調査研究委員会
58	博物館美術教育に関する調査研究	博物館教育国際シンポジウム「伝統文化を伝えるために博物館ができること」概要報告	博物館教育課ボランティア室研究員　藤田千織	22 年3 月 23 日	全国美術館会議・教育普及研究部会
59	博物館教育･普及事業の事例分析と日本の伝統文化に関する先駆的教育・普及理論の構築	鑑賞プログラム「応挙館で美術体験」について	博物館教育課長　加島勝 列品管理課平常展調整室長　白井克也 企画課国際交流室長　鬼頭智美 企画課国際交流室研究員　遠藤楽子	22年1月24日	東京国立博物館　教育普及国際シンポジウムポスターセッション「伝統文化を伝えるために博物館ができること」
60	博物館教育･普及事業の事例分析と日本の伝統文化に関する先駆的教育・普及理論の構築	東京国立博物館の教育普及―伝統文化を伝えるために	博物館教育課教育普及室主任研究員　鈴木みどり	22年1月24日	博物館教育普及国際シンポジウム（科研）
61	博物館教育･普及事業の事例分析と日本の伝統文化に関する先駆的教育・普及理論の構築	「伝統文化を伝えるために博物館ができること」パネルディスカッション	博物館教育課教育普及室主任研究員　鈴木みどり 学芸企画部広報室長　小林牧	22年1月24日	博物館教育普及国際シンポジウム（科研）
62	博物館教育･普及事業の事例分析と日本の伝統文化に関する先駆的教育・普及理論の構築	使う器の魅力へのアプローチ―特別展「染付―藍が彩るアジアの器」を例に	調査研究課東洋室長 今井敦	22年1月24日	博物館教育普及国際シンポジウム（科研）
63	博物館資料･業務の情報処理に関する調査研究	Collection Management System of Tokyo National Museum	博物館情報課情報管理室研究員　村田良二	10月8日	PNC Annual Conference 2009, Taipei
64	博物館資料･業務の情報処理に関する調査研究	デジタル資料管理モデルに関するコメント	博物館情報課情報管理室研究員　村田良二	10月23日	デジタル化された博物館資料に関する情報記述法の研究 公開研究会
65	博物館資料･業務の情報処理に関する調査研究	東京国立博物館　収蔵品管理システム開発の経験から	博物館情報課情報管理室研究員　村田良二	12月4日	第4回アート･ドキュメンテーション研究フォーラム
66	博物館資料･業務の情報処理に関する調査研究	博物館の情報環境とＭＬＡ連携	列品管理課登録室長　田良島哲	12月5日	第4回アート･ドキュメンテーション研究フォーラム
67	博物館資料･業務の情報処理に関する調査研究	博物館における業務情報の共有とIML (Inter-Museum Loan)システムの可能性	列品管理課登録室長　田良島哲	5月16日	情報知識学会第17回年次大会研究報告会
68	博物館資料･業務の情報処理に関する調査研究	ミュージアム間の業務情報流通をめぐる課題と展望	列品管理課登録室長　田良島哲	6月6日	2009年度アート・ドキュメンテーション学会年次大会

【京都国立博物館】11件

○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	鎌倉仏教とその造形に関する研究	「予言と調伏のかたち」	主任研究員　淺湫　毅	10月23日	仏教美術研究上野記念財団助成研究会シンポジウム
2	日本における木の造形的表現とその文化的背景に関する総合的考察	「京都・専修寺の空海坐像」	主任研究員　淺湫　毅	1月15日	中間報告会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
3	近世絵画に関する調査研究	「禅の美術と文化－妙心寺の文化財－」	連携協力室長　山下善也	4月12日	「妙心寺展」開催記念シンポジウム
4	近世絵画に関する調査研究	「妙心寺屏風、友松・山楽絵画の輝き」	連携協力室長　山下善也	4月25日	京都国立博物館土曜講座（京都女子大学）
5	近世絵画に関する調査研究	「探幽のいた季節－二条城から館蔵品へ」	連携協力室長　山下善也	9月21日	静岡県立美術館特別講演
6	近世絵画に関する調査研究	「ウィーンから初里帰り！明治２年の日本画帖」	連携協力室長　山下善也	2月27日	京都国立博物館土曜講座（京都女子大学）
7	彫刻に関する調査研究	「調伏のかたちとしての元三大師像」	主任研究員　浅湫　毅	10月23日	仏教美術研究上野記念財団助成研究会シンポジウム
8	出土・伝世古陶磁に関する調査研究	「磁器生産のはじまりと展開－肥前磁器を中心に－」	工芸室長　尾野善裕	6月27日	徳島城博物館平成21年度美術アカデミー
9	出土・伝世古陶磁に関する調査研究	「猿投窯系須恵器・灰釉陶器の編年と問題点」	工芸室長　尾野善裕	7月4日	東海土器研究会・相模の古代を考える会　合同研究会
10	出土・伝世古陶磁に関する調査研究	「明治・大正の京都「やきもの」事情」	工芸室長　尾野善裕	3月7日	愛知県陶磁資料館平成21年度冬季講座
11	漆工芸に関する調査研究	「Mid-Edo Period Lacquer Production seen through Historical European Collections」	主任研究員　永島　明子	10月30日-31日	「Conference entitled "Crossing Borders - The Conservation, Science and Material Culture of East Asian Lacquer" at Victoria and Albert Museum」

【奈良国立博物館】　34件

○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の研究	小野道風の「円珍贈法印大和尚位並智證大師謚号勅書」をめぐって	館長　湯山賢一	7月29日	法隆寺夏季大学
2	我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の研究	石山寺の仏像と観音信仰	企画室長　稲本泰生	8月2日	浜松市美術館公開講座
3	我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の研究	奈良朝の宮廷生活	教育室研究員　清水健	10月31日	正倉院学術シンポジウム2009
4	我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の研究	孝謙天皇と正倉院宝物	情報ｻｰﾋﾞｽ室研究員　野尻忠	10月31日	正倉院学術シンポジウム2009
5	我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の研究	鄂県阿育王塔考―その形態の来源と本生図の意味	企画室長　稲本泰生	11月8日	戒律文化研究会第8回大会
6	我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の研究	和紙の文化	館長　湯山賢一	11月14日	金沢学院大学文化財学科公開講座
7	我が国における仏教美術の展開と、中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の研究	中世・古代の紙	館長　湯山賢一	11月28日	就実大学吉備地方文化研究所公開講座
8	南都諸社寺等に関する計画的な調査研究等	天皇御宸翰	館長　湯山賢一	4月	愛知県花岳寺法要記念講演
9	南都諸社寺等に関する計画的な調査研究等	唐招提寺の古文書について	野尻忠（研究員）	5月17日	奈良国立博物館　サンデートーク
10	南都諸社寺等に関する計画的な調査研究等	鑑真和上像と唐招提寺の仏像	稲本泰生（企画室長）	5月23日	特別展「国宝　鑑真和上展」公開講座
11	南都諸社寺等に関する計画的な調査研究等	宇陀の仏像	鈴木喜博（上席研究員）	5月24日	宇陀のはな五百号記念「宇陀歴史探訪」
12	南都諸社寺等に関する計画的な調査研究等	唐招提寺の鴟尾を展示し終えて	岩戸晶子（研究員）	6月21日	奈良国立博物館　サンデートーク
13	南都諸社寺等に関する計画的な調査研究等	正倉院宝物の魅力―紙の調査に参加して	館長　湯山賢一	9月	正倉院フォーラム2009福岡
14	南都諸社寺等に関する計画的な調査研究等	大仏に逢う	西山厚（学芸部長）	9月6日	奈良国立博物館・奈良県立大学合同公開講座
15	南都諸社寺等に関する計画的な調査研究等	正倉院宝物と万葉の時代	館長　湯山賢一	10月	奈良県立万葉文化館「万葉の日」記念フォーラム

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
16	南都諸社寺等に関する計画的な調査研究等	正倉院展六十回までのあゆみ	野尻忠（研究員）	10月18日	奈良国立博物館　サンデートーク
17	南都諸社寺等に関する計画的な調査研究等	正倉院木工品と木彫の成立	鈴木喜博（上席研究員）	11月3日	第61回正倉院展公開講座
18	南都諸社寺等に関する計画的な調査研究等	愛染明王法―平安貴族の祈り―	斎木涼子（研究員）	11月15日	奈良国立博物館　サンデートーク
19	南都諸社寺等に関する計画的な調査研究等	古都奈良の仏たち	鈴木喜博（上席研究員）	12月14日	奈良市生涯学習課
20	南都諸社寺等に関する計画的な調査研究等	春日権現験記絵巻 七百年の旅路	清水健（研究員）	12月20日	奈良国立博物館　サンデートーク
21	南都諸社寺等に関する計画的な調査研究等	二月堂本尊光背図像と観音の神変	稲本泰生（企画室長）	12月20日	第8回グレートブッダシンポジウム
22	南都諸社寺等に関する計画的な調査研究等	春日権現記絵披見台をめぐって	谷口耕生（保存修理指導室長）	22年 1月17日	奈良国立博物館　サンデートーク
23	当館所蔵品についての調査研究	仏像の修理	鈴木喜博（上席研究員）	4月17日	宮水学園古社寺会
24	当館所蔵品についての調査研究	正倉院展60回までのあゆみ	永井洋之（研究員）	10月18日	奈良国立博物館　サンデートーク
25	当館所蔵品についての調査研究	特集展示解説　南北朝・室町時代の彫刻	鈴木喜博（上席研究員）	22年 1月24日	奈良国立博物館　サンデートーク
26	奈良時代の仏教美術と東アジアの世界	阿育王寺の仏舎利信仰と日本	内藤栄（部長補佐）	7月19日	奈良国立博物館　サンデートーク
27	奈良時代の仏教美術と東アジアの世界	清凉寺釈迦如来像と東アジアの釈迦信仰	稲本泰生（企画室長）	7月25日	特別展「聖地寧波」公開講座
28	奈良時代の仏教美術と東アジアの世界	憧憬の中国仏教－聖地寧波をめぐる人と美術	谷口耕生（保存修理指導室長）	8月15日	特別展「聖地寧波」公開講座
29	奈良時代の仏教美術と東アジアの世界	貿易陶磁からみる寧波と日本	吉澤悟（教育室長）	8月16日	奈良国立博物館　サンデートーク
30	奈良時代の仏教美術と東アジアの世界	寧波からもたらされたもの－特別展への招待	北澤菜月（研究員）	8月20日	第38回奈良国立博物館夏季講座
31	奈良時代の仏教美術と東アジアの世界	寧波より奈良を思う－仏への祈り－	北澤菜月（研究員）	9月13日	奈良国立博物館・奈良県立大学合同公開講座
32	奈良時代の仏教美術と東アジアの世界	奈良の仏像とその源流をさぐる	岩田茂樹（美術室長）	9月20日	奈良国立博物館・奈良県立大学合同公開講座
33	奈良時代の仏教美術と東アジアの世界	光明皇后の楽毅論について	西山厚（学芸部長）	11月7日	第61回正倉院展公開講座
34	奈良時代の仏教美術と東アジアの世界	平城京の木彫　―栢木と榧―	鈴木喜博（上席研究員）	12月6日	奈良市生涯学習課

【九州国立博物館】　16件

○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財の材質・構造等に関する共同研究	三次元デジタル情報の博物館展示への活用　―線刻のある銅製経筒のデータ化と展示―	鳥越俊行（学芸部博物館科学課主任研究員）、今津　節生（学芸部博物館科学課環境保全室長）	7月10・11日	日本文化財科学会第26回研究発表要旨集
2	文化財の材質・構造等に関する共同研究	三次元デジタル情報の博物館展示への活用 ―線刻のある銅製経筒のデータ化と展示―	鳥越俊行（学芸部博物館科学課主任研究員）、今津　節生（学芸部博物館科学課環境保全室長）	7月10・11日	日本文化財科学会第26回研究発表要旨集
3	文化財の材質・構造等に関する共同研究	柿右衛門様式の人形に対する制作技法の調査	鳥越俊行（学芸部博物館科学課主任研究員）、今津　節生（学芸部博物館科学課環境保全室長）	7月10・11日	日本文化財科学会第26回研究発表会
4	文化財の材質・構造等に関する共同研究	原町遺跡出土銅戈における同笵の検証と鋳造技術	小林公治（学芸部博物館科学課環境保全室長）・今津節生（学芸部博物館科学課環境保全室長）・鳥越俊行（学芸部博物館科学課主任研究員）・河野一隆（学芸部企画課文化交流展質長）・市元塁（学芸部企画課研究員）	7月10・11日	日本文化財科学会第26回研究発表会
5	文化財の材質・構造等に関する共同研究	国宝　初音調度の科学調査	鳥越俊行（学芸部博物館科学課主任研究員）、川畑憲子（学芸部企画課研究員）、今津節生（学芸部博物館科学課環境保全室長）	7月10・11日	日本文化財科学会第26回研究発表会
6	文化財の材質・構造等に関する共同研究	「九州国立博物館所蔵　菊蒔絵手箱の科学的調査」	鳥越俊行（学芸部博物館科学課主任研究員）、川畑憲子（学芸部企画課研究員）、今津節生（学芸部博物館科学課環境保全室長）	6月13・14日	文化財保存修復学会第31回大会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
7	文化財の材質・構造等に関する共同研究	X線CTを活用した像内納入品の調査―福井県大善寺本尊十一面観音立像についてー	今津節生（学芸部博物館科学課環境保全室長）鳥越俊行（学芸部博物館科学課主任研究員）、	6月13・14日	文化財保存修復学会第31回大会
8	文化財の材質・構造等に関する共同研究	CTスキャンによる虫損部材の調査	鳥越俊行（学芸部博物館科学課主任研究員）、今津節生（学芸部博物館科学課環境保全室長）	6月13・14日	文化財保存修復学会第31回大会
9	文化財の材質・構造等に関する共同研究	X線CTスキャナを活用した中国古代青銅彝器の構造解析	廣川守・樋口隆康(泉屋博古館) 今津節生（学芸部博物館科学課環境保全室長）・鳥越俊行（学芸部博物館科学課主任研究員）・河野一隆（学芸部企画課文化交流展質長）・市元塁（学芸部企画課研究員）	10月16日	東アジア文化遺産保存学会（北京）
10	文化財の材質・構造等に関する共同研究	X線CTスキャナを活用した中国古代青銅彝器の構造解析	今津節生（学芸部博物館科学課環境保全室長）・鳥越俊行（学芸部博物館科学課主任研究員）・河野一隆（学芸部企画課文化交流展質長）・市元塁（学芸部企画課研究員）	10月31日	日中考古学会
11	トルキ山遼墓出土品から見た唐滅亡後の東アジアにおける工芸技術	内蒙古自治区吐爾基山遼墓出土彩色木棺の保存　２　－三次元計測と保存修復－	今津節生（学芸部博物館科学課環境保全室長　臺信祐爾（文化財課長）	6月13日	文化財保存修復学会第31回大会
12	埴輪に認められる赤色顔料についての基礎研究	巨大なパイプ状のベンガラ粒子について	志賀智史（学芸部博物館科学課研究員）	7月11・12日	日本文化財科学会第２６回
13	被災した近現代歴史資料の救済のための簡便な真空凍結乾燥法の開発	被災した近現代歴史資料の救済のための簡便な真空凍結乾燥法の開発	村田忠繁（学芸部　特任研究員）	6月13日	文化財保存修復学会第31回大会
14	Ｘ線ＣＴスキャナによる中国古代青銅器の構造技法解析（科学研究費補助金）	X線CTスキャナを活用した中国古代青銅彝器の構造解析	廣川守・樋口隆康(泉屋博古館) 今津節生（学芸部博物館科学課環境保全室長）・今津節生（学芸部博物館科学課環境保全室長）・鳥越俊行（学芸部博物館科学課主任研究員）・河野一隆（学芸部企画課文化交流展質長）・市元塁（学芸部企画課研究員）	10月16日	東アジア文化遺産保存学会（北京）
15	Ｘ線ＣＴスキャナによる中国古代青銅器の構造技法解析（科学研究費補助金）	X線CTスキャナを活用した中国古代青銅彝器の構造解析	今津節生（学芸部博物館科学課環境保全室長）・鳥越俊行（学芸部博物館科学課主任研究員）・河野一隆（学芸部企画課文化交流展質長）・市元塁（学芸部企画課研究員）	10月31日	日中考古学会
16	Ｘ線ＣＴスキャナによる中国古代青銅器の構造技法解析（科学研究費補助金）	原町遺跡出土銅戈における同笵の検証と鋳造技術	小林公治（学芸部博物館科学課環境保全室長）・今津節生（学芸部博物館科学課環境保全室長）・鳥越俊行（学芸部博物館科学課主任研究員）・河野一隆（学芸部企画課文化交流展質長）・市元塁（学芸部企画課研究員）	7月10・11日	日本文化財科学会第26回研究発表会

【東京文化財研究所】計46件

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進（13件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	民俗芸能の稽古を通して見る社会組織の動態- 大里七夕踊の事例から-	無形文化遺産部主任研究員　俵木悟	10月4日	第61回日本民俗学会年会
2	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	Scholar, Local government, and Local Community--A case study of the safeguarding of folk performing arts in Japan “Ayako-Mai”	無形文化遺産部長　宮田繁幸	12月4日	国際会議「無形文化遺産と地域共同体」香港科技大学
3	無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究	無形文化遺産の記録所在情報データベース構築に向けて- 現状報告-	無形文化遺産部主任研究員　俵木悟	22年2月10日	東京文化財研究所総合研究会
4	東アジアの美術に関する資料学的研究	「異国」をこしらえる―「玄奘三蔵絵」をめぐって	企画情報部研究員　土屋貴裕	10月2日	企画情報部オープンレクチャー
5	東アジアの美術に関する資料学的研究	大谷探検隊収集西域壁画の光学的調査	副所長　中野照男	10月3日	企画情報部オープンレクチャー
6	近現代美術に関する総合的研究	川端玉章の研究―玉章の“支那画”観	企画情報部文化形成研究室長　塩谷　純	7月29日	企画情報部研究会
7	近現代美術に関する総合	Beyond Nationalism- an example	企画情報部近・現代視覚芸術研	5月16日	韓国西洋美術史学会シ

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
	的研究	of Japanese Modern Art	究室長　山梨絵美子		ンポジウム「Nationalism and Art History」梨花女子大学校　（韓国）
8	近現代美術に関する総合的研究	黒田清輝の描く女性の労働と休息―≪針仕事≫≪読書≫≪湖畔≫をめぐって―	企画情報部近・現代視覚芸術研究室長　山梨絵美子	10月31日	石橋美術館
9	美術の技法・材料に関する広領域的研究	福岡城本丸御殿の雲谷派障子絵について	企画情報部広領域研究室長　綿田　稔	4月22日	企画情報部研究会
10	美術の技法・材料に関する広領域的研究	ポートランド美術館所蔵作品調査報告	企画情報部広領域研究室長　綿田　稔・企画情報部研究員　江村知子・企画情報部研究員　土屋貴裕	3月24日	企画情報部研究会
11	無形文化財の保存・活用に関する調査研究	小歌は拍子合か拍子不合か―狂言小歌「十七八」をきっかけに	無形文化遺産部無形文化財研究室長　高桑いづみ	7月12日	楽劇学会第17回大会
12	無形文化財の保存・活用に関する調査研究	紀州徳川家蔵楽器コレクションの調査報告」	無形文化遺産部無形文化財研究室長　高桑いづみ	10月18日	東洋音楽学会第60回大会
13	無形文化財の保存・活用に関する調査研究	昭和24年3月収録「鬼界が島の段」	無形文化遺産部音声・映像記録研究室長　飯島　満	12月16日	第4回無形文化遺産部公開学術講座

○文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進（2件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財の非破壊調査法の研究	デジタルカメラを使った色材の可視光反射率測定とその応用	保存修復科学センター主任研究員　吉田直人　他	6月13-14日	文化財保存修復学会第31回大会
2	文化財の非破壊調査法の研究	平等院鳳凰堂仏後壁の図像と彩色に関する調査	保存修復科学センター分析科学研究室長　早川泰弘　他	7月11-12日	日本文化財科学会第26回大会

○文化財の保存科学や修復技術に関する中心的な支援拠点として先端的調査研究等の推進（24件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財の生物劣化対策の研究	X線CTスキャナによる虫損部材の調査	保存修復科学センター生物科学研究室長　木川りか　他	6月13-14日	文化財保存修復学会第31回大会
2	文化財の生物劣化対策の研究	紙資料の褐色斑における菌体と代謝物の蛍光に関する考察	保存修復科学センター生物科学研究室長　木川りか　他	6月13-14日	文化財保存修復学会第31回大会
3	文化財の保存環境の研究	美術館における内装材からの拡散ガス簡易試験法	保存修復科学センター保存科学研究室長　佐野千絵　他	6月13-14日	文化財保存修復学会第31回大会
4	文化財の保存環境の研究	汎用伝熱換気計算法による美術館展示室温湿度環境のモデル検討	保存修復科学センター主任研究員　犬塚将英　他	6月13-14日	文化財保存修復学会第31回大会
5	文化財の保存環境の研究	杉野学園衣裳博物館における西洋衣裳の保存と活用	保存修復科学センター主任研究員　犬塚将英　他	6月13-14日	文化財保存修復学会第31回大会
6	伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究	顔料剥落止めとして利用されたポリビニアルアルコールの白化状態の調査と白化原因の探索	保存修復科学センター副センター長　川野邊　渉、保存修復科学センター研究員　早川典子、客員研究員　坪倉早智子、客員研究員　中條利一郎	6月13-14日	文化財保存修復学会第31回大会
7	伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究	建築文化財における塗装技術の調査とその評価・応用に関する研究	保存修復科学センター伝統技術研究室　北野信彦、客員研究員　本多貴之	6月13-14日	文化財保存修復学会第31回大会
8	伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究	伝統的漆室と使用道具の調査・保存・活用　-国際研修教材としての1ケーススタディ-	保存修復科学センター伝統技術研究室長　北野信彦	12月6日	日本民具学会第28回大会
9	伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究	補紙・補絹の動向	保存修復科学センター研究員　加藤雅人	11月12-14日	第33回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会　日本絵画の修復　―先端と伝統―
10	伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究	絵画修復に使われる糊と布海苔	保存修復科学センター研究員　早川典子	11月12-14日	第33回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会　日本絵画の修復　―先端と伝統―
11	伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究	紙文化財の研究と保存修復	保存修復科学センター研究員　加藤雅人	3月4-6日	アジア文化遺産国際会議「東アジア地域の文化遺産―文化遺産保護国際協力活動を通じて我々は何を発見し共有しうるか―」
12	近代の文化遺産の保存修	二酸化炭素処理・酸化エチレン処	保存修復科学センター研究員	6月13-14日	文化財保存修復学会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
	復に関する研究	理がジアゾタイプ複写物に及ぼす影響	加藤雅人・保存修復科学センター生物科学研究室長　木川りか・客員研究員　坪倉早智子・保存修復科学センター近代文化遺産研究室長　中山俊介		第31回大会
13	近代の文化遺産の保存修復に関する研究	初代南極観測船『宗谷」の保存と修復	保存修復科学センター近代文化遺産研究室長　中山俊介	2月12日	日本機械学会
14	近代の文化遺産の保存修復に関する研究	近代化遺産と産業遺産　-東京文化財研究所の取組み-	保存修復科学センター近代文化遺産研究室長　中山俊介	2月13日	東京産業考古学会
15	近代の文化遺産の保存修復に関する研究	コンクリート構造物の保存と修復	保存修復科学センター近代文化遺産研究室長　中山俊介	3月1日	近代の文化遺産の保存修復に関する研究会
16	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究	臼杵磨崖仏における覆屋内風環境と表面劣化に関する考察および対策	保存修復科学センター研究員　森井順之	7月11-12日	日本文化財科学会第26回大会
17	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究	臼杵磨崖仏におけるデジタルカメラ間欠撮影による表面劣化監視システムおよび応急的な修復技術の開発	保存修復科学センター研究員　森井順之、保存修復科学センター副センター長　川野邊　渉、保存修復科学センター研究員　早川典子、文化遺産国際協力センター主任研究員　朽津信明	7月11-12日	日本文化財科学会第26回大会
18	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究	熔結凝灰岩製文化財の非破壊診断手法に関する評価―熱画像解析の有効性―	保存修復科学センター研究員　森井順之	10月16-19日	2009東アジア文化遺産保存技術国際研究集会および東アジア文化遺産保存学会第一次年会
19	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究	Case Report: Some Preservation Problems of the Buddhist Images Carved on Natural Cliff	保存修復科学センター研究員　森井順之	12月10日	Seminar on the conservation of stone monuments
20	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究	国際共同研究「文化財における環境汚染の影響と修復技術の開発研究」に関する日韓共同研究　―共同研究の成果と将来―	保存修復科学センター研究員　森井順之	3月4-6日	アジア文化遺産国際会議「東アジア地域の文化遺産―文化遺産保護国際協力活動を通じて我々は何を発見し共有しうるか―」
21	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究	日本における凝灰岩製磨崖仏の劣化とその対策	保存修復科学センター研究員　森井順之	3月27日	日韓文化財科学国際シンポジウム
22	文化財の防災計画に関する調査研究	地理情報システムに基づく文化財防災情報システムの構築―史跡・重伝建地区への適用―	保存修復科学センター研究員　森井順之、二神葉子、隈本　崇	6月13-14日	文化財保存修復学会第31回大会in倉敷
23	文化財の防災計画に関する調査研究	GISを用いた文化財防災情報システムによる博物館防災	保存修復科学センター研究員　森井順之、文化遺産国際協力センター主任研究員　二神葉子	7月21-22日	J.ポール・ゲッティ美術館・国立西洋美術館共催国際シンポジウム　美術・博物館コレクションの地震対策
24	文化財の防災計画に関する調査研究	文化財防災における活断層基本図の利用について	保存修復科学センター研究員　森井順之	9月28日	ミニシンポジウム「活断層基本図への期待とその利活用に向けて」

○文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力及び国際共同研究（7件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査研究	カンボジア　タ・ネイ遺跡とその周辺に生育する地衣類	文化遺産国際協力センター主任研究員　二神葉子、文化遺産国際協力センター主任研究員　朽津信明、客員研究員　柏谷博之	7月11日	日本文化財科学会第２６回大会　名古屋大学
2	アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査研究	越前式石廟に施された彩色装飾について	文化遺産国際協力センター主任研究員　朽津信明	7月11日	日本文化財科学会第２６回大会　名古屋大学
3	アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査研究	微生物繁茂が岩石風化に与える影響に関する実験的検討	文化遺産国際協力センター主任研究員　朽津信明、文化遺産国際協力センター主任研究員　二神葉子	10月22-23日	日本応用地質学会平成２１年度研究発表会　山形テルサ
4	敦煌壁画の保護に関する共同研究	敦煌莫高窟第285窟北壁に描かれた如来および菩薩の衣の彩色材料と技法―赤色表現を例として―	文化遺産国際協力センター国際情報研究室長　岡田　健、客員研究員　佐藤香子、客員研究員　高林弘実	6月13日	文化財保存修復学会31回大会
5	敦煌壁画の保護に関する	敦煌莫高窟第285窟南壁	文化遺産国際協力センター国際情報研	6月13日	文化財保存修復学会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
	共同研究	龕楣の復元模写	究室長　岡田　健、客員研究員　高林弘実		31回大会
6	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業	タジキスタン国立古物博物館が所蔵する壁画片の彩色材料について	特別研究員　島津美子	6月13-14日	文化財保存修復学会第31回大会
7	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業	タジキスタン国立古物博物館におけるソグド壁画の保存修復―壁画片の保存状態と現在までに行った処置―	特別研究員　島津美子、特別研究員　邊牟木尚美、客員研究員　松岡秋子	6月13-14日	文化財保存修復学会第31回大会

【奈良文化財研究所】計59件

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進（24件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化的景観に関する調査研究	文化的景観を継承するための住民意識　－意識と景観保全行動との因果関係の比較－	惠谷浩子（研究員）	10月24日～25日	平成21年度　日本造園学会関西支部大会
2	文化的景観に関する調査研究	広域の文化的景観をどう捉えるか　四万十川流域を事例として	惠谷浩子（研究員）	12月18～19日	文化的景観研究集会（第２回）
3	文化的景観に関する調査研究	「近代中宇治の都市構造」 「中宇治の伝統的家屋」	惠谷浩子（研究員） 清水重敦（景観研究室長）	9月5日	宇治の伝統的木造家屋調査中間報告会
4	文化的景観に関する調査研究	輪島市三井町の「アテ」 林業の文化的景観	惠谷浩子（研究員）	22年2月6日	かや～て2010
5	文化的景観に関する調査研究	四万十川流域の文化的景観　景観から読み解く四万十川	惠谷浩子（研究員）	22年3月7日	四万十川自然再生協議会総会
6	文化的景観に関する調査研究	宇治の伝統的家屋からみる歴史の重層性	清水重敦（景観研究室長）	22年3月14日	宇治文化的景観フォーラム2010
7	古都所在寺社の歴史資料等に関する調査研究	唐招提寺境内の変遷	吉川 聡（歴史研究室長）	11月7日～8日	戒律文化研究会第八回学術大会
8	古都所在寺社の歴史資料等に関する調査研究	北浦定政と平城京	吉川 聡（歴史研究室長）	11月14日	奈良大学「奈良文化論」講演
9	古都所在寺社の歴史資料等に関する調査研究	近世奈良･加茂道の遡及的検討―古代東海道・恭仁京に及ぶ―	吉川 聡（歴史研究室長）	11月3日	平成21年度読史会大会
10	歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究	日本における建築文化遺産保存修理の歴史とその特質	清水重敦（景観研究室長）	12月9日	第１回韓中日建築文化遺産保存国際学術会議
11	歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究	日本における古代建築研究の現状と課題	島田敏男(建造物研究室長)	12月8日	第１回韓中日建築文化遺産保存国際学術会議
12	庭園に関する調査研究	琴ノ浦温山荘園（旧温山荘）の特色と価値	粟野隆（研究員）	9月26日～27日	第６回文化財庭園フォーラム
13	庭園に関する調査研究	古谿荘庭園の特徴	粟野隆（研究員）	10月3日	伊豆屋伝八文化振興財団ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ「第７回文化財を守る」
14	庭園に関する調査研究	近代大阪・阪神間を中心とした擬石・擬木の導入と展開	粟野隆（研究員）	10月24日～25日	平成21年度日本造園学会関西支部大会
15	庭園に関する調査研究	琴ノ浦温山荘庭園について	粟野隆（研究員）	22年2月	木津宗詮研究会
16	庭園に関する調査研究	日本近代の擬石と擬木～庭園家具から猿ヶ島まで～	粟野隆（研究員）	22年2月18日	奈良文化財研究所総合研究会（第20回）
17	庭園に関する調査研究	『春日権現験記絵』に見る貴族邸宅の庭園と自然	小野健吉（文化遺産部長）	22年2月23日～28日	国際日本文化研究センター第37回国際研究集会「都市文化とは何か－文化論からの日本「発見」」
18	遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究	日本における文化遺産としての風致景観の保護と保全－特にその歴史と「名勝」の保護について－	平澤毅(遺跡整備研究室長)	10月30日	国際学術シンポジウム「名勝の現況と展望」（於、韓国）
19	遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究	世界遺産のいま、そして、文化遺産保護の課題	平澤毅(遺跡整備研究室長)	22年1月23日	奈良大学文化財学科特別講義
20	遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究	遺跡内外の環境と景観～遺跡整備と地域づくり～	平澤毅(遺跡整備研究室長)	22年1月28日～29日	遺跡整備・活用研究集会（第４回）
21	遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究	文化的景観と世界遺産　－「紀伊山地の霊場と参詣道」、「石見銀山遺跡とその文化的景観」、「平泉の文化遺産」などの事例から	平澤毅(遺跡整備研究室長)	22年2月27日	国際シンポジウム「大山・隠岐・三徳山－山岳信仰と文化的景観」
22	遺構の安定した公開・展示を行うことを目的とした事前調査	遺構露出展示のための調査法について	高妻洋成（保存修復科学研究室長）	4月11日	2009東亜古遺址保護国際学術研討会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
	法、保存技術並びに監視技術の開発的研究				
23	遺構の安定した公開・展示を行うことを目的とした事前調査法、保存技術並びに監視技術の開発的研究	Application of Resitivity Image Profiling Method for Hydrological Analysis in Soil Structural Remains	脇谷草一郎（研究員）	10月11日	CIPA
24	遺構の安定した公開・展示を行うことを目的とした事前調査法、保存技術並びに監視技術の開発的研究	イースター島モアイ像の劣化要因と保存処理に関する研究	脇谷草一郎（研究員）	10月17日	東アジア文化遺産保存学会

○文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進（18件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	遺跡の測量・探査における新たな技術の有効利用法の研究	芝生城の探査 ー探査を先行させる試み	西村康（客員研究員）・西口和彦（客員研究員）・金田明大（主任研究員）・千葉勲、大和勉（三好市教育委員会）・岡山真知子（鳥居記念博物館）・小林勝美（阿波学会）	6月14日	日本文化財探査学会
2	遺跡の測量・探査における新たな技術の有効利用法の研究	Application of a Low cost Laser Scanner for Archaeology in Japan	金田明大（主任研究員）	10月13日	CIPA2009 kyoto
3	遺跡の測量・探査における新たな技術の有効利用法の研究	Born Digital, Liberate from the Paper: A Case Study and Perspectives about Applications of Voice Recording and other Digital Recording Methods for the Archaeological Fieldwork	清野陽一（京都大学大学院）・近藤康久（東京大学総合資料館）・金田明大（主任研究員）	10月13日	CIPA2009 kyoto
4	年輪年代学研究	善勝寺本尊木造千手観音立像の年輪年代調査	大河内隆之（年代学研究室長）・光谷拓実（客員研究員）・児島大輔（日本学術振興会特別研究員）・松岡久美子（栗東歴史民俗博物館）・佐々木進（栗東歴史民俗博物館）	7月11日～12日	日本文化財科学会第26回大会
5	年輪年代学研究	日本樹木年輪試料による古墳時代以降の炭素14年代較正曲線作成の試み	尾嵜大真（国立歴史民俗博物館）・坂本稔（国立歴史民俗博物館）・今村峯雄（国立歴史民俗博物館）・光谷拓実（客員研究員）	7月11日～12日	日本文化財科学会第26回大会
6	年輪年代学研究	日本産ツガ属の年輪年代測定(2)―複数の近世建造物におけるデータ比較―	藤井裕之（客員研究員）・竹口泰生（奈良県文化財保存事務所）・後藤玉樹（京都市文化市民局）	7月11日～12日	日本文化財科学会第26回大会
7	年輪年代学研究	Database of wood species used for archaeological wooden objects unearthed in Japan	伊東隆夫（客員研究員）	8月3～5日	Pacific Regional Wood Anatomy Conference（環太平洋木材解剖学会議）
8	年輪年代学研究	日本古代における銀造仏像の鋳造について	児島大輔(日本学術振興会特別研究員)	8月29日～30日	アジア鋳造技術史学会東京大会2009
9	遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究	環境考古学と海	松井章（埋蔵文化財センター長）	4月18日	北九州市立自然史・歴史博物館講演会
10	遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究	Year-round activities of the large wet shell mounds during the Jomon Period, JAPAN Over 3000 shellmounds are distributed in Japan.	松井章（埋蔵文化財センター長）	4月25日	Society for American Archaeology
11	遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究	肉食の忌避という虚構ー動物考古学からの視点ー	松井章（埋蔵文化財センター長）	5月29日	日本文化人類学会第43回研究大会
12	遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究	動物と関わった人々	松井章（埋蔵文化財センター長）	10月25日	部落解放研究第43回全国集会
13	遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究	佐賀県東名遺跡における骨角器製作について	永井理恵（京都大学大学院生）・松井章（埋蔵文化財センター長）	12月19～20日	第13回動物考古学研究集会
14	遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究	中世遺跡出土の鹿角製馬具(オモゲー)	松井章（埋蔵文化財センター長）	12月19～20日	第13回動物考古学研究集会

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
15	遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究	動物遺存体に関わる遺跡形成過程の研究―モンゴルにおける民族考古学的調査を事例として―	山﨑健（研究員）	12月19～20日	第13回動物考古学研究集会
16	遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究	京都大学理学部自然人類学研究室所蔵の動物標本―とくに遺跡出土の動物遺存体と動物化石について―	山﨑健（研究員）・橋本裕子（客員研究員）・茂原信生（客員研究員）・江木直子（京都大学霊長類研究所助教）	12月19～20日	第13回動物考古学研究集会
17	遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究	縄文・弥生移行期における漁撈活動の変化―伊勢湾奥部を事例として―	山﨑健（研究員）	22年1月23日	近江貝塚研究会第195回例会
18	遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究	奈良の動物資源利用―県内における出土資料の整理・分析から―	山﨑健（研究員）	22年2月28日	第20回総合研究会

○文化財の保存科学や修復技術に関する中心的な支援拠点として先端的調査研究等の推進（14件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	江戸時代における雛人形の頭髪に使用された黒染め生糸の保存に関する研究Ⅲ	佐藤昌憲（客員研究員）	6月13日	文化財保存修復学会
2	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	藕糸に関する基礎研究（続）	佐藤昌憲（客員研究員）	6月13日	文化財保存修復学会
3	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	高松塚古墳壁画の材料調査	高妻洋成（保存修復科学研究室長）	7月11日	日本文化財科学会
4	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	コバルト着色による紺色ガラス小玉の材質とその歴史的変遷	田村朋美（アソシエイトフェロー）	7月11日	日本文化財科学会
5	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	金属錆が付着した繊維文化財を分析する場合の前処理について	佐藤昌憲（客員研究員）	7月11日	日本文化財科学会
6	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	赤外分光法による出土有機質文化財の微量分析への実験的研究	佐藤昌憲（客員研究員）	7月11日	日本文化財科学会
7	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	弥生・古墳時代出土紺色ガラス小玉の着色材の分析調査	降幡順子（主任研究員）	7月11日	日本文化財科学会
8	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	高松塚古墳壁画の材料調査（２）	高妻洋成（保存修復科学研究室長）	7月11日	日本文化財科学会
9	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	高松塚古墳壁画の材料調査（３）	高妻洋成（保存修復科学研究室長）	7月11日	日本文化財科学会
10	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	リグノフェノールを用いた出土木材の保存処理Ⅴ	高妻洋成（保存修復科学研究室長）	7月11日	日本文化財科学会
11	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	携帯型蛍光Ｘ線分析法による高松塚古墳壁画漆喰に関する調査	降幡順子（主任研究員）	10月17日	日本文化財科学会
12	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	日本における紺色ガラス玉の変遷に関する科学的研究	田村朋美（アソシエイトフェロー）	10月17日	日本文化財科学会
13	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	屈輪文椀の製作技法に関する研究	高妻洋成（保存修復科学研究室長）	10月17日	日本文化財科学会
14	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	観察手法による高松塚古墳壁画の表面状態調査	高妻洋成（保存修復科学研究室長）	10月17日	日本文化財科学会

○文化財の保護制度や施策の国際動向及び国際協力及び国際共同研究（2件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	カンボジア・アンコール遺跡群の西トップ寺院遺跡の建築史的、考古学的、保存科学的調査	西トップ遺跡の調査	石村智（研究員）	6月1日～2日	アンコール遺跡保護開発国際調整委員会
2	カンボジア・アンコール遺跡群の西トップ寺院遺跡の建築史的、考古学的、保存科学的調査	西トップ遺跡の調査と今後	石村智（研究員）	12月15日	アンコール遺跡保護開発国際調整委員会

○情報発信機能の強化　（1件）

	研究テーマ	発表テーマ	発表者（職名・名前）	実施日	学会等名
1	文化財情報電子化の研究に基づくデータベースの充実	遺跡の記録	森本晋（文化財情報研究室長）	11月20日	第14回遺跡GIS研究会

a-④ 論文等発表実績一覧

国立文化財機構	博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
294件	124件	74件	27件	22件	1件
	文化財研究所計	東京文化財研究所	奈良文化財研究所	共同研究（東京・奈良文化財研究所）	
	170件	38件	118件	14件	

【東京国立博物館】　74件

○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	松本伸之（学芸企画部長）	HISTORY AND COLLECTIONS OF TOKYO NATIONAL MUSEUM	ART OF THE SAMURAI	BOWERS MUSEUM	21年4月	無
2	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	松嶋雅人（企画課特別展室長）	三つの鬼子母神十羅刹女図―長谷川信春の仏画とその造形―	『長谷川等伯展～信春から等伯への軌跡～』	石川県七尾美術館	21年4月	無
3	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	松嶋雅人（企画課特別展室長）	狩野探幽と徳川将軍家	『イメージとパトロン―美術史を学ぶための23章』	ブリュッケ	21年6月	無
4	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	松嶋雅人（企画課特別展室長）	「信春」印の鬼子母神十羅刹女像	『MUSEUM』第623号	東京国立博物館	21年12月15日	有
5	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	松嶋雅人（企画課特別展室長）	「長谷川等伯の正体―絵仏師・信春の作品とその造形」	没後400年　特別展「長谷川等伯」展覧会図録	東京国立博物館	22年2月23日	無
6	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	松嶋雅人（企画課特別展室長）	「白い紙と黒い線―円山応挙と鯨津朝子」	『応挙館で美術体験の記録』	東京国立博物館	22年3月31日	無
7	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	小山弓弦葉（企画課特別展室主任研究員）	辻が花―中世絞染模様―に関する考察	東京国立博物館紀要第44号	東京国立博物館	21年6月	無
8	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	小山弓弦葉（企画課特別展室主任研究員）	光琳模様	日本の美術　524号	ぎょうせい	22年1月	無
9	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	沖松健次郎（企画課特別展室主任研究員）	社寺参詣曼荼羅	特別展「伊勢神宮と神々の美術」展覧会図録	社団法人　霞会館	21年7月14日	無
10	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	沖松健次郎（企画課特別展室主任研究員）	表紙解説　般若菩薩像	『MUSEUM』第624号	東京国立博物館	22年2月15日	有
11	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	植田彩芳子（企画課特別展室任期付研究員）	Chouhou by Yokoyama Taikan and “Expression”: Expressions of the character's emotion in His Art	AESTHETICS（国際版『美学』）No.13	The Japanese Society for Aesthetics	21年4月	有
12	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	鬼頭智美(企画課国際交流室長)	欧米における国際展覧会実施運営の諸問題―第五回国際展覧会オーガナイザー会議報告	『MUSEUM』第623号	東京国立博物館	21年12月15日	有
13	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	鬼頭智美(企画課国際交流室長)	「古美術に近づく―応挙館で美術を体験するまで」	『応挙館で美術体験の記録』	東京国立博物館	22年3月31日	無
14	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	遠藤楽子(企画課国際交流室研究員)	「応挙館で美術体験プロジェクトの試み―障屏画研究の立場から」	『応挙館で美術体験の記録』	東京国立博物館	22年3月31日	無
15	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	加島勝（博物館教育課長）	「横須賀市金工品調査」	『新横須賀市史』別編文化遺産	横須賀市	21年6月	無
16	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	岩佐光晴（上席研究員）	「木造慈眼大師坐像」	國華　1367号	國華社	21年9月	無
17	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	岩佐光晴（上席研究員）	「唐招提寺金堂盧舎那仏坐像」	週刊朝日百科『国宝の美』13号	朝日新聞社	21年11月	無
18	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	池田宏(上席研究員)	「地形模型」	『文化庁月報』No.486	株式会社ぎょうせい	21年3月	無
19	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	池田宏(上席研究員)	「日本の甲冑」「甲冑師」	『ART OF THE SAMURAI』	The Metropolitan of Art,New York	21年10月	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
20	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	池田宏(上席研究員)	「コラム　櫛引八幡宮の甲冑」	『青森県史文化財編美術工芸』	青森県	22年3月31日	無
21	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	澤田むつ代（特任研究員）	「井出二子山出土の織物」	『史跡保渡田古墳群　井出二子山古墳　史跡整備事業報告書』	高崎市教育委員会	21年3月27日	無
22	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	澤田むつ代(特任研究員)	「背面に使用されている綾」	『春日権現験紀絵披見台』共同調査報告書	奈良国立博物館・東京文化財研究所企画情報部	22年3月10日	無
23	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	望月幹夫（特任研究員）	杉山博久先生と日本考古学史研究	『地域と学史の考古学』	六一書房	21年7月	無
24	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	猪熊兼樹（列品管理課貸与特別観覧室主任研究員）	よみがえる宮廷有職の精華	特集陳列冊子	東京国立博物館	22年2月	無
25	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	猪熊兼樹（列品管理課貸与特別観覧室主任研究員）	賀茂別雷神社蔵『賀茂祭絵図』「勅使諸司行列巻」に関する小考	京都産業大学日本文化研究所紀要第15号	京都産業大学	22年3月	有
26	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	古谷毅(列品管理課列品情報整備室長)	家形埴輪の構造・変遷と分析視角	『埴輪研究会誌』第13号	埴輪研究会	21年5月31日	無
27	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	古谷毅(列品管理課列品情報整備室長)	酒を醸し、酒を捧ぐ意味 -奈良県山ノ神遺跡-	『まつりのそなえ-御食たてまつるもの-』（平成21年度秋季企画展図録）	國學院大學伝統文化リサーチセンター資料館	21年10月30日	無
28	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	古谷毅(列品管理課列品情報整備室長)	奈良時代遣唐使の発遣儀礼	『青木周平先生追悼 古代文芸論叢』	青木周平先生追悼論文集刊行会・(株)おうふう	21年11月11日	無
29	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	古谷毅(列品管理課列品情報整備室長)	東大寺山古墳出土家形・花形飾環頭大刀の性格	『東大寺山古墳の研究 －初期ヤマト王権の対外交渉と地域間交流の考古学的研究－』	天理大学	22年3月31日	無
30	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	富田淳（調査研究課長）	趙之謙小伝	『趙之謙とその時代』～趙之謙生誕百八十年記念展～	財団法人台東区芸術文化財団	21年8月4日	無
31	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	富田淳（調査研究課長）	悲盦雑録-趙之謙の面影-(共著)	『書法漢学研究』第6号	アートライフ社	22年1月25日	無
32	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	田沢裕賀（調査研究課絵画・彫刻室長）	「信春と等伯の肖像画」	没後400年　特別展「長谷川等伯」展覧会図録	東京国立博物館	22年2月23日	無
33	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	冨坂賢（調査研究課書跡・歴史室長）	神宮のなりたち	『伊勢神宮と神々の美術』	東京国立博物館	21年7月14日	無
34	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	竹内奈美子（調査研究課工芸･考古室長）	未詳の蒔絵師「不尽」について	『美術フォーラム21』19	美術フォーラム21刊行会	21年5月	無
35	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	酒井元樹（調査研究課工芸・考古室研究員）	般若寺と春日大社の弓矢	『MUSEUM』第619号	東京国立博物館	21年4月	有
36	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	今井敦(調査研究課東洋室長)	「龍濤存星輪花盆」	『國華』第1364号	國華社	21年6月20日	無
37	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	今井敦(調査研究課東洋室長)	「東洋の染付の諸相」	特別展「染付―藍が彩るアジアの器」展覧会図録	東京国立博物館	21年7月14日	無
38	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	川村佳男（調査研究課東洋室研究員）	The Spread of Pottery Miniatures in Han Dynasty China	SCIENTIFIC RESEARCH ON HISTORIC ASIAN CERAMICS - PRCEEDINGS OF THE FOURTH FORBES SYMPOSIUM AT THE FREER GALLERY OF ART	Freer Gallery of Art, Smithsonian Institution	21年11月	有
39	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	神庭信幸（保存修復課長） 和田浩(保存修復課環境保存室主任研究員)	阿修羅像輸送プロジェクト	国宝阿修羅展報告	朝日新聞社	22年3月	無
40	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	日高慎（保存修復課保存修復室主任研究員）	茨城県地域における前方後円墳の消滅	『東国における前方後円墳の消滅』	東国古墳研究会	21年6月7日	無
41	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	日高慎（保存修復課保存修復室主任研究員）	東京国立博物館所蔵笠形木製品の研究（分担執筆）	『MUSEUM』第622号, pp.1-44	東京国立博物館	21 年 10 月15日	有
42	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	三笠景子（保存修復課保存修復室研究員）	「新収品紹介　瑠璃釉白花花文大皿」	『MUSEUM』第619号	東京国立博物館	21年4月	有

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
43	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	米倉乙世（保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー） 鈴木晴彦（保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー） 神庭信幸（保存修復課長） 土屋裕子（保存修復課保存修復室主任研究員）	和装本の保存方法における新案―平置き、縦置きに対応する保存箱の活用―	文化財保存修復学会第31回大会in倉敷研究発表要旨集	文化財保存修復学会	21年6月13日	有
44	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	鈴木晴彦（保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー） 米倉乙世（保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー） 神庭信幸（保存修復課長） 土屋裕子（保存修復課保存修復室主任研究員） 和田浩（保存修復課環境保存室主任研究員）	緑青による紙の損傷に対する保存処置法の研究開発ー東京国立博物館蔵「十六羅漢図」（A-225 16幅）解体修理を通じて	文化財保存修復学会第31回大会in倉敷研究発表要旨集	文化財保存修復学会	21年6月13日	有
45	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	鈴木晴彦（保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー） 米倉乙世（保存修復課保存修復室アソシエイトフェロー） 神庭信幸（保存修復課長） 土屋裕子（保存修復課保存修復室主任研究員） 松田麻美（保存修復課保存修復室非常勤）	「簡易万能型太巻芯」を活用した対症修理への新しい取り組み	文化財保存修復学会誌　54	文化財保存修復学会	21年8月3日	有
46	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	原田一敏（上席研究員）	History and culture of samurai	ART OF THE SAMURAI	BOWERS MUSEUM	4月19日	無
47	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	原田一敏（上席研究員）	伊勢神宮と仏教	伊勢神宮と神々の美術	東京国立博物館	7月14日	無
48	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	原田一敏（上席研究員）	日本刀の切れ味	歴博　特集日本刀	歴史民俗博物館	9月20日	有
49	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	原田一敏（上席研究員）	茶の湯釜の歴史ー芦屋釜、天明釜から京釜へー	特別展「線家十職大西清右衛門家の釜と金工」	北山会館	10月17日	無
50	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	原田一敏（上席研究員）	History of the japanese sword	ART OF THE SAMURAI	メトロポリタン美術館	10月21日	無
51	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	原田一敏（上席研究員）	自在置物	「自在置物」	マリア書房	22年1月31日	無
52	収蔵品・寄託品及び関連品に関する調査研究	原田一敏（上席研究員）	日本古代の舎利容器と鎮壇具	古代東アジアの仏教と王権	勉誠出版	22年3月20日	無
53	博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究（科学研究費補助金）	神庭信幸（保存修復課長） 和田浩(保存修復課環境保存室主任研究員)	空港内のドーリー搬送工程で発生する振動と衝撃-文化財の国際輸送環境調査より-	包装技術	社団法人日本包装技術協会	22年3月	有
54	東京国立博物館所蔵　正倉院関係資料の研究ー「正倉院裂」を中心に	澤田むつ代（特任研究員）	「東京国立博物館所蔵　正倉院の織物」、「織物を織る」、「糸について」、「組紐」	特集陳列『東京国立博物館所蔵　正倉院の織物』展覧会図録(単著)	東京国立博物館	21 年 11 月　9日	無
55	文化財保護の歴史に関する基礎的研究	高橋裕次（博物館情報課長）	「宮内庁管理下における博物館の活動について」	『皇室と東京帝室博物館』図録	東京国立博物館	21年10月	無
56	古文書および古典籍の修復と装幀形態に関する用語の研究（科学研究費補助金）	高橋裕次（博物館情報課長）	「漢籍善本紹介ー東京国立博物館（１）ー」	『新しい漢字漢文教育』第49号	全国漢文教育学会	21年11月	無
57	日本における木彫像の樹種と用材観に関する調査研究（科学研究費補助金）	金子啓明（特任研究員）ほか	「日本古代における木彫像の樹種と用材観Ⅲ―八・九世紀を中心に(補遺)―」	『MUSEUM』	東京国立博物館	22年4月予定	
58	東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究	島谷弘幸（学芸研究部長 ）	『和様の書』	日本の美術519	ぎょうせい	21年8月	無
59	東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究	島谷弘幸（学芸研究部長 ）	Calligrafia.Bellezza e Quotidianita（「書の実用と美」）	『Giappone Potere e Splendore 1568/1868』展覧会図録	24 ore motta culture	21 年 11 月	無
60	東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究	島谷弘幸（学芸研究部長 ）	「料紙の価値と保存ー唐紙を中心として」	『日本美術品の保存修復と装潢技術』４	クバプロ	21年12月	無
61	東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究	島谷弘幸（学芸研究部長 ）	「継承と創造、情報発信」	『現代の書　新春展　今いきづく墨の華』展覧会図録	毎日新聞社	22年1月	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
62	東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究	島谷弘幸（学芸研究部長 ）	「古筆における伝統と創造－世尊寺家を一例として」	『東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究』科研報告書	東京国立博物館	22年3月	無
63	東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究	高橋裕次（博物館情報課長）	「料紙の加工と装飾について」	『東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究』科研報告書	東京国立博物館	22年3月	無
64	東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究	恵美千鶴子（博物館情報課情報管理室アソシエイトフェロー）	「扇面法華経冊子模本－岡倉天心・小堀鞆音と帝国博物館の模写事業」	『MUSEUM』第621号	東京国立博物館	21年8月	有
65	東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究	恵美千鶴子（博物館情報課情報管理室アソシエイトフェロー）	「皇室建築と博物館」	『皇室と東京帝室博物館』図録	東京国立博物館	21年10月	無
66	東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究	恵美千鶴子（博物館情報課情報管理室アソシエイトフェロー）	「書と料紙を分けること－丹鶴図譜『岡寺切』を発端として」	『東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究』科研報告書	東京国立博物館	22年3月	無
67	東アジアの書画料紙における装飾加工と保存に関する総合的研究	高橋裕次（博物館情報課長）	「朝廷と和紙－図書寮紙屋院を中心に」	特別展「皇室の名宝」展覧会図録	東京国立博物館	21年10月	無
68	東京国立博物館所蔵ラグーザ寄贈資料の研究	土屋裕子（保存修復課保存修復室主任研究員）	「ヴィンチェンツォ・ラグーザによる博物館への寄贈品―東京国立博物館所蔵　工部美術学校の教材および習作を中心として―」	『東京国立博物館紀要　第45号　平成21年度』	東京国立博物館	22年3月31日	無
69	博物館環境デザインに関する調査研究	木下史青（企画課デザイン室長）	『Treasure×Pleasure -東京国立博物館の展示デザイン-』	文化資源学会誌 第7号	文化資源学会	21年3月	無
70	博物館環境デザインに関する調査研究	木下史青（企画課デザイン室長）	『魅力的な展覧会ディスプレイについて』	美連協ニュース No.104	美術館連絡協議会	21年11月	無
71	博物館環境デザインに関する調査研究	木下史青（企画課デザイン室長）	『〈応挙館で美術体験〉照明計画』	「応挙館で美術体験」	東京国立博物館	22年3月	無
72	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	村田良二（博物館情報課情報管理室研究員）	デジタル資料情報記述モデルに関するコメント	『デジタル化された博物館資料に関する情報記述法の研究』公開研究会資料集	国立歴史民俗博物館	21 年 10 月23日	無
73	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	村田良二（博物館情報課情報管理室研究員）	東京国立博物館収蔵品管理システム開発の経験から	第4回アート・ドキュメンテーション研究フォーラム「日本のアート・ドキュメンテーション－20年の達成』予稿集	アート・ドキュメンテーション学会	21年12月4日	無
74	博物館資料・業務の情報処理に関する調査研究	田良島哲（列品管理課登録室長）	博物館における業務情報の共有とIML（Inter-Museum Loan)システムの可能性	情報知識学会誌 Vol. 19 (2009) , No. 2 pp.70-73	情報知識学会	21年5月1日	無

【京都国立博物館】　27件

○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
1	近世絵画に関する調査研究	連携協力室長 山下善也	「回顧と展望（近世－美術）」	史学雑誌 118編-5号	史学会	5月	無
2	近世絵画に関する調査研究	連携協力室長 山下善也	「重厚な外観、軽快な画面 ―近世絵画史からみた初里帰りの画帖」	『THEハプスブルク』展図録	読売新聞社	9月	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
3	近世絵画に関する調査研究	連携協力室長 山下善也	「旅する画家の記録・記憶－池大雅の三岳紀行図屏風から－」	『日本の美　国宝との出会い』展図録	富山水墨美術館・北日本新聞社	10月	無
4	近世絵画に関する調査研究	連携協力室長 山下善也	「河鍋暁斎筆　地獄極楽めぐり図」	国華1370号（特輯幕末維新期の絵画－狩野派を中心に）	国華社	12月	有
5	近世絵画に関する調査研究	連携協力室長 山下善也	「等伯の生涯　晩年の画業」	『長谷川等伯　桃山画壇の変革者』別冊・太陽　日本のこころ166	平凡社	1月	無
6	近世絵画に関する調査研究	連携協力室長 山下善也	「『等伯画説』を読む」	『長谷川等伯　桃山画壇の変革者』別冊・太陽　日本のこころ166	平凡社	1月	無
7	近世絵画に関する調査研究	連携協力室長 山下善也	「水墨にみる等伯の輝き－円熟期から晩年へ」	『長谷川等伯』展図録	毎日新聞社	2月	無
8	訓点資料としての典籍に関する調査研究	上席研究員　赤尾栄慶	「宝幢院点の成立に関する一考察－源信・寂照・延殿・皇慶を巡って－」	『訓点語と訓点資料』	訓点語学会		無
9	彫刻に関する調査研究	主任研究員　淺湫毅	「静岡・建穂寺の彫刻作品について」	『学叢』第31号	京都国立博物館	5月	無
10	出土・伝世古陶磁に関する調査研究	工芸室長　尾野善裕	「帝国京都博物館の西洋陶磁収集」	『学叢』第31号	京都国立博物館	5月	無
11	出土・伝世古陶磁に関する調査研究	工芸室長　尾野善裕	「光悦・樂・乾山－日蓮法華宗と「やきもの」作り－」	『日蓮と法華の名宝－華ひらく京町衆文化』展図録	京都国立博物館・日本経済新聞社	10月	無
12	出土・伝世古陶磁に関する調査研究	工芸室長　尾野善裕		『東山61号窯発掘調査報告書』（編著）	名古屋大学大学院文学研究科考古学研究室	22年3月予定	無
13	出土・伝世古陶磁に関する調査研究	工芸室長　尾野善裕	作品解説	特別展覧会『GIAPPONE POSTERE E SPLENDORE 1568/1868』図録	Federico Motta Editore	12月	無
14	漆工芸に関する調査研究	主任研究員・永島明子	「オーストリアに伝わるミカドの贈り物―明治新政府の文化外交―」	『THEハプスブルク』展図録	読売新聞社	9月	無
15	漆工芸に関する調査研究	Curator, Meiko NAGASHIMA	“Japanese Lacquers Exported to Spanish America and Spain”.	Asia & Spanish America: Trans-Pacific Artistic & Cultural Exchange, 1500-1850. (Papers from the 2006 Mayer Center Symposium at the Denver Art Museum.)	Denver Art Museum.	12月	無
16	漆工芸に関する調査研究	Curator, Meiko NAGASHIMA	"Over de Makie-Decoratie op de Lakkoker van Hendrick van Buijtenhem".	Asiatische Kunst. (Publication of the Asian Art Society in the Netherlands c/o Rijksmuseum).	Vereniging van Vrienden der Aziatische Kunst.	12月	無
17	漆工芸に関する調査研究	主任研究員・永島明子	「厨房具・膳具」	「根来」	根来展実行委員会	3月	無
18	中国近代絵画に関する調査研究	学芸部長　西上　実	「中国近代絵画と京都国立博物館：国際研究拠点をめざして」	『清風会報』	清風会	1月	無
19	中国近代絵画に関する調査研究	学芸部長　西上　実	－	京都国立博物館編『中国近代絵画研究者国際交流集会論文集』	京都国立博物館	1月	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
20	京都十六本山をはじめとする日蓮法華宗寺院所蔵文化財の調査研究（特別展覧会「日蓮と法華の名宝」準備調査）	研究員　大原　嘉豊	「日本美術のススメ　今月の逸品　李晟「弥勒下生変相図」	『美術の窓』332号	生活の友社	9月	無
21	京都十六本山をはじめとする日蓮法華宗寺院所蔵文化財の調査研究（特別展覧会「日蓮と法華の名宝」準備調査）	研究員　大原　嘉豊	「日蓮法華宗美術試論」	『日蓮と法華の名宝－華ひらく京町衆文化』展図録	京都国立博物館	10月	無
22	長谷川等伯に関する調査研究	美術室長　山本英男	「信治時代の等伯筆金碧花鳥図屏風」	『学叢』第31号	京都国立博物館	5月	無
23	長谷川等伯に関する調査研究	美術室長　山本英男	「長谷川等伯、天下を取る－上洛後の二十年－」	『長谷川等伯』展図録	京都国立博物館	2月	無
24	長谷川等伯に関する調査研究	美術室長　山本英男	「長谷川等伯の生涯」	『名古屋　成田山』670号	成田山名古屋別院大聖寺	3月	無
25	長谷川等伯に関する調査研究	美術室長　山本英男	「没後400年　長谷川等伯」	『茶道雑誌』	河原書店	4月	無
26	長谷川等伯に関する調査研究	美術室長　山本英男	「京へ－雌伏の時代」	『別冊太陽』	平凡社	2月	無
27	特別展覧会「高僧と袈裟」の開催に向けての調査研究	主任研究員　山川　暁	「禅と伝法衣　事実と作為と」	『美術フォーラム21』	美術フォーラム21刊行会	5月	無

【奈良国立博物館】　22件

○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
1	南都諸社寺等に関する計画的な調査研究	斎木涼子（研究員）	図版解説	お水取り（差し込み図版）	奈良国立博物館	22年 2月6日	無
2	南都諸社寺等に関する計画的な調査研究	清水健（研究員）	総論　おん祭と春日信仰の美術	おん祭と春日信仰の美術	仏教美術協会	12月8日	無
3	南都諸社寺等に関する計画的な調査研究	北澤菜月（研究員）、斎木涼子（研究員）、清水健（研究員）、鈴木喜博（上席研究員）、谷口耕生（保存修理指導室長）、内藤榮（工芸考古室長）、永井洋之（ｱｿｼｴｲﾄﾌｪﾛｰ）、西山厚（学芸部長）、野尻忠（研究員）、森實久美子（ｱｿｼｴｲﾄﾌｪﾛｰ）	作品解説	おん祭と春日信仰の美術	仏教美術協会	12月8日	無
4	我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究	清水健（研究員）	神亀六年銘の漆柄香炉箱と白銅柄香炉の来歴	第六十一回正倉院展	奈良国立博物館	10月24日	無
5	我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究	内藤栄（工芸考古室長）	正倉院の刀子について	第六十一回正倉院展	奈良国立博物館	10月24日	無
6	我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究	稲本泰生（企画室長）、岩田茂樹（美術室長）、岩戸晶子（研究員）、北澤菜月（研究員）、斎木涼子（研究員）、清水健（研究員）、鈴木喜博（上席研究員）、谷口耕生（保存修理指導室長）、内藤栄（工芸考古室長）、永井洋之（ｱｿｼｴｲﾄﾌｪﾛｰ）、西山厚（学芸部長）、野尻忠（研究員）、森實久美子（ｱｿｼｴｲﾄﾌｪﾛｰ）、吉澤悟（教育室長）	作品解説	第六十一回正倉院展	奈良国立博物館	10月24日	無
7	我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究	稲本泰生（企画室長）	天平の脱活乾漆像	国宝の美　彫刻1	朝日新聞社	8月	無
8	我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究	谷口耕生（保存修理指導室長）	聖地寧波をめぐる信仰と美術	聖地寧波	奈良国立博物館	7月18日	無
9	我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究	斎木涼子（研究員）	宋版一切経の輸入	聖地寧波	奈良国立博物館	7月18日	無
10	我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究	内藤栄（工芸考古室長）	阿育王塔信仰と日本	聖地寧波	奈良国立博物館	7月18日	無
11	我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究	吉澤悟（教育室長）	寧波と博多を行き交うもの	聖地寧波	奈良国立博物館	7月18日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
12	我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究	北澤菜月（研究員）	「寧波仏画」の居場所	聖地寧波	奈良国立博物館	7月18日	無
13	我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究	西山厚（学芸部長）	寧波と禅	聖地寧波	奈良国立博物館	7月18日	無
14	我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究	岩戸晶子（研究員）	新安沈没船とその周辺	聖地寧波	奈良国立博物館	7月18日	無
15	我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究	稲本泰生（企画室長）、岩田茂樹（美術室長）、岩戸晶子（研究員）、北澤菜月（研究員）、斎木涼子（研究員）、清水健（研究員）、鈴木喜博（上席研究員）、谷口耕生（保存修理指導室長）、内藤栄（工芸考古室長）、永井洋之（ｱｿｼｴｲﾄﾌｪﾛｰ）、西山厚（学芸部長）、野尻忠（研究員）、吉澤悟（教育室長）	作品解説	聖地寧波	奈良国立博物館	7月18日	無
16	南都諸社寺等に関する計画的な調査研究、および我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究	西山厚（学芸部長）	鑑真和上の書状	唐招提寺金堂平成大修理記念　国宝鑑真和上展	TBS	4月4日	無
17	南都諸社寺等に関する計画的な調査研究、および我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究	稲本泰生（企画室長）、岩田茂樹（美術室長）、岩戸晶子（研究員）、清水健（研究員）、鈴木喜博（上席研究員）、谷口耕生（保存修理指導室長）、内藤栄（工芸考古室長）、西山厚（学芸部長）、野尻忠（研究員）	作品解説	唐招提寺金堂平成大修理記念　国宝鑑真和上展	TBS	4月4日	無
18	南都諸社寺等に関する計画的な調査研究、および我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究	湯山賢一（館長）	和紙のはじまり	美しの和紙	サントリー美術館	9月19日	無
19	南都諸社寺等に関する計画的な調査研究、および我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究	清水健（研究員）	水神社蔵線刻千手観音等鏡像雑攷	開館十周年記念特別展　東北の群像　みちのくの祈りの名宝	東北歴史博物館	9月19日	無
20	南都諸社寺等に関する計画的な調査研究、および我が国における仏教美術の展開と中国・韓国の仏教文化が及ぼした影響の調査研究	岩田茂樹（美術室長）、稲本泰生（企画室長）	監修・執筆	週刊朝日百科『国宝の美４　彫刻２飛鳥・白鳳の仏像』	朝日新聞出版	9月13日	無
21	南都諸社寺等に関する計画的な調査研究・奈良時代の仏教と東アジアの世界	岩田茂樹（美術室長）	法隆寺金堂四天王立像・補遺	「MUSEUMU」623号	東京国立博物館	12月15日	有
22	南都諸社寺等に関する計画的な調査研究・奈良時代の仏教と東アジアの世界	稲本泰生（企画室長）	東アジアの仏教と金石文	高田時雄編「漢字文化三千年」	臨川書店	7月	無

【九州国立博物館】　1件

○有形文化財の収集・保管・公衆への観覧にかかる調査・研究

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
1	室町時代の仏教絵画を中心とする東アジアの宗教美術に関する調査研究	畑靖紀（学芸部企画課特別展室研究員）	雪舟の中国絵画に対する認識をめぐって	『寧波の美術と海域交流』	東アジア美術文化交流研究会	9月25日	無

【東京文化財研究所】　38件

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進（14件）

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
1	民俗技術に関する調査・資料収集　無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究る調査研究	無形文化遺産部主任研究員 俵木　悟	大里七夕踊にみる民俗芸能の伝承組織の動態	『無形文化遺産研究報告』4	東京文化財研究所	2010.3	有

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
2	民俗技術に関する調査・資料収集　無形民俗文化財の保存・活用に関する調査研究る調査研究	無形文化遺産部客員研究員 服部比呂美	八朔の馬節供　西讃地方の団子馬製作を中心に	『無形文化遺産研究報告』4	東京文化財研究所	2010.3	有
3	東アジアの美術に関する資料学的研究	企画情報部研究員　皿井　舞	醍醐寺薬師三尊像と平安前期の造寺組織（下）	『美術研究』398号	東京文化財研究所	2009.8	無
4	東アジアの美術に関する資料学的研究	企画情報部長　田中　淳	序論―黒田清輝フランス語資料集のために	『黒田清輝フランス語資料集』	中央公論美術出版	2010.3	無
5	近現代美術に関する総合的研究	企画情報部文化形成研究室長 塩谷　純	「床の間の上の裸婦」	東京文化財研究所編『昭和期美術展覧会の研究　戦前篇』	中央公論美術出版	2009.4	無
6	近現代美術に関する総合的研究	企画情報部文化形成研究室長 塩谷　純	川端玉章の研究（二）	『美術研究』399号	東京文化財研究所	2010.1	無
7	近現代美術に関する総合的研究	企画情報部長　田中　淳	「統制」と「国際」の時代―戦中期の有島生馬を中心に	『昭和期美術展覧会の研究　戦前編』	中央公論美術出版	2009.4	無
8	近現代美術に関する総合的研究	企画情報部長　田中　淳	研究ノート　試論・「新しい女」と「風船を持つ女」―萬鉄五郎《風船を持つ女》の制作背景と表現	『美術研究』398号	東京文化財研究所	2009.8	無
9	近現代美術に関する総合的研究	企画情報部近・現代視覚芸術研究室長　山梨絵美子	Beyond Nationalism- an example of Japanese Modern Art	Art History and Nationalism	Seoul Korea	2009.9	無
10	近現代美術に関する総合的研究	企画情報部近・現代視覚芸術研究室長　山梨絵美子	黒田清輝の≪昔語り≫と白馬会の歴史主題―記紀神話主題の扱いをめぐって	『東アジア美術のモダンとモダニティー』	ハッコジェ社（ソウル）	2009.11	無
11	美術の技法・材料に関する高領域的研究	企画情報部文化財アーカイブス研究室長　津田徹英	研究資料　脱活乾漆像 菩薩立像	『美術研究』398号	東京文化財研究所	2009.8	無
12	美術の技法・材料に関する高領域的研究	企画情報部広領域研究室長 綿田　稔	「雲谷等顔筆「梅に鴉図」考―名嶋城御成書院から福岡城対面所へ―」	『美術研究』400号	東京文化財研究所	2010.3	無
13	無形文化財の保存・活用に関する調査研究	無形文化遺産部音声・映像記録研究室長　飯島　満	古典芸能の伝承と変遷―人形浄瑠璃文楽の場合	第32回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会報告書	東京文化財研究所	2010.3	無
14	無形文化財の保存・活用に関する調査研究	無形文化遺産部無形文化財研究室長　高桑いづみ	狂言小歌拍節遡源―狂言小歌は拍子合か拍子不合か―	『楽劇学』17号	楽劇学会	2010.3	有

○文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進（6件）

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
1	高精細デジタル画像の応用に関する調査研究	企画情報部文化財アーカイブス研究室長　津田徹英、保存修復科学センター分析科学研究室長　早川泰弘、企画情報部専門職員　城野誠治、企画情報部特別研究員（アソシエイトフェロー）鳥光美佳子	法隆寺金堂所在釈迦三尊像および薬師如来像台座（下座板絵）の光学調査	奈良国立博物館研究記要『鹿園雑集』18号	奈良国立博物館	2010.3	無
2	高精細デジタル画像の応用に関する調査研究	保存修復科学センター分析科学研究室長　早川泰弘、企画情報部専門職員　城野誠治	「春日権現験記絵披見台の光学調査」	『春日権現験記絵巻披見台調査報告書』	東京文化財研究所	2010.3	無
3	高精細デジタル画像の応用に関する調査研究	企画情報部研究員　江村知子	「春日権現験記絵披見台の表現について」	『春日権現験記絵巻披見台調査報告書』	東京文化財研究所	2010.3	無
4	高精細デジタル画像の応用に関する調査研究	企画情報部文化財アーカイブス研究室長　津田徹英	「春日権現験記絵披見台の金具について」	『春日権現験記絵巻披見台調査報告書』	東京文化財研究所	2010.3	無
5	文化財の非破壊調査法の研究	保存修復科学センター分析科学研究室長　早川泰弘ほか	国宝伴大納言絵巻の蛍光X線分析	保存科学49	東京文化財研究所	H22.3	有

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
6	文化財の非破壊調査法の研究	保存修復科学センター主任研究員　吉田直人	発光ダイオードを光源とした赤外線撮影について	保存科学49	東京文化財研究所	H22.3	有

○文化財の保存科学や修復技術に関する中心的な支援拠点として先端的調査研究等の推進（14件）

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
1	文化財の生物劣化対策の研究	客員研究員　藤井義久、保存修復科学センター生物科学研究室長　木川りか、保存修復科学センター副センター長　川野邊　渉ほか	穿孔抵抗測定法を用いた文化財建造物の構造部材の虫害評価に関する一考察（第２報）－日光輪王寺における虫害を事例として	保存科学49	東京文化財研究所	H22.3	有
2	文化財の生物劣化対策の研究	客員研究員　間渕創、保存修復科学センター生物科学研究室長　木川りか、保存修復科学センター保存科学研究室長　佐野千絵ほか	文化財公開施設等におけるATP拭き取り検査の活用について	保存科学49	東京文化財研究所	H22.3	有
3	文化財の保存環境の研究	客員研究員　呂　俊民、保存修復科学センター保存科学研究室長、佐野千絵	文化財保存のための保管空間に影響するガス放散体の簡易試験法	保存科学49	東京文化財研究所	H22.3	有
4	文化財の保存環境の研究	保存修復科学センター保存科学研究室長　佐野千絵	美術館・博物館に求められる設備機能	建築設備	（社）建築設備綜合協会	H22.2	無
5	文化財の保存環境の研究	保存修復科学センター長　石崎武志ほか	Lehmbaukonstructionen in Asien - Experimentelle und numerische Studien zur Umverteilung von Feuchte	Europaischer Sanierungs-kalender	Beuth Verlag	H21.4	有
6	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究	保存修復科学センター研究員森井順之、保存修復科学センター副センター長　川野邊　渉、客員研究員　柏谷博之	重要文化財及び史跡　熊野磨崖仏における磨崖仏表面のクリーニング	保存科学49	東京文化財研究所	2010.3	有
7	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究	保存修復科学センター研究員森井順之	Conservation Environment and Conservation Studies for Stone Heritages in Japan	Papers presented at the International Symposium of Conservation Science for Cultural Heritage 2008	韓国・国立文化財研究所	2009.12	無
8	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究	保存修復科学センター研究員森井順之、保存修復科学センター副センター長　川野邊　渉、客員研究員　柏谷博之	殺菌灯を用いた磨崖仏着生生物除去手法の実用化	2009日韓共同研究報告会―石造文化財の保存と修復―予稿集	東京文化財研究所／韓国・国立文化財研究所	2010.3	無
9	周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究	保存修復科学センター研究員森井順之ほか	赤外線サーモグラフィーによる石造文化財の劣化診断	2009日韓共同研究報告会―石造文化財の保存と修復―予稿集	東京文化財研究所／韓国・国立文化財研究所	2010.3	無
10	文化財の防災計画に関する調査研究	文化遺産国際協力センター主任研究員　二神葉子、保存修復科学センター研究員　森井順之ほか	Construction and Integration of GIS Databases for Risk Assessment of Nationally Designated Cultural Properties Due to Earthquakes and Typhoons in Japan	Papers presented at the 22nd CIPA Symposium	ICOMOS	2009.10	無
11	伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究	保存修復科学センター伝統技術研究室長　北野信彦、客員研究員　本多貴之	初期の日光社寺建造物に使用された赤色塗装材料に関する調査	保存科学　49	東京文化財研究所	2010.3	有
12	伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究	保存修復科学センター伝統技術研究室長　北野信彦	重要文化財 島田神社本殿の外観塗装材料に関する調査	重要文化財 島田神社本殿修理工事報告書	京都府教育委員会	2009.4	無

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
13	近代の文化財の保存修復に関する研究	保存修復科学センター近代文化遺産研究室長　中山俊介	Conservation and Utilization of Aircraft Heritage	Preservation and Utilization of Aircraft	東京文化財研究所	2010.2	無
14	近代の文化財の保存修復に関する研究	保存修復科学センター近代文化遺産研究室長　中山俊介	鉄構造物の保存と修復	鉄構造物の保存と修復	東京文化財研究所	2010.3	無

○文化財の保護制度や施策の国際的動向及び国際協力及び国際共同研究（4件）

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査研究	文化遺産国際協力センター主任研究員　朽津信明	屋内と屋外での来待石製石塔の風化の違い	『応用地質』50	日本応用地質学会	2010.2	有
2	アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査研究	文化遺産国際協力センター主任研究員　朽津信明	石材の風化とその計測法について	『埋蔵文化財の保存・活用における遺構露出展示の成果と課題』	奈良文化財研究所	2010.2	無
3	陝西省墳墓壁画の記録保存についての方法研究	文化遺産国際協力センター国際情報研究室長　岡田健、客員研究員　高林弘実・佐藤香子ほか	唐代節愍太子墓過道に描かれた人物像の壁画の彩色材料と制作技法に関する調査	保存科学 49	東京文化財研究所	2010.3	有
4	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業	客員研究員　松岡秋子、特別研究員　島津美子・邊牟木尚美・影山悦子、文化遺産国際協力センター地域環境研究室長　山内和也	タジキスタン国立古代博物館が所蔵するソグディアナ出土壁画の保存修復－カライ・カフカハ遺跡出土壁画ＫＨ7-1の事例－	保存科学 49	東京文化財研究所	2010.3	有

【奈良文化財研究所】 118件

○文化財に関する基礎的・体系的な調査・研究の推進（63件）

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	文化的景観に関する調査研究	惠谷浩子（研究員）	文化的景観の輪郭と多様性	奈良文化財研究所紀要2009	奈良文化財研究所	7月10日	無
2	文化的景観に関する調査研究	惠谷浩子（研究員）	住民意識の反映としての文化的景観	ランドスケープ研究vol.73 No.1	日本造園学会	4月	無
3	文化的景観に関する調査研究	惠谷浩子（研究員）	四万十川流域の文化的景観	文化的景観研究集会（第1回）報告書	奈良文化財研究所	12月	無
4	文化的景観に関する調査研究	清水重敦（景観研究室長）・惠谷浩子（研究員）	「条坊パターン」「宇治の文化的景観」「ため池」	朝日新聞「古代はいま」	朝日新聞社	7月-10月	無
5	文化的景観に関する調査研究	惠谷浩子（研究員）	「新たな遺産」「効率的な土地利用」「合理的な水利システム」「農地と森林」「恵みと脅威の二面性」「林業地と港町」「未来描く手掛かり」	高知新聞	高知新聞社	5月-6月	無
6	文化的景観に関する調査研究	清水重敦（景観研究室長）	都市に生まれたスキマ	新建築住宅特集284	新建築社	12月	無
7	文化的景観に関する調査研究	松本将一郎（アソシエイトフェロー）	小鹿田焼の里 -焼物の里の文化的景観-	遺跡学研究6	日本遺跡学会	11月	無
8	古都所在寺社の歴史資料等に関する調査研究	吉川聡（歴史研究室長）	興福寺の論義草奥書にみえる歴史―戦国時代南都の飢饉・一揆・武将―	奈良文化財研究所紀要2009	奈良文化財研究所	7月10日	無
9	古都所在寺社の歴史資料等に関する調査研究	吉川聡（歴史研究室長）	奈良加茂道の遡及的検討―近世伊賀道から古代東海道・恭仁京に及ぶ―	律令国家史論集	塙書房	22年2月	無
10	歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究	速見侑子（奈良県）・窪寺茂((財)文化財建造物保存技術協会)・清水重敦（景観研究室長）・渡邉晃宏（史料研究室長）	平城宮第一次大極殿復原－扁額に関する研究－	奈良文化財研究所紀要2009	奈良文化財研究所	7月10日	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
11	歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究	窪寺茂((財)文化財建造物保存技術協会)	平城宮大極殿復原－四神彩色の配置に関する研究－	奈良文化財研究所紀要2009	奈良文化財研究所	7月10日	無
12	歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究	清水重敦（景観研究室長）	近代京都における建築の継承と復古－京都府近代和風建築総合調査から－	奈良文化財研究所紀要2009	奈良文化財研究所	7月10日	無
13	歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究	黒坂貴裕（研究員）	茨木城出土筏欄間について	奈良文化財研究所紀要2009	奈良文化財研究所	7月10日	無
14	歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究	番光（研究員）・大林潤（研究員）	西トップ寺院の建築調査－2008年度の成果－	奈良文化財研究所紀要2009	奈良文化財研究所	7月10日	無
15	歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究	島田敏男（建造物研究室長）	日本における古代建築研究の現状と課題	第１回韓・中・日建築文化遺産保存学術会議	第１回韓・中・日建築文化遺産保存学術会議	12月	無
16	歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究	清水重敦（景観研究室長）	日本における建築文化遺産保存修理の歴史とその特質	第１回韓・中・日建築文化遺産保存学術会議	第１回韓・中・日建築文化遺産保存学術会議	12月	無
17	歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究	島田敏男（建造物研究室長）	観音寺遺跡出土の建築部材	シンポジウム　発掘調査からせまる阿波国府の実像	財団法人徳島県埋蔵文化財センター	9月	無
18	歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究	島田敏男（建造物研究室長）	大極殿の再現と日本の古代建築	別冊太陽 平城京	平凡社	22年1月	無
19	歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究	島田敏男（建造物研究室長）	大極殿の復原事業	月刊文化財No.556	第一法規	22年1月	無
20	歴史的建造物の保存・修復・活用の実践的研究	箱崎和久（遺構研究室長）	平城宮の寺院	月刊文化財No.556	第一法規	22年1月	無
21	平城宮跡東院地区（第446次）の発掘調査	鈴木智大（研究員）	平城宮東院地区（平城第446次）の調査	奈文研ニュースNo.36	奈良文化財研究所	22年3月	無
22	平城宮跡東院地区（第446次）の発掘調査	鈴木智大（研究員）	東院地区の調査－第446次	奈良文化財研究所紀要2010	奈良文化財研究所	22年6月	無
23	平城宮跡第一次大極殿院地区内庭広場（第454次）の発掘調査	大林潤（研究員）	平城宮第一次大極殿院の調査（平城第454次）	奈文研ニュースNo.34	奈良文化財研究所	9月	無
24	平城宮跡第一次大極殿院地区内庭広場（第454次）の発掘調査	大林潤（研究員）・今井晃樹（主任研究員）・芝康次郎（研究員）・森川実（研究員）	第一次大極殿院広場の調査－第454次	奈良文化財研究所紀要2010	奈良文化財研究所	22年6月	無
25	薬師寺（第457次）の発掘調査	箱崎和久（遺構研究室長）	薬師寺の調査	奈文研ニュースNo.34	奈良文化財研究所	12月	無
26	薬師寺（第457次）の発掘調査	箱崎和久（遺構研究室長）ほか	薬師寺境内の発掘調査―第457次	奈良文化財研究所紀要2010	奈良文化財研究所	22年6月	無
27	興福寺南大門跡（第458次）の発掘調査	森川実（研究員）・箱崎和久（遺構研究室長）・森先一貴（研究員）・芝康次郎（研究員）	興福寺南大門の調査―平城第458次	奈良文化財研究所紀要2010	奈良文化財研究所	22年6月	無
28	平城宮跡東方官衙地区（466次）の発掘調査	国武貞克（研究員）ほか	東方官衙地区の調査―第466次	奈良文化財研究所紀要2010	奈良文化財研究所	22年6月	無
29	平城宮跡東方官衙地区（466次）の発掘調査	国武貞克（研究員）	平城宮跡東方官衙地区の調査	奈文研ニュースNo.37	奈良文化財研究所	22年6月	無
30	藤原宮跡朝堂院地区の発掘調査	山本崇（主任研究員）・高橋知奈津（研究員）・豊島直博（主任研究員）・若杉智宏（研究員）・石田由紀子（特別研究員）	藤原宮跡大極殿院・朝堂院回廊の調査－飛鳥藤原第160次	奈良文化財研究所紀要2010	奈良文化財研究所	22年6月	無
31	藤原宮跡朝堂院地区の発掘調査	山本崇（主任研究員）	藤原宮跡大極殿院回廊の調査（飛鳥藤原第160次）	奈文研ニュースNo.35	奈良文化財研究所	12月	無
32	藤原宮跡朝堂院地区の発掘調査	高橋知奈津（研究員）	藤原宮跡大極殿院回廊の調査（飛鳥藤原第160次）	奈文研ニュースNo.36	奈良文化財研究所	22年3月	無
33	甘樫丘東麓遺跡の発掘調査	次山淳（考古第三研究室長）・小田裕樹（研究員）・石田由紀子（特別研究員）・木村理恵（特別研究員）	甘樫丘東麓遺跡の調査－飛鳥藤原第157次	奈良文化財研究所紀要2010	奈良文化財研究所	22年6月	無
34	甘樫丘東麓遺跡の発掘調査	番光（研究員）	甘樫丘東麓遺跡の調査－飛鳥藤原第161次	奈良文化財研究所紀要2010	奈良文化財研究所	22年6月	無
35	甘樫丘東麓遺跡の発掘調査	次山淳（考古第三研究室長）	甘樫丘東麓遺跡の調査（飛鳥藤原第157次）	奈文研ニュースNo.34	奈良文化財研究所	9月	無
36	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	木村理恵（特別研究員）・石田由紀子（特別研究員）	古宮遺跡の調査－第152-8次	奈良文化財研究所紀要2010	奈良文化財研究所	22年6月	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
37	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	石田由紀子（特別研究員）	大官大寺の縄文土器（２）	奈良文化財研究所紀要2010	奈良文化財研究所	22年6月	無
38	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	加藤雅士（任期付研究員）・松谷暁子	藤原宮跡出土土器付着炭化粒のSEM観察	奈良文化財研究所紀要2010	奈良文化財研究所	22年6月	無
39	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	西口壽生（客員研究員）	東海地方産陶硯について	奈良文化財研究所紀要2010	奈良文化財研究所	22年6月	無
40	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	木村理恵（特別研究員）	古宮遺跡の調査（飛鳥藤原第152-8次）	奈文研ニュースNo.33	奈良文化財研究所	6月	無
41	飛鳥・藤原京跡出土遺物・遺構に関する調査研究等	高田貫太（研究員）	奈文研ギャラリー(25)「花組」と「星組」－飛鳥寺の瓦－	奈文研ニュースNo.33	奈良文化財研究所	6月	無
42	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究	金甫相（韓国国立慶州文化財研究所）	韓・日発掘調査交流を行ってみて	奈文研ニュースNo.33	奈良文化財研究所	6月	無
43	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究	小池伸彦（企画調整室長）	遼寧省朝陽地区隋唐墓副葬品の調査	奈文研ニュースNo.34	奈良文化財研究所	9月	無
44	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究	玉田芳英（考古第二研究室長）	中国河南省文物考古局との共同研究	奈良文化財研究所紀要2010	奈良文化財研究所	22年6月	無
45	アジアにおける古代都城遺跡、生産遺跡、墓制及び陶磁器に関する中国、韓国との共同研究	城倉正祥（研究員）	漢魏洛陽城　北魏宮城3号建築遺構の発掘調査	奈良文化財研究所紀要 2010	奈良文化財研究所	22年6月	無
46	庭園に関する調査研究	平澤毅（遺跡整備研究室長）	造園遺産と目録作成の方向性について	平成21年度日本造園学会全国大会分科会講演集	日本造園学会	5月	無
47	庭園に関する調査研究	小野健吉（文化遺産部長）	古代の庭園	歴史と地理第625号日本史の研究(225)	山川出版社	6月	無
48	庭園に関する調査研究	粟野隆（研究員）	擬石・擬木を用いた近代和風庭園―琴ノ浦温山荘園の庭園調査から―	奈良文化財研究所紀要2009	奈良文化財研究所	7月	無
49	庭園に関する調査研究	粟野隆（研究員）	コンドルの庭園構成手法	ー丁倫敦と丸の内スタイル	求龍堂	9月	無
50	庭園に関する調査研究	粟野隆（研究員）	古河家の邸宅と旧西ヶ原本邸の庭園	日本庭園学会誌第21号	日本庭園学会	10月	無
51	庭園に関する調査研究	小野健吉（文化遺産部長）	奈良時代の浄土庭園－阿弥陀浄土院とその前身たる観無量寿院－	東アジアにおける理想郷と庭園に関する国際研究集会報告書	奈良文化財研究所	11月	無
52	庭園に関する調査研究	小野健吉（文化遺産部長）	近世の庭園	歴史と地理第630号日本史の研究(227)	山川出版社	12月	無
53	庭園に関する調査研究	小野健吉（文化遺産部長）	池庭から枯山水へ	季刊悠久第118号	おうふう	12月	無
54	庭園に関する調査研究	小野健吉（文化遺産部長）	平城宮・京の庭園	月刊文化財No.556	第一法規	22年1月	無
55	遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究	平澤毅（遺跡整備研究室長）	造園遺産と目録作成の方向性について	平成21年度日本造園学会全国大会分科会講演集	日本造園学会	5月	無
56	遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究	平澤毅（遺跡整備研究室長）・高妻洋成（保存修復科学研究室長）	遺構露出展示の今日的課題	奈良文化財研究所紀要2009	奈良文化財研究所	7月10日	無
57	遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究	平澤毅（遺跡整備研究室長）	「世界遺産」をめぐる現状と課題	世界遺産の普遍的価値	京都造形芸術大学　日本庭園・歴史遺産研究センター	8月	無
58	遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究	小野健吉（文化遺産部長）	特別史跡平城宮跡保存整備基本構想推進計画について	遺跡学研究第6号	日本遺跡学会	11月	無
59	遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究	平澤毅（遺跡整備研究室長）	遺産の類型	遺跡学研究第6号	日本遺跡学会	11月	無
60	遺跡の保存・整備・活用に関する調査研究	平澤毅（遺跡整備研究室長）	日本における文化遺産としての風致景観の保護と保全－特にその歴史と「名勝」の保護について－	国際学術シンポジウム「名勝の現況と展望」	韓国国立文化財研究所	10月	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
61	遺構の安定した公開・展示を行うことを目的とした事前調査法、保存技術並びに監視技術の開発的研究	脇谷草一郎（研究員）	Application of Resitivity Image Profiling Method for Hydrological Analysis in Soil Structural Remains	22nd CIPA Symposium	CIPA	10月11日	有
62	遺構の安定した公開・展示を行うことを目的とした事前調査法、保存技術並びに監視技術の開発的研究	高妻洋成（保存修復科学研究室長）	遺構露出展示の今日的課題	奈良文化財研究所紀要2009	奈良文化財研究所	7月10日	無
63	遺構の安定した公開・展示を行うことを目的とした事前調査法、保存技術並びに監視技術の開発的研究	脇谷草一郎（研究員）	土質遺構露出展示保存のための基礎的研究－土中水のポテンシャル制御による遺構安定化の試み－	保存科学	東京文化財研究所	22年3月	有

○文化財に関する新たな調査手法の研究・開発の推進（34件）

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	遺跡データベースの作成と公開	青木敬（研究員）	飛鳥・藤原地域における７世紀の門遺構	第13回古代官衙・集落研究集会　官衙と門	奈良文化財研究所	12月	無
2	遺跡の測量・探査における新たな技術の有効利用法の研究	渡辺芳郎（鹿児島大学教授）・金田明大（主任研究員）	鹿児島県日置市美山苗代川窯跡群の調査-分布調査・測量調査・物理探査の成果から-	金大考古65	金沢大学考古学研究室	11月30日	有
3	遺跡の測量・探査における新たな技術の有効利用法の研究	金田明大（主任研究員）	Application of a Low cost Laser Scanner for Archaeology in Japan	CIPA2009 Proceedings	CIPA	10月13日	有
4	遺跡の測量・探査における新たな技術の有効利用法の研究	清野陽一（京都大学大学院）・近藤康久（東京大学総合資料館）・ 金田明大（主任研究員）	Born Digital, Liberate from the Paper: A Case Study and Perspectives about Applications of Voice Recording and other Digital Recording Methods for the Archaeological Fieldwork	CIPA2009 Proceedings	CIPA	10月13日	有
5	遺跡の測量・探査における新たな技術の有効利用法の研究	金田明大（主任研究員）	Cultural GIS Construction and Utilization: Cases in Japan.	Management and Appreciation of Cultural Heritage Preservation Using GIS	大韓民国文化財庁	10月28日	無
6	年輪年代学研究	大河内隆之（年代学研究室長）・児島大輔（日本学術振興会特別研究員）	長徳寺木造薬師如来坐像の年輪年代調査	奈良文化財研究所紀要2009	奈良文化財研究所	7月10日	無
7	年輪年代学研究	降幡順子（主任研究員）・大河内隆之（年代学研究室長）	黒漆塗工具及び刀子の事前調査	奈良文化財研究所紀要2009	奈良文化財研究所	7月10日	無
8	年輪年代学研究	児島大輔（日本学術振興会特別研究員）	甲冑修復の精神史―近世における修復二例を中心に―	『サムライの美学―甲冑師明珍宗恭とそのコレクション―』展図録	早稲田大学會津八一記念博物館	9月	無
9	年輪年代学研究	児島大輔（日本学術振興会特別研究員）	正倉院宝物樹皮色袈裟について	奈良美術研究第10号	早稲田大学奈良美術研究所	22年3月	無
10	年輪年代学研究	光谷拓実（客員研究員）	年輪年代調査	月刊文化財554号	第一法規	11月	無

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
11	年輪年代学研究	光谷拓実（客員研究員）	Tree-ring dating: its precision and applications in Japan	Papers presented at the International Symposium of Conservation Science for Cultural Heritage 2008	National Research Institute of Cultural Heritage （大韓民国）	12月	無
12	年輪年代学研究	光谷拓実（客員研究員）・大河内隆之（年代学研究室長）	年輪年代法による法隆寺西院伽藍の総合的年代調査	佛教藝術308号	毎日新聞社	22年1月	有
13	遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究	松井章（埋蔵文化財センター長）	Year-round activities of the large wet shell mounds during the Jomon Period, JAPAN Over 3000 shellmounds are distributed in Japan.	ABSTRACTS OF THE 74TH ANNUAL MEETING	Society for American Archaeology	4月	無
14	遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究	松井章（埋蔵文化財センター長）	肉食の忌避と虚構−動物考古学からの視点−	日本文化人類学会第43回研究大会要旨集	日本文化人類学会第43回研究大会準備委員会	5月	無
15	遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究	松井章（埋蔵文化財センター長）	生き物と人間の考古学	ビオストーリー11	誠文堂新光社	7月	無
16	遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究	松井章（埋蔵文化財センター長）	トイレ考古学と生き物たち	ビオストーリー11	誠文堂新光社	7月	無
17	遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究	松井章（埋蔵文化財センター長）	動物考古学からみた中世の動物利用	動物と中世　獲る・使う・食らう 小野正敏、五味文彦、荻原三雄編	高志書院	7月	無
18	遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究	丸山真史（奈良県立橿原考古学研究所）・松井章（埋蔵文化財センター長）	中・近世における斃牛馬処理と骨角細工　−知覧・頴娃に残る海運資料と発掘調査速報展−	獣骨を運んだ仲覚兵衛と薩南の浦々	ミュージアム知覧	7月	無
19	遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究	山﨑健（研究員）・織田銑一（名古屋大学教授）	Changes in shell gathering in an early agricultural society at the head of Ise Bay, Japan.	Journal of Archaeological Science 36-9	Academic Press Ltd. (U.K.)	9月	有
20	遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究	松井章（埋蔵文化財センター長）	動物と関わった人々　−動物考古学からみた人と動物−	部落解放研究第４３回全国集会要旨集	部落解放研究第４３回全国集会中央実行委員会	10月	無
21	遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究	松井章（埋蔵文化財センター長）	里山の形成・縄文集落の景観から	第53回プリマーテス研究会記録　里山の自然-私たちは次世代に何を残すか−	日本モンキーセンター	10月	無
22	遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究	松井章（埋蔵文化財センター長）	西アフリカ　セネガル　シヌ・サルーム(Sine-Saloum)貝塚群	考古学研究56（3）通巻223	考古学研究会	12月	無
23	遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究	松井章（埋蔵文化財センター長）	環境考古学9 鳥類・両生類・爬虫類標本リスト	埋蔵文化財ニュース138	奈良文化財研究所埋蔵文化財センター	12月	無
24	遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究	松井章（埋蔵文化財センター長）・山﨑健（研究員）	DNA分析の行方	縄文時代の考古学12	同成社	22年1月	無
25	遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究	松井章（埋蔵文化財センター長）	粟津湖底遺跡の動物	よくわかる考古学	ミネルバ書房	22年3月	無
26	遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究	松井章（埋蔵文化財センター長）	弥生人の食生活	よくわかる考古学	ミネルバ書房	22年3月	無
27	遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究	松井章（埋蔵文化財センター長）	渡来した習俗・技術	よくわかる考古学	ミネルバ書房	22年3月	無

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
28	遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究	松井章（埋蔵文化財センター長）	動物とかかわった人びとの歴史-動物考古学からみた人と動物	入門講座　被差別部落(被差別民衆)の歴史	解放出版社	22年3月	無
29	遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究	丸山真史（奈良県立橿原考古学研究所）・松井章（埋蔵文化財センター長）	兵庫津遺跡第15次調査出土の動物遺存体	兵庫津遺跡第15次調査	神戸市教育委員会	22年3月	無
30	遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究	永井理恵（京都大学大学院生）・松井章（埋蔵文化財センター長）	東名遺跡出土の脊椎動物遺存体について	東名遺跡報告書	佐賀市教育委員会	22年3月	無
31	遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究	永井理恵（京都大学大学院生）・松井章（埋蔵文化財センター長）	東名遺跡出土の脊椎動物遺存体について（柱状サンプル）	東名遺跡報告書	佐賀市教育委員会	22年3月	無
32	遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究	永井理恵（京都大学大学院生）・松井章（埋蔵文化財センター長）	東名遺跡出土の骨角器製作と加工技術	東名遺跡報告書	佐賀市教育委員会	22年3月	無
33	遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究	松井章（埋蔵文化財センター長）	考古学からみた人・動物関係史	日本列島の野生生物と人	世界思想社	22年3月	無
34	遺跡出土の動物遺存体や古土壌の考古科学的分析による環境考古学研究	松井章（埋蔵文化財センター長）	Exploitation of plants and animals at the Jomon wetland site of Sakuramachi in Toyama, Japan	Relics of Old Deccency - Archaeological studies in later Prehistory- A Festschrift for Barry Raftery	Wordwell, Dublin	22年3月	有

○文化財の保存科学や修復技術に関する中心的な支援拠点として先端的調査研究等の推進（11件）

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	佐藤昌憲（客員研究員）	江戸時代における雛人形の頭髪に使用された黒染め生糸の保存に関する研究Ⅲ	文化財保存修復学会第31回大会研究発表要旨集	文化財保存修復学会	6月13日	無
2	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	佐藤昌憲（客員研究員）	藕糸に関する基礎研究（続）	文化財保存修復学会第31回大会研究発表要旨集	文化財保存修復学会	6月13日	無
3	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	高妻洋成（保存修復科学研究室長）	高松塚古墳壁画の材料調査	日本文化財科学会第26回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	7月11日	無
4	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	田村朋美（アソシエイトフェロー）	コバルト着色による紺色ガラス小玉の材質とその歴史的変遷	日本文化財科学会第26回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	7月11日	無
5	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	高妻洋成（保存修復科学研究室長）	金属錆が付着した繊維文化財を分析する場合の前処理について	日本文化財科学会第26回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	7月11日	無
6	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	高妻洋成（保存修復科学研究室長）	赤外分光法による出土有機質文化財の微量分析への実験的研究	日本文化財科学会第26回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	7月11日	無
7	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	降幡順子（主任研究員）	弥生・古墳時代出土紺色ガラス小玉の着色材の分析調査	日本文化財科学会第26回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	7月11日	無
8	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	高妻洋成（保存修復科学研究室長）	高松塚古墳壁画の材料調査（２）	日本文化財科学会第26回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	7月11日	無
9	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	高妻洋成（保存修復科学研究室長）	高松塚古墳壁画の材料調査（３）	日本文化財科学会第26回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	7月11日	無
10	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	高妻洋成（保存修復科学研究室長）	リグノフェノールを用いた出土木材の保存処理Ⅴ	日本文化財科学会第26回大会研究発表要旨集	日本文化財科学会	7月11日	無
11	考古資料の材質・構造の調査法及び保存・修復に関する実践的研究	降幡順子（主任研究員）	黒漆塗工具及び刀子の事前調査	奈良文化財研究所紀要2009	奈良文化財研究所	7月10日	無

○国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査研究の実施（3件）

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存活用に関する技術的協力	若杉智宏（研究員）・黒坂貴裕（研究員）・加藤雅士（任期付研究員）・高田貫太（研究員）・小田裕樹（研究員）	檜隈寺周辺の調査	奈良文化財研究所紀要2010	奈良文化財研究所	22年6月	無
2	国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存活用に関する技術的協力	黒坂貴裕（研究員）	檜隈寺周辺の調査（飛鳥･藤原159次）	奈文研ニュースNo.35	奈良文化財研究所	12月	無
3	国土交通省が行う国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区公園予定地の調査及び保存活用に関する技術的協力	若杉智宏（研究員）	檜隈寺周辺の調査（飛鳥･藤原159次）	奈文研ニュースNo.36	奈良文化財研究所	22年3月	無

○情報発信機能の強化　（1件）

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	文化財情報電子化の研究に基づくデータベースの充実	森本晋（文化財情報研究室長）ほか	考古遺物の時間属性表現を目的とした地理情報標準準拠の編年参照系モデル	地理情報システム学会講演論文集	地理情報システム学会	10月	無

○地方公共団体への協力等による文化財保護の質的向上（6件）

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	地方公共団体が行う平城京域発掘調査への援助・助言	浅野啓介（研究員）	海龍王寺旧境内の調査―第456次	奈良文化財研究所紀要2010	奈良文化財研究所	22年6月	無
2	地方公共団体が行う平城京域発掘調査への援助・助言	浅野啓介（研究員）	平城宮北方遺跡の調査―第459次	奈良文化財研究所紀要2010	奈良文化財研究所	22年6月	無
3	地方公共団体が行う平城京域発掘調査への援助・助言	国武貞克（研究員）	興福寺旧境内の調査　立会2009―7	奈良文化財研究所紀要2010	奈良文化財研究所	22年6月	無
4	地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区への発掘調査への援助・助言		2009年度 都城発掘調査部(飛鳥藤原地区)小規模調査等の概要	奈良文化財研究所紀要2011	奈良文化財研究所	22年7月	無
5	地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区への発掘調査への援助・助言	国武貞克（研究員）	興福寺旧境内の調査　立会2009―9	奈良文化財研究所紀要2012	奈良文化財研究所	22年8月	無
6	地方公共団体が行う飛鳥・藤原地区への発掘調査への援助・助言	国武貞克（研究員）	興福寺旧境内の調査　立会2009―10	奈良文化財研究所紀要2013	奈良文化財研究所	22年9月	無

【東京文化財研究所と奈良文化財研究所との共同研究】計14件

○国・地方公共団体の要請に応じた保存措置等のために必要な実践的な調査研究の実施（14件）

	研究テーマ	発表者（職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載年月日	レフェリー有無
1	文化庁が行う高松塚・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	保存修復科学センター生物科学研究室長　木川りか、保存修復科学センター保存科学研究室長　佐野千絵、客員研究員　安部倫子・中右恵理子・坪倉早智子、保存修復科学センター研究員　早川典子、保存修復科学センター副センター長　川野邊　渉、保存修復科学センター長　石崎武志ほか	高松塚古墳石室内・取合部および養生等で使用された樹脂等材料のかび抵抗性試験	保存科学　49	東京文化財研究所	2010.3	有
2	文化庁が行う高松塚・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	客員研究員　小椋大輔・鉾井修一、保存修復科学センター長　石崎武志ほか	過去の高松塚古墳石室内の温湿度解析（２）	保存科学　49	東京文化財研究所	2010.3	有
3	文化庁が行う高松塚・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	客員研究員　小椋大輔・鉾井修一、保存修復科学センター長　石崎武志ほか	過去の高松塚古墳石室内の温湿度変動解析（３）	保存科学　49	東京文化財研究所	2010.3	有
4	文化庁が行う高松塚・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	客員研究員　三村　衛、保存修復科学センター長 石崎武志ほか	高松塚古墳墳丘部の動的解析	保存科学　49	東京文化財研究所	2010.3	有
5	文化庁が行う高松塚・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	保存修復科学センター保存科学研究室長　佐野千絵、保存修復科学センター生物科学研究室長　木川りかほか	高松塚古墳石室内より分離された主要な微生物のギ酸・酢酸生成能	保存科学　49	東京文化財研究所	2010.3	有

	研究テーマ	発表者 （職名・名前）	論文テーマ	掲載誌名	発行元	掲載 年月日	レフェリー 有無
6	文化庁が行う高松塚・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	保存修復科学センター生物科学研究室長　木川りか、奈良文化財研究所　辻本与志一、保存修復科学センター副センター長　川野邊　渉、保存修復科学センター保存科学研究室長　佐野千絵ほか	高松塚古墳壁画修理施設における生物対策について	保存科学　49	東京文化財研究所	2010.3	有
7	文化庁が行う高松塚・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	保存修復科学センター生物科学研究室長　木川りか、保存修復科学センター保存科学研究室長　佐野千絵ほか	高松塚古墳・キトラ古墳石室内の微生物分離株のアルコール系殺菌剤資化性試験	保存科学　49	東京文化財研究所	2010.3	有
8	文化庁が行う高松塚・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	保存修復科学センター生物科学研究室長　木川りか、保存修復科学センター保存科学研究室長　佐野千絵ほか	高松塚古墳石室および周辺部由来カビの薬剤に対する馴化	保存科学　49	東京文化財研究所	2010.3	有
9	文化庁が行う高松塚・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	保存修復科学センター生物科学研究室長　木川りか、保存修復科学センター保存科学研究室長　佐野千絵ほか	高松塚古墳石室および周辺部由来カビの温度帯による生理的性状	保存科学　49	東京文化財研究所	2010.3	有
10	文化庁が行う高松塚・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	保存修復科学センター生物科学研究室長　木川りか、保存修復科学センター保存科学研究室長　佐野千絵、保存修復科学センター研究員　森井順之・早川典子、保存修復科学センター副センター長　川野邊　渉ほか	キトラ古墳の微生物調査結果と微生物対策について(2009)	保存科学　49	東京文化財研究所	2010.3	有
11	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	松村恵司（文化庁）・廣瀬覚（研究員）	高松塚古墳仮整備のための発掘調査	月刊文化財第547号	第一法規	4月	無
12	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	廣瀬覚（研究員）	高松塚古墳の墳丘仮整備工事が竣工	奈文研ニュース No.35	奈良文化財研究所	12月	無
13	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	廣瀬覚（研究員）	高松塚古墳の発掘調査－飛鳥藤原154次	奈良文化財研究所紀要2010	奈良文化財研究所	22年6月	無
14	文化庁が行う高松塚古墳・キトラ古墳の壁画の調査及び保存・活用に関する技術的協力	松村恵司（文化庁）・玉田芳英（考古第二研究室長）・廣瀬覚（研究員）	高松塚古墳とキトラ古墳	遺跡学研究第6号	日本遺跡学会	11月	無

a-⑤ 調査研究刊行物一覧

【東京国立博物館】

○調査研究刊行物

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
「ＭＵＳＥＵＭ」　６１９～６２４号	各1,900	美術館・博物館・大学・研究所等　2,742件(各457件)
「東京国立博物館紀要」４４号	800	美術館・博物館・大学等　334件
「東京国立博物館文化財修理報告」Ｘ	800	美術館・博物館・大学等　91件
「法隆寺献納宝物特別調査概報」ＸＸＸ　聖徳太子絵伝３	600	美術館・博物館・大学等　193件
研究図録『東京国立博物館所蔵骨角器集成』	600	美術館・博物館・大学等　327件
「東京国立博物館図版目録　近代彫刻篇」	600	美術館・博物館・大学等　161件
「東京国立博物館東洋美術100選」（英語版）	3000	―
「東京国立博物館東洋美術100選」（中国語版）	3000	―

○展覧会目録

刊　行　物　名		発行部数	配　　布　　先
特別展	「染付―藍が彩るアジアの器」	6800	美術館・博物館・大学等　110件
	「伊勢神宮と神々の美術」	―	美術館・博物館・大学等　110件
	「皇室の名宝―日本美の華―」	―	美術館・博物館・大学等　112件
	「国宝　土偶展」	―	美術館・博物館・大学等　112件
	「長谷川等伯」	―	美術館・博物館・大学等　112件
特集陳列	「趙之謙とその時代―趙之謙生誕180周年記念展―」	―	美術館・博物館・大学等　－件
	「皇室と東京帝室博物館」	2000	美術館・博物館・大学等　16件
	「東京国立博物館所蔵正倉院の織物」	2000	美術館・博物館・大学等　16件
	「よみがえる宮廷　有職の精華」	2000	美術館・博物館・大学等　16件
	「骨角器―人と動物たちとのかかわり」	2000	美術館・博物館・大学等　16件

【京都国立博物館】

○調査研究刊行物

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
研究紀要「学叢」第31号	740	美術館・博物館・大学等
文化財保存修理所　修理報告書5	450	大学・図書館・研究機関等

○展覧会目録

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
特別展覧会「シルクロード文字を辿って－ロシア探検隊収集の文物－」	―	美術館・博物館・大学等
特別展覧会「日蓮と法華の名宝－華ひらく京都町衆文化－」	―	美術館・博物館・大学等
特別展覧会「THEハプスブルク」	―	美術館・博物館・大学等

【奈良国立博物館】

○調査研究刊行物

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
東大寺法華堂仏像色彩文様写真デジタル画像目録	50部	研究分担者
春日権現験記披見台　共同研究調査報告書	300部	美術館・博物館・大学・研究所等
研究紀要　鹿園雑集　１2号	700部	美術館・博物館・大学・研究所等
奈良国立博物館だより （年4回）	春・夏・冬号 各20,000部 秋号　30,000部	美術館・博物館・大学・研究所等

○展覧会目録

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
唐招提寺金堂平成大修理記念　国宝　鑑真和上展	―	美術館・博物館・大学・研究機関等
聖地寧波	―	美術館・博物館・大学・研究機関等
第６１回正倉院展	―	美術館・博物館・大学・研究機関等
The 61th Annual Exhibiton of Shoso-in Treasures	―	美術館・博物館・大学・研究機関等
おん祭と春日信仰の美術	―	美術館・博物館・大学・研究機関等

【九州国立博物館】

○調査研究刊行物

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
神々の青銅器リーフレットvol.4　トピック展示「進化する博物館Ⅱ」～みる、きく、ふれる、神々の青銅器へのいざない～	6,000	美術館・博物館・研究機関等

○展覧会目録

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
京都　妙心寺　禅の至宝と九州・琉球	―	美術館・博物館・研究機関等

【東京文化財研究所】
○調査研究刊行物

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
東京文化財研究所年報	1,000	博物館・美術館・大学・研究機関等
東京文化財研究所概要	5,000	博物館・美術館・大学・研究機関等
東文研ニュース 第37～40号	各5,000	博物館・美術館・大学・研究機関等
東文研ニュースダイジェスト（東文研ニュース英語版）第6～7号	各5,000	博物館・美術館・大学・研究機関等
平成20年版　日本美術年鑑	600	博物館・美術館・大学・研究機関等
美術研究 398～400号	各400	博物館・美術館・大学・研究機関等
無形文化遺産研究　第4号	750	博物館・美術館・大学・研究機関等
第4回無形民俗文化財研究協議会報告書	500	博物館・美術館・大学・研究機関等
保存科学 49号	600	博物館・美術館・大学・研究機関等
第32回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会報告書	800	参加者、大学、研究機関、博物館・美術館等
黒田清輝フランス語資料集	400	博物館・美術館・大学等
平等院鳳凰堂仏後壁調査資料目録―近赤外線画像編―	400	博物館・美術館等
春日権現験記絵巻披見台調査報告書	300	博物館・美術館等
鈴木敬旧蔵寄贈図書目録	70	博物館・美術館・大学等
東京文化財研究所75年史　本文編	700	博物館・美術館・大学等
伊藤若冲「動植綵絵　全三十幅」	100	研究機関、博物館・美術館等
伝統的修復材料及び合成樹脂に関する調査研究報告書2009年度	300	図書館、博物館、美術館、研究機関、関係機関等
漆の保存と修復2009：Urushi 2009 International Course on Conservation of Japanese Lacquer	400	研修参加者、図書館、博物館、美術館、研究機関、関係機関等
漆工品の保存と修復2009：Conservation and restoration of Urushiware 2009	400	研修参加者、図書館、博物館、美術館、研究機関、関係機関等
Textbook Japanese Lacquer - Intermediate-	200	研修参加者、図書館、博物館、美術館、研究機関、関係機関等
第33回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会日本絵画の修復　―先端と伝統―（予稿集）	500	研究集会参加者、関係各所
2009日韓共同研究報告会―石造文化財の保存と修復―予稿集	500	研究集会参加者、関係各所
在外日本古美術品保存修復協力事業報告書　平成２１年版　（絵画／工芸）	1,000	図書館、博物館、美術館、研究機関、関係機関等
Preservation and Utlization of Aircraft Heritage	1,000	図書館、博物館、美術館、研究機関、関係機関等
鉄構造物の保存と修復	1,000	図書館、博物館、美術館、研究機関、関係機関等
アジア文化遺産国際会議報告書「中央アジアの文化遺産と日本の貢献」（日本語版）	500	図書館、博物館、美術館、研究機関、関係機関等
アジア文化遺産国際会議報告書「中央アジアの文化遺産と日本の貢献」（ロシア語版）	400	図書館、博物館、美術館、研究機関、関係機関等
アジア文化遺産国際会議報告書「自然災害によって被災した不動産文化財の修復と保存」（英語版）	400	図書館、博物館、美術館、研究機関、関係機関等
国際文化財保存修復研究会報告書「遺跡はなぜ残ってきたか」	400	研究会参加者、図書館、博物館、美術館、研究機関、関係機関等
アジア諸国における文化遺産を形作る素材の劣化と保存に関する調査・研究 平成21年度成果報告書	100	関係機関等
陝西省墳墓壁画の記録保存についての方法研究2009	50	関係機関等
敦煌壁画の保護に関する日中共同研究2009	500	図書館、博物館、美術館、研究機関、関係機関等
Preliminary Report on the Conservation of the Bamiyan Birch Bark Buddhist Manuscripts	500	図書館、博物館、美術館、研究機関、関係機関等
バーミヤーン遺跡の地下探査	250	図書館、博物館、美術館、研究機関、関係機関等
古代ペンジケントの壁画と彫塑― 古代ペンジケントの壁画の画法と保存 ― 古代ペンジケントの絵画と彫塑の研究、復元の試みと保存 ―	500	図書館、博物館、美術館、研究機関、関係機関等
タジキスタン国立古代博物館所蔵壁画断片の保存修復―2008年度（第１次～第４次ミッション）	500	図書館、博物館、美術館、研究機関、関係機関等
アジャンター壁画の保存修復に関する調査研究事業―2008年度（第１次ミッション）―	100	関係機関等
文化財展示収蔵施設におけるカビのコントロールについて	500	図書館、博物館、美術館、研究機関、関係機関等
Control of Molds in Museum Environments: Basic Strategies	250	図書館、博物館、美術館、研究機関、関係機関等
国際資料室蔵書目録	100	図書館、博物館、美術館、研究機関、関係機関等
文化財保護法令シリーズ　6　カザフスタン	300	国内外の大学、研究機関、博物館、図書館など
文化財保護法令シリーズ　7　キルギス	300	国内外の大学、研究機関、博物館、図書館など

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
文化財保護法令シリーズ　8　トルクメニスタン	300	国内外の大学、研究機関、博物館、図書館など
文化財保護法令シリーズ　9-al　フランス文化財法典（前編）	500	国内外の大学、研究機関、博物館、図書館など
Damage Assessment report of Cultural Heritage in West Sumatra	70	関係機関等
「アジャンター遺跡の保存修復に向けた専門家会議」報告書	100	関係機関等
「東京文化財研究所とインド考古局との壁画保存に関する拠点交流事業」平成21年度業務報告書	60	関係機関等
拠点交流事業モンゴル　平成21年度活動報告　―建造物保存修復研修プロジェクト―	100	関係機関等
モンゴル国ヘンティー県所在セルベン・ハールガ、アラシャ―ン・ハダ遺跡における平成21年度活動報告	200	関係機関等
「カライ・カフカハⅠ遺跡出土壁画資料集」写真編１	130	関係機関等
「東京文化財研究所と中央アジア諸国における文化財保護に関する拠点交流事業」タジキスタン国立古代博物館が所蔵する壁画断片の保存修復（第5次、6次、7次ミッション）平成21年度業務報告書	60	関係機関等
イエメン共和国　ハドラマウト地方洪水による被災文化遺産調査報告	180	関係機関等
Flood Damage Assessment Report of Cultural Heritage in Hadramaut, Yemen	60	関係機関等
経済開発協力と文化遺産国際協力	80	関係機関等
平成20年度諸国国際協力体制調査　オーストラリア国際協力体制に関する調査報告書	500	図書館、博物館、美術館、研究機関、関係機関等
被災文化遺産復旧に係る調査報告書	300	図書館、博物館、美術館、研究機関、関係機関等
Research Report on International Cooperation in the Recovery Process of Disaster-affected Cultural Heritage	300	図書館、博物館、美術館、研究機関、関係機関等
Research Report on International Cooperation in the Recovery Process of Disaster-affected Cultural Heritage (1) China	50	関係機関等
Research Report on International Cooperation in the Recovery Process of Disaster-affected Cultural Heritage (2) Thailand	50	関係機関等
Research Report on International Cooperation in the Recovery Process of Disaster-affected Cultural Heritage (3) Indonesia	50	関係機関等
被災文化遺産復旧に係る調査報告書（４）イラン	30	関係機関等
Research Report on International Cooperation in the Recovery Process of Disaster-affected Cultural Heritage (4) Iran	30	関係機関等
被災文化遺産復旧に係る調査報告書（５）ギリシア」	30	関係機関等
Research Report on International Cooperation in the Recovery Process of Disaster-affected Cultural Heritage (5) Greece	30	関係機関等
文化遺産国際協力事業紹介	800	図書館、博物館、美術館、研究機関、関係機関等
Japan’s International Cooperation in Heritage Conservation	500	図書館、博物館、美術館、研究機関、関係機関等
文化遺産国際協力の今後の展望　松浦ユネスコ事務局長講演会	330	図書館、博物館、美術館、研究機関、関係機関等

【奈良文化財研究所】

○調査研究刊行物

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
奈良文化財研究所紀要2009	3,300	大学、研究機関、図書館等
奈良文化財研究所概要2009	3,500	大学、研究機関、図書館等
奈文研ニュースNo.33～36号	各3,000	大学、研究機関、教育委員会等
埋蔵文化財ニュース138～141号	各2,500	教育委員会、図書館、博物館等
古代瓦研究Ⅳ	900	大学、研究機関等
古代瓦研究Ⅴ	900	大学、研究機関等
文化的景観研究集会（第1回）報告書	1,000	大学、研究機関等
文化的景観資料集　1 重要文化的景観の概要	1,000	大学、研究機関等
文化的景観研究集会（第2回）講演・報告資料集	1,000	大学、研究機関等
埋蔵文化財の保存・活用における遺構露出展示の成果と課題	1,500	大学、研究機関等
平安時代庭園に関する研究3－平成20年度古代庭園研究会報告書－	300	大学、研究機関等
東アジアにおける理想郷と庭園に関する国際研究会報告書（和文・英文）	和文500 英文1,000	大学、研究機関等

刊　行　物　名	発行部数	配　　布　　先
平城宮第一次大極殿の復原に関する研究　2　木部	700	大学、研究機関等
平城宮第一次大極殿の復原に関する研究　3　彩色・金具	700	大学、研究機関等
河南省黄冶窯発掘調査概報	600	大学、研究機関等
研究論集ⅩⅥ　鉄製武器の流通と初期国家形成	600	大学、研究機関等
平城宮発掘調査出土木簡概報(39)	1,000	大学、研究機関等
平城宮木簡７　本文編	600	大学、研究機関、教育委員会、図書館等
平城宮木簡７　図版編	600	大学、研究機関、教育委員会、図書館等
重要文化財建造物現状変更説明1959－1961 本文編	500	大学、研究機関、教育委員会、図書館等
重要文化財建造物現状変更説明1959－1961 図版編	500	大学、研究機関、教育委員会、図書館等
キトラ古墳壁画四神－青龍白虎－	5,000	館内観覧者等
北方騎馬民族のかがやき 三燕文化の考古新発見	4,000	館内観覧者等
冬期企画展　飛鳥の考古学2009	2,000	館内観覧者等
東アジア金属工芸史の研究12	600	館内観覧者等
地下の正倉院展－二条大路木簡の世界－	10,000	館内観覧者等
平城宮跡図録	3,000	館内観覧者等
アンコール遺跡群西トップ寺院 遺跡保全プロジェクト（1・2）	各1,000	来訪者等
甘樫丘東麓遺跡	2,000	現地説明会見学者等
藤原宮大極殿院回廊の調査	2,000	現地説明会見学者等
平城宮跡（日本語版・英語版・中国語版・韓国語版）	日本語版10,000 英語版1,000 中国語版1,000 韓国語版1,000	宮跡来訪者等
朱雀門（日本語版・英語版・中国語版・韓国語版）	日本語版10,000 英語版1,000 中国語版1,000 韓国語版1,000	宮跡来訪者等
東院庭園（日本語版・英語版）	日本語版3,000部 英語版1,000部	宮跡来訪者等
第一次大極殿（日本語版・英語版）	日本語版1,000部 英語版1,000部	宮跡来訪者等
平城宮跡ガイド（日本語版・英語版・中国語版・韓国語版）	日本語版80,000 英語版3,000 中国語版3,000 韓国語版3,000	宮跡来訪者等

a-⑥ 科学研究費補助金による調査研究

国立文化財機構	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
86件	14件	2件	3件	10件	20件	37件

【東京国立博物館】14件

	研究テーマ	名前	役職	区分	予算(千円)
1	博物館教育・普及事業の事例分析と日本の伝統文化に関する先駆的教育・普及理論の構築	井上　洋一	学芸企画部企画課長	基盤研究(A)	12,090
2	東アジアの書道史における料紙と書風に関する基礎的研究	島谷　弘幸	学芸研究部長	基盤研究(B)	6,630
3	日本における木彫像の樹種と用材観に関する調査研究	金子　啓明	特任研究員	基盤研究(B)	2,600
4	国立博物館の機能と役割の変遷に関する基礎的研究―館史資料の分析を中心に―	丸山　士郎	学芸企画部博物館情報課情報管理室長	基盤研究(C)	1,690
5	博物館における文化遺産の保全と持続的公開を目指した包括的保存システムの研究	神庭　信幸	学芸研究部保存修復課長	基盤研究(S)	13,910
6	東京国立博物館所蔵・正倉院関係資料の研究―「正倉院裂」を中心に―	澤田　むつ代	特任研究員	基盤研究(B)	2,990
7	文化財保護の歴史に関する基礎的研究	高橋　裕次	学芸企画部博物館情報課長	基盤研究(B)	5,200
8	随唐時代の仏舎利信仰と荘厳に関する総合的調査研究	加島　勝	学芸企画部博物館教育課長	基盤研究(B)	6,370
9	原三溪旧蔵近代絵画・彫刻に関する基礎的研究	植田　彩芳子	学芸研究部企画課特別展室任期付研究員	若手研究(B)	1,040
10	高度な復元作業のための制作空間の情報化	河内　晋平	学芸研究部調査研究課貸与特別観覧室アソシエイトフェロー	若手研究(スタートアップ)	1,118
11	狩野晴川院養信筆「法隆寺什物図」の研究	安藤　香織	学芸研究部調査研究課貸与特別観覧室アソシエイトフェロー	若手研究(スタートアップ)	741
12	東京国立博物館所蔵古文書データベース	高梨　真行	学芸企画部博物館教育課ボランティア室研究員	研究成果公開促進費（データベース）	1,600
13	東京国立博物館所蔵写真資料データベース	富田　淳	学芸研究部調査研究課長	研究成果公開促進費（データベース）	2,400
14	東京国立博物館所蔵印譜データベース	関　紀子	学芸研究部調査研究課絵画・彫刻室任期付研究員	研究成果公開促進費（データベース）	1,900

【京都国立博物館】　2件

	研究テーマ	名前	役職	区分	予算(千円)
1	日本における木の造形的表現とその文化的背景に関する総合的考察	佐々木　丞平	館長	基盤研究（A）	8,320
2	建仁寺両足院に所蔵される五山文学関係典籍類の調査研究	赤尾　栄慶	学芸部上席研究員	基盤研究（B）	4,290

【奈良国立博物館】　3件

	研究テーマ	名前	役職	区分	予算(千円)
1	奈良時代の仏教美術と東アジアの文化交流	湯山　賢一	館長	基盤研究(A)	6,500
2	古墳時代中期における対外交渉の特質と地域圏の形成・展開過程	吉澤　悟	学芸部教育室長	基盤研究(C)	1,430
3	統一新羅期の道具瓦集成	岩戸　晶子	学芸部工芸考古室研究員	若手研究(B)	1,300

【九州国立博物館】　10件

	研究テーマ	名前	役職	区分	予算(千円)
1	ＶＲ画像を活用した日本装飾古墳デジタルアーカイブの構築	河野　一隆	学芸部企画課 文化交流展室長	基盤研究（Ａ）	17,420
2	Ｘ線ＣＴスキャナーによる中国古代青銅器の構造技法解析	今津　節生	学芸部博物館科学課 環境保全室長	基盤研究（Ｂ）	9,100

	研究テーマ	名前	役職	区分	予算（千円）
3	トルキ山遼墓出土品から見た唐滅亡後の東アジアにおける工芸技術	臺信　祐爾	学芸部文化財課長	基盤研究（Ｂ） 海外	5,070
4	アジアの木地螺鈿－その源流、正倉院宝物への道をたどる－	小林　公治	学芸部文化財課 資料管理室長	基盤研究（Ｃ）	2,210
5	近代工芸の美術史・産業史・地域史の基礎資料としての内国勧業博覧会出品作品の研究	伊藤　嘉章	学芸部長	基盤研究（Ｃ）	1,560
6	被災した近現代歴史資料の救済のための簡便な真空凍結乾燥法の開発	村田　忠繁	学芸部特任研究員	基盤研究（Ｃ）	910
7	五胡十六国から北魏時代の出土陶俑に関する基礎研究	市元　塁	学芸部企画課研究員	若手研究（Ｂ）	1,430
8	埴輪に認められる赤色顔料についての基礎的研究	志賀　智史	学芸部博物館科学課 研究員	若手研究（Ｂ）	1,040
9	室町時代の仏教絵画を中心とする東アジアの宗教美術に関する調査研究	畑　靖紀	学芸部企画課研究員	若手研究（Ｂ）	910
10	近世初期日本絵画における粉本使用例の基礎調査	金井　裕子	学芸部企画課研究員	若手研究（Ｂ）	780

【東京文化財研究所】　20件

	研究テーマ	名前	役職	区分	予算（千円）
1	高松塚古墳壁画劣化要因微生物の遺伝・表現形質等基礎データの総合的構築	佐野　千絵	保存修復科学センター 保存科学研究室長	基盤研究（Ａ）	7,930
2	タンロン皇城遺跡の保存活用に関する包括的調査研究	清水　真一	文化遺産国際協力センター長	基盤研究（Ａ） （海外）	12,090
3	歴史的建造物を構成する部材の劣化と対策	石﨑　武志	保存修復科学センター長	基盤研究（Ｂ）	6,110
4	諸先学の作品調書・画像資料類の保存と活用のための研究・開発－美術史家の眼を引継ぐ	田中　淳	企画情報部長	基盤研究（Ｂ）	5,200
5	民俗芸能保護における「記録選択」の意義に関する調査研究	宮田　繁幸	無形文化遺産部長	基盤研究（Ｃ）	780
6	建築文化財における外観塗装材料の変遷と新塗料開発に関する研究	北野　信彦	保存修復科学センター 伝統技術研究室長	基盤研究（Ｃ）	910
7	燻蒸剤等各種殺虫・殺菌処理が文化財のタンパク質材質へ及ぼす影響の科学的検討	木川　りか	保存修復科学センター 生物科学研究室長	基盤研究（Ｃ）	1,170
8	古文書および古典籍の修復と装幀形態に関する用語の研究	加藤　雅人	保存修復科学センター研究員	基盤研究（Ｃ）	2,730
9	古楽器の形態変化及びジャンル間の交流に関する総合研究	高桑いづみ	無形文化遺産部 無形文化財研究室長	基盤研究（Ｃ）	910
10	文化財の被災履歴データベースによる脆弱性評価と保存計画策定への活用に関する研究	二神　葉子	文化遺産国際協力センター 主任研究員	基盤研究（Ｃ）	2,210
11	日本絵画材料の時代的変遷に関する調査研究	早川　泰弘	保存修復科学センター 分析科学研究室長	基盤研究（Ｃ）	1,950
12	大村西崖の研究	塩谷　純	企画情報部 文化形成研究室長	基盤研究（Ｃ）	1,300
13	移動が困難な文化財のためのエックス線を用いた非破壊調査手法の構築	犬塚　将英	保存修復科学センター 主任研究員	若手研究（Ａ）	2,860
14	江戸前期町絵師の活動状況についての研究－尾形光琳を中心に	江村　知子	企画情報部研究員	若手研究（Ｂ）	780
15	西アジア・トランスコーカサスにおける初期農耕経済の受容過程に関する考古学研究	有村　誠	文化遺産国際協力センター 特別研究員	若手研究（Ｂ）	1,040
16	石窟壁画の劣化に影響を与える環境要素の予測と定量化に関する研究	宇野　朋子	文化遺産国際協力センター 特別研究員	若手研究（Ｂ）	650
17	「エフタル期」の図像資料の特定と考察：バーミヤン、ソグド、クチャを中心に	影山　悦子	文化遺産国際協力センター 特別研究員	若手研究（Ｂ）	1,430
18	デジタルカメラを用いた文化財資料表面付着物の簡便な判別方法の研究	吉田　直人	保存修復科学センター 主任研究員	若手研究（Ｂ）	1,950
19	無形の民俗文化財の保護事業の実態と効果に関する民族誌的研究	俵木　悟	無形文化遺産部 主任研究員	若手研究（Ｂ）	1,300
20	中世仏教絵巻の制作・享受・交流の「場」とその文化史的背景に関する調査研究	土屋　貴裕	企画情報部研究員	若手研究 （スタートアップ）	1,365

【奈良文化財研究所】37件

	研究テーマ	名前	役職	区分	予算（千円）
1	木簡など出土文字資料釈読支援システムの高次化と総合的研究拠点データベースの構築	渡邉　晃宏	都城発掘調査部史料研究室長	基盤研究（Ｓ）	20,020
2	遺跡出土の建築部材に関する総合的研究	島田　敏男	文化遺産部建造物研究室長	基盤研究（Ａ）	13,390
3	東アジアにおける家畜の伝播とその展開に関する動物考古学的研究	松井　章	埋蔵文化財センター長	基盤研究（Ａ）	8,320
4	ミリ波およびテラヘルツ波を用いた文化財の新たな非破壊診断技術の開発研究	高妻　洋成	埋蔵文化財センター保存修復科学研究室長	基盤研究（Ａ）	25,870
5	大極殿院の思想と文化に関する研究	今井　晃樹	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（Ｂ）	1,560
6	マイクロフォーカスＸ線ＣＴを用いた非破壊年輪年代法による木彫神像の研究	大河内　隆之	埋蔵文化財センター年代学研究室長	基盤研究（Ｂ）	5,720
7	日本初期貨幣史の再構築	次山　淳	都城発掘調査部考古第三研究室長	基盤研究（Ｂ）	4,810
8	南都における廃仏毀釈後の資料動態に関する調査研究	吉川　聡	文化遺産部歴史研究室長	基盤研究（Ｂ）	4,290
9	蓄積型自然放射線量とＸ線分析による古代ガラス・セラミックス材質の考古科学的研究	降幡　順子	都城発掘調査部主任研究員	基盤研究（Ｃ）	1,300
10	文化的資産としての名勝地の概念とその適用に関する基礎的研究	平澤　毅	文化遺産部遺跡整備研究室長	基盤研究（Ｃ）	1,690
11	青銅製祭器の生産と流通からみた弥生時代の社会変化の研究	難波　洋三	都城発掘調査部考古第一研究室長	基盤研究（Ｃ）	780
12	古代の鉛調整加工技術に関する考古学的研究	小池　伸彦	企画調整部企画調整室長	基盤研究（Ｃ）	1,170
13	中国産木材の顕微鏡的特徴に関するデータベースの構築	伊東　隆夫	埋蔵文化財センター客員研究員	基盤研究（Ｃ）	1,560
14	古代律令国家の官衙と寺院の占地に関する比較研究	小澤　毅	埋蔵文化財センター遺跡・調査技術研究室長	基盤研究（Ｃ）	1,300
15	発掘調査成果の総合的な機械可読化に関する研究	森本　晋	企画調整部文化財情報研究室長	基盤研究（Ｃ）	1,430
16	古代都城儀式の歴史的変遷にかんする研究	山本　崇	都城発掘調査部主任研究員	若手研究（Ｂ）	1,430
17	縄文時代における、縄文原体からみた社会構造変化	石田　由紀子	都城発掘調査部特別研究員	若手研究（Ｂ）	390
18	木簡の構文・文字表記パターンの解析・抽出研究	馬場　基	都城発掘調査部主任研究員	若手研究（Ｂ）	1,170
19	弥生・古墳時代における東アジア墳墓出土鉄製武器の比較研究	豊島　直博	都城発掘調査部主任研究員	若手研究（Ｂ）	1,040
20	古代工房の復原的比較研究－埴輪・須恵器・瓦の工房を中心に－	城倉　正祥	都城発掘調査部研究員	若手研究（Ｂ）	780
21	古代中世東アジアにおける八角塔・八角堂の構造と意匠に関する研究	箱崎　和久	都城発掘調査部遺構研究室長	若手研究（Ｂ）	910
22	近世建造物の年代測定を目指した日本産ツガ属の年輪年代学的研究	藤井　裕之	埋蔵文化財センター客員研究員	若手研究（Ｂ）	650
23	南都諸大寺の中世寺院への転成過程に関する建築史学的研究	大林　潤	都城発掘調査部研究員	若手研究（Ｂ）	1,170
24	近代日本における洋風庭園の様式形成過程と空間デザインに関する研究	粟野　隆	文化遺産部研究員	若手研究（Ｂ）	650
25	人骨に認められる刑罰痕の研究-打ち首・さらし首を例として-	橋本　裕子	埋蔵文化財センター客員研究員	若手研究（Ｂ）	3,120
26	造瓦からみた6～8世紀の日朝交渉	高田　貫太	都城発掘調査部研究員	若手研究（Ｂ）	1,170
27	オセアニア島嶼環境へのラピタ人の適応戦略を探る先史学的研究	石村　智	企画調整部研究員	若手研究（Ｂ）	1,560
28	古代日韓における土木技術の系譜にかんする考古学的研究	青木　敬	都城発掘調査部研究員	若手研究（Ｂ）	1,430
29	東アジアにおける失蠟法の出現と展開に関する考古学的研究	丹羽　崇史	企画調整部研究員	若手研究（Ｂ）	1,560
30	古代東アジアにおける都城と葬送地に関する考古学的研究	小田　裕樹	都城発掘調査部研究員	若手研究（Ｂ）	780
31	校倉造りの歴史的変遷と地域特性に関する研究	黒坂　貴裕	都城発掘調査部研究員	若手研究（Ｂ）	1,690
32	復原設計を方法とする東アジア古代建築の空間及び造形原理の解明	清水　重敦	文化遺産部景観研究室長	若手研究（Ｂ）	2,080
33	中世日本と中国における木造建築の架構システムに関する比較研究	鈴木　智大	都城発掘調査部研究員	若手研究（Ｂ）	1,430
34	動物遺存体に残された解体痕跡の基礎的研究	山崎　健	埋蔵文化財センター研究員	若手研究（スタートアップ）	1,547
35	更新世末期における社会変化の研究	国武　貞克	都城発掘調査部研究員	若手研究（スタートアップ）	1,560
36	木簡の字形分析による日本古代の異体字の基礎的研究	井上　幸	都城発掘調査部特別研究員	若手研究（スタートアップ）	1,404
37	東アジアにおける古本州島後期旧石器文化の特殊性とその形成過程の研究	森先　一貴	都城発掘調査部研究員	若手研究（スタートアップ）	1,014

a-⑦ 客員研究員一覧

国立文化財機構	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	東京文化財研究所	奈良文化財研究所
96人	13人	5人	5人	2人	45人	26人

【東京国立博物館】 13人

	氏　名（所　属）	研　究　課　題
1	田辺　龍太(財団法人切手の博物館学芸員)	東京国立博物館所蔵の切手に関する調査研究
2	水上嘉代子(財団法人遠山記念館学芸員)	東京国立博物館所蔵近世日本染織に関する研究
3	大脇　　潔(近畿大学文芸学部教授)	東京国立博物館所蔵古瓦の整理および、東京国立博物館所蔵の藤原宮および藤原京内寺院出土瓦に関する研究
4	金子　浩昌(日本考古学協会会員)	東京国立博物館所蔵原始・古代骨角製品に関する研究
5	東野　治之(奈良大学文学部教授)	法隆寺献納宝物「古今目録抄」に関する研究
6	小笠原小枝(日本女子大学家政学部教授)	東京国立博物館所蔵のインド更紗に関する研究
7	宮下　佐江子(古代オリエント博物館学芸課長)	西アジア古代ガラスの研究
8	沢田　正昭(国士舘大学２１世紀アジア学部教授)	金銅製考古遺物の保存と修理の研究
9	小野　博(美術刀剣研磨技師)	刀剣コレクションに関する保存状態の評価と保存修理の対策
10	松田　清(京都大学大学院人間・環境学研究科教授)	東京国立博物館所蔵の洋書及び関連資料の調査研究
11	丸山　清志(城西国際大学物質文化研究センター　研究員・助手)	東洋民族オセアニア採集品の調査研究
12	松原　茂(財団法人根津美術館学芸部長)	東京国立博物館所蔵の絵画に関する研究
13	湊　信幸(前副館長)	東京国立博物館所蔵の絵画に関する研究

【京都国立博物館】 5人

	氏　名（所　属）	研　究　課　題
1	奥平　俊六（大阪大学大学院文学研究科教授）	等伯に関する調査研究
2	山田　奨治（国際日本文化研究センター研究部准教授）	文化財情報に関する調査研究
3	宇都宮　啓吾（大阪大谷大学文学部教授）	訓点資料としての典籍に関する調査研究
4	狩野　博幸（同志社大学文化情報学部教授）	近世絵画に関する調査研究
5	井上　一稔（同志社大学文学部教授）	彫刻に関する調査研究

【奈良国立博物館】 5人

	氏　名（所　属）	研　究　課　題
1	井出誠之輔（九州大学大学院人文科学研究院教授）	仏教絵画の調査及び整理
2	木村法光（元宮内庁正倉院事務所保存課長）	漆工品の調査及び研究
3	森　　郁夫（帝塚山大学人文学部教授）	飛鳥・奈良時代の仏教考古、斑鳩地区出土瓦の調査及び整理
4	根立研介（京都大学大学院文学研究科教授）	仏教彫刻の調査と整理
5	板倉聖哲（東京大学東洋文化研究所准教授）	中国・朝鮮絵画の調査及び整理

【九州国立博物館】 2人

	氏　名（所　属）	研　究　課　題
1	篠﨑　悠美子（別府大学文学部教授）	文化財の保存修復に関する研究
2	上宮　健吉(久留米大学比較文化研究所特別研究員)	文化財の生物被害対策について

【東京文化財研究所】45人

	氏　名（所　属）	研　究　課　題
1	吉田千鶴子（東京藝術大学非常勤講師）	文化財資料データベースの構築に関する研究
2	相澤正彦（成城大学教授）	研究プロジェクト「東アジアの美術に関する資料学的研究」の調査研究と研究助言
3	三上　豊（和光大学教授）	近・現代美術の調査研究および関連資料の整理・収集・公開に関する調査研究
4	森下正昭（立命館アジア太平洋大学AACSBプロジェクトマネージャー）	研究プロジェクト「東アジアの美術に関する資料学的研究」の調査研究と研究助言
5	中村佳史（国立情報学研究所研究員）	研究所アーカイブにおける情報の横断検索の構築のための調査研究と研究所言
6	丸川雄三（国立情報学研究所特任准教授）	近・現代美術の調査研究および関連資料の整理・収集・公開に関する調査研究
7	福岡（深津）裕子（女子美術大学・多摩美術大学非常勤講師）	工芸技術（主として染織関係）の伝承実態の調査
8	森下愛子	工芸技術（主として陶芸）の伝承実態の調査

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
9	服部比呂美（国立国会図書館国際子ども図書館非常勤調査員）	無形民俗文化財における風俗・慣習及び民俗技術分野の調査
10	大島暁雄	「民族技術」及び民俗芸能以外の「風俗・慣習」に関する調査研究
11	星野　紘	「文化遺産国際拠点交流事業」における海外諸機関との研究交流
12	三浦定俊（(財)文化財虫害研究所理事長）	光学的方法による文化財の技法材料に関する研究
13	藤井義久（京都大学農学部准教授）	文化財の生物劣化対策の研究
14	呂　俊民	文化財公開施設の室内空気汚染と空気清浄化に関する研究
15	三村　衛（京都大学防災研究所准教授）	古墳墳丘部の地盤工学的調査・研究
16	白石靖幸（北九州市立大学准教授）	環境のシミュレーション手法の研究
17	小椋大輔（京都大学助教）	環境のシミュレーション手法の研究
18	間渕　創	保存環境調査や科学的手法による材料同定、薬剤等の材料影響に関する科学的分析・研究
19	板垣義郎（(株)ＡＣＭ）	修復材料に関する調査・研究
20	舘川　修	伝統材料に関する調査研究
21	横山晋太郎	近代文化遺産の保存修復に関する調査・研究
22	長島宏行（(財)日本航空協会）	近代の文化遺産の保存修復、特に航空機保存に関する調査・研究
23	小堀信幸（(財)船の科学館）	近代文化遺産の保存修復に関する調査・研究
24	中右恵理子	キトラ古墳及び高松塚古墳壁画修復に関する調査研究
25	安倍倫子（ＳＤラボラトリー）	キトラ古墳及び高松塚古墳壁画修復に関する調査研究
26	本田貴之	文化財の伝統的修復に関する調査研究
27	大林賢太郎（京都造形芸術大学準教授）	修復材料に関する調査研究
28	中條利一郎（帝京科学大学名誉教授）	修復材料に関する調査研究
29	坪倉早智子	キトラ古墳及び高松塚古墳壁画修復に関する調査研究
30	松島朝秀（東京農工大学科学博物館特任助教）	近代文化遺産の保存修復に関する調査・研究
31	今井健一郎	欧米各国の文化財政策に関する調査研究及び専門機関・専門家ネットワーク構築業務についての研究協力
32	鋒井修一 （京都大学大学院工学研究科建築学専攻　教授）	タイ・スコータイ遺跡スリチュム寺院において、大仏の表面に生物を発生しにくくさせる環境条件に関する研究
33	柏谷博之	石造文化財の劣化と保存に対する植物の関与についての調査研究
34	津村（高林）弘実	壁画に見られる「劣化」現象に焦点をあて、莫高窟壁画の材料と技法の調査研究
35	前田耕作	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業の推進に関する業務についての研究協力
36	西山伸一（サイバー大学　准教授）	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業の推進に関する業務についての研究協力
37	岩井俊平 （龍谷大学龍谷ミュージアム開設準備室　嘱託職員）	西アジア諸国等文化遺産保存修復事業に参加し、当該地域の遺跡保存に対して考古学的・美術史学的な研究を行う
38	谷口陽子 （筑波大学大学院人文社会学研究科歴史・人類　助教）	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業の推進に関する業務についての研究協力
39	安倍雅史	西アジア諸国等文化遺産保存修復協力事業の推進に関する業務についての研究協力
40	松岡秋子	文化遺産拠点交流事業の推進に関する業務についての研究協力
41	津村宏臣 （同志社大学文化情報学部文化情報学科　准教授）	文化財保存修復国際情報のデータベース化に関する研究
42	野島崇子	「エジプト国大エジプト博物館保存修復センター設立支援プロジェクト」人材育成と技術移転事業における研究協力
43	古田嶋智子	「エジプト国大エジプト博物館保存修復センター設立支援プロジェクト」人材育成と技術移転事業における研究協力
44	末森　薫	「エジプト国大エジプト博物館保存修復センター設立支援プロジェクト」人材育成と技術移転事業における研究協力
45	佐藤　桂（早稲田大学客員研究員・サイバー大学メンター）	「文化財国際コンソーシアム事業」における文化遺産情報資源共有化に関連する研究

【奈良文化財研究所】26人

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
1	小林　謙一（元奈良文化財研究所企画調整部長）	遺物及びその調査技術と文化財情報に関する研究
2	加藤　優（徳島文理大学文学部教授）	寺院史、古文献学の研究
3	吉川　真司（京都大学大学院文学研究科教授）	日本古代史の研究
4	宮城　俊作（奈良女子大学生活環境学部教授）	ランドスケープデザイン及び都史デザインに関する調査研究

	氏 名（所 属）	研 究 課 題
5	黒崎　直（富山大学人文学部教授）	古代における宮殿・官衙・都城などに関する調査研究及び遺跡の保存・整備・活用の政策及び施策に関する調査研究
6	高瀬　要一（元奈良文化財研究所文化遺産部長）	古代庭園の成立・変遷に関する調査研究及び遺跡の保存・整備・活用の計画及び手法に関する調査研究
7	川越　俊一（元副所長）	７、８世紀土器基準資料の検討
8	巽　淳一郎（京都橘大学文学部文化財学科教授）	唐三彩・施釉陶器の研究
9	西口　壽生（元奈良文化財研究所都城発掘調査部考古第二研究室長）	歴史時代土器及び古代都城遺跡、寺院の研究
10	市　大樹（大阪大学大学院文学研究科准教授）	木簡及び都城の研究ならびに日本古代地方支配の研究
11	山中　敏史（元奈良文化財研究所文化遺産部長）	遺跡及びその調査技術の研究
12	西村　康（（財）ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所長）	遺跡探査及び測量の調査研究
13	光谷　拓実（元奈良文化財研究所埋蔵文化財センター年代学研究室長）	年輪年代学及び木材解剖学についての調査研究
14	百橋　明穂（神戸大学大学院人文学研究科教授）	日本美術史についての調査研究
15	千田　剛道（元奈良文化財研究所企画調整部上席研究員）	遺物及びその調査技術と文化財情報に関する研究
16	増井　正哉（奈良女子大学生活環境学部教授）	建築史、保存修復計画、地域計画に関する調査研究
17	田中　大介（大阪市立大学都市文化研究センターCOE研究員）	古代都城制及び古代貨幣・市場経済の研究
18	加藤　雅士（元奈良文化財研究所任期付研究員）	縄文時代墓制の動態、歴史時代土器の研究
19	佐藤　昌憲（元京都工芸繊維大学繊維学部教授）	有機質遺物の材質分析に関する研究
20	芹原　信生（元京都大学霊長類研究所教授）	自然人類学、動物考古学の研究
21	松下　まり子	花粉分析（人と植物のかかわり）についての研究
22	橋本　裕子	骨考古学（古人骨）・墓制・埴輪に関する調査研究
23	伊東　隆夫（元京都大学生存圏研究所教授）	木材組織学の研究
24	藤井　裕之	年輪年代学の研究
25	西口　和彦（元兵庫県立考古博物館調査専門委員）	遺跡探査の研究
26	安田　龍太郎（元奈良文化財研究所埋蔵文化財センター長）	遺跡・遺物とその調査技術

b ボランティア受入れ実績

1　受入人数

国立文化財機構	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館	奈良文化財研究所
769人	163人	35人	98人	345人	128人

2　活動内容

【東京国立博物館】

種別　(登録人数)	概　　要
生涯学習ボランティア (155人)	1)来館者参加型ガイドツアーの実施 ・樹木ツアー　47回　1,080人参加 ・浮世絵展示解説　60回　1,767人 ・本館ハイライトツアー　92回　3,600人 ・法隆寺宝物館ガイドツアー　50回　1,197人 ・考古展示室ガイド　45回　1,107人 ・陶磁室エリアガイド　20回　385人 ・庭園茶室ツアー　16回　372人 ・お茶会　17回　772人 ・彫刻ガイド　40回　1,186人 ・英語ガイド　23回　368人 ・こどもたちのアートスタジオ　5回　79人 ・ガイドツアーたてもの散歩　53回　1,519人 ・ガイドツアー 「東博お花見ガイド」(平成21年3月24日～4月18日の火・木・土と3月29日 計13日間　各日2回×1～4グループ実施) 実施回数と人数　16回　1,467人(平成21年度分) 「表慶館アジアギャラリーガイド」 (21年11月12日(木)および11月15日～22年1月31日の水・金・日　計21日　各日1回実施) 実施回数と人数　21回　424人 「東博桜めぐり」(平成22年3月25日～4月15日の火・木・土 計10日間　各日2回×1～4グループ実施) 実施回数と人数　6回　525人（平成21年度分） 2)各種教育普及事業の補助活動の充実を図る 【総合的学習の時間対応】 ・スクールプログラム実施活動補助　(内容：就業体験) ボランティア対応学校数　32校　生徒数　114人 【教育普及事業の補助】 ・みどりのライオン ハンズオン体験コーナー「日本のもようでデザインしよう！」補助 (平成21年4月1日～平成22年3月31日) ・みどりのライオン ハンズオン体験コーナー「北斎の冨士を作ろう」補助 (平成21年7月28日～9月6日) ・小中学生向けワークショップ補助(5回) ・一般向けワークショップ補助(2回) ・「制作工程模型展示　仏頭ができるまで」鑑賞補助 (平成21年3月31日～7月26日) ・「制作工程模型展示　押出仏ができるまで」鑑賞補助 (平成21年7月28日～10月4日) ・「制作工程模型展示　盧遮那仏のひみつ」鑑賞補助 (平成21年10月6日～平成22年1月11日) ・「制作工程模型展示　国宝・孔雀明王像ができるまで」鑑賞補助 (平成22年1月13日～4月18日) ・列品解説、各種講演会の実施補助(通年) ・教育普及事業の告知補助(「本日の博物館」シール貼替え・通年) 3)その他 【館内案内】 ・本館（1階エントランス、2階、17室、20室みどりのライオン紹介コーナー　通年実施) ・「博物館でお花見を」期間の庭園開放中、庭園内のお客様案内 平成21年度　平成22年3月25日～3月31日 【資料印刷・作成】 ・配布パンフレット「日本美術の流れ」／日本語　55,678部

種別　(登録人数)	概　　要
	・法隆寺宝物館出品目録印刷 ・ハンズオン体験コーナーリーフレットの印刷 【各種連携事業】 ・「国際博物館の日」(5月17・19日)内プログラム　本館ハイライトツアー，ガイドツアーたてもの散歩の実施 ・「留学生の日」(10月3日)内プログラム　ボランティアによる応挙館茶会，英語ガイドの実施，館内案内 【障害者対応】 ・東京国立博物館紹介パンフレットの点訳版　配布 ・ボランティアによるガイドツアー「たてもの散歩」において手話通訳付ガイドツアーの試行(平成21年9月より毎月1回実施) ・社団法人東京都盲人福祉協会より視覚障害当事者を招き、ボランティア内の点字グループメンバーと、視覚障害者への博物館サービスのヒアリング実施 【研修の実施】 「車椅子」(6月9日) ガイドツアー「東博桜めぐり」、「表慶館アジアギャラリーガイド」 【解説会の実施】(以下の展示等につき実施) ・特別展「国宝　阿修羅展」 ・特別展「伊勢神宮と神々の美術」 ・特別展「染付− 藍が彩るアジアの器」 ・ミュージアムシアター「故宮　紫禁城　天子の宮殿」 ・特別展「皇室の名宝ー日本美の華」 【博物館実施イベント事業の補助】 博物館実施のイベントに際し、チラシなどの配布物の準備・入場受付・お客様の誘導および会場整理などの補助 ・関孝弘　ピアノコンサート ・納涼東博寄席 ・鷲見恵理子　ヴァイオリンコンサート ・日興ロスチャイルド　バックヤードツアー ・藤原真理チェロコンサート ・ジェラールプーレヴァイオリンコンサート ・応挙館で美術体験 【その他】 多言語案内告知バッジによる外国人来館者の案内・誘導
東京芸術大学学生ボランティア(8名)	【ギャラリートーク班】7名 各自テーマに基づき7名が5回ずつ(前・後期10回)実施 ＜前期テーマ＞　8〜9月　計34回　956名参加 ・「聖母像(親指のマリア)—日本とキリスト教美術—」 浦澤倫太郎 平成21年8月7・9・12・15・20日　参加人数名152名 ・「伎楽面ー消えた楽舞を伝える仮面」 遠藤亮平　平成21年8月6・11・23・28日　参加人数118名 ・「江戸時代の「世界」の受容ー地図に表れた関心」 菅野仁美　平成21年8月26・30日、9月2・8・16日　参加人数110名 ・「岸田劉生の描いた麗子像ー画家が描いた自身の家族」 金智英　　平成21年9月11・15・18・23・25日　参加人数128名 ・「青磁茶碗　銘馬蝗絆ー粉青色という誘惑」 原唯　　平成21年8月10・13・22・27日、9月3日　参加人数166名 ・「扇散蒔絵手箱ー手箱に煌めく扇画面」 藤本敦美　平成21年8月5・19・21日、9月4・9日　参加人数111名 ・「雪舟筆『四季山水図』ー周文風から浙派風」 和田千春　平成21年9月17・19・20・26・27日　参加人数171名 ＜後期テーマ＞　12〜2月　計34回　1,485名参加 ・「洛中洛外図屏風(舟木本)ーかがやくみやこー」 浦澤倫太郎 平成22年2月7・13・14・20・21日　参加人数名447名 ・「前田青邨「切支丹と仏徒」ー日本画と南蛮趣味ー」 遠藤亮平　平成21年12月1・3・8・10日　参加人数154名 ・「円山応挙「梅図襖」ー襖に樹木を描いてー」 菅野仁美　平成21年12月22・25日、平成22年1月5・8・9日　参加人数238名 ・「安田靫彦「御夢」ー歴史を描く作家ー」 金智英　　平成22年1月19・21・26・28・29日　参加人数163名

種別　(登録人数)	概　　要
	・「室町に花咲く文学意匠硯箱－一合に込められた世界－」 原唯　　平成21年12月15・18・23日、平成22年1月10・13日　参加人数157名 ・「紫式部日記絵巻－霞たなびく料紙装飾－」 藤本敦美　平成22年1月6・13・15・22日　参加人数155人 ・「吉祥－縁起を担ぐ－」 和田千春　平成22年1月17・23・24・27・30・31日　参加人数171人 【制作工程模型班】1名 ・「0.15ミリの超絶技巧」 京都絵美　平成22年2月3・12・28日、3月2・11・21日　　参加人数195人

【京都国立博物館】

・京都橘大学学生によるアンケートボランティア(10月20日～30日、11月6日～13日迄の火・水・金曜日)(18人)
・調査・研究支援ボランティア(10人)
・文化財ソムリエ(7人)

種　別　(登録人数)	概　　要
京都橘大学学生によるアンケートボランティア (18人)	京都橘大学との学術協定に基づき、当館研究員が事前講習を行い、10月20日から30日、11月6日から13日までの毎火・水・金曜日の10時00分から16時00分まで、特別展示間出口にて来館者にアンケート回答の呼びかけを実施。終了後に結果の集計・分析を行った。
調査・研究支援ボランティア (10人)	当館研究員が行う収蔵品調査・社寺調査等の調査・研究業務を支援
文化財ソムリエ(7人)	蜂ヶ岡中学校での訪問授業(11月2日)において、補助講師として画材見本等の解説を担当。

【奈良国立博物館】

種　別　(登録人数)	概　　要
解説ボランティア　(87人)	・展示会場での作品解説(平常展のみ)　延べ305日 ・学校団体グループ案内(事前予約受付分　平常展、特別陳列のみ) 37件、1,790人 ・その他団体グループ案内(事前予約受付分　平常展、特別陳列のみ) 47件、1,052人 ・講堂での作品解説(正倉院展のみ)　112回(１日4～7回) ・公開講座、サンデートーク等の支援　31回 ・世界遺産学習の対応　30件、2,205人
イベントボランティア(11人)	

奈良博の解説ボランティア総数　87名(12月末現在)　ただし、21年度内に3名の辞退者あり

【九州国立博物館】

種　別　(登録人数)	概　　要
展示解説ボランティア (68人)	文化交流展示室での案内、及び？ボックスや展示室入口において来館者の質問や案内依頼等に対応。 展示案内は予約団体(一般・学校)、当日受付(個人・グループ)に対応。
教育普及ボランティア (62人)	「あじっぱ」で来館者への対応。 参加体験型のものづくり教室などを企画・実施。 来館者と展示物を介して交流し、体験を通してアジアの文化を伝える。
館内案内ボランティア (34人)	館内の概要・施設案内(ガイド)およびバックヤードツアーの案内。 館内案内は予約団体(一般・学生)、及び当日来館者に対応。 バックヤードツアーも毎週火・金曜は予約団体のみ、日曜は当日受付で実施。
外国語通訳ボランティア (71人)	英語・韓国語・中国語で、館内のガイド、バックヤードツアーの案内、及び 文化交流展示室での展示物解説を行う。
環境ボランティア (32人)	ＩＰＭ(総合的有害生物管理)活動に関する支援。
イベントボランティア (11人)	お正月、昭和の日、七夕関連のボランティアイベントの企画・立案・実施。
資料整理ボランティア (19人)	郷土人形(土人形)の調書の作成・データ化。 あじぎゃでの企画展示。
サポートボランティア (29人)	ボランティア広報紙の作成や他部会のボランティアの活動のサポート。 ボランティア同士の横のつながりや、他館ボランティアとの交流の構築。
学生ボランティア (19人)	他部会のボランティアの活動のサポート。 各種イベントの企画・立案・実施。

・この他、地域の手話ボランティアグループ32名が障がい者対応として活動。
(研修)全体研修５回、部会別・グループ研修189回

（対応来館者数）展示解説（5,305人）、館内案内（6,193人）、バックヤードツアー（3,605人）
※ただし、予約団体のみで、当日受付対応は含まず。

【奈良文化財研究所】

種　別　（登録人数）	概　　要
解説ボランティア （128人）	平城京跡資料館、遺構展示館、復原建物等の案内・解説

・各種ボランティアに対する学習会等

専門研修	14日間／年
平城宮跡クリーンフェスティバル	1日間／年
『続日本紀』読書会	1日間／月
清掃活動	11日間／年

c ウェブサイト（ホームページ）のアクセス件数

博物館計	東京国立博物館	京都国立博物館	奈良国立博物館	九州国立博物館
16,625,712件	5,687,673件	848,486件	2,630,035件	7,459,518件
文化財研究所計	東京文化財研究所		奈良文化財研究所	
2,448,108件	1,417,203件		1,030,905件	

d 展示

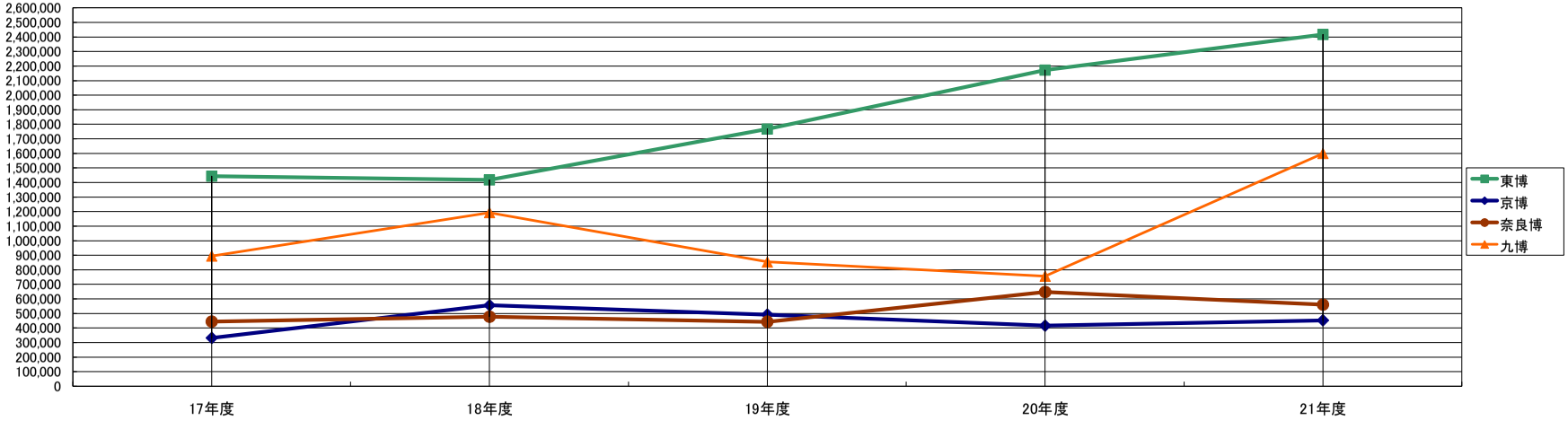
d-① 入館者数

年度				17	18	19	20
国立文化財機構	総入館者数			3,115,134	3,645,023	3,764,567	4,193,381
	平常展	計		820,033	1,147,804	1,095,925	1,041,212
		有料	一般	421,836	634,662	506,568	461,649
			大学生	73,556	102,470	99,428	90,861
			高校生				
			小・中生	—	—	—	—
			友の会	60,524	68,557	70,641	78,718
		無料	一般	—	—	106,078	116,058
			高校生	11,234	13,828	15,270	16,192
			小・中生	114,371	189,496	175,712	134,489
		招待者等		138,512	138,791	122,228	143,245
	特別展	計		2,295,101	2,497,219	2,668,642	3,152,169
		有料	一般	1,450,830	1,674,220	1,769,987	2,003,625
			高・大生	110,305	124,212	131,777	116,329
			小・中生	52,863	55,681	27,172	60,359
			友の会	72,202	91,580	86,194	51,276
		無料	小・中生	24,944	21,681	65,033	52,769
		招待者等		583,957	529,845	588,479	867,811
東京国立博物館	総入館者数			1,443,719	1,417,195	1,768,198	2,171,942
	平常展	計		340,989	361,773	334,297	412,675
		有料	一般	158,662	179,924	165,190	210,423
			大学生	34,908	32,734	28,514	27,225
			小・中・高生	—	—	—	—
			友の会	49,451	55,649	52,862	65,232
		無料	高校生	11,234	13,828	15,270	16,192
			小・中生	31,844	31,540	26,471	35,261
		招待者等		54,890	48,098	45,990	58,342
	特別展	計		1,102,730	1,055,422	1,433,901	1,759,267
		有料	一般	634,606	685,137	946,113	1,162,200
			高・大生	56,744	59,466	80,862	64,854
			小・中生	314	3,177	—	—
			友の会	50,598	60,958	52,662	12,988
		無料	小・中生	24,944	19,729	50,499	38,903
		招待者等		335,524	226,955	303,765	480,322
京都国立博物館	総入館者数			331,605	556,770	492,414	416,001
	平常展	計		153,174	146,752	165,080	141,965
		有料	一般	62,974	57,283	67,586	54,043
			高・大生	16,628	15,821	21,182	17,631
			小・中生	—	—	—	—
			友の会	4,814	4,460	5,968	3,915
		無料	小・中生	13,635	21,988	15,325	13,674
		招待者等		55,123	47,200	55,019	52,702
	特別展	計		178,431	410,018	327,334	274,036
		有料	一般	102,393	249,037	197,198	157,900
			高・大生	13,656	26,903	17,763	16,264
			小・中生	3,676	6,749	4,279	2,858
			友の会	7,476	15,133	12,092	11,348
		無料	小・中生	—	1,952	—	—
		招待者等		51,230	110,244	96,002	85,666
奈良国立博物館	総入館者数			444,712	477,638	442,914	647,854
	平常展	計		113,983	137,739	131,336	112,849
		有料	一般	45,569	59,868	58,914	47,099
			高・大生	9,452	10,569	9,919	7,777
			小・中生	—	—	—	—
			友の会	3,056	4,888	4,188	2,708
		無料	小・中生	36,134	39,852	48,069	35,209
		招待者等		19,772	22,562	10,246	20,056
	特別展	計		330,729	339,899	311,578	535,005
		有料	一般	172,986	264,119	235,865	370,001
			高・大生	16,467	13,786	13,430	19,907
			小・中生	11,172	19,682	6,463	12,393
			友の会	10,545	8,423	9,790	14,544
		招待者等		119,559	33,889	46,030	118,160
九州国立博物館	総入館者数			895,098	1,193,420	854,138	756,918
	平常展	計		211,887	501,540	341,282	241,423
		有料	一般	154,631	337,587	207,350	142,538
			高・大生	12,568	43,346	37,835	36,858
			小・中生	—	—	—	—
			友の会	3,203	3,560	7,623	6,863
		無料	小・中生	32,758	96,116	81,707	47,402
		招待者等		8,727	20,931	6,767	7,762
	特別展	計		683,211	691,880	512,856	515,495
		有料	一般	540,845	475,927	356,430	285,004
			高・大生	23,438	24,057	16,981	12,103
			小・中生	37,701	26,073	16,430	45,108
			友の会	3,583	7,066	11,650	12,396
		招待者等		77,644	158,757	111,365	160,884
黒田記念館	総入館者数					13,707	19,038
	平常展	計				13,707	19,038
		無料	一般			13,707	19,038
平城宮跡資料館	総入館者数					85,486	92,597
	平常展	計				85,486	92,597
		無料	一般			85,486	92,597
藤原宮跡資料室	総入館者数					6,885	4,423
	平常展	計				6,885	4,423
		無料	一般			6,885	4,423
飛鳥資料館	総入館者数					100,825	84,608
	平常展	計				17,852	16,242
		有料	一般			7,528	7,546
			高・大生			1,978	1,370
		無料	小・中生			4,140	2,943
		招待者等				4,206	4,383
	特別展	計				82,973	68,366
		有料	一般			34,381	28,520
		料	高・大生			2,741	3,201
		無料	小・中生			14,534	13,866
		招待者等				31,317	22,779

年度				21
国立文化財機構	総入館者数			5,156,358
	平常展	計		1,080,509
		有料	一般	320,974
			大学生	33,061
			小・中・高生	—
			友の会	73,872
		無料	一般	49,813
			小・中・高生	163,663
		招待者等		439,126
	特別展	計		4,075,849
		有料	一般	2,885,476
			高・大生	156,452
			小・中生	69,774
			友の会	53,074
		無料	小・中生	56,155
		招待者等		854,918
東京国立博物館	総入館者数			2,416,281
	平常展	計		330,536
		有料	一般	162,674
			大学生	20,437
			小・中・高生	—
			友の会	64,816
		無料	高校生	13,499
			小・中生	25,890
		招待者等		43,220
	特別展	計		2,085,745
		有料	一般	1,505,088
			高・大生	78,355
			小・中生	—
			友の会	16,680
		無料	小・中生	42,065
		招待者等		443,557
京都国立博物館	総入館者数			452,920
	平常展	計		—
		有料	一般	—
			大学生	—
			小・中・高生	—
			友の会	—
		無料	高校生	—
			小・中生	—
		招待者等		—
	特別展	計		452,920
		有料	一般	276,754
			高・大生	28,127
			小・中生	7,297
			友の会	11,529
		無料	小・中生	1,103
		招待者等		128,110
奈良国立博物館	総入館者数			560,293
	平常展	計		136,672
		有料	一般	53,033
			大学生	5,391
			小・中・高生	—
			友の会	3,168
		無料	小・中・高生	38,825
		招待者等		36,255
	特別展	計		423,621
		有料	一般	315,128
			高・大生	15,411
			小・中生	13,824
			友の会	11,131
		招待者等		68,127
九州国立博物館	総入館者数			1,599,704
	平常展	計		544,661
		有料	一般	98,600
			大学生	6,737
			小・中・高生	—
			友の会	5,888
		無料	高校生	27,907
			小・中生	52,658
		招待者等		352,871
	特別展	計		1,055,043
		有料	一般	757,650
			高・大生	32,892
			小・中生	48,653
			友の会	13,734
		招待者等		202,114
黒田記念館	総入館者数			20,345
	平常展	計		20,345
		無料	一般	20,345
平城宮跡資料館	総入館者数			25,127
	平常展	計		25,127
		無料	一般	25,127
藤原宮跡資料室	総入館者数			4,341
	平常展	計		4,341
		無料	一般	4,341
飛鳥資料館	総入館者数			77,347
	平常展	計		18,827
		有料	一般	6,667
			大学生	496
		無料	小・中・高生	4,884
		招待者等		6,780
	特別展	計		58,520
		有料	一般	30,856
		料	大学生	1,667
		無料	小・中・高生	12,987
		招待者等		13,010

※21年度より、機構内全施設にて高校生以下平常展無料となった
※東京国立博物館パスポートによる特別展入場者数は、19年度まで友の会に含み、20年度より有料に含む

d-② 入館者数（過去5ヵ年） 独立行政法人国立文化財機構特別展入館者数（17～21年度）

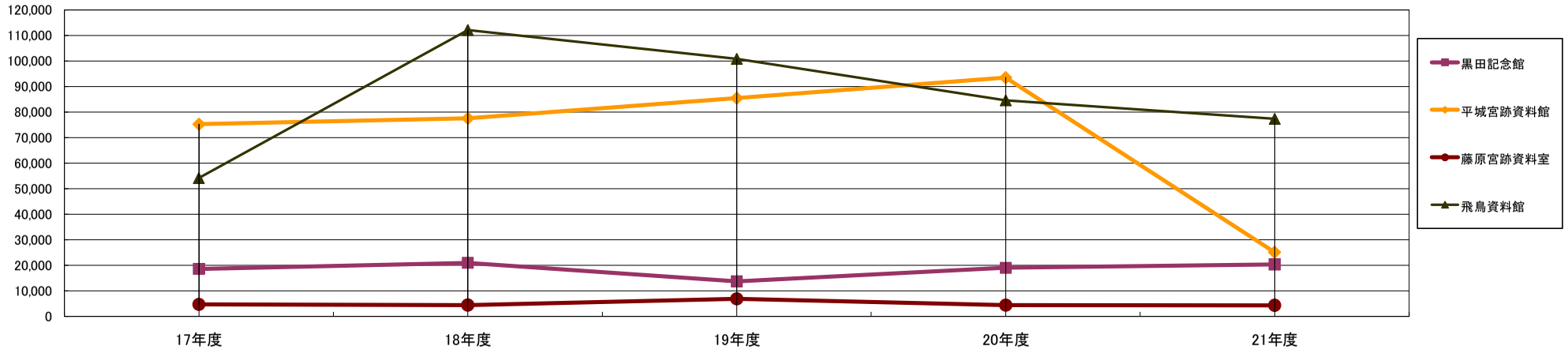


※1 これらの特別展は、平常展料金のため、平常展のみの入館者に計上。

※2これらの共催展は、共通観覧のため、人数が重複される。

	17年度（国立博物館）		18年度（国立博物館）		19年度（国立文化財機構）		20年度（国立文化財機構）		21年度（国立文化財機構）	
計	**総　合　計**	**3,115,134**	**総　合　計**	**3,645,023**	**総　合　計**	**3,764,567**	**総　合　計**	**4,193,381**	**総　合　計**	**5,156,358**
	平常展のみの入館者	**820,033**	**平常展のみの入館者**	**1,147,804**	**平常展のみの入館者**	**1,095,925**	**平常展のみの入館者**	**1,041,212**	**平常展のみの入館者**	**1,080,509**
	特別（共催）展計	**2,295,101**	**特別（共催）展計**	**2,497,219**	**特別（共催）展計**	**2,668,642**	**特別（共催）展計**	**3,152,169**	**特別（共催）展計**	**4,075,849**
東博	総　計	1,443,719	総　計	1,417,195	総　計	1,768,198	総　計	2,171,942	総　計	2,416,281
	平常展のみの入館者	340,989	平常展のみの入館者	361,773	平常展のみの入館者	334,297	平常展のみの入館者	412,675	平常展のみの入館者	330,536
	特別（共催）展計	1,102,730	特別（共催）展計	1,055,422	特別（共催）展計	1,433,901	特別（共催）展計	1,759,267	特別（共催）展計	2,085,745
	特別公開　中宮寺　国宝・菩薩半跏像	36,835	特別展「最澄と天台の国宝」	197,859	特別展「レオナルド・ダ・ヴィンチ　天才の実像」	689,775	特別展「平城遷都1300年記念　国宝 薬師寺展」	742,910	特別展「STORY OF･･･」	115,568
	特別展「世界遺産　博物館島ベルリンの至宝展」	337,475	特別展「プライスコレクション　若冲と江戸絵画展」	317,712	特別展「京都五山　禅の文化」展	108,917	特別展「フランスが夢見た日本」	58,342	特別展「国宝　阿修羅展」	933,895
	特別展　「模写・模造と日本の美術」	1(104786)	特別展「仏像　一木にこめられた祈り」	335,489	特別展「大徳川展」	425,492	特別展「対決－巨匠たちの日本美術」	326,784	特別展「染付－藍が彩るアジアの器」	52,731
	特別展　「遣唐使と唐の美術」	99,812	特別展「悠久の美　中国国家博物館名品展」	98,133	特別展「宮廷のみやび―近衛家1000年の名宝」	157,718	特別展「スリランカ-輝く島の美に出会う-」	80,865	特別展「伊勢神宮と神々の美術」	114,796
	特別展「華麗なる伊万里・雅の京焼」	95,090	特別展「マーオリ　楽園の神々」	※1(72,720)	特別展「平城遷都1300年記念　国宝 薬師寺展」	51,999	特別展「大琳派展－継承と変奏－」	308,213	特別展「皇室の名宝―日本美の華」	447,944
	特別展「北斎展」	332,939	特別展「レオナルド・ダ・ヴィンチ　天才の実像」	106,229			特別展「未来をひらく福澤諭吉」展	73,128	特別展「国宝　土偶展」	128,285
	特別展「書の至宝」	185,334					特別展「妙心寺」	151,833	特別展「長谷川等伯展」	292,526
	特別公開「国宝・天寿国繍帳と聖徳太子」	※1(4,414)					特別展「STORY OF･･･」	4,915		
	特別展「最澄と天台の国宝展」	15,245					特別展「国宝　阿修羅展」	12,277		
京博	総　計	331,605	総　計	556,770	総　計	492,414	総　計	416,001	総　計	452,920
	平常展のみの入館者	153,174	平常展のみの入館者	146,752	平常展のみの入館者	165,080	平常展のみの入館者	141,965	平常展のみの入館者	0
	特別（共催）展計	178,431	特別（共催）展計	410,018	特別（共催）展計	327,334	特別（共催）展計	274,036	特別（共催）展計	452,920
	特別展「曽我簫白展－無頼という愉悦－」	45,964	特別展「大絵巻展」	186,772	特別展「藤原道長　－極めた栄華・願った浄土－」	37,411	特別展「絵画の冒険者　暁斎 kyosai」	76,686	特別展「開山無相大師650 年遠諱記念 妙心寺」	92,144
	特別展「龍馬の翔けた時代」	49,830	特別展「開館記念110周年記念　美のかけはし」	59,280	特別展「狩野永徳」	230,656	特別展「japan 蒔絵－宮殿を飾る 東洋の燦めき－」	67,050	特別展「シルクロード 文字を辿って」	25,511
	特別展「最澄と天台の国宝展」	82,637	特別展「京焼―みやこの意匠と技―」	25,283	特別展「憧れのヨーロッパ陶磁」	59,267	特別展「御即位二十年記念 京都御所ゆかりの至宝」	116,363	特別展「日蓮と法華の名宝－華ひらく京都町衆文化－」	88,187
			特別展「京都御所障壁画－御常御殿と御学問所－」	138,683			特別展「妙心寺」	13,937	特別展「THE ハプスブルク」	247,078
奈良博	総　計	444,712	総　計	477,638	総　計	442,914	総　計	647,854	総　計	560,293
	平常展のみの入館者	113,983	平常展のみの入館者	137,739	平常展のみの入館者	131,336	平常展のみの入館者	112,849	平常展のみの入館者	136,672
	特別（共催）展計	330,729	特別（共催）展計	339,899	特別（共催）展計	311,578	特別（共催）展計	535,005	特別（共催）展計	423,621
	特別展「曙光の時代-ドイツで開催した日本考古展-」	26,688	特別展「大勧進　重源」	41,813	特別展「神仏習合」	40,493	特別展「天馬 ―シルクロードを翔ける夢の馬－	31,910	特別展「国宝 鑑真和上展」	93,779
	特別展「古密教－日本密教の胎動」	32,250	特別展「北村昭斉―漆の技―」	14,571	特別展「美麗　院政期の絵画」	22,696	特別展「国宝　法隆寺金堂展」	132,919	特別展「聖地寧波」	30,548
	特別展「遣唐使と唐の美術」	21,196	特別展「第58回正倉院展」	283,515	特別展「第59回正倉院展」	248,389	特別展「西国三十三所-観音霊場の祈りと美」	106,411	特別展「第61回正倉院展」	299,294
	特別展「第57回正倉院展」	234,391					特別展「第60回正倉院展」	263,765		
	特別展「金沢文庫の名宝-鎌倉武家文化の精華-」	16,204								
	特別展「公慶上人-江戸時代の大仏復興と奈良-」									
九博	総　計	895,098	総　計	1,193,420	総　計	854,138	総　計	756,918	総　計	1,599,704
	平常展のみの入館者	211,887	平常展のみの入館者	501,540	平常展のみの入館者	341,282	平常展のみの入館者	241,423	平常展のみの入館者	544,661
	特別（共催）展計	683,211	特別（共催）展計	691,880	特別（共催）展計	512,856	特別（共催）展計	515,495	特別（共催）展計	1,055,043
	開館記念特別展「美の国 日本」	441,938	特別展「中国　美の十字路」	10,690	特別展「未来への贈りもの」	77,380	特別展「国宝 大絵巻展 」	115,740	特別展「聖地チベット ポタラ宮と天空の至宝」	140,917
	特別展「中国　美の十字路」	241,273	特別展「うるま　ちゅら島　琉球」	177,478	特別展「日本のやきもの 日選び抜かれた名宝120点」	50,986	特別展「島津の国宝と篤姫の時代」	152,420	特別展「国宝 阿修羅展」	711,154
			特別展「南の貝のものがたり」	63,560	特別展「本願寺展－親鸞と仏教伝来の道」	197,697	特別展「国宝　天神さま」	174,698	特別展「古代九州の国宝」展	72,741
			特別展「発掘された日本列島2006－新発見考古速報展－」		特別展「京都五山　禅の文化」展	171,336	特別展「工芸のいま　伝統と創造」	72,637	特別展「京都妙心寺－禅の至宝と九州・琉球」	130,231
			特別展「海の神々－捧げられた宝物」	139,981	特別展「国宝 大絵巻展」	15,457				
			特別展「プライスコレクション　若冲と江戸絵画展」	300,171						

独立行政法人国立文化財機構特別展入館者数（17～21年度）



	17年度（文化財研究所）		18年度（文化財研究所）		19年度（国立文化財機構）		20年度（国立文化財機構）		21年度（国立文化財機構）	
計	**総　合　計**	**152,731**	**総　合　計**	**215,120**						
	平常展のみの入館者	**119,175**	**平常展のみの入館者**	**119,223**						
	特別（共催）展計	**33,556**	**特別（共催）展計**	**95,897**						
黒田記念館	総　計	18,596	総　計	20,975	総　計	13,707	総　計	19,038	総　計	20,345
	平常展のみの入館者	18,596	平常展のみの入館者	20,975	平常展のみの入館者	13,707	平常展のみの入館者	19,038	平常展のみの入館者	20,345
	特別（共催）展計		特別（共催）展計		特別（共催）展計		特別（共催）展計		特別（共催）展計	
平城宮跡資料館	総　計	75,267	総　計	77,560	総　計	85,486	総　計	92,597	総　計	25,127
	平常展のみの入館者	75,267	平常展のみの入館者	77,560	平常展のみの入館者	85,486	平常展のみの入館者	92,597	平常展のみの入館者	25,127
	特別（共催）展計		特別（共催）展計		特別（共催）展計		特別（共催）展計		特別（共催）展計	
藤原宮跡資料室	総　計	4,707	総　計	4,457	総　計	6,885	総　計	4,423	総　計	4,341
	平常展のみの入館者	4,707	平常展のみの入館者	4,457	平常展のみの入館者	6,885	平常展のみの入館者	4,423	平常展のみの入館者	4,341
	特別（共催）展計		特別（共催）展計		特別（共催）展計		特別（共催）展計		特別（共催）展計	
飛鳥資料館	総　計	54,161	総　計	112,128	総　計	100,825	総　計	84,608	総　計	77,347
	平常展のみの入館者	20,605	平常展のみの入館者	16,231	平常展のみの入館者	17,852	平常展のみの入館者	16,242	平常展のみの入館者	18,827
	特別（共催）展計	33,556	特別（共催）展計	95,897	特別（共催）展計	82,973	特別（共催）展計	68,366	特別（共催）展計	58,520
	特別展「飛鳥の奥津城」	17,512	特別展「キトラ古墳と発掘された壁画たち」	76,738	特別展「キトラ古墳壁画四神玄武」	67,007	特別展「キトラ古墳壁画十二支ー子・丑・寅ー」	51,471	特別展「キトラ古墳壁画四神ー青龍・白虎ー」	41,242
	企画展「古墳を飾る」	3,214	特別展「飛鳥の金工」	12,029	企画展「「とき」を撮すー発掘調査と写真ー」	3,344	企画展「飛鳥　古寺巡礼」	3,658	企画展「甦るクメール文明」	3,824
	特別展「東アジアの古代苑池」	10,867	企画展「東アジアの十二支像」	3,816	特別展「奇偉荘厳　山田寺」	9,342	特別展「まぼろしの唐代精華」	11,695	特別展「三燕文化の考古新発見」	11,006
	特別展「うずもれた古文書」	1,963	企画展「発掘調査速報展」	3,314	速報展「飛鳥の考古学2007」	1,589	企画展「飛鳥の考古学2008」	1,542	企画展「飛鳥の考古学2009」	2,448
					企画展「絵で見る考古学ー早川和子原画展」	1,691				

d-③ 入場料収入

（単位：円）

	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
国立文化財機構	818,092,976	1,034,937,495	1,081,301,672	1,159,630,962	1,323,819,776
東京国立博物館	339,699,448	391,263,820	514,039,330	611,637,800	662,347,500
京都国立博物館	89,638,610	144,399,600	130,218,030	126,305,930	111,512,790
奈良国立博物館	195,659,750	246,395,770	228,339,500	265,576,036	267,397,290
九州国立博物館	193,095,168	252,878,305	182,000,762	134,177,251	262,889,871
飛鳥資料館			24,975,310	20,121,140	18,006,130
東京文化財研究所黒田作品共催展			1,728,740	1,812,805	1,666,195

d-④ 平常展・特別展

【東京国立博物館】

(1) 平常展

1)開館期間　4月1日～22年3月31日(313日間)　　平常展のみの開館日数　79日間
2)会　　場
　①本　館　1階、2階
　②東洋館　1階、2階、3階
　③表慶館　1階
　④法隆寺宝物館　1階、2階
　⑤平成館　1階
　⑥黒田記念館　2階

3)陳列品総件数　　6,601件(うち国宝79件、重要文化財670件)
　①本館・平成館企画展示室　3,714件(うち国宝52件、重要文化財339件)
　②東洋館　1,004件(うち国宝 1件、重要文化財 30件)
　③表慶館　253件(うち国宝 0件、重要文化財 6件)
　④法隆寺宝物館　451件(うち国宝15件、重要文化財222件)
　⑤平成館考古展示室　1,087件(うち国宝11件、重要文化財 71件)
　⑥黒田記念館　92件(うち国宝 0件、重要文化財 2件)

4)陳列替回数　延べ316回
5)入場料金　一般600円、大学生400円
6)特集陳列　全66件

①本館・平成館
●国宝　◎重要文化財　○重要美術品

場所	テーマ	開催期間	陳列件数(国宝・重文)
本館1階 18室	黒田清輝のフランス留学	21年3月3日(火)～4月12日(日)	31(0.1)
	＜主な作品＞◎智・感・情、自画像(トルコ帽)、編物、読書、婦人像(厨房)		
	平成19年4月に独立行政法人国立博物館と独立行政法人文化財研究所が統合され、独立行政法人国立文化財機構が発足したことを記念して行う第3回目の特集陳列である。今回の特集陳列では、渡欧時代の作品を中心に、東京国立博物館に収蔵される黒田の代表的作品のほかに、特別に東京芸術大学所蔵の「婦人像(厨房)」などをあわせて展示し、師であるラファエル・コランの作品などとともに留学時代の黒田作品によって、黒田の近代洋画史に残る輝かしい業績をご覧いただく展示とした。		
本館1階 14室	蒔絵硯箱	21年3月17日(火)～5月31日(日)	25(0.4)
	＜主な作品＞◎初瀬山蒔絵硯箱、◎塩山蒔絵硯箱、◎蔦細道蒔絵文台硯箱		
	現在まで伝わる中世の蒔絵の名品はほとんどが手箱か硯箱であり、蒔絵硯箱は身近な空間をかざった調度の代表格ということができる。この度の展示では、硯箱に見られる精細な蒔絵表現の他、硯箱の様々な形式や、絵の中に描かれた硯箱をご覧いただいた。硯箱を使う人の様子や蒔絵硯箱の多彩な姿から、人々が硯箱に込めてきた思いを感じとっていただく展示とした。		
本館1階 16室	シリーズ「歴史を伝える」 日本の食文化	21年3月17日(火)～4月19日(日)	39(0.0)
	＜主な作品＞料理物語、精進料理素人庖丁		
	日本の料理は，長い間の日本人の食生活の中で形成されてきた。室町時代ころの貴族や武士たちがおかずとした魚貝類の干物、塩蔵品などが洗練されて日本料理へと進化し、儀式の料理では、包丁のさばき方や盛りつけなど、流派ごとに秘伝がつくられた。また、茶の湯の発達にともなって懐石料理が生まれている。江戸時代に入ると、さまざまな料理書が出版され、調理技術や器具の普及などが、さらに日本料理の幅を拡げた。江戸時代中期ころから、各地に料理屋が出現し、料理を楽しむ風潮があらわれ、文化・文政期には料理書の出版が急増した。展示では、主に料理書をとおして、日本の食文化の歴史を紹介した。		
平成館 考古展示室	古墳時代の人々 ー人物埴輪の表情と所作ー	21年3月17日(火)～9月6日(日)	39(0.0)
	＜主な作品＞埴輪 太鼓を叩く男子、埴輪 挂甲の武人、埴輪 入れ墨のある男子頭部		
	東京国立博物館には多数の人物埴輪が収蔵されているが、完全な形として残っているものは少ない。ただし、一部が欠落しているものの造形的に極めて優れたものもある。そこで、本特集陳列では人物埴輪の様ざまな表情や所作がわかる資料を中心にして、古墳時代の人々の姿にせまる展示とした。		
本館1階 13室	根来塗ー朱漆の美ー	21年3月24日(火)～6月7日(日)	27(0.2)
	＜主な作品＞◎朱漆折敷・擎子、◎朱漆三脚盤		
	中世の寺院で日常に用いられた器や調度で、黒漆の上に朱漆を塗り重ねたものを根来塗と称する。永年の使用で中塗の黒漆が表面にあらわれて朱漆と調和し、巧まざる味わいをみせるものが多い。瓶子・高杯・折敷など様々な器種をとりあげ、時を経た朱漆塗の魅力に触れていただく展示とした。		
本館2階 特別1・2室	酒呑童子	21年3月24日(火)～4月19日(日)	22(0.0)
	＜主な作品＞酒呑童子絵巻 巻上、酒伝童子絵巻(模本) 巻中、酒呑童子図、酒呑童子絵扇面		
	平成19年度に新たに出品となった「酒呑童子絵扇面」の紹介を中心として、狩野派の「酒呑童子絵巻」の祖本となった室町時代末の狩野元信筆「酒呑童子絵巻(模本)」、桃山様式を示す当館所蔵の伝狩野孝信筆「酒呑童子絵巻」、現在原本の知られない江		

	戸時代初期の狩野探幽筆「酒呑童子絵巻(模本)」を加えて、場面比較を行いながら、室町時代から江戸時代初期にかけて流行した「酒呑童子絵巻」を特集紹介をした。		
本館2階 9室	能「国栖」の面・装束	21年3月31日(火)～5月24日(日)	13(0.0)
	＜主な作品＞舞衣 紅地丁字立涌牡丹模様、狩衣 紺地雲龍丸模様		
	謡曲「国栖」をテーマに、謡曲に登場する人物がつける能面・能装束を組み合わせて、江戸時代の能面・能装束を展示した。実際の舞台を見るような立体感のあるわかりやすい展示をこころがけ、能面・能装束だけではなく、日本の伝統芸能である能そのものに来館者に関心を持っていただく機会とする展示とした。		
本館1階 15室	アイヌの狩猟と漁撈	21年3月31日(火)～6月28日(日)	21(0.4)
	＜主な作品＞アットゥシ、漁具模型、銛(キテ)、銛(マレク)		
	アイヌの狩猟と漁撈をテーマとして展示した。狩猟や漁撈に際して使用された道具および様ざまな模型などを陳列する。『蝦夷島奇観』等の写真パネルを多く用いて、展示品の使用された場面がより具体的にイメージできるよう工夫する展示とした。		
本館1階 特別5室	仏像の道－インドから日本へ	4月7日(火)～11月3日(火)	21(0.4)
	＜主な作品＞如来坐像、◎如来三尊立像、◎如来坐像		
	東洋館、本館、法隆寺宝物館に展示されていた仏像を一堂に会し、紀元2世紀のガンダーラから、中央アジア、中国、朝鮮半島をへて8世紀の奈良に至るまで、600年にわたる仏像の流れを概観した。仏像の誕生、中国への伝来、唐と奈良などのテーマを設け、それぞれの時代・地域で、どのような仏像が造られ、人々の信仰を集めていたかを紹介した。		
本館1階 16室	シリーズ「歴史を伝える」 日本を歩く－甲信越－	4月21日(火)～6月7日(日)	22(0.2)
	＜主な作品＞慶長大判、◎甲州道中分間延絵図、甲陽軍艦、北越雪譜		
	甲信越地方は山梨県・長野県・新潟県の3県の総称。互いに交流はあるものの域内に核となる行政・経済の中心があるわけではないが、国土区分上の一つの単位といえる。古代律令制下に設けられた甲斐国(甲州)・信濃国(信州)・越後国の3国がおおむね現在の域内と一致する。地形的には急峻な山岳の中に盆地が点在する甲信地方から沃野の広がる越後といった多様な地域ある。今回の展示には佐渡を加え、それぞれの国をめぐる陳列とした。		
本館2階 特別1・2室	平成20年度新収品	5月19日(火)～6月14日(日)	41(0.2)
	＜主な作品＞◎般若菩薩像、◎十二神将立像 申神		
	昨年度の新収品から41件を選び、陳列した。新収品を通じ、文化財の収集という当館の事業の一端をご理解いただく展示とした。		
本館2階 9室	能「兼平」の面と装束	5月26日(火)～7月20日(月)	15(0.1)
	＜主な作品＞能面 平太、厚板 浅葱淡茶段格子葡萄模様		
	江戸時代の能面・能装束を中心に能の展示をした。今回は能「兼平」をテーマに、登場する旅僧、老人、今井兼平の霊を演ずる際に使用する面・装束の組み合わせであった。併せて、能狂言絵巻に描かれる能「兼平」を絵巻とパネルで紹介し、よりいっそう江戸時代の能へとイメージを膨らませていただく展示とした。		
平成館 企画展示室	海外の日本美術品の修復	5月26日(火)～6月7日(日)	7(0.0)
	＜主な作品＞虫歌合絵巻、松に孔雀図屏風、住吉蒔絵文台		
	東京文化財研究所が行ってきた海外所在の日本美術の保存修復事業を紹介した。1991年、文化庁、外務省、国際交流基金、東京文化財研究所が共同で始めた在外日本古美術品保存修復事業は、当初アメリカ合衆国内の機関が所蔵する日本絵画の修復への協力として始まった。その後、範囲をヨーロッパ諸国へ拡大し、絵画だけでなく漆芸品や武器・武具なども対象に加えた。今回の展示では、2008年度に修復の完了した作品を展示した。		
本館1階 14室	密教工芸－神秘的な形－	6月2日(火)～8月23日(日)	23(0.8)
	＜主な作品＞◎金銅火焔宝珠形舎利容器、◎金銅三昧耶五鈷鈴、◎金銅五種鈴、◎金銅蓮華唐草文金剛盤		
	空海・最澄らによってもたらされた密教では、独特な修法の道具が用いられた。それらの密教法具は、平安時代から鎌倉時代にかけて特にすぐれたものが多く作られた。その時代を中心として、金剛杵・金剛鈴・灌頂用具など密教工芸の神秘的な造形の世界を紹介する展示とした。		
本館1階 16室	シリーズ「歴史を伝える」 年中行事	6月9日(火)～7月26日(日)	21(0.0)
	＜主な作品＞年中行事絵巻考、年中恒例御儀式 正月元日、五月人形 鎧・鍾馗・神武天皇・源頼義・加藤清正		
	稲作社会を背景に成立した日本の年中行事は、時代や地域により移り変わってきた。もともと「延喜式」神祇部に見られるように宮中行事として行われていたが、江戸時代には一般に普及する。今回の特集では、「年中行事絵巻」に描かれた蹴鞠に関する資料や、五月人形等、遊びや季節にちなんだ年中行事に関係する作品を紹介した。		
本館1階 19室	内国勧業博覧会の工芸	6月16日(火)～9月6日(日)	15(0.1)
	＜主な作品＞花卉木画額、鯉図額、◎褐釉蟹貼付台付鉢		
	内国勧業博覧会は、明治10年(1877)から明治36年(1903)まで5回開催された。産業や技芸の発展に主眼が置かれ、事業として成り立つものや技術を極めたものを出品するよう求められたため、優れた技法によって制作された工芸品が数多く出品された。今回は、この内国勧業博覧会に出品された館蔵の工芸品を展示し、その優れた技をご覧いただく展示とした。		
平成館 企画展示室	世界図と日本図	6月16日(火)～7月26日(日)	4(0.1)
	＜主な作品＞坤輿万国全図屏風、◎世界及日本地図屏風		
	16世紀以降世界規模での交通が始まり、地理的な知見は地図として表されるようになった。日本においても西欧の影響を受けた世界図や日本図が導入され、装飾的な役割もあわせ持った図が多く作られた。この陳列では典型的な世界図や日本図の実例を紹		

	介し、当時の人々の世界観をうかがう展示とした。		
本館2階 特別1室	戦う武士の世界	6月24日(水)～7月20日(月)	22(0.1)
	＜主な作品＞足利尊氏御判御教書、南蛮胴具足(二枚胴具足)、◎陣羽織 猩々緋羅紗地違鎌文、軍配		
	中世から近世初頭にかけて活躍した著名な武士に関わる作品を陳列した。特に武士の本来の仕事である戦いに焦点を当て、来館者にとって戦う武士のイメージを連想できるような展示として、肖像画(模本)・甲冑・武家装束とともに、実際に武士が認めた書状・古文書を陳列し、当時の武士の実像にアプローチする展示とした。		
本館2階 特別2室	武家の服飾	6月24日(水)～7月20日(月)	20(0.2)
	＜主な作品＞◎小袖 白茶地桐竹模様綾、◎胴服 浅葱白紫染分練緯地雪輪銀杏模様		
	鎌倉幕府以降、武士が日本の政治の表舞台に立つこととなった。当初は公家の装束を正装として用いたが、次第に武士が日常に使用していた装束の威儀を正して正装として用いるようになり、武家独特の装束が行われるようになった。本展では、当館が所蔵する安土桃山時代から江戸時代にかけて武家で用いられた服飾の内、特に伝来の明らかなものを中心に展覧し、その特色を紹介する展示とした。		
本館1階 15室	琉球の工芸	6月30日(火)～9月27日(日)	47(0.0)
	＜主な作品＞樹下人物螺鈿沈金食籠、黄木綿地菊牡丹雲尾長鳥模様紅型衣装、キンカブ、カラカラ、厨子甕		
	第二尚氏時代を中心とした琉球の工芸作品を展示した。本特集陳列では様ざまな形態の厨子甕をまとめて展示した。これまでの琉球民俗資料陳列と同様、『琉球国奇観』等の写真パネルを多く用いて、作品の使い方等を具体的にイメージできるよう工夫した。		
本館2階 9室	狂言の面・装束	7月22日(水)～9月13日(日)	13(0.0)
	＜主な作品＞狂言面 猿、肩衣 黒麻地波兎牡丹唐草州浜笹模様		
	狂言は、室町時代の庶民や下級武士などの生活の中におかしみを見出した、日本の古典喜劇である。狂言面は表情豊かな造形とユーモラスな顔立ちが特徴である。また、狂言の装束は草花や器物を大胆にデフォルメした染め模様が特徴となっている。詩劇である能とは異なる日本の古典喜劇の世界を、面と装束のデザインを通して鑑賞する機会とした。		
本館1階 12室	二体の大日如来像と運慶様の彫刻	7月22日(水)～10月12日(月)	7(0.5)
	＜主な作品＞◎大日如来坐像(東京・真如苑)、◎大日如来坐像(栃木・光得寺)		
	運慶は平安時代末期から鎌倉時代初期に活躍した仏師である。天平彫刻が残る奈良の地で活躍した仏師集団に所属し、古典を学んで写実的で運動感に富む新鮮な作風を創造した。運慶は奈良や京都といった旧来の需要層にとどまらず、鎌倉幕府という新しい勢力による造像も多く手がけた。頼朝の岳父北条時政が発願した静岡・願成就院の諸像などがそれで、近年発見された、運慶作品と考えられる光得寺と真如苑所蔵の二体の大日如来像も御家人の足利義兼発願である可能性がある。この陳列では二体の大日如来像を陳列するとともに、光得寺像の像内納入品に関する最新の研究成果を紹介した。また、関東などに残る運慶の作風にならった像、運慶の孫が造った像などを展示し、鎌倉時代における運慶の役割を示した展示とした。		
本館1階 16室	シリーズ「歴史を伝える」 古写真－小川一真と近畿宝物調査－	7月28日(火)～8月16日(日)	34(0.0)
	＜主な作品＞彫刻写真帖／三等四等五等彫刻；天；京都府、彫刻写真帖／一等彫刻；地；奈良県、帝室技芸員履歴書、美術工芸写真帖／自一等至三等四等及六等；美術工芸；地；奈良県、写真帖／人民之部；乙		
	16室・歴史資料の陳列ではこれまで文化財とその保存について、写真や古文書を用いて紹介してきた。テーマとしては「壬申検査」「臨時全国社寺宝物取調」「日本における写真術の伝播」「美術と写真」といったようなもので、写真がその草創期から記録手段であるとともに芸術表現であることを紹介した。今回の特集陳列では日本写真史における先駆的写真師「小川一真」の作品に焦点をあて、「臨時全国社寺宝物取調」に先立って実施された「近畿宝物調査」(明治17～21年)の写真をご覧いただいた。この撮影で小川は①乾板を使用②マグネシウムによるストロボ撮影③プラチナ・プリントに焼付け、といった当時最新の技術を駆使し、芸術写真といっても過言ではない文化財記録写真を残した。120年を経てなお色褪せない見事な写真の数々をご堪能していただく展示とした。		
本館2階 特別2室	親と子のギャラリー 日本美術のつくり方	7月28日(火)～9月6日(日)	12(0.0)
	＜主な作品＞日本画の描き方－裏から色を塗る方法 ＜制作工程模型 仏画(裏彩色)一字金輪像＞、十六羅漢像(迦諾迦伐蹉尊者)、浮世絵版画のつくり方＜制作工程模型 浮世絵版画 冨嶽三十六景・神奈川沖浪裏＞		
	小学校高学年以上の児童・生徒や一般の来館者を対象に、家族での来館のきっかけ、および、平常展鑑賞の一助となることを目的として、伝統的な日本美術の制作工程に焦点をあてた教育普及的展示を実施した。「どうやってつくったのか」を知ることは、作品理解の重要な手がかりとなる。伝統的な日本美術の制作工程や技術は、私たちの日常では目にする機会も少なく、作品を一見したところで想像すらつかないものが多い。そこで、当館が所蔵する技術見本に加え、近年東京藝術大学の協力を得て制作した工程見本、ならびに本展示にあわせて専門家に制作を依頼した工程見本を加え、作品ができるまでを、見てわかりやすく、読んで納得、触って実感できる展示で紹介した。さらに、それらの技術を駆使して作られた「ほんもの」の作品の鑑賞を通して、歴史のなかで培われてきた日本文化のすばらしさに触れていただいた。 工程模型に対応する「ほんもの」の作品に関しては、一部、本館1、2階の展示室にて展示された。取り上げたジャンルは、浮世絵、仏画(裏彩色の技法を中心に)、仏像(一木彫)、刀の鍔(布目象嵌を中心に)、色絵磁器の5つ。また、材料に触る、簡単な作品をつくるなどのハンズオン・コーナーを展示室内および20室に設けた。		
本館2階 特別1室	聖母像の「到来」	8月4日(木)～9月6日(日)	68(0.44)
	＜主な作品＞◎聖母像(親指のマリア)、椅子の聖母子・巌上の鵜、マリア像(模造)		
	聖母像は、絵画、ロザリオ、銅牌、メダイ、十字架などにみえている。「親指のマリア」をはじめ、聖母に見立てて崇敬された白磁の観音像や、踏絵等のキリシタン遺物として伝来した聖母像とともに、ドイツからもたらされた石膏のマリア像や、下村観山筆の聖母像を紹介した。		
平成館	趙之謙とその時代 －趙之謙生誕180年記念展－	8月4日(火)～9月27日(日)	26(0.0)

企画展示室			
	＜主な作品＞楷書「小黄香箴」横披、楷書五言聯、行書七言古詩四屏		
	清時代中期、青銅器や石碑などの中国古代文字の書を学んだ碑学派とよばれる人々が一躍脚光を浴びた。中でも趙之謙は北魏時代の書に触発されて、「北魏書」という独自の表現を確立し、碑学派の中心的な役割を果たしたことで知られる。東京国立博物館と台東区立書道博物館との共同企画7回目となった本展は、今なお多くの人々を魅了する趙之謙の書・画・篆刻に焦点をあてながら、清時代の書の後半を飾る碑学派の歴史を窺おうとする展示とした。		
本館1階 16室	シリーズ「歴史を伝える」 世界と日本	8月18日(火)～10月12日(月)	23(0.1)
	＜主な作品＞徳川幕府朝鮮国王往復書翰、亜米利加渡来風刺武具の図、◎尊海渡海日記屏風		
	わが国は、古くから中国大陸、朝鮮半島など東アジアの国々と密接な関わりをもちながら発展してきたが、16世紀以降、ヨーロッパ人の来航によって西洋の知識がもたらされた。その後、外交上では、中国とオランダについて長崎を窓口とする管理貿易の体制が成立し、朝鮮国や琉球は、ともに使節が将軍に謁見する「通信」の国でもあった。こうした日本の外交政策は、政治・経済や文化などに大きな影響を与えたと考えられる。今回は、江戸時代を中心した国際交流に関する資料を紹介した。		
本館1階 14室	中国漆工	8月25日(火)～10月18日(日)	24(0.1)
	＜主な作品＞◎龍涛螺鈿稜花盆、黒漆輪花盆、犀皮盆、堆朱蓮形盆、牡丹唐草鎗金箱、花鳥漆絵盆		
	中国漆工には、彫漆・螺鈿・存星・漆絵・鎗金といった技法があり、これによって花鳥・楼閣人物・屈輪などの文様を表わす。その中国漆工の多様な様相を展示した。		
本館1階 19室	帝室技芸員	9月8日(火)～12月6日(日)	17(0.2)
	＜主な作品＞◎黄釉錆絵梅樹文大瓶、漆絵画帖、源氏香短冊散蒔絵料紙硯箱、◎鷲置物、白磁葡萄唐草浮文壺		
	帝室技芸員は、皇室による美術工芸作家の保護と制作の奨励を目的として明治23年(1890)に設けられた顕彰制度である。帝室技芸員には帝国博物館長の諮問に応じることが義務づけられていたこともあり、当館には多くの帝室技芸員の作品が収蔵されている。今回はその中から陶磁、金工、漆工の各分野の作品を選んで展示した。		
平成館 考古展示室	飛鳥時代の古墳　－大阪府塚廻古墳と古代東アジア文化－	9月8日(火)～11月29日(日)	29(0.1)
	＜主な作品＞金糸残片、金象嵌鉄刀残片、漆塗籠棺残片、緑釉棺台残片、ガラス管玉、陶棺、須恵器 脚付長頸壺		
	今年度寄贈となった大阪府塚廻古墳出土品を公開し、副葬品や横口式石槨にみられる寺院建築・荘厳装飾などの影響を紹介した。また、畿内地方終末期古墳の東アジア的要素と当該期の地方古墳の副葬品や陶棺装飾などとの比較を通して、7世紀の葬送儀礼にみられる畿内地方特定層の墳墓における先進性を示す展示とした。		
本館2階 9室	能面・能装束に見る能の表現　－女性の風姿－	9月15日(火)～11月8日(日)	17(0.1)
	＜主な作品＞唐織 紅緑段御簾色紙短冊萩模様、舞衣 紫地紫陽花雲模様		
	能面は無表情の形容詞のように言われるが、本来は舞台で使用されることによってさまざまな表情を生むように造形されている。今回は女性役を演じる際に用いられる主な様式の能面と、それに伴う能装束とを組み合わせ、能舞台における年齢や役柄の表現を見ていく展示とした。		
本館2階 特別1・2室	中国書画精華	9月15日(火)～11月8日(日)	43(13.14)
	＜主な作品＞●十六羅漢図(第一尊者)、◎六祖截竹図、●雪景山水図、●紅白芙蓉図、●夏景山水図、◎李白吟行図、●出山釈迦図、●雪景山水図、◎猿図、◎竹鶏図、◎寒山拾得図、●瀟湘臥遊図巻、●法語(流れ圜悟)		
	鎌倉時代以降、宋元の書画が禅宗とともに数多く舶載されたが、それらは、書院や茶室において、日本人の趣味にもとづいて鑑賞され親しまれた。特に東山御物に代表される精品の中には、今日、日本のみに伝世しているものが少なくない。また、明治以降、中国本来の文人趣味を理想とするすぐれた賞鑑家により、中国伝世の歴代の書画の精品も少なからず収集された。今年も中国書画の名品を集めて中国書画精華展を開催した。		
本館1階 15室	アイヌの祈り	9月29日(火)～21年1月3日(日)	49(0.0)
	＜主な作品＞祭具、首飾、イナウ、アイヌ鍬形、盆、五弦琴		
	「アイヌの祈り」をテーマとして展示した。アイヌの人びとが祈りの場で使用した祭具や衣服、装身具などとともに、熊送りに関する作品を多く陳列した。『蝦夷島奇観』等の写真パネルを多く用いて、展示品の使用された場面がより具体的にイメージできるよう工夫する展示とした。		
本館1階 16室	シリーズ「歴史を伝える」 皇室と東京帝室博物館	10月14日(水)～12月6日(日)	15(0.0)
	＜主な作品＞神鹿、赤坂離宮下絵 花鳥図画帖、明治宮殿杉戸絵 石山秋月		
	東京国立博物館は歴史的に皇室との関わりが深い。明治19年(1886)、博物館は農商務省から宮内省に移管され、明治33年(1900)から昭和22年(1947)まで「東京帝室博物館」を名乗っていた。正倉院宝物等御物の管理や、宮内省の行った臨時全国宝物取調、帝室技芸員制度等は、博物館が中心となって進め、関連資料が当館に受け継がれている。これら皇室に由来する作品を紹介した。		
本館1階 14室	呉州赤絵	10月20日(火)～12月20日(日)	23(0.0)
	＜主な作品＞五彩牡丹蓮文壺、五彩獅子図大皿、五彩コーラン聖詞大皿、瑠璃釉白花花文大皿		
	呉州赤絵は明時代後期の16世紀末から17世紀前半にかけて福建省南部の漳州近辺の窯で生産された輸出向けの量産品であり、鮮烈な色彩と生気あふれる筆づかいが喜ばれた。館蔵品・寄託品の呉州赤絵に加えて、同時に生産された青花や餅花手を展示し、変化に富んだ作風を紹介した。あわせて、茶の湯で賞翫された呉州赤絵や京都で作られた呉州赤絵の写しを展示し、日本文化に及ぼした影響を検証する展示とした。		
本館2階 9室	能「紅葉狩」の面と装束	11月10日(火)～22年1月11日(月)	10(0.0)
	＜主な作品＞唐織 緑紅茶段青海波花熨斗扇夕顔模様、厚板 紅緑段雲矢襖鱗模様		

	江戸時代の能面・能装束を中心に能の展示をした。今回は能「紅葉狩」をテーマに、登場する前シテの美女、後シテの鬼女、ワキ方の武将・平維茂を演ずる際に使用する面・装束の組み合わせを展示した。併せて、能狂言絵巻に描かれる能「紅葉狩」を絵巻とパネルで紹介し、よりいっそう江戸時代の能へとイメージを膨らませていただく展示とした。		
本館2階 特別2室	東京国立博物館所蔵の正倉院織物	11月10日(火)～12月6日(日)	40(0.0)
	＜主な作品＞樹皮色織成、模織 樹皮色織成、長斑花唐草文錦襪、淡縹地大唐花文錦、長斑獅噛文錦		
	東京国立博物館には、正倉院の染織品が収蔵されている。これらは、明治9年(1876)12月16日、内務卿大久保利通が太政大臣三条実美に上申し、正倉院の染織品のなかから、往古の織物文様の考証に参考となるものを手鑑にして博物館等へ配布したものである。現状は手鑑ではなくガラス挟みとなる。これらは現在、当館と京都国立博物館に収蔵されており、奈良国立博物館へ配布されたものは後日、正倉院へ返納されている。内容的にみて、織物、染物、刺繍といったさまざまな染織品が含まれており、いずれも残欠になっているものが多いとはいえ、なかには、服飾品の「襪」や聖武天皇一周忌に用いられた道場幡の幡足下方に飾られた錦の垂端飾りや天蓋の垂飾に用いられたものなど、形状がわかる作品もあり、非常に貴重である。今回は、これらの染織品のうち織物を中心に、現品とそれらの文様を大正から昭和の初めにかけて模造した作品や模写図などを対比させながら奈良時代の織物の数々を展示した。		
平成館 考古展示室	茨城の弥生再葬墓	12月1日(火)～22年3月14日(日)	33(0.0)
	＜主な作品＞人面付壺形土器、管玉、土偶		
	今回の特集陳列は、考古相互貸借事業にともなって東日本における弥生時代前半期の代表的な墓制である再葬墓について展示を行った。再葬墓とは遺体を一度埋葬して白骨化させ、その骨を再び土器にいれて埋葬する墓制である。近年の発掘調査によって、この蔵骨器のなかに人面表現がつけられる例や絵画表現がつけられる例が増え注目されている。これら人面付壺形土器と絵画付土器に加えて、土偶や管玉、小型土器などの副葬品をあわせて紹介することで再葬墓への理解をすすめる展示とした。		
本館1階 16室	シリーズ「歴史を伝える」 博物館の創始者・蜷川式胤の収集資料	12月8日(火)～22年1月17日(日)	32(0.3)
	＜主な作品＞◎壬申検査社寺宝物図集、東大寺献物帳(模本)、◎旧江戸城写真帖		
	蜷川式胤は、明治政府の制度を作りながら、博物館の創設にも町田久成とともに深く関わった人物である。当館には、蜷川式胤の寄贈した作品や、式胤の採取した拓本、模写等、式胤に由来する作品が多く残されており、これらは、博物館の初期の活動を知る上で重要な資料である。今回は、式胤が関係した作品を中心に展示した。		
平成館 企画展示室	古代・中世の茨城　－経塚・板碑・和鏡－	12月8日(火)～22年3月7日(日)	45(0.0)
	＜主な作品＞自然釉甕、銅経筒、金銅経筒、板碑、蓬莱鏡		
	今回の特集陳列は、考古相互貸借事業にともなって茨城県立歴史館から借用した門毛経塚出土品を中心に、当館が所蔵する、茨城県から出土した、平安～室町時代の経塚遺物、板碑、和鏡のすべてを加えて展示を行った。今回展示した経塚遺物のなかでは、経巻の残りがよいことが注目される。中世の特徴的な遺物である板碑は、古河市頼政廓跡出土品などを展示した。和鏡は中世のもので、池から出土しており、水信仰との関係が考えられるものである。これら、普段ほとんど展示する機会のないものを展示し、資料の有効活用をはかるものとした。		
本館1階 14室	古代ガラスの発達　「吹きガラス」への道	12月22日(火)～22年2月14日(日)	65(0.0)
	＜主な作品＞頭飾、鏡、千華文皿、金帯装飾ピュクシス、金帯装飾アバラストロン、把手付人頭形瓶、貼付文動物形リュトン		
	「小学館古代ガラス・コレクション」の中から60件余りを選び、前1世紀に地中海東部で起こった「吹き技法」の発達を探る展示を行った。それ以前のガラスはペーストガラスがほとんどで、鋳造、モザイク、コアなどの技法によって、色鮮やかな宝石としての装身具や小型容器が作られていた。吹き技法の発明は素材の特性を大いに活かしたもので、ガラスの概念を変えた。本陳列では、吹きガラスとそれ以外の技法による作品を対比して展観した。		
本館2階 特別1室	歳寒三友と明末清初の書	22年1月2日(土)～1月31日(日)	18(0.0)
	＜主な作品＞老松図、墨梅図、墨竹図、五松図、鹿鶴図屏風、桃実図、草書七言絶句軸、行書五律北方俚作詩軸、草書五言絶句軸		
	厳寒の中、松と竹は常緑を保ち、梅は百花に先駆けて開花し清香を放つことから、中国において松、竹、梅は、節度を守り不変の志をもつものとして「歳寒三友」と称えられた。また、松は不老長寿、竹は平安、子孫繁栄、梅は子孫繁栄(子授け)などを象徴するものとされた。中国の花鳥画に描かれる多くの事物には、例えば、蓮、水鳥、魚は豊かさ、牡丹は富貴、桃は長寿、葡萄、瓢箪、石榴は子孫繁栄、鳳凰は天下泰平、蝙蝠は福を象徴するように、人々の様々な願いがこめられてきた。それらは、次第に吉祥図として定着し、人々に親しまれてきた。新年にあたり、歳寒三友(松・竹・梅)を中心に吉祥図を特集して展示した。書跡は明末から清初にかけて流行した連綿趣味に焦点をあて、明の遺臣・倪元璐や、明・清両朝に仕え弐臣と貶められた王鐸らをとりあげ、多様な書の展開を概 観する展示を行った。		
本館2階 特別2室	博物館に初もうで 寅之巻	22年1月2日(土)～1月31日(日)	35(0.1)
	平成22年は干支でいうと庚寅にあたる。虎は東西南北を象徴する四神の一として、古代より鏡や塼などにあらわされた。虎は勇猛なばかりでなく徳の高さをも象徴し、画題や刀装具のデザインとして武士たちに好まれ、朝鮮王朝では武官のシンボルとされた。一方、「虎の子」というように虎は子供を非常に大切にする動物として知られ、端午の節句には子供を守る悪魔よけとされる。勇気、力と徳、そして深い情愛を兼ね備えた虎を題材とした日本、中国、朝鮮の作品を集め、新年を祝う展示を行った。		
本館1階 15室	アイヌの飾り	22年1月5日(火)～4月4日(日)	47(0.0)
	＜主な作品＞前垂、アットゥシ、筬、マキリ、盆、広蓋		
	「アイヌの飾り」をテーマとして展示を行った。アイヌ民族の代表的な文様であるモレウとよばれる渦巻き文を中心に、祭具や衣服、工具や木工品などに施された多彩な飾りや文様を紹介した。アイヌ民族のものだけでなく、樺太ニブヒやウィルタの人びとがつくりだした文様についても紹介した。『蝦夷島奇観』等の写真パネルを多く用いて、展示品の使用された場面がより具体的にイメージできるよう工夫する展示とした。		
本館2階 9室	舞楽装束	22年1月13日(水)～3月7日(日)	14(0.0)

	＜主な作品＞納曾利裲襠 萌葱地桐唐草に鳳凰丸模様、陵王裲襠 雲に龍丸模様		
	本館9室では、年6回の展示替の内、1回を舞楽装束の展示に当てている。今回は唐楽(左方)「陵王」および高麗楽(右方)「納曽利」(一人舞では「落尊」と称する)をテーマに、江戸時代の舞楽面および舞楽装束を展示した。あわせて、舞楽を演じる様子を描いた「舞楽図巻」や雅楽の楽器、舞楽の衣裳人形などを展示することにより、宮廷文化である雅楽のみやびな世界をイメージできる陳列とした。		
本館1階 18室	高野コレクション－浅井忠の日本風景	22年1月13日(水)～2月21日(日)	6(0.0)
	＜主な作品＞聖護院の庭		
	実業家高野時次氏の蒐集による、明治の洋画家浅井忠の作品は、油彩画11点、水彩・デッサン56点、掛軸6点の計73点におよび、浅井の円熟した画技を示す滞欧期の水彩画を多く含んでいる。高野コレクションは、この浅井作品全73点が、昭和60年(1985)に氏のご遺志によりご遺族の方々から当館に一括寄贈されたものである。今回の特集陳列は、このコレクションのうち浅井が留学から帰国した後、京都に移住してから描いた日本の風景作品6点を展示した。この特集によって透明感あふれる日本の情景を描いた浅井作品の魅力を堪能していただく展示とした。		
本館1階 16室	シリーズ「歴史を伝える」 東京国立博物館の洋書コレクション2－初期博物館の図書収集－	22年1月19日(火)～3月7日(日)	21(0.0)
	＜主な作品＞〔建築計画図集〕、《英大字書》		
	昨年に続いて、東京国立博物館が創設以来収集・保管してきた欧米の書籍を紹介した。今回は主に、欧米の博物館に関する情報収集や外国語の学習、内務省及び農商務省所管の時期における殖産興業の支援などの目的で入手した書籍を陳列した。		
本館2階 特別2室	有職	22年2月3日(水)～3月28日(日)	24(1.0)
	＜主な作品＞類聚雑要抄彩色図、装束裂(九重の紅葉)、唐菓子雛形、旧儀式図画帖「修学院御幸」、●飾剣、飛香舎調度 二階厨子		
	宮廷の服飾調度類の伝統的な様式は、宮廷の衰退や戦乱のなかで途絶えがちにもなったが、近世の有職学者たちの研究によって復興をとげた。有職学者たちの考証の成果に基づく安政造営内裏(現在の京都御所)ゆかりの調度である飛香舎調度、宮廷装束の様式を伝える裂帖や雛形、宮廷儀礼の実際を描き留めた儀式図といった資料を紹介した。		
本館1階 14室	おひなさまと人形	22年2月16日(火)～3月28日(日)	47(0.0)
	＜主な作品＞裸嵯峨、享保雛、御所人形 鶴亀		
	三月三日の桃の節句にちなみ、毎年恒例の雛飾りの特集を行った。今回は内裏雛や、大名家の雛道具や初公開となる雛膳のほか、京都の伝統工芸である御所人形を特集して展示した。		
本館1階 18室	農村(田園)へのまなざし	22年2月23日(火)～4月4日(日)	34(0.1)
	＜主な作品＞◎春畝、田舎家、枯れ野原(グレー)、栗拾い、案山子		
	平成19年4月に独立行政法人国立博物館と独立行政法人文化財研究所が統合され、独立行政法人国立文化財機構が発足したことを記念して行う第4回目の特集陳列である。今回の特集陳列では、日本におけるバルビゾン派の受容を、農村(田園)を描いた浅井、黒田の作品でたどった展示を行った。		
本館2階 9室	歌舞伎衣裳	22年3月9日(火)～5月16日(日)	14(0.0)
	＜主な作品＞振袖 水浅葱繻子地枝垂桜模様(歌舞伎衣裳)、振袖 紅縮緬地桜流水模様(歌舞伎衣裳)		
	江戸時代後期大奥で活躍した女性のお狂言師、坂東三津江が使用していた歌舞伎衣裳および道具を展示した。今回の展示では、春の季節に合わせて桜の意匠を表わした振袖や、娘道成寺という演目で使用された襦袢などを展覧した。併せて、娘道成寺を描く浮世絵版画を展覧し、江戸時代の三大娯楽の1つであった歌舞伎の文化を見る機会とする展示を行った。		
本館1階 16室	シリーズ「歴史を伝える」 博物図譜－桜を中心に－	22年3月9日(火)～4月25日(日)	24(0.0)
	＜主な作品＞草花写生図巻、本草図説、遠西舶上画譜		
	日本における博物学は、享保年間(1716～35)に江戸幕府が全国的な物産の調査を行ったのを契機に流行した。写生によって物のかたちを詳しく記録することは、博物学の流行する以前にも、心覚えのスケッチとして行われていたが、なかには自然科学への関心の高まりがうかがえるものもみられる。今回の展示では、季節にちなんだ桜を中心として、博物画の先駆けともいえる狩野探幽(1602～74)の写生図から、明治時代の実用的な掛図にいたるまでの、生き生きとした楽しい博物図譜をご紹介した。		
本館1階 19室	伝統工芸－人間国宝の技と美	22年3月9日(火)～6月6日(日)	17(0.0)
	＜主な作品＞乾漆朱菊花方盤、華菱文玳瑁螺鈿箱、鸚鵡小禽葡萄文箱、燿彩鉢 心円		
	当館は文化庁からの管理換品をはじめ、重要無形文化財(人間国宝)の作家による伝統工芸の作品を多数所蔵している。日本の工芸の伝統的な技法を基本として作られたこれらの作品の中から、漆工、金工、陶磁の優品を選んで、その技と美を紹介した。		
平成館 考古展示室	骨角器－人と動物たちとのかかわり－	22年3月16日(火)～9月12日(日)	151(0.0)
	＜主な作品＞燕形銛頭、釣針、犬歯製垂飾、歯牙製垂飾		
	当館における縄文時代から弥生時代にかけての骨角器のコレクションは、その量とともに、質の高さから各方面より古くから注目されてきた。そのコレクションの全貌は、これまでに図版目録、研究図録として公表してきた。今回、その優れたコレクションの一部(狩猟具・漁撈具・装身具など)を展示し、当時の人々の生業の実態に迫ると共に、人間と動物の関わりについてもわかりやすく解説する展示とした。		
平成館 企画展示室	東京国立博物館コレクションの保存と修理	22年3月16日(火)～5月9日(日)	22(0.1)
	＜主な作品＞◎申文、小袖 黒綸子地遠州模様、色絵柏樹双鳥図大皿		
	東京国立博物館が手がける保存と修理の成果を、よりわかりやすく紹介するため、平成20年度に修理が完了した作品を中心に、		

	全19件を展示した。絵画、書跡、工芸、歴史資料、考古にわたるさまざまな分野、形態、技法の作品を取り上げ、修理工程および修理過程で得られた情報をパネルにて詳細に紹介することにより、博物館が担う文化財修理の役割に広い理解を期待する展示とした。		
本館1階 13室	海を渡った日本の漆器	22年3月24日(水)～6月13日(日)	18(0.0)
	＜主な作品＞桔梗蝶楓鹿蒔絵螺鈿聖龕、楼閣山水蒔絵宝石箱、花鳥螺鈿裁縫机		
	近世以降ヨーロッパの上流階級の間には東洋趣味が広く浸透しており、日本の漆器は東洋を象徴する室内装飾調度として、彼らの間で大いに人気を集めた。そのような需要に応えて制作された、安土桃山時代から幕末明治期までの作品をとりあげて輸出漆器の歴史を概観し、日本の漆器が欧州で愛でられ続けたことを紹介した。		
本館1階 14室	中国の五彩と日本の初期色絵	22年3月30日(火)～5月30日(日)	23(0.0)
	＜主な作品＞五彩丸文平鉢、色絵山水船人物図銅羅鉢、五彩蓮池図大皿、色絵蝶牡丹文大皿、色絵翡翠図平鉢		
	色絵とは白磁をいったん高温で焼きあげ、上絵具で絵付けを施したのち、再び窯に入れて焼き付ける技法で、中国では五彩という。中国の景徳鎮民窯では、明末清初の時期に天啓赤絵、色絵祥瑞、南京赤絵など多種多彩な五彩が焼かれ、さかんに輸出された。江戸時代初期に磁器の生産が始まった九州肥前の有田では、17世紀中葉に中国から色絵の技術が導入され、中国のさまざまな五彩磁器の様式をもとに豊かな創意が加えられて、独創的な初期色絵が花開いた。その中には、かつて加賀の九谷で焼かれたと考えられたことにより、古九谷とよばれた一群も含まれる。中国の五彩と日本の初期色絵を比較することにより、相互の影響関係、そして模倣と創造の不即不離の関係を検証する展示を行った。		

②東洋館

●国宝　◎重要文化財　〇重要美術品

場所	テーマ	会期	陳列件数(国宝・重文)
第3室	インドの細密画	21年1月14日(水)～4月5日(日)	40(0.0)
	＜主な作品＞聖職者を訪ねるムスリムの女たち、魚に化身したヴィシュヌ(マツヤ・アヴァターラ)、ビカネールの藩王ビジェイ・シン立像		
	中世インド世界では、神話、ヒンドゥー教世界、王の肖像、歴史的エピソード、男女の恋の様相、動物図など、さまざまなテーマが絵画として表現された。本特集はこのような内容を描いた細密画を展示するもので、ムガル王朝時代を中心に、地方ムガル派、ビカネール派、ジャイプール派、カーングラ派などインド各地の流派で構成した。前、後2期にわけ、20点ずつ計40点を展示した。		
第5室	「名物裂」にみる文様Ⅳ－幾何学文と縞－	21年1月14日(水)～4月5日(日)	11(0.0)
	＜主な作品＞茶地鱗文緞子(住吉緞子)、濃浅葱地鱗文金襴(井筒屋裂)、縞地梅鉢文金襴(高木金襴)、日野間道		
	「名物裂」と呼ばれている染織品は、室町時代に発展した茶の湯の流行にともなってあらわれてきたもので、広くは鎌倉時代から江戸時代初期にかけて、中国から舶載された染織品の一群である。これらは中国の元・明・清時代に中国などで製作された金襴をはじめ緞子・錦・間道などが含まれる。こうした染織品は、大名家や社寺などに所蔵されたものもあれば、茶道の仕覆や袋、書画の表装裂などに用いられた。名物裂にはさまざまな種類の技法と文様がみられる。今回は文様を中心に名物裂の種々相をみてゆくことにした。4回目は幾何学文様や縞を用いた裂を展示した。		
第10室	ペルーの土器	21年1月27日(火)～4月26日(日)	13(0.0)
	＜主な作品＞キツネ形鐙壺、鳥形装飾付双口壺、水鳥形鐙壺、サル顔付鐙壺、アリバロ型小壺		
	東博が所蔵する日本と東洋以外の作品を紹介するシリーズ第3弾として、南米ペルーの土器を特集した。特に、口が2つの付け根をもつため「鐙壺」と呼ばれるその独特の造形や、動物を象った文化的背景などを解説する展示とした。		
第4・5室	中国の鏡	21年3月3日(火)～6月7日(日)	21(0.0)
	＜主な作品＞画文帯同向式神獣鏡、海獣葡萄鏡		
	詳細な解説パネルとともに中国の鏡を紹介した。平成18年度は漢・六朝を中心とし、平成19年度は隋唐を中心としたが、平成20年度は、戦国時代から宋時代以降の鏡まで含めた展示とした。		
第8室	法帖と帖学派	21年3月3日(火)～4月26日(日)	28(0.0)
	＜主な作品＞群玉堂米帖、十七帖、楷行草雑臨古帖巻、臨米芾書軸		
	宋の太宗が、宮廷に収蔵される歴代名臣の書を編集させた『淳化法帖』が淳化三年(992)に刊行されて以来、法帖は書を学ぶ基本的なテキストになった。明時代にも文徴明や董其昌らによって『停雲館帖』や『戯鴻堂帖』など、家刻の精彩ある法帖が引き続き刊行され、その風潮は清時代にも受け継がれる。歴代の法帖と、法帖を学んだ明清時代の帖学派の流れを概観する展示とした。		
第3室	インドネシアの染織	4月7日(火)～6月7日(日)	14(0.0)
	＜主な作品＞ドドット 茶地ガルダ模様更紗、肩掛(スリムット) 藍地動物文様経絣		
	インドネシアは大小さまざまな島々からなり、それぞれの島に特有の染織模様や技法がうかがえる。19世紀から20世紀にかけて生まれたインドネシアの絣(イカット)、更紗(バティック)、絞り染などを展覧し、それぞれの島が持つ染織の魅力に迫る展示を行った。		
第3室	南太平洋の暮らしと祈り	4月7日(火)～6月7日(日)	15(0.0)
	＜主な作品＞イモ用杵、ココナッツ掻器、大面、ワニ		
	貝・珊瑚・サメの歯などの海産資源を巧みに利用した南太平洋ならではの暮らしの道具、およびメラネシアで特に発達した祖霊信仰の彫刻を展示した。当館所蔵の南太平洋の民族資料がまとまって展示公開されるのは約30年ぶりである。		
第8室	顔真卿とその周辺	4月28日(火)～6月7日(日)	24(0.0)
	＜主な作品＞千福寺多宝塔碑、祭姪文稿、麻姑仙壇碑、郭氏家廟碑、顔氏家廟碑		
	安史の乱の平定に大きな功績をあげた顔真卿(709～785)の書は、宋時代になってその評価が確立した。この特集陳列では、後世から唐の四大家の一人に挙げられる顔真卿に焦点をあて、顔真卿の諸作品の中から整本・剪装本の代表作を選び、書風の変遷を窺うとともに、同時代の拓本をあわせて陳列した。		
第10室	朝鮮王朝時代の女性の生活と美	4月28日(火)～6月7日(日)	12(0.0)

	＜主な作品＞チョゴリ、タレポソン、華角貼尺
	朝鮮王朝時代における上流階級の女性たちが身につけた衣装や装身具、および裁縫道具を取り上げ、美意識とそれに基づいた生活の一部を紹介する展示を行った。

③表慶館
なし

④法隆寺宝物館
なし

(参考)黒田記念館

場所	テーマ	開催期間	陳列件数(国宝・重文)
黒田記念館		4月2日(木)～22年3月27日(土)	92(0.2)
	＜主な作品＞◎湖畔、◎智・感・情、昔語り下絵(舞妓)		
	黒田記念館は、洋画家黒田清輝の遺産と作品が国に寄贈されたことが契機となって建てられた施設である。館内には黒田記念室が設けられ、遺族の方々から寄贈された遺作の油彩画、素描等を展示して画家黒田の芸術を顕彰するために公開した。なお、開館日は毎週木、土曜日。		

7)広報
・特集陳列「趙之兼とその時代」　台東区立書道博物館との連携企画
会　　期：2009年8月4日～9月27日
広　　報：
ターゲット：書道愛好家
重点項目：新聞文化欄および書・美術専門雑誌に向けてのプロモート。
特記事項：台東区立書道博物館と連携してリリースを配信(配信先約550件)
報道内見会の実施　(8月3日、29人出席)

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付	台東区書道博物館から送付
交通広告	7月下旬～8月上旬　駅貼り広告(ＪＲ上野駅、鶯谷駅)
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
新聞掲載	朝日新聞、読売新聞など
テレビなど	―
雑誌掲載	「カノン」「月刊書道界」など
博物館ニュース	特集1回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信

・親と子のギャラリー
「日本美術のつくり方」
会　　期：2009年7月28日～9月6日
広　　報：
ターゲット：親子および初心者やはじめて博物館に来る人を含む一般の美術愛好家
重点項目：広く一般に向けての情報周知、親子向け媒体へのプロモート
特記事項：リリースの配信(約280件)、新聞広告

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付	―
交通広告	―
新聞・雑誌広告	毎日新聞1回、朝日小学生新聞　4回、読売新聞　1回
テレビ広告	―
新聞掲載	―
テレビなど	―
雑誌掲載	「東京ウォーカー」など
博物館ニュース	告知1回、特集1回
インターネット	当館ウェブサイト(ホームページ)での紹介、メールマガジンでの情報配信

・特別企画
「留学生の日」
会　　期：2009年10月3日

広　　報：
ターゲット：留学生
重点項目：学校を通じた広報、英字媒体を通じた広報
特記事項：リリースの配信(約280件)、ポスター・チラシの制作、学校へのＤＭ

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付	約510件(大学、語学専門学校等)
交通広告	―
新聞・雑誌広告	―
テレビ広告	―
新聞掲載	―
テレビなど	―
雑誌掲載	「メトロポリス」など
博物館ニュース	告知1回
インターネット	当館ウェブサイト(ホームページ)での紹介、メールマガジンでの情報配信

・特別企画
「博物館に初もうで」
会　　期：2010年1月2日～1月31日
広　　報：
ターゲット：一般の美術愛好家、家族連れ、日本人および外国人観光客
重点項目：広く一般のマスコミを通じた情報提供。
特記事項：イベント広報を通じて、まだ博物館に来たことのない人の来館を促進。家族づれや外国人観光客向けの媒体へのプロモートを実施。

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付	約1,600件(全国博物館・美術館・学校・ホール・大使館・ギャラリー・ホテル・旅館・インターナショナルスクール・カルチャーセンター等)
交通広告 街頭広告	駅貼り広告(ＪＲ山手セットミニ、京王電鉄、東京メトロ)、駅貼りちらしボックス付(東京メトロ20駅31面) 銀座4丁目ホットビジョン　1ヶ月間
新聞・雑誌広告	朝日新聞2回、読売新聞、毎日新聞、ジャパンタイムズ2回、デイリー読売
テレビ広告	―
新聞掲載	東京新聞、日本経済新聞ほか
テレビなど	―
雑誌掲載	ぴあ、目の眼、美術の窓　ほか
博物館ニュース	特集1回
インターネット	当館ウェブサイト(ホームページ)での紹介、メールマガジンでの情報配信

・特別企画
「博物館でお花見を」
会　　期：2010年3月24日～4月11日
広　　報：
ターゲット：一般の美術愛好家、家族連れ、日本人および外国人観光客
重点項目：広く一般のマスコミを通じた情報提供。
特記事項：イベント広報を通じて、まだ博物館に来たことのない人の来館を促進。家族づれや外国人観光客向けの媒体へのプロモートを実施。

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付	約1270件(全国博物館・美術館・学校・ホール・大使館・ギャラリー・ホテル・旅館・インターナショナルスクール・カルチャーセンター等)
交通広告 街頭広告	駅貼り広告(ＪＲ京浜エリアシングル・中央総武シングル、上野・鶯谷駅東京メトロ、京成2駅2面、京王電鉄)、駅貼りちらしボックス付（東京メトロ） 社内吊広告（都営交通タイアップ） 銀座ホットビジョン　1ヶ月間
新聞・雑誌広告	朝日新聞、読売新聞、日本経済新聞各１回
テレビ広告	―
新聞掲載	朝日新聞、毎日新聞、読書人　など
テレビなど	ＴＢＳ「みのもんたの朝ズバッ」、日テレ「ズームインスーパー」、テレビ東京「アド街ック天国」
雑誌掲載	「東京ウォーカー」など
博物館ニュース	特集2回
インターネット	当館ウェブサイト(ホームページ)での紹介、メールマガジンでの情報配信

(2) 特別展・共催展等(海外展・巡回展を含む)

展覧会名：興福寺創建1300年記念／平城遷都1300年記念／朝日新聞創刊130周年記念／テレビ朝日開局50周年　「国宝 阿修羅展」
開会期間：21年3月31日～6月7日　(61日間)
会　　場：平成館2階　特別展示室第1室～第4室
主　　催：東京国立博物館、興福寺、朝日新聞社、テレビ朝日
後　　援：文化庁、平城遷都1300年記念事業協会
特別協賛：ＪＡバンク
協　　賛：株式会社竹中工務店、三菱商事株式会社、凸版印刷株式会社、東日本旅客鉄道株式会社
特別協力：ソニー株式会社
協　　力：ニッセイ同和損害保険株式会社、朝日放送、文化放送、朝日学生新聞社
陳列品総件数：75件(うち国宝58件、重要文化財10件)
入館者数：946,172人(21年度　933,895人)(目標入場者数 540,000人・達成率 175.2%)
入場料金：一般 1500 円(1300 円／1200 円)、大学生 1200 円(1000 円／900 円)、高校生 900 円(700 円／600 円)、中学生以下無料　＊　(　)内は前売り／20 名以上の団体料金
担当研究員数：5人

展覧会の内容：
　国宝阿修羅像を核として、十大弟子・八部衆などの天平期の諸像ならびに平安期の諸像等を展示し、創建期からの興福寺の歴史的意義を顕彰しつつ、仏教芸術の素晴らしさを鑑賞いただいた。

講演会等：
記念講演会
①「興福寺創建と天平文化」　講師：多川俊映師　(興福寺貫首)
　平成館 大講堂　4月11日
②「国宝　阿修羅像」　講師：金子啓明　(当館特任研究員)
　平成館 大講堂　4月25日
③「奈良時代の興福寺と阿修羅像」　講師：佐藤信氏　(東京大学大学院人文社会系研究科教授)
　平成館 大講堂　5月9日

広報：
　ターゲット：広く一般。10代～20代の若年層から70代以降まで幅広い層に訴求。
　重点項目：マスコミおよび交通広告による広く一般への情報提供。
　特記事項：①「阿修羅ファンクラブ」(先行前売り券購入で入会)による話題作り。仏像ブームの火付け役となったタレント・文化人を巻き込んでマスコミでの注目度を高め、特製会員バッジのプレゼント、ファンクラブ公式サイトの会員限定ページへのアクセス権の付与、ファンクラブイベントの開催、専用音声ガイドの展開によりプレミア感を演出。②若い女性をターゲットとした雑誌「ＪＵＮＯＮ」とタイアップして阿修羅ボーイコンテストを実施③海洋堂による阿修羅像フィギュアを販売。開幕早々に完売し、注目を集めた。④テレビの全キー局の情報番組が社会現象として阿修羅展を取り上げ、阿修羅に熱狂する「アシュラー」、歴史に詳しい「歴女」が注目された。⑤作品梱包、搬送時に取材・撮影に応じ報道促進につながった。⑥主催朝日新聞紙上およびテレビ朝日で繰り返し報道。

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付 ジュニア用ワークシートＤＭ送付	約5,000件(博物館・美術館・画廊・カルチャーセンター・古書店・等) 約14,000件(1都6県＋山梨、静岡、宮城　小・中・高等学校)
交通広告	2008年12月中旬～2009年6月初旬 交通広告　駅ボード(首都圏ＪＲ・私鉄全線200駅200面の大型ボード、都内主要34駅SWボード68面、東京メトロ電飾40面) ポスター等(JR東日本、東急、京王、西武、京成と券売やポスター掲示などでタイアップ) 駅横断幕(上野駅公園口)
新聞・雑誌広告	JUNONタイアップ広告(阿修羅ボーイキャンペーン展開)
テレビ広告	テレビ朝日ドラマ番組内告知スクロール、情報番組スポットなど　多数回
新聞掲載	朝日新聞(特集記事、展覧会開催・イベントなどの告知記事、集荷などの取材記事　計223件)ほか他社全国紙でも多数
テレビ放映	テレビ朝日特別番組「阿修羅の涙」、「スーパーＪチャンネル」報道特集、NHK「日曜美術館」(本編)、「プロフェッショナル」「ワンダー×ワンダー」、「おはよう日本」、フジテレビ「めざまし」、日本テレビ「ズームイン」など
雑誌掲載	「ブルータス」「一個人」「日経おとなのOFF」「サライ」「ぴあMOOK」特集など
博物館ニュース	特集2回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信 公式ウェブサイト、共催者(朝日新聞・テレビ朝日)ウェブサイトでの紹介

②パブリシティー情報掲載・放映
　新聞　490件、雑誌　389件、テレビ/ラジオ 115件、インターネット　70件
③記者発表会　2008年10月16日　日本記者クラブにて　(101人出席)
④報道内見会　3月19日(337人出席)
⑤教員鑑賞会　3月31日～4月10日まで教員招待　(225人出席)

⑥阿修羅ボーイ内覧会3月30日　20人出席
⑦阿修羅ファンクラブ内覧会　4月7日～9日(2420人出席)
⑧雑誌「ぴあ」読者内覧会　4月18日(215人出席)

展覧会名：特別展　「Story of...カルティエ クリエイション～めぐり逢う美の記憶」

開会期間：21年3月28日～5月31日(57日間)
会　　場：表慶館1・2階
主　　催：東京国立博物館、日本経済新聞社
特別協力：カルティエ
後　　援：フランス大使館
協　　賛：エグゼク インターナショナル、ＪＴＢ法人東京、セントラル硝子、大日本印刷、マックスレイ、山元、ライジングサンセキュリティーサービス
陳列品総件数：276件(うち指定品0件)
入館者数：120,483人(21年度　115,568人)(目標入場者数 90,000人・達成率 133.4%)
入場料金：一般1400円、大学生・高校生800円　中学生以下無料
担当研究員数：1人

展覧会の内容：
日仏交流150周年を記念し、フランスを代表するジュエラー、カルティエが所有する1300点ほどのアーカイヴピースを中心に、267件を展示。世界的にも評価の高いデザイナーの吉岡徳仁氏が監修し、それぞれの宝飾品に秘められたストーリーを演出した。

講演会等：
記念講演会
①　「展覧会のディレクションと吉岡徳仁のデザイン観」　講師：吉岡徳仁氏(デザイナー)、伊東史子氏(デザインマネジメント)
平成館 大講堂　4月5日

広報：
ターゲット：40代以降の女性を中心としたファッション・宝飾愛好家
重点項目：ハイクラス女性誌を中心としたマスコミ媒体へのプロモート。
マスコミ、交通広告による広く一般への情報提供。ファッション業界への周知。
特記事項：①イメージ戦略の一環として、各界のＶＩＰを招いてのカルティエディナーパーティを実施し、取材を促進。②女性誌の読者招待会を実施。カルティエのもつ高いブランド力と雑誌のもつブランド力によって、展覧会のブランド感を構築した。

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付	約7000件(全国博物館・美術館・ギャラリー等)
交通広告	車内広告(東京メトロ　銀座線、日比谷線) 駅貼り広告(ＪＲ15駅、東京メトロ11駅、東急電鉄、小田急電鉄江ノ電)など
新聞・雑誌広告	朝日新聞　2回　日本経済新聞　4回
テレビ広告	なし
新聞掲載	日本経済新聞(特集記事　1回　開催告知多数)など
テレビ放映	―
雑誌掲載	「婦人画報」「和楽」「25ans」特集など
博物館ニュース	予告1回、特集1回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信 公式ウェブサイトでの紹介

② パブリシティー情報掲載・放映
新聞　115件、雑誌　138件、ラジオ1件、インターネット　33件
③ 記者発表会　12月16日(パークハイアット東京　The Ballroomにて　131人出席)
④ 報道内見会　3月26日(239人出席)
⑤「25ans」読者内覧会4月23日(49人出席)、「婦人画報」読者内覧会5月21日(40人出席)、「和楽」5月28日(47人出席)
⑥カルティエディナー　4月9日(180人出席)

展覧会名：「日本・ギリシャ修好110周年記念　アテネ・メトロ･ミュージアム － ギリシャの地下鉄が結んだ古代と現代－ 」

開会期間：4月7日～5月10日 (30日間)
会　　場：平成館1階　企画展示室
主　　催：東京国立博物館、駐日ギリシャ大使館
後　　援：－
協　　賛：－
陳列品総件数：－件
入館者数：－人(目標入場者数 －人・達成率 －%)
入場料金：平常展料金
担当研究員数：1人

展覧会の内容：
日本とギリシャの修好110周年を記念し、アテネの地下鉄各駅に展示されている古代と現代の作品の見事なコンビネーションを写真パネルと映像資料によって公開する初めての試み。3千年以上もの時を経て尚アテネの日常に息づく文化と歴史、古代と現代の融合を投影するパブリックアートの真髄を紹介した。

広報
　博物館ニュース　告知記事1回

展覧会名：特別展「染付− 藍が彩るアジアの器」
開会期間：7 月 14 日～9 月 6 日　(49 日間)
会　　場：平成館2階　特別展示室第1室・第2室
主　　催：東京国立博物館
協　　力：日油株式会社、産経新聞社
後　　援：ー
協　　賛：ー
陳列総件数：221 件(うち重要文化財 4 件　重要美術品 1 件)
入館者数：52,731人(目標入場者数 70,000人・達成率 75.3%)
入場料金：一般 1000 円(800 円／700 円)、大学生 800 円(600 円／500 円)、高校生 600 円(400 円／300 円)、中学生以下無料　＊　(　)内は前売り／20 名以上の団体料金
担当研究員数：3人

展覧会の内容：
　アジア各国で焼かれた染付を製品の流通や技術・様式の交流も視野に入れたうえで展示し、東洋の染付の大きな流れを概観した。さらに、さまざまな時代や地域の染付の優品が一堂に会することにより、素地の色や艶、コバルト顔料の発色の微妙な違いを明らかにし、染付の特性と多様性を浮き彫りにした。

講演会等
　連続講座：1回(3日連続)
　「東洋の染付」　講師：荒川正明氏(学習院大学教授)、片山まび氏(東京芸術大学准教授)、矢島律子氏(町田市立博物館学芸員主任)、今井敦(当館東洋室長)、三笠景子(当館保存修復室研究員)
　平成館 大講堂　7月18日～20日

広報：
　ターゲット：女性を中心とした陶磁の愛好家、一般の美術愛好家。
　重点項目：陶磁の愛好家に着実に周知を図るとともに、「使う器」というコンセプトの展示および伊万里大皿55枚の展示を軸に各媒体にプロモートした。
　特記事項：①駅大型ボード広告を伊勢神宮と共同で実施、②銀座街頭広告の導入

　① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付	約5,800件(博物館・美術館・大学・中学・高校・ギャラリー・神社庁関係等)
交通広告	駅ボード(34駅68面) 車内広告(ＪＲ山手線長期、京浜東北線群短期) 駅貼り広告(ＪＲ5駅、東京メトロ5駅、京王電鉄) 銀座4丁目交差点ホットビジョンなど
新聞・雑誌広告	朝日新聞　2回
テレビ広告	―
新聞掲載	毎日新聞、サンケイエクスプレス連載(7回)など
テレビ放映	ＪＣＯＭ台東など
雑誌掲載	「ＣＵＲＩＯ」特集「毎日が発見」など
博物館ニュース	予告1回、特集2回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信

　② パブリシティー情報掲載・放映
　　新聞　348件、雑誌　130件、テレビ/ラジオ2件、インターネット　31件
　③ 記者発表会　4月8日(霞会館にて　49媒体　56人出席)
　④ 報道内見会　7月13日(136人出席)
　⑤ 教員鑑賞会　7月22日(156人出席)

展覧会名：第62回式年遷宮記念　特別展「伊勢神宮と神々の美術」
開会期間：7月14日(火)～9月6日(日)　(49日間)
会　　場：平成館2階　特別展示室第3室・第4室
主　　催：東京国立博物館、霞会館、産経新聞社
特別協力：神宮司庁
協　　力：神社本庁、伊勢神宮式年遷宮広報本部、東京都神社庁、皇學館大學、日本航空、日本通運
後　　援：フジサンケイグループ
協　　賛：ＪＲ東海、近畿日本鉄道、ＪＡ共済
陳列総件数：111 件(うち国宝 17 件、重要文化財 39 件)
入館者数：114,796人(目標入場者数 110,000人・達成率 104.4%)
入場料金：一般 1400 円(1100 円／900 円)、大学生 1000 円(700 円／600 円)、高校生 700 円(500 円／400 円)、中学生以下無料　(　)内は前売／20 名以上の団体料金
担当研究員数：5人

展覧会の内容：

2013年の伊勢神宮式年遷宮を記念し、伊勢神宮の古神宝等を中心に、神道の歴史や文化について紹介した。

講演会等：
記念講演会
①「古神宝について」　講師：関根俊一氏　（帝塚山大学教授）
　平成館 大講堂　7月25日
②「伊勢の神宮と日本人ーいのちと血統の連続ー」　講師：　伴五十嗣郎氏　（皇學館大学学長）
　「伊勢神宮と式年遷宮」　講師：　清水潔氏　（皇學館大学文学部長）
　平成館 大講堂　8月8日

広報
　ターゲット：広く一般の美術愛好家、日本史愛好家。パワースポットに興味のある若年層。
　重点項目：「上野でぶらり伊勢詣で」というキャッチフレーズによって伊勢への旅の気分を盛り上げつつ、伊勢神宮の信仰の歴史を読み解くストーリー性のある広報展開を実施。宗教や歴史に興味のある中高年の男女を確実に取り込む努力をした。さらに、パワースポットとしての伊勢神宮に注目している若年層をターゲットとする媒体にも積極的にプロモートを実施した。
　特記事項：①伊勢神宮へのプレスツアーを実施　②皇室の来館報道を通じての展覧会広報

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付	約5,800件(博物館・美術館・大学・中学・高校・ギャラリー・神社庁関係等)
交通広告	6月初旬～9月6日 駅ボード(都内主要駅　60面) 車内広告(ＪＲ山手線軍・東海道線、横須賀・総武快速線) 駅貼り広告(ＪＲ、東京メトロ、京王電鉄) ちらしボックス付駅貼り(26駅)
新聞・雑誌広告	産経新聞4回、朝日新聞5回、読売新聞3回など
テレビ広告	フジテレビスポット　26回
新聞掲載	産経新聞(大特集3回、連載　作品・工芸技術・いせトリビア・私のおかげ参りなど多数)
テレビ放映	ＮＨＫ日曜美術館(アートシーン)
雑誌掲載	「Pen」 、「美術手帖」　特集など
博物館ニュース	予告1回、特集1回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信 公式ウェブサイト、共催者ウェブサイトでの紹介

② パブリシティー情報掲載・放映
　新聞　178件、雑誌　143件、テレビ/ラジオ　12件、インターネット　36
③ 記者発表会　4月8日(霞会館にて　49媒体　56人出席)
④ 報道内見会　7月13日(136人出席)
⑤ 教員鑑賞会　7月22日(156人出席)

展覧会名：御即位20年記念特別展「皇室の名宝―日本美の華」
開会期間：1 期：21 年 10 月 6 日～11 月 3 日　(26 日間)
　　2 期：21 年 11 月 12 日～11 月 29 日　(18 日間)
会　　場：平成館 2 階　特別展示室第 1 室～第 4 室
主　　催：東京国立博物館、宮内庁、ＮＨＫ
特別協力：ＮＨＫプロモーション、読売新聞社、日本経済新聞社
後　　援：ー
協　　賛：ー
陳列総件数：205件　1期：81件　2期：124件(うち重要文化財1件)
入館者数：447,944 人(1 期　263,303 人　2 期　184,641 人)（目標入場者数 350,000 人・達成率 128.0%）
入場料金：一般 1300 円(1100 円／1000 円)、大学生 1000 円(800 円／700 円)、高校生 700 円(500 円／400 円)、中学生以下無料　＊　(　)内は前売り／20 名以上の団体料金
担当研究員数：7人

展覧会の内容：
　今上陛下の御即位20年を記念した本展では、正倉院宝物を含む皇室縁の名品を一堂に紹介した。宮内庁御物と三の丸尚蔵館、正倉院宝物から、特に名品として名高く、人気のある作品を展示することを主とした。本展覧会は、会期を1期と2期に分け、全ての作品を総入れ替えし、1期は安土桃山時代から近代までの作品、2期は古代から江戸後期までの作品で構成した。

講演会等：
記念講演会
①「皇室コレクション平成の歩みー修理報告を中心としてー」　講師：太田彩氏　（宮内庁三の丸尚蔵館主任研究員）
　平成館 大講堂　10月10日
②「正倉院の宝物　歴史の奥行き」　講師：杉本一樹氏　（宮内庁正倉院事務所長）
　平成館 大講堂　11月15日

広報：
　ターゲット：40代以降の女性および60代以降の男女を中心とする皇室ファンおよび広く一般。
　重点項目：マスコミおよび交通広告による広く一般への情報提供。
　特記事項：①前後期で全作品展示替制によって生じる通常と異なる来館情報(展示替え休止期間、チケットの種類など)および11月12日の無料観

覧に関する情報の周知徹底を図った。②前期・若冲30幅一挙公開、後期・正倉院宝物公開を軸に広報を展開。③皇室の来館報道を通じての展覧会広報　④ツイッターによる情報発信の試み

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付	約16,500件(博物館・美術館・画廊・カルチャーセンター・図書館・自治体施設・画材店・学校等)
交通広告	2009年8月中旬～2009年10月末 交通広告　駅ボード(首都圏ＪＲ・私鉄・東京メトロ　計約300面) ポスター等(東京メトロ、京王電鉄) 車内(京急)など
新聞・雑誌広告	日本経済新聞・読売新聞　多数
テレビ広告	ＮＨＫスポット、ミニ番組など　多数回
新聞掲載	日本経済新聞、読売新聞(特集記事、展覧会開催・イベントなどの告知記事、新発見などの報道など多数)ほか他社全国紙でも多数
テレビ放映	ＮＨＫ　「日曜美術館」(本編)、秋の特別番組　など
雑誌掲載	「和楽」「書21」特集など
博物館ニュース	予告1回　特集2回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信 公式ウェブサイト、共催者(ＮＨＫプロモーション、読売新聞社、日本経済新聞社)ウェブサイトでの紹介、ツイッターによる情報発信

②パブリシティー情報掲載・放映
　新聞：337件（フリーペーパーを含む）、雑誌　78件、テレビ/ラジオ 5件、インターネット　36件ほか　WEB多数
③記者発表会　2009年8月3日　東京国立博物館大講堂にて　89人出席)
④報道内見会　前期10月5日(163人出席)、後期11月12日(67人出席)
⑤教員鑑賞会　10月16日(307人出席)
⑥ジュニア記者会　10月14日　(69人出席)

展覧会名：文化庁海外展　大英博物館帰国記念「国宝　土偶展」
開会期間：21年12月15日～22年2月21日 (56日間)
会　　場：本館特別5室
主　　催：文化庁、東京国立博物館、ＮＨＫ、ＮＨＫプロモーション、毎日新聞社
後　　援：ー
協　　賛：日本写真印刷
陳列総件数：67 件(うち国宝：3 件　重要文化財：23 件　重要美術品：2 件)
入館者数：128,285人(目標入場者数50,000人・達成率253.5%)
入場料金：一般800円、大学生600円、高校生400円、中学生以下無料
担当研究員数：3人

展覧会の内容：
　本展は、イギリスの大英博物館で2009年9月10日から11月22日まで開催された*THE POWER OF DOGU*の帰国記念展で、国宝3件と重要文化財23件、重要美術品2件を含む全67件で構成された大英博物館展を「土偶のかたち」「土偶芸術のきわみ」「土偶の仲間たち」という新たな切り口で再構成する。

広報：
　ターゲット：考古学・歴史ファン、土偶が発掘された地方の人々、広く一般
　重点項目：マスコミおよび交通広告による広く一般への情報提供。
　特記事項：①土偶が作られた歴史的背景などストーリー性を重視した情報提供　②学校向けプロモート。ジュニアガイドの配布、教員鑑賞会の開催を通じて展覧会の周知を図った。③教科書で誰もが見たことのある作品が複数出品されることから、若年層をターゲットにした媒体にも積極的にアプローチした

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付 イベント等でのチラシ配布	約5,924件(博物館・美術館・ホール・カルチャーセンター・図書館・ホテル・美術団体・大学など) ＮＨＫホール8回、毎日新聞社主催イベント7回
交通広告	2009年11月下旬～2月中旬 交通広告　駅ボード(ＪＲ68面、東京メトロ電飾10面) ポスター等(京王電鉄) 上野駅横断幕(ＪＲ)など
新聞・雑誌広告	朝日新聞2回、　毎日新聞多数
テレビ広告	ＮＨＫ情報スポット(首都圏ニュース)
新聞掲載	毎日新聞(特集記事、展覧会開催・イベントなどの告知記事など　多数)ほか他社全国紙でも多数
テレビ放映	ＮＨＫ「日曜美術館」(アートシーン)、首都圏ニュースお知らせ秋の特別番組　など
雑誌掲載	「週刊ＰＬＡＹ　ＢＯＹ」「ＳＰＵＲ」など
博物館ニュース	予告1回　特集2回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信 公式ウェブサイト、共催者(ＮＨＫ、ＮＨＫプロモーション、毎日新聞社)ウェブサイトでの紹介

②パブリシティー情報掲載・放映
新聞　471件（フリーペーパー含む）、雑誌　111件、テレビ/ラジオ 7件、インターネット24件
③報道内見会　12月14日(110人出席)
④教員鑑賞会　12月26日(154人出席)

展覧会名：没後400年　特別展「長谷川等伯」

開会期間：22 年 2 月 23 日～3 月 22 日(25 日間)
会　　場：平成館特別展示室第1～4室
主　　催：東京国立博物館・毎日新聞社・ＮＨＫ・ＮＨＫプロモーション
後　　援：文化庁
特別協賛：大塚家具
協　　賛：JR 東海・大成建設・日本写真印刷・みずほ銀行
陳列総件数：73 件（うち国宝 3 件、重要文化財 28 件、重要美術品 1 件）
入館者数：292,526人(目標入場者数160,000人・達成率 182.8%)
入場料金：一般1500円、大学生1200円、高校生900円、中学生以下無料
担当研究員数：2人

展覧会の内容：
安土桃山時代に活動した長谷川等伯の国内に存在するほぼすべての等伯の作品を、一挙に公開する史上最大規模の大回顧展。信春と名乗り、能登で活動した初期のものから晩年期までの作品を網羅して展観することによって、その画業を改めて検証する。

講演会等：
記念講演会
①「やまと絵師・長谷川等伯ー信春時代の仏画から智積院障壁画へ」　講師：松嶋雅人(特別展室長)
平成館 大講堂　22年2月27日
②「信春から等伯へー新発見の金碧花鳥図屏風を中心に」　講師：山本英男氏　(京都国立博物館美術室長)
平成館 大講堂　22年2月27日
③「長谷川等伯の新たな魅力ー動物の感性を描く」 講師：黒田泰三氏　(出光美術館学芸部長)
平成館 大講堂　22年3月6日

広報：
ターゲット：広く一般
重点項目：マスコミおよび交通広告による広く一般への情報提供。
特記事項：①等伯の作品を網羅した初めての大規模展であることをアピール　②等伯の生涯をたどるという展覧会コンセプトにそった情報提供により媒体プロモートを図った。②学校向けプロモート。ジュニアガイドの配布を通じて展覧会の周知を図った

① 広報媒体

種類	設置場所・件数等
ポスター・チラシ・ＤＭ送付	約6,000件(博物館・美術館・ホール・カルチャーセンター・図書館・ ホテル・美術団体・大学など)
交通広告	2009年11月～2010年3月 交通広告　駅ボード(ＪＲ首都圏86駅95面、東京メトロ毎日枠11駅11面) ポスター駅貼り(ＪＲ上野公園口2/3～2/23、京王電鉄随時) 上野駅横断幕(ＪＲ)など
新聞・雑誌広告	毎日新聞　一面･テレビ面突き出し広告(2009年11月～2010年3月随時) 朝日新聞　水曜夕刊アート面半5段(2009年12月9日)
テレビ広告	ＮＨＫ情報スポット
新聞掲載	毎日新聞(特集記事、連載コラム、展覧会開催・イベントなどの告知記事など　多数)、朝日新聞、読売新聞　ほか
テレビ放映	ＮＨＫ「日曜美術館」(本編)、ＮＨＫ「歴史秘話ヒストリア」、テレビ東京「美の巨人たち」、ＴＢＳ「知っとこ」
雑誌掲載	「サライ」「芸術新潮」「和楽」「婦人公論」「歴史読本」など
博物館ニュース	予告1回　特集2回
インターネット	当館ウェブサイトでの紹介、メールマガジンでの情報配信 公式ウェブサイト、共催者(ＮＨＫ、ＮＨＫプロモーション、毎日新聞社)ウェブサイトでの紹介

②パブリシティー情報掲載・放映
新聞 478件、雑誌 144件、テレビ/ラジオ 11件、インターネット 34件
③報道内見会　2月22日(274人出席)

展覧会名：「海外展　サムライの美術―東京国立博物館精選」
Art of the Samurai: Selections from the Tokyo National Museum Exhibition

開会期間：4月19日～6月14日 (49日間)
会　　場：アメリカ・バウワーズ博物館
主　　催：東京国立博物館、バウワーズ博物館
後　　援：ー
協　　賛：ー
陳列品総件数：81件(うち国宝1件、重要文化財7件)
入館者数：18,609人(目標入場者数 ー人・達成率 ー%)
入場料金：ー

担当研究員数：3人

展覧会の内容：
本展は、東京国立博物館が収蔵する日本美術作品ならびにジョン・プライス氏のコレクション1点を含む優品81件によって、日本の武家文化を紹介した。今回の展覧会では、全体を2部構成とし、第1部では「武士の装い―武器・武具―」をテーマに主に刀剣と甲冑を、第2部では「武家の文化」をテーマに能衣装と茶道具、また武家の女性の装束や婚礼調度を展示、全体でサムライの表と奥の世界を紹介した。

広報
博物館ニュース　告知記事2回

展覧会名：文化庁海外展　「The Power of Dogu」
会館期間：9月10日～11月22日（74日間）
会　　場：イギリス・大英博物館
主　　催：文化庁、大英博物館、東京国立博物館
後　　援：－
協　　賛：－
陳列総件数：67件（うち国宝：3件　重要文化財：23件　重要美術品：2件）
入館者数：65,564人（目標入場者数　－万人・達成率　－%）
入場料金：－
担当研究員数　3名

展覧会の内容：
本展は縄文時代早期から弥生時代中期にわたる日本を代表する各種の土偶ならびにその関連資料を一堂に会し、土偶の発生・盛行・衰退の過程を追うとともに縄文人の造形美の真髄に迫った。

広報
博物館ニュース　告知記事2回

展覧会名：文化庁海外展「侍の芸術」　Art of Samurai:Japanese Arms and Armor. 1156-1868
開会期間：21年10月20日～22年1月10日（69日間）
会　　場：アメリカ・メトロポリタン美術館2階「The Tisch Galleries」
主　　催：文化庁、ニューヨーク・メトロポリタン美術館、東京国立博物館
後　　援：
協　　賛：
陳列総件数：209件（うち国宝34件　重要文化財60件　重要美術品6件）
入館者数：187,064人（12月31日現在）（目標入場者数　－万人・達成率　－%）
入場料金：入場料金　一般20$、シニア15$、学生10$、会員および12歳以下無料
担当研究員数：3人

展覧会の内容：
本展は、日本刀とその刀装具や甲冑などの武器・武具を中心に、陣羽織などの衣裳、肖像画や合戦図絵巻・屏風などの絵画資料を展示した。実用性と同時に、独自の美意識に基づき発展した武器・武具に代表される武士の世界を総合的に展示する海外展としては初めての企画であった。

広報
博物館ニュース　告知記事2回

展覧会名：海外展「日本・その力と輝き　1568-1868」
開会期間：21年12月7日～22年3月8日（91日間）
会　　場：イタリア（ミラノ市）・パラッツォ・レアーレ
主　　催：イタリア・ミラノ市、モッタ社
特別協力：東京国立博物館・大阪市立美術館
後　　援：－
協　　賛：－
陳列総件数：214件（うち国宝1件、重要文化財14件）
入館者数：47,192人（目標入場者数－人・達成率　－%）
入場料金：－
担当研究員数：3人

展覧会の内容：
安土桃山時代から江戸時代までの日本美術作品によって近世日本の魅力ある文化的、社会的、経済的な発展をたどるもので、ミラノにおける日本年の最後を飾る最大行事として、日本美術の精華を紹介した。

広報
博物館ニュース　告知記事2回

【京都国立博物館】

(1)平常展

平常展示館建て替え工事に伴い、平常展示休止中。

(2)特別展等・共催展等

展覧会名：「開山無相大師650年遠諱記念　妙心寺」

会　　期：21年3月24日～5月10日(43日間)
入場者数：106,081人(目標入場者数 30,000人・達成率350.53%)
陳列件数(うち指定品数)：167件(54件)（国宝4、重文48、重美2)
主 催 者：京都国立博物館、臨済宗妙心寺派大本山妙心寺、読売新聞大阪本社
講 演 会：6回　　参加者数合計 733人
・関連土曜講座
4月4日　妙心寺の古文書
羽田聡(学芸部研究員)
92人参加
4月11日　妙心寺の唐物
久保智康(学芸部企画室長)
96人参加
4月18日　妙心寺と狩野元信
山本英男(学芸部美術室長)
149人参加
4月25日　妙心寺屏風、友松･山楽絵画の輝き
山下善也(学芸部連携協力室長)
134人参加
5月 2日　白隠の禅と美術
福島恒徳氏(花園大学教授)
159人参加
5月 9日　妙心寺伝来うるし大特集
永島明子(学芸部主任研究員)
103人参加
広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞広告、公共放送等

展覧会名：「シルクロード 文字を辿って－ロシア探検隊収集の文物－」

会　　期：7 月 14 日～9 月 6 日(48 日間)
入場者数：25,511人(目標入場者数 20,000人・達成率 127.55%)
陳列件数(うち指定品数)：128件(0件)
主 催 者：京都国立博物館、ロシア科学アカデミー東洋写本研究所
講 演 会：6回　　参加者数合計　895人
・関連土曜講座
7月11日　ロシア科学アカデミー東洋写本研究所のコレクション
イリナ・ポポヴァ氏(ロシア科学アカデミー東洋写本研究所長)
92人参加
7月18日　ロシア探検隊収集の仏典
松田和信氏(仏教大学教授)/ 赤尾栄慶(学芸部副部長)
131人参加
7月25日　中央アジアの諸言語
吉田豊氏(京都大学教授)
168人参加
8月22日　ロシアの中央アジア探検隊所獲品日本学者
高田時雄氏(京都大学教授)
128人参加
8月29日　西夏文字の世界
荒川慎太郎氏(東京外国語大学准教授)
197人参加
・関連夏期講座
7月31日　「文字文化のひろがり―「シルクロード文字を辿って」によせて―」
赤尾栄慶(学芸副部長)
ハートピア京都大会議室　179人参加
広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞広告、公共放送等

展覧会名：「日蓮と法華の名宝－華ひらく京都町衆文化－」

会　　期：10 月 10 日～11 月 23 日(39 日間)
入場者数：88,187人(目標入場者数 30,000人・達成率293.95%)
陳列件数(うち指定品数)：203件(65件)
主 催 者：京都国立博物館、日蓮聖人門下連合会、日本経済新聞社、京都新聞社
講 演 会：5回　　参加者数合計　954人
・関連土曜講座
10月17日　京都日蓮法華宗ことはじめ
中尾堯氏(立正大学名誉教授)
187人参加
10月31日　天文法華の乱と戦国京都
河内将芳氏(奈良大学教授)
183人参加
11月 7日　樂・光悦・乾山－日蓮法華宗とやきもの作り－
尾野善裕(学芸部工芸室長)
162人参加

11月21日　日蓮法華宗美術試論
大原嘉豊(学芸部研究員)
134人参加
・国際シンポジウム
11月14日　法華の人と文化―その行動と思想―　　京都市勧業館みやこめっせ　288人参加
広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞広告、公共放送等

展覧会名：「THE ハプスブルク」
会　　期：22年1月6日～3月14日(60日間)
入場者数：247,078人(目標入場者数 50,000人・達成率 494.16%)
陳列件数(うち指定品数)：116件(0件)
主 催 者：京都国立博物館、読売新聞大阪本社、毎日放送
講 演 会：4回　　参加者数合計　676人
・関連土曜講座
22年
1月23日　明治天皇からの贈り物－画帖と蒔絵と金魚鉢－
永島明子(企画室主任研究員)
137人参加
2月 6日　ハプスブルク・コレクションの歴史－ルドルフ2世から世紀末へ－
千足伸行氏(成城大学教授)
190人参加
2月13日　工芸のシンクロールネサンス期のハプスブルク工芸と日本－
久保智康(企画室長)
181人参加
2月27日　ウィーンから里帰り！明治2年の日本画帖
山下善也(連携協力室長)
168人参加
広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞広告、公共放送等

展覧会名：「日本の美　国宝との出会い」
会　　期：10月2日～11月8日(33日間)
入場者数：30,366人(目標入場者数 20,000人・達成率 151.83%)
陳列件数(うち指定品数)：35件(23件)（国宝9、重文13、重美1）
主 催 者：「日本の美　国宝との出会い展」実行委員会（北日本新聞社、富山県水墨美術館）（特別協力：京都国立博物館）
講 演 会：1回　　参加者数合計　80人
・関連講座
10月25日　京都国立博物館と所蔵品
羽田聡(企画室研究員)
富山県立水墨美術館映像小ホール　80人参加
広報媒体：ポスター、ちらし、情報誌、ホームページ、新聞広告、公共放送等

【奈良国立博物館】

(1)平常展

①開館日数：305日(平常展のみの開館日数：201日)陳列件数：　717件
②陳列替回数：8回(本館 4回、西新館 2回、東新館2回)

	名称	会期	陳列件数（うち指定品件数）
特別陳列	「おん祭と春日信仰の美術」	12月8日～22年1月17日	64件（15件）
	「お水取り」	22年2月6日～3月14日	68件（18件）
特集展示	「とてもよく似た二つの仏像－金峯山寺の釈迦如来像と兵庫県所蔵の天部像－」	21年1月14日～5月17日	2件（ 0件）
	「東京大学東洋文化研究所の貴重図書」	9月15日～10月4日	12件（ 0件）
	「南北朝・室町時代の彫刻」	12月1日～22年2月14日	11件（ 0件）
平常展	仏教美術の名品「注目の逸品」	5月19日～2月14日	1件（1件）
	仏教美術の名品「注目の逸品」	6月9日～7月5日	4件（2件）
	仏教美術の名品「注目の逸品」	9月15日～10月4日	4件（2件）

(2)特別展・共催展等

展覧会名：特別展「唐招提寺金堂平成大修理記念　国宝鑑真和上展」
会　　期：4月4日～5月24日
入場者数：93,779人(目標入場者数 35,000人・達成率267. 9%)
陳列件数(うち指定品数)：74件(48件)
講演会：7回　　参加者数合計　949人
公開講座

期日	講座名	講師(所属)	参加者数
4月11日	「恭結来縁」	松浦　俊海(律宗総本山唐招提寺長老)	108人
4月18日	「鑑真和上と日本文化」	東野　治之(奈良大学教授)	197人

4月25日	「鑑真和上の教え」	西山　明彦(律宗総本山唐招提寺執事)	126人
5月 9日	「唐招提寺金堂の当初復元案 ー解体調査より判明したことー」	田中　泉(奈良県文化財保存事務所主査)	136人
5月23日	「鑑真和上像と唐招提寺の仏像」	稲本　泰生(学芸部企画室長)	197人

サンデートーク

期日	テーマ	講師(所属)	参加者数
4月19日	「唐招提寺2010プロジェクト その10年の道のり」	松田　幸雄(ＴＢＳ事業局担当局長)	90人
5月17日	「唐招提寺の古文書について」	野尻　忠(学芸部研究員)	95人

広報媒体：ポスター、ちらし、博物館だより、新聞、テレビ特集番組等

展覧会名：特別展「聖地寧波　日本仏教1300年の源流～すべてはここからやって来た～」

会　　期：7月18日～8月30日
入場者数：30,548人(目標入場者数 30,000人・達成率101. 8%)
陳列件数(うち指定品数)：175件(84件)
講演会：6回　　参加者数合計　673人

公開講座

期日	講座名	講師(所属)	参加者数
7月25日	「清凉寺釈迦如来像と東アジア の釈迦信仰」	稲本　泰生(学芸部企画室長)	143人
8月 1日	「泉涌寺僧と普陀山信仰 ー観音菩薩坐像の請来理由」	西谷　功(泉涌寺宝物館学芸員)	104人
8月15日	「憧憬の中国仏教ー聖地寧波を めぐる人と美術」	谷口　耕生(学芸部保存修理指導室長)	150人
8月22日	「飛帆馳船ー蒼波をこえた人々」	藤田　明良(天理大学国際文化学部教授)	95人

サンデートーク

期日	テーマ	講師(所属)	参加者数
7月19日	「阿育王寺の仏舎利信仰と日本」	内藤　栄(学芸部部長補佐)	99人
8月16日	「貿易陶磁からみる寧波と日本」	吉澤　悟(学芸部教育室長)	82人

広報媒体：ポスター、ちらし、博物館だより、新聞、テレビ等

展覧会名：特別展「第61回正倉院展」

会　　期：10月24日～11月12日
入場者数：299,294人(目標入場者数 180,000人・達成率166. 2%)
陳列件数：66件
講演会：4回　　参加者数合計　473人

公開講座

期日	講座名	講師(所属)	参加者数
10月24日	「正倉院の宝飾鏡」	成瀬　正和(宮内庁正倉院事務所保存課長)	112人
10月25日	「金銀花盤をめぐって」	稲垣　肇(MIHO MUSUEUM 学芸部副部長)	73人
11月 3日	「正倉院木工品と木彫の成立」	鈴木　喜博(学芸部上席研究員)	95人
11月 7日	「光明皇后の楽毅論について」	西山　厚(学芸部長)	193人

広報媒体：ラジオ、ポスター、ちらし、博物館だより、新聞広告、駅構内看板、テレビ特集番組等

【九州国立博物館】

(1)平常展

①開館日数：313 日(うち平常展のみ開館日数 98 日)
②陳列件数：2,106 件(うち国宝 63 件　重要文化財 157 件)
③陳列替回数：431 回

トピック展示名称	会期	陳列件数(うち指定品件数)
「金子量重氏寄贈品による　アジアの民族造形」	2009年2月24日(火)～5月 6日(水・祝)	207件(うち国宝0件、重文0件)

トピック展示名称	会期	陳列件数(うち指定品件数)
「特別展「古代九州の国宝」関連企画　有明の縄文文化－東名遺跡が語るものー」	9月3日(木)～12月20日(日)	29件(うち国宝0件、重文0件)
「玄界灘の海人・壱岐」	9月29日(火)～12月20日(日)	24件(うち国宝0件、重文13件)
「はにわが絵本になっちゃった」	2010年1月1日(金・祝)～3月28日(日)	47件(うち国宝0件、重文7件)
「国指定史跡牛頸須恵器窯跡とその世界」	2010年1月1日(金・祝)～1月31日(日)	60件(うち国宝0件、重文0件)
「進化する博物館II　みる、きく、ふれる、神々の青銅器へのいざない」	2010年2月9日(火)～3月28日(日)	17件(うち国宝0件、重文0件)
「アジアの工芸　ベトナム陶磁」	2009年3月31日(火)～5月10日(日)	28件(うち国宝0件、重文0件)
「中世の造形－鎌倉～室町時代の日本工芸」	6月24日(水)～8月2日(日)	29件(うち国宝0件、重文3件)
「東南アジアの美術」	8月　5日(水)～9月23日(水・祝)	29件(うち国宝0件、重文0件)
「茶の湯を楽しむⅡ」	9月26日(土)～11月　8日(日)	26件(うち国宝0件、重文0件)
「祈りの山　宝満山」展	11月13日(金)～12月20日(日)	55件(うち国宝0件、重文8件)
「ベトナムの陶磁」	2010年1月1日(金・祝)～2月14日(日)	47件(うち国宝0件、重文0件)
「巨大掛軸をめぐる文化交流」	2010年2月21日(日)～3月28日(日)	12件(うち国宝0件、重文0件)
「天にささげる器」	2008年9月14日(日)～2010年3月14日(日)	36件(うち国宝0件、重文0件)
「屏風の輝き」	2009年3月4日(水)～4月12日(日)	11件(うち国宝0件、重文2件)
「東京大学史料編纂所所蔵　国宝　古文書展　第Ⅰ期」	4月15日(水)～5月24日(日)	24件(うち国宝22件、重文2件)
「東京大学史料編纂所所蔵　国宝　古文書展　第Ⅱ期」	5月27日(水)～7月5日(日)	43件(うち国宝18件、重文14件)
「多彩な江戸文化～京都で活躍した絵師たち～」	7月8日(水)～8月16日(日)	14件(うち国宝0件、重文1件)
「長崎の興福寺」	8月19日(水)～9月27日(日)	13件(うち国宝0件、重文0件)
「新収品'05-'08」	9月30日(水)～11月8日(日)	48件(うち国宝0件、重文1件)
「お姫様の婚礼道具」	11月11日(水)～2010年 1月31日(日)	34件(うち国宝0件、重文0件)
「江戸の風俗画」	2010年2月3日(水)～3月14日(日)	11件(うち国宝0件、重文0件)

(2)特別展・共催展等

展覧会名：特別展「聖地チベット　ポタラ宮と天空の至宝」

会　　期：4月11日～6月14日(58日間)
入場者数：140,917人(目標入場者数 100,000人・達成率141%)
陳列件数(うち指定品数)：123件(36件 但し中国国家一級文物)
講演会：2回　参加者合計 630人
記念講演会等

期日	講演会名	講師(所属)	参加者
4月25日	記念講演会「チベットの青い空－カイラス巡礼記」	作家・椎名誠氏	330人
5月9日	講座「チベットの聖なる図像学～ターラー菩薩を描く」	タンカ絵師・ウゲン・ナムゲン氏	14人
5月23日	記念講演会「チベット密教の世界」	京都大学名誉教授・曾布川寛氏	300人

広報媒体：ポスター・チラシ・新聞広告・テレビ、ラジオ等

展覧会名：特別展「興福寺創建1300年記念　国宝　阿修羅展」

会　　期：7月14日～9月27日(68日間)
入場者数：711,154人(目標入場者数 120,000人・達成率592%)
陳列件数(うち指定品数)：66件(64件)
講演会： 3回　参加者合計 675人
記念講演会等

期日	講演会名	講師(所属)	参加者
8月 2日	記念講演会「国宝　阿修羅像について」	興福寺国宝館館長・金子啓明氏	270人
8月23日	記念講演会「阿修羅像と光明皇后」	奈良大学・東野治之氏	240人
9月20日	記念講演会「興福寺創建と天平文化」	興福寺貫首・多川俊映氏	165人
7月18日・8月1日・8日・15日・22日・9月12日・19日・26日	講座「天平の文化空間の再構成」	興福寺僧侶	計1,078人

広報媒体：ポスター・チラシ・新聞広告・テレビ、ラジオ等

展覧会名：特別展「古代九州の国宝」

会　　期　10月20日～11月29日(37日間)
入場者数：72,741人(目標入場者数 30,000人・達成率241%)
陳列品総件数(うち指定品数)：400件(27件)
講演会：　0回
記念講演会等

期日	講演会名	講師(所属)	参加者
11月 8日	シンポジウム「邪馬台国はここにあった」	桜井市教育委員会・橋本輝彦氏 佐賀女子短期大学・高島忠平氏 大阪歴史学会・井上修一氏 歴史研究家・鷲崎弘朋氏 同　矢野壽一氏 同　福嶋正日子氏	330人
	セミナー「夜光貝とサンゴの海　その魅力とその再生」	工芸作家・池村茂氏	32人

11月15日 シンポジウム「装飾古墳と科学」　福岡県教育委員会・吉田東明氏
明日香村教育委員会・相原嘉之氏
泉崎村教育委員会・嶋村一志氏
東京文化財研究所・朽津信明氏
国士舘大学・沢田正昭氏　200人

広報媒体：ポスター・チラシ・新聞広告・テレビ、ラジオ等

展覧会名：特別展「京都妙心寺 ー禅の至宝と九州・琉球ー」

会　　期　平成22年1月1日～2月28日(52日間)
入場者数：　130,231 人(目標入場者数　80,000人・達成率 163 %)
陳列品総件数：124件(39件)
記念講演会等

期日	講演会名	講師(所属)	参加者
1月10日	記念講演会「妙心寺と九州・琉球」	花園大学・竹貫元勝氏	166人
1月11日	法話「禅ー修行道場の生活」	梅林寺・東海大玄氏	120人
1月16日	特別講演会「龍の背に乗る」	作家、福聚寺住職・玄侑宗久氏	317人
1月17日	記念講演会「白隠の禅画について」	花園大学・芳澤勝弘氏	134人

広報媒体：ポスター・チラシ・新聞広告・テレビ、ラジオ等

(参考)

【平城宮跡資料館】※平成21年6月より改修工事のため閉館。本庁舎にガイダンスコーナーを設置。

(1)平常展

①平城宮跡資料館　　開館日数：53日　陳列件数：908件　陳列替回数：0回
　ガイダンスコーナー 開館日数：152日
②特集陳列等　2件

	名称	会期	陳列件数(うち指定品件数)
特別企画展	地下の正倉院展ー二条大路木簡の世界ー	10月20日～11月29日	81件（0件）
発掘調査速報	平城宮第一次大極殿院中庭広場（454次調査）	8月3日～開催中	7件（0件）

【藤原宮跡資料室】

(1)平常展

①開館日数：240日　陳列件数：658件　陳列替回数：0回
②特集陳列等　10件

	名称	会期	陳列件数(うち指定品件数)
発掘調査の速報展	石神遺跡（156次）土器、瓦	4月 6日～ 9月 2日	33件（0件）
	藤原宮朝堂院朝庭部（153次）運河出土土器、土馬	4月 6日～ 6月30日	6件（0件）
	甘樫丘東麓遺跡（157次）土器	7月 2日～11月20日	39件（0件）
	檜隈寺（159次）L字形竈写真、土器、瓦	10月 5日～11月20日	11件（0件）
	藤原宮大極殿院回廊（160次）出土瓦	12月 8日～ 3月31日	11件（0件）
特別公開	『高松塚古墳壁画2006』上映	6月 1日～ 7月31日	1件（0件）
	甘樫丘東麓遺跡（157次）石垣のパノラマ写真	9月17日～11月20日	1件（0件）
	「木簡から古代人を垣間見る」左京七条一坊西南坪出土木簡（115次）	11月24日～12月7日	1件（0件）
	藤原宮大極殿院南門土層剝ぎ取り資料（148次）	12月 8日～ 3月31日	2件（0件）
	甘樫丘東麓遺跡（157次）、檜隈寺(159次）土器	12月18日～ 3月31日	56件（0件）

【飛鳥資料館】

(1)平常展

①開館日数：340日　陳列件数：347件　陳列替回数：4回
②特集陳列等 0件

(2)特別展等・共催展等

展覧会名：春期特別展「キトラ古墳壁画四神ー青龍白虎ー」

会　期：4月17日～6月21日
入場者数：41,242人
陳列件数（うち指定品数）：20件（3件）
主催者：文化庁・奈良文化財研究所
文化庁主催講演会：1回　　参加者数合計170人

期日	講演会名	講師(所属)
5月16日	「ラスコー洞窟壁画の保存」	三浦定俊氏（（財）文化財害虫研究所理事長）
	「キトラ古墳のこの一年」	川野辺渉氏（東京文化財研究所保存修復科学センター副センター長）

展覧会名：「甦るクメール文明ー世界文化遺産アンコール遺跡群ー」

会　期：　8月1日～8月30日
入場者数：3,824人
陳列件数（うち指定品数）：150件（0件）
主催者：奈良文化財研究所

講演会：1回　　参加者数合計58人

展覧会名：「北方騎馬民族のかがやき－三燕文化の考古新発見－」

会　期：　10月16日～　11月29日
入場者数：11,006人
陳列件数（うち指定品数）：53件（50件）
主催者：奈良文化財研究所・中国遼寧省文化庁
講演会：1回　　参加者数合計127人

期日	講演会名	講師(所属)	参加者数
10月17日	「北方騎馬民族のかがやき　三燕文化の考古新発見」	町田　章氏（元奈良文化財研究所長） 田　立坤氏（遼寧省文物考古研究所長）	127人

展覧会名：「飛鳥の考古学2009」

会　期：　22年1月22日～　2月28日
入場者数：2,448人
陳列件数（うち指定品数）：84件（0件）
主催者：奈良文化財研究所

附属資料

平成21年度特別展アンケート結果

東京国立博物館

1．特別展「国宝　阿修羅展」
2．特別展「STRORY OF … カルティエクリエイション～めぐり逢う美の記憶」
3．特別展「染付－藍が彩るアジアの器」
4．特別展「伊勢神宮と神々の美術」
5．特別展「皇室の名宝－日本美の華」
6．特別展「国宝　土偶展」
7．特別展「長谷川等伯」

京都国立博物館

8．特別展「妙心寺」
9．特別展「シルクロード　文字を辿って　－ロシア探検隊収集の文物－」
10．特別展「日蓮と法華の名宝－華ひらく京都町衆文化－」
11．特別展「THE　ハプスブルク」

奈良国立博物館

12．特別展「国宝　鑑真和上展」
13．特別展「聖地寧波－日本仏教1300年の源流」
14．特別展「第61回正倉院展」

九州国立博物館

15．特別展「聖地チベット　ポタラ宮と天空の至宝」
16．特別展「国宝　阿修羅展」
17．特別展「古代九州の国宝展」
18．特別展「京都妙心寺－禅の至宝と九州・琉球」

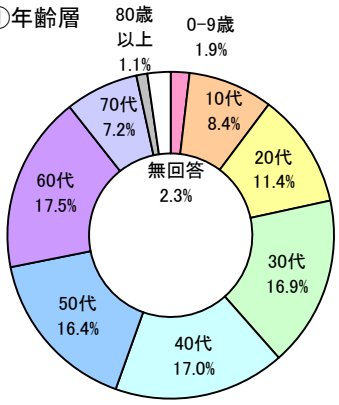
東京国立博物館

特別展「国宝　阿修羅展」
アンケート集計結果

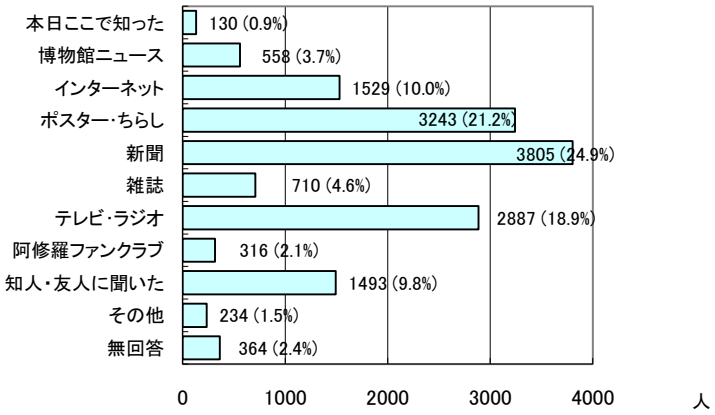
開催期間：平成２１年３月３１日（火）～６月７日（日）

回答者数：８，８０４人（総入館者数：９４６，１７２人　アンケート回収率：０．９３%）

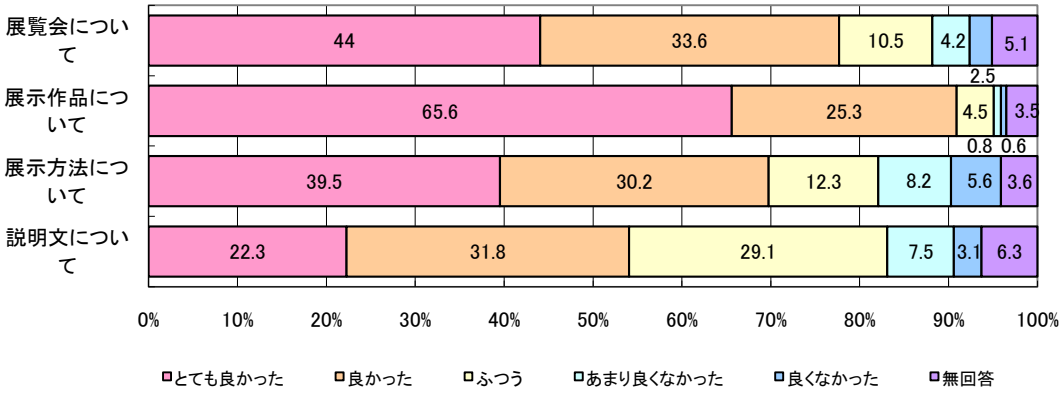
①年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見･感想

・阿修羅像などを360度から見ることができて感動した。
・阿修羅像の素晴らしさ、美しさ、迫力ある姿に感動した。会えて嬉しかった。
・展示方法に工夫があり素晴らしかった。
・照明が美しく素晴らしかった。照明の当て方に工夫があり上手だった。
・混雑しすぎで作品がよく見えず、ゆっくり鑑賞することができなかった。
・導線(動線)が悪い。スムーズに見られるように誘導方法や順路を工夫してほしい。

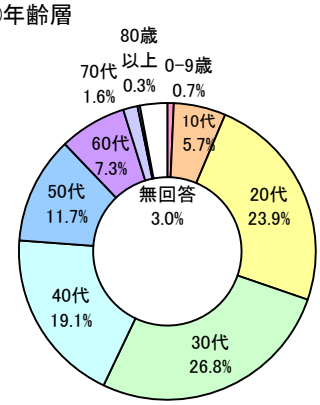
東京国立博物館

特別展「Story of…」カルティエクリエイション
アンケート集計結果

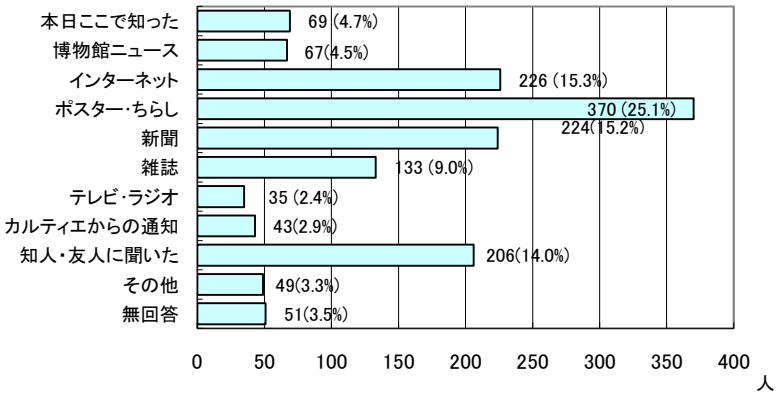
開催期間：平成２１年３月２８日（土）～５月３１日（日）

回答者数：１，１４６人（総入館者数：１２０，４８３人　アンケート回収率：０．９５%）

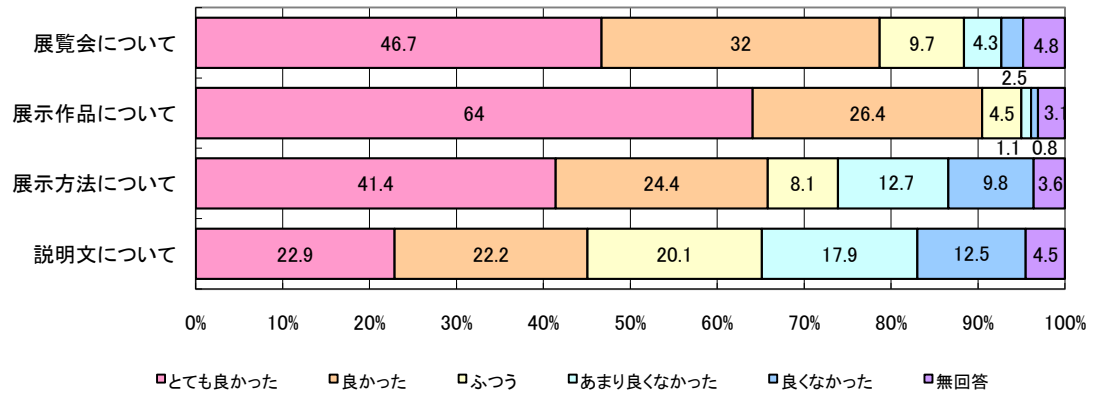
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



④主な意見･感想

・とても素晴らしい内容の展覧会だった。
・吉岡徳仁氏の演出･監修が素晴らしく、魅せられた。
・映像の見せ方が素晴らしく、とても面白かった。
・キラキラ輝く宝石がとても美しくて感動した。
・照明が暗いので、作品やキャプション、目録の文字が見づらかった。
・宝石の材質･所有者･由来などの説明が不足している。

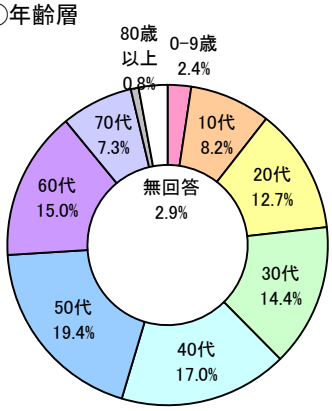
東京国立博物館

特別展「 染 付 － 藍が彩るアジアの器 」
アンケート集計結果

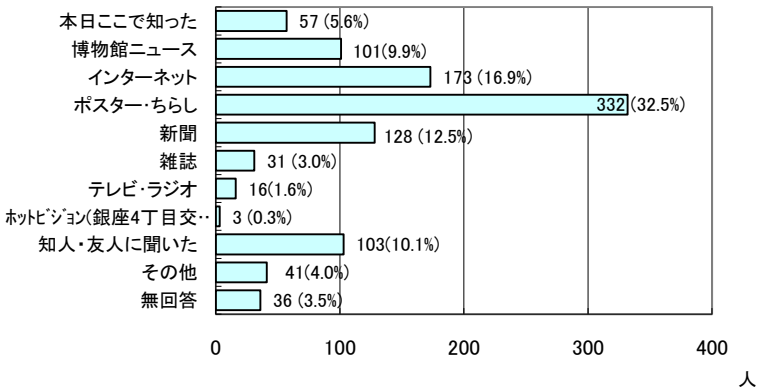
開催期間：平成２１年７月１４日（火）～９月６日（日）

回答者数：７５８人（総入館者数：５２，７３１人　アンケート回収率：１．４４%）

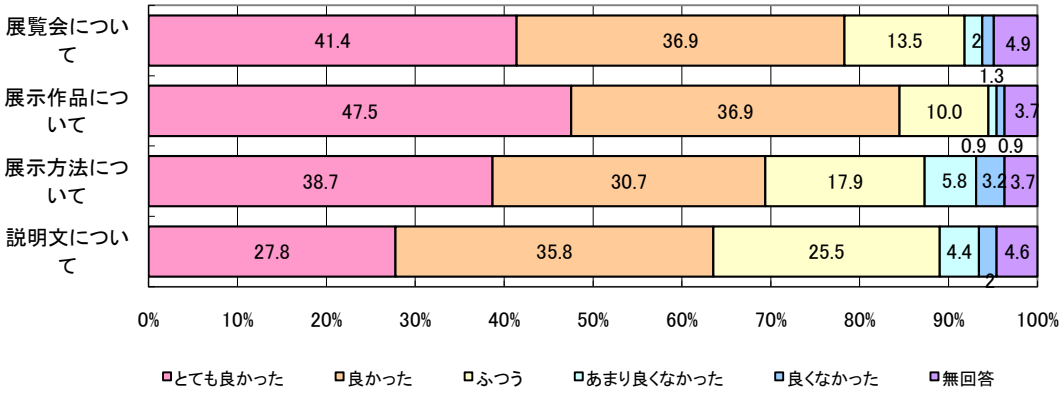
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・「生活の美を生かす」コーナーが良かった。器の実用例を取り入れた展示が面白かった。
・素晴らしい展示内容で楽しむことができた。
・ハンズオンコーナーがとても良かった。実際に手で触ると違いが分かりやすかった。
・染付についての理解が深まった。
・鏡を使うなどして、見えないところが見えるように工夫してほしい。(高台・器の内側など)
・器の内側の絵柄(見込み)が見えにくいので、もっと低い位置で展示してほしい。

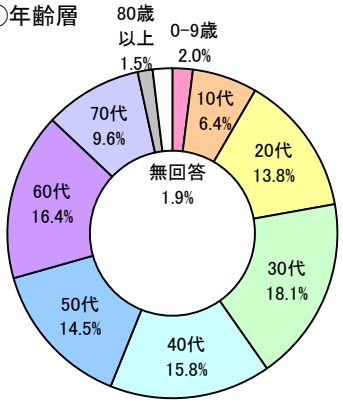
東京国立博物館

特別展「 伊勢神宮と神々の美術 」
アンケート集計結果

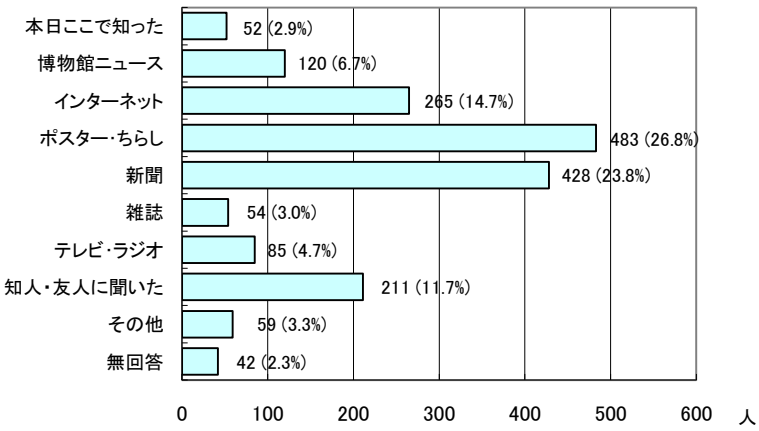
開催期間：平成２１年７月１４日（火）～９月６日（日）

回答者数：１，３０３人（総入館者数：１１４，７９６人　アンケート回収率：１．１４%）

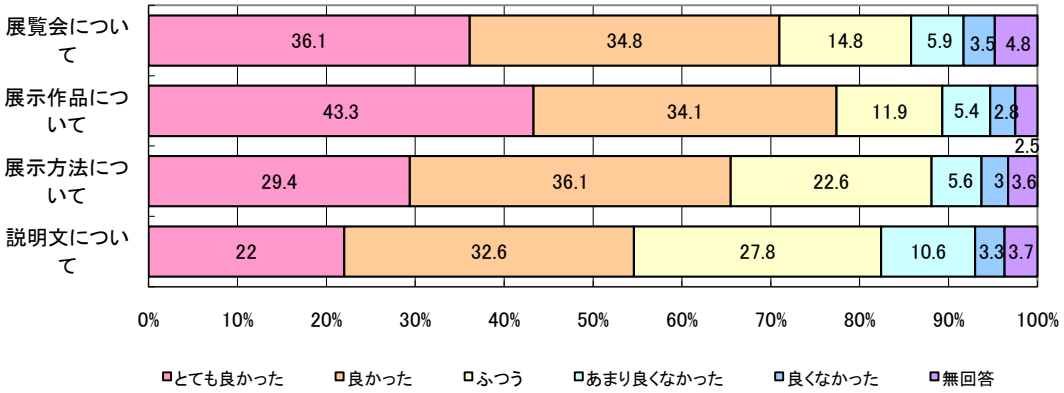
①年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見･感想

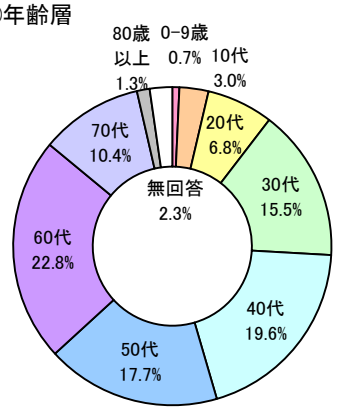
・とても素晴らしい展覧会で感動した。
・普段見ることができない貴重な品々を見ることができ感激した。
・日本の歴史や宗教、伊勢神宮について学ぶことができた。
・美輪明宏さんのガイドが雰囲気と合ってとても良かった。
・展示作品数が少ない。ボリュームに欠け物足りない。
・難解で面白くなかった。期待外れ。

東京国立博物館

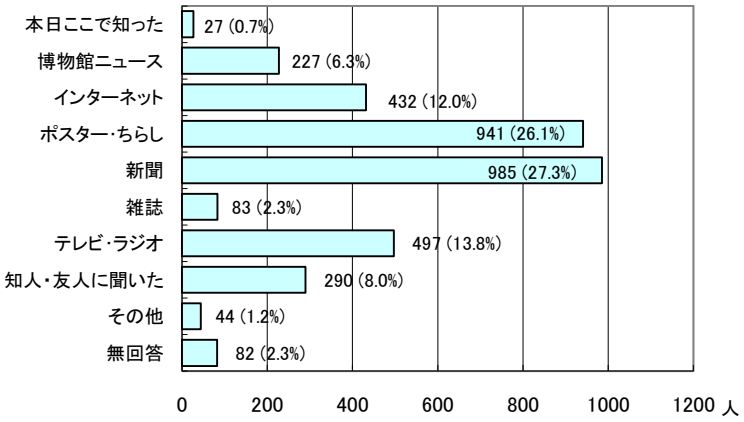
特別展「 皇室の名宝 － 日本美の華 」
アンケート集計結果

開催期間：平成２１年１０月６日(火) ～ １１月２９日(日)
《1期》平成２１年１０月６日（火）～１１月３日（火・祝）
《2期》平成２１年１１月１２日(木) ～１１月２９日(日)
回答者数：２，２３６人（総入館者数：４４７，９４４人　アンケート回収率：０．５０%）

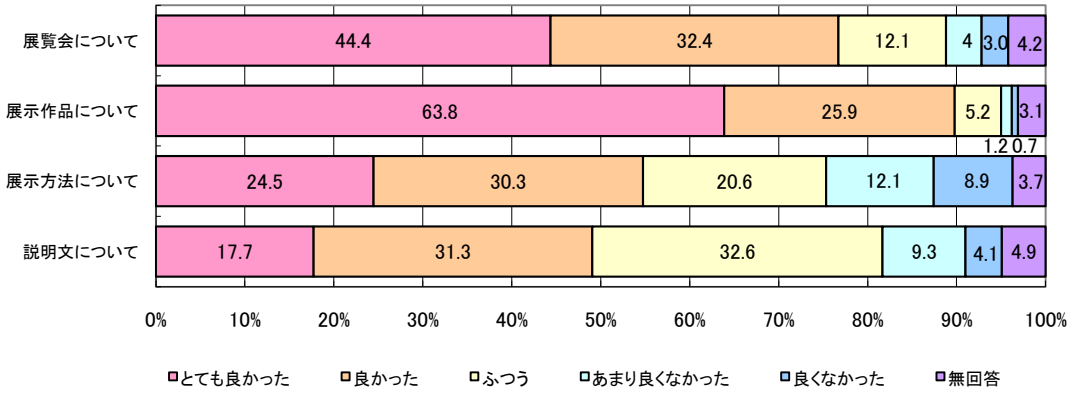
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



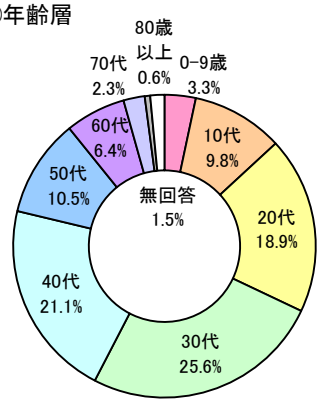
④主な意見・感想
（1期）
・とても良かった。素晴らしかった。感動した。見応えがあった。
・伊藤若冲の『動植綵絵』の素晴らしさに感動。30幅全て見ることができて嬉しい。
・混雑しすぎで人の頭しか見えない。人の流れが悪い。疲れた。
（2期）
・展示作品が素晴らしくとても感動した。
・なかなか見ることができない貴重なものを見ることができて感動した。
・作品の展示位置が低すぎて後方からだと見えない。もっと展示位置を高くしてほしい。

東京国立博物館

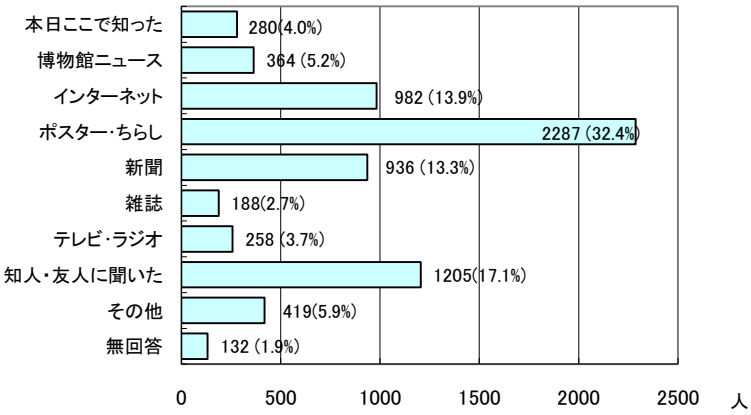
特別展「 国宝 土偶展 」
アンケート集計結果

開催期間：平成２１年１２月１５日（火）～平成２２年２月２１日（日）（５６日間）
回答者数：６，０３２人（総入館者数：１２８，２８５人　アンケート回収率：４．７０％）

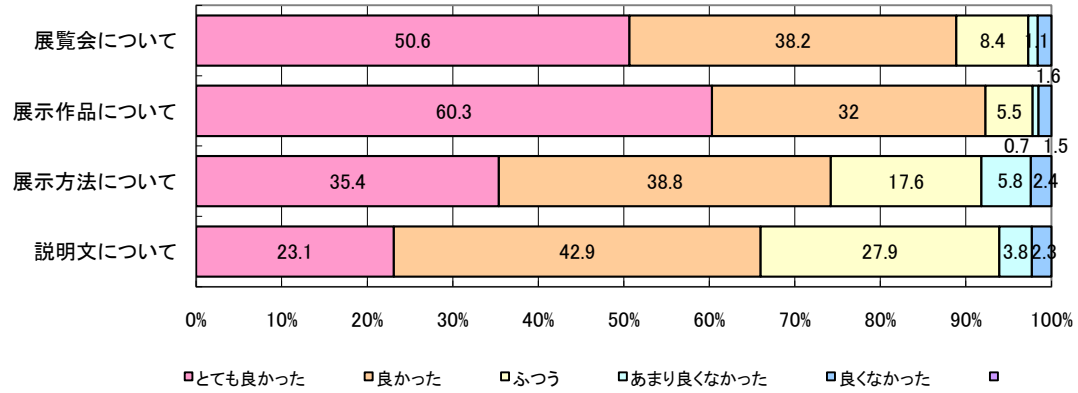
①年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

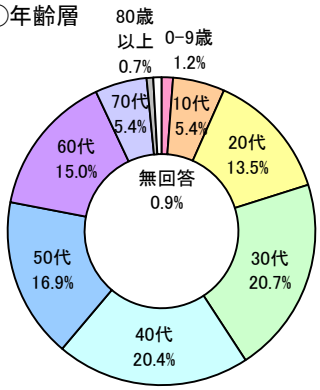
・土偶の正面だけでなく、裏側まで見ることができて良かった。
・とても良かった。面白かった。素晴らしかった。凄かった。
・縄文時代の人々の芸術性・精神性の素晴らしさに驚き、感動した。
・一度にたくさんの土偶を見ることができて良かった。
・展示会場が狭かった。もっとゆったりした場所で見たかった。
・もっと詳しい説明がほしかった。(なぜ国宝・重文に指定されたのか、当時の暮らしぶりはどうだったのか、など。)
・説明文の文字が小さくて読みづらい。

東京国立博物館

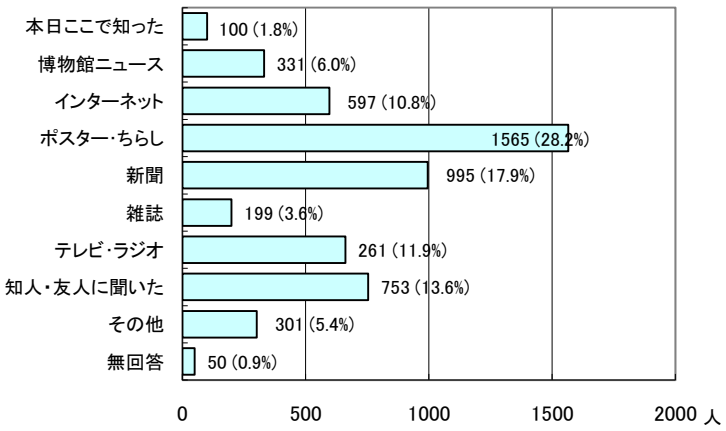
特別展「 長谷川等伯展 」
アンケート集計結果

開催期間：平成２２年２月２３日（火）～平成２２年３月２２日（月）（２５日間）
回答者数：４，３１８人（総入館者数：２９２，５２６人　アンケート回収率：１．４８％）

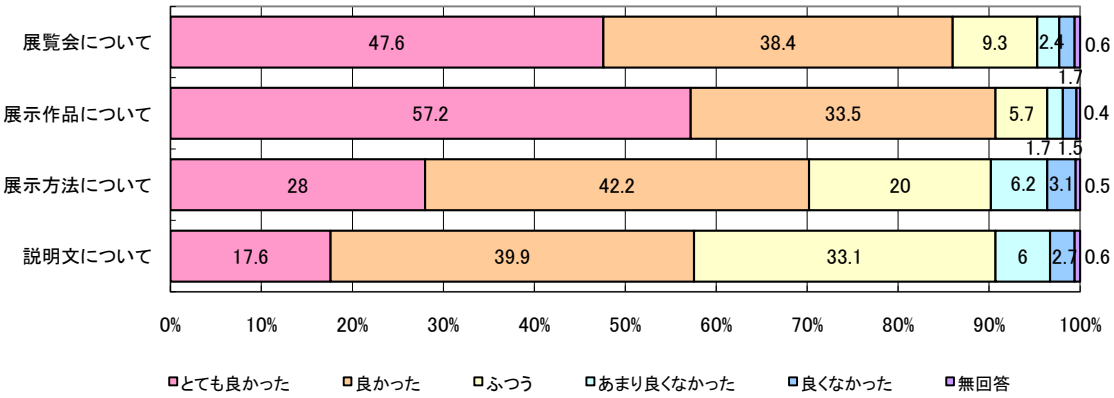
①年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・素晴らしい内容の展覧会だった。とても良かった。
・長谷川等伯の作品をまとめて見ることができて良かった。
・『松林図屏風』の素晴らしさに感動した。
・長谷川等伯への理解が深まった。等伯の良さに気付くことができた。
・展示方法に工夫がないので見づらかった。展示の仕方が不親切だ。
・屏風の作品の前では柵やロープを張り、離れた所から鑑賞できるようにしてほしい。
・説明文の文字が小さい。もっと文字を大きくすれば、後ろからでも読むことができる。

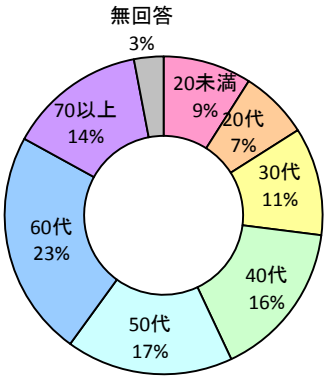
京都国立博物館

特別展覧会「妙心寺」

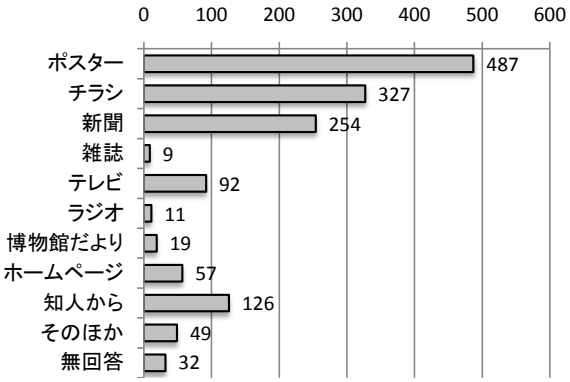
アンケート集計結果

開催期間：3月24日（火）～5月10日（日）

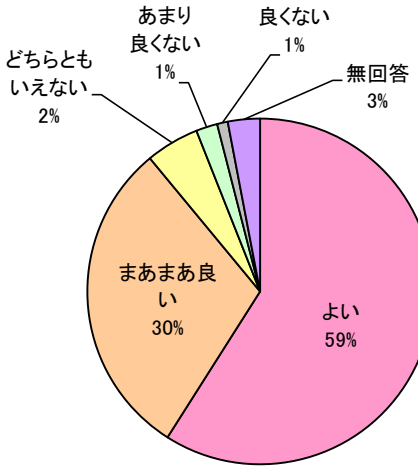
①年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・HPやポスター・チラシの作品は通期で見せてほしい。（同様48件）
・楽しかった、感動した。（同様43件）
・勉強になった。（同様28件）
・作品に何が書いてあるのかもう少し分かるようにしてほしい。（同様27件）
・通常非公開の作品が見られてよかった（同様22件）
・展示作品が多くてよかった（同様21件）

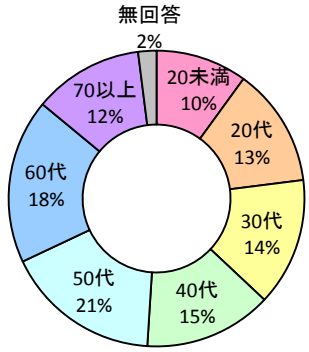
京都国立博物館

特別展覧会「シルクロード−文字を辿って−」

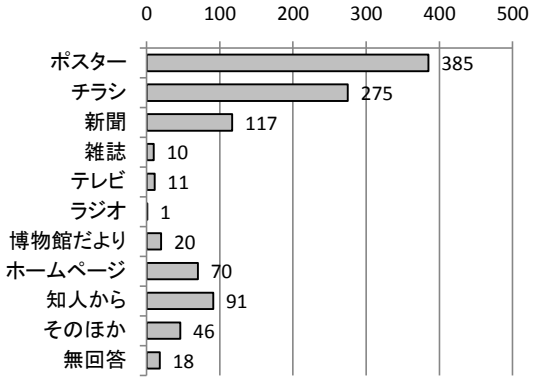
アンケート集計結果

開催期間：7月14日（火）～9月6日（日）

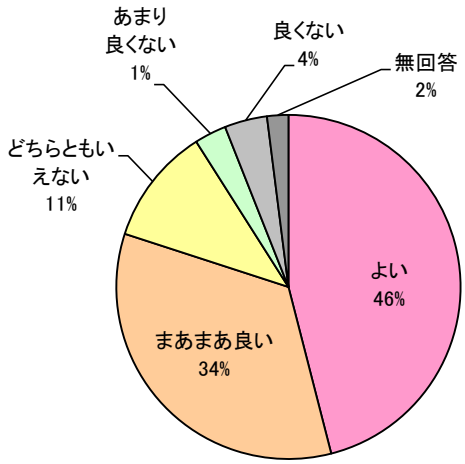
①年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・貴重なものが見られた。（同様38件）
・楽しかった、感動した。（同様28件）
・作品に何が書いてあるのかもう少し分かるようにしてほしい。（同様26件）
・勉強になった。（同様25件）
・興味がわかなかった。（同様21件）
・色々な文字を見ることができてよかった。（同様16件）
・専門用語が分からない。（同様16件）

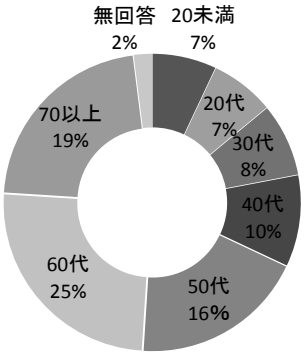
京都国立博物館

特別展覧会「日蓮と法華の名宝」

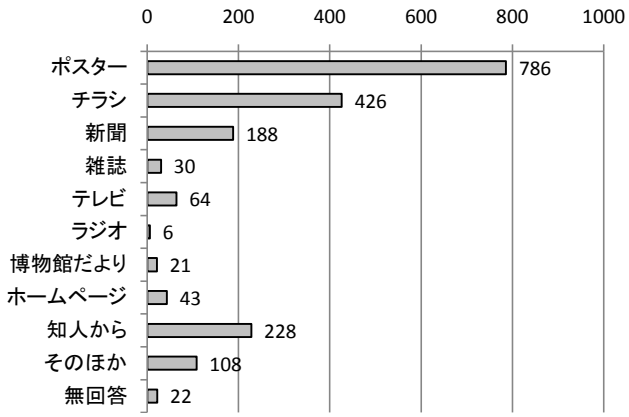
アンケート集計結果

開催期間：10月10日（土）～11月23日（月・祝）
回答者数：1,056人（総入館者数　88,187人　アンケート回収率 1.2%）

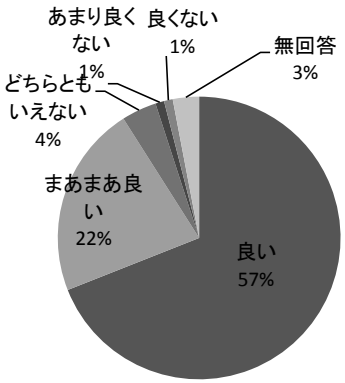
①年齢層



②認知経路（複数回答）



③展示に関する満足度



④主な意見・感想

・楽しかった、感動した。（同様192件）
・勉強になった。（同様90件）
・通常非公開の作品が見られてよかった。（同様68件）
・作品が多くてよかった。（同様35件）
・展示の構成がよく、理解の助けになった。（同様28件）
・暗けて作品や解説が見えづらい。（同様16件）
・音声ガイドが分りやすくてよかった。（同様16件）

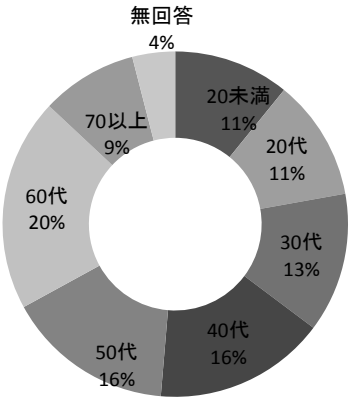
京都国立博物館

特別展覧会「THE ハプスブルク」

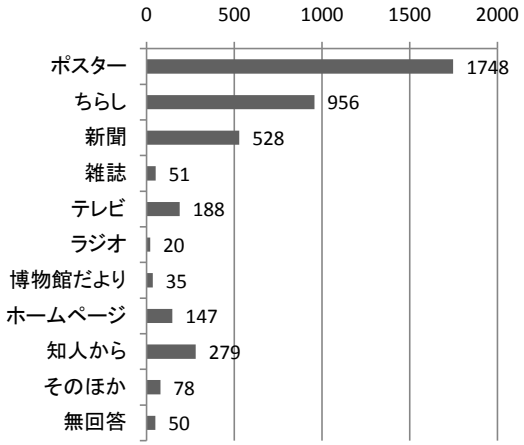
アンケート集計結果

開催期間 平成２２年１月６日（水）～３月１４日（日）
回答者数：2,020人（総観覧者数 247,078人　アンケート回収率 0.80%）

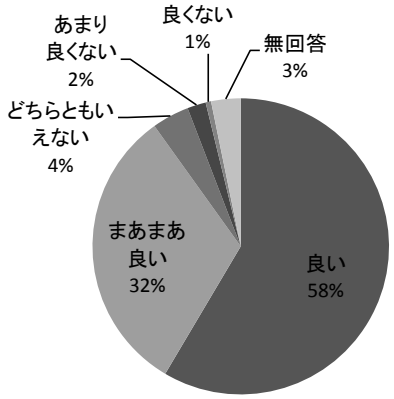
①年齢層



②認知経路(複数回答)



③展示に関する満足度



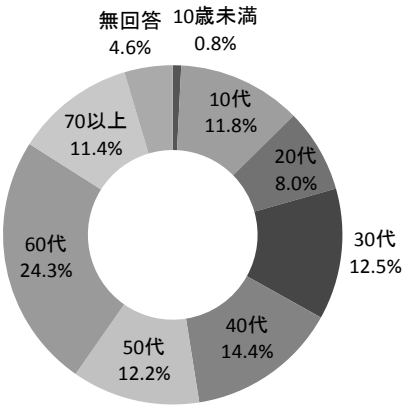
④主な意見・感想
建物が素晴らしかった…64
楽しかった、感動した…40
係員の対応が親切だった…18
鑑賞しやすかった…16
混雑していてゆっくり見られなかった…46
照明が反射して、見づらい作品があった…16
解説の文字が見づらかった…12

奈良国立博物館

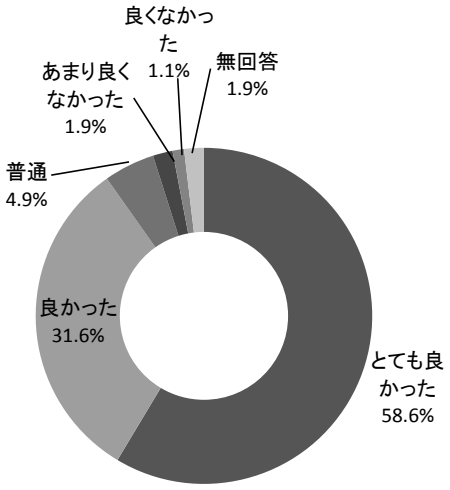
特別展 「国宝　鑑真和上展」
アンケート集計結果

開催期間:4月4日～5月24日(45日間)
回答者数:263人　　回収率0.3%

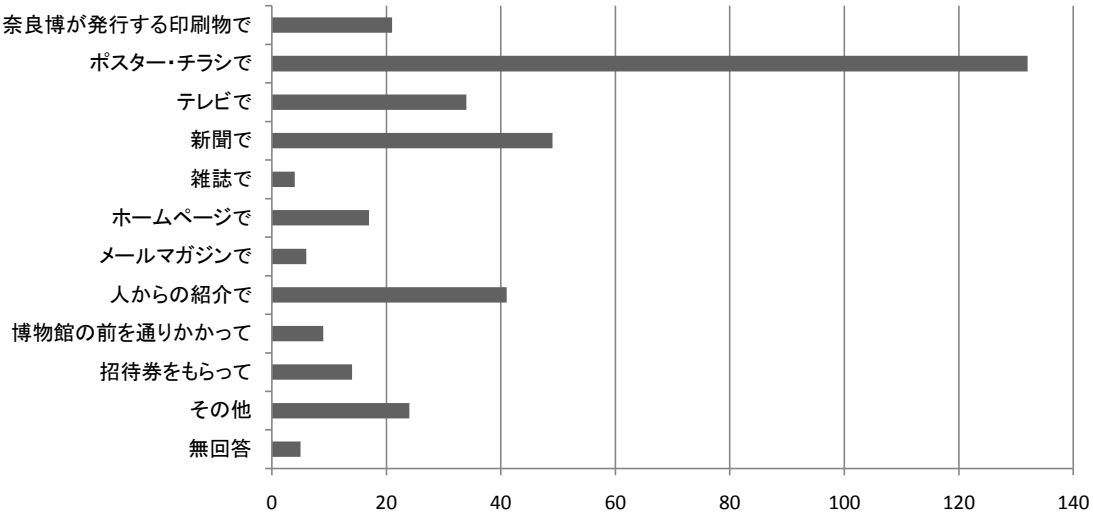
①年齢層□



③展示に関する満足度□



②認知経路(複数回答)□



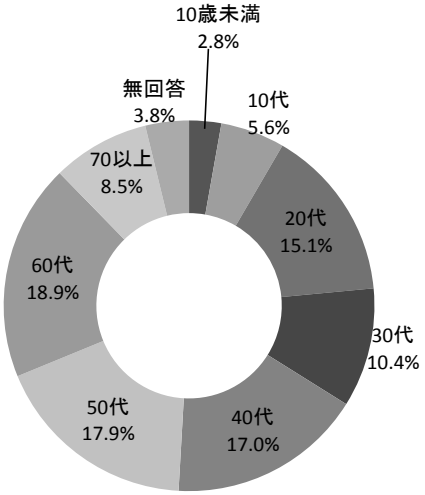
④主な意見・感想
・照明が良かった。尊像が映える明るさやった。
・ゆったりした場所で解説も読みやすく、上等に鑑賞できた。
・数多くの展示品が見られて良かったです。障壁画も近くて見られた事は唐招提寺に行っても見られないので、いい展示の
・音声ガイドが判りやすくて良かった。

奈良国立博物館

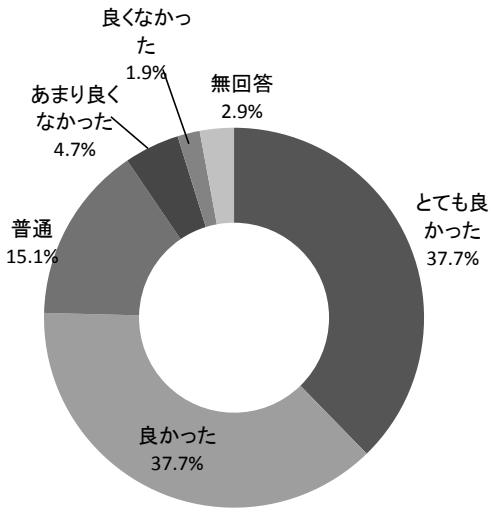
特別展 「聖地寧波」展
アンケート集計結果

開催期間:7月18日～8月30日(44日間)
回答者数:106人　　回収率0.3%

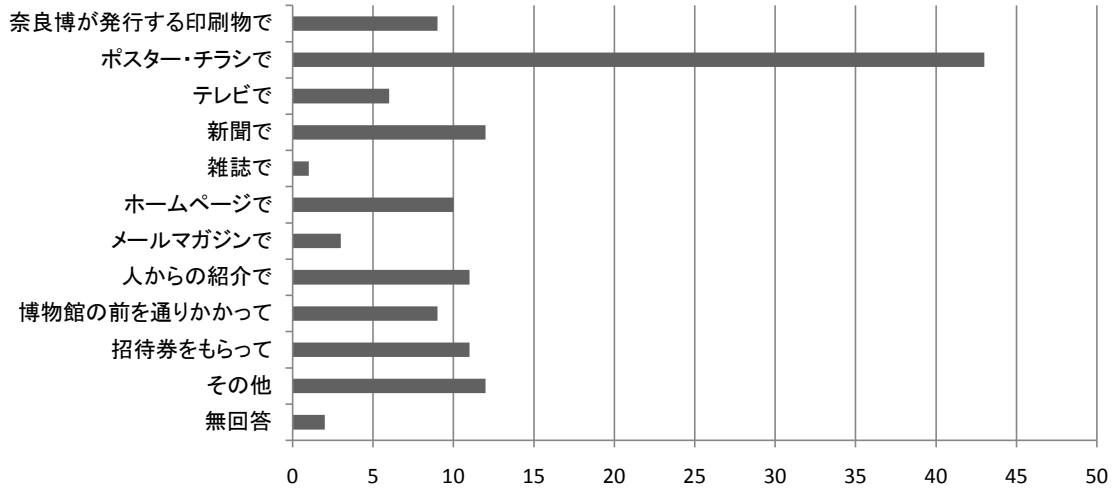
①年齢層□



③展示に関する満足度□



②認知経路(複数回答)□



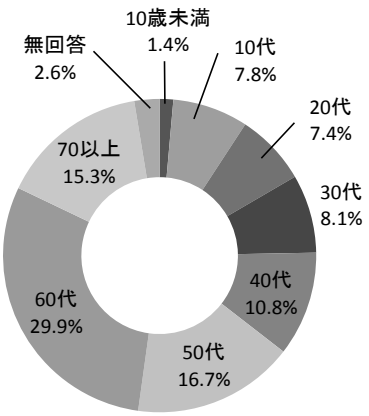
④主な意見・感想
・聞き慣れない地名も、最初に地図や写真での解説があり、イメージしやすかったです。
・仏教による日中の交流について理解できた。
・五百羅漢の銘文に感銘を受けた。
・雰囲気が非常に落ち着いていて良かった。心がなごむ

奈良国立博物館

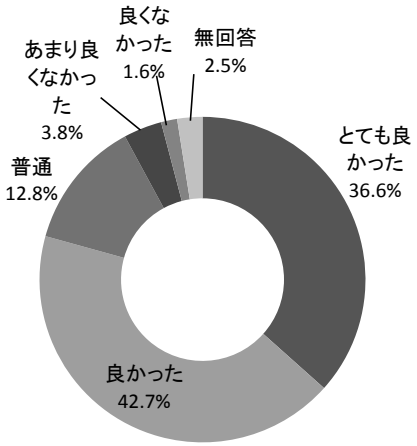
特別展 「第61回正倉院展」
アンケート集計結果

開催期間:10月24日～11月12日(20日間)
回答者数:1091人　　回収率0.4%

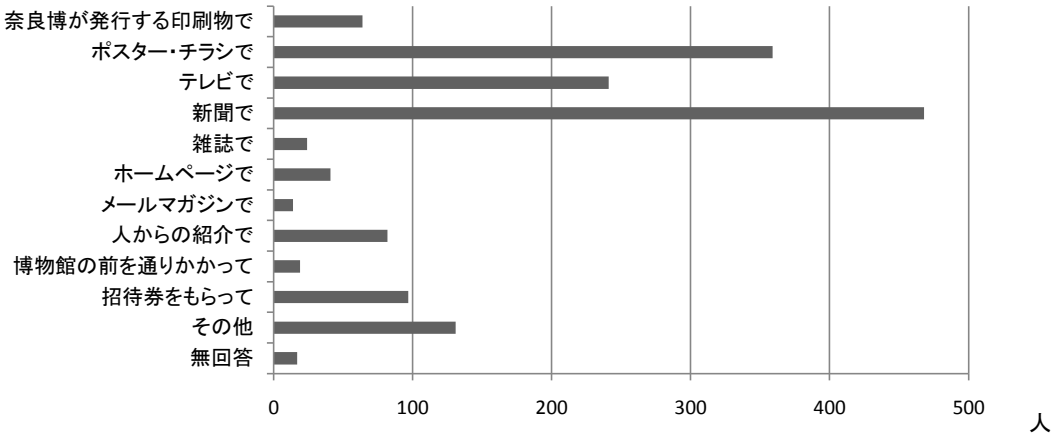
①年齢層□



③展示に関する満足度□



②認知経路(複数回答)□



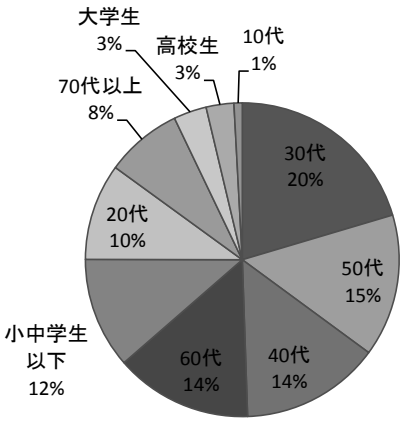
④主な意見・感想
・金曜日等の開館時間が延びたことが非常にうれしいです。
・今年は割合空いている方でした。色々工夫されているようですね。
・最終日無料で感謝しています。
・説明版が読みやすかった。
・展示品の数がちょうど良い位(多すぎても疲れてしまいます)。

九州国立博物館

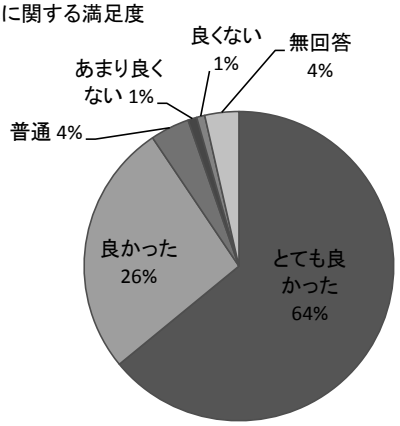
特別展「聖地　チベット」アンケート集計結果

開催期間：21年4月11日～6月14日
総回答者数：　1,294人（総入館者数：140,917人　アンケート回収率：0.9%）

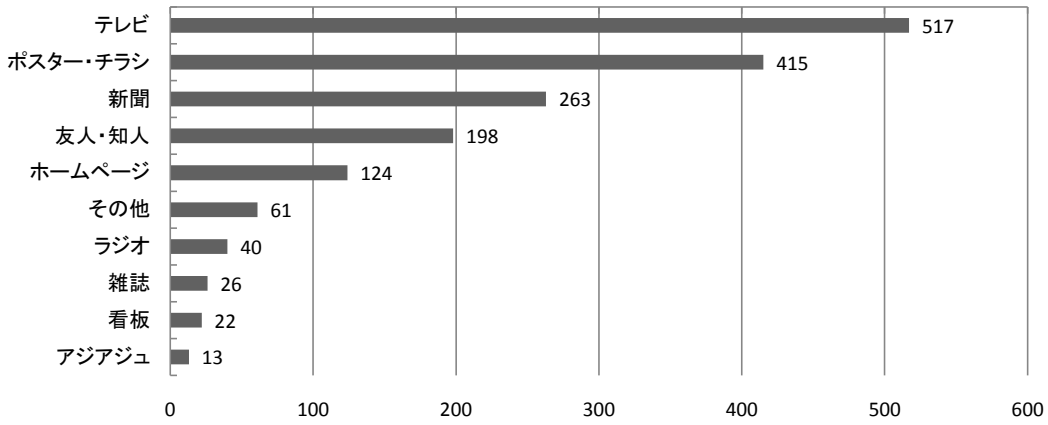
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路（複数回答）



④主な意見・感想

・チベットの文化を知ることができ、感動しました。
・展示室内が暗かった。
・ガラス越しでなく、直に見れたので良かった。
・チベットに行きたくなりました。
・守り神・体験コーナー（マニ車）が楽しかった。
・展示物のもっと詳しい説明があると良い。

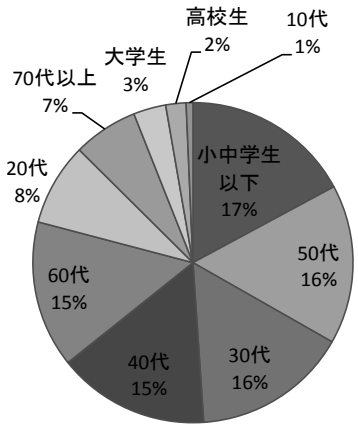
九州国立博物館

特別展「国宝　阿修羅展」　アンケート集計結果

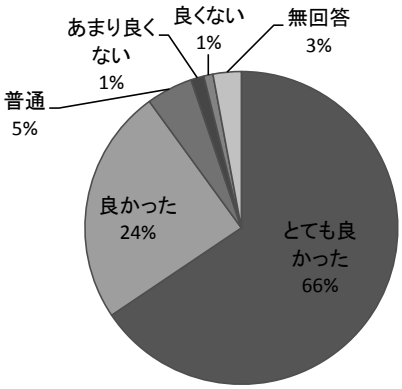
開催期間：7月14日～9月27日

総回答者数：7,621人（総入館者数：711,154人　アンケート回収率：1.07%）

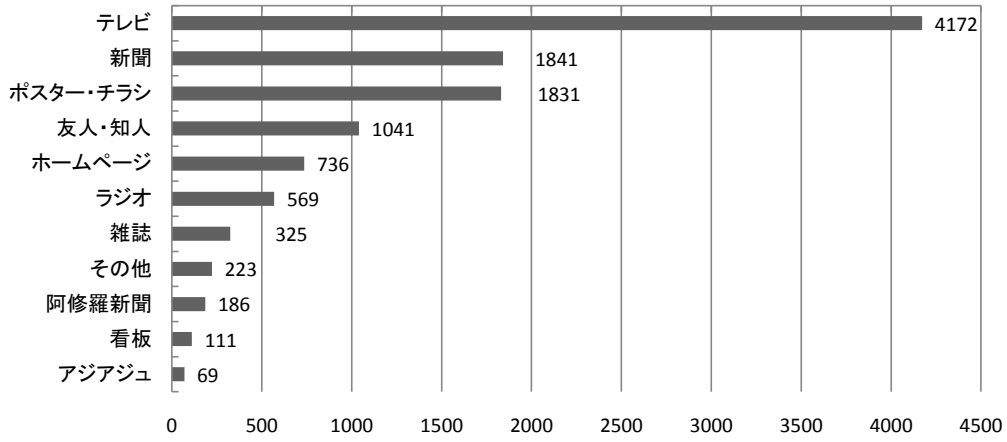
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路（複数回答）



④主な意見・感想

・阿修羅を見る事ができて、感動しました。
・360度、阿修羅像を見れて良かった。ガラス越しでなく、直に見れたので良かった。
・阿修羅像の周囲で人の誘導がよくなかった。
・イラストがわかりやすくて、良かった。
・照明が暗い。説明の字が小さい。
・人が多くて待ち時間が長く、ゆっくり見れなかった。車椅子の方への配慮が足りなかった。
・駐車場が少ない。駐車場の場所がわかりにくい。

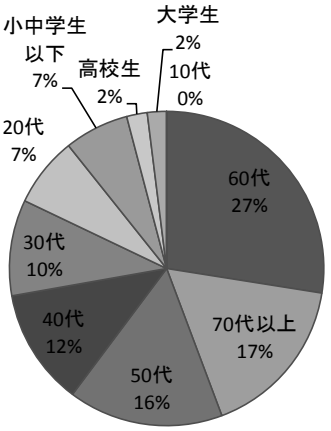
九州国立博物館

特別展「古代九州の国宝」　アンケート集計結果

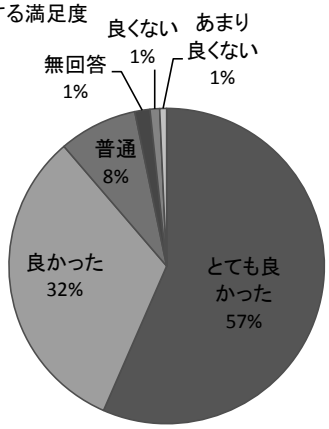
開催期間：10月20日～11月29日

回答者数：709人（総入館者数：72,741人　アンケート回収率：0.1%）

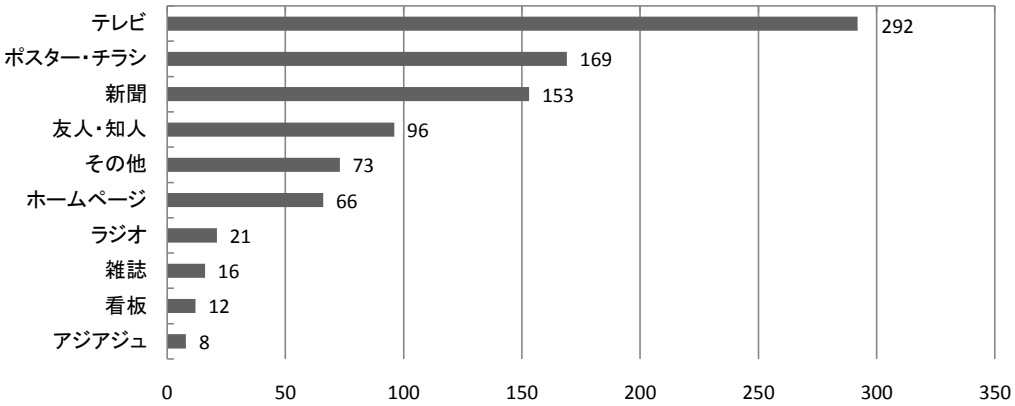
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路（複数回答）



④主な意見・感想

・全体的にわかりやすく、見やすかった。
・古代九州について、感銘を受けました。
・古代少年のメモがわかりやすくて、良かった。
・説明文に振り仮名をつけてほしい。
・休憩できる椅子を増やしてほしい。
・九州に関する展示物が、全国から集められ文化の広がりが感じられた。

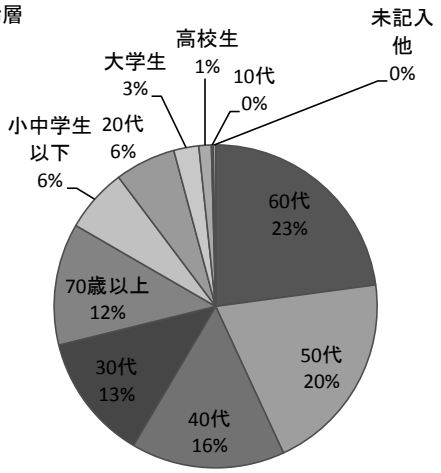
九州国立博物館

特別展「京都　妙心寺展」　アンケート集計結果

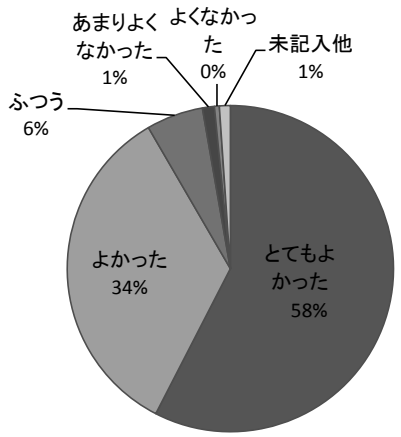
開催期間：22年1月1日～2月28日

総回答者数：2,877人（総入館者数：130,231人　アンケート回収率：2.2%）

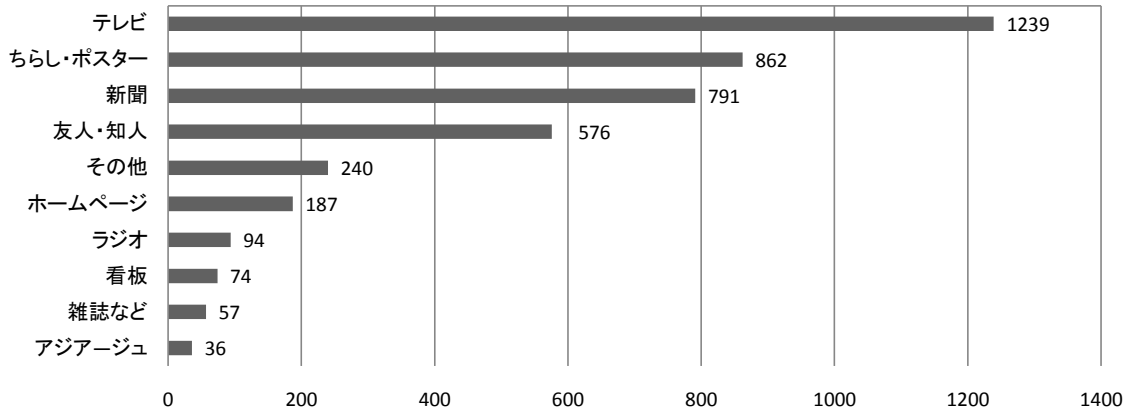
①年齢層



②展示に関する満足度



③認知経路（複数回答）



④主な意見・感想

・（展示替えのため）龍虎図屏風が見れなくて、残念だった。
・展示替えが多すぎる。展示期間・展示替えに関する広報をもっとすべき。見たい物が見れなかった。
・禅の文化を理解することができ、良かった。妙心寺と九州の関係がわかった。
・プチ禅カードで禅の世界がわかりやすく、色々な角度で楽しめた。
・説明文の文字が小さく、見えにくい。もっと詳しい説明がほしい。
・展示室内が暗い。
・妙心寺と観世音寺の鐘の共鳴が心に響きました。